教育年報 2022

岡 山 県 立 大 学

30th 鮮緑の風、県大力
ANNIVERSARY
Okayama Prefectural University

はじめに

岡山県立大学
学長　沖　陽子

2020 年から始まったコロナ禍は、2021 年は緊急事態宣言とまん延防止等重点措置の発出と解除の繰り返し、ワクチン接種、変異株への脅威などが入り乱れながら、感染が若者世代へ拡がりました。2022 年は多くの感染者を出しながらも、コロナとの共生が模索され、経済活動の再開や教育環境の改善が実施されました。本学においても、2022 年度後期から感染対策に留意しながら原則として対面授業に移行しました。しかしながら、やはりコロナ禍の大学教育への影響は大きく、そのような状況下で教育活動の概要と成果が、総合的に本年報にまとめられています。

さて、大学改革の大きな特徴である「大学教育の質の向上や学修の質」が文部科学省から提言され、各大学で教育改革が進められています。「教学マネジメントに係る指針の策定」や「学修成果の可視化と情報公開」が求められていますが、本学も「内部質保証推進会議」の活動と成果を「教育年報」に記載することにより、本学の内部質保証を公表しています。本年報は年間の教育に関する行動記録として利用するのみならず、学修成果の可視化と情報公開のツールとして活用する使命を持たせて編集しています。エビデンスの意味合いも含めて、詳細なアンケート結果等も付録として掲載しています。

さらに、内部質保証推進体制については 2022 年 7 月に、内部質保証の方針等の推進規程を定めた上で、PDCA サイクルの責任部署を明確にして、全学と部局との連携を強化した体制に刷新しました。総合 IR 室は内部質保証推進会議内に設置していましたが、各学部・各全学センターにおける IR を効率よく活用する目的で、改革・改善方針原案を策定する総合戦略本部（新設）の下部組織に位置づけました（テ-2 参照）。新たな体制下で推進した内部質保証の成果を、本年報にて可視化することにより、2023 年度への新たな改善に繋がることを願っています。

本学の教育研究の理念は「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」と定めており、この理念に基づく人材育成を目指しています。その具体的なプログラムとして、副専攻「吉備の杜」を展開し、学部から大学院まで一貫した社会連携教育を充実させています。本格的に本プログラムが始動して 2 年が過ぎましたが、大学・地域・企業との合体教育も軌道に乗り、学生のみならず学外から受講される社会人へのリカレント教育にも大きく寄与しています。地域に貢献する、地域の産業界で活躍する地域志向の有為な人材の輩出に力を注ぐことにより、本学の特色ある教育研究を展開していることを本年報にてご理解下さい。

現在、地域の中核となる大学は、多様な大学の機能を強化していくことが重要とされ、自身の強みや特色を最大限発揮し、成長の駆動力となって社会変革を牽引することが望まれています。その視点から、学生達が本学で何を学び、未来社会を如何に牽引するかをシミュレーションしながら、本学の教育研究を展望する必要があります。そのためにも、本年報の位置づけは重要です。

今回、皆様に分かりやすくご笑覧頂くために、構成や内容を刷新しました。本学の教育体制の見直しと今後の新たな展開に、ご助言とご示唆を賜りたくお願い申し上げます。

2023 年 6 月

目　次

はじめに

第1部　学部および大学院における教育活動と成果……ア-1
　第1章　学部における教育活動と成果……ア-1
　　1　概要……ア-1
　　2　入学者受入……イ-1
　　　2-1　概要……イ-1
　　　2-2　選抜方法……イ-1
　　　2-3　入学前教育……イ-1
　　　2-4　留学・転学受入等……イ-4
　　　2-5　まとめと課題……イ-4
　　3　共通教育部……ウ-1
　　　3-1　概要……ウ-1
　　　3-2　教養教育推進室……ウ-3
　　　3-3　語学教育推進室……ウ-5
　　　3-4　情報教育推進室……ウ-13
　　　3-5　健康・スポーツ教育推進室……ウ-14
　　　3-6　社会連携教育推進室……ウ-15
　　　3-7　留学生・転学生……ウ-15
　　　3-8　大学コンソーシアム岡山……ウ-16
　　　3-9　まとめと課題……ウ-21
　　4　保健福祉学部……エ-1
　　　4-1　概要……エ-1
　　　4-2　看護学科……エ-1
　　　4-3　栄養学科……エ-2
　　　4-4　現代福祉学科……エ-3
　　　4-5　こども学科……エ-5
　　　4-6　まとめと課題……エ-6
　　5　情報工学部……オ-1
　　　5-1　概要……オ-1
　　　5-2　情報通信工学科……オ-1
　　　5-3　情報システム工学科……オ-2
　　　5-4　人間情報工学科……オ-4
　　　5-5　学外活動……オ-6
　　　5-6　地域産業界との大社連携……オ-7
　　　5-7　まとめと課題……オ-8

6　デザイン学部……カ-1
6-1　概要……カ-1
6-2　ビジュアルデザイン学科……カ-1
6-3　工芸工業デザイン学科……カ-2
6-4　建築学科……カ-4
6-5　国際交流推進（国際交流活動事業）……カ-6
6-6　国公立デザイン系大学会議への参加……カ-6
6-7　まとめと課題……カ-7

第2章　大学院における教育活動と成果……キ-1
1　概要……キ-1
2　保健福祉学研究科……ク-1
2-1　概要……ク-1
2-2　博士前期課程……ク-1
2-3　博士後期課程……ク-2
2-4　研究活動と国際交流……ク-3
2-5　まとめと課題……ク-4
3　情報系工学研究科……ケ-1
3-1　概要……ケ-1
3-2　博士前期課程……ケ-1
3-3　博士後期課程……ケ-2
3-4　研究活動と国際交流……ケ-2
3-5　まとめと課題……ケ-2
4　デザイン学研究科……コ-1
4-1　概要……コ-1
4-2　修士課程……コ-1
4-3　研究活動と国際交流……コ-1
4-4　まとめと課題……コ-3

第3章　副専攻（吉備の杜）における教育活動と成果……サ-1
1　概要……サ-1
2　組織体制……サ-1
3　岡山創生学課程……サ-2
4　吉備の杜クリエイター課程……サ-7
5　吉備の杜プロデューサー課程……サ-12
6　準正課、正課外での活動……サ-15
7　まとめと課題……サ-17

第2部　全学センターにおける教育活動と成果 シ-1
1　概要 シ-1

第1章　教育開発センターにおける教育活動と成果 ス-1
1　概要 ス-1
2　各部門における教育活動と成果 ス-1
2-1　共通教育部門 ス-1
2-2　FD部門 ス-3
2-3　教育評価部門 ス-22
3　まとめと課題 ス-22

第2章　キャリア・学生生活支援センターにおける教育活動と成果 セ-1
1　概要 セ-1
2　各部門における教育活動と成果 セ-1
2-1　キャリア形成支援部門 セ-1
2-2　就職支援部門 セ-7
2-3　学生生活支援部門 セ-12
2-4　学生相談室 セ-17
2-5　保健室 セ-20
3　まとめと課題 セ-20

第3章　グローバルラーニングセンターにおける教育活動と成果 ソ-1

第4章　学術研究推進センターにおける教育活動と成果 タ-1

第5章　アドミッション・高大連携センターにおける教育活動と成果 チ-1
1　概要 チ-1
2　各部門における教育活動と成果 チ-1
2-1　入試広報部門 チ-1
2-2　高大連携部門 チ-6
2-3　入学者選抜制度開発部門 チ-11
3　まとめと課題 チ-19

第3部　附属図書館における教育活動と成果 ツ-1

第4部　内部質保証推進会議の活動と成果 テ-1
1　概要 テ-1
2　アセスメント・ポリシーおよびプラン テ-3
3　入学時 － アドミッション・ポリシー検証 テ-5
4　在学中 － カリキュラム・ポリシー検証 テ-8
5　卒業時・卒業後 － ディプロマ・ポリシー検証 テ-34
6　まとめと課題 テ-82

第5部　学部・研究科別外部評価 ト-1
1　概要 ト-1
2　保健福祉学部・保健福祉学研究科 ト-1
3　情報工学部・情報系工学研究科 ト-12
4　デザイン学部・デザイン学研究科 ト-20
5　まとめと課題 ト-29

付　録
A　入試統計 A-1
B　入学時アンケート B-1
C　授業改善アンケート C-1
D　授業実施形態アンケート D-1
E　学生生活アンケート E-1
F　学部卒業時アンケートおよび学科DP達成度アンケート F-1
G　研究科修了時アンケートおよび在学生DP達成度アンケート G-1
H　卒業生および修了生アンケート H-1
I　就職先アンケート I-1
J　修業年限期間内に卒業・修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数、除籍者数 J-1
K　国際交流 K-1
L　高大連携協定等に基づく授業に係る高等学校への講師派遣および生徒の受入 L-1
M　高等学校への講師派遣および生徒の受入（授業以外） M-1
N　学生・学生団体等の受賞 N-1
O　委員会等の審議事項 O-1
P　文部科学省「全国学生調査（第2回試行実施）」 P-1

編集後記

第１部　学部および大学院における教育活動と成果

第１章　学部における教育活動と成果

1　概要

第 1 部は本学の教育、すなわち学部と大学院の教育活動や成果といった本学の実際の 教育活動の状況を示す場所である。2021（令和 3）年度から保健福祉学部は、これまでの保健福祉学科が現代福祉学科と子ども学科に改組され、デザイン学部はこれまでのデザイン工学科と造形デザイン学科の 2 学科体制から、ビジュアルデザイン学科、工芸工業デザイン学科、建築学科の 3 学科体制に改組された。これに伴い、本学すべての学部で三つの方針の大幅な見直しを実施し、2020（令和 2）年 1 月 22 日に公表された教学マネジメント指針に基づいた学修者目線の教育への明確な質転換に向け、2021（令和 3）年度に設定したアセスメントポリシーに基づく本格的なチェックとそれに基づく改善を開始した。2021（令和 3）年度に本格始動となった、本学教育の特色たる地域連携教育のコアである COC+R 事業の「吉備の杜」地域創造戦略プロジェクトの成果については、今後の改革に繋がる検証が求められる。また 2020（令和 2）年度に始まったコロナ禍への対応については、2022（令和 4）年度後期から感染対策に留意しながら原則としてすべての授業を対面授業に移行したため、授業実施形態アンケート調査結果を巻末の 6-D にまとめて掲載した。

2 入学者受入

2-1 概要

大学入学共通テストが導入されて 3 年目となり、それに伴って本学においても大幅なアドミッション・ポリシーの見直しがなされ、学科改編に伴う総合型選抜入試も導入された。2022 年度入学者選抜は、2021 年度からアドミッション・ポリシーで明記された各選抜日程における選抜方法および評価基準に従って選抜が行われ、共通テスト実施直前に文科省から指示があった新型コロナウイルス感染症等に罹患または罹患したおそれがある志願者の受験機会を確保するための対策にも対応しなら、アドミッション・ポリシーで明確にした基準に従って厳密に実施された。

2-2 選抜方法

2022 年度入学者選抜は以下のとおり実施し、志願者数等は付録 A-1 に記載している。

2-3 入学前教育

2-3-1 保健福祉学部

2-3-1-1 看護学科

英語力を高めることを目的に、高校の既習範囲の語彙・文法で書かれた一般的な医療問題に関する平易な英文を読み、それを要約することで、Reading Comprehension（内容把握力）の養成に努めるとともに、継続的な英語学習の意識付けを行った。その後、担当者が内容を確認し、個別にフィードバックした。

（担当教員：関根紳太郎教授）

2-3-1-2 栄養学科

管理栄養士に必要な食品学・栄養学・生命科学に関する専門知識を修得するには、化学や生物などの自然科学の知識が基礎となる。一般入試では入試科目に化学または生物が課されているのに対し、特別入試に課されているのは化学基礎と生物基礎である。従って、一般入試で入学した学生と比較すると、特別入試で入学した学生は理科の基礎知識が不足している傾向がある。このような背景から、本学科では特別入試入学者に対して、化学と生物の基礎知識を補うための入学前教育を実施している。受講生に対して、化学「物質の成り立ちおよびその有機化合物の性質」と生物学「生命の基本単位および生命現象のしくみ」に関する講義を行った。講義形式の授業に加えてグループワークなどの演習を取り入れることで学習効果を高めるとともに、入学者間の交流を深めることができた。

（担当教員：伊東秀之教授（化学担当）、田中晃一教授（生物学担当））

2-3-1-3 現代福祉学科

現代福祉学科では、入学後の社会福祉学に関する専門知識習得のモチベーションを高めることを目的に、特別入試による入学者への入学前教育を実施している。具体的には社会問題と社会

福祉に関するテーマで、大学キャンパスでの講義の教育形式とした。受講生には、本学科 Web サイトで公開している「現代福祉学科 ソーシャルワーカーが求められている理由―多様なニーズの利用者の増加と求められる高い援助力―」を事前に視聴し、「自殺」「介護殺人・介護心中」に関する報道などを確認してくる事を求めた。その上で、入学前教育の登校日には、介護殺人・介護心中や自殺の実態に関する講義を行い、ソーシャルワーカーに求められている能力の重要性と関連付けて社会問題を考えた。受講生が各自の感想を述べ、教員のコメントを全体で共有することで、今後の社会福祉に関する学習意欲を喚起できた。

（担当教員：竹本与志人教授、大倉高志准教授、樂木章子准教授）

2-3-1-4 子ども学科

子ども学科の入学前教育では、 子どもの課題を理解することおよび英語表現を通じて、子ども学の学びに対するモチベーションを高めることを目的に、特別入試による入学者を対象に、最近、報道（新聞・ネット・TV などソースは問わない。時期も限定しない）された中で関心を持った子育てや幼児教育・保育の問題について 800 字程度にまとめること、英文による自己紹介文を作成することを求めた。レポート課題を合格通知とともに郵送し、提出された教員がレポートを読み、入学前教育登校日に幼児教育・保育の問題に関するレポートに基づいたディスカッションを行い、英文による自己紹介に対しては教員からコメントを述べて、入学後の子ども学の教育をスムーズに展開できるように努めた。

（担当教員：中野菜穂子准教授、エリック・デスマレス准教授）

2-3-2 情報工学部

情報工学部では、入学者の選抜は、特別入試（学校推薦型選抜および帰国生入試）（11 月下旬）、一般選抜前期日程（2 月下旬）、一般選抜中期日程（3 月上旬）の 3 回に分けて実施される。このうち、特別入試による合格者に対しては、12 月上旬の合格発表から 4 月の入学までの期間、高等学校での学習内容を維持することにより、入学後の授業に無理なく移行することが可能となるよう、例年、次の 3 項目を主眼とした入学前教育を、合格者懇談会として 3 学科合同で実施している。

・高校卒業までの 3 ヶ月間の時間の使い方へ示唆を与える。
・大学入学までの心と体の健康維持と教養の深め方を示唆する。
・身の回りの現象を支配している物理や数学から理工系の勉強に興味を持たせる。

日程と内容は以下のとおりである。

【第 1 回】

日時: 令和 4 年 12 月 28 日（水）13:50～ 約 2 時間
場所: 学部共通棟北 8202 室
内容: 学部長による挨拶の後、学科別（情報通信工学科は 8201 室、情報システム工学科は 8202 室、人間情報工学科は 8901 室）に分かれ、各学科長または教務専門委員の講話および数学の小テストを実施した。実施後は、各学科の数名の教

員で採点を行いながら個別指導を行った。さらに全員に英語、数学、物理の課題を配付し、第 2 回開催時に提出することとした。参加生徒数は、特別入試合格者 42 名（情報通信工学科 13 名、情報システム工学科 14 名、人間情報工学科 15 名）全員であった。

【第 2 回】

日時: 令和 5 年 2 月 20 日（月）13:50～ 約 2.5 時間

場所: 学部共通棟北 8202 室

内容: 学部長による挨拶の後、まず、英語の課題に関する解説と小テストを行った。なお、この英語の小テストは懇談会終了後に採点し、入学後に各自に返却する予定である。その後、学科別（情報通信工学科は 8201 室、情報システム工学科は 8202 室、人間情報工学科は 8901 室）に分かれ、始めに、第 1 回懇談会にて配布した数学および物理の課題を回収した。次いで、数学の課題に関する第 2 回小テストを実施し、各学科の数名の教員による採点と個別指導を行った。さらに入学までの数学の第 2 回課題を配布するとともに、学科長の講話等を実施した学科もあった。参加生徒数は、特別入試合格者 42 名のうち 40 名（情報通信工学科 13 名、情報システム工学科 13 名、人間情報工学科 14 名）であった。

2-3-3 デザイン学部

デザイン学部では、特別入試での合格者を対象として学修の継続と大学教育への動機づけを目的とし、毎年入学前教育を実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大継続に伴い、令和 4 年度についても、昨年度同様、3 学科ともオンラインで実施した。

2-3-3-1 ビジュアルデザイン学科

ビジュアルデザイン学科では、特別入試合格 12 名（総合型選抜 4 名・学校推薦型選抜 8 名）を対象に、オンライン環境下での課題提示と提出を前提に入学前教育を実施した。課題は、入学後の学習環境への対応と、英語教育に対する準備を促すことを狙いとし、①オンラインツールやメールによって行われる授業のやり取りに備えるものと、②大学での英語学習について知り、デザイン分野に関わる英語の使い方を学ぶ課題を設定した。①に対しては、指定されたフォームに回答した後、担当教員とメールでのやりとりを行うもので、12 月下旬～2 月下旬にかけて実施した。②に対しては、最初に本学での英語学習についてのアドバイスを受け、以降 4 回のミニ課題を 1 月中旬～2 月下旬にかけて実施し、対象者からの回答に対して、担当教員がコメントを行った。

2-3-3-2 工芸工業デザイン学科および建築学科

工芸工業デザイン学科と建築学科は協同で、市販の e ラーニング教材を利用し、英語の基礎力を固めるための教育を行った。学習レベルや内容は高校教育までの復習とし、入学後の英語教育に順応できることを期待した。参加者は工芸工業デザイン学科、建築学科ともに特別入試合格 12 名（総合型選抜 4 名・学校推薦型選抜 8 名）ずつの合計 24 名で行った。実施期間は 2022 年 12 月末から翌年 3 月末である。

2-4 留学・転学受入等

本学では、国際社会に開かれた大学として外国人留学生の受け入れを進めており、主としてアジア諸国を中心に留学生の受け入れを行うとともに、国際交流協定を締結している韓国の又松（ウソン）大学校からは短期の交換留学生の受け入れを行っている。

令和４年度は、学部と大学院合わせて３名の留学生が在籍している。

〔留学生の在籍状況〕　　単位：人

年度	人数	学部・院別		所属学部等別		国籍別	
2018	16	学部	8	保健福祉学部 情報工学部 デザイン工学部	4 2 2	中国 韓国 台湾	5 2 1
		大学院	8	保健福祉学研究科 情報系工学研究科 デザイン学研究科	6 1 1	中国 インドネシア 韓国 ネパール	4 2 1 1
2019	13	学部	6(2)	保健福祉学部 デザイン工学部	3 3	中国 韓国 台湾	3(1) 2(1) 1
		大学院	7	保健福祉学研究科 情報系工学研究科 デザイン学研究科	4 1 2	中国 インドネシア 韓国 台湾 ネパール	2 2 1 1 1
2020	8	学部	1	情報工学部	1	韓国	1
		大学院	7	保健福祉学研究科 デザイン学研究科	6 1	中国 インドネシア 韓国 台湾 ネパール	2 1 2 1 1
2021	6	学部	1	デザイン学部	1	マレーシア	1
		大学院	5	保健福祉学研究科	5	中国 インドネシア 韓国	2 1 2
2022	3	学部	1	デザイン学部	1	マレーシア	1
		大学院	2	保健福祉学研究科	2	中国	2

※（ ）内は留学生のうち研究生の数

2-5 まとめと課題

2023 年度入学者選抜も昨年と同様に新型コロナウイルス感染症対策の対応も施しながら、アドミッション・ポリシーの基準に従って実施した。2025 年度から共通テストで新たに導入される教科である情報の取り扱いなど、大幅な入試改革を控えて、入学者選抜方法を見直し、令和４年度

末に公表した。入試改革に向けた検討に加えて、18 歳人口の減少が進む中で、いかに入学者を確保するか、入試 IR、入試広報の更なる強化が必要である。また、留学生の受け入れに関してコロナ禍の影響もあり、新たな留学生受け入れが困難な状況ではあったが、国際交流協定締結校からの受け入れ体制も整備しつつ、積極的な受け入れを進めていく必要がある。

3 共通教育部

3-1 概要

本学の共通教育は、建学の理念「人間尊重と福祉の増進」と、本学全体の教育目的「人間・社会・自然の関係性の理解」に基づき、教養教育全般を担う全学対象科目を設置している。それは次の 3 科目群に大別される。

導入科目群　学部初年次教育として知的実践的自律性を培う
理論科目群　学部教育の知的根幹を担う理論的な知識を学ぶ
実践科目群　理論的な知識を応用する実践的な力を体得する

共通教育は 3 科目群の教育方針によって、具体的には次のような力の育成を図る。

- 現代社会の多様性を理解し、時代の変化に対応することができる豊かな教養を備えた「人間力」
- 地域社会あるいは国際社会との連携等を通して、実社会における課題を自ら発見し解決する能力を持った「社会力」
- 異文化理解あるいはチームワーク活動に不可欠な実践的「コミュニケーション力」、および科学技術の進展に支えられた「情報処理・活用力」

共通教育の教育課程は、これまでに述べた教育方針の 3 科目群（縦軸）から編成されるとともに、学問分野に応じた 7 つの科目カテゴリー（横軸）によっても編成されている（下表）。

表. 共通教育による教育課程の編成

共通教育		教育方針の 3 科目群		
		導入科目群	理論科目群	実践科目群
学問分野の7カテゴリー	修学基礎	○		
	人文・社会科学		○	○
	自然科学		○	○
	健康科学		○	○
	語学国際		○	○
	複合 PBL		○	○
	社会連携			○

学問分野の 7 カテゴリーの具体的な編成内容は以下のとおりである。

(1) 修学基礎：高校の学びから大学での学びへの転換と準備、そして大学生としての自律を促す
(2) 人文・社会科学：人間性を考える普遍的な理論や知識を習得し言葉の力を身につけるとともに、社会の仕組みや歴史から様々な解決すべき課題を学び、共同体のあり方を問う力を養う
(3) 自然科学：自然現象やそれに関わる発見から普遍的な真理を探究することを通じ、論理的思考力や問題発見力、批判力などを身につけるとともに、そのために必要な情報処理などの

技能を習得する

（4）健康科学：身体とその健康に関する理論や知識を習得し、実生活に応じた思考力を養うとともに、社会の中で生涯にわたり健全な生活をおくる具体的技能を身につける

（5）語学国際：グローバル化する地域社会のみならず一般的に国内外の様々な文化環境においても、そこで活躍するために必要不可欠な語学力を育成するとともに、異文化理解をも深める

（6）複合 PBL：アクティブ・ラーニングを取り入れることで、現代の学際的な課題に主体的に取り組む力を身につける

（7）社会連携：地域で活躍するために必要な地域の理解と、他者との協働性を養成する

ここで、全学科で必修となる授業科目の多くを 1 年次に配当し、高等学校での学習内容から大学教育へスムーズに移行できるようにしている。

また、人文・社会科学、自然科学、健康科学の 3 カテゴリーには、各カテゴリー内の学問的精髄を集約した「要論」と、各カテゴリーに属す伝統的な学問によって編成された「基幹科目」がある。同様に、語学国際カテゴリーには、「要論」、「英語」、「英語以外の外国語」、「国際」がある。これら歴史的価値のある学問的知識を身につけるとともに、学生が現代の学際的な課題に主体的に取り組む力を身につけるために、2021 年度から「複合 PBL（Problem Based Learning）」が新たな科目カテゴリーとして拡充・編成された。これは基本的にアクティブ・ラーニングの授業形式の下で、学生が「問題」を発見し「解決」に向けてプレゼンテーションやディスカッションなどを通じて、最後に成果をまとめる授業となる。これら「要論」や「基幹科目」、そして「複合 PBL」によって、現代的多様性に対応できるリベラルアーツ教育を実現している。

令和 4 年度入学生の共通教育科目の概要をまとめると、下の表のようになる。

表. 令和 4 年度入学生（共通教育科目）

カテゴリー	授業科目数	全学的な必修科目の例
修学基礎	4	大学で学ぶ、フレッシュマンセミナー
人文・社会科学	17	人文・社会科学要論
自然科学	13	自然科学要論
健康科学	6	健康科学要論（一部の学科のみ必修）
語学国際	20	ELP 1・2・3・4・5・6
複合 PBL	16	全ての学科で選択必修
社会連携	6	社会連携要論、地域資源論
合　　計	82	

共通教育部では、部内に 5 つの推進室（教養教育推進室、語学教育推進室、情報教育推進室、健康・スポーツ教育推進室、社会連携教育推進室）を設置して教育を実施している。さらに、「共通教育の充実および共通教育と専門教育との連携に関する」業務を実施するために、教育開発

センター内に共通教育部門が設置されている。共通教育科目に対するカリキュラム等の企画・立案などをこの部門が担当し、共通教育部および各推進室で実施するように役割分担ができている。また、共通教育科目の実施にあたっては、共通教育部を兼務する教員のみだけではなく、学部専任教員にも協力を仰いでいる。

3-2 教養教育推進室

教養教育推進室は、前節で述べた 7 カテゴリーのうち「修学基礎」、「人文・社会科学」および「自然科学」の教育を推進する組織である。「修学基礎」カテゴリーにおいては、専門教育を修得する上で重要な共通教育科目の履修指導を行うとともに、新入生対象のフレッシュマンセミナーにおいて、各学部・学科に求められる資質や基礎知識を身に付ける教育を行っている。平成 15 年度から開講していた「フレッシュマン特別講義」の後継科目である「大学で学ぶ」(1 年次必修科目)は、初年次教育の一環として、学長をはじめとする学内外の経験豊かな講師が、「生きた素材」をもとに、学問との出会いから今日に至るまでの道のりや、大学で学習する上で身に付けておくべきスキルの重要性等を新入生に語る授業として、平成 27 年度から開講している。教養を身に付けることの意義、学術情報の収集技法や健康教育、語学との関わり方など、高校生としての学びから大学生としての学びへのトランジション的なテーマも盛り込み、令和 4 年度は、次の内容でオンライン実施した。

表. 令和 4 年度「大学で学ぶ」実施状況

回	日程	講師	題目
1	4/13	沖学長	賢く生きる雑草に学ぶ
2	4/20	山下附属図書館長、田中司書長	図書館の活用方法
		高戸健康・スポーツ教育推進室長	健康で豊かな大学生活を送るために
3	4/27	末岡社会連携・国際担当副学長	副専攻「吉備の杜」～入学から卒業・修了までの一貫した社会連携教育～
		伊藤グローバルラーニングセンター長	グローバル時代に生きる県大生へ
4	5/11	片岡総社市長	人間力
5	5/18	株式会社ランドスケープ・プラス 代表取締役　平賀達也氏	Landscape without borders ランドスケープが描く境界なき未来地図
6	5/25	田中共通教育部長	リベラルアーツ教育の意義
		有本学術研究推進センター長	専門教育と研究～論理的思考力の醸成
7	6/ 1	石井キャリア形成支援部門長	キャリアについて考える
		伊藤就職支援部門長	社会に出る事を意識した大学時代の考え方と就職
8	6/ 8	岡山県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課	情報倫理とセキュリティ

また、「人文・社会科学」と「自然科学」カテゴリーにおいては、平成 30 年度から設定された「要論」、「基幹科目」、「複合 PBL」の内実を充実させ、令和元年度から令和 2 年度にかけてより具体的、実践的に学修内容の定着を図った。とりわけ「複合 PBL」については、カリキュラムカテゴリーとして独立させ、同時開講科目の分野別の「セミナー科目」の名称の下、1 単位選択必修科目として令和 3 年度から始めることとなった。これにより、大学生に求められる教養を身に付けた人材の育成を目指している。

コア科目である「人文・社会科学要論」および「自然科学要論」は全学必修であり、1 年次生 1Q および 2Q に開講している。いずれの講義も 3 名の専任教員で構成するオムニバス形式を取っている。「人文・社会科学要論」では人文科学と社会科学の全体像を述べた後、「人文科学・哲学」、「社会科学・社会学」、「人文科学・文学」の 3 分野を、「自然科学要論」では自然科学の全体像を述べた後、「物理学」、「生物学」、「化学」の 3 分野を、それぞれ 5 コマずつ講義し、学生の所属学部によらず、各科学分野の概要を学べるようにしている点に特長がある。

教養教育推進室の課題については、共通教育部門において議題として取り上げ、その解決を図っている。共通教育カリキュラム・ポリシーに基づいて、平成 30 年度入学生からの共通教育新カリキュラムを令和 4 年度も実施している。「人文・社会科学」、「自然科学」、「健康科学」の 3 つのカテゴリーを中心にしつつ、令和 5 年度開講計画を示す。

表. 令和 5 年度　共通教育科目（人文・社会科学、自然科学、健康科学）開講計画

カテゴリー		令和 5 年度 開講科目	授業方法	時間数	単位数
人文・社会科学		人文・社会科学要論	講義	30	2
	人文科学基幹科目	哲学	講義	30	2
		倫理学	講義	30	2
		歴史学	講義	30	2
		宗教学	講義	30	2
		心理学	講義	30	2
		文学	講義	30	2
		芸術学	講義	30	2
		日本語表現法	講義	30	2
	社会科学基幹科目	経済学	講義	30	2
		経営学	講義	30	2
		文化人類学	講義	30	2
		法学	講義	30	2
		社会学	講義	30	2
		政治学	講義	30	2
		日本国憲法	講義	30	2
		未来社会論（人文・社会科学）	講義	15	1
自然科学		自然科学要論	講義	30	2
	自然科学基幹科目	数学A	講義	30	2
		数学B	講義	30	2
		数学C	講義	30	2
		物理学A	講義	30	2
		物理学B	講義	30	2
		化学	講義	30	2
		生物学	講義	30	2

		データサイエンス概論	講義	15	1
		統計学	講義	30	2
		コンピュータ演習Ⅰ	演習	30	1
		コンピュータ演習Ⅱ	演習	30	1
		未来社会論(自然科学)	講義	15	1
健康科学		健康科学要論	講義	30	2
	健康科学基幹科目	生命倫理学	講義	15	1
		健康心理学	講義	30	2
		スポーツ科学	講義	15	1
		健康スポーツA	講義・実技	30	1
		健康スポーツB	講義・実技	30	1
複合PBL	人文・社会科学複合PBL科目	人文・社会科学セミナーA	講義	15	1
		人文・社会科学セミナーB	講義	15	1
		人文・社会科学セミナーC	講義	15	1
		人文・社会科学セミナーD	講義	15	1
	自然科学複合PBL科目	自然科学セミナーA	講義	15	1
		自然科学セミナーB	講義	15	1
		自然科学セミナーC	講義	15	1
		自然科学セミナーD	講義	15	1
	健康科学複合PBL科目	健康科学セミナーA	講義	15	1
		健康科学セミナーB	講義	15	1
		健康科学セミナーC	講義	15	1
		健康科学セミナーD	講義	15	1
	語学国際複合PBL科目	語学国際セミナーA	講義	15	1
		語学国際セミナーB	講義	15	1
		語学国際セミナーC	講義	15	1
		語学国際セミナーD	講義	15	1

3-3 語学教育推進室

本学における語学教育は、「受動的な学習から能動的な学習」を目指すアクティブ・ラーニングを実施している。教師による一方的な指導ではなく、授業内での学生によるペア・ワークやグループ・ワークを主体とした学習、授業外でのインターネットを利用した自主学習を組み合わせた授業形態を採っている。

また、英語母語話者のみではなく、非英語母語話者とのコミュニケーションを目的とした「国際共通語としての英語」を学ぶことに主眼を置いている。英語以外にもドイツ語、韓国語、中国語、フランス語を選択科目として開講している。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、過去 2 年間の外国語科目は一部を除き原則としてオンデマンド型のオンライン形式で開講したが、今年度より一部を除き原則として対面に戻して実施した。

(1) ELP 科目と ESP 科目

英語科目は平成 28 年度から新しいカリキュラム English Language Program(以下 ELP)を開始した。平成 29 年度と平成 30 年度はクォーター制(4 学期制)を導入したが、学修成果を

鑑みて、令和元度から従来のセメスター制(2 学期制)で ELP 科目を開講している。ELP1～6 は必修科目であり、ELP1～4 は 1 年次生を対象として、スパイラルに英語のコミュニケーション能力を伸ばすことを目標としている。ELP5、6 は 2 年次生を対象とし、受容的な能力の強化と異文化理解などを育成する発展科目としている。

ELP1、3、5、6 は理解力の涵養に焦点を当て、国際的な基準 CEFR(Common European Framework of Reference for Languages)が求める 5 つの技能のうち、reading と listening を併せた技能複合型、ELP2、4 は発信力の涵養に焦点を当て、writing と speaking(interaction & presentation)を併せた技能複合型にすることで、履修者にも科目の性格が明確となるように工夫している。選択科目として ELP7～10 を、専門科目につなげる英語科目として ESP(English for Specific Purposes)1～2 を設置している。

以下は英語カリキュラムを図示したものである。

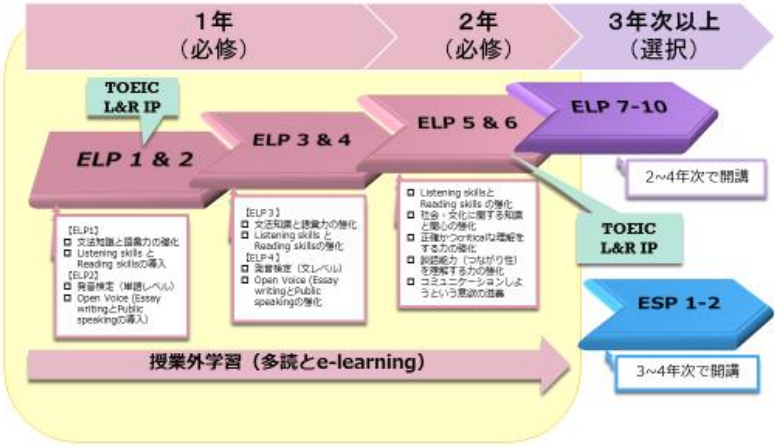


図. 英語科目 ELP1～10、ESP1～2

(2) CALL 教室(8122 教室)の利用

CALL 教室は授業での利用の他、授業の空き時間に学生へ開放し、自主学習の機会を提供している。

(3) 多読用書籍の利用

語学教育推進室では、多読用書籍の貸し出し、管理業務も行っている。外国語の習得にはまずインプットが不可欠であり、そのために英語学習者が辞書なしで楽しめるように工夫された多読用の英語書籍を用意している。これらの書籍は、学生の関心を惹きつけるものを常備するため計画的に数を増やし、学生のニーズに応えられるよう心がけている。

語学教育推進室が所有する多読用書籍は、現時点では 2,000 冊を超えている。必修の英語科目を履修しているすべての学生が持つ学習ログ(学習記録)には、学生が読んだ多読本を記録していくようになっている。

以下に月ごとの多読用書籍の貸出状況表を示す。数字は、貸し出し冊数を表す。

表. 令和 4 年度　多読書籍の貸し出し

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
保健福祉	118	140	182	101	27	163	377	260	144	219	30	0
情報工	37	115	91	81	0	38	60	91	34	34	16	0
デザイン	3	3	9	6	5	4	13	13	3	2	4	0
計	158	258	282	188	32	205	450	364	181	255	60	0

(4) 語学教育推進室の TA 指導数

語学教育推進室では、ティーチング・アシスタント(以下、TA)を月曜日から木曜日まで週に 4 日間配置している。これらの学習支援事業に関する利用者総数(数値は対応人数)は、下表に示すとおりである。内訳は、英会話(対面とオンライン)、英語学習相談、TOEIC 模試、個人指導等である。

表. 令和 4 年度語学教育推進室の TA 指導数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
保健福祉	15	18	15	11	5	0	6	9	8	7	7	-
情報工	16	12	20	16	9	9	25	25	22	13	13	-
デザイン	19	29	37	11	9	11	23	20	17	17	7	-
計	50	59	72	38	23	20	54	54	47	37	27	-

表. 令和 4 年度語学教育推進室の TA によるオンライン英会話等実績

実施月	実施延べ人数	予約可能日数	対応 TA 数	備考
4 月	50	10	2	対面とオンラインでの英会話と各種試験対策
5 月	59	13	2	
6 月	72	17	2	
7 月	38	9	2	
8 月	23	9	2	
9 月	20	10	2	対面での英会話と試験対策
10 月	54	15	2	対面とオンラインでの試験対策
11 月	54	16	2	対面での英会話と試験対策
12 月	47	13	2	対面とオンラインでの英会話と各種試験対策
1 月	37	12	2	
2 月	27	7	2	
3 月	-	-	-	実施なし

表. 令和 4 年度語学教育推進室 TA による TOEIC 模試とフィードバックカウンセリング数

TOEIC 模試実施実績	
実施日	受験者数
11 月 22 日	2
11 月 24 日	1
11 月 30 日	1
12 月 8 日	3
2 月 7 日	2
2 月 8 日	2
2 月 9 日	2

フィードバックカウンセリング実施件数	
実施日	人数
12 月 5 日	1
2 月 9 日	2
2 月 13 日	1

(5) e ラーニング教材の利用状況

平成 30 年度より、TOEIC L&R 対策に焦点を当てた e ラーニング教材 ALC NEXT を導入している。1 年次生には TOEIC L&R 500 点コース、2 年次生には TOEIC L&R 600 点コースと 730 点コースを割り当て、授業外学習とした。利用者の達成率は以下の表のとおりである。

1、2 年次生とも、学期が進むにしたがって達成率が下がる傾向が見られ、学習開始当初のモチベーションの維持が課題である。

表. 令和 4 年度 ALC NEXT 達成率の平均(%)1 年次生 500 点コース

	stage	1	2	3	レビュー	模試
保健福祉学部	前期	93.0	86.6	74.8	72.4	2.0
	夏季	94.9	91.1	80.6	79.5	37.2
情報工学部	前期	60.3	51.8	47.2	42.1	0.6
	夏季	63.3	54.5	52.7	49.5	11.8
デザイン学部	前期	74.4	64.4	53.7	55.7	2.3
	夏季	74.4	64.5	53.7	56.0	14.5

表. 令和 4 年度 ALC NEXT 達成率の平均(%)2 年次生 600 点コース

	stage	1	2	3	レビュー	模試
保健福祉学部	前期	73.2	62.4	45.8	39.3	0.7
	夏季	79.3	67.3	51.6	47.1	15.1
情報工学部	前期	55.1	42.4	30.1	27.9	55.1
	夏季	62.7	47.9	35.8	34.9	62.7
デザイン学部	前期	38.8	27.2	20.0	12.9	0.0
	夏季	52.1	41.0	32.8	29.8	5.3

表. 令和 4 年度 ALC NEXT 達成率の平均(%)2 年次生 730 点コース

	保健福祉学部		情報工学部		デザイン学部	
stage	1	2	1	2	1	2
後期	54.4	33.4	31.2	18.2	18.6	14.6

ELP2、4(1 年次生必修科目)では、本学の英語専任教員が独自に作成したテキスト *Express Yourself* を導入している。これは speaking および writing のスキル向上を目指したもので、その効果を検証するため、学習者の前期および後期それぞれの始めと終わりにおける発話量の差をワード数に基づいて調べた。ELP2 と ELP4 の両方で、発話量が各学期の始めと終わりで有意の差で増えた。

表. *Express Yourself* ： 前後期始めと終わりの学習者のワード数(平均値と標準偏差)

学部	ELP2(前期)	ELP4(後期)
保健福祉学部	88.75 (50.32) 135.48 (45.23)	124.84 (28.89) 220.81 (106.61)
情報工学部	61.63 (20.16) 125.22 (20.32)	102.52 (30.52) 162.11 (38.05)
デザイン学部	55.79(11.75) 135.61(31.13)	95.63 (28.31) 191.72 (49.78)
全学部	72.40 (34.63) 128.63 (32.12)	107.71 (31.78) 190.97(75.09)

注:上段の数値は学期の始め、下段の数値は学期の終わりの数値を表す。

ELP4 の履修者に対して、e ラーニング教材 English Central を準備した。この教材は、短い英語の動画を視聴し、その中で用いられていた語彙を学んだり発話練習をしたりするものである。下記表は ELP4 履修条件の一つとしていた期間(9 月 24 日から 2 月 10 日)の学部別の利用平均値を示す。

表. 令和 4 年度 English Central の利用(必須期間の平均)

学部	動画視聴数	学習単語数	学習活動数	発話数
保健福祉学部 n = 140	15.76	62.92	70.08	52.06
情報工学部 n = 155	13.98	56.06	59.59	37.12
デザイン学部 n = 104	19.51	69.72	75.23	27.13

(6) TOEIC L&R IP 任意テスト受験

就職活動や進学の関係で受験を希望する学生がいるため、TOEIC L&R IP 任意テストを学内で 3 回実施した。実施結果は以下のとおりである。なお、5 月 24 日に実施した第 55 回テストはコロナ禍のため、オンラインでの実施となった。

表. 令和 4 年度 TOEIC L&R IP 任意受験者の概要

通算回数	実施年月日	受験者数	平均点(標準偏差)	最高点	最低点
55	令和 4 年 5 月 24 日	6	552.50 (96.30)	675	385
56	令和 4 年 7 月 5 日	11	430.00(119.86)	670	270
57	令和 5 年 2 月 15 日	2	370.00 (5.00)	375	365

(7) TOEIC L&R IP の全員受験の実施

1 年次履修の「ELP1」履修者を対象として、令和 4 年 5 月 14 日(5 月 19 日追試)に TOEIC L&R IP を実施した。出席停止期間中のため本試験と追試験の両方を受験することができなかった 1 名については、7 月に追追試験を実施した。令和年度入学生の受験者は 384 名、受験者平均点は 385.55 点、最高得点は 660 点、最低点は 160 点であった(990 点満点)。成績が非常に良かった昨年度と比較すると、平均点、最高点、最低点全てにおいて低下し、一昨年度のレベルに近い結果となった。「ELP1」の履修クラスごとの平均点等は次の表のとおりである。

表. 令和 4 年度入学生「ELP1」履修学科別の結果

学部	学科	受験者数	平均点	標準偏差	最高点	最低点
保健福祉学部	看護	41	415.37	73.12	535	250
	栄養	41	416.10	75.89	545	255
	現代福祉	39	415.51	78.67	540	190
	子ども	28	393.57	79.93	520	195
情報工学部	情報通信 A	25	366.20	94.14	575	190
	情報通信 B	25	375.60	83.48	540	215
	情報システム A	27	397.78	76.99	535	200
	情報システム B	27	397.78	105.23	580	200
	人間情報	40	396.50	93.85	605	215
デザイン学部	ビジュアルデザイン	31	336.45	95.98	500	160
	工芸工業デザイン	33	291.72	74.11	455	160
	建築	29	395.52	104.12	660	220
全学科		384	385.55	92.18	660	160

注:情報通信工学科、情報システム工学科は 2 クラスに分けて実施。

2 年次履修の「ELP6」履修者名を対象として、令和 4 年 12 月 10 日(12 月 13 日追試)に TOEIC L&R IP を実施した。出席停止期間中のため本試験と追試験の両方を受験することができなかった者については、2 月に追追試験を実施した。そのうち、令和 3 年度入学生の受験者は 359 名、受験者平均点は 437.81 点、最高得点は 870 点、最低点は 160 点であった(990 点満点)。平均点が前年度比 35.30 点上昇し、最高点が 100 点上昇した一方、最低点は 30 点下がっている。令和 2 年度(2020 年度)より ELP6 の単位認定資格として合格基準となる

TOEIC 得点を設定しているが、今年度は 12 月の試験で合格基準点に達しなかった履修者に対して、令和 5 年 2 月 15 日に再試験を実施した。ELP6 履修者 377 名のうち、再試験でも合格基準点に達しなかった 21 名(5.6%)については、今年度の ELP6 の単位を認定せず、再履修とした。

表.令和 3 年度入学生の 1 年次受験時(下段)と翌年 2 年次受験時(上段)の履修クラス別結果

学部	学　科	受験者数	平 均点	標準偏差	最 高点	最 低点
保健福祉	看　護	41 (41)	463.05 (467.56)	95.05 (88.12)	660 (635)	275 (275)
	栄　養	38 (40)	434.61 (419.63)	77.97 (86.16)	590 (710)	240 (270)
	現 代福祉	36 (37)	489.86 (416.35)	101.20 (84.71)	735 (660)	320 (225)
	子 ど も	25 (26)	436.20 (403.27)	91.51 (88.23)	600 (600)	260 (210)
	全 学 科	140 (144)	457.43 (429.48)	93.53 (90.49)	735 (710)	240 (210)
情報工	通 信　A	24 (24)	451.04 (400.00)	94.44 (77.58)	670 (605)	300 (295)
	通 信　B	24 (25)	451.67 (375.80)	60.96 (74.40)	600 (555)	355 (235)
	システム A	24 (25)	431.25 (399.60)	90.04 (77.28)	610 (675)	250 (305)
	システム B	23 (25)	458.70 (416.00)	103.38 (89.86)	690 (605)	315 (235)
	人　間	39 (38)	408.33 (394.87)	90.13 (76.40)	660 (585)	275 (255)
	全 学 科	134 (137)	436.49 (397.01)	89.88 (80.29)	690 (675)	250 (235)
デザイン	ビジュアル	28 (30)	415.54 (356.83)	123.96 (126.40)	790 (755)	275 (190)
	工 芸工業	29 (32)	387.76 (361.88)	127.82 (102.96)	790 (770)	160 (190)
	建　築	28 (31)	420.18 (387.74)	145.31 (117.88)	870 (685)	240 (200)
	全 学 科	85 (93)	407.59 (368.87)	131.84 (117.32)	870 (770)	160 (190)

全学	359 (374)	437.81 (402.51)	104.13 (97.25)	870 (770)	160 (190)

注：情報通信工学科と情報システム工学科は 2 クラスに分けて実施。

ELP6 の単位認定基準となる TOEIC 得点の設定が ELP6 の不合格者数に与えた影響を確認する目的で、設定前（2017 年度～2019 年度）と設定後（2020 年度～2022 年度）で、履修者数に対する不合格者数（1～59 点）の割合を比較した。その結果、設定前の 3 年間の平均は 4.1%、設定後の 3 年間の平均は 4.6%であり、設定前後で大きな違いはなかった。次に、単位認定基準導入の英語力向上に対する影響を確認する目的で、入学次から 2 年次にかけての TOEIC 得点の伸び幅について調べた。その結果、ELP6 単位認定基準設定前の 3 年間の平均伸び幅は-10.23 点であったのに対し、設定後の 3 年間の平均伸び幅は 41.50 点と、50 点以上改善していた（下表）。また、複数の英語教員から、単位認定基準導入前と比べて、ELP6 の授業や TOEIC 受験に対して学生がより真剣に取り組むようになったことが報告されており、単位認定基準の導入が英語教育において非常にポジティブな効果を及ぼしていることが示された。

表. 入学時と 2 年次後期の TOEIC 平均点の変化

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
入学時平均点	366.43	368.28	386.31	373.72	377.49	402.51
2 年次平均点	366.85	362.01	361.46	413.60	426.82	437.81
伸び幅	0.42	-6.27	-24.85	39.88	49.33	35.30

（8） スピーカーズ・コーナー

スピーカーズ・コーナーは、コンテストという競争形式ではなく、学生の自由な発想のもとに英語、ドイツ語といった外国語でのスピーチをすることができるイベントである。本年度は令和 4 年 11 月 5 日（土）9：30～11：00 に、3 年ぶりに対面形式で実施した。出場者は 7 組 11 名で、英語またはドイツ語でプレゼンテーションを行った。

（9） 定期発行物 Newsletter WeLL+

Newsletterは教員や学生からの投稿記事を基に構成され、編集作業も各学部および大学院の学生と語学教育推進室のスタッフが協力して行っている。内容は語学学習の方法、資格検定試験実施の案内などを掲載しており、例年 4 月と 10 月の年 2 回発行し、全学部 1・2 年次生と教職員に配布している。しかし、本年度はコロナ禍で編集作業ができなかったため発行を見送った。

（10） Advanced class

令和 3 年度後期から当該年度入学生を対象に、英語力並びに学習意欲が高い学生をさらに伸ばすための取り組みとして Advanced class を導入している。対象科目は後期開講の必修科

目 ELP3、4 で、進級後は 2 年次の必修科目 ELP5、6 に引き継がれる。今年度から ELP5、6 の Advanced class が開講されたが、昨年度に ELP3、4 の Advanced class を履修した 29 名(1 年次生の約 7.8%)のうち、13 名(2 年次生の約 3.6%)が ELP5、6 の Advanced class を受講した。2 年次から通常クラスへの変更を希望した学生が多かった理由として、開講初年度であるため学生側と教員側でイメージする授業形態に相違があること、オンライン授業のため主体的な学びの姿勢が積極的に求められる Advanced Class の授業形態に対応が難しかったことなどが考えられる。アンケートなどを利用して学生の意向を調査し、英語を学ぶことの楽しさや喜びを感じられる授業運営への取り組みを進めるとともに、来年度からは海外留学や国際企業への就職、積極的な国際交流等を目指す学生に対しても Advanced class の門戸を開くことで、Advanced class の特長である「主体的・対話的で深い学び」に対する受容と浸透を促す環境の形成を試みる。

開講 2 年目にあたる今年度の ELP3、4 Advanced class については、入学時 TOEIC テストの高得点者から選抜された 33 名(1 年次生の約 8.6%)が履修した。

3-4 情報教育推進室

情報社会の進展に伴い、情報通信機器およびデータの活用があらゆる分野で求められている。そのような中、情報技術に関する知識を学ぶことによって情報社会に適応できる能力を養うことを目的として情報教育推進室が開設された。今年度入学生の開設授業科目において情報教育推進室が関係する科目は次のとおりである。

・「統計学 A」
・「統計学 B」
・「コンピュータ演習 I」
・「コンピュータ演習 II」

次年度より「データサイエンス概論」の科目が新設され、データサイエンスを実践する際に必要となる様々な技術について学ぶことを目的とする。「情報・統計」の開講科目は卒業判定に関係する科目が少ないなどの理由により科目数自体少ないが、多くの学生が情報技術の習得を望んでおり、情報技術教育のさらなる向上を目指す必要があると考えられる。

(演習室の開放)

学生の情報活用能力の向上を図り、情報教育演習や自主学習利用の目的のため、総合情報推進センターにより、インターネットに接続された PC を備えた情報処理演習室を年間 162 日開放した。各月の延べ利用者数および開放日数は下表のとおりである。令和 4 年度の延べ人数は 2,634 名であり、前年度比約 116%の利用者増であった。また開放日数は前年度比約 124%増となった。開放日数の変動および授業形態の変更のため利用実績が変動したと考えられる。

(ア) 延べ利用者数

月	4 月	5 月	6 月	7・8 月	9・10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	合計
2015	1,835	1,368	1,713	2,550	2,264	1,126	1,145	1,144	468	13,613

2016	1,675	1,137	1,183	1,708	2,045	1,185	1,170	894	380	11,377
2017	762	1,025	676	768	1,159	1,066	1,028	966	329	7,779
2018	474	869	625	1,088	1,186	895	721	717	229	6,804
2019	356	782	725	1211	821	691	598	530	176	5,890
2020	0	0	0	12	261	337	257	196	76	1,139
2021	353	16	87	457	448	360	255	235	55	2,266
2022	251	295	338	518	378	315	171	276	92	2,634

（イ）開放日数

月	4 月	5 月	6 月	7･8 月	9･10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	合計
2015	14	14	22	27	26	17	15	15	8	158
2016	15	19	22	26	25	19	15	15	8	164
2017	14	19	22	28	26	19	16	16	7	167
2018	14	20	21	27	26	19	15	17	7	166
2019	13	18	20	29	26	19	16	17	6	164
2020	0	0	0	9	23	19	17	10	7	85
2021	16	1	8	24	26	18	17	14	7	131
2022	15	18	22	28	25	18	15	15	8	162

3-5 健康･スポーツ教育推進室

健康･スポーツ教育推進室は本学の教養教育における「健康科学」の教育を推進する組織であり、身体とその健康に関する理論や知識を修得し、実生活に応じた思考力を養うとともに、社会の中で生涯にわたり健全な生活をおくる具体的技能を養うことがその目的である。その他にも、学生の課外活動に使用する施設、機器等の維持管理、全学における学生および教職員の健康の維持･推進のための施設利用に関する事項、全学のスポーツ施設の地域社会への提供に関する事項、地域における健康･スポーツ教育活動に関する事項など所掌事項は多岐にわたる。

構成メンバーは共通教育部兼務教員 3 名である。令和 4 年度の健康科学カテゴリー科目は、理論科目群と実践科目群から構成され、理論科目群に「健康科学要論」に加えて基幹科目として「生命倫理学」「健康心理学」「スポーツ科学」「健康スポーツ A」「健康スポーツ B」を配置している。実践科目群には具体的、実践的に学修内容の定着を図るための科目へと発展することを目指した健康科学カテゴリーの複合 PBL 科目として「健康科学セミナーA」「健康科学セミナーB」「健康科学セミナーC」「健康科学セミナーD」が設置されている。講義科目はいずれも准教授以上の専任教員が担当している。実技科目については学科別の開講とし、天候に左右されない施設の有効活用を実現する時間割編成としている。これにより、実技科目の目的の 1 つである多様なスポーツの実践を通して、基礎的な運動能力はもとより健康の維持および体力の増進に資する技能を獲得する環境を整備している。実技科目は、当初対面授業であったがコロナ禍による緊急事態宣言により一部の期間オンライン授業となった。後期も対面授業が実施され、オンライン方式

と対面方式を併用した。対面方式では全履修生を対象に新型コロナウイルス感染症対策に関する事前学習、スポーツ施設の使用に関するオリエンテーションを行い、その後４～５種のスポーツ種目を実施した。

また、課外活動におけるスポーツ施設の有効利用を推進するため、スポーツ施設に関する適切な施設使用、管理に関する指導、助言を行った。健康スポーツ A、B の TA に協力してもらい、その他の体育・スポーツ施設についても点検、整備を行った。

3-6 社会連携教育推進室

本推進室は、(1) 社会連携のカテゴリーに配置される授業科目の企画および開発、(2) (1)の授業科目に係る予算案の作成および施設、機器等の整備、(3) その他(1)の授業科目に関連する業務に関する事項を主な所掌業務としている。

構成メンバーは共通教育部兼務教員 2 名と学部教員 4 名である。主として 1 年次生から 3 年次生を対象とする「岡山創生学課程」に加えて、昨年度から 3 年次生および 4 年次生を対象とする「吉備の杜クリエイター課程」、大学院生を対象とする「吉備の杜プロデューサー課程」が開設され、今年度までにすべての課程の授業科目が開講された。「岡山創生学課程」では共通教育科目を 7 科目開講した。そのうち、「社会連携要論」と「地域資源論」は全学の 1 年次必修科目であり、いずれも本推進室の構成メンバーが主担当でオンライン方式により実施した。また、演習科目である「地域創生演習」、「地域インターンシップ」は、受け入れ先機関とも慎重に協議した上で、感染防止対策に留意しながら対面での教育が実施された。「吉備の杜クリエイター課程」では、3 年次の講義科目に加え、4 年次の実践型 PBL(Project Based Learning)演習として食、ICT、森と木をテーマとした未来型プロジェクトが今年度初めて開講され、オンラインも活用しながら持続可能な地域の未来が展望できる雑草型人材育成が実施された。「吉備の杜プロデューサー課程」では、大学院の講義 5 科目と演習 1 科目、さらに企業と共同して行う実践型の PBL 演習を配置し、オンライン方式と対面方式を併用して企業現場で即戦力となりうる雑草型リーダーの育成が実施された。

3-7 留学生・転学生

本学では、日本の生活に不慣れな留学生(韓国又松(ウソン)大学校からの転学生、短期留学生を含む)がいち早く日本の生活・文化に慣れ、学習・研究活動に励むことができるようにするため、本学学生の中から学業や生活の相談相手を選定し、留学生のサポートを行うチューター制度を設けるなど、学業・生活面の両面において支援を行っている。令和 4 年度は留学生に対して、各学科における学習支援のほか、授業料減免制度や奨学金募集等の情報提供および活用の支援などを行った。

なお、令和 4 年度の留学生数は、学部生 1 名、大学院生 2 名の計 3 名であり、チューター制度を利用した者はいなかった。最近 5 年間における留学生数およびチューターを利用した留学生数は次のとおりである。

年　度	2018	2019	2020	2021	2022	合計
留学生数(学部生)	8	6	1	1	1	17
留学生数(大学院生)	8	7	7	5	2	29
合　計	16	13	8	6	3	46
(うちチューター利用)	(3)	(2)	(0)	(1)	(0)	(6)

3-8 大学コンソーシアム岡山

県内の 18 大学が参加する大学コンソーシアム岡山では、平成 21 年度に文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」事業の選定を受けた「岡山オルガノンの構築」(代表校:岡山理科大学)の 3 年間にわたる事業に対し、平成 23 年度に補助金交付が終了したことを受けて、その事業を平成 24 年度から継承してきた。平成 27 年度に設置された将来構想委員会において事業運営を検討し、平成 30 年度はその方針に従って運営されている。

はじめに、令和 4 年度に実施された事業(単位互換、吉備創生カレッジ、日ようび子ども大学、エコナイト、SD 研修会)に対する本学の参加状況を説明し、その後、令和 5 年度以降への対応を述べる。

〔本学の参加状況〕

(1)単位互換

(他大学→本学)

年度		2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
対面	履修学生数	0	0	0	1	7	0	8
	履修科目数	0	0	0	1	4	0	5
	本学提供科目数	4	4	3	3	4	0	18
双方向ライブ2021～遠隔	履修学生数	0	0	0	0		5	5
	履修科目数	0	0	0	0		1	1
	本学提供科目数	0	0	0	0		2	2
合計	履修学生数	0	0	0	1	7	5	13
	履修科目数	0	0	0	1	4	1	6
	本学提供科目数	4	4	3	3	4	2	20

(本学→他大学)

年度		2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
対面	履修学生数	2	0	0	2	35	67	106
	履修科目数	1	0	0	2	10	7	20
双方向ライブ2021～遠隔	履修学生数	1	0	0	0		4	5
	履修科目数	1	0	0	0		3	4
合計	履修学生数	3	0	0	2	35	71	111

	履修科目数	2	0	0	2	10	10	24

(2)インターンシップ参加((株)ナジック・アイ・サポート)

年　度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
参加学生数	9	1	−	−	−	−	10

※「キャンパスウェブ」の利用が見込めないため、R1 年度から利用を休止している。

(3)吉備創生カレッジ

No	年度	開講期	科 目 名	講　師
1	2020	前期	俳句を楽しむ	柴田奈美(デザイン学部教授)
2	H22		くらしと微生物	中島伸佳(保健福祉学部准教授)
3		後期	懐かしの洋食器世界	久保田厚子(デザイン学部教授)
4			赤毛のアンの姉妹たち	桂宥子(情報工学部教授) 星野裕子(保健福祉学部教授) 杉村寛子(保健福祉学部准教授)
5	2011	前期	景観デザインを考える	熊澤貴之(デザイン学部講師)
6	H23	後期	英米文学カフェ	杉村寛子(保健福祉学部准教授)
7	2012	前期	地産地消と食文化	岸本妙子(保健福祉学部教授)
8	H24	後期	再生エネルギー発電	徳永義孝(情報工学部准教授)
9	2013	前期	近代期の禁酒運動	二宮一枝(保健福祉学部教授)
10	H25		日本のデザイン文化	吉原直彦(デザイン学部教授)
11			高齢者の健康維持と運動	犬飼義秀(情報工学部教授)
12		後期	人とロボットの眼の不思議	滝本裕則(情報工学部助教)
13			いま、子どもの育ちを考える	池田隆英(保健福祉学部准教授)
14			続・日本のデザイン文化	吉原直彦(デザイン学部教授)
15	2014	前期	広がるワイヤレスの世界	大久保賢祐(情報工学部教授)
16	H26		日本人の糖尿病	福島光夫(保健福祉学部教授)
17		後期	韓国の身近な文化を知ろう	朴貞淑(デザイン学部講師)
18			「嵐が丘」入門	杉村寛子(保健福祉学部教授)
19			情報とデザイン	尾崎洋(デザイン学部講師)
20			考えるコンピュータの考え方	但馬康宏(情報工学部准教授)
21	2015	前期	脳から解る認知症	澤田陽一(保健福祉学部助教)
22	H27		人間のダイナミクス	迫明仁(情報工学部教授) 齋藤誠二(情報工学部准教授) 大山剛史(情報工学部助教)
23			メソアメリカデザイン	真世土マウ(デザイン学部准教授)

24		後期	生活習慣病予防のための食事	平松智子（保健福祉学部准教授）
25			インターネットの仕組み	國島丈生（情報工学部准教授）
26			映画の表現技法	山下万吉（デザイン学部講師）
27	2016	前期	小石川療養所の建築	福濱嘉宏（デザイン学部教授）
28	H28		思春期の性に関する子育て	岡﨑愉加（保健福祉学部准教授）
29			再生可能エネルギー発電	徳永義孝（情報工学部准教授）
30		後期	高齢社会と地域―日韓比較―	井上祐介（保健福祉学部助教）
31			日本の工業デザイン史	益岡了（デザイン学部准教授）
32			人とロボットの類似点相違点	井上貴浩（情報工学部准教授）
33	2017	前期	美学入門	樋笠勝士（デザイン学部教授）
34	H29		19 世紀イギリス小説を読む	杉村藍（情報工学部教授）
35			子どもの食と健康	川上貴代（保健福祉学部教授）
36		後期	歴史から見る人工知能	但馬康宏（デザイン学部准教授）
37			医療と自己決定	沖本克子（保健福祉学部教授）
38			世界のコミック入門講座	中西俊介（デザイン学部准教授）
39	2018	前期	介護保険と地域づくり	岩満賢次（保健福祉学部准教授）
40	H30		脳を解剖するとは	柳原衛（情報工学部准教授）
41			生活の中のデザイン	尾崎洋（デザイン学部講師）
42		後期	はじめての社会調査入門	都島梨紗（保健福祉学部講師）
43			レーザー光が拓く現代社会	徳田安紀（情報工学部教授） 坂口浩一郎（情報工学部助教）
44			病気とたたかう子どもの空間	畠和宏（デザイン学部助教）
45	2019	前期	人生の最終段階で支えあう	名越恵美（保健福祉学部准教授） 實金栄（保健福祉学部准教授）
46	R1		身体的コミュニケーション	渡辺富夫（情報工学部教授）
47			ウェブデザイニング	石王美（デザイン学部助教）
48		後期	「若草物語」の教育論	山本孝司（保健福祉学部教授）
49			日常生活に関わるセンシング	穂苅真樹（情報工学部教授）
50			生活の中のデザイン	尾崎洋（デザイン学部講師）
51	2020	後期	人工知能最前線	岩橋直人（情報工学部教授）
52	R2		腸内環境を整えて介護予防	入江康至（保健福祉学部教授）
53	2021	前期	感染予防（看護）を学ぶ	森本美智子（保健福祉学部教授）
54	R3		芸術の哲学	河合大介（デザイン学部准教授）
55		後期	『若草物語』の教育論	山本孝司（保健福祉学部教授）
56			身体的コミュニケーション	渡辺富夫（情報工学部特任教授）
57			岡山県総社市の地域づくり	髙橋俊臣（デザイン学部准教授）

58	2022 R4	前期	高齢期の食と健康	久保田恵（保健福祉学部教授）
59			熱エネルギーの蓄熱と輸送熱	春木直人（情報工学部教授）
60			古代アメリカへの旅	真世土マウ（デザイン学部准教授）
61		後期	サイバーセキュリティ入門	佐藤将也（情報工学部准教授）
62			自宅でできるフレイル予防	高戸仁郎（保健福祉学部教授）
63			大原美術館とローマの建築	岡北一孝（デザイン学部准教授）

（4）日ようび子ども大学

岡山県生涯学習センターと協力し、「日ようび子ども大学in京山祭」を平成23年度より開催している。県内の18大学、5短期大学、1高専の大学生が集まって子どもが体験できるブースを設置するなど、親子で楽しんでいただく催しを開催している。令和2年度および3年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止したが、令和4年度は実施できた。

年度	開催日	会　場	参加大学数	参加者数
H23	6 月 26 日	岡山商科大学	8 大学	508 名
H24	6 月 24 日	岡山県生涯学習センター	11 大学	1,188 名
H25	6 月 2 日	岡山県生涯学習センター	13 大学・短大	1,500 名
H26	6 月 1 日	岡山県生涯学習センター	14 大学・短大	1,854 名
H27	6 月 7 日	岡山県生涯学習センター	16 大学・短大	2,428 名
H28	6 月 5 日	岡山県生涯学習センター	16 大学・短大	2,579 名
H29	6 月 4 日	岡山県生涯学習センター	16 大学・短大	1,587 名
H30	6 月 3 日	岡山県生涯学習センター	16 大学・短大	1,882 名
R1	6 月 16 日	岡山県生涯学習センター	15 大学・短大	1,643 名
R4	6 月 12 日	岡山県生涯学習センター	13 大学・短大	957 名

（5）エコナイト

地域貢献活動の一環として、平成 23 年度から大学コンソーシアム岡山の加盟校（県内の 18 大学、4 短期大学、1 高専）が連携し、環境問題への啓発を目的としたエコナイトを実施している。具体的には、エコパートナーシップおかやま（岡山県）や岡山市等行政団体とリンクして、学生間の交流活動推進と地域との連携強化を図りつつ、学内消灯や自動車通勤の自粛、エコキャンドルの点灯、一斉ライトダウンを実施するとともに、参加大学毎に独自のエコに関する環境教育の実践的活動を実施している。例年統一活動として開催している岡山奉還町商店街イベントは 3 年ぶりに開催され、本学学生も参加した。

年度	開催日	会　場	参加大学数	参加者数
H27	7 月 5 日他	各大学および岡山市奉還町商店街	16 大学/3 短大	約 2,900 名

H28	7 月 7 日	各大学および岡山駅東口広場	17 大学/5 短大/1 高専	約 2,900 名
H29	7 月 8 日他	各大学および岡山市奉還町商店街	17 大学/5 短大/1 高専	約 2,900 名
H30	7 月 14 日他	各大学および岡山市奉還町商店街	10 大学/2 短大	約 2,400 名
R1	7 月 13 日他	各大学および岡山市奉還町商店街	17 大学/5 短大/1 高専	約 2,530 名
R2	各大学の実施日・実施場所による		9 大学	約 448 名
R3	各大学の実施日・実施場所による		5 大学	約 344 名
R4	7 月 9 日他	各大学および岡山市奉還町商店街	18 大学/4 短大/1 高専/1 大学校	約 4,100 名

（6）SD 研修会

平成 28 年 4 月の障害者差別解消法施行を念頭に、障がい学生の就労および就労に向けた修学上の支援について理解を深めることを目的とする研修会が開催されている。令和 4 年度の実施状況は次のとおりである。

・開催日時：　令和 4 年 8 月 29 日（月） 13:00～15:45
・会場：　岡山大学一般教育等 A 棟 4 階 A41　または Zoom オンライン
・研修内容：　基調講演 「地方私立・公立大学における障がい学生支援の現状と課題」
講師　山本　幹雄　氏（広島大学アクセシビリティセンター　准教授）
話題提供 「各大学における障がい学生支援の現状と課題」
（1） 齋藤　誠二　氏（岡山県立大学キャリア・学生生活支援センター長）
（2） 青山　新吾　氏
（ノートルダム清心女子大学インクルーシブ教育研究センター長）
（3） 麻原　寛之　氏（岡山理科大学学生支援機構学生支援センター次長）
パネルディスカッション
「地方の中小規模大学における障がい学生支援の現状と課題」
登壇者　山本　氏、齋藤　氏、青山　氏、麻原　氏
ファシリテーター　池谷　航介　氏
（岡山大学教育推進機構学生支援部門准教授）

年度	開催日	内　容	会　場
H27	9 月 28 日	障がい学生支援研修会	岡山大学（津島キャンパス）
H28	8 月 23 日	障がい学生支援研修会	岡山大学（津島キャンパス）

H29	8 月 24 日	障がい学生支援研修会	岡山大学（津島キャンパス）
H30	8 月 28 日	障がい学生支援研修会	岡山大学（創立記念館）
R1	8 月 27 日	障がい学生支援研修会	岡山大学（津島キャンパス）
R2	8 月 24 日	障がい学生支援研修会	オンライン研修
R3	8 月 31 日	障がい学生支援研修会	オンライン研修
R4	8 月 29 日	障がい学生支援研修会	岡山大学（津島キャンパス）オンライン研修

〔令和 5 年度以降〕

本学は、輪番制で担っている会長校のうちの 1 校として、単位互換、吉備創生カレッジ、日ようび子ども大学、エコナイト、SD 研修会、就職説明会などの事業に積極的に参画している。引き続き、地域における活力ある人材育成や地域活性化に向けた大学コンソーシアム岡山の活動に対し、積極的な貢献に努めていく。

3-9 まとめと課題

本学の共通教育は、(1)建学理念「人間尊重と福祉の増進」および教育目的「人間・社会・自然の関係性の理解」における教養教育全般を担う科目群として、大学に入学した初年次生対象の導入科目群、大学教育の根幹を担う理論的な知識を学ぶ全学対象の理論科目群、大学教育の理論的な知識を応用する実践的な力を体得する全学対象の実践科目群の 3 科目群を設置すること、(2)学問分野に応じて授業科目を「修学基礎」、「人文・社会科学」、「自然科学」、「健康科学」、「語学国際」、「複合 PBL」、「社会連携」の 7 つのカテゴリーで構成することを特長としている。このような共通教育カリキュラム・ポリシーに基づいて、共通教育の新カリキュラムの開始と定着、および点検と評価を進めている。

英語教育においては、学修成果の向上につながると判断し、他の科目に先駆けて令和元年度にクォーター制からセメスター制に移行した。これを含めて、教育評価部門におけるアンケート結果に伴い、ELP の教育体制は TOEIC の学修成果を基準とすることとし、2 年次後期必修科目の ELP6 の単位認定資格として合格基準となる TOEIC 得点を設定した。また 1 年次生の後期必修科目である ELP3 と ELP4 において、入学時に受験した TOEIC で高得点を獲得し、英語能力の向上に強い意欲を有する学生に対して Advanced class を令和 3 年度から導入した。今年度からは 2 年次生の必修科目である ELP5 と ELP6 にも Advanced class を開講した。昨年度に 1 年次の Advanced class を履修した 29 名のうち 16 名については、2 年次からは通常クラスへの変更を希望し、今年度に 2 年次の Advanced class を履修したのは 13 名であった。1 年次と 2 年次の両方で Advanced class を履修した学生における TOEIC 得点の 1 年次から 2 年次の伸び幅は 25. 00 点であったのに対し、1 年次のみ Advanced class を履修して 2 年次は通常クラスへ変更した学生の伸び幅は 10.00 点となっており、学習意欲の維持が英語力の向上に大きく影響することが示唆された。今後は優秀な英語力の更なる向上を目指して Advanced Class を選択した意欲ある学生に対し、学修意欲を低下させることなく、主体的に学ぶことの楽しさや喜びに気づかせる取組が求められる。また、Advanced class の設置が

TOEIC 高得点者のさらなる英語力向上に寄与しているか、その点検と評価が必要である。一方、語学文化研修については、今年度もコロナ禍およびウクライナ情勢の先行き不透明性のため開講できなかったが、来年度からは実施再開に向けて、時期と内容について再度十分検討を進める。

情報教育に関しては、現代社会において必須となっているデータサイエンスの知識と、その実践に必要となる様々な技術の概要を学ぶことができる環境の整備を進め、来年度よりデータサイエンス概論（全学部全学科対象、選択、1 単位）を開講することとした。今後はこの科目による教育効果の検証を進めると共に、更なる数理データサイエンス AI 教育の充実に向けて検討を進める。

社会連携科目においては、COC＋の後継事業の創造戦略プロジェクト「吉備の杜」の始動に伴い、副専攻の名称を「吉備の杜」とし、学部低学年次生を対象とするこれまでの「岡山創生学」を「岡山創生学課程」に名称変更した。加えて学部高学年次生対象の創造戦略プロジェクトを「吉備の杜クリエイター課程」、大学院生対象のそれを「吉備の杜プロデューサー課程」と呼称することとした。このことにより、入学から学部卒業、大学院修了までの一貫した社会連携教育の体制が整備された。次年度以降は「吉備の杜」の実施内容の点検と検証評価についても進めていく。

雇用形態や社会環境が大きく変化し、グローバル化の進展や女性の社会進出の促進などと相まって、働き方や生き方が多様化している現代社会では、将来の生き方の自由度が増した分、自分が社会で担う役割や果たす責任を考え、自らの人生を選び切り拓くために必要な能力や姿勢を学ぶことが欠かせなくなっている。来年度からは、そのために必要な「キャリア教育」の改善・充実に向けて、講義・演習科目の整備や支援体制の構築を進める予定である。

4 保健福祉学部

4-1 概要

保健福祉学部の学士課程教育では、実学を重視した本学の教育理念および学部・学科の教育目的に沿って策定されたカリキュラム・ポリシーに基づいた教育を展開している。保健福祉学部の各学科では、国家資格取得のためのカリキュラムに加え、グローバル教育や地域連携教育を積極的に実施するとともに、アクティブラーニングを取り入れながら授業方法等の工夫改善を継続的に行っている。

4-2 看護学科

4-2-1 グローバル教育

2022年10月13日に「日韓の新型コロナウイルス感染症に対する看護政策」というテーマで、オンラインによる国際学術交流会を実施し、本学協定校である韓国又松大学校看護学科のキム・ジンスク教授と本学看護学科の森本美智子教授とが、それぞれの国の状況について、日韓の学生に対して報告した。本学からは学部生、大学院生、教員が 52 名、又松大学校からは約 85 名の学生が参加し、報告後に活発な質疑応答を行った。

2022 年 12 月には、保健福祉学部と香港理工大学看護学部との間で、学部間協定[MOU]を更新した。

4-2-2 地域連携教育

「統合実習」では、3 年次生の「看護政策・マネジメント論」の成果を発展させ、笠岡市・NPO かさおか島づくり海社と協働して、4 年次に笠岡諸島で 1 日研修を行った。事前に真鍋島の地区把握を行い、想定できる健康問題の抽出を行っていたため、真鍋島でのフィールドワークにおいて島の人々と焦点を絞った意見交換を行い、島の特徴を踏まえた地域包括ケアシステムのあり方の提案と看護職が行うマネジメントについて考えることができた。

病院・施設等から地域への切れ目のない看護を目指し、地域生活支援や地域連携の実習で地域包括ケアシステムの展開に寄与できる思考を学ぶことを目的とし、新カリキュラムとして、地域住民の日々の生活を学ぶ「地域生活支援基盤実習」を実施した。総社市内を中心に、障がい福祉サービスの事業所、住民の自主的組織であるいきいき 100 歳体操の場、子育て広場などに実習受け入れを依頼することにより、疾患や障害の有無に関わらず幼少期から高齢者までの多様なライフステージにある人々の生活の場に学生が出向き、住民と交流しながら実習することができた。

吉備の杜プロジェクトの科目である「フードビジネス学」「地域保健福祉演習」では、パパイヤとステビアに加えてハーブや花を栽培し、専門家による講義や地域の子どもとともに行う演習を通して、植育を考える機会を提供した。

教員から地域への連携教育として、看護師を対象とした ELNEC-J（エンドオブライフケアエデュケーションカリキュラム）研修、エンドオブライフケア研究会の開催、高校教諭を対象とした思春期の性に関する理解と子どもへの対応の講演、助産師・看護師・養護教諭等を対象としたコミュニティ家族ケア研究会、認定看護師を対象とした研修会を開催した。

4-2-3 アクティブラーニング

看護学科では、「ヒューマンケアリング論」「看護学概論」「看護学基礎論Ⅱ」「看護倫理学」「看護基礎論Ⅰ」「看護研究」「女性のライフサイクルと助産」「フレッシュマンセミナー」「成人看護学Ⅲ・Ⅳ」「健康教育論」「看護政策・マネジメント論」 等においてアクティブラーニングを取り入れている。

「成人看護学Ⅱ」では、ペアワークを取り入れ、手術のオリエンテーションを実施した。また、Project Based Learning を用いて演習を実施している。「看護アセスメント学」では、新型コロナウイルス感染症対策を実施した上で対面講義とし、クラスを 2 つに分けてシナリオ型シミュレーションモデルを用いて Project Based Learning およびバズセッションを行った。「がん看護学」では、ロールプレイを実施し、積極的傾聴について学んだ。「家族看護学」「助産診断・技術学Ⅱ」では、教員から詳細な事例を提示し、学生らは看護過程や助産過程を展開してプレゼンテーションによって共有し、それらの内容のディスカッションを行った。「成人看護学Ⅲ」では、事例を用いてグループで考えを出し合い、ロールプレイを行って、看護師役と患者役の気持ちを含めて理解を促した。「成人看護学Ⅳ」では、毎回前回の講義で重要な点について小テストを行い、基本的な知識の定着を促した。「看護政策・マネジメント論」では、後のフィールドワークと連動し、島しょ部の地域実態を調べ、島しょ部で必要となる地域包括ケアシステムについてグループで検討・プレゼンテーションを行い、妥当性の高いシステムについての理解を深めた。

4-2-4 国家試験対策

4 年次生の自主的な運営による看護師国家試験模擬試験を 6 回、助産師国家試験模擬試験を 2 回実施した。結果は教員間で共有し、卒業論文の作成と並行して国家試験の学習支援を行った。今年度は 2 年次生対象の「臨床病態学」のまとめの講義に 4 年次生の参加を促したところ希望者 8 名が参加し、病態について知識を確認した。さらに過去の国家試験出題を WEB 上で確認・学習できるツールを活用し、自己学習を促進する環境を整えた。

4-3 栄養学科

4-3-1 グローバル教育

例年、海外研修や海外協定校からの教員・学生の受け入れおよび講演・講義などの活動が行われるが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施されなかった。それに代わり、2022 年 10 月 6 日に、韓国又松大学校との国際学術交流会をオンラインで開催した。「日韓における高齢者の栄養の課題」をテーマに、又松大学校（外食調理栄養学部）のユン・ジュンファ教授と本学栄養学科の久保田恵教授が日韓の学生に対して講演し、質疑応答では活発な議論が行われた。本学からの参加者は、教員、大学院生、学部生合わせて約 60 名、又松大学校からの参加学生は約 75 名であった。また、3 年次生の学生 1 名がトビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムに採用され、カナダのゲルフ大学に留学した。

4-3-2 地域連携教育

総社市との地域連携事業「県大メディカルフィットネス講座」において、地域の健康課題の解決を見据えた健康測定や食事調査を実施することを通じて、行政栄養士または病院栄養士としての資質向上を目指した。

「地域保健福祉演習」では、福祉領域や行政栄養士を希望する 3 年次生と保健福祉学部の他学科の学生が協働で、植育の観点から地域住民とのワークショップや学生同士の演習を通じて、専門職として多職種連携や職域連携の視点の形成にも努めた。

また、本年度より実施した、副専攻「吉備の杜」未来型プロジェクト＜食＞では、地域の食品企業や病院、自治体と連携し、食品開発やレシピ、動画等の教育ツールの開発・提案を行い、栄養・食を通じた課題解決のための専門的視点の形成とともにマネジメント能力の育成にも努めた。

4-3-3 アクティブラーニング

栄養学科では、演習・実習科目に加えて、以下の講義科目においてもアクティブラーニングを取り入れたため、学生は主体的に学ぶことができた。

【アクティブラーニング A（グループワーク、ディスカッション等）】

社会福祉政策論、病態栄養学、臨床栄養学Ⅱ、公衆栄養学Ⅰ、公衆栄養学Ⅱ、給食経営管理論Ⅰ、教育基礎論、教師論、教育心理学、特別支援教育概論、教育課程論、特別活動および総合的な学習の時間の指導法（道徳教育を含む）、教育方法論、生徒指導論、教育相談（カウンセリング論を含む）、学校栄養教育論Ⅰ

【アクティブラーニング B（発問、ミニッツペーパー等）】

病理学、生化学、微生物学、内科学、代謝生化学、分子生物学、栄養学のための解剖生理学、食品学Ⅰ、食品学Ⅱ、食品材料学、食品衛生学、フードビジネス学、栄養学総論、栄養学各論Ⅰ、栄養学各論Ⅱ、応用栄養生理学、スポーツ栄養学、栄養教育論Ⅰ、栄養教育論Ⅱ、栄養教育プログラム論、給食経営管理論Ⅱ

4-3-4 国家試験対策

管理栄養士国家試験対策として、4 年次全員参加の校内・業者模試を 9 月から開始し、計 3 回実施した。また、所属研究室の指導教員と模試の成績情報を共有するとともに、学生に対してその都度成績の推移を示して自主学習の進捗状況を明確にすることで、学生の学習意欲を高揚させた。1 月および 2 月の模試の成績が一定基準に達しない学生については、個別指導および勉強会方式による学習支援を行った。また、国家試験の勉強により精力的に取り組んでもらうため、昨年度の 4 年次生から国試対策の体験談を伝えてもらう機会を設けた。

4-4 現代福祉学科

4-4-1 グローバル教育

2022 年 10 月 6 日に韓国又松大学校社会福祉学科とオンラインによる国際学術交流会を開催し、同学科のコ・ソンヒ教授と本学現代福祉学科の近藤理恵教授が、「日韓の子ども虐待防止

政策」というテーマで、日本と韓国における子ども虐待防止の取り組みについて、日韓の学生を対象に報告した。本学の学部生、大学院生、教員が 60 名、又松大学校の学生が約 100 名参加し、日本と韓国における児童虐待政策の最新状況と、両国の違いについて学ぶことができた。

また、2022 年 11 月 2 日にウィスコンシン大学マディソン校のアダム・カーン教授を招へいし、「創られた伝統としての俳句」というテーマで、講演会を開催した。国際福祉論の受講生を中心に 35 名の学部生と院生が参加した。これらにより、グローバルな感覚を身に付けることができた。また、保健福祉学部と韓国群山大学社会政策学部との間で、学部間協定[MOU]を更新した。

4-4-2 地域連携教育

現代福祉学科では、複数の地域連携教育を通じて、地域の課題を理解し、地域の人々と協働することの大切さについて学ぶことができた。具体的には、①貧困の状態にある中高生のための学習・体験活動プログラムを開催した。また、②「地域保健福祉演習」において、NBR（Nature Based Rehabilitation）について学び、地域の研究者から植物と地域のつながりについて講義をしていただき、地域の親子を対象としたワークショップに参加するなど、「植育」を通じた地域連携教育を推進した。また、本年度より実施した副専攻「吉備の杜」未来型プロジェクト＜食＞では、地域の NPO によるフードバンクとの協働で、関連の他団体へのアンケート調査を実施し、食に関する課題解決のための専門的な視点と同時にマネジメント能力の育成にも努めた。

4-4-3 アクティブラーニング

現代福祉学科では、演習・実習科目に加えて、以下の講義科目においてもアクティブラーニングを取り入れたため、学生は主体的に学ぶことができた。

社会学と社会システム、社会福祉の原理と政策Ⅰ、医学概論、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ、人間関係形成とコミュニケーション、社会保障Ⅰ、地域福祉と包括的支援体制Ⅰ、高齢者福祉、身体機能と障害、知的発達と障害、権利擁護を支える法制度、フードビジネス学、児童・家庭福祉Ⅰ、児童・家庭福祉Ⅱ、家族福祉論、社会保障Ⅱ、国際福祉論、国際家族政策論、地域福祉と包括的支援体制Ⅱ、社会福祉調査の基礎、スクールソーシャルワーク論、発達心理学、教育社会学、ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ、精神保健ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ、精神保健福祉制度論、生活とエルゴノミクス、臨床心理学、老年科学、認知症論、介護管理。

4-4-4 国家試験対策

社会福祉士国家試験対策として、外部業者による模擬試験を計 3 回（8 月、10 月、12 月）実施し、延べ 120 人が受験した。また、4 月に 4 年次生全員参加の社会福祉士国家試験対策オリエンテーションを開催し、効果的な取り組みや過去の合格者の学習法などを紹介し、国家試験対策講座への積極的な参加を勧奨した。7 月から 11 月に教員によるすべての試験科目についての国家試験対策講座を延べ 19 回開講した。3 年次生に対しても、1 月に国家試験対策に関するオリエンテーションを実施し、例年よりも前倒しして 2 月から 3 月にかけての休業期間中から対策講座を始めた。

介護福祉士国家試験対策としては、教員による模擬試験を計 3 回、業者による模擬試験を計

1 回(11 月)実施し、延べ 17 人が受験した。また、教員がグループ学習を支援するとともに、自己学習のための「介護福祉士国家試験対策 e-learning」の機会を提供した。

演習室等を空き時間に学生が利用できるようにしたり、参考書も複数用意したりするなど環境を整備し、低学年から学習する雰囲気を醸成することに努めた。さらに、教員が学生主導の国家試験学習チームを支援した。以上より、両国家試験に対する勉学意欲が高まった。

4-5 子ども学科

4-5-1 グローバル教育

2022 年 10 月 7 日に韓国又松大学校との間で開催した「日韓の就学前教育と小学校の連携」をテーマとした日韓学術交流会では、又松大学校グローバル教育学科ジョン・ヘリン教授と本学子ども学科山本孝司教授が日韓の学生に向けて講義を行い、質疑応答の時間を設けた。本学からは学部生、大学院生、教員が 35 名参加し、又松大学校からは約 80 名の学生が参加した。日韓における幼小連携・接続の異同や、幼児教育のアプローチ・カリキュラムと小学校教育のスタート・カリキュラムの工夫が紹介された。質疑応答の時間には、日韓双方の学生から積極的に質問が寄せられ、活発な議論が展開された。

さらに、2022 年 11 月 18 日に、本学客員教授の大藤剛宏先生(肺移植外科医)による特別講演会「Only One を目指せ！」をカタールからのオンライン形式で開催し、子ども学科の学生が 28 名参加した。異なる分野で活躍する一線の専門家による経験に基づいた講義に触れることができ、保育者として専門性を身に付けることへの意欲につながる貴重な機会となった。

4-5-2 地域連携教育

子ども学科では、「県大そうじゃ子育てカレッジ」事業の一環として、学内併設子育て支援拠点「チュッピーひろば」との協同授業を行うことで、総社市を中心とした子どもと子育ての実情を知るとともに、子ども子育て支援の実践的スキルについて学んだ。具体的には、①「おはなしの会」(「保育内容Ⅰ(言葉)」)②「チュッピー夏まつり」(「子育て支援プロジェクト A」)、③「第 13 回親子で楽しむ音楽会」(「保育・教職実践演習」ほか)、④「ミニミニクリスマス会」(「保育内容Ⅰ(人間関係)」)で「チュッピーひろば」との連携で授業を実施した。また、「子ども臨床基礎演習」を中心として、エディブル教育の一環として学生たちによる自然環境調査が行われ、ガーデンをコアとする食と植物とを関連させた学びが展開された。

4-5-3 アクティブラーニング

子ども学科では、演習・実習科目に加えて、以下の講義科目においてもアクティブラーニングを取り入れたため、学生は主体的に学ぶことができた。

【子ども学科科目】保健福祉学、教育基礎論、保育原理、子ども臨床基礎演習Ⅰ、Ⅱ

【子ども学専攻科目】保育教育相談、社会的養護Ⅰ、Ⅱ、子ども家庭支援論、保育原理Ⅰ、Ⅱ、教育と社会、保育内容Ⅱ(総合表現)、体育Ⅰ(表現運動)、体育Ⅱ(運動遊び)、子どもの発達と表現、教師論、カリキュラム論、教育心理学、幼児理解の理論と方法、幼児教育方法論、乳幼児保育Ⅰ。

4-5-4 公立保育職採用試験対策

公立保育職採用試験対策としては、業者による模擬試験を計 3 回(4 月、5 月、7 月)実施し、延べ 58 人が受験した。また、前年度採用試験受験者による「採用試験報告書」の作成・公表を行うことによって、実技試験を中心とする二次試験対策を行った。以上より、公立保育職採用試験に対する勉学意欲が高まった。

4-6 まとめと課題

コロナ禍の影響で海外との直接交流が難しいため、オンラインでのグローバル専門教育を積極的に行った。学生は、看護学、栄養学、社会福祉学、幼児教育学の 4 分野について、日韓の状況報告を聞き、活発に質疑応答をすることを通じて、我が国の状況を相対化する力を培うことができた。また、各学科で、地域連携教育を推進することにより、学生たちは地域での学びを深めることができた。さらに、各学科において、特に演習・実習科目でアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学生の主体的な学びを引き出す工夫を行った。国家試験等への対策に関しては、例年どおり、教員による個別指導や対策講義、さらに業者による模擬試験を実施することにより、学習支援に努めた。

5 情報工学部

5-1 概要

情報工学部においては、情報技術を活用して、人間を中心に据えた社会の形成に貢献できる技術者の育成を目指した教育を展開している。以下、情報工学部の 3 学科が今年度取り組んだ専門教育における学生の学習支援の具体的な取り組みについて、導入教育、カリキュラムおよび授業方法の改善、学生支援の 3 つの観点から報告する。

5-2 情報通信工学科

5-2-1 導入教育

情報通信工学科新入生向けの導入教育については、4 月中旬に開催する学外オリエンテーションおよび前期必修科目の「フレッシュマンセミナー」の中で実施している。学校推薦型選抜合格者については、情報システム工学科および人間情報工学科と合同で開催する入学前の懇談会（第 1 部第 1 章第 2-3-2 節「情報工学部」参照）がさらに加わる。

学外オリエンテーションは、グループディスカッションを行ったり、大学生としてのノートの取り方の講習を受けたりしながら、同期生や教員との親睦を深めることを目的として、例年 4 月中旬に一泊二日の日程で開催している。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため宿泊を取り止め、学内の教室でグループワークを行った。数時間という短い時間ではあったが、親睦を深めることについては成果があったと思われる。

「フレッシュマンセミナー」では、7 名程度のグループに分かれ、グループ間でディベートを行って、ディスカッション能力やプレゼンテーション能力を含むコミュニケーション能力の向上を図ると共に、数学（微積分と行列）と物理（電気回路と波動）のリメディアル教育によって今後の専門科目を修得するための基礎学力の強化を図っている。例年どおり、グループワークにより親睦を深める効果もあるディベートを前半、座学が中心となるリメディアル教育を後半に配置した。ディベートについては、途中に入構禁止期間が入ったため実施期間が分断された昨年度に比べると、今年度は分断もなく予定どおりの日程で実施することができたため、一定の成果が得られたように思われる。全学で実施している授業改善アンケートとは別に学科で独自に実施したアンケート結果では、グループワークに積極的に取り組んだ、同級生との親睦に役立ったとの回答がいずれも 87.5%であった。来年度以降も継続して実施する予定である。

5-2-2 カリキュラムおよび授業方法の改善

学科内に教務委員会を組織し、学科のカリキュラムおよび学科全教員が担当する科目の実施・評価方法などについて定期的に検討している。特に、全学年にわたってプログラミングや専門科目に関連する実験演習科目を必修として配置している。そこで、これらを専門に扱うための実験演習検討委員会を別に組織し、実験演習に関する問題点、反省点、主な改善点とその効果を実担当者で半期ごとに科目横断的に議論している。また、実験演習検討委員会専用のメーリングリストを開設して、教員間で履修学生の状況などの情報を共有している。

理工系の学科にとって実験演習は極めて重要な科目であるが、例年、実験演習の取り組み方に戸惑う学生が散見されるため、実験演習科目に対する学生のモチベーション向上を目的として、1 年次の最初の演習授業において実験演習科目の目的、概要、履修上の注意を伝える説明会を実施している。そして、将来的に論文につながるような科学的報告文章を書く能力を身につけることを念頭に置いて、1 年次から、レポート作成、ノートの取り方を指導している。また、学生が実験演習科目に対する意見・要望を述べる事ができる相談窓口も継続的に運用している。今年度は、クォーター制導入時に廃止した 3 年次生 4Q の実験科目を再開することを決定し、2023 年度入学生用のカリキュラムに組み込んだ。

5-2-3 学生支援

学生が何でも相談することができるアドバイザー教員については、これまで入学時から 3 年次終了まで同じ教員が務め、4 年次からは「卒業研究」の配属先研究室の教員に引き継いでいた。しかし、指導の一貫性と客観性を担保するため、今年度から、入学時から卒業まで同じ教員が務める形式に変更した。また、各授業に関する質問などに対応するため、週に一回、定例のオフィスアワーを設けているが、これに限らず空き時間には学生からの質問や相談を受け付けるようにしている。

各学生の成績を学科教務専門委員が把握し、必要に応じて学科教員間で情報共有している。成績不振者に対しては、当該授業担当教員、教務専門委員、アドバイザー教員が適宜指導している。しかし、毎年のように何名かの成績不振者が出るのが実情で、今後の課題となっている。ちなみに、「卒業研究」を履修するための要件（3 年次終了時の修得単位数 106 以上）を充足している学生の割合、すなわち、4 年で卒業する見込みの学生の割合は、2020 年度入学生については 66.7%であった。コロナ禍の影響と考えられるが、成績不振者への対応を検討する必要がある。

入学年度	2016	2017	2018	2019	2020
4 年目に卒業研究に着手した学生の割合（%）	83.9	92.2	83.8	91.7	66.7

就職・進学支援については、全学年を通して希望者にはマイナビ社の適性診断 MATCH plus を受検して自身の社会人力を継続的に確認できる仕組みを整えた。進路選択を間近に控えた 3 年次生に対して、2 月に進路説明会を開催し、就職活動の注意点に加えて、技術系における大学院進学の意義を説明した。また、12 月にオンライン、2 月に対面で開催された岡山県立大学協力会による業種説明会、3 月に対面で開催された情報工学部の合同企業説明会への積極的な参加を促した。

5-3 情報システム工学科

5-3-1 導入教育

情報システム工学科の導入教育は、例年、推薦入試合格者に対して情報工学部合同で実施する入学前教育、および、全新入生に対して実施する学外オリエンテーションと前期必修科目のフレ

ッシュマンセミナーから構成されている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度の学外オリエンテーションは中止したが、学内の教室・実験室を使って、工夫したグループワークを行い、そのグループワークを通して、学生同士の会話を促すとともに、学生同士の親睦を深めた。

「フレッシュマンセミナー」について、第 1 回授業では、学科の教育目的・目標等の説明を行った後、オンライン授業への準備として、メールの送信方法（メールの書き方、ファイル添付、アドバイザー教員への送信練習）、Microsoft Teams の使用法について実習した。第 2 回授業では、4 つのアドバイザーグループに分かれて班別ミーティングを実施した。班別ミーティングではアドバイザー教員との顔合わせを通じて相談しやすい環境を整え、グループによるペーパータワーの構築を行った。第 3 回授業では、情報倫理やノートの取り方など学習への取り組みの講義を行った。第 4 回授業では、Word および Excel の使用法など計算機リテラシーの演習、第 5 回授業では、外部講師を招き、キャリアガイダンスの講義を行った。その後、大学教育への導入として数学の基礎を固める課題演習を実施した。課題演習では、学科全教員が参加し、1 名の教員が 2～4 名の学生の課題演習の採点と個別指導にあたった。なお、授業形態は対面、オンライン、ハイブリッド式で行った。これらの導入教育については次年度も具体的な方法や内容は見直しつつ継続する予定である。

5-3-2 カリキュラムおよび授業方法の改善

学科のカリキュラムは教育プログラム検討委員会を組織し、実験・演習科目は実験・演習検討委員会を組織し、点検と改善を行っている。

実験科目については令和 3 年度から大きな変更はなく、引き続きオンラインを併用するなどして感染対策に努めた。また、従来どおり、大部分の実験演習科目において、授業の円滑な実施と学生の理解向上のため大学院生を TA として雇用した。TA を雇用した授業科目は、フレッシュマンセミナー、機械物理学実験 A・B、ソフトウェア演習Ⅰ・Ⅱ、機械デザイン演習、回路デザイン演習、システム創造プロジェクト、技術英語演習の合計 9 科目である。TA の人選に際しては、授業内容に関連のある分野の研究に携わっていることを重視した。

5-3-3 学生支援

入学時のアドバイザーグループは卒業まで継続され、学生は担当のアドバイザー教員と年 2 回面談を行うほか、履修や学生生活上の相談を随時受けることができる。また、オフィスアワーや空き時間を利用して、全ての学科教員に自由に相談できるようにしている。

各学生の成績は、学科教務専門委員が管理しておりアドバイザー教員と必要な情報の共有を図っている。成績不振者に対しては、アドバイザー教員が年 2 回の面談時に成績不振の理由を聞き取ると共に履修指導を行うほか、適宜、学科教務専門委員がサポートを行っている。面談時にメンタルな問題が懸念された学生には、学生相談室への相談を勧めている。また、合理的配慮を希望する学生に対する支援体制も構築している。なお、2020 年度入学生については、在籍者に対する卒業研究有資格者の割合は 89.8%であった。毎年、一定数の留年者がおり、成績不振者への効果的な対応法についてさらなる検討が必要である。

就職・進学支援については、例年どおり、2 月に進学・就職ガイダンスを行った。また、全学年に対して、MATCH plus の導入による学生のキャリアデザイン支援を行った。さらに、学内で開催された協力会の業種説明会や学部の合同企業説明会に積極的に参加するように指導した。

入学年度	2016	2017	2018	2019	2020
4 年目に卒業研究に着手した学生の割合(%)	86.4	90.2	87.8	85.4	89.8

5-4 人間情報工学科

5-4-1 導入教育

人間情報工学科では、例年、学校推薦型選抜の入試合格者を対象とした「入学前懇談会(12 月と 2 月に開催)」、全新入生を対象とした「学外オリエンテーション(例年 4 月に 1 泊 2 日で実施)」、および 1 年次前期に開講する「フレッシュマンセミナー」を導入教育として位置付けている。しかし、新型コロナウイルス感染予防対策の継続のため、2022 年度も例年どおり実施することはできず、内容の変更や中止を余儀なくされた。

「入学前懇談会」は、12 月開催の第 1 回と 2 月の第 2 回については、ほぼ合格者全員が出席して実施された。第 1 回の懇談会では、数学の小テスト実施後、直ちに学科教員が採点を行い、個別に小テストの結果開示と指導を行うと共に、英語、数学と物理についての課題が配布された。2 月の第 2 回の懇談会においては、再度、数学の小テストを実施し、その後の学科教員の採点と個別指導を行った。また、情報通信工学科および情報システム工学科と合同で、英語の小テスト実施とその解説も実施した。さらに、第 1 回時配布の数学、物理、英語の課題の回収と、数学については再度の課題を配布した。これにより、入学までの学力維持、大学教育へ向けた学びを継続することの重要性を伝えることができたと思われる。

「学外オリエンテーション」は、例年の 1 泊 2 日の実施方法では、密集、密接、密閉の 3 密回避の対策を講ずることができなかったため、2022 年では宿泊無しの 1 日のみで実施した。具体的には、密集、密接、密閉の 3 密回避を行いながら、大学から鬼ノ城へのウォーキングを行うと共に、アドバイザーグループごとに鬼ノ城へのウォーキングに合わせたグループワークを課し、ウォーキング終了後にグループごとに発表を行うことで、学生間の交流の機会とした。

「フレッシュマンセミナー」は、学生間の交流の機会ともするため、基本的に対面での実施とした。前半では、力学に関する導入教育を実施し、後半では、人間情報工学に関する課題を課した。力学に関する導入教育では、講義の後に 60%を合格とした達成度評価を実施し、60%に達しなかった学生については、時間外学習としてレポートを課したが、数名が合格のレベルに到達することができなかった。人間情報工学に関する課題については、学科教員から課題の例を挙げてもらい、工学的な課題とはどのようなものかを学ぶところから始め、WEB を利用した情報収集の仕方を学んだ。そして、学生ごとに独自の課題を設定し、その解決策を考え、最終的にレポートとして提出させるとともに、2022 年度は新たにグループ毎でのプレゼンテーションも実施した。レポートの評価については、複数の教員でチェックを実施し、評価できる点、改善を要する点を指摘すること

で、各学生個々のレベルに合わせた指導を対面での個別指導で行った。また、工学倫理に加え、専門分野や立場の違う人を含む他者と協働することの必要性に観点を絞った学際協調に関する指導も取り入れている。

5-4-2 カリキュラムおよび授業方法の改善

学科のカリキュラムを検討するために教育プログラム検討委員会を設けるとともに、実験・演習科目に特化した検討を行う実験・演習検討 WG を設けている。

教育プログラム検討委員会では、重点科目の設定、補助教員の配置等の効果を評価し、その有効性を確認し、継続している。実験・演習検討 WG では、前期および後期の終了後、実験・演習科目に関する問題点を洗い出し、改善策を検討した。特に、感染対策方法の変更に合わせて実験・実習の実施方法を見直しており、2022 年度後期では、2 部屋に分けていたコンピュータ演習室を再び 1 部屋にて実施とすることで、教員の指示や確認、学生からの質問が行いやすい体制とした。 また、従来どおり、大部分の実験演習科目において、授業の円滑な実施と学生の理解向上のため大学院生を TA として雇用した。TA を雇用した授業科目は、モデリングとシミュレーション、人間情報工学実験Ⅰ・Ⅱ、設計製図演習Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア演習Ⅰ・Ⅱ、創造設計実験Ⅰ・Ⅱの合計 9 科目である。

工学系学科の集大成の授業科目として位置付けられる卒業研究については、全体としての入構禁止措置等が取られる期間はほぼなかったが、教員や受講生に対しての自宅待機等の措置が課された場合にも、これまでに確立された Zoom や Teams といったコミュニケーションツールや電子メール等の活用が引き続きできたことにより、進捗に大きな遅れはなかった。さらに卒業研究の計画的な遂行を促進するために、例年どおり、9 月に中間報告会を対面によるプレゼンテーションとして実施するとともに、2 月の卒業論文の提出や卒業研究発表会も対面で実施した。

5-4-3 学生支援

本学科には、学生相談の担当教員が在籍しており、大学生活や私生活での相談について、積極的に利用することを勧めているとともに、該当教員以外の教員にも気軽に相談できる体制をとるように教員にも周知している。例年どおり、新年度の 4 月と 9 月下旬の 2 回、全学年を対象とした複数教員によるアドバイザー面談を実施した。面談の内容は、主にコロナ禍での単位修得状況の確認と私生活面での問題の有無に関するものであった。これにより、修学状況が不調な学生や進学、就職等で悩みを抱えている学生の早期発見に繋がった。

重点科目については、本年度も継続して、毎月の定例学科会議で出席状況を報告することとしており、出席状況が不良の学生の情報を共有し、重点科目で見守る体制を整えている。また、今年度も重点科目以外の科目からも出席状況や注意が必要な学生が把握できるように、学科会議での個別の報告を促した。また、欠席が目立つ学生については、教務専門委員が電子メールも含めた面談を実施し、注意・指導を行っている。学生の成績は、学科長と教務専門委員が連携して管理を行っており、成績不振者に対しては、指導を行っている。また、所属教員の担当科目の学修状況についても、組織的に管理・支援を行っている。

卒業研究における研究室配属について、2022 年度は、卒業研究有資格者を対象とした研究室紹介や研究室訪問の機会として、11 月の県大祭での研究室公開を活用するように 3 年次生に指導した。さらに、2 月の研究室配属説明会において、研究室の紹介を行うと共に、2 月から 3 月にかけて、各研究室で学生の訪問を認めることとした。これにより例年どおり、本人の適性や興味・関心などを勘案した配属ができることを期待する。

就職支援について、例年どおり、2 月に対面で開催する進学・就職ガイダンスにおいて、本学科 OB との大学院生各 1 名、株式会社マイナビから講師として招聘し、進学の意義や就職活動における留意点等に関する講演を実施した。さらに、4 月に、同社からの講師による大学院進学に重きを置いたキャリアガイダンス、新たに同社の適性診断 MATCH plus の導入による学生のキャリアデザイン支援、本学科の就職担当教員による全 4 年次生の面談を実施することとし、支援の充実を図ることとした。さらに、学内で開催された協力会の業種説明会（12 月オンライン、2 月対面）や学部の合同企業説明会（3 月対面）に積極的に参加するように指導した。

入学年度	2016	2017	2018	2019	2020
4 年目に卒業研究に着手した学生の割合（%）	82.8	80.5	100	97.6	91.9

5-5 学外活動

令和 4 年度は、令和 3 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、十分な学外活動を実施することができなかった。しかし、このような状況の中、令和 2 年度末に事業期間が終了した文部科学省補助事業「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成事業（enPiT2）」の後継事業および総務省が開催する「Web × IoT メイカーズチャレンジ PLUS」に情報工学部学生が参加した。また、平成 30 年度に発足した主に県内民間企業を会員とする「岡山県立大学協力会」からの寄附講座を実施した。

情報工学部は、文部科学省「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業」に大阪大学を中心として選定された「分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク（enPiT）」に引き続き、平成 28 年度からスタートした「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成事業（enPiT2）」の 4 分野（ビッグデータ・AI 分野、セキュリティ分野、組込みシステム分野、ビジネスシステムデザイン分野）に対し、連携校（組込みシステム分野）あるいは参加校（セキュリティ分野、ビジネスシステムデザイン分野）として参加してきた。enPiT2 の事業は令和 2 年度で終了したが、セキュリティ分野の教育プログラムは「Basic SecCap コース」として継続している。本年度は、岡山大学において後期に開催された enPiT-Security の実践的人材育成コース「Basic SecCap」に、3 年次生および 4 年次生計 30 名が延 64 科目を履修し、幅広いセキュリティ分野の最新技術や知識を、体験を通して習得した。

enPiT-Security の実践的人材育成コース「Basic SecCap」の履修状況

年度	2018	2019	2020	2021	2022
学生数	1	5	8	31	30

履修科目数		9	23	51	64

また、ビジネスシステムデザイン分野では、愛媛大学で 2022 年度後期に開講された「PBL@Ehime」に 10 名の 3 年次生がオンラインで参加した。愛媛大学工学部電気・情報分野の学生と 4、5 名の計 5 グループで、アプリケーションソフトウェアの開発に取り組んだ。学部内の授業では体験できない、オンラインかつ他大学の学生とのソフトウェア開発を経験することができた。また、優秀であった 1 グループ（情報工学部学生 2 名を含む）は、2023 年 2 月 21 日に岩手県立大学で開催された「enPiT BizSysD ワークショップ」における成果発表に現地参加し、ビジネスシステムデザイン分野に連携・参加している他大学の学生と意見交換、親交を深めることができた。

enPiT BizSysD「PBL@EHIME」参加学生数

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
学生数	3	9	8	14	9	中止	10

「Web × IoT メイカーズチャレンジ PLUS」は、主に初学者を対象としたハンズオン形式の講習会とハッカソン開発を合わせたイベントで、Raspberry Pi4 と CHIRIMEN（Raspberry Pi のブラウザ上に Web GPIO API と Web I2C API を実装した IoT プログラミング学習・実験環境）を使った実践的なスキルアップの機会を提供している。総務省「Beyond 5G 新経営戦略センター」における取り組みの一環として提供される共通的・基盤的支援を活用しつつ、各地で開催される個々のイベントは、地域の教育機関や自治体、企業やエンジニアコミュニティ等の有志メンバーが参画する地域の運営委員会により主催される。今年度は東京、信州、鳥取、岡山、徳島、香川、愛媛、沖縄の 8 ヶ所で開催された。岡山開催においては「農業 DX」をテーマとして、ハンズオン講習会は 2022 年 10 月 8、9 日（土、日）、ハッカソンは 2022 年 11 月 19、 20 日（土、日）に岡山大学 津島キャンパスで開催された。本学情報工学部 人間情報工学科 1 年次生 4 名、大学院生 1 名を含む合計 36 名が参加し、ハッカソンでは 5～6 名で構成される 8 つのチームに分かれて IoT デバイスを開発・発表した。本学の学生を含む 3 グループは「田んぼの未来を見守りくん」「Pourla region（ポーラレジオン）」「みんなを笑顔にする無人販売所」を開発し、それぞれ特別賞（トスコ賞）、特別賞（英田賞）、特別賞（コニカミノルタ賞）を受賞した。

5-6 地域産業界との大社連携

平成 27 年度に採択された文部科学省補助事業「地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+事業）」をきっかけに、社会人基礎力の養成と地元定着率の向上を目指した取組を行っている。平成 30 年 3 月に地元企業を中心とする岡山県立大学協力会を設立した。設立当初は正会員 34 社、賛助会員 7 団体であったが、現在は正会員 59 社、賛助会員 7 団体にまで拡大・成長している。同会からは、平成 30 年度から開講している長期インターンシップ授業科目「エンジニアリング演習」（3 年次生対象）にテーマを提供いただく他、令和 2 年度から寄附講座として「技術者と社会」（3 年次生対象）に講師を派遣いただいている。

「エンジニアリング演習」は、開講初年度である平成 30 年度には履修者が 34 名と多かったが、翌令和元年度には 16 名に減少した。学生の意見を聴取した結果、情報系を希望する学生向きのテーマが少なかったことや、学生へのテーマ提示時期が遅く履修登録までに時間的余裕がないことが分かった。この結果を受け、学生へのテーマの提示時期を早めると共に、製造業の企業からも情報技術に関連したテーマを提案いただくなどしたところ、令和 3 年度から履修者数が増加し、令和 4 年度は 23 名が履修した。

「技術者と社会」は、令和 2 年度までは情報システム工学科単独の選択授業科目であったが、授業独自のアンケート結果が好評なことを受け、令和 3 年度から情報通信工学科および人間情報工学科でも開講することとした。授業独自のアンケート結果は好評であり、令和 5 年度は 65 名が履修した。

以上の教育に関する取り組みに加え、岡山県立大学協力会会員企業による業種説明会を平成 30 年度から、12 月に 1 回、2 月または 3 月に 1 回の年 2 回開催している（令和 2 年度と令和 3 年度の 12 月はコロナ禍により不開催）。本年度は、12 月 22～23 日に Zoom によりオンラインで開催し、参加企業数は 47 社、参加学生数は延べ 191 名であった。2 月 14 日には対面で開催し、参加企業数は 48 社、参加学生数は延べ 198 名であった。

COC+事業の完成年度である令和元年度以降における県内就職率および上記の各種取り組み状況を下表にまとめる。授業や業種説明会は、主に 3 年次生対象であり、県内就職率と対比するために 1 年ずらして記載している。県内就職率は増加傾向にあり、令和元年度と令和 4 年度では 10.9 ポイント増加している。なお、県内就職率に与える各種取り組みの影響を定量的に評価するにはもう少し期間が必要と考えている。

岡山県立大学協力会との連携

卒業年度		2019	2020	2021	2022	2023
県内就職率（%）		35.5	43.2	46.2	46.4	－
開講・開催年度		2018	2019	2020	2021	2022
「エンジニアリング演習」履修者数		34	16	19	26	23
「技術者と社会」履修者数		－	－	17	24	65
岡山県立大学協力会業種説明会（12 月）	参加企業数	6	39	－	－	47
	参加者数	40	94	－	－	191
岡山県立大学協力会業種説明会（2 月または 3 月）	参加企業数	36	26	－	47	48
	参加者数	56	82	－	176	198

5-7 まとめと課題

情報工学部の 3 学科は共に、基礎学力の補強を軸に学生支援をきめ細かく実施している。教育方法については、学部として岡山県工学教育協議会主催の「岡山県工学教育協議会シンポジウム」に教員を派遣し、近隣大学・高専等の最新の教育方法に関する情報を収集すると共に、本学部の教育の実情に関する発表を行い、他大学教員からの意見を聴取している。本年度は、「異

分野協働を意識した工学教育」をテーマに、津山工業高等専門学校で開催された。COC+事業に継続する形で令和 2 年度に採択されたに文部科学省補助事業「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業（COC+R 事業）」に関連して、今後も地域や地域企業、他大学との協働による授業科目の増設を進めている（詳細は、第 1 部第 3 章「副専攻（吉備の杜）における教育活動と成果」を参照）。これらの授業科目と学内で実施する授業科目とを上手く連携し、より高く教育効果を上げることを目指している。

また、前述したように令和 5 年 2 月には「岡山県立大学協力会」を対象とした業界説明会の開催に加えて、令和 5 年 3 月には情報工学部主催による合同企業説明会（県内外より 92 社参加、参加学生数は延べ 198 名）、および「システムエンジニアリング岡山」主催による企業説明会（17 社参加）を 3 年ぶりに対面で同時開催した。

6 デザイン学部

6-1 概要

デザイン学部学士課程での教育は、変化する社会のなかで、豊かな生活と新たな文化の形成に必要なデザイン力とマネジメント能力を備え、地域と世界に貢献できる人材の育成を目指している。

今年度は、3 年次以上はデザイン工学科、造形デザイン学科の 2 学科体制、1･2 年次生は、ビジュアルデザイン学科、工芸工業デザイン学科、建築学科の構成となる。

デザイン学部での授業は、対面授業により原則実施している。主な継続的な取組は、1)導入教育(フレシュマンセミナー)、2) カリキュラムおよび授業方法の改善、3)学生支援(インターンシップ)である。フレッシュマンセミナーは、平成 29 年度より学科毎で実施している。

6-2 ビジュアルデザイン学科

6-2-1 導入教育(フレッシュマンセミナー)

ビジュアルデザインの専門性と目的を理解し、本学科で学ぶ上で必要となる意欲と学習姿勢を身に付けさせることを目的に、デザイナーに求められている要素、学ぶということ、計画的に行う方法について講義した上で、8 回実施の内、外部講師による特別講義を 2 回、対面式とオンライン形式で実施している。シラバスで示した授業科目の到達目標に対しては、教務システム「はっとりん」を通じて提出される、各回授業に対するレポート、および授業全体のまとめレポートにより、担当教員が成果を確認している。また、アドバイザー教員との交流や仲間づくりの機会を確保した。

6-2-2 カリキュラムおよび授業方法の改善

1) 新型コロナウイルス感染症まん延への対応:ビジュアルデザイン学科(造形デザイン学科ビジュアルデザイン領域)では、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、可能な限り対面授業を実施すると共に、デザイン活動に必要な制作環境の提供を行った。また、「新型コロナウイルス感染症による出席停止措置」となった学生に対しては、補講や資料配布、代替課題などの対応を行った。

2) ルーブリック評価の推進:ビジュアルデザイン学科(造形デザイン学科ビジュアルデザイン領域)では、卒業研究において指導教員が評価ルーブリックを基に成績評点とすることとしているが、評価対象や評価方法等を一部修正し、評価の公平性を向上させた。 また、前年度、卒業研究以外の一部授業において、成績評価分布に偏り(高評価が多い)が認められたため、その原因を探り、評価方法とルーブリック評価の更なる推進に努めた。

3)地域連携課題の推進:「卒業研究」を中心として、地域と連携した課題や研究テーマに取り組んだ事例が多くあった。以下が岡山県内問題を課題として取り上げた研究の一例である。

- 井原鉄道の 3 つの鉄道の擬人化(総社市)
- お菓子のパッケージデザインによる岡山県の魅力発信(岡山県)

・「おまけシール」を用いた大学 PR の研究（総社市）
・ パンと総社をより好きになれる 「パンわーるど総社」のグッズ開発についての研究（総社市）

6-2-3 学生支援

1） ポートフォリオセミナー（造形デザイン学科）

主に 3 年次生の授業課題に対する意欲、さらに就職・進学へのモチベーションを高めることを目的したポートフォリオセミナーを 1 回実施した。デザイン職従事者（デザイン学研究科修了生）を特別講師に招き、リアルタイム型オンライン形式により学生制作のポートフォリオの講評、指導を実施した。参加人数も昨年 7 名から 21 名に増えた。

・ 講師：凸版印刷株式会社 宮田森平氏（環境デザイン事業部 クリエイティブ本部 国内デザイン部／デザイナー） 日時：2023 年 2 月 15 日（水）15:00～16:30 場所：3414 教室（東京の凸版印刷と 3414 を Zoom で繋ぎ、セミナーを実施）、 参加者：造形デザイン学科 3 年生 21 名

2） インターンシップ（造形デザイン学科）

本年度についても新型コロナウイルスの影響が継続したことから、県内における研修先（例年 12 社前後）の確保が困難であると判断し、オンラインでの研修が想定される「自由応募による企業インターンシップ」を主としたプログラムを前年度に引き続き実施した。活動対象は、現 3 年生向け企業インターンシップ、就職活動に類する行事（説明会含む、学科ポートフォリオセミナー、県大吉備塾）とし、必須要件を参加日数 3 日（または 3 件）以上に設定した。また、指定様式による参加企業の概要および活動記録としての日報と、活動終了後の最終報告を提出物として課した。本年度は造形デザイン学科 3 年生 40 名の履修であったが、学科教員 13 名が最大 4 名の学生の指導を分担し随時の支援を行った。

3） 県大吉備塾の開催（造形デザイン学科）

公開期間を 11 月 1 日～11 月 10 日として、本学 OB を講師とした在学生向けキャリア教育セミナー（第 50 回県大吉備塾）をオンラインで開催した。内容は、映像系卒業生、グラフィック系卒業生、セラミック系卒業生、テキスタイル系卒業生が、現在の仕事の具体的内容、仕事の魅力、大学時代の経験が今に繋がっていると思えること、新型コロナウイルス感染の仕事への影響、在学生へのメッセージについてとした。

6-3 工芸工業デザイン学科

6-3-1 導入教育（フレッシュマンセミナー）

工芸工業デザイン学科（デザイン工学科 製品・情報デザイン領域、および造形デザイン学科造形デザイン領域）では、デザインの専門家となるべく、デザインの基本姿勢となる「社会に課題を発見し解決に導くプロセス」の大切さや「デザインを通した協働と創造の意義」を認識し、学生が自身の資質や適性について考え、モチベーションを培う必要がある。この授業では「大学生活のなかでどうキャリアを意識し自律的に学び、倫理観を持ったデザインの専門家となるべく自己を育

成させていくか」について考え理解を深めることを目的として実施した。実施体制としては、新型コロナウイルス感染防止に十分に配慮したうえで、全 8 回を対面で実施した。アカデミックスキルとして、「学生生活における時間管理や学習習慣を身に付けるためのプログラム」「レポート・論文の書き方 などの文章作法を身に付けるためのプログラム」「ノートの取り方に関するプログラム」「プレゼンテーションやディスカッション等の口頭発表の技法を身に付けるためのプログラム」など、学生にとって基本となる内容を網羅したうえで、プロダクトデザイン、テキスタイルデザイン、セラミックデザイン各専門分野の導入としての授業を実施した。

6-3-2 カリキュラムおよび授業方法の改善

1) 新型コロナウイルス感染症まん延への対応：工芸工業デザイン学科（デザイン工学科製品・情報デザイン領域、および造形デザイン学科造形デザイン領域）では、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、専門科目はすべて対面授業を実施した。ただし、一部の講義科目においては教育効果がある場合のみリアルタイムオンライン形式を併用した。また、「新型コロナウイルス感染症による出席停止措置」となった学生に対しては、補講や資料配布などの対応を行った。

2) ルーブリック評価の推進：工芸工業デザイン学科（デザイン工学科製品・情報デザイン領域、および造形デザイン学科造形デザイン領域）では、卒業研究において指導教員がルーブリック評価により、年間を通じた学習態度も含めて採点を行った。ただし最終成績は指導教員の採点だけでなく、指導教員以外による採点と按分することにより、学生全体の採点公平性を確保した。また、デザイン工学科製品・情報デザイン領域では、中間発表会・最終発表会・最終審査会を、造形デザイン学科造形デザイン領域では、中間発表会・領域発表会・最終発表会を実施し、年 3 回の発表・討論の機会を設けた。

3) 地域連携課題の推進：「卒業研究」を中心として、地域と連携した課題や研究テーマに取り組んだ事例が多くあった。以下が岡山県内問題を課題として取り上げた研究の一例である。

- 宙ツーリズムの振興を目的としたアプリケーションの研究（井原市）
- アクリル版アップサイクル製品の研究（玉野市）
- 大型災害時の赤バイの運用方法に関する研究（総社市）

6-3-3 学生支援

1) インターンシップ

- 製品・情報デザイン領域では、21 名の学生が計 63 社のインターンシップに参加した。企業の所在地の内訳は県内 12 社、その他はすべて県外企業であった。また 13 社の学内インターンシップ説明会が開催され、インターンシップ情報を随時確認できる学科内連絡網（Teams）を通じ告知が行われた。活動終了後は、指定様式による参加リストと報告書を課し、下級生に向けた報告会を開催した。
- 造形デザイン領域では、オンラインでの研修が想定される「自由応募による企業インターンシップ」を主としたプログラムを前年度に引き続き実施した。活動対象は、現 3 年生向け企業インターンシップ、就職活動に類する行事（説明会含む、学科ポートフォリオセミナー 、県大吉備

塾)とし、必須要件を参加日数 3 日(または 3 件)以上に設定した。また、指定様式による参加企業の概要および活動記録としての日報と、活動終了後の最終報告を提出物として課した。本年度は造形デザイン学科 3 年生 40 名の履修であったが、学科教員 13 名が最大 4 名の学生の指導を分担し随時の支援を行った。

2) ポートフォリオセミナー

主に 3 年次生の授業課題に対する意欲、さらに就職・進学へのモチベーションを高めることを目的したポートフォリオセミナーを 1 回実施した。デザイン職従事者(デザイン学研究科修了生)を特別講師に招き、リアルタイム型オンライン形式により学生制作のポートフォリオの講評、指導を実施した。参加人数も昨年 7 名から 21 名に増えた。

3) 企業と連携した専門職育成プログラム

西日本に根ざしたカーデザイナー育成を目的に、マツダ株式会社と連携した専門職育成プログラム「マツダデザインゼミ」の計画を行った。1 月 25 日には 1～2 年生対象に説明会を開催し、5 名の応募者があった。3 月に第 1 期マツダデザインゼミを開催予定である。

4) 県大吉備塾の開催

公開期間を 11 月 1 日～11 月 10 日として、本学 OB を講師とした在学生向けキャリア教育セミナー(第 50 回県大吉備塾)をオンラインで開催した。内容は、映像系卒業生、グラフィック系卒業生、セラミック系卒業生、テキスタイル系卒業生が、現在の仕事の具体的内容、仕事の魅力、大学時代の経験が今に繋がっていると思えること、新型コロナウイルス感染の仕事への影響、在学生へのメッセージについてとした。また 1 月 19 日に、本学 OB を講師とした在学生向けキャリア教育セミナー(第 56 回県大吉備塾)をオンラインで開催した。内容は、製品・情報デザイン領域卒業生、建築・都市デザイン領域卒業生が、現在の仕事の具体的内容、仕事の魅力、大学時代の経験が今に繋がっていると思えること、在学生へのメッセージについてとした。

6-4 建築学科

6-4-1 導入教育(フレッシュマンセミナー)

建築学科では、大学で積極的に学ぶ姿勢を身につけることを目的とした授業構成とした。また、対面を主としつつ、オンライン授業の受け方を身につけるため一部はリアルタイムオンライン形式(Teams)で実施した。内容としては、アカデミックスキル、建築デザインについての討論、県大 OB による大学生活やキャリアについての講義、アドバイザー教員と一緒になったまち歩き計画、グループごとのまち歩きとその成果発表を行った。

6-4-2 カリキュラムおよび授業方法の改善

1) 新型コロナウイルス感染症まん延への対応:建築学科(デザイン工学科建築・都市デザイン領域)では、専門科目はすべて、対面授業を実施した。ただし、一部の講義科目においては教育効果がある場合のみリアルタイムオンライン形式を併用した。また、「新型コロナウイルス感染症による出席停止措置」となった学生に対しては、補講や資料配布などの対応を行った。

2）ルーブリック評価の推進：建築学科（デザイン工学科建築・都市デザイン領域）では、卒業研究において指導教員がルーブリック評価により、年間を通じた学習態度も含めて採点を行った。ただし最終成績は指導教員の採点だけでなく、指導教員以外による成果物の採点と按分することにより、学生全体の採点公平性を確保した。また、論文中間発表会、論文最終発表会、制作最終発表会、制作審査会を実施し、年 4 回の発表・討論の機会を設けた。

3） 地域連携課題の推進：「卒業研究」を中心として、地域と連携した課題や研究テーマに取り組んだ事例が多くあった。以下が岡山県内問題を課題として取り上げた研究の一例である。

- 江戸末期から昭和後期における玉野地域の発展−塩田と港湾を中心に−
- ニュータウンにおける地域施設整備に関する研究−吉備高原都市を対象とした地域施設の利用状況と住民評価に基づく考察−
- 地域鉄道の活性化に向けた空間資源活用の研究−岡山県を通る 3 路線を対象とした考察−
- 旧備前市における煉瓦造煙突の形態に関する研究
- 真備の瀬崎家にある茶室『如是庵』意匠と昭和初期の茶室に関する研究

6-4-3 学生支援

1）インターンシップ

今年度の「建築・都市デザインインターンシップ」（3 年次・選択科目）は、19 名の学生が履修した。6 月に事業ガイダンスを行い、翌年 2 月に成果報告会を実施（学生は夏休み期間などを利用してインターンシップに参加）した。学生には、受入先が作成する評価報告書と自ら作成する実施報告書の提出、および成果報告会での報告を課した。担当教員は、事前ガイダンスの際に日本建築家協会（JIA）の研修制度を案内したほか、インターン先が思うように見つからない学生に受入先を紹介するなどのサポートを行った。

2）就職ガイダンス

7 月 14 日に 3 年生向けの「就職ガイダンス」を外部の企業を招き実施し、就活スケジュールや建築関連業種および企業の紹介、卒業生の就職・進学先の紹介などを行った。また、12 月 20 日には 3 年生対象に進路説明会を開催し、大学院進学と就職という大きな二つの進路について具体的に説明し、本格化する就職活動への準備や、スケジュールについて説明した。また求人情報を随時確認できる学科内連絡網（Slack）を整備し、最新の情報を学生に発信した。

3）企業による Web セミナー

12 月 1 日に希望者を対象にジーク株式会社（空間デザイン）の説明会を学内で開催した。企業の人事担当者や若手社員（本学 OB）などが業界・会社説明や就職相談などを行った。

4）県大吉備塾の開催

1 月 19 日に、本学 OB を講師とした在学生向けキャリア教育セミナー（第 56 回県大吉備塾）をオンラインで開催した。内容は、現在の仕事の具体的内容、仕事の魅力、大学時代の経験が今に繋がっていると思えること、新型コロナウイルス感染の仕事への影響、在学生へのメッセージについてとした。

6-5 国際交流推進（国際交流活動事業）

国立台南芸術大学について：MOU 協定校国立台南芸術大学との交流活動として、セラミックとテキスタイル教員と卒業生により、2023 年 1 月 13 日～1 月 29 日に台湾の台南市呉園公会堂で「風格―脈絡」展、同年 2 月 12 日～2 月 19 日に倉敷市倉敷物語館で「現代工芸のダイアローグ」を開催し、台南展では 300 人、倉敷展では 651 名の参加があった。国立台南芸術大学のから出展者を主に 10 名が来訪し、Jan 学長他により本学表敬訪問がなされたほか、倉敷市早島地区、井笠地区、および備前市の関連施設企業等へ視察ツアーを行った。

国立台湾芸術大学について：2 月 16 日、国立台湾芸術大学で文化財芸術の修理を専攻する学生 14 名と李長蔚助教が来学され、キャンパスツアーを行った。その後、現代工芸のダイアローグ展の見学を行った。3 月 6 日、教員 1 名が国立台湾芸術大学を訪問し、文化財芸術の修理を専攻する学生 60 名に「台湾伝統町家の研究」の講義を実施した。

レクチャーシリーズ実施について：2022 年 12 月 6 日、イギリスの現在のやきものと作家たちの様子について、イギリス在住の細野先生がオンラインレクチャーを行った。

2023 年 2 月 9 日、締結校である LAB University of Applied Sciences, Lahti の Minna Cheung 先生がオンラインレクチャーを行った。テーマは Circular Design in Fashion。

台湾スタディツアーについて：台湾国立台南芸術大学ビジュアルアーツ学部において、本学デザイン学部生 6 名が参加し、レクチャーやワークショップを実施した。また台北から台南までの主要な文化施設を訪問し、現地固有のデザインや文化を学ぶことができた。

実施時期：2023 年 3 月 12 日～18 日（7 日間）、台北市：3 月 12～13 日、台南芸術大学：3 月 14～16 日、台中：3 月 17～18 日

韓国・ウソン大学の交流について：2020 年 1 月 11 日からウソン大学と（MOU）締結がなされ、本学ビジュアルデザイン学科との国際交流が行われている。今年度の本学のデザイン学部卒業制作展に招待され、ウソン大学の学生より卒業制作を展示し、テクノメディア融合学部長 Park Jongbin がオープニングセレモニーに参加した。

スウェーデン・ヨンショーピン大学について：2023 年 2 月 6 日、7 日に教員 1 名がヨンショーピン大学を訪問し、工学部 2 年生の都市計画を履修する学生に、岡山のまちづくりに関する講義を実施した。

6-6 国公立デザイン系大学会議への参加

今年度の国公立デザイン系大学会議は新型コロナウイルスの影響を受けて、メール審議による規約の承認のみとなった。

デザインに対する社会的な役割や期待に応えるため、相互の教育内容を確認し、大学におけるデザイン系教育にかかわる共通の課題について協議することを目的に、国公立デザイン系大学会議では参加 22 大学を紹介する「DESIGN ACADEMIA YEARBOOK2021 日英版」を発行した。

6-7 まとめと課題

今年度も、新型コロナウイルスの影響で、一部授業・内容がオンラインで開催されることとなった。デザイン学部は、原則として対面授業での実施をこれまでも推進し作業環境も提供してきたが、長期にわたる対策は、学生間のコミュニケーションに支障を生み、より深い関係性（協力関係）の構築や、学びの深化には課題を残している。今後は、学生が大学に来て、相互に学び刺激し合う場を提供するためにも、学部施設の学生使用について、更に検討を加えていく。

カリキュラムおよび授業方法の改善においてルーブリック評価を卒業研究に導入するなど、改善が進んでいる。また、卒業研究で地域課題に取り組む事例が増加している。一部授業での成績評価分布に偏りが認められたが修正を図っている。今後、評価ルーブリックを用いた成績評価について全授業での実施に向けて準備を行うと共に、既に実施しているものや、実施出来る授業においては先行的に行い、問題点を共有するなどしたうえで、本格導入に備えていく。

学生支援（インターンシップ）では、新型コロナウイルスの影響を受けて、当初予定のインターンシップが実施出来ない状況が続いている。令和 5 年度からのインターンシップ取り扱い基準の明確化に伴い、汎用的能力・専門活用型インターンシップの実施に向け、各学科において準備を進める。

第 2 章　大学院における教育活動と成果

1　概要

本学大学院では、各研究科・専攻で設定するディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、より高度な専門性を備え、社会進出にあたって指導的な立場に立つことのできる人材や研究者の育成を目指している。これに加えて「吉備の杜」創造戦略プロジェクトによる博士前期課程・修士課程を対象とする副専攻「吉備の杜プロデューサー課程」が 2021 年度から新設されたが、これに伴い大学院教育に研究科横断型の教養教育科目として導入された研究科共通基盤科目群についても本年度カリキュラムの見直しを行い、研究科クロスセクション科目群として次年度から運用される（詳細は第 3 章に記載）。また、2021 年度に策定した新たな三つの方針に基づいて 2022 年度に作成し運用を開始したカリキュラムマップは、シラバスとともに今年度から教務大学院専門委員会でのカリキュラム点検に役立てている。

2 保健福祉学研究科

2-1 概要

本学大学院では、各研究科・専攻で設定するカリキュラム・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーに基づき、高度な専門性を備え、社会進出にあたって指導的な立場に立つことのできる人材や研究者の育成を目指している。少子高齢化やグローバル化に対応して、専門分野の視点から課題解決を図ることのできる人材育成のため、大学院教育プログラムや授業内容および研究指導法の工夫改善の取組みを継続している。

2-2 博士前期課程

2-2-1 看護学専攻

(1)グローバル専門教育

2022 年 10 月 6 日、7 日、13 日の 3 日間に、協定校である韓国又松(ウソン)大学校との学術交流会を、コロナ禍のためオンラインで開催した。看護に関しては、2022 年 10 月 13 日に「韓日の新型コロナウイルス感染症に対する看護政策について」というテーマで、又松大学校キム・ジンスク教授と本学看護学科の森本美智子教授が報告された。本交流会には、本学の博士前期課程(看護学専攻)の院生 5 名が学部生とともにオンラインで参加した。質疑応答を通して、韓国との文化や教育の違いへの理解を深めつつ、国際的な看護に触れる機会を得ることができた。

さらには、2022 年 11 月 18 日に「Only One を目指せ！」をテーマとして、本学客員教授の大藤剛宏先生(肺移植外科医)による特別講演会をカタールからのオンラインで開催した。本講演会には、博士前期課程の看護学専攻院生(1 年次生 4 名)(2 年次生 2 名)が学部生とともに参加した。終了後には、質疑応答を積極的に実施した。参加者は、肺移植についての専門的で先駆的な治療および看護を学ぶことができた。加えて、研究者として将来的にどのように学ぶかという個々の将来の方向性の示唆も得られ、大きな学びを積むことができた。

(2)地域連携教育

高齢者健康支援事業は、2 カ月に 1 回のペースで、2022 年は 5 回(4 月、6 月、8 月、10 月、12 月)開催した。高齢者健康支援事業(認知症カフェ)に興味がある人および認知症に興味がある人などの 5 名～10 名程度を対象に、認知症に関することや季節に特異的な疾患について、疾患等の詳細と予防法についての健康教育を実施した。具体的には、熱中症・認知症・ヒートショックなどとともに認知症予防として手先の運動や身体の運動ができるレクリエーションを実施した。「認知症カフェ」での健康教育を実施し、地域住民と交流する中で、地域の実情に合わせた活動とする意義や関係機関との連携の重要性について学ぶことができた。

(3)大学院博士前期課程看護学専攻(保健師課程)教育

保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い、本学の大学院博士前期課程看護学専攻(保健師課程)の教育について、2022 年 4 月より新カリキュラムを開始した。

2-2-2 栄養学専攻

(1)グローバル専門教育

2022 年 10 月 6 日に又松大学校(外食調理栄養学部)のユン・ジュンファ教授による「日韓における高齢者の栄養の課題」というテーマで、韓国の高齢者栄養に対する取り組みについてオンラインでの国際交流セミナーが開講され、博士前期課程(栄養学専攻)の院生 9 名が参加し、国際的な課題に触れることができた。今年度予定していたイタリア研修は、新型コロナウイルス感染症等の影響で中止となった。

22nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition(第 22 回 IUNS-ICN 国際栄養学会)にて、1 名の院生が筆頭著者として発表し、意見交換を行った。

(2)地域連携教育

新型コロナウイルス感染症の蔓延にともない、予定していた事業が中止となった。来年度以降は、食と健康のスペシャリストとして、岡山県栄養士会との連携事業等積極的な参画を予定している。

2-2-3 保健福祉学専攻

(1)グローバル専門教育

2022 年 10 月 6 日に又松大学校(社会福祉学科)のコ・ソンヒ教授と、本学現代福祉学科の近藤理恵教授により、「日韓の子ども虐待防止政策」というテーマで、日本と韓国における子ども虐待防止の取り組みについて、オンラインでの国際学術交流会が開催され、他専攻も含む 14 名の院生が参加し、韓国の児童虐待政策の最新状況と日本のそれとの違いについて学ぶことができた。

(2)地域連携教育

貧困の状態にある子どもへの学習支援をしているスタッフを対象とした聞き取り調査研究、施設入所の認知症高齢者を対象とした運動機能調査研究、視覚障害者を対象とした歩行支援設備に関する研究等を通して、地域との関わりの中から課題解決に貢献できる能力を育成することができた。

2-3 博士後期課程

2-3-1 看護学大講座

1 名が博士号を取得した。博士学位論文のタイトルは「終末期維持血液透析患者の医療・ケア方針の検討に関わる看護実践に関する研究」であった。

2-3-2 栄養学大講座

1 名が博士号を取得した。博士学位論文のタイトルは「Unique lipid profile and its association with mastitis in human milk(ヒト母乳の特徴的な脂質プロファイルと乳腺炎との関連)」であった。

2-3-3 保健福祉学大講座

博士号取得者はいなかった。

2-4 研究活動と国際交流

2-4-1 看護学大講座

研究活動に関しては、慢性維持透析の治療の見合わせに関わる看護師への支援、発達障害児への支援、在宅要介護者の入浴ケア、骨粗鬆症の簡易指標の研究、夫婦関係が周産期ボンディングに与える影響、看護職の介護離職防止などの看護・医療に関する課題の研究に取り組んだ。国際学会での研究発表は 2 件であった。

国際交流に関しては、2022 年 10 月 13 日開催の「韓日の新型コロナウイルス感染症に対する看護政策について」をテーマとした、又松大学校キム・ジンスク教授と本学看護学科の森本美智子教授による国際交流セミナーに、博士後期課程（看護学大講座）の院生 1 名が参加した。日韓の違いについて触れ、大きな学びを得ることができた。さらに 2022 年 11 月 18 日に「Only One を目指せ！」をテーマとして、本学客員教授の大藤剛宏先生（肺移植外科医）による特別講演会をカタールからのオンラインで開催し、博士後期課程の院生 1 名（看護学大講座 1 年次生）が参加した。カタールでの国際的な医療に触れることができた。

2-4-2 栄養学大講座

研究活動に関しては、脂質生化学的な母乳栄養の新しい意義の解明に関する研究、含硫アミノ酸の生理機能に関する研究、腸内環境改善と栄養状態に関する研究、嚥下機能測定法の構築と新規嚥下調整食の開発に関する研究、咀嚼様式と栄養状態に関する研究など、栄養学や生命科学を基盤とする様々なテーマに取り組んだ。また、第 95 回日本生化学学会大会にて「細胞質型ホスホリパーゼ cPLA2ζ は皮膚の適応修復に関わる」に関して発表した 1 名の院生が若手優秀発表賞を受賞した。さらに、22nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition（第 22 回 IUNS-ICN 国際栄養学会）にて、筆頭著者として発表した 1 名の院生が、Young Investigation Excellent Abstract Award を受賞し、各国の参加者と意見交換を行った。

国際交流に関しては、2022 年 10 月 6 日に又松大学校（外食調理栄養学部）のユン・ジュンファ教授により、「日韓における高齢者の栄養の課題」というテーマで、韓国の高齢者栄養に対する取り組みについてオンライン国際交流セミナーが開講され、博士後期課程（栄養学大講座）の院生 4 名が参加し、国際的な課題に触れることができた。

2-4-3 保健福祉学大講座

研究活動に関しては、高齢者の SOC（Sense of Coherence）に関する研究、精神障害者への就労支援に関する研究、成年後見制度におけるソーシャルワーカーによる支援システムに関する研究、高齢者・認知症者の食行動問題の評価に関する研究、外国人労働者への支援に関する研究等、社会福祉学と保健福祉学を基盤とする様々な社会課題に取り組んだ。こうしたなか、第

46 回日本高次脳機能障害学会学術総会にて、「失語者のコミュニケーション自己信頼感尺度CCRSA日本語版の信頼性・妥当性の予備的検討」に関するポスター発表をした院生が、優秀ポスター賞を受賞した。

国際交流に関しては、2022 年 10 月 6 日に、又松大学校（社会福祉学科）のコ・ソンヒ教授により、「日韓の子ども虐待防止政策」というテーマで、日本と韓国における子ども虐待防止の取り組みについて、オンラインでの国際学術交流会が開催され、他の大講座も含む 2 名の院生が参加し、韓国の児童虐待政策の最新状況と日本のそれとの違いについて学ぶことができた。

2-5 まとめと課題

国内外の学会で受賞をした院生も存在したが、今後も看護学、栄養学、社会福祉学・保健福祉学の領域において、少子高齢化やグローバル化が進む現代社会に貢献できる研究を推進していく必要がある。

また、看護学、栄養学、社会福祉学・保健福祉学に関する国際学術交流会等を開催するとともに、留学生の受け入れを推進し、今後もグローバル専門教育をより一層推進していく必要がある。

3 情報系工学研究科

3-1 概要

情報系工学研究科では、急速に発展する環境の変化に対応するために、既存の教育研究分野にとらわれず幅広い視野を持ち、それぞれの研究内容のみならず融合型研究を深化させるための取組を行っている。

3-2 博士前期課程

平成 28 年度入学生から 1 専攻(システム工学専攻)3 領域(電子情報通信工学領域、機械情報システム工学領域、人間情報システム工学領域)に再編し、各領域における教育体制が、情報工学部 3 学科の学士課程教育との連続性を担保すると同時に、1 専攻の利点を生かしつつ、他領域の学問分野との交流(授業科目の履修、異なる視点からの研究指導)が活発になるような学生指導体制を整えている。

令和４年度の入学者数は60名であり、入学定員52名を大幅に上回った(充足率115.3%)。在籍者数は 113 名で収容定員 104 名の 108.7%であった。継続して入学定員数を確保するために、学部低年次からアドバイザー面談や進路説明会等で大学院の魅力を伝えるとともに、進学を勧める。

年度	2018	2019	2020	2021	2022
入学定員に対する 入学者の充足率［%］	78.8	86.5	82.7	101.9	115.3
収容定員に対する 在籍者の充足率［%］	84.6	85.6	87.5	94.2	108.7

英語によるコミュニケーション能力の養成を目指した、テクニカル・プレゼンテーション演習およびアカデミック・プレゼンテーション演習の受講者数は計 11 名であったが、 令和 3 年度の受講者数 29 名を大きく下回った。このため、令和 5 年度は、国際発信力、特に英語でのプレゼンテーション能力育成の必要性を学生が認識するよう新学期オリエンテーション等で周知する。

令和 3 年度から地域連携教育である「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの演習科目として、「創造戦略プロジェクト<ICT>」を開講した。同プロジェクトのカリキュラムや成果等は、第 3 章「副専攻(吉備の杜)における教育活動と成果」を参照されたい。

自身の専門分野以外の研究に触れる機会を提供するため、公開研究報告会を奨励しており、今年度は各研究室が計 24 回開催した。また岡山県内の公共機関および企業と連携大学院協定を締結し、学外の研究者による研究指導を受けることができる体制を整えており、今年度は岡山県工業技術センターにおいて 2 名の大学院学生が研究の一部を遂行した。

今年度は 47 名が修士(工学)の学位を授与された。

3-3 博士後期課程

博士後期課程は、平成 28 年度入学生より、講座制から領域制への転換を図り、電子情報通信工学領域、機械情報システム領域、人間情報システム工学領域の 3 領域制による学生指導体制にした。併せて、情報技術を多様な分野に展開できる人材育成を推進するため、従来の主指導・副指導教員に加えて、主指導教員とは専門分野の異なる教員を指導体制に加えることができる研究アドバイザー制度を導入した。平成 30 年度からは、主指導教員、副指導教員に加え、研究アドバイザー教員を割り当てることができるように制度変更し、より幅広い視野から教育研究指導を行える体制を整えた。また、社会人が学びやすい環境を整えることを目指し、平成 27 年度には早期修了要件を明確に定め、平成 28 年度入学生より修了要件を 12 単位に引き下げた。さらに、平成 28 年度には留学生および社会人を対象とした秋入学制度を導入した。

令和 4 年度は残念ながら入学者を迎え入れることができなかった。在籍者数は 9 名で収容定員 18 名の 50%である。また今年度の修了者はなかった。

3-4 研究活動と国際交流

博士前期課程は、1 専攻 3 領域の体制により、3 学科の特色を引き継ぎつつ、幅広い視野で融合型研究を深化させる能力の養成を行っている。令和 3 年度から「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの授業科目も充実させ、より視野の広い人材の育成を行っている。

3-5 まとめと課題

博士後期課程は、情報技術を多様な分野に展開できる人材育成を推し進めるため、1 専攻 3 領域の体制としている。定員割れが続いており、さらなる入学者確保の取り組みが必要である。

4 デザイン学研究科

4-1 概要

デザイン学研究科は、令和 3 年度にデザイン学部が学科再編により 3 学科体制になったことに伴い研究科の改革を進め、修士課程学位審査基準の見直し等、研究活動活性化を図っている。

4-2 修士課程

デザイン学研究科は、2 専攻 3 領域で構成されている。

また、研究科共通基盤科目において、両専攻共に「創造戦略プロジェクト」を必修化し、企業との協働の中で、専門性を活かす機会を設け、地域社会への貢献意欲向上を図っている。

今年度入学生より、課程の修了要件における学位論文等の取り扱いを、「修士論文及び修士作品」から「修士論文又は特定の課題」に変更し、併せてデザイン学研究科修士課程「修士学位論文及び特定の課題審査基準」を設けた。

4-2-1 デザイン工学専攻

デザイン工学専攻は、地域社会と産業界の要請に応えられる、高度な専門知識・技能・技術をベースにした総合的な思考力を有し、多様な価値創造が可能な高度専門職業人および研究者の育成を目指し、製品・情報デザイン学領域と建築・都市デザイン学領域の 2 つの領域を設けている。建築・都市デザイン学領域においては、建築士免許登録における実務の経験(1 年)が認められるカリキュラムを用意している。

4-2-2 造形デザイン学専攻

造形デザイン学専攻は、デザインの専門知識と技能、技術を活用して論理的思考に基づき、新たな造形デザイン構築において諸問題を総合的な視点から解決し、社会へ貢献することのできる高度専門職業人および研究者の育成を目指し、造形デザイン学領域を設けている。

4-3 研究活動と国際交流

4-3-1 デザイン工学専攻における研究活動

1)学会発表

[1]「炭酸カルシウム乾燥小屋に関する研究～現存・稼働する乾燥小屋の実測を通して～」日本建築学会中国支部研究発表会(2023 年 3 月)2 年生 橋本琢磨、

[2]「岡山県下の児童養護施設の現状について－児童養護施設の空間のあり方に関する研究(その 1)－」日本建築学会大会学術講演会(2022 年 9 月)2 年生 小林弘樹、

[3]「旧津山市立東幼稚園プロジェクト－小径木を活用した木組みシステムによるリノベーション－」日本建築学会大会建築デザイン発表会(2022 年 9 月)2 年生 小林弘樹、

[4]「日常時から災害時まで活用可能な木組みシステムの開発」日本建築学会大会建築デザイン発表会(2022 年 9 月)2 年生 小林弘樹、

[5]「水間鉄道名越駅リニューアル計画」日本建築学会大会学術講演会(2022 年 9 月)2 年生 田中智、

[6]「総社市山田・菊池家の水車小屋における構造および利用実態の調査・研究」日本建築学会大会学術講演（2022 年 9 月）1 年生　片山志乃、
[7]「旧気高郡に残存するコンクリートブロック造のタバコ乾燥小屋についての調査研究」日本建築学会大会学術講演（2022 年 9 月）1 年生　平尾彩乃、
[8]「実験的建築の構造デザイン思考の分析による建築を構成する方法の解釈と変遷」全国シニア大学院生研究大会（2022 年 11 月）1 年生　西伸介、
[9]「学校施設におけるトイレ空間の音環境に関する研究」日本建築学会大会学術講演（2022 年 9 月）1 年生　矢口絵里奈

2）入賞
[1] 歴史的空間再編コンペティション 10 位（2022 年 11 月）2 年生　橋本琢磨、
[2] ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2022@みはら　入選（2022 年 11 月）2 年生　川岡聖夏・矢口　絵里奈、
[3] 日本建築学会建築デザイン発表会　テーマ部門「リユースできる建築構造デザイン」優秀発表（2022 年 9 月）2 年生　小林弘樹、
[4] 第 16 回キッズデザイン賞「sense TSUYAMA（旧津山市立東幼稚園プロジェクト）」（2022 年 9 月）2 年生　小林弘樹、
[5] フェーズフリーアワード 2022 入選「FUDAN-GI」（2022 年 9 月）2 年生　小林弘樹、岡山県立大学学長賞（2023 年 2 月）2 年生　小林弘樹、
[6] 2022 年度都市アーキビスト会議（IoUA）　最優秀賞「瀬戸内海の「シマ」と「フネ」」（2022 年 7 月）田中智・髙岡まりあ・松本耕、
[7] 日本トイレ協会　グッドトイレ選奨　著作・研究部門　選奨（2022 年 11 月）1 年生　矢口絵里奈

4-3-2 造形デザイン学専攻における研究活動

1）作品展示（個展）
[1]「あの世の話、いつかの話し。」岡山マツダ野田店ショールーム（令和 4 年 4 月 25 日～令和 4 年 7 月 23 日）2 年生　水田美穂、
[2]「ゆらぎ」岡山マツダ野田店ショールーム（令和 4 年 7 月 25 日～令和 4 年 10 月 29 日）1 年生　小山杏、
[3]「Fabricross 布と交差する」KS ギャラリー（令和 5 年 2 月 9 日～令和 5 年 2 月 13 日）1 年生　小山杏

4-3-3 国際交流

[1] スウェーデン・ヨンショーピン大学留学（研究生 2022 年 9 月～2023 年 3 月）2 年生　髙岡まりあ、
[2] ミュンヘン工科大学留学（聴講生 2022 年 10 月～2023 年 3 月）1 年生　片山志乃、岡山県立大学－ヨンショーピン大学　オンラインシンポジウム発表「Current Status of

Tourism in the Seto Inland Sea Region-Through Investigation of Accommodation and Accessibility of the Islands」(2022 年 10 月)2 年生 髙岡まりあ

4-4 まとめと課題

大学院における研究活動については、近年、入学者数の減少が続き、十分活性化しているとは言えない。引き続き、入学生の確保に取り組む必要がある。今年度は、デザイン工学専攻、造形デザイン学専攻共に減少傾向となっており、入学者確保の対策として、学部教育との連携などをさらに進めると共に、研究科再編への準備にも取り組む。

第３章　副専攻（吉備の杜）における教育活動と成果

１　概要

文部科学省「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業（COC+R）」に本学が代表校となって応募した『「吉備の杜」創造戦略プロジェクト－雑草型人材育成を目指して－』が令和 ２年度に採択されたことを受け、副専攻「吉備の杜」を開設した。副専攻「吉備の杜」は、学部低年次生を主対象とした従前の副専攻「岡山創生学」を包含し、３ つの課程で構成している。すなわち、副専攻「吉備の杜」は学部教育における「岡山創生学課程」と学部高年次生を対象とした「吉備の杜クリエイター課程」、大学院生を対象とした「吉備の杜プロデューサー課程」の ３ つの課程から構成されており、「入学から学部卒業、大学院修了までの一貫した社会連携教育」という特長を有している。さらに、「吉備の杜クリエイター課程」と「吉備の杜プロデューサー課程」では、一部の授業を提供し、地域人材育成への貢献や異世代交流による大学と地域の活性化も視野に入れたリカレント教育も実施している。

なお、本 COC+R 事業は、表 1 に示す県内大学、自治体、企業、団体等との協働により、「高い専門性と幅広い人間力に立脚した地方創生を担う逞しい人材」の輩出を目的としており、「県内産業発展に寄与できる人材」を出口（就職先企業）と一体になって育成するプログラムを構築する事業である。

表 1.「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業」協働機関

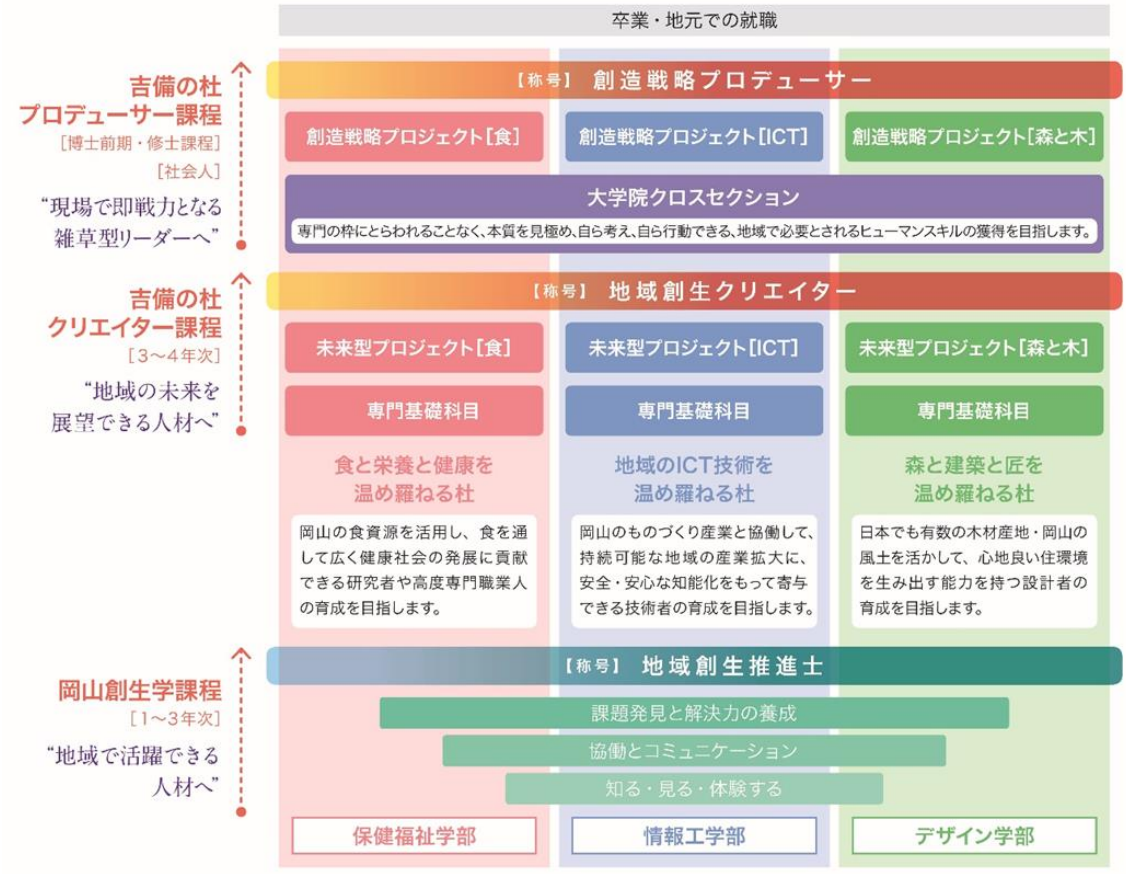
参　加　大　学	岡山県立大学、ノートルダム清心女子大学、中国学園大学
参 加 自 治 体	岡山県、笠岡市、総社市、備前市、赤磐市、真庭市、玉野市、津山市、井原市、瀬戸内市
参加企業、団体等	中国銀行、山陽新聞社、RSK 山陽放送、おかやまコープ、岡山県立大学協力会、岡山県食品新技術応用研究会、システムエンジニアリング岡山、岡山県建築士事務所協会、岡山県経済団体連絡協議会、トマト銀行、岡山県中小企業家同友会、岡山県産業振興財団

２　組織体制

副専攻「吉備の杜」は地域創造戦略センターの「吉備の杜推進室」と「社会連携教育推進部門」が連携して運営している。授業の構築においては、「岡山創生学課程」では共通教育科目内カテゴリー社会連携科目と各学部の専門教育科目とが連携して実施し、「吉備の杜クリエイター課程」では各学部の専門教育科目として実施し、「吉備の杜プロデューサー課程」では研究科共通基盤科目として実施している。

副専攻「吉備の杜」の体系図を図 １ に示す。「岡山創生学課程」では地域連携教育により地域志向人材の養成を目的としており、「吉備の杜クリエイター課程」と「吉備の杜プロデューサー課程」では大学・地域・企業等による合体教育により、地方創生を担う即戦力型の逞しい人材の育成を目指している。

図１　副専攻「吉備の杜」の体系図



3　岡山創生学課程

3-1　育成する人材像と修得すべき能力

副専攻「岡山創生学課程」では、学びの中で地域の魅力に触れ、コミュニケーションや協働の中で地域課題を認識し、ともにその解決までのプロセスを体験することで地域への愛着を形成するとともに共感力を高める。そして、それを基盤として専門性を存分に発揮して地域の持続的発展のために貢献することができ、社会の変化に対して高い適応能力をもつ人材を育てるものである。このような人材になるために修得すべき能力を次のように設定する。

（1）地域「おかやま」の実態を体験的に学び、岡山の魅力を発信する力
（2）実践的学習の中からサービスラーニングのプロセスを通じて課題を認識する力
（3）地域で人とコミュニケーションを取りながら協働して課題解決に取り組む力
（4）学部・学科の専門性を活かし、自律的に課題解決法を考える力
（5）持続可能な岡山の未来を展望し、一市民としてまた専門家として社会に参画する力

3-2 教育プログラムの内容

「岡山創生学課程」では、低年次に「地域」の魅力と課題を学ぶ地域志向基礎科目、高年次に地域志向実践科目を配置して、地域への定着を図っている。

（1）1 年次では、地域を知り、地域と協働するための準備をする授業科目を配置している。岡山を中心とした地域の現状とグローバル化の中にある岡山の位置付けを知識として学び、地域に住む様々な人と接する。そして、現代社会で求められるボランティアなどを通して、また、大学生と社会の接点の現状やあり方についての学びを通して、地域志向を涵養する。

（2）2 年次では、地域の課題解決に実践的に取り組んでいる方から、事例を元に地域課題の発見と、解決に向けた取組みについて学ぶ授業科目を配置している。学部・学科の専門性にとらわれず、地域課題の解決を実践的に学ぶ行政機関等でのインターンシップ科目も配置している。これらの学修を通して地域社会を見つめる観察眼を習得するだけでなく、入学後に学んだ専門性がどのように地域課題の解決に役立てられるかを自律的に考える。

（3）3 年次では、より専門的な視点から地域の課題を見つめ直し、自己のキャリア形成を支援する授業科目を配置している。地方自治や企業活動の仕組み、地域社会における自己の役割認識を涵養する学びの後、専門教育課程の演習を通して、より実践的な地域協働を体験することで、専門性による学びの深化を図る。

（4）教育課程は共通教育科目と学部教育科目から厳選された授業科目から構成され、また、講義科目での学びの後に演習科目を配置することで、実学としての地域協働を涵養する。

前述した「修得すべき能力」を学修させるために、計 11 科目で教育プログラムを構築している。各科目の開講計画を表 2 に示す。

表 2.「岡山創生学」授業科目表（令和 4 年度入学生）

区分	授業科目名	授業の方法	開講時間数	開講単位数	開講年次				必要単位数	備考
					1	2	3	4		
共通教育	社会連携要論	講義	15	1	◎				5単位	
	地域創生演習	演習	60	2	○					★
	地域資源論	講義	15	1	◎					
	地域創生実践論	講義	15	1		○				★
	社会を生きる力を学ぶ	講義	15	1	○				5単位	
	地域インターンシップ	演習	120	4		○				◆
	地方自治論 Q	講義	15	1			○			
学部教育	チームガバナビリティ演習	演習	30	1			○			◆保健福祉学部
	地域保健福祉演習	演習	30	1			○			◆保健福祉学部
	エンジニアリング演習	演習	120	4			○			◆情報工学部
	デザインプロジェクト演習	演習	30	1		○				◆デザイン学部

【注】　◎印で示される授業科目は全学必修科目である。

★印で示される授業科目は、通常は選択科目であるが、地域創生推進士の認定を受けるためには、必ず修得すること。

◆印で示される授業科目を 1 科目以上修得すること。

※ 保健福祉学部で既に開講されている「統合実習」、「公衆栄養学実習Ⅰ」、「公衆栄養学実習Ⅱ」、「ソーシャルワーク実習」および「保育実習ⅠB」の中から 2 単位以上を修得すれば、必要単位数の中から 2 単位を修得したものとする。デザイン学部の学生は学部教育科目の地域とデザインの単位を修得することで、必要単位数の中から 2 単位を修得したものとする。

3-3 「岡山創生学課程」の周知

入学前の高校生や地域の方向けにパンフレット「副専攻「吉備の杜」『岡山創生学課程』のススメ～地域が学びのフィールド～」を作成し、副専攻の特徴や教育カリキュラム、履修モデル、地域創生推進士の卒業後についての取材記事等を掲載し、理解を促進できるよう本学 Web サイトでも発信した。

https://www.oka-pu.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2022/05/okayakasouseigaku_2021.pdf

図 2.「岡山創生学課程」パンフレットの一部とバナー

3-4 実施状況

1 年次対象の 3 科目(「社会連携要論(旧:おかやまボランティア論)」、「地域創生演習(旧:おかやまボランティア演習)」、「地域資源論(旧:おかやまを学ぶ)」)および 2 年次対象の 2 科目(「地域再生実践論」、「地域協働演習」)に加え、長期インターンシップ 2 科目として、共通教育科目「地域インターンシップ」および学部教育科目「エンジニアリング演習」を開講した。

①「社会連携要論(旧:おかやまボランティア論)」第 2 クォーター・1 年次生・1 単位(必修)

次の 3 項目を授業科目の到達目標とした。なお、本年度は、COVID-19 拡大により、対面授業がかなわず、オンライン授業に変更し、実施した。

(1) 社会連携の意義を説明できる

(2)社会連携の実践事例を列挙することができる

(3)学部専門教育におけるサービスラーニングの意味を他者に伝えることができる

ボランティア活動を含めた社会連携活動の意義、SDGs の理念および実際の活動を、講義の初回から 4 回目にかけて説明した。5 回目以降の講義では、本学 3 学部の特性も踏まえ、主に県内の様々なボランティア団体および NPO 法人で活躍している方を外部講師として招聘し、各々の活動内容の説明を聞いた。その後、学生自身の考えをまとめ、周囲の学生と意見交換する

ために、インターネット上に回答フォームを用意し、各学生の意見をまとめ、学生にフィードバックを行った。

②「地域創生演習（旧：おかやまボランティア演習）」通年・1 年次生・1 単位（選択）

授業科目の到達目標は、以下のとおりである。

（1）主体的に地域のボランティア活動に参加することができる

（2）ボランティア活動の実体験を通して、どのような地域課題があるかを説明できる

（3）他者との協働により、地域のボランティア活動を行うことができる

4 月 11 日（月）をはじめ数回の事前学習（グループの顔合わせ、活動目標の設定など）の後、各種団体において、6 月～1 月の期間内で活動先ごとに 10 日間のボランティア活動を体験した。今年度は 123 名の学生が履修し、活動報告を含む事後学習が 2 月 1 日（水）に開催された。

③「地域資源論（旧おかやまを学ぶ）」第 3 クォーター・1 年次生・1 単位（必修）

今年度は、授業科目の到達目標を、以下のとおりとした。

（1）岡山を理解し、地域の魅力や課題を発見する

（2）地域志向を高める

（3）主体的に物事を捉え、自分なりの意見を発信できる

（4）地域での協働活動のあり方を学ぶ

岡山のすがた、地方創生、歴史、人権、総社市（大学が立地する自治体）といった従来のテーマに、今年度は女性活躍と交通を加え、様々な視点から見た岡山の現状を学ぶことを目的に学外講師を招聘した。学生からの質問を受け付ける形で、学外講師との質疑応答を実施し、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた。

④「地域創生実践論」第 1 クォーター・2 年次生・1 単位（選択）

本科目は、地域の協力団体から課題（表 3）を提供いただき、グループワークを通して解決策を考える PBL（課題解決型授業）科目である。授業の到達目標は、以下のように設定した。

（1）協働作業において円滑にコミュニケーションできる

（2）問題を的確に捉え、分析することができる

（3）応用力や柔軟性をもって課題解決策を考えることができる

（4）説得力のある提案ができる

今年度の履修者は 63 名であった。協力団体ごとにグループに分かれ、フィールドワークや中間発表を実施した。最終回には、学生が考えた解決策を協力団体にプレゼンテーションした。

表 3．協力団体と提供課題

協力団体名	提供課題
児島湖流域エコウェブ、岡山県環境管理課、岡山県備前県民局農地農村計画課、中国四国農政局岡山南土地改良建設事業所	児島湖の魅力を県民に伝えるには？
総社市	地域課題に関する行政から若者への効果的なアプローチについて（新型コロナワクチン）
総社商店街筋の古民家を活用する会	学生が主体となって、地域団体と地域・地域住民を近づけるには？

ハーモニーネット未来	「コロナ禍の今、おたがいさまで、できること」（主に子どもの貧困）
おかやまエネルギーの未来を考える会	タイムリミットまであと 4 年、未来を守れるのは今（若者に聞いてほしい温暖化の話）

⑤「起業の条件」前期集中・3 年次生・1 単位（選択）

実務経験者 2 名を非常勤講師として、講義内容は、起業のために必要な知識（ベンチャー立上げとその持続および知的財産）の修得という目的に沿ったものとした。本授業は廃止が決まっており、入学時に開講を予定していた学年が 4 年次となる本年度が開講の最終年度となる。

⑥「地方自治論 Q」第 2 クォーター・3 年次生・2 単位（選択）

地方自治の仕組みや制度、地方自治体の活動や住民との関係性について理解を深め、地方自治の現状と課題、特に、地方自治体にとって喫緊の課題である地方創生について、岡山県の状況を中心に考察する内容とした。あわせて、行政サービスを提供する側、受ける側の観点から、それぞれの責任と役割を考える契機とした。

⑦「地域インターンシップ」通年（主に夏季休業中）・2、3 年次生・4 単位（選択）

共通教育科目として、主に夏季休業期間を活用した長期インターンシップ科目である。自治体などでの業務体験を通じて、組織や仕事の流れを理解し、社会人としての必要なスキルや行動規範を身につけることを目的としたプログラムである。

2、3 年次生 20 名（保健福祉学部 15 名、情報工学部 2 名、デザイン学部 3 名）が学外実習に参加した。岡山県など 6 地方公共団体、雪舟福祉会など 2 非営利団体、岡山トヨタ自動車など 12 企業等に受け入れていただき、一学生につき、複数の組織で計 15 日間の実習に取り組んだ。

受け入れ先決定までは、①「地域インターンシップ」説明会、②マッチング相談、③エントリーシートの提出、④個別面談・学内選考、⑤自治体への受け入れ依頼、⑥受入先の内定通知（学生向け）、⑦学生カード・誓約書の提出、⑧受入依頼文書の発出（自治体など）といった手順で進めた。

学外実習に先立ち、組織概要や業務内容を調べる課題を出すとともに、マナー講座や Excel 講座を開講するなどの事前準備を行った。学外実習終了後、11 月 30 日、12 月 7 日、14 日、21 日に分けて学内報告会が実施された。学内の授業では得られることのできない貴重な体験を積んだことが報告された。複数の組織・部署での業務体験は、今後の進路を考える上で有益となったと思われる。

⑧「エンジニアリング演習」通年（主に夏季休業中）・3 年次生・4 単位（選択）

情報工学部の学部教育科目として、平成 30 年度から開講となった企業における長期インターンシップ科目である。主に夏季休業中の約 4 週間を活用し、アルバイトとは違う「働く（就業体験）」を通して、職場の雰囲気、社会の基本的なルールやマナーに触れ、自分自身の将来の職業に関する意識を形成することを目的としている。専門分野に関連する業務活動を企業や団体で体験することで、技術者としての自覚、授業で修得した知識・技術の応用力、進路選択への心構え等を育成することが期待される。今年度は、情報工学部 3 年次生 23 名が 16 社（うち 1 社は 2 事業部）で職場体験活動を行った。

実際に企業に出向くまでの事前学習は、「地域インターンシップ」と合同で、先に述べたスケジュールで実施した。インターンシップ終了後、10 月 27 日(木)に受入先担当者を招いての報告会を学内で開催し、18 社 31 名にご参加いただき、通常の授業では決して得られることのできない貴重な体験を積んだことが報告された。

4 吉備の杜クリエイター課程

学部 3～4 年次生を対象とした“地域の未来を展望できる人材”の育成を目的とした課程であり、「食と栄養と健康を温め羅ねる杜＜食＞」、「地域の ICT 技術を温め羅ねる杜＜ICT＞」および「森と建築と匠を温め羅ねる杜＜森と木＞」のサテライトプログラムで構成されており、“現場で即戦力となる雑草型リーダー”の育成を目指している。3 年次生の専門基礎科目(プロジェクト導入への意義付け)と 4 年次生の未来型プロジェクト(協働実践型 PBL 演習)が配当されているが、他学部のプロジェクトにも参加可能としており、広い分野との融合による新たな価値の創造も図っている。

なお、3 つのサテライトプログラムのいずれかのプログラムにおいてすべての単位を修得し、且つ、地域創造戦略センターが認定する公開イベントにおいて、ポスター発表あるいは口頭発表を行った履修者には、「地域創生クリエイター」の称号を授与する。

4-1 食と栄養と健康を温め羅ねる杜＜食＞の概要

岡山の食資源を活用し、食を通して広く健康社会の発展に貢献できる研究者や高度専門職業人の育成を目指す。令和 4 年度の開講実績は表 5 のとおりである。

①H1:フードビジネス学

広い視野から食の安心・安全、食品の研究開発や食品の生産、流通、消費の流れについて、理解を深めることを目的とする。本年度は、岡山県の特産品の食資源開発力に基づく食品の生産、加工、流通、消費について、大学における共同研究、商品開発、食品業界の品質管理や経営の現場から、食品の川上から川下までのシステムの具体例を挙げて講述した。

②H2:チームガバナビリティ演習

保健・医療・福祉分野における多専門職の連携・協働は今日では interprofessional working(IPW)と称され、その教育は interprofessional education(IPE)と呼ばれる。IPE とは、「2つ以上の専門職の学生が、効果的な協働を可能にして医療効果を改善するために、ともに学び、ともに学びあいながら、お互いのことを学ぶこと」と定義される。本授業では、看護・栄養・保健福祉の 3 学科の学生と教員が一堂に会して、クライエントに最大限に貢献するための多専門職の連携について、実践的に学んだ。

③H3:地域保健福祉演習

保健・医療・福祉の専門的な視点から、多様な背景をもつ住民の生活ニーズを把握しつつ、地域の課題を明らかにし、解決に向けた地域関係者と協働する体験を通して、地域創生に資する学修を行った。

④H4：未来型プロジェクト＜食＞

令和 4 年度より、学部 4 年生向けに開講された 4 単位の PBL（課題解決型）演習で、最終目標は「持続可能なおかやまの未来を展望できる人材の育成」としている。20 日間の内 10 日間は企業で社員と協働して学修し、残りの 10 日間は学内で担当教員から課題解決に必要な知識についての教育を受けた。具体的には、食物の産地、食品企業、医療現場、自治体等の事業協力機関と協働し、食品の生産、加工、流通、消費、食の安全・安心や食育などに関連した諸問題の解決に向けて実践型の演習を行った。本年度の開講実績は表 4 のとおりである。

表 4. 未来型プロジェクト＜食＞の開講実績

演習応募企業			学生とのマッチング成立	
企業数	テーマ数	受入可能人数	企業数	履修者数／修了者数
5	6	5～9	5	11／11

マッチングした演習先

ありがとう株式会社	2 人	キミセ醤油株式会社	2 人
NPO 法人フードバンクおかやま	4 人	総社市役所	1 人
岡山済生会総合病院	2 人		

未来型プロジェクト＜食＞の報告会	令和 4 年 12 月 9 日（金）実施

表 5. 食と栄養と健康を温め羅ねる杜＜食＞の開講実績

No.	科 目	日 程	受講形態	履修年次	単位	学部生履修		学外履修	
						R3	R4	R3	R4
H1	フードビジネス学	夏季・冬季集中	講義	3	2	25 人	18 人	6 人	24 人※
H2	チームガバナビリティ演習	前期	演習	3	1	36 人	23 人	0 人	0 人
H3	地域保健福祉演習	通年	演習	3	1	17 人	9 人	0 人	1 人
H4	未来型プロジェクト＜食＞	通年	演習	4	4	-	11 人	-	-
※ノートルダム女子大学 22 人、中国学園大学 1 人、社会人 1 人 計⇒						78 人	61 人	6 人	25 人

4-2 地域の ICT 技術を温め羅ねる杜＜ICT＞の概要

岡山のものづくり産業と協働して、持続可能な地域の産業拡大に、安全・安心な知能化をもって寄与できる技術者の育成を目指す。令和 4 年度の開講実績は表 7 のとおりである。

①J1：組込みシステム

組込みシステムは、限定された境界条件下で要求性能を実現するために、設計に際して、要求・目標仕様設計、方式・機能設計等の多岐にわたり、近年は、ハードウエアとソフトウエアの協

調設計が必須となっている。本年度、上記組込みシステム特有の設計方式論にフォーカスし、帰納的な理解を深める多数の事例を紹介し、最新分野も含めた設計方式について解説した。

②J2：セキュリティ総論

データ秘匿化やユーザ認証のための暗号技術の仕組みを学んだ。また、安全にインターネット上でのデータの送受信をするためのコンピュータおよびネットワークのセキュリティ技術の仕組みを学んだ。

③J3：知的制御システム

知能の概念を理解し、脳で行われている知能的な情報処理を実現するための基本的なモデル（誤差逆伝搬法、連想記憶モデル）と知的制御を実現するための様々な方法（ファジイ制御、遺伝的アルゴリズム、ディープラーニング、強化学習、フィードバック誤差学習）の理論とその特徴について理解することを目的とした。

④J4：技術者と社会

society5.0 で工学技術者として活躍する場合、人ならではの想像力や創造力を発揮しながら、やってはならない事、やるべき事を自分自身で迅速に判断し、タイムリーに、かつ適確に行動する事が求められる。情報系や製造系分野の第一線で活躍している企業人による講義とそれに関連する現実的な課題をテーマとしたグループワークの形態で実施した。そして、これらを通して、技術者としてのより高度な倫理観や、自ら課題を見つけるための問題意識、それを解決するための判断力と行動力、新しい価値を想像し創造する力などの養成を目的とした。

⑤J5：未来型プロジェクト<ICT>

令和 4 年度より、学部 4 年生向けに開講された 4 単位の PBL（課題解決型）演習で、最終目標は「持続可能なおかやまの未来を展望できる人材の育成」としている。20 日間の内 10 日間は企業で社員と協働して学修し、残りの 10 日間は学内で担当教員から課題解決に必要な知識についての教育を受けた。具体的には、ICT 産業、情報産業、自動車産業等、ものづくり産業の現場で第一線の技術者と協働することで技術者としてのリテラシー、授業で修得した知識・技術の実践力等を育成することが期待できる。本年度の開講実績は表 6 のとおりである。

表 6. 未来型プロジェクト<ICT>の開講実績

演習応募企業			学生とのマッチング成立	
企業数	テーマ数	受入可能人数	企業数	履修者数／修了者数
0	0	0	3(※)	4／3

（※）創造戦略プロジェクトより移管

マッチングした演習先

株式会社クラレ岡山営業所	1 人	タツモ株式会社	1 人
株式会社システムズナカシマ	1 人		

未来型プロジェクト<ICT>の報告会開催	令和 4 年 12 月 16 日(金)

表 7. 地域の ICT 技術を温め羅ねる杜<ICT>の開講実績

No.	科 目	日程	受講形態	履修年次	単位	学部生履修		社会人履修	
						R3	R4	R3	R4
J1	組込みシステム	前期	講義	3	2	124 人	98 人	0 人	3 人
J2	セキュリティ総論	後期	講義	3	2	102 人	86 人	3 人	6 人
J3	知的制御システム	後期	講義	3	2	76 人	79 人	2 人	2 人
J4	技術者と社会	後期	演習	3	1	24 人	65 人	-	-
J5	未来型プロジェクト<ICT>	通年	演習	4	4	-	4 人	-	-
					計⇒	326 人	332 人	5 人	11 人

4-3 森と建築と匠を温め羅ねる杜<森と木>の概要

日本でも有数の木材産地・岡山の風土を活かして、心地良い住環境を生み出す能力を持つ設計者の育成を目指す。令和 4 年度の開講実績は表 9 のとおりである。

①D1:森林生態学・地盤工学

建築をつくることは、人間と自然との関係を再構築する行為といえる。気候変動による多くの災害やパンデミックに直面している現代社会において、環境の正しい理解なしに建築を考えることは不可能である。そのためには、森林や地盤構造に対する正しい理解が必須である。また、戦後の建設資材としての製材増産のための自然林から人工林への転換、および経済合理性優先の宅地開発等による地盤の軟弱化が、現在の気候変動による災害の甚大さをもたらす大きな要因のひとつになっている。本科目では森林や地盤についての基本的な知識を修得し、環境から導かれるこれからの建築デザインについて考える素地を滋養することを目的とした。

②D2:森林・木材学演習

木造建築をつくるためには、木材という素材についての多くの知見が要求される。川上の森林から川下の消費者にいたる過程の一端を肌で感じ取り、真の木の知識として定着させることを目的とする。また、森林資源のエネルギー利用のバイオマス発電の見学も加えて、これからの時代の建築をトータルに捉えられる感性を滋養することも目的とする。森林に足を踏み入れ、森がもつ自然の力を感じ、森を形成する樹木の役割について学び、製材されて製品に形を変えてゆく過程を体験した。

③D3:木構造学・木構造デザイン

建築構造の中の木構造についての基本的な考え方に習熟すると同時に、構造的観点からのデザインについて、実例を通じて学び、木造で建築を考える感覚を滋養することを目的とした。

④D4：環境デザイン演習

これからのデザインは、地球規模の気候変動やパンデミックに対応する社会構造を理解したうえでのデザインが求められる。特にデザインの素材やそれらが生産される場所や生産量などの地理情報に対する広範な知識が要請される。この授業では、GISによる地理情報を使いこなせる技術を習得することにより、デザインの背景にある地理的な情報や背景を研究や制作に生かすことを目的とした。

⑤D5：未来型プロジェクト<森と木>

令和 4 年度より、学部 4 年生向けに開講された 4 単位の PBL 演習で、企業から提供される具体的なテーマに対し、20 日間、事業協働機関や企業と協働してプロジェクトの企画、運営、情報発信などのスキルを身に付けることを目的としたグループワークなどを行った。まず、企業活動を理解し、テーマを把握したうえで、一次企画提案、意見交換、二次企画提案後に発表会（最終提案）を行った。具体の企業における課題解決に社員とともに取り組むことにより、地元産業界への定着を進めた。本年度の開講実績は表 8 のとおりである。

表 8. 未来型プロジェクト<森と木>の開講実績

演習応募企業			学生とのマッチング成立	
企業数	テーマ数	受入可能人数	企業数	履修者数／修了者数
2	2	3	1	3／3

マッチングした演習先

株式会社藤原組	3 人

未来型プロジェクト<森と木>の報告会	令和 4 年 12 月 16 日（金）実施

表 9. 森と建築と匠を温め羅ねる杜<森と木>の開講実績

No.	科 目	日程	受講形態	履修年次	単位	学部生履修		社会人履修	
						R3	R4	R3	R4
D1	森林生態学・地盤工学	通年集中	講義	3	2	21 人	13 人	2 人	0 人
D2	森林・木材学演習	通年集中	講義	3	2	22 人	20 人	1 人	2 人
D3	木構造学・木構造デザイン	通年集中	講義	3	2	19 人	15 人	7 人	0 人
D4	環境デザイン演習	通年	演習	3	2	-	12 人	-	-
D5	未来型プロジェクト<森と木>	通年	演習	4	4	-	3 人	-	-
					計⇒	62 人	63 人	10 人	2 人

4-4 「地域創生クリエイター」称号の授与

計画どおり、令和 4 年度に第 1 期生として計 11 名の学部生に対して称号を授与できた。内訳は、保健福祉学部保健福祉学科社会福祉学専攻 4 名、同学部栄養学科 2 名、情報工学部情報通信工学科 1 名、同学部情報システム工学科 1 名、デザイン学部デザイン工学科建築・都市デザイン領域 3 名であった。称号授与式は、令和 5 年 3 月 14 日（火）に挙行された。

5 吉備の杜プロデューサー課程

予測不可能で急速な変化が生じる未来社会において、多種多様な環境圧をバネにする未来型思考と地域力を有した『雑草型リーダー』を育成することにより「高い専門性と幅広い人間力に立脚した地方創生を担うたくましい人材」を輩出する。他研究科のプロジェクトにも参加可能とし、広い分野との融合による新たな価値の創造を図る。大学院生を対象に、「県内産業発展に寄与できる人材」を出口（就職先企業）と一体となって育成するプログラムで以下の 3 つのプログラムで構成されている。

・創造戦略プロジェクト（協働実践型 PBL 演習）
・研究科共通基盤科目（大学院クロスセクション）
・リカレント教育

なお、創造戦略プロジェクト以外の 6 科目（6 単位）と創造戦略プロジェクトのいずれか 1 科目（4 単位）の計 10 単位を修得し、かつ、地域創造戦略センターが認定する公開イベントにおいて、ポスター発表あるいは口頭発表を行った履修者に、「創造戦略プロデューサー」の称号を授与することとしている。

5-1 研究科共通基盤科目（大学院クロスセクション）

地域社会に出てから最も必要な資質の 1 つとしてヒューマンスキルが挙げられる。本科目では、専門の枠にとらわれず、本質を見極め、自ら考え、自ら行動できる、地域で必要とされるヒューマンスキルの獲得を目指す。令和 4 年度の開講実績は表 10 のとおりである。

①C1：時事と歴史を読む

地域課題と地方創生、東京一極集中、疾病差別、雇用問題など現代社会の諸課題について、歴史を踏まえてその成因を理解し、課題の本質を探究すること、さらに、正しい情報を得るための手段やコミュニケーションの重要性を学んだ。さらに、課題解決を目指したグループワークを行い、その提案について講師も含めて討論した。

②C2：データサイエンス

情報通信技術の進展を背景に、様々なデータが有効活用されている。このような時代には、どのような職業に就いても、ある程度のデータ分析力やデータに基づいた合理的な判断が求められる。本講義では、データの処理・分析を学び、抵抗なくデータをハンドリングできる素養を身につけることを目標とした。

③C3：知の理論

単に具体的な知識について学ぶのではなく、知識は多種多様であることを認識し、「知識の本質」について批判的に思考して、「知識を獲得するプロセス」を探究することを目指した。

④C4：地域資源学

岡山が直面しているグローバル化や過疎高齢化、中心市街地衰退等の課題解決や、地域創生による持続的活性化にむけて、岡山が有する様々な地域資源（農業・自然・エネルギー・文化など）の価値を理解するとともに、新たな価値を創出・発信するための具体的な活用事例などについて学んだ。

⑤C5：地域社会とビジネス

大企業や行政への一方的依存を脱して、地域の歴史や資源に密着してビジネスを促進させることが地域経済の持続や再生につながる。地域の歴史や地域の特徴のある産業を整理し、その中で KSF（Key Success Factor）を見出し、今後の地域活性化のための新しいビジネスモデルの提案を目指した。

⑥C6：アカデミック・プレゼンテーション演習

自身が取り組む研究内容を整理し、効果的に他者に伝える方法を学んだ。いわゆる研究論文とは違い、オーラルプレゼンテーションでは紙面や時間の制約がある中で、いかに重要なポイントを絞って表現するかということが求められる。単に研究資料を見せるのではなく、説得力のある「魅せる」プレゼンテーションスキルの獲得を目指した。

表 10. 研究科共通基盤科目（大学院クロスセクション）の開講実績

No.	科 目	日程（※）	受講形態	履修年次	単位	大学院生履修		社会人履修	
						R3	R4	R3	R4
C1	時事と歴史を読む	第 4Q	講義	M1、M2	1	39 人	46 人	28 人	29 人
C2	データサイエンス	第 2Q	講義	M1、M2	1	41 人	69 人	8 人	19 人
C3	知の理論	第 1Q	講義	M1、M2	1	17 人	51 人	2 人	9 人
C4	地域資源学	第 3Q	講義	M1、M2	1	32 人	26 人	7 人	23 人
C5	地域社会とビジネス	第 3Q	講義	M1、M2	1	21 人	22 人	5 人	24 人
C6	アカデミック・プレゼンテーション演習	前期	演習	M1、M2	1	32 人	11 人	-	2 人
	（※）「日程」欄の「Q」は「クォーター」を意味する。				計⇒	182 人	225 人	50 人	106 人

5-2 創造戦略プロジェクト（協働実践型 PBL 演習）

企業が直面する「現実の課題」について、若手社員と協働で解決策を提案する PBL 型の演習である。原則として 20 日間すべて企業に赴き、大学院生が企業現場で主体的に取り組み、企業現場で即戦力となるスキルを身に付ける。令和 4 年度の開講実績は表 11 のとおりである。

表 11. 創造戦略プロジェクトの開講実績

区分	演習応募企業			学生とのマッチング成立	
	企業数	テーマ数	受入可能人数	企業数	履修者数／修了者数
＜食＞	10	12	22～27	4	4／ 4
＜ICT＞	21	35	44～55	6	6／ 6
＜森と木＞	9	12	23～33	6	8／ 8
計	40	59	89～115	16	18／18

マッチングした演習先

＜食＞

カバヤ食品株式会社	1 人	株式会社セントラルフーズ	1 人
キミセ醤油株式会社	1 人	株式会社林原	1 人

＜ICT＞

井原精機株式会社	1 人	株式会社タグチ工業	1 人
関西プラスチック工業株式会社	1 人	タツモ株式会社	1 人
株式会社システムズナカシマ	1 人	株式会社ナテック	1 人

＜森と木＞

株式会社 iプランニング KOHWA	1 人	立花容器株式会社	1 人
勧進設計	1 人	株式会社藤原組	2 人
ダイヤ工業株式会社	2 人	銘建工業株式会社	1 人

創造戦略プロジェクト合同報告会	令和 4 年 12 月 16 日（金）実施

5-3 リカレント教育

メンバーシップおよびメンバーシップ傘下会員の従業員を対象としており、社会人の学び直しの機会を提供することを目指している。令和 4 年度は、17 社 106 名（延べ 144 名）の学外履修者の参加が得られた。

5-4 「創造戦略プロデューサー」称号授与

第 2 期生として計 3 名の学部生に対して称号を授与できた。内訳は、情報系工学研究科博士課程前期 3 名であった。称号授与式は、令和 5 年 3 月 14 日（火）に挙行された。

6 準正課、正課外での活動

6-1 準正課活動

本学では、単位が付与される正課活動に対して単位が付与されない教育実践を正課外と位置づけてきたが、その中には大学や大学教職員が関与する活動と関与しない活動が混在していた。前者は、教職員が関わりながら地域課題を解決する活動に参加するもの等が該当し、後者はサークル活動やボランティア活動などである。昨年度（令和 3 年度）から、前者の中でも特に学生が主体的に行う活動を「準正課活動」と定義し、以下のような活動に対して大学が支援することとした。

① 教職員の指図や干渉によらずに、自分の意思に基づいて行うもの。
② 岡山創生学課程の演習でお世話になった団体等へ交渉し、演習終了後も継続して自主的に活動することも該当する。
③ ②以外の既存の団体に属して自主的・主体的に活動することも該当する。
④ 自治体が主催・募集する学生活動、地域の課題解決に取り組む民間企業での業務（インターンシップを含む）に自ら参加する活動も該当する。
⑤ 学生自身が活動グループを立ち上げて、主体的に活動することも該当するが、2 名以上の学生または地域の方との実践を求めるので、一人での地域清掃などは該当しない。

教職員の関わりは、準正課活動が行える団体等の情報提供、活動開始前の相談に対する助言、活動中の進捗確認や中間報告、最終報告のアドバイス等であり、当面は地域創造戦略センター社会連携教育推進部門やボランティア部門の教職員が対応している。

今年度は 17 件の活動申請があり、活動の承認を受けた 28 名の学生が準正課活動に参加している。12 月 10 日（土）には中間報告会を実施し、それぞれの活動の進捗状況、課題や今後の予定などを報告した。本報告会は地域創生推進士の認定審査会も兼ねており、発表した学生は副学長（社会連携・国際担当）、地域創造戦略センター長、社会連携教育推進部門の教職員からの質疑に応答し、今後の活動へ向けてのアドバイス等を受けた。

6-2 「令和 4 年度高校生と大学生の地域における探究学習の成果報告会」

地域での探究学習を実践した内容について応募があった高校生と、前年度に準正課活動を実施した大学生が互いの成果を発表する報告会である。地域との連携・協働に関する学びの成果を発表、議論することにより、地域における課題を認識し、その解決に向けたより良い提案を形成していく力を引き出すことを目的としたものである。

今年度はポスター発表形式により実施した。当日の概要は以下のとおりである。

(1) 日時　令和 4 年 5 月 28 日(水)10 時～12 時
(2) 会場　大学学部共通棟(東)8901～8904 教室
(3) 参加高校一覧（7 校、9 演題）

高校名	発表タイトル（50 音順）	発表者数
玉島	雨水からの安全な水の確保	2
岡山芳泉	色を使った玉野市振興についての研究	1
岡山芳泉	岡山県における地域医療の現状と課題 ～これからの私たちにできること～	1
岡山芳泉	各世代が持つ、それぞれの問題を解決するためには	2
岡山後楽館	自転車先進都市岡山を目指して	4
総社	そうじゃ！　商店街へ行こう	2
玉島	玉高生が寄り道したくなる店の特徴	3
矢掛	ベトナム日本語教室で win-win-win な関係に	5
倉敷中央	私たちが今できること～Challenge・Connect・Chuo 3C で地域の未来に貢献～水島臨海鉄道に寄り添って	2

（4）参加学生

令和 3 年度に準正課活動を実践した看護学科、栄養学科、保健福祉学科、人間情報工学科、造形デザイン学科から 28 名が参加した。

6-3 地域創生推進士認定

「岡山創生学課程」は、地域「おかやま」を知り、地域「おかやま」を学ぶだけでなく、地域「おかやま」に飛び出して、学生の社会人力を地域とともに育てることを目的としている。令和 4 年度は岡山創生学課程の所定の単位を修得し、以下に示す認定要件を満たした 3・4 年生 23 名を認定し、3 月 14 日（火）に『地域創生推進士』認定証の授与式を挙行した。

【地域創生推進士の認定要件】

次の(1)および(2)を満たす学生に「地域創生推進士」の称号を授与する。

(1) 表 2 中、次に示す必要単位を取得すること。

(ア)「社会連携要論」、「地域創生演習」、「地域資源論」、「地域創生実践論」の計 5 単位。なお、★印で示される授業科目は、通常は選択科目であるが、地域創生推進士の認定を受けるためには、必ず修得すること。

(イ)「社会を生きる力を学ぶ」、「地域インターンシップ」、「地方自治論 Q」、「チームガバナビリティ演習」、「地域保健福祉演習」、「エンジニアリング演習」、「デザインプロジェクト演習」の中から 5 単位。ただし、保健福祉学部学生は「統合実習」、「公衆栄養学実習Ⅰ」、「公衆栄養学実習Ⅱ」、「ソーシャルワーク実習」、「保育実習ⅠB」の中から 2 単位以上を修得すれば、必要単位数の中から 2 単位を修得したものとする。なお、◆印で示される授業科目を 1 科目以上含むこと。

(2) 次に示す公開イベントのいずれかにおいてポスター発表あるいは口頭発表を行うこと。

(ア) おかやま COC+シンポジウム

（イ）OPU フォーラム

（ウ）公立大学協会 LINKtopos 学生大会

（エ）その他、地域創造戦略センターが認定する公開イベント（関連する学会、研修会など）

ただし、今後変更することがある。

7 まとめと課題

「岡山創生学課程」では、主に学部 1～3 年次生を対象に、「地域で活躍できる人材」の育成を目的として、3-1 節で詳述した地域を志向した基礎科目と実践科目を配置し、予定どおり開講した。

「吉備の杜クリエイター課程」では、「持続可能な地域の未来が展望できる雑草型人材」の育成を目的として、4 節で詳述した企業・地域との合体教育を志向した「食と栄養と健康を温め羅ねる杜」「地域の ICT 技術を温め羅ねる杜」「森と建築と匠を温め羅ねる杜」の 3 つのサテライトプログラムに配置される専門科目と PBL 型未来型プロジェクトを予定どおり開講した。本年度をもって、「吉備の杜クリエイター課程」は完成したこととなる。

「吉備の杜プロデューサー課程」では、「ヒューマンスキル×即戦力を身につけた雑草型リーダー」の育成を目的として、5 節で詳述した企業・地域との統合教育を志向した上述した 3 つのサテライトプログラムに配置される PBL 型創造戦略プロジェクトと大学院クロスセクションに配置されるリベラルアーツ教育を志向した授業科目を予定どおり開講した。なお、本年度は COC+R の中間評価の年であり、本学の事業は A（計画どおりの取組であり、現行努力の継続により本事業の目的を達成することが期待できる）判定であった。

副専攻全体を通じた今後の課題として、以下のものが挙げられる。

（1）「吉備の杜プロデューサー課程」の完成を受けて、副専攻「吉備の杜」を構成する 3 つの課程の独自性を維持しつつ、6 年一貫性を意識したキャリア教育としての改善。とくに、インターンシップ系演習科目や PBL 系演習科目の整理。

（2）「採用と大学教育の未来に関する産学協議会（通称：産学協議会）」の協議に対応した、経済産業省・文部科学省・厚生労働省による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方（通称：三省合意）」の改正にともなう新たなインターンシップの定義への対応。

（3）対面実施を主体として、オンライン授業の実施実績を組み込んだ、コロナ後の新た授業実施形態の構築。とくに、オンライン授業における効果的なアクティブ・ラーニングの導入。

（4）未来型プロジェクトと創造戦略プロジェクトの履修者の確保。

（5）学生および教職員へ対する副専攻の周知。とくに、オリエンテーション、広報誌、SNS 等を活用した周知の充実。

（6）COC+R 事業は令和 6 年度で終了することから、事業終了後の自走に向けた教育プログラムの見直し。

さらに、各課程における課題として、以下のものが挙げられる。

・岡山創生学課程：本学のキャリア教育の方針に沿ったカリキュラムを構築するため、吉備の杜クリエイター課程と密に連携しながら、副専攻科目の実施と検証を行い、社会連携教育の

充実を図る。また、地域創生推進士の認定要件として制度化した準正課活動について、学内での広報、支援体制の拡充が必要である。

・吉備の杜クリエイター課程：岡山創生学課程の長期インターンシップ科目と未来型プロジェクトと差異、ひいては創造戦略プロジェクトとの差異を明確にし、受け入れ機関へアナウンスすることが必要である。

・吉備の杜プロデューサー課程：クロスセクションについて、大学院生が高年次教養教育の意義や重要性を十分認識しておらず、これらを学ぶ科目を設置する必要がある。さらに、教養の重要な要素をバランスよく履修させるべきであるが、そのような科目体系となっておらず、早急な体系化の必要がある。また、リカレント教育として提供している科目について、オンデマンド環境が動画配信のみとなっているが、レポート提出機能、連絡事項配信機能等を追加した環境の整備が必要である。

第 2 部　全学センターにおける教育活動と成果

1　概要

平成 26 年 10 月に「大学教育開発センター」、「国際交流センター」の 2 センターが発足、平成 27 年 10 月からは、さらに「学術研究推進センター」がスタートし、この間、平成 27 年度における「教育研究開発機構」への 3 センターの合流・再編があった。平成 31（令和元）年度には、第 3 期中期計画の初年度として本機構を廃止し、「大学教育開発センター」内にあった学生支援部会とキャリア形成支援部会を事実上独立させ、正課外・ボランティア支援活動ならびに就職支援活動を合わせて学生支援全体を担う「キャリア・学生生活支援センター」として新設した。「大学教育開発センター」は「教育開発センター」と名称変更し、アドミッション、共通教育、教育評価ならびに FD・SD を担う部署としての機能を強化した。令和 2 年度には、「教育開発センター」から「アドミッション・高大連携センター」を独立させ、入試広報部門、高大連携部門、入学者選抜制度開発部門の 3 部門体制で発足させた。さらに、「地域共同研究機構」を廃止して、「地域創造戦略センター」として独立させ、ここにキャリア・学生生活支援センターからボランティア活動支援を担う部署をボランティア部門として移動し、正課外活動の支援は同センターの学生支援部門が担うこととした。この結果、「地域創造戦略センター」は産学官連携部門、地域連携部門、社会連携教育推進部門、ボランティア部門の 4 部門体制となり、「キャリア・学生生活支援センター」は、キャリア形成支援部門、就職支援部門、学生生活支援部門の 3 部門体制となった。また、「国際交流センター」は、広くグローバル教育を担うセンターとして体制を整備し、名称も「グローバルラーニングセンター」と改称した。

第 2 部は次のように構成されている。第 1 章は「教育開発センター」の 3 部門の活動と成果を記述した。第 2 章は「キャリア・学生生活支援センター」の 3 部門の活動と成果について記述し、センターと連携関係にある学生相談室と保健室の活動についても第 2 章で記載した。第 3 章は「グローバルラーニングセンター」における国際交流締結（MOU）校を主対象とする教育研究交流活動の支援を中心に、また、第 4 章は「学術研究推進センター」における研究倫理に関する啓蒙活動や研究支援に関する実績を柱にまとめて記述した。さらに、第 5 章は「アドミッション・高大連携センター」3 部門の活動と成果を記載した。センター活動の中で、「地域創造戦略センター」の活動は、主に社会貢献年報に記載するが、副専攻における教育活動と成果は第 1 部の第 3 章に記載した。

第１章　教育開発センターにおける教育活動と成果

1　概要

大学教育開発センターは、2014 年 4 月から半年の準備室の期間を経て、同年 10 月に発足し活動を開始した。2015 年度にはメンバー（センター員および幹事）を充実して大略現在の構成となって 2 年間の任期で活動を開始した。2018 年度末までには「アドミッション部会」、「共通教育部会」、「FD 部会」、「教育評価部会」、「キャリア形成支援部会」、「学生支援部会」の機能的 6 部会制をとっていたが、2019 年度より組織改革し、「キャリア形成支援部会」と「学生支援部会」の機能を一つに集約して「キャリア・学生生活支援センター」を設置したことに伴って、「大学教育開発センター」の名称を「教育開発センター」に改め、部会も「アドミッション部門」、「共通教育部門」、「FD 部門」、「教育評価部門」の 4 部門とした。更に大学の将来像を考慮して 2020 年度からアドミッションの機能強化のために、「アドミッション・高大連携推進センター」を設置したことに伴って、教育開発センターは、「共通教育部門」、「FD 部門」、「教育評価部門」の３部門制をとることとなり、この経緯から、教育開発センターは「教育の質」を中心に、その調査、評価、改善、教員の教育力向上を検討するセンターとして活動することとなった。

2014.04	大学教育開発センター準備室設置
2014.10	大学教育開発センター設置 （6 部会制） ・アドミッション部会 ・共通教育部会 ・FD 部会 ・教育評価部会 ・キャリア形成支援部会 ・学生支援部会
2019.04	教育開発センターに名称変更 （4 部門制） ・アドミッション部門 ・共通教育部門 ・FD 部門 ・教育評価部門 （キャリア形成支援部会、学生支援部会は「キャリア・学生生活支援センター」として独立）
2020.04	アドミッション部門が「アドミッション・高大連携推進センター」として独立し、現在の 3 部門制へ

2022 年度は、2023 年度の機関別認証評価受審に向け、7 月に刷新された内部質保証体制に設置された総合 IR 室、総合戦略本部会議と連携し、2023 年度に向けた改善方針の策定に当たった。

2　各部門における教育活動と成果

2-1　共通教育部門

共通教育部門は、教育開発センター規程第 2 条第 1 項第 7 号に示される「共通教育の充実および共通教育と専門教育との連携に関する」業務を実施するために設置された部門である。共通教育科目に対するカリキュラムの企画・立案を行うとともに、教養教育の体系化、教養教育に対す

る評価基準の作成と実施、共通教育におけるアクティブ・ラーニング授業の企画と実施などが具体的な業務である。2022 年度の取組みの概要は以下のとおりである。

・英語力の高い学生の能力を更に高めるため、入学時に実施する TOEIC テストの高得点者を対象として、一般の学生に対するものよりも高レベルの内容の授業を行う Advanced class を開講している。令和 3 年度後期から 1 年次生を対象とする Advanced class を開講したが、今年度は 2 年次生を対象とする Advanced class についても開講した。昨年度に 1 年次生対象の Advanced class を受講していた 29 名(1 年次生の約 7.8%)のうち、半数弱の 13 名(2 年次生の約 3.6%)が今年度開講の 2 年次生対象 Advanced class を受講した。

・5 月に実施した入学時 TOEIC テストの高得点者から選抜された 33 名(1 年次生の約 8.6%)が 1 年次生対象の Advanced class を受講した。

・例年どおり、共通教育科目の学修成果の評価法について以下の検討を行った。(1)成績や履修人数の経年変化等の調査、(2)共通教育科目の達成度等に関する学生アンケート実施の可能性、(3)各教員の評価法の調査と意見の収集、である。これらを教育開発センターにて検討している各種学生アンケートと連携して課題を検討することとした。

・現代社会において必須となっているデータサイエンスの知識と、その実践に必要となる様々な技術の概要を学ぶ科目として、データサイエンス概論(全学部全学科対象、選択、1 単位)の開講準備を進めた。

最後に共通教育部門の今後の課題について、スケジュールも含めて述べる。

1. 共通教育全般について、目標を達成すべく内容を継続して検討、評価し、評価結果に応じて改善する。関連して教育に関する外部評価体制を念頭において、共通教育部内に教育上のデータをとりまとめる評価室を設置する。
2. 平成 30 年度から導入した教養新カリキュラム(人文・社会科学、自然科学、健康科学)の定着を図り、その中で新たなカテゴリーとして設定された「セミナー科目」を中心に、実施内容に応じて評価し、評価結果に応じて改善する。
3. 語学国際では、(1)第 3 期中期計画における ELP の学修成果指標となる 1 年次から 2 年次の TOEIC 平均点の伸び幅の目標達成に向けて、2 年次後期 ELP6 の単位取得に必要な TOEIC 最低得点を設定し、令和 2 年度より運用を開始している。今のところ効果的に運用されているが、これまでの状況を詳しく評価し、改善が必要な点が見出されれば必要な対策を講ずる。また、昨年度から導入した 1 年次生対象の Advanced class、および今年度から開講した 2 年次生対象の Advanced class の実施状況を調査・評価し、今後の運用に活かすことで、英語教育の更なる充実を図る。特に、2 年次における Advanced class 履修者数の減少への対策として、履修者への意向調査や、TOEIC 高得点者以外からの履修希望者の募集を実施する。一方、(2) 国際交流に関しては、国際交流センターと協働で、コロナ禍における語学文化研修、海外研修として効果的な方法や研修内容を検討する。
4. 社会連携では、令和 3 年度から開始した「吉備の杜」創造戦略プロジェクト(COC+R)に伴い、本学の学部教養教育の特性としての副専攻を拡充する等の社会連携教育の実施状況について調査・評価する。

5. 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトに伴って、令和４年度に実施した「大学院共通基盤科目（大学院クロスセクション）」の授業の実施状況を調査・評価して、評価結果に応じて改善する。

<table>
<tr><th rowspan="2">年度
項目</th><th colspan="6">第３期中期計画</th></tr>
<tr><th>H31</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr>
<tr><td>1.共通教育の検討、評価と改善</td><td colspan="6">検討、評価、改善</td></tr>
<tr><td>2.教養新カリの実施、評価と改善</td><td colspan="3">実施と評価</td><td colspan="3">改善</td></tr>
<tr><td>3(1).ELP の実施、評価と改善</td><td colspan="3">実施と評価</td><td colspan="3">改善</td></tr>
<tr><td>3(2).国際交流</td><td colspan="2">研修先の検討</td><td>研修方法と内容の再検討</td><td colspan="3">実施と評価</td></tr>
<tr><td>4.社会連携</td><td>ポスト COC+ 検討</td><td>検討</td><td colspan="4">「吉備の杜」創造戦略プロジェクト 実施と評価</td></tr>
<tr><td>5.大学院共通基盤科目</td><td>起案</td><td>検討</td><td colspan="4">「吉備の杜」創造戦略プロジェクト 実施と評価</td></tr>
</table>

2-2 FD部門

FD 部門では、「教育の質の改善」を目的に、主として、1) FD・SD 研修会、2) 相互授業参観、3) 授業改善意見交換会、4) アクティブ・ラーニングの推進について取り組んだ。FD・SD 研修会は、2022 年 9 月および年度末の 2023 年 2 月の 2 回開催した。また、相互授業参観結果を授業の実践に活かすための授業改善意見交換会を企画するとともに、教員への支援に関する取組を行った。以下、各取組についての詳細を報告する。

2-2-1 FD・SD 研修会

2022 年度は、「with コロナ社会における本学教育の方向性」（第 1 回）、および「対面授業を中心としていく中でのオンライン授業の活用と実践」（第 2 回）を実施した。COVID-19 対策の緩和もあり、第 1 回、第 2 回とも対面での開催とした。なお、講師の許可の下、両研修会はビデオ録画され、大学 HP 教職員専用サイトにアップロードし、諸事情により参加できなかった教職員も閲覧可能な状態としている。

2-2-1-1 第１回 FD・SD 研修会

［A］実施概要

【テーマ】 with コロナ社会における本学教育の方向性～学外から見た本学の強み・弱み

【日　時】 令和 4 年 9 月 29 日（木） 3 時限（12:40～14:10）

【会　場】 学部共通棟（東） 8904 講義室

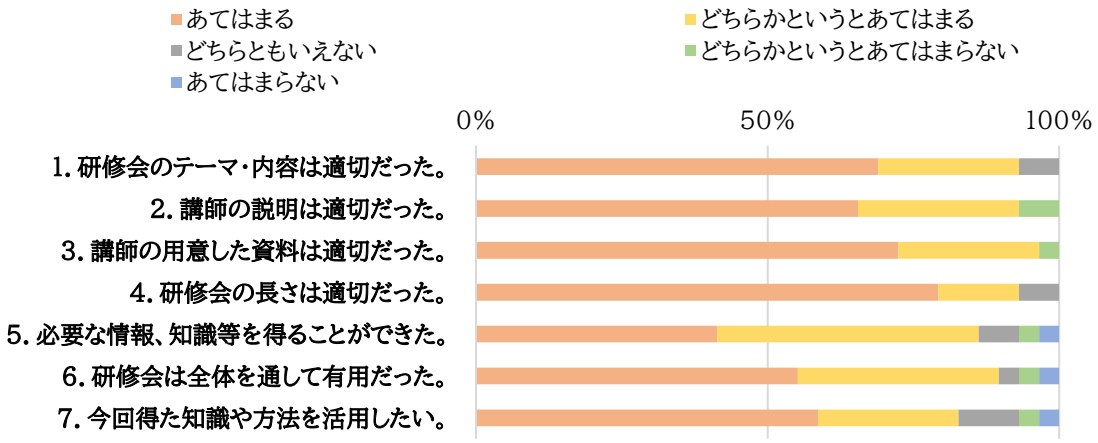
【講　師】 西村 眞 先生 （本学客員教授）

【参加者】 48 名 （保健福祉学部 19、情報工学部 8、デザイン学部 13、事務局 8）

【概　要】 研修会は、講師により約 1 時間の講演と、約 30 分の質疑応答で行われた。「学外から見ると、岡山県立大学とはどんな大学？」、「コロナ禍で損なわれた時間は、取り戻せるの？」、「そもそも大学とは何をするところ？」、「友達を作るには？」、「読書は必要？」、「スマホは時間の浪費？」、「個性とは何？」、「グローバル化に対応するには？」、「多様性は必要？」などのテーマについて、西村先生の長年にわたる企業実務経験、海外赴任経験、その後の大学教員（国立大学と私立大学）としての経験に基づいた示唆に富むものであった。客員教授としての本学との関わりから、本学の学生は、まじめで勤勉だが、無難で常識的である特徴があること、偏差値に毒されていること、これらを打破するためには、教員が研究の独創性をアピールするなど、教員の個性を全開にすることで学生の個性を呼び覚ますことが必要ではないかとの指摘があった。また、長年に及ぶ海外赴任経験から、学生のコミュニケーション力、語彙力、文章力を磨くためには、「大阪のおばちゃん」にみられるような「物怖じしない姿勢」を身につけることが重要であり、そのためには、個性ある 3 学部を融合した教育による多様性の涵養が重要であるとの意見が述べられた。最後に、「教育」とは、「教員の教える力」と「学生の育つ意欲」の乗算であるとの見解が強調された。

[B] 受講後のアンケート結果

対象者 48 名、回答数 29（回答率 60.4%）



8. 今後の研修会について、希望するテーマがあれば、具体的にご記入ください。

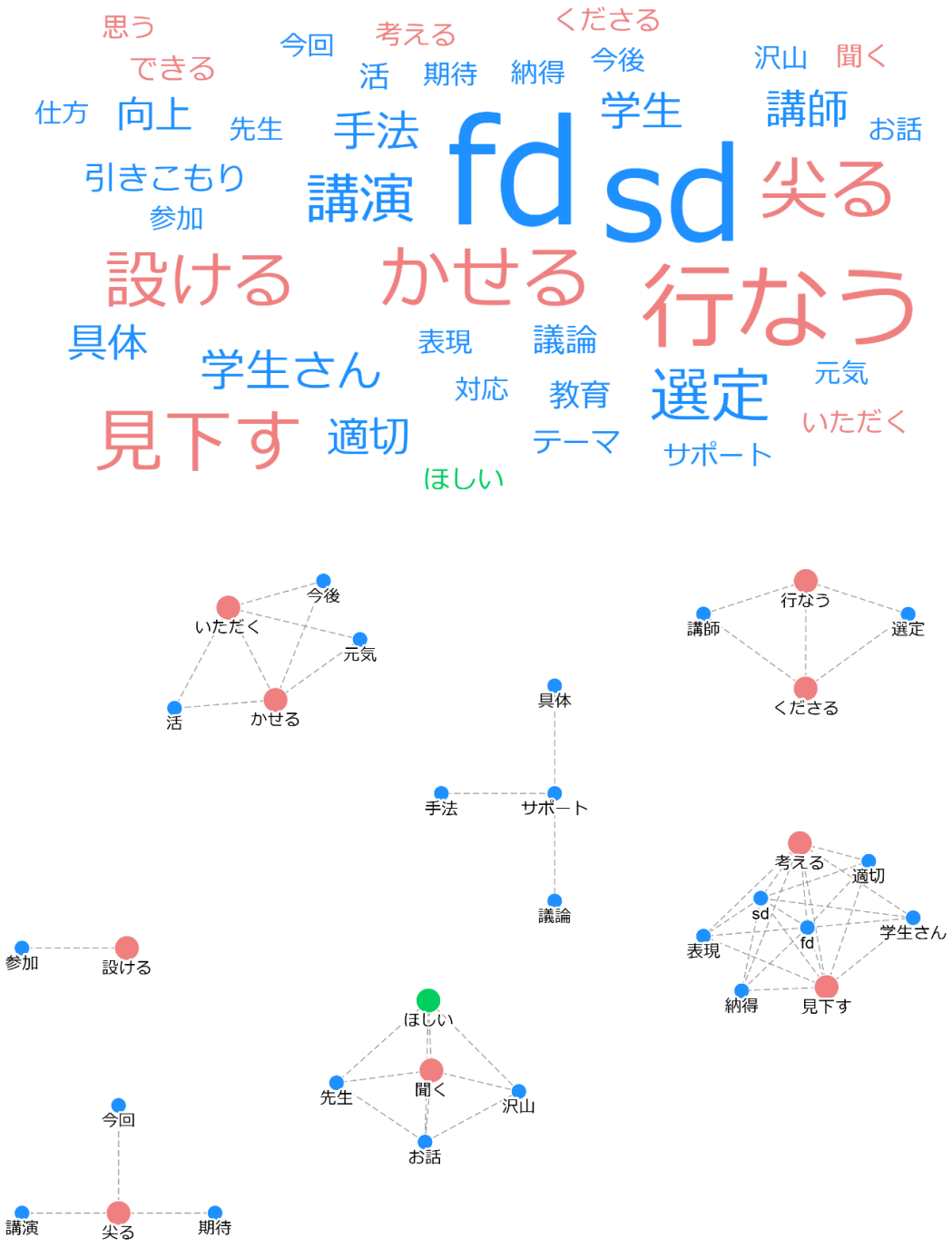
6 件の意見が寄せられた。ユーザーローカル AI テキストマイニングツール[1]によるワードクラウド[2]および共起ネットワーク[3]を示す。

---

[1] ユーザーローカル AI テキストマイニング, https://textmining.userlocal.jp/ （2023 年 5 月 1 日閲覧）

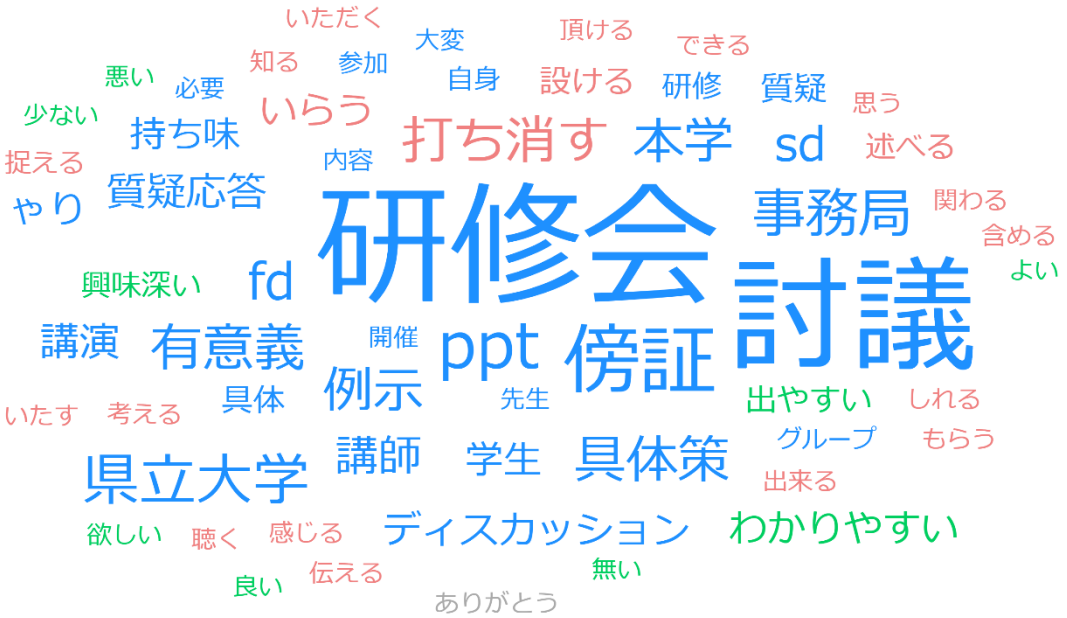
[2] スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示している。単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表す。

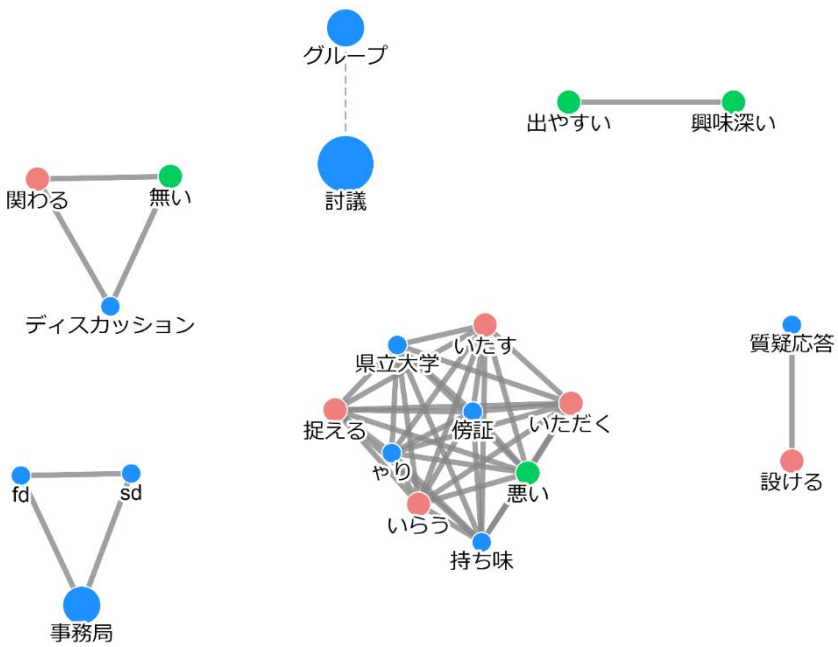
[3] 文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図であり、出現数が多い語ほど大きく、また、共起の程度が強いほど太い線で描画されている。



9. 研修会（講演、グループ討議、発表、実施方法等）への感想、意見をご記入ください。

16 件の意見が寄せられた。グループ討議へ時間を割くなどの希望が多かった。ユーザーローカル AI テキストマイニングツールによるワードクラウドおよび共起ネットワークを示す。


いただく
大変
頂ける
できる
悪い
必要
知る
参加
自身
設ける
研修
質疑
思う
少ない
いらう
持ち味
打ち消す
本学
sd
述べる
捉える
内容
やり
質疑応答
研修会
事務局
関わる
含める
興味深い
fd
討議
よい
講演
有意義
開催
ppt
傍証
例示
出やすい
しれる
いたす
考える
具体
先生
グループ
もらう
県立大学
講師
学生
具体策
出来る
欲しい
聴く
感じる
ディスカッション
わかりやすい
伝える
無い
良い
ありがとう


グループ
討議
出やすい
興味深い
関わる
無い
ディスカッション
県立大学
いたす
捉える
傍証
いただく
やり
悪い
いらう
持ち味
質疑応答
設ける
fd
sd
事務局

2-2-1-2 第 2 回 FD･SD 研修会

［A］実施概要

【テーマ】 対面授業を中心としていく中でのオンライン授業の活用と実践

【日　時】 令和 5 年 2 月 28 日（火） 3 時限（12:40～14:10）

【会　場】 学部共通棟（東） 8902 講義室

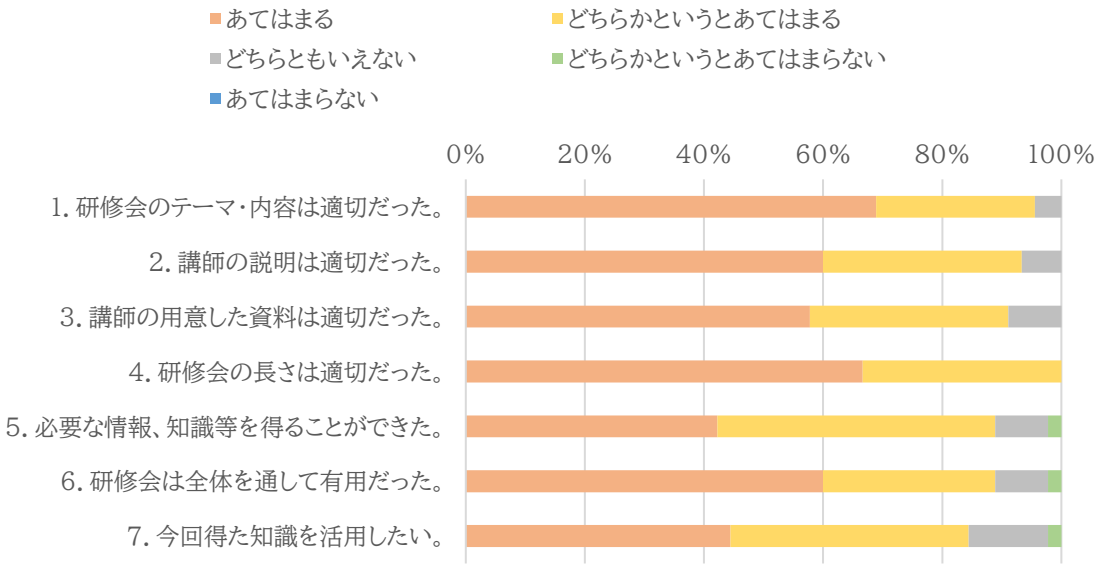
【講　師】 村上 正行 先生 （大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部 教授）

【参加者】 52 名 （保健福祉学部 25、情報工学部 15、デザイン学部 12）

【概　要】研修会は、講師により約 80 分の講演と質疑応答が行われた。講演では、まずコロナ禍において各大学が実施してきたオンライン授業のあり方について、具体的な事例を用いて解説がなされた。その運用の要点についても説明があり、双方向性の確保、孤立感の緩和、アクセシビリティへの配慮などが挙げられた。また、これから対面授業を再開していくにあたってのオンライン授業の取り扱いについて、大学設置基準におけるメディア授業の定義について説明がなされた。また、対面とオンラインとの併用としては、一つの授業の場合は、「ブレンディッド型授業」、「ハイブリッド型授業」、「ハイフレックス型授業」の 3 つの可能性が示され、それぞれのメリット、デメリットが説明された。また、この 3 年間で、学生がオンライン授業のメリットを理解するようになったことで、オンライン授業、特にオンデマンド型授業に対する学生の満足度が上昇傾向にあることも示された。講演の後半では、ITC を利用したアクティブ・ラーニングの実践例についても解説がなされた。講師の村上先生の大阪大学における教育工学の幅広い研究に基づいて、オンライン授業に関する現状と実践例について包括的な内容が示されるとともに、具体的なツールや情報源についても紹介されることで、教員にとって非常に有益な研修会となった。

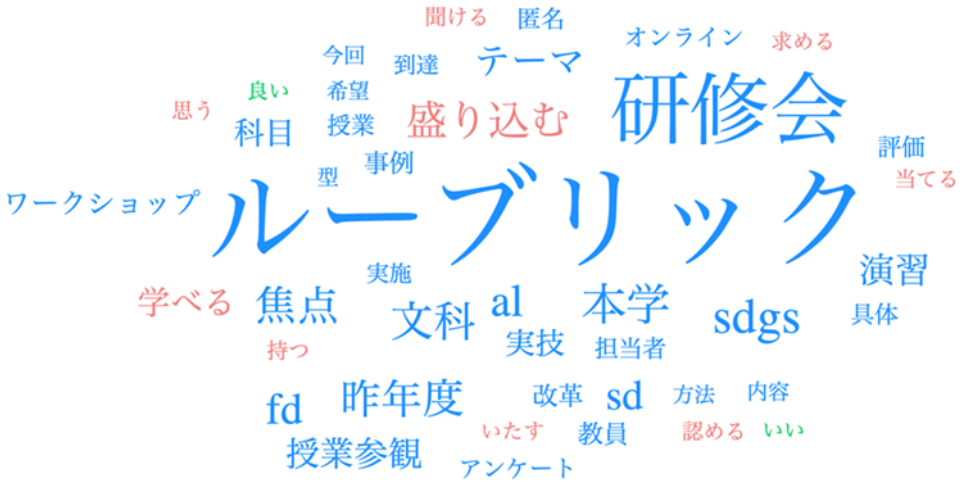
［B］受講後のアンケート結果

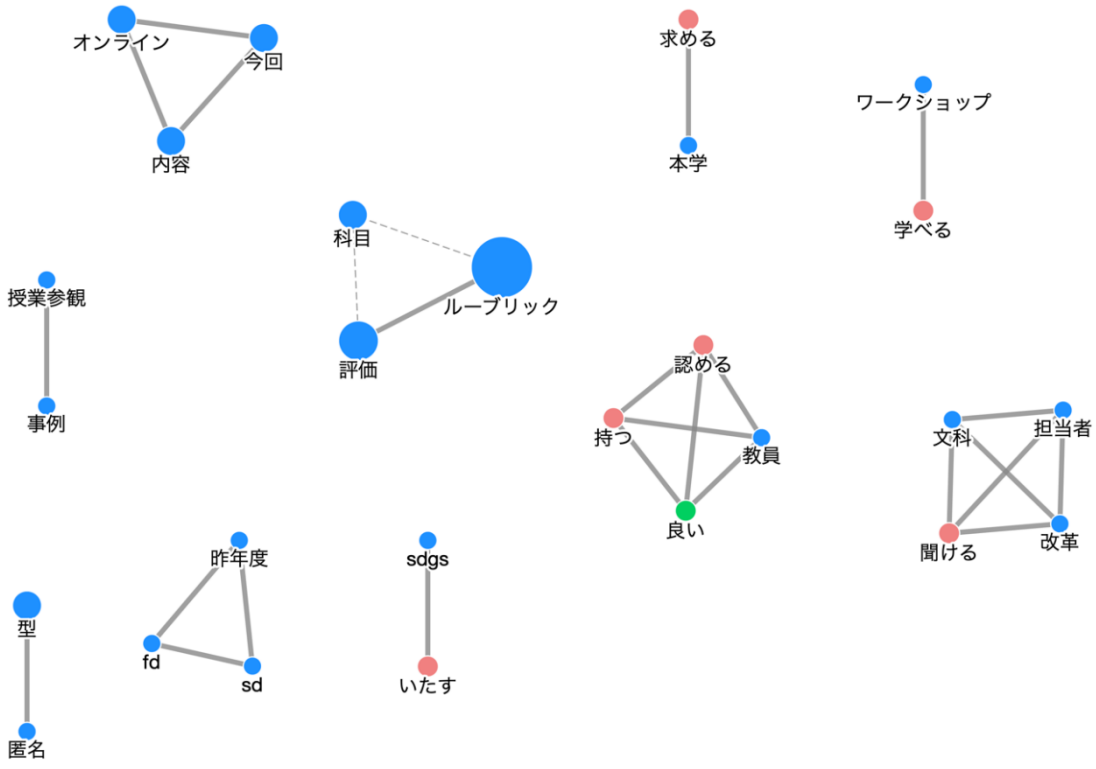
対象者 52 名、回答数 45（回答率 86.5%）



8. 今後の研修会について、希望するテーマがあれば、具体的にご記入ください。

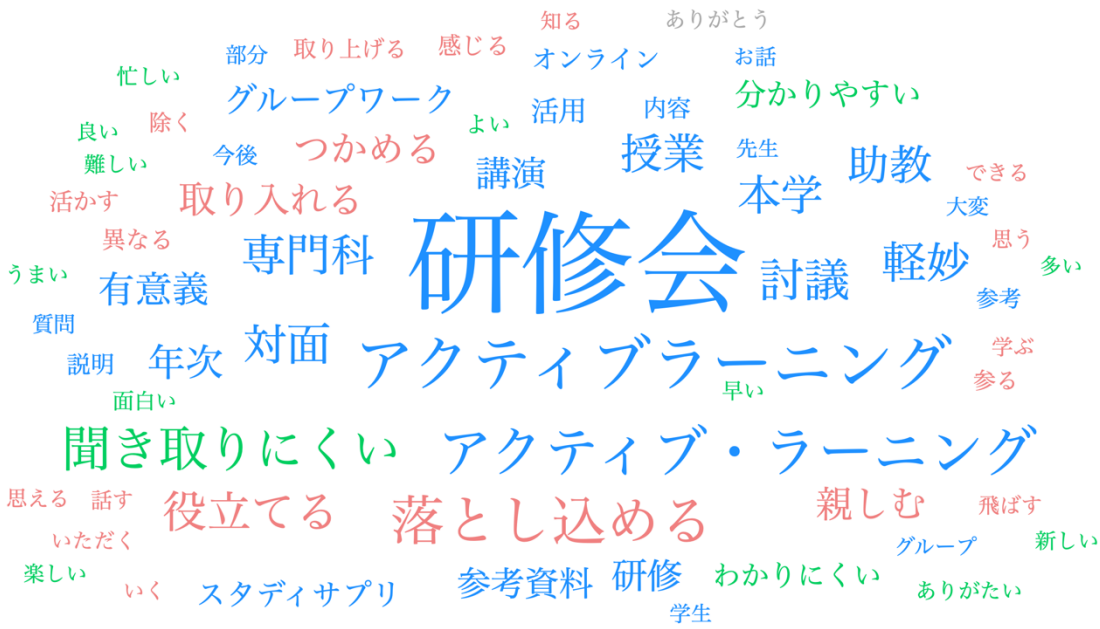
6 件の意見が寄せられた。ユーザーローカル AI テキストマイニングツール[1]によるワードクラウドおよび共起ネットワークを示す。

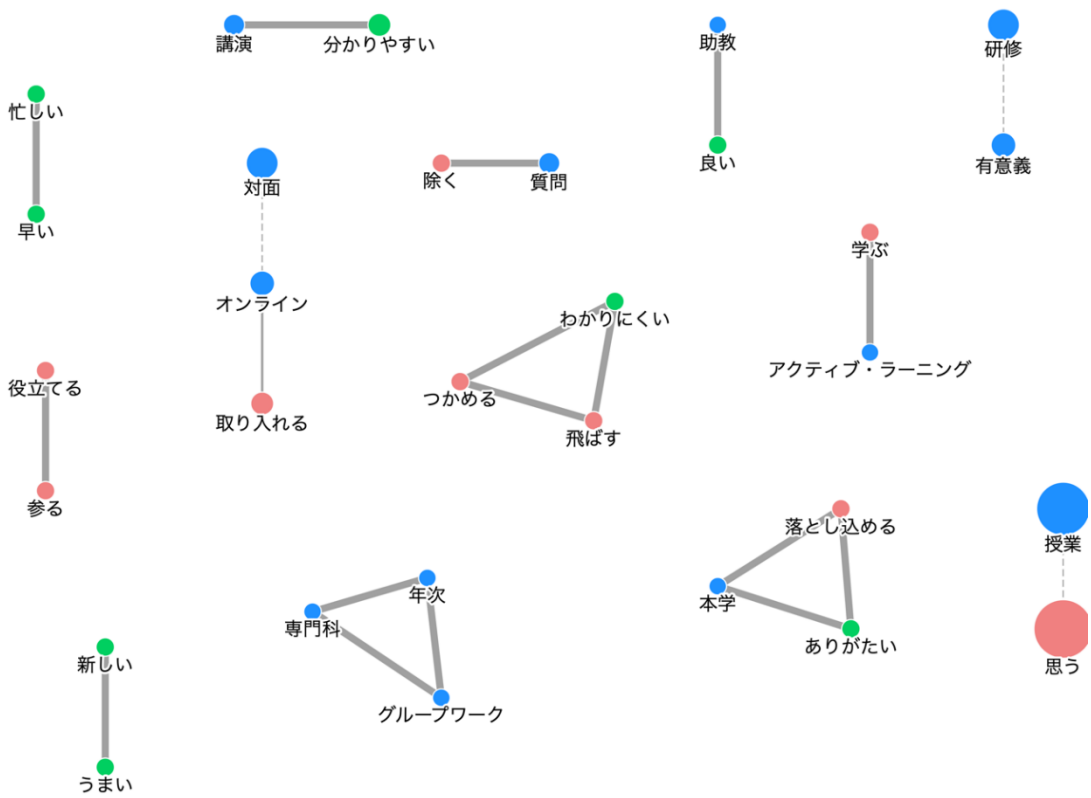




9. 研修会（講演、グループ討議、発表、実施方法等）への感想、意見をご記入ください。

21 件の意見が寄せられた。ユーザーローカル AI テキストマイニングツール[1]によるワードクラウドおよび共起ネットワークを示す。


知る
ありがとう
部分
取り上げる
感じる
オンライン
お話
忙しい
グループワーク
活用
内容
分かりやすい
良い
除く
よい
今後
つかめる
授業
先生
難しい
講演
助教
できる
活かす
取り入れる
本学
大変
異なる
専門科
研修会
討議
軽妙
思う
多い
うまい
有意義
参考
質問
学ぶ
説明
年次
対面
アクティブラーニング
参る
面白い
早い
聞き取りにくい
アクティブ・ラーニング
思える
話す
役立てる
落とし込める
親しむ
飛ばす
いただく
グループ
新しい
楽しい
いく
スタディサプリ
参考資料
研修
わかりにくい
ありがたい
学生


講演
分かりやすい
助教
研修
忙しい
良い
有意義
対面
除く
質問
早い
学ぶ
オンライン
わかりにくい
アクティブ・ラーニング
役立てる
つかめる
取り入れる
飛ばす
参る
落とし込める
授業
年次
本学
専門科
ありがたい
思う
新しい
グループワーク
うまい

2-2-2 相互授業参観

［A］方針

2005 年度の講演会、2006 年度のモデル授業参観の実績を踏まえ、2007 年度より授業の工夫や改善のための研鑽機会を設けるという目的のもと、全専任教員を対象とした相互授業参観を継続実施してきた。2022 年度においては、後期（第 3 クォーターおよび第 4 クォーター）にそれぞれ 3 週間実施した。

［B］実施内容

（1）目的

具体的な授業の進め方や指導技術について学び、自己の授業環境で活かすことのできる指導方法を模索することにより、よりよい授業づくりを推進する。

（2）実施方法

① 公開授業の開示

すべての専任教員（助手および科目を担当しない助教を除く）は、後期（第 3 クォーターまたは第 4 クォーター）より、公開する授業科目 1 コマ（授業形態は問わない）を選び、授業概要、月日、時限、教室名・アクセス方法などを知らせる。共通教育を兼務する教員は当該科目の公開を行なうものとする。ただし、実施期間に該当するものがない場合は学部教育科目でもよい。2 コマ以上の連続授業については、原則そのうちの 1 コマを公開する。

② 参観授業の選択

すべての専任教員は、公開授業一覧から参観希望授業を選択する（他学部教員の公開授業を参観してもよい）。複数授業科目の選択も奨励する。

③ 実施期間

後期・第 3 クォーター 10 月 17 日（月）～11 月 11 日（金）（3 週間）

後期・第 4 クォーター 11 月 28 日（月）～12 月 16 日（金）（3 週間）

（3）授業参観レポート

授業参観終了後、以下の観点についてレポートを記入し、公開教員にメール添付にて提出する。公開教員は、コメント欄にコメントを記入し、レポートを参観教員と各学科授業参観担当委員の双方にメール添付にて提出する。

① 観点別(6 項目)について、意見・助言の記入

観点 1) 授業の準備・導入

例)前回授業内容のふりかえり、出欠確認の仕方、学生への指針、環境づくり、等

観点 2) 授業の構成

例)アクティブ・ラーニングの活用、時間配分、構成・機材の活用、等

観点 3) 授業の展開技術

例)授業の展開、話し方や態度、理解度や到達度の確認、等

観点 4) 教材の内容・活用

例)教材使用のタイミング、視聴覚教材等の選定とバランス、理解度を深める工夫、等

観点 5) 学生への関わり

例)個々の学生への対応、学生の参加を促す工夫、集中力を持続する工夫、等

観点 6) 授業のまとめ

例)授業内容のまとめ方、予復習など自己学習を促す工夫、等

② その他、授業全体を通して参考となった点・工夫が見られた点・助言等(自由記述形式)

③ 今後、自身の授業改善において具体的に採り入れたい点(自由記述形式)

[C] 相互授業参観の結果

相互授業参観後に提出された授業参観レポート 67 件を分析した結果は次に示す内容であった。

(1) 参観報告者と授業公開者の集計表

			授業を公開した教員の所属										合計	
			保健福祉				情報工			デザイン				
			看	栄	現	子	通	シ	人	ビ	芸	建		
参観した教員の所属	保健福祉	看	6			3							9	26
		栄		3	1	1							5	
		現	1		4	1							6	
		子				5				1			6	
	情報工	通					4			1			5	20
		シ						3	2				5	
		人						1	9				10	
	デザイン	ビ								3		4	7	21
		芸								3	5	2	10	
		建				1				2		1	4	
合計			7	3	5	11	4	4	11	10	5	7	67	
			26				19			22				

(2) 授業を参観した教員数(カッコ内は参加率[%])の変遷

学部・学科＼年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
保健福祉学部	21(32)	19(28)	12(17)	コロナ禍により中止	21(32)	26(39)
看護	4(19)	2(10)	5(23)		3(20)	9(45)
栄養	4(22)	8(42)	3(16)		5(28)	5(28)
保福	13(48)	9(32)	4(14)		−	−
現福	−	−	−		5(28)	6(35)
子ど	−	−	−		4(40)	6(55)
情報工学部	28(49)	16(31)	12(25)		26(51)	20(41)
通信	11(52)	6(30)	5(25)		8(42)	5(29)
シス	10(50)	3(17)	3(17)		7(39)	5(28)
人間	7(44)	7(54)	4(40)		11(79)	10(71)
デザイン学部	19(68)	10(24)	9(23)		22(59)	21(58)
デエ	6(32)	3(16)	6(33)		−	−
造形	13(59)	7(32)	3(14)		−	−
ビジ	−	−	−		7(64)	10(91)
工芸	−	−	−		8(50)	7(44)
建築	−	−	−		7(70)	4(40)
全学	68(42)	45(27)	33(21)	−	65(42)	67(44)

(3) 6 つの観点別の意見・助言の結果

観点 1) 授業の準備・導入

「前回の授業内容の復習に十分な時間(10 分程度)をとっており、学生が授業に入りやすいようにされていた」や、「声かけや体操で学生の緊張をほぐしていた」などの工夫が紹介された。また、「講義の最後に小テストで出欠確認は、二度手間にならないので良いと思う」など、効率的な出席の確認方法が指摘された。

観点 2) 授業の構成

授業の構成では、「事例についてペアで話し合う時間を設け、発表という手法を用い能動的に学べる工夫をしていた」などアクティブ・ラーニングを効果的に活用していた意見や、「授業の中間(45 分頃)に 5 分弱の休憩時間を設けていた」など効率的な時間の使い方に関する意見があった。また、「分子模型などスライド以外の教材を使用していたため、受講者の興味を引きやいように感じた」といった、効果的な機材の活用に関する意見があった。

観点 3) 授業の展開技術

授業の展開技術では、「新しいことを説明する際に、身近な例を多く挙げることで、学生が理解しやすいようにしていた」など、授業の展開に関しての肯定的な意見、「常に穏やかで、優しい

口調で語りかけていたので、学生たちは緊張せず実施出来ると感じた」など、話し方・態度・技術に関しても肯定的な意見があった。

観点 4）教材の内容・活用

教材の内容・活用では教材を使用する時間、機会に対して、「ハンドアウトを授業終了後に Teams にアップするという方法は、学生が手元でなく、前をみて授業を受けることができるので、一層インタラクティブな授業展開ができる」や、「QR コードによる Google Forms 利用、出席と集計に効果的に行われていた」という指摘があった。また、「常に学生自身に考えさせながら授業が展開されており、理解度が高まる工夫がなされていた」など、理解度を深める工夫に関しての意見があった。また、教材の選定とバランスに関しては、「授業はスライド、電子教科書はモニターと用途により使い分け、学生が見やすいように工夫されていた」という指摘があった。

観点 5）学生への関わり

学生への関わりでは、「教員が提示したところまで出来ていない学生には、個別で丁寧に対応していた」など、学生個々への対応ができているといった意見や、「ミニワーク、発表によって学生の参加が促されている」など、学生の参加を促す工夫が取り上げられていた。また、「学生の集中力がなくなるときに、実際の物品を学生が手に取り見せるのは効果的である」といった学生の集中力持続への工夫が取り上げられていた。

観点 6）授業のまとめ

授業のまとめでは、「授業内では取り組まない内容についても紹介し、課題をこなすだけで終わらないように指導していた」など、予習・復習を促す工夫について指摘されていた。また、「課題を基礎編と発展問題の 2 種類用意したり、さまざまな参考資料を紹介したりするなど学生の主体的な学びを促す工夫がされている」など、自己学習を促す工夫に関しての意見があった。さらに、まとめ方に関しては、「授業の始めに授業目標を学生に記入させ、終わりに感想を記入させることで、授業の振り返りが効果的に行われている」等の工夫があったことが取り上げられていた。

授業全体を通して参考となった点や工夫が見られた点では、「上級生が参加することで、下級生にとっても良い刺激になる」や「先生方の役割が明確で、学生に介入しすぎず、かといって放置しているわけではない関わり方」など、授業の展開方法の工夫や、「Google Forms による復習課題、授業途中での練習課題など、学生に飽きさせない工夫がされている」など、オンラインツールの活用が指摘されていた。さらに、「講義室の扇風機、加湿器使用、換気、CO_2 の測定等感染症対策が実施できていた」などの意見もあった。

今後、自身の授業改善において具体的に採り入れたい点では、「丁寧な事前調整と学生グループを活用した準備」、「講義への集中力の復活・持続を期待して、授業の中間（45 分頃）に 5 分弱の休憩時間を設ける」、「授業ごとに到達目標に関する基準（ルーブリック）を作成することは、教える側としても評価する際の項目や基準が明確になる」、「理解度の確認テストの実施」といった、今後採り入れたい内容についての意見があった。

授業公開教員コメントでは、参観者の意見や助言に対し今後参考にしたいといったコメントがあった。また、参観者の肯定的な意見や参考にしたい内容に対して、公開教員から丁寧に補足説明がされているコメントもあった。

2-2-3 授業改善意見交換会

[A] 実施概要

コロナ禍における授業に関する様々な工夫や取り組みについて、相互授業参観を元に意見交換と情報共有により、授業改善を目的として、授業改善意見交換会を開催した。昨年度はオンライン形式にて開催したが、今年度は対面形式にて下記のとおり開催した。なお、対面実施は 3 年ぶりとなった。

日時：令和 5 年 2 月 21 日（火）10:20～11:50
場所：オンライン（学部共通棟（東） 8904 講義室）
参加者：教員 41 名、職員 1 名

1. 開会のあいさつ（榊原センター長）
2. 相互授業参観の実施結果報告（大下 FD 部門員）
3. グループディスカッション、発表、質疑と総括
   テーマ① 相互授業参観実施結果の感想・授業参観の方法に関する要望など
   テーマ② with コロナの時代に学生の資質や変容をふまえて、
   より良い授業を行うための工夫など
4. 閉会のあいさつ（河合 FD 部門長）

今年度は教員 41 名が参加し、昨年度 43 名とほぼ同じ参加者数だった。学科別グループとし、グループディスカッションを行った。なお、本会の成果資料である相互授業参観の実施結果報告資料と、グループディスカッションの記録資料については、参加・不参加に関わらず全教員が共有できるよう、本会終了後の約 1 ヵ月間「WaWaOffice 掲示板」に掲示した。

[B] グループディスカッション

10 グループ（学科別グループとし各 3 名～6 名、計 41 名）で上記の 2 テーマについて、約 20 分間のグループディスカッションを行った。その後、各グループ代表者がディスカッション結果を発表した。各グループのディスカッション内容を以下に抜粋して紹介する。

テーマ① 相互授業参観について
【実施結果報告の感想】
（1） 相互授業参観に活発に取り組むことができた。
（2） 他の先生の工夫が大変参考になった。
（3） 特に、学生への参加の促しが参考になった。
（4） 今回人の授業を見て、改めて刺激になった。

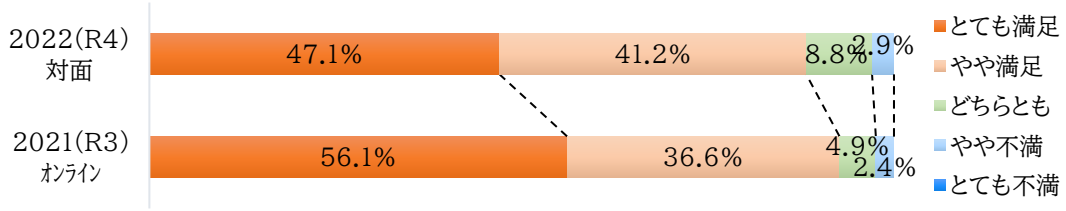
（5）参観レポートの簡素化によって書きやすくなり、参加しやすかった。
【授業参観の方法に関する要望】
（6）授業参観の実施時期が長いほうが公開授業を調整しやすい。
（7）いつ公開・参観しても良いという方法もあるのではないか。
（8）「参観レポート」に関して、助言しやすいように変更してほしい。
（9）レポートの軽量化（コメント項目数を減らす）。
（10）模範授業の案内（授業評価アンケートの上位を教員の同意を得て公表する）。
（11）本会の効果評価・フィードバック（本会の参加で教員が実際に授業に活かせているか）。

テーマ② with コロナの時代により良い授業を行うための工夫など
【現状】
（1）オンラインでダメになった学生もいれば、助かった学生もいた。
（2）オンラインでの教育環境の「平等」は難しい。
（3）学生を 90 分集中させるのがさらに難しくなった。
【今後必要と考えられる工夫】
（4）学生同士の意見交換、グループディスカッションを評価に入れる。
（5）異学年交流など授業や場を設定する。
（6）課題などはまず個人ワークを行わせ、そのあとでグループワークを行わせて学生同士で協力してもらう。
（7）アクティブ・ラーニング教室では、二つのプロジェクターが様々な用途で利用できる。アクティブ・ラーニング教室の拡充が必要。
（8）オンライン教材の活用・そのためのオンライン環境整備が必要。

[C] 授業改善意見交換会後のアンケート結果

Google Forms でアンケートを行った。対象者数 41 名、回答数 34 件（回答率 82.9%）。今年度（対面実施）と昨年度（オンライン実施）のアンケート結果を比較して以下に挙げる。オンライン実施の方がやや高い満足度であるが、対面実施の方が時間的に長いという印象を与えにくいことがわかる。

実施方法について
今年度の対面実施より昨年度のオンライン実施のほうが、満足度がやや高い結果となった。

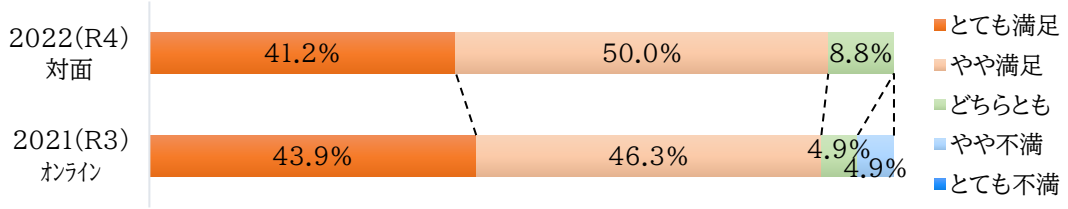


自由記述数 21 件。一部を紹介する。

感想	対面の方が深いディスカッションができるし、場の雰囲気も伝わると思いました。
	貴重な対話や共有の機会となりました。
	グループが学科ごとに分かれていたため、短時間でも色々な意見交換ができました。
	他学部他学科の先生方のご意見を伺うことができ、専門は違えども学生の共通点など知ることができとても興味深かったです。
要望	グループでの意見交換はもう少し時間があるとよかったと思います。
	学部学科を跨いだグループの方がよい。

テーマ内容について

「とても満足」+「やや満足」の割合は昨年度同様、約 90%だった。

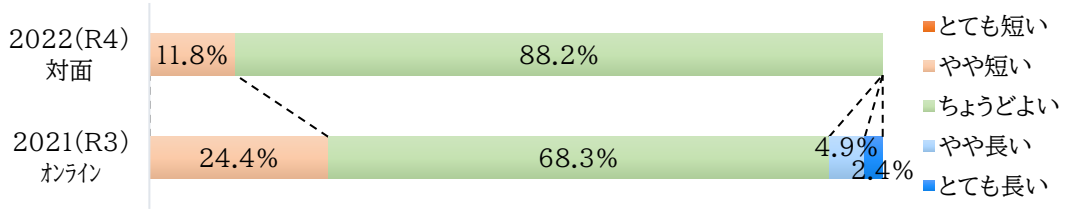


自由記述数 19 件。一部を紹介する。

感想	タイムリーな討論事項で良かったです。
	普段は学科で授業に特化して教員同士で語り合う時間はないので、学科の先生方と集中してお話できて良かった。
	設定されていた 2 つのテーマが、どちらも興味深かったため。
	教員間で自然に雑談できる場は大切だと思います。結果を出そうと身構えてしまうと少し息苦しくも感じます。
要望	相互授業参観の実施結果がわかったのがとてもよかったです。学科の先生とはいろいろと話ができているので、学科内でのディスカッションでは新鮮な内容があまり出てこなかったようにも思います。学部内でシャッフルするとか、共通教育部兼務の先生でグルーピングするとか、班の作り方を少しずらしていくと面白そうだなと思いました。
	もう少し意見を交換できたらいいと感じた。

実施時間について

「ちょうどよい」という感想が昨年度から増え、90 分の実施時間が広く支持される結果となった。対面形式では、「やや長い」、「とても長い」という回答がなかった。昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、10 分短い 80 分のオンライン形式で実施したが、「やや長い」+「とても長い」という回答があった。

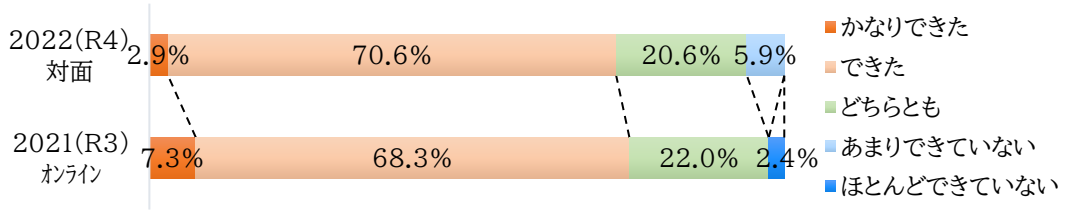


自由記述数 10 件。分類して一部を紹介する。

やや短い	グループディスカッションの時間が短すぎる。テーマを一つに絞った方がよい。
	いつも、結局、慌ただしさが拭えない。
ちょうどよい	時間が短いと思うくらいがちょうど良いと思います。
	適切な時間配分で会が進行していたと思います。ご担当された先生方、ありがとうございました。
	議論はもっとできそうだが、教員としては一コマが限度では。
	グループワークがあったため 90 分が適当と思いました。

必要な知識・方法を学べましたか

「かなりできた」+「できた」の割合は 73.5%で昨年度とほぼ同じだった。



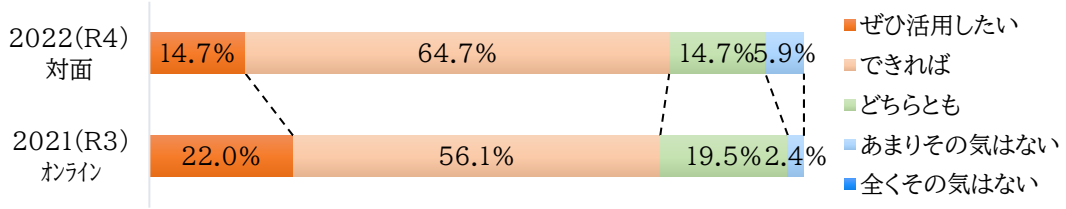
自由記述数 23 件。分類して一部を紹介する。

かなりできた・できた	多くの先生方が様々な工夫を凝らしておられるのが伝わってきて、自分も見直さなければという気になりました。
	アクティブ・ラーニング室の活用方法について。
	授業についてのオンライン化は引き続き行われるべきである、という点。
	例えば自主性を育成するために、正論(演繹法)のアプローチも大切だが、帰納法で成功事例を作り出して環境的に学生に学んでもらうことの有効性に気づくことができたから。
	出席の取り方、ふりかえり、反復等の方法について。
どちらとも・あまりできていない	知識としてはあるのですが、それを具体的にどう実践していくか、というところのノウハウ不足を痛感していますが、そこまで突っ込んだ議論はできませんでした。
	全体を通して出てきた内容は、既に実施しているものがほとんどだったから。

	「実施結果報告」は工夫してまとめられているが、全学部羅列形式であるため、漠然としたものにしか見えない。

得られた知識を活用しますか

「ぜひ活用したい」+「できれば活用したい」の割合は 79.4%で昨年度とほぼ同じであった。



自由記述数 23 件。分類して一部を紹介する。

ぜひ ・できれば	横のつながりや縦のつながりを一層充実させる。
	学生は急激な社会的背景の変化にも素早く適応し変化し続けるので、それに合わせた対応は都度都度必要であり検討していかなければいけないということを感じた。
	授業へのグループ活動の取り入れ方。
	授業を録画しておいて、出席停止者向けに利用すること。
	授業中にブレイクタイムを入れること。
どちらとも ・あまり	あまり目新しいことがなかったので。
	全体を通して出てきた内容は、既に実施しているものがほとんどだったから。

授業改善意見交換会に対する感想、意見、希望等

記述数 20 件。一部を紹介する。

(1) とても有意義な会でした。ありがとうございました。

(2) コロナ禍となり、教員のほうこそ、他学科・他学部の教員と授業技術について意見交流する機会が減ったのではないかと思います。今回は、先生方と困り感や現状の共有ができてとても有意義な時間となりました。意見交換会は、現状の課題について共有したり、意見交換をしたりする役割で良いように思います。もしも、授業に関する知識や方法を活用する、という方向性での授業改善意見交換会？をするのであれば、もっと授業方法に絞った内容(たとえば AL 室の活用について、AL の導入について、オンライン授業の実施について、など)にテーマ設定されて議論をした方が良いかと思いました。

(3) 講義授業が大好きで大学教員になったような気がするので、これからもできる限り腕を磨いていきたいなと思っています。そのためにはとても参考になるものなので、引き続き開催していただけるとありがたいです。

(4) 今回は同じ学科で話し合えたことが良かったと思います。これまで参加した FD は学部を超えたグループであったため、お互いの情報交換だけで終わることがほとんどでした。学部を超えた意見交換が効果的なこともあると思うため、話し合うテーマによって、変えてもいいの

かなと思います。
（5）交換会で出た生の声を上層部に伝える仕組みを作っていただきたい。そして、それに対する上層部の回答を聞きたい。
（6）スムーズな運営で素晴らしいと感じました。興味のあるテーマ「価値観・人間観・社会観などの変容にどう付き合うか」、「アンケートでは測れない側面について」、「教育の表面と実情とのギャップ」など。

2-2-4 FD 研修会等への教員の参加

2022 年度において、教育開発センター、キャリア・学生生活支援センター等から実施した次の計 10 個の FD・SD 活動への教員参加状況は、次表のとおりとなった。なお、FD・SD 活動実施後に大学 HP 教職員専用サイトなどに掲載された動画視聴による参加は、含まれていない。

（1） 新課程入試情報セミナー（2022.4.27 対面）
（2） 第 1 回 FD・SD 研修会（2022.9.29 対面）
（3） 相互授業参観（2022.10.17～11.11、2022.11.28～12.16 対面・オンライン）
（4） ハラスメント防止研修会（2022.11.29 オンライン）
（5） メンタルヘルス研修会（2022.12.14 オンライン）
（6） メンタルヘルス研修会（2023.2.15 オンライン）
（7） 授業改善意見交換会（2023.2.21 対面）
（8） 「吉備の杜」シンポジウム 2022（2023.2.22 ハイブリッド）
（9） 第 2 回 FD・SD 研修会（2023.2.28 対面）
（10） 障がい学生支援研修会（2023.3.14 オンライン）

学部（教員数）	2022 年度参加率
保健福祉学部（66）	78.8%
情報工学部（49）	85.7%
デザイン学部（37）	81.1%
全学（153）	81.0%

2-2-5 アクティブ・ラーニングの推進

本学では、アクティブ・ラーニング（以下、AL）の導入を推進する取組を行っている。以下に本年度の実施状況についての調査結果を報告する。

[A] 実施概要

2023 年 2 月 2 日から 20 日にかけて、AL の実施状況調査を FD 部門が主体となって行った。調査対象者は本学専任教員、調査対象科目は 2022 年度履修案内の開講計画にある講義科目のうち、今年度に実施された科目（349 科目）とした。調査方法は、全科目を対象とした授業

実施形態調査とあわせて、そのうちの講義科目に対して所定の項目（AL(A)、AL(B) 、その他、実施なし）への回答を集計した。調査対象科目に対する回答率は 87.7%で、未回答の科目は AL なしとみなした。

[B] 調査結果

学部・学科	講義科目数	回答科目数	AL 実施数	AL 実施率
保健福祉学部	145	121	114	78.6%
看護学科	35	23	23	65.7%
栄養学科	43	40	37	86.0%
現代福祉学科	44	35	31	70.5%
子ども学科	23	23	23	100.0%
情報工学部	121	113	110	90.9%
情報通信工学科	38	36	35	92.1%
情報システム工学科	47	46	45	95.7%
人間情報工学科	36	31	30	83.3%
デザイン学部	36	34	34	94.4%
ビジュアルデザイン学科	16	14	14	87.5%
工芸工業デザイン学科	14	13	13	92.9%
建築学科	26	25	25	96.2%
共通教育	47	38	38	80.9%
合計	349	306	296	84.8%

対象科目 349 件のうち、何らかの AL を実施しているとの回答があったのは 296 件（84.8%）であった。昨年の 79.7%から大幅に上昇する結果となった。新型コロナウィルス感染症の影響下におけるオンライン授業で、教育開発センターで作成したオンライン授業マニュアルなどを通して、Google Forms や Microsoft Forms 等を利用した課題や小テストなどによる理解度確認の手法が浸透したことに加えて、対面授業に移行した後もそれらの手法を併用することで、この種の AL の導入率は昨年度の 74.0%から 79.9%に増加している。他方で、グループワークやディスカッションなどの AL は、対面授業の再開に伴って、昨年度の 20.3%から大きく増加して 27.8%となっている。

対面授業が再開されているが、以前に比べてオンライン上のツールを利用した AL の導入によって、全体的な AL の実施率は増加した。オンライン授業によって培ったさまざまな手法を対面授業においても活用することで、効果的な AL の導入が進んでいると考えられる。

【岡山県立大学版アクティブ・ラーニングの定義】

本学におけるアクティブ・ラーニング（以下、AL）とは、授業設計において、旧来の講義形式のように教員による一方向的な知識伝達をおこなうだけではなく、受講者の能動的な思考や行動を促すことによって、学修効果を向上させるために授業に組み込まれるあらゆる手法を意味する。

AL の具体例

代表的な AL の手法として、本学ですでに実施されているものを含めて、以下のような例が挙げられる。これらは互いに重複したり、組み合わされて利用されたりする場合がある。また、ここに含まれない教員独自の手法もありうる。いずれの場合も、上記の定義に当てはまる限り、AL と認められる。

グループワーク／ペアワーク（A）

複数の受講者がグループ／ペアで協力して作業をおこない、相互に影響し合うことで学修効果を促進させるための手法。グループ／ペアで課題に取り組むことが一般的であるが、ジグソー法、Think、 Pair & Share、バズセッションといった手法もある。リアルタイムのオンライン授業の場合は、Teams や Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用して実施することができる。

ディスカッション／ディベート（A）

グループまたはクラス全体で議論をする手法。ディスカッションは自由に意見を述べて最終的な結論を導き出す。ディベートは立場に分かれてそれぞれの正当性を議論する。リアルタイムのオンライン授業で実施できる。グループでおこなう場合は、Teams や Zoom のブレイクアウトルーム機能を利用する。

プレゼンテーション（A）

受講者が個人またはグループで学修成果を様々な方法によってクラス全体に対して発表する手法。複数の発表を同時におこなうポスターセッションなどもある。オンライン授業では、画面共有を利用しての発表や、PowerPoint 等で作成した動画を提出・視聴する方法などがある。

振り返り（B）

授業時間内に、小テスト、ミニッツペーパー、シャトルカードなどを利用して、学習内容を記述・解答させる手法。オンライン授業では、Google Form やMicrosoft Forms などが利用できる。オンデマンドのオンライン授業では理解度確認のために採用することが推奨される。

宿題（B）

授業時間外に取り組むための課題を出し、その成果を提出させることで、授業時間外での学修を促す手法。オンライン授業では、Google Form や Microsoft Forms などが利用できる。オンデマンドのオンライン授業では理解度確認のために採用することが推奨される。

発問（B）

受講者に質問を投げかけ、口頭、または挙手・クリッカーなどによって、理解度を確認したり、思考を促したりする手法。オンライン授業では、反応ボタン等を利用する。

その他

・反転授業（A）： 授業内と授業外の学修内容を入れ替える手法。

・Project Based Learning（A）： 課題となるプロジェクトを設定し、その実現プロセスを通じて学ぶ手法。
・Problem Based Learning（A）： 問題を設定し、その解決プロセスを通じて学ぶ手法。
・E-Learning（B）：主にインターネットを通じた学習コンテンツを使用する手法。
・体験学習（A）： 教室内あるいは現地での実際の体験を通じて学ぶ手法。フィールドワークなども含む。
・ロールプレイング（A）： ある役割を演じることで、問題や解決策について考え、学ばせる手法。

AL を含まない授業とは

受動的とされる旧来の講義形式とは、教員が一方的に知識を伝達するだけのものを指します。オンライン授業でも同様で、AL を含んでいない授業とは、リアルタイムで教員が説明するだけ、あるいはオンデマンドで動画や配布資料などによって一方的に知識を伝達するだけで、上記のような AL の手法によって受講生の能動的な思考や行動を促すことのない授業のことです。

2-3 教育評価部門

2021 年度に文部科学省が実施した「全国学生調査（第 2 回試行実施）」[4]に参加し（調査実施期間 2022 年 1 月 31 日～2 月 28 日）、2021 年度の 2 年次生および 4 年次生が回答した。今年度は、その結果集計に当たった。集計結果は、付録 P「文部科学省「全国学生調査（第 2 回試行実施）」」を参照されたい。これを受けた改善方針については、第 4 部「内部質保証推進会議の活動と成果」内 5-1-3 節「文部科学省「全国学生調査（第 2 回試行実施）」」を参照されたい。

また、第 3 回試行調査が 2022 年 11 月～2023 年 1 月に実施され、2 年次生および 4 年次生が回答した。キャリア・学生生活支援センターが実施した学生生活アンケートと回答時期が重なったため、2021 年度に実施された第 2 回試行実施ほどの回答率は得られなかった。全国版の集計結果が 2023 年夏頃に文部科学省から公表される。これを待って、本学の結果を集計し、分析することとしている。

3 まとめと課題

共通教育部門では、2018 年度に始まった新たなカリキュラムの定着を図るために、各種アンケートを利用し、授業評価も参照しつつ、再検討を続けた。中でも評価に値するのは、①昨年度から開講した Advanced Class が 2 年目となり、1 年次および 2 年次で開講したこと、②「データサイエンス概論」（1 単位）を 2023 年度から開講すること、③R2 年度に採択された「吉備の杜」創造戦略プロジェクトに伴って、共通教育部が大学院研究科共通基盤科目のうち、クロスセクション 6 科目を開講し、新たに大学院における教養教育の推進を図る協議を重ね、2023 年度からは 13 科目としたことである。

---

[4] 文部科学省，令和 3 年度「全国学生調査（第 2 回試行実施）」の結果について，https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/chousa/1421136.htm （2023 年 4 月 12 日閲覧）

FD 部門では、①FD・SD 研修会を 2 回実施し、それぞれ、本センター客員教授による本学の教育の方向性に関する研修会、対面授業を主体とする中でのオンライン授業の活用に関する研修会を対面で開催し、ビデオ録画した動画については、学内教職員専用サイトにて視聴環境を整備できたこと、②相互授業参観における参観教員からのレポートを活用した授業改善意見交換会を、昨年度はオンライン開催であったが、今年度は対面開催できたことにより、コロナ禍前とほぼ同等の FD 活動を実施することができた。

教育評価部門では、①2021 年度に文部科学省が実施した 2 年次生および 4 年次生対象「全国学生調査（第 2 回試行実施）」の結果に基づいて、教育の質向上に向けた課題を抽出したこと、②2022 年 11 月～2023 年 1 月に実施された 2 年次生および 4 年次生対象の「全国学生調査（第 3 回試行実施）」に参加したことが挙げられる。第 3 回試行調査の全体結果は、文部科学省から 2023 年夏頃に公表される予定であり、それ以降に、本学の結果を分析することとしている。

教育開発センターは、今後も「教育の質」を向上させる事業や取り組みなど、教育の質の保証に特化した活動を今後も積極的に推進させていく。

第 2 章　キャリア・学生生活支援センターにおける教育活動と成果

1　概要

キャリア・学生生活支援センターは、「キャリア形成支援部門」、「就職支援部門」、「学生生活支援部門」からなる。各部門は基本的に全学科の教員（各部門 1 名）と教学課長、教学課学生支援班・教務班職員、キャリア就職支援コーディネーターを構成員としている。

各部門における主な活動は以下のとおりであるが、各種アンケート結果や各種統計データ（就職率、休退学率など）を参考に学生にとって必要と思われる支援活動を実施している。また、個別性の高い事案については部門や教職員が連携して対応にあたっている。

キャリア形成支援部門は、県大吉備塾やキャリアカルテ、キャリア相談（キャリア就職相談室含む）などキャリア教育に関する業務と卒業生・修了生アンケートなどキャリア形成支援のための調査を行っている。就職支援部門は、求人情報やインターンシップ情報の発信、キャリア就職相談窓口の開口、各種セミナーの開催など学生向けの対応と企業からの求人受付など学外向けの業務を行っている。学生生活支援部門は、障がいのある学生の支援、主体的な学習活動のための支援、厚生補導、学習環境の整備、学生 FD 活動の支援、正課外活動の支援などを行っている。

なお、本センターは「学生相談室」と「保健室」とも連携して業務を行っているため、両室の活動についても本章に掲載する。

2　各部門における教育活動と成果

2-1　キャリア形成支援部門

2-1-1　概要

キャリア形成支援部門は、学部学科を横断する全学的取組みとして以下の調査・企画立案業務を掲げ、本学学生のキャリア形成を支援することを目的としている。まず、本学の卒業生を講師として招聘し在学生へキャリア形成に関する知見を提供する『県大吉備塾』の企画・実施、学生のキャリア形成支援において重要なツールとなる『キャリアカルテ』の整備と運用など、大学生のキャリア形成意識の向上を目指している。その他、本学卒業生との連携に必要な課題を抽出し、同窓生と本学のネットワーク構築のあり方についても検討している。加えて、本学におけるキャリア支援のための活動の充実に向けた基礎資料を得ることを目的とした『卒業生および修了生アンケート』を実施している。以下に今年度の活動概要を記す。

2-1-2　県大吉備塾の開催

県大吉備塾は 2015 年度より取り組んでいる事業で、本学の卒業生を特別講師として招聘し、講演会やワークショップ・ディスカッション等を開催し、学科学部を超えた教職協働の視点から在学生へのキャリア形成支援を目的として展開・構築しようとするものである。2022 年度も新型コロナ感染症の影響を大きく受けつつも、対面での講話やディスカッションも少しずつ可能となり、

それぞれの開催形式を活かして、資料閲覧などのオンデマンド型、テレビ会議システムを利用したリアルタイム型、また録画した映像の配信など、各企画でオンラインを活用しつつ実施された。

表 2-1-1 に過去 5 年を含む県大吉備塾の開催回数と、2022 度の第 50 回から第 58 回までの県大吉備塾の開催概要を記す。今年度いずれの回においても参加した学生および教員によるアンケート結果は、吉備塾の内容が意義のあるものであったとの回答が多かった。

表 2-1-1 県大吉備塾開催回数の推移

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
開催回数	7	7	8	6	9	9

第 50 回県大吉備塾(造形デザイン学科)

〇講師

西岡 奈津 (株式会社 CloverWorks / 映像系卒業生｜2021 年 3 月卒業)

浅野 恭弘 (株式会社 アグリエール / グラフィック系卒業生｜2010 年 3 月卒業)

十川 亜弓 (株式会社 中外陶園 / セラミック系卒業生｜2006 年 3 月卒業)

藤井 夏美 (株式会社 コッカ / テキスタイル系卒業生｜2019 年 3 月卒業)

〇テーマ:「プロのデザイナーの世界」

〇実施日時:2022 年 11 月 1 日～10 日

〇実施方法:オンライン(Web オンデマンド)

〇企画運営教員:石王美・風早由佳

第 51 回県大吉備塾(看護学科)

〇講師

山田 萌 (シミックヘルスケア・インスティチュート / 2019 年 3 月卒業)

松岡 安奈 (玉野市立八浜中学校 養護教諭 / 岡山大学教育学部養護教諭特別別科卒｜2016 年 3 月卒業)

〇テーマ:「大学での学びは、実践や進学にどのように活かされているか」

〇実施日時・実施方法:

2022 年 12 月 1 日(木)

3 年次生対象、院生、看護学科教員:対面および交流会(就職ガイダンス共催)

2022 年 12 月 5 日(月)～23 日

1、2 年次生対象:Teams オンデマンド

〇企画運営教員:名越恵美

第 52 回県大吉備塾(情報システム工学科)

〇講師

髙畑 孟宏 (株式会社 中国銀行 / 2020 年 3 月卒業)

守屋 学人 (ユアサシステム機器株式会社 / 2020 年 3 月卒業)

○テーマ：「地域社会で活躍する先輩の話を聞いてみよう」
○実施日時：2023 年 1 月 19 日
○実施方法：対面およびオンライン（Web オンデマンド）
○企画運営教員：石井裕

第 53 回県大吉備塾（子ども学科）
○講師
島田　咲（岡山市南方岡山中央認定こども園　保育教諭 / 2018 年 3 月卒業）
西山　由香里（（社）宮川福祉会　ふたばこども園　指導保育教諭 / 2018 年 3 月卒業）
矢部　巧麻（赤磐市立いわなし幼稚園　教諭 / 2018 年 3 月卒業）
○テーマ：「保育職として活躍する先輩の話を聞いてみよう」
○実施日時：2023 年 2 月 4 日
○実施方法：対面
○企画運営教員：京林由季子・樟本千里・児玉太一

第 54 回県大吉備塾（現代福祉学科）
○講師
四宮 樹里（徳島県庁 / 2013 年 3 月卒業）
谷口 将太（特定非営利活動法人クロスジョブ クロスジョブ鳳 / 2017 年 3 月修了）
宮原 莉帆（岡山県精神科医療センター / 2021 年 3 月卒業）
○テーマ：「今の仕事と大学での学び、学生時代の過ごし方」
○実施日時：2023 年 1 月 26 日
○実施方法：リアルタイムオンライン（Microsoft Teams）
○企画運営教員：桐野匡史

第 55 回県大吉備塾（人間情報工学科）
○講師
池田 大地（株式会社英田エンジニアリング / 2018 年 3 月修了）
山本 晃寛（本田技研工業株式会社 / 2019 年 3 月修了）
太田 圭祐（岡山県警察 / 2020 年 3 月卒業）
○テーマ：「大学生活でやっておくべきことと現在の仕事」
○実施日時：2023 年 1 月 26 日
○実施方法：対面
○企画運営教員：齋藤誠二

第 56 回県大吉備塾（デザイン工学科）
○講師
瀬尾 晃二（株式会社スタジオ・ゲンクマガイ / 2018 年 3 月卒業）
信定 寛成（山本光学株式会社 / 2020 年 3 月卒業）

〇テーマ:「デザインの仕事をするために努力してきたこと」
〇実施日時:2023 年 1 月 19 日
〇実施方法:リアルタイムオンライン(Zoom)
〇企画運営教員:向山徹

第 57 回県大吉備塾(情報通信工学科)
〇講師
岡本　隆宏 (株式会社 FM 大阪 / 2023 年 3 月修了予定)
佐藤　正義 (グローバルウェーハズジャパン株式会社 / 2023 年 3 月修了予定)
橋本　佳紀 (キオクシア株式会社 / 2023 年 3 月修了予定)
〇テーマ:「大学院進学と就職活動」
〇実施日時:2023 年 1 月 19 日
〇実施方法:対面
〇企画運営教員:伊藤信之

第 58 回県大吉備塾(栄養学科)
〇講師
木本 朋美 (医療法人創和会　重井医学研究所附属病院 / 2019 年 3 月卒業)
樋口 歩実 (株式会社 藤屋 / 2020 年 3 月卒業)
田中 充樹 (鳥取市保健所生活安全課 / 2018 年 3 月卒業)
〇テーマ:「大学での学びは業務のこんなところで活かされている」
〇実施日時:2023 年 2 月 20 日
〇実施方法:対面
〇企画運営教員:都島梨紗

2-1-3 キャリアカルテの運用

本学のキャリアカルテは 2018 年度以降入学生を対象に、教務システム「はっとりん」において運用している。「入学前の自分について」「現在の自分について」「将来の自分について」と 3 つのカテゴリで構成し、学生自身による入力を促すことで、自己分析やその後の行動計画を支援する質問項目を整備している。2022 年度は、新入生に対して共通教育科目「大学で学ぶ」にてキャリアカルテの意義や有効な活用方法について説明するとともに、普及促進のためのチラシを配布し、周知活動を進めた。表 2-1-2 に教務システム「はっとりん」のキャリアカルテ機能の「入力年度又は最終更新年度」の入力者数を示す。年々増加しているが、さらなる利用率向上が課題である。

表 2-1-2 キャリアカルテ活用状況の推移

学年	2019	2020	2021	2022
1	0	0	0	74
2	0	0	45	15

3	0	68	20	7
4	49	6	7	2
計	49	74	72	98

2-1-4 各学科におけるキャリア形成支援活動の集約と広報活動

キャリア形成支援部門は、学部学科の横断的な全学的取組みを調査し広く周知する役割も担っており、学生支援班と協働して本学学生のキャリア形成を支援することを目的としていることから、各学部・学科が実施した今年度（2022 年度）の「キャリア形成支援に関する活動」を調査・集約した（表 2-1-3）。さらに大学の公式サイトにその全容を掲載し学内外へ向けて情報を提供した。

表 2-1-3 2022 年度 本学におけるキャリア支援に関する活動

学科名	開催月	対象学生	イベント名	概要
看護学科	5 月	2 年次・3 年次	オンラインセミナー	就活ゼミ なりたい看護師像を整理しよう（ナース専科）
	5 月	2 年次・3 年次	オンラインセミナー	国試対策講座 心臓の仕組みと機能（ナース専科）
	6 月～7 月	2 年次・3 年次	オンラインセミナー	就活ゼミ 就職先の選択肢を知ろう（ナース専科）
	6 月	2 年次・3 年次	オンラインセミナー	国試対策セミナー 呼吸器の仕組みと機能（ナース専科）
	7 月	2 年次・3 年次	合同就職説明会（オンライン）	東京、名古屋、大阪の病院の合同説明会（ナース専科）
	7 月	2 年次・3 年次	オンラインセミナー	国試対策セミナー 栄養学（ナース専科）
	10 月	3 年次	就職説明会（対面・オンライン）	エリア別、テーマ別の合同就職説明会（ナース専科）
	12 月	4 年次	オンラインセミナー	国家試験対策講座（ナース専科）
	12 月	3 年次	オンラインセミナー	合同説明会＆交流会「THE LEADING NURSE」（ナース専科）
	12 月	1・2・3 年次・院生	県大吉備塾対面 WEB（第 51 回県大吉備塾）	卒業生による就職・進学・転職に関する説明（対面およびオンデマンド）就職・進学ガイダンスと共催
	12 月	3 年次	学科就職・進学ガイダンス	進路（就職・進学）についてのガイダンスと質疑応答および懇談会 2022 年 12 月 1 日
	12 月	3 年次	就活対策講座	履歴書の書き方等（マイナビ講師） 2022 年 12 月 8 日
	2 月	3 年次	就職説明会（対面・オンライン）	エリア別、テーマ別の合同就職説明会（ナース専科）
	2 月	2 年次・3 年次	オンラインセミナー	就活ゼミ 自分にあった病院の見つけ方（ナース専科）
	2 月	2 年次・3 年次	オンラインセミナー	採用試験対策講座 小論文・面接対策（ナース専科）
	3 月	3 年次	就職セミナー	合同説明会（マイナビ）
保健福祉学科社会福祉学専攻（現代福祉学科）	12 月	3 年次	就職活動体験報告会	就職内定者による講演会および意見交換
	1 月	3 年次	県大吉備塾（第 54 回県大吉備塾）	卒業生による講演会・意見交換（オンラインライブ）
	2 月	2 年次、3 年次	公務員（福祉職）説明会	神戸市職員（福祉職）による説明会（卒業生含む）
保健福祉学科子ども学専攻	4 月	2・3・4 年次	学科就職・進学ガイダンス	進路（就職・進学）についてのガイダンスと質疑応答
	5 月	4 年次	学科就職・進学調査	進路についてのアンケート調査および希望者面談
	7 月	4 年次	学科進路ガイダンス（職場説明会）	総社市職員（公立保育職）説明会 2022 年 7 月 12 日（火）15:30～16:30
	8 月	3 年次	学科進路ガイダンス（職場説明会）	倉敷市職員（公立保育職）説明会 2022 年 8 月 2 日（火）15:20～16:20
	11 月～12 月	1 年次	学科進路ガイダンス	保育士養成施設連携強化事業（岡山県事業）・保育施設見学の支援 2022 年 11 月 25 日（金）、12 月 2 日（金）、12 月 9 日（金）
	12 月	2・3・4 年次	就職懇話会	進路の決定した 4 年次生と下級生との意見交換。就活体験・採用試験情報 2022 年 12 月 20 日（火）14:20～15:50
	2 月	2・3 年次	県大吉備塾（第 53 回県大吉備塾）	卒業生による講演会・意見交換 2023 年 2 月 4 日（土）12:20～14:50
	2 月	3 年次	学科就職セミナー（音楽実技対策講座）	外部講師による音楽実技試験に向けた傾向と対策 2023 年 2 月 7 日（火）14:20～16:20
栄養学科	4 月	2・3・4 年次	学科就職・進学ガイダンス	進路（就職・進学）についてのガイダンスと質疑応答
	5 月	3 年次	第 1 回就職セミナー（対面）	リクルートキャリアから講師を招き、自己分析・進路選択について講話
	1 月	3 年次、M1	第 2 回就職セミナー（対面）	本学就職支援相談員による就活準備セミナー・4 年次生による就職活動報告会

	2 月	全学年	県大吉備塾(2022 年度県大吉備塾対面)	卒業生による講演会・意見交換(対面)
情報通信工学科	4 月	1 年次	学科大学生活ガイダンス	マイナビから講師を招き、進学・就職に向けた学生生活に関する講演および MatchPlus による社会人基礎力の測定(対面)
	4 月	2 年次	学科大学生活ガイダンス	マイナビから講師を招き、進学・就職に向けた学生生活に関する講演および MatchPlus による社会人基礎力の測定(対面)
	4 月	3 年次	学科大学生活ガイダンス	マイナビから講師を招き、進学・就職に向けた学生生活に関する講演および MatchPlus による社会人基礎力の測定(対面)
	2 月	3 年次、M1	学科進路ガイダンス	進路(就職、進学)についてのガイダンスとアンケート実施
	2 月	在学生	第 57 回県大吉備塾	M2 学生による大学院進学の意義・就職活動の講演およびディスカッション
情報システム工学科	4 月	1 年次	学科大学生活ガイダンス	マイナビから講師を招き、進学・就職に向けた学生生活に関する講演および MatchPlus による社会人基礎力の測定(対面)
	4 月	2 年次	学科大学生活ガイダンス	マイナビから講師を招き、進学・就職に向けた学生生活に関する講演および MatchPlus による社会人基礎力の測定(対面)
	4 月	3 年次	学科大学生活ガイダンス	マイナビから講師を招き、進学・就職に向けた学生生活に関する講演および MatchPlus による社会人基礎力の測定(対面)
	1 月	3 年次、M1	就職・進学ガイダンス 1	進路(就職、進学)についての説明会 1: 基本的な考え方の説明(オンデマンド)
	1 月	在学生	第 52 回県大吉備塾	卒業生による講演会・意見交換(対面)
	2 月	3 年次、M1	就職・進学ガイダンス 2	進路(就職、進学)についての説明会 2:データ分析等を踏まえての説明(対面予定)
人間情報工学科	4 月	1 年次	学科大学生活ガイダンス 1	進学・就職に向けた学生生活に関する説明会(対面)
	4 月	2 年次	学科大学生活ガイダンス 1	進学・就職に向けた学生生活に関する説明会(対面)
	4 月	3 年次	学科大学生活ガイダンス 1	進学・就職に向けた学生生活に関する説明会(対面)
	4 月	4 年次	学科進路ガイダンス 1	進学・就職に向けた具体的な活動に関する説明会(対面)
	4 月	1 年次	学科大学生活ガイダンス 2	マイナビから講師を招き、進学・就職に向けた学生生活に関する講演および MatchPlus による社会人基礎力の測定(対面)
	4 月	2 年次	学科大学生活ガイダンス 2	マイナビから講師を招き、進学・就職に向けた学生生活に関する講演および MatchPlus による社会人基礎力の測定(対面)
	4 月	3 年次	学科大学生活ガイダンス 2	マイナビから講師を招き、進学・就職に向けた学生生活に関する講演および MatchPlus による社会人基礎力の測定(対面)
	7 月	3 年次	学科進路ガイダンス 2	インターンシップの意義、参加の場合の注意事項について説明するビデオを配信(対面)
	11 月	1 年次	学科大学生活ガイダンス 3	進学・就職に向けた学生生活に関するマイナビ作成のビデオの配信(オンライン)
	11 月	2 年次	学科大学生活ガイダンス 3	進学・就職に向けた学生生活に関するマイナビ作成のビデオの配信(オンライン)
	12 月	3 年次	学科進路ガイダンス 3	マイナビから講師を招き、進学の意義・就活に向けた準備に関する講演(対面)
	1 月	在学生	第 55 回県大吉備塾	卒業生による講演会・意見交換(対面)
	2 月	3 年次、M1	学科進路ガイダンス 4	就職、進学についてのガイダンス(対面)
情報通信工学科、情報システム工学科、人間情報工学科	8 月～12 月	3 年次	長期インターンシップ(エンジニアリング演習)および報告会	・23 名の学生による県内企業 17 社(参加企業 23 社)での 17 日間のインターンシップ ・受入れ企業も参加した報告会
造形デザイン学科	通年	3 年次	就職支援 Teams	就職支援に関する情報を Teams を使用して定期的に配信
	11 月	3 年次	県大吉備塾 WEB(第 50 回県大吉備塾)	卒業生 4 名を講師として学生生活と仕事についての講演をテキストや画像にまとめた特設サイトを開設 参加者はサイトを閲覧する形式で実施
	11 月	3 年次	就職準備講座	マイナビから講師を招聘し、対象学年に特化した面接等について講演を実施(LIVE 配信)
	11 月	3 年次	21 インコーポレーション会社説明会	本学デザイン学部を対象とした会社説明会を実施(LIVE 配信)
	1 月	3 年次	ベオス会社説明会	本学デザイン学部を対象とした会社説明会を実施(LIVE 配信)
	2 月	3 年次	ポートフォリオセミナー	大手印刷会社に勤務する卒業生を招いた学生のオンラインポートフォリオ講評会
	2 月	3 年次	就活本番直前 選考対策講座	マイナビから講師を招聘し、対象学年に特化した面接等について講演を実施(LIVE 配信)
デザイン工学科	7 月	3 年次	建設業界研究セミナー	総合資格学院による建設業界に関するオンラインセミナー
	12 月	3 年次	会社説明会	ジーク株式会社の会社説明会
	12 月	3 年次	進路説明会	大学院進学や就職活動に関する説明会
	1 月	2･3 年次	県大吉備塾 WEB(第 56 回県大吉備塾)	卒業生 2 名を講師として学生生活と仕事についての講演を ZOOM によるリアルタイムオンライン形式で実施

2-1-5 卒業生および修了生アンケートの実施

本学におけるキャリア支援のための活動の充実に向けた基礎資料を得ることを目的とした『卒業生および修了生アンケート』を 2021 年度に実施し、集計結果を担当委員から各学科に報告した。またアンケート結果を受けて、学生のキャリア形成支援に資するため就職相談室を拡張し、キャリア・就職相談室を設置した。

2-1-6 まとめと課題

キャリア形成支援部門は、本学学生のキャリア形成を支援することを目的とした部門である。卒業生の活躍を在学生のキャリア形成支援に結びつける目的で実施した県大吉備塾においては、参加者アンケートの結果より、参加者から本取り組みに対する満足度や期待度の高さが確認できた。今後は卒業生との連携を深めるため、同窓会と連携し、大学 Web ページで卒業生・修了生を紹介する企画を検討するなど、その体制作りを進めていく。

2-2 就職支援部門

2-2-1 概要

就職支援部門は、各学科の就職担当教員および本学のキャリア・就職支援コーディネーター、事務局職員で構成されており、求人企業の受付対応、企業情報の収集、就職ガイダンスや就職セミナー、インターンシップ情報の提供、学生相談などを行っている。なお、2022 年 7 月 1 日より「就職相談室」はキャリア支援もサポートすることとし、その名称を「キャリア・就職相談室」とした。

2-2-2 就職支援活動とインターンシップ

2-2-2-1 就職支援活動と実績

全学部を対象として、5 月より就職ガイダンスを実施した。その実施状況を表 2-2-1 に、年度推移を表 2-2-2 に示す。今年度は、前期のすべてのガイダンス(5 月 19 日～7 月 7 日)はオンラインによる Live 配信で実施し、後期のすべてのガイダンス(10 月 6 日～2 月 2 日)は対面で実施した。

表2-2-1 就職ガイダンスの実施状況

実施日	ガ イ ダ ン ス の 内 容	実 施 機 関 等	参加学生数
5月19日	就活スタートアップ講座	(株)マイナビ	72
5月26日	筆記試験対策講座	(株)リクルート	34
6月2日	公務員試験ガイダンス	(株)ＣＲＳ	18
6月16日	インターンシップ活用方法	(株)ビザビ	11
6月23日	自己分析 × 自己PR作成講座	(株)リクルート	29
6月30日	企業・業界研究講座	(株)リクルート	15
7月7日	リクルートスーツ・就活グッズの選び方講座	(株)マイナビ	29

		(株)はるやま	
10月6日	後期スタートアップ講座	(株)マイナビ	22
10月13日	自己分析講座	(株)リクルート	16
10月20日	企業・業界研究講座	(株)リクルート	13
10月27日	エントリーシート＆履歴書作成講座	(株)リクルート	40
11月10日	就活マナー講座	(株)マイナビ	15
12月1日	筆記試験＆適性検査対策講座	(株)リクルート	10
12月8日	全国一斉WEB模擬テスト受験会	(株)マイナビ	8
12月15日	言語非言語WEBテスト受験会	(株)リクルート	4
1月19日	就活総まとめ講座①「就活本番スタート講座」	(株)マイナビ	30
1月26日	就活総まとめ講座②「ES・履歴書準備講座」	(株)リクルート	31
2月2日	就活総まとめ講座③「面接・GD準備講座」	(株)マイナビ	22

表2-2-2 就職ガイダンス実施回数・参加者数の推移

	2021年3月 卒業生向け	2022年3月 卒業生向け	2023年3月 卒業生向け	2024年3月 卒業生向け
回数	34	9	28	18
参加者数	526	549	856	419

表2-2-3 就職活動バス(合同企業説明会へのバス)の運行

運行日	合同企業説明会参加場所	主 催 者	参加学生数
3月3日	大阪(インテックス大阪)	(株)マイナビ	―

※最少催行人数10名に達しなかったため運行中止を決定した。

コロナ前から、合同企業説明会へのバスを運行していたが、表 2-2-3 に示すように、今年度は最少催行人数 10 名に達しなかったため運行中止を決定した。

また、キャリア・就職支援コーディネーターによる学生への個別指導(794 件)(表 2-2-4)や就職活動情報等を掲載した「就職相談室ニュースレター」を発刊した(Vol.1～5)。昨年同様、個別指導を含む就職支援活動はコロナ禍である事を勘案し、対面のみでは無くオンライン面談、メール面談、Web 面接会場の用意等、多岐にわたった。キャリア・就職相談室月別学部別相談件数を図 2-2-1 に、月別学年別相談件数を図 2-2-2 に、年度推移を図 2-2-3 に示す。これによると、近年、学生の相談が早い時期から始まっていることが分かる。

表 2-2-4　キャリア･就職相談員による就職相談

相談日	相談時間	内　　容　　等
週4日 月･火･木･金	10:00～16:00	キャリア･就職相談員による各種相談を実施 ◇相談内容等 ･就職活動の進め方に関する相談 ･履歴書･エントリーシート等書類に関する相談 ･面接対策　　など ◇R4年度相談件数 ･794件

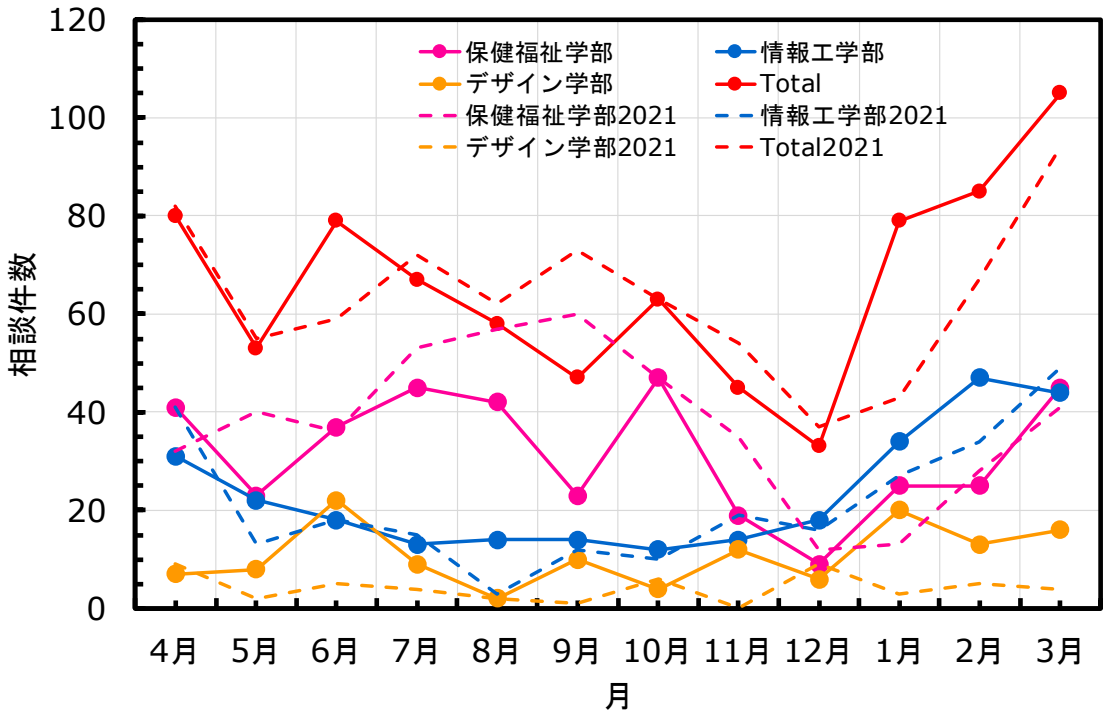


図 2-2-1　キャリア･就職相談室月別学部別相談件数

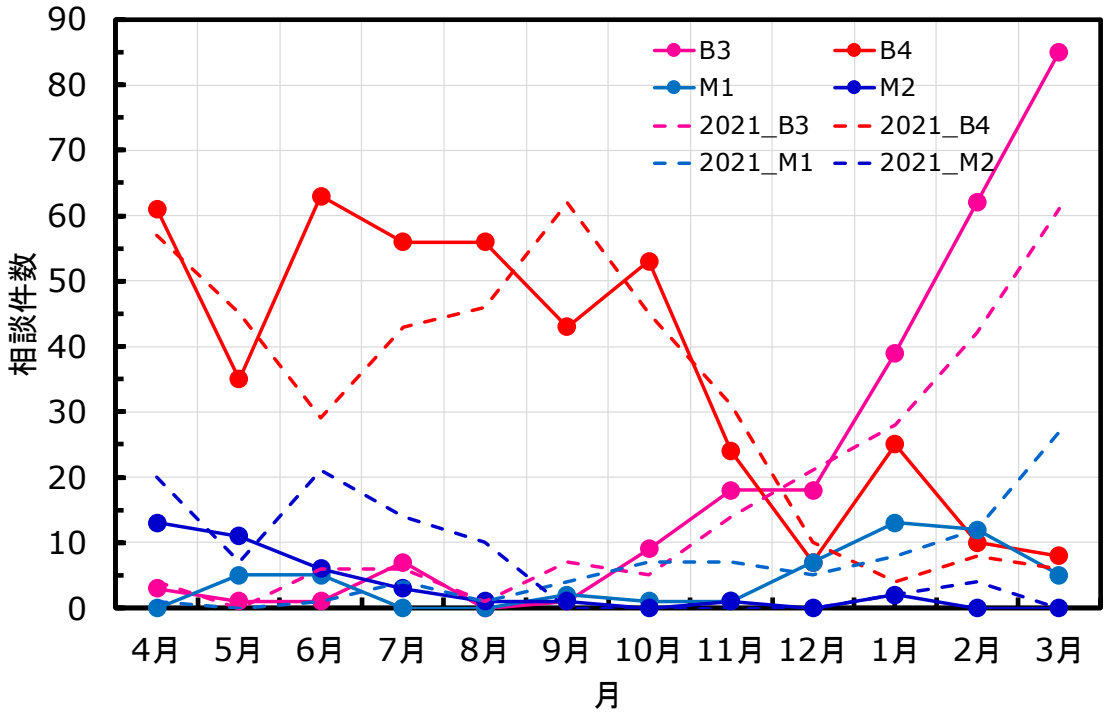


図 2-2-2　キャリア･就職相談室月別学年別相談件数

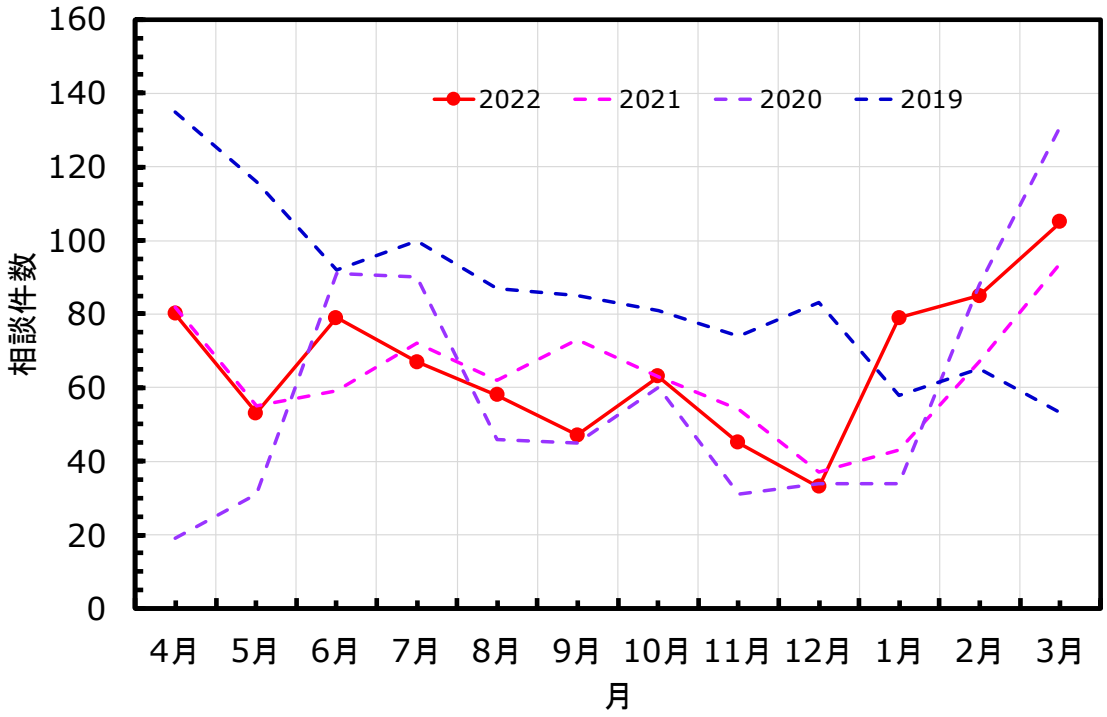


図 2-2-3　キャリア･就職相談室相談件数の年度推移

今年度、求人 NAVI 掲載数は表 2-2-5 に示すように、986 社にのぼり、来学求人企業対応（オンライン含）は 290 件となり、企業と学生とのマッチング促進が図られた。また、表 2-2-6 に企業からの求人数の推移を示すが、新型コロナウイルスの行動制限緩和の影響もあり、来学企業数は非常に増えていることがわかる。

各学科においても、就職担当教員が中心となり、学科の特性に応じた就職指導やセミナー、企業説明会等を開催し、学生を細やかに支援した（表2-1-3）。

表2-2-5　企業からの月別求人数（2023年3月卒業生向け）

年月	2022												2023			合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
求人NAVI掲載数	70	114	160	133	107	126	89	46	44	28	29	19	8	13	0	986
来学企業数（オンライン含）	7	6	19	19	22	34	27	7	18	20	23	27	16	17	28	290

表2-2-6　企業からの求人数の推移

	2020年3月卒業生向け（2019年度）	2021年3月卒業生向け（2020年度）	2022年3月卒業生向け（2021年度）	2023年3月卒業生向け（2022年度）
求人NAVI掲載数	953	1,049	918	986
来学企業数（オンライン含）	218	184	181	290

2-2-2-2 インターンシップ

本学では、学生自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うため、総社市、病院、民間企業等との連携を図り、インターンシップ参加希望学生への支援や情報提供などを行っている。それとは別に、情報工学部とデザイン学部においては授業科目として取り組んでいるほか、保健福祉学部においては、特定の資格取得を目的に各種実習として取り組んでいる。

総社市のインターンシップは、本学と総社市の連携協力に関する協定の一環として2009年度から実施しているもので、2022年度は16名が参加した。また、インターンシップで体験した結果をもとに、学生が市に政策提言を行った。2010年度から2022年度までの総社市におけるインターンシップの実施状況は次のとおりである（表2-2-7）。

表2-2-7　総社市インターンシップ参加者の推移

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	累計
人数	19	23	21	15	12	19	19	30	17	11	23	35	16	260

2-2-3 就職先アンケートの実施

卒業生・修了生が身に付けている知識や能力等、またそれらを実社会で発揮できているか等の観点で、就職先の立場（過去 5 年間に本学の卒業生・修了生を受け入れた立場）から評価いただき、教育研究活動やキャリア・就職支援の見直しや改善に役立てることを目的として実施した。アンケート結果については、付録 I に掲載する。調査期間は 2022 年 2 月 7 日～2022 年 2 月 28 日であり、686 団体にアンケートを送付して有効回答件数は 195 件（有効回答率：28.4％）であった。アンケートの回答から本学の卒業生・修了生は、幅広い教養、課題発見・解決能力、倫理観、専門的知識・技能、論理的思考力・判断力・実行力は、おおむね身に付けている一方で、世代・言語・文化の異相を乗り越えたコミュニケーション能力、多様な人々と協調して積極的に行動する意欲は比較的低い傾向が示された。また、企業団体等は採用に当たり、学生の協調性やコミュニケーション能力を重視すること、大学に対して課題発見・解決能力や論理的思考力・判断力・実行力に関する育成を求めていることも示された。

2-3 学生生活支援部門

2-3-1 概要

学生生活支援部門は、15 名の教職員から構成されており、障がいのある学生の支援、主体的な学修活動のための支援、厚生補導、学習環境の整備、学生 FD 活動の支援などを行っている。また、学生相談室と保健室と連携しながらこれらの活動を行っている。

2-3-2 学生生活アンケート

学生生活アンケートは、学生の本学に対する希望を適切に反映できる支援体制の整備および学生生活の充実化に資する基礎資料の取得およびこれまでの整備や取り組み等の評価のために、本部門が中心となり、原則 3 年に一度実施するものである。今年度と過去の実施状況を表 2-3-1 に示す。今年度は、キャリア・学生生活支援センターの 3 部門、教育開発センター、附属図書館および地域創造戦略センターから設問を募った。実施方法は Google Forms による無記名の Web アンケートとし、調査対象は全学部・研究科生である。2022 年 11 月 21 日から 2023 年 1 月 20 日にかけて実施し、学部生 1，029 名（有効回答率 66％）、大学院生 62 名（有効回答率 28％）からの回答が得られた。結果については、付録 E に掲載する。学生からの意見や要望については関係部局で共有し、改善方針に基づいて、大学として改善できることから随時着手していく。

表 2-3-1 学生生活アンケートの実施状況

	2018	2019 ※1	2020 ※2	2022
実施期間	2018 年 12 月 ～2019 年 1 月	2019 年 10 月 ～2019 年 11 月	2021 年 1 月～ 2021 年 2 月	2022 年 11 月 ～2023 年 1 月
設問数	60 問	47 問	42 問	59 問
実施方法	マークシート	はっとりん	Google Forms	Google Forms

有効回答数 （率） ①全体 ②学部生 ③大学院生	①842（47%） ②787（48%） ③55（31.4%）	①1078（59%） ②1,027（62%） ③51（28%）	①778（43%） ②740（46%） ③38（20%）	①1,091（61%） ②1,029（66%） ③62（28%）

※1：2019 年度にアンケート内容を改修

※2：新型コロナ感染症の影響を確認するために臨時実施

2-3-3 障がい学生支援

2-3-3-1 対応事例

2022 年度に提出された支援要請 18 件（新規 5 件、継続要請・支援 13 件）に対して学生生活支援部門を中心として検討会議を重ね、合意形成がなされた項目について以下の要請・支援ならびに関連事項への対応を随時行った。所属学科の教員に学修面および学修面以外の配慮の要請、科目担当教員に学習面の配慮の要請、健康診断での配慮の実施、合理的配慮を希望する新入生への入学前面談の実施、合理的配慮を希望する在学生への面談の実施、学生相談室や保健室との連携による個別対応。また、授業における配慮を教職員へ早期に周知することを目的に、教務システム「はっとりん」上の履修学生ページから該当配慮学生の要請等を PDF にて掲載するようにした。2018 年度からの合理的配慮対象学生数を表 2-3-2 に示す。

表 2-3-2 合理的配慮対象学生数の推移

	2018	2019	2020	2021	2022
新規（人）	3	3	5	13	5
全体（人）	5	8	13	23	18

※年度途中の休学者含む

2-3-3-2 学生支援コーディネーターの配置

これまでは、支援の内容や配慮申請を作成する際に学生支援部門員が学生や保護者からの希望を聞き取り作成してきた。しかしながら、学生生活支援部門員は専門職員ではないため、多様化する支援内容などに対して精神的な負担が大きかった。そこで、支援学生だけでなく、支援の必要がありそうな学生やその保護者との相談、配慮学生の修学支援等のコーディネートおよび学生支援に従事する教職員の相談業務などに対応する、専門的な知識と経験等を有する学生支援コーディネーターの配置について検討し、2023 年度 4 月より運用が開始される。

2-3-3-3 研修会・関連委員会参加

1） UE-Net

・令和 4 年度 第 1 回 UE-Net 運営会議・第 36 回 UE-Net 研究会
2022 年 6 月 24 日（金）、オンライン：齋藤部門員

・令和 4 年度 第 2 回 UE-Net 運営会議・第 37 回 UE-Net 研究会

2022 年 10 月 14 日(金)、オンライン:齋藤部門員

・令和 4 年度 第 3 回 UE-Net 運営会議・第 38 回 UE-Net 研究会

2022 年 12 月 26 日(月)、オンライン:齋藤部門員

・令和 4 年度 第 8 回 UE-Net 総会・第 39 回 UE-Net 研究会

2023 年 3 月 25 日(土)、オンライン:齋藤部門員

2) 大学コンソーシアム岡山 障がい学生支援委員会

・第 22 回障がい学生支援委員会:2022 年 5 月 18 日(水)、岡山理科大学:齋藤部門員

・第 23 回障がい学生支援委員会:2023 年 2 月 7 日(火)、オンライン:福田部門長

3) 令和 4 年度 大学コンソーシアム岡山「障がい学生支援研修会」:2022 年 8 月 29 日(月)、岡山大学・オンライン:齋藤部門員話題提供 参加教職員 5 名

4) 岡山県アイサポート研修 障がいのある人への配慮を学ぶ:2022 年 7 月 26 日(火)、オンライン:参加学生 27 名、参加教職員 3 名

5) 障がい学生支援研修会(FD/SD 研修会):2023 年 3 月 14 日(火)、岡山県立大学 8901 講義室:福田部門長話題提供、参加教職員 40 名

2-3-4 学生表彰制度

2020 年度より「学業や各種活動において優秀な成績を収めた学生、他の学生の模範となる学生の功績を表彰し、今後の学業・各種活動の励みとする。」ことを目的とした学生表彰の運用を開始した。これまでの学長賞受賞者数(表 2-3-3)と 2022 年度に表彰した学生(表 2-3-4～表 2-3-6)を以下に示す。

表 2-3-3 学長賞受賞者数の推移

年度	2020	2021	2022
受賞者数	個人:2 名 団体:1 団体(9 名)	個人:3 名 団体:1 団体(39 名)	個人:4 名 団体:2 団体(15 名)

1)岡山県立大学学長賞

表 2-3-4 2022 年度 学長賞受賞者

学部・研究科・学科・専攻・団体名	学 年	氏 名	基準
保健福祉学研究科 保健福祉科学専攻	博士後期 2 年次	影山 鈴美	学術研究活動
保健福祉学研究科 栄養学専攻	博士前期 2 年次	植盛 晴菜	その他
保健福祉学研究科 栄養学専攻	博士前期 2 年次	早川 智紗	その他
情報系工学研究科システム工学専攻	博士前期 2 年次	原 佑輔	その他
デザイン学部畠研究室	代表 小林 弘樹 外 6 名		課外活動 社会活動
おむすび	代表 長塩 優香 外 7 名		社会活動

表彰式:2023 年 2 月 2 日(木)

2)学業成績最優秀賞

表 2-3-5 2022 年度 学業成績最優秀賞受賞者

学 部 ・ 学 科	学年	氏 名
保健福祉学部 看護学科	4 年次	山本　茜
保健福祉学部 栄養学科	4 年次	松岡　祐里
保健福祉学部 保健福祉学科 社会福祉学専攻	4 年次	小松　歩未
保健福祉学部 保健福祉学科 子ども学専攻	4 年次	時松　凪紗
情 報 工 学 部 情報通信工学科	4 年次	金子　奈未
情 報 工 学 部 情報システム工学科	4 年次	大取　敬司
情 報 工 学 部 人間情報工学科	4 年次	伊藤　愛菜
デザイン学部 デザイン工学科	4 年次	田中　日菜
デザイン学部 造形デザイン学科	4 年次	岡野　千優

表彰式:2023 年 3 月 24 日(水)

3)学業成績優秀賞

表 2-3-6 2022 年度 学業成績優秀賞受賞者

学 部 ・ 学 科	学年	氏 名
保健福祉学部 看護学科	3 年次	長田　彩姫
保健福祉学部 栄養学科	3 年次	長崎　萌香
保健福祉学部 保健福祉学科 社会福祉学専攻	3 年次	植木　彩水
保健福祉学部 保健福祉学科 子ども学専攻	3 年次	徳重　愛花
情 報 工 学 部 情報通信工学科	3 年次	古賀　荘翠
情 報 工 学 部 情報システム工学科	3 年次	小林　利輝
情 報 工 学 部 人間情報工学科	3 年次	島田　乃巴流
デザイン学 部 デザイン工学科	3 年次	中井　花玲
デザイン学 部 造形デザイン学科	3 年次	小川　瑞稀

表彰式:2022 年 9 月 26 日(水)

2-3-5 アドバイザー面談

アドバイザー面談は前期中に 1 回、後期中に 1 回実施した。さらに、面談に来ない、連絡が取れない学生に対しては、確実に連絡を取るように教員に呼びかけた。2018 年度以降のアドバイザー面談実施率を表 2-3-7 に示す。今年度の前期と後期のアドバイザー面談の実施率はそれぞれ 95.4%と 95.0%であった。2019 年度以降、高い実施率で推移している。

表 2-3-7 アドバイザー面談実施率の推移

	2018	2019	2020	2021	2022

	年度	年度	年度	年度	前期	後期	年度
全体	79.6%	92.4%	95.0%	94.8%	95.4%	95.0%	95.2%
保健福祉学部	91.1%	98.5%	98.8%	98.3%	99.8%	99.5%	99.7%
情報工学部	70.9%	87.2%	89.4%	92.5%	89.8%	88.3%	89.1%
デザイン学部	76.9%	92.1%	98.1%	93.1%	97.1%	98.4%	97.7%

2-3-6 休学願・退学願提出の際の面談報告書の添付のルール化と分析

2021 年 12 月より学生が休学願・退学願を提出する際には、教員と面談をして、教員はその内容を面談報告書にまとめて提出することをルール化した。目的は、休学・退学の原因について相談する機会を設けること、休学・退学のメリット・デメリットを伝える機会を設けること、休学・退学理由を把握・分析することで、防止対策を講じることである。

ルール化以降、すべての休学・退学について面談報告書が教員から提出されている状況にある。提出された面談報告書は学生支援班が管理・集約を行っている。また、集約については総合 IR 室で作成されたエクセルファイルに入力することで、分析可能な形式に自動集計されるようになっている。

2-3-7 交通指導

学生の通学マナーの向上のため、新入生が通学に慣れてきた 5 月中旬頃および第 3 クォーター開始（9/24～）直後に、学生生活支援部門の教職員が、総社警察署と協働で早朝（8:10～8:40）に交通安全の現地指導を実施した。実施の際は、国道 429 号のツタヤ北交差点および国道 180 号バイパス南溝手交差点に分かれ、主に自転車通学の学生に交通安全のチラシを渡し、スマートフォンやイヤホンで音楽を聴きながらの運転の禁止などを重点的に指導した。

（実施日：5 月 25 日（水）、9 月 27 日（火）・30 日（金））

2-3-8 スチューデント・アシスタント制度の検討

スチューデント・アシスタント（SA）制度は、学生相談および支援体制の充実を図ることを目的として検討を進めていた。今年度は SA 制度に求める各学科の活動内容、近隣大学の状況等を調査。その結果を基に、SA の制度化を進めた。2023 年度 4 月から運用が開始される。

2-3-9 学友会支援

今年度、学友会が企画・実施した以下の活動について支援をした。

・春じゃけん（事業委員会）
・夏祭り（事業委員会）
・ウクライナ募金（PZL）
・県大生との相談コーナー（PZL）
・大学祭（大学祭実行委員会）
・クリスマスイベント（事業委員会）

2-3-10 授業料免除制度の周知

2020 年 4 月から実施された文部科学省の「高等教育の修学支援新制度」により、意欲と能力のある若者が経済的理由で進学および修学の継続を断念することが無いよう、原則として返還義務のない奨学金の受給および授業料の免除・減免を申請できることとなった。また、2022 年度には大学独自の減免制度の見直しを行い、後期の授業料から、これまでは免除対象とならなかった多くの学生が支援を受けられるようになった。説明会の開催や教務システム「はっとりん」への掲示等学生に広く周知を図った結果、2022 年度は延べ 403 件が減免となり、合計 83,986,650 円の授業料が免除された。2020 年度以降の減免額を表 2-3-8 に示す。

表 2-3-8 減免額の推移

年　　度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
修学支援新制度(減免額)	73,672,500 円	74,654,800 円	78,851,900 円
大学独自減免(減免額)	7,322,600 円	5,358,000 円	5,134,750 円

2-3-11 カルト等の注意喚起

新型コロナ感染症により通常の学生生活を送ることができない学生を狙った詐欺や悪質な勧誘が全国的に問題となった。本学においてもカルト団体による勧誘被害の報告があったため、注意喚起のためのチラシを 4 月のオリエンテーションで全学生に配布し、ポスターを掲示して注意を呼び掛けた。

2-3-12 まとめと課題

新型コロナ感染症の影響は長期化しているが、徐々に対面授業が増え、学内に学生が戻りつつある 1 年であった。感染症との共存による、新たな学生生活様式において、学生たちが充実した学生生活が送れるように支援していく必要がある。その中でも休学願・退学願提出の際の面談報告書の添付をルール化し、分析を続けることで休学・退学防止に繋がると考えられる。また、スチューデント・アシスタントの制度化が実現したことによって、学生相談および支援体制のさらなる充実に活用したい。充実した学生生活のために改善が必要なことについては、部門内のみならず関係各所に働きかけを行い、整備につなげていく必要がある。また、年々増え続けている障がいのある学生に対する合理的配慮の提供をしっかりと実施できるソフト面、ハード面の整備を引き続き実施して行く必要がある。

2-4 学生相談室

2-4-1 相談体制

学生相談室は 1994 年 5 月に開設され、2020 年より本部棟 1 階へ移動している。

相談室の相談業務は、学内カウンセラー(公認心理士、心理学専門)3 名と学外嘱託カウンセラー(臨床心理士・公認心理士)3 名の計 6 名体制で行っており、月～金曜日まで毎日開室している(ただし、休業期間中を除く)。下表による 2022 年度の開室時間は週 23～25.5 時間であり、

コロナ禍での対応として対面での相談に加え、ケースに応じてオンライン相談や電話相談を行った。

表 2-4-1 2022 年度 学生相談室開室時間

曜日	時間	氏名	備考
月	12:00～14:00	周防 美智子	保健福祉学部特任准教授
火	10:00～14:00	津川 美智子	学外カウンセラー
	15:00～17:00	井上 幸子	保健福祉学部准教授
水	9:30～13:30	斉藤 弘美	学外カウンセラー
	14:00～18:30	疋田 基道	学外カウンセラー
木	8:45～12:15	疋田 基道	学外カウンセラー
金	12:00～16:00	津川 美智子	学外カウンセラー
	16:30～18:30＊1	京林 由季子	保健福祉学部准教授

＊1 第 1 週、第 2 週のみ、第 2 クォーター閉室

相談室スタッフは学生相談室顧問（副学長）、学校医（精神科医）を含め、計 9 名で構成され、保健室および学生支援班と連携を図りながら運営している。学校医については、2019 年度からは岡山県精神科医療センターの佐藤康治郎医師へ委嘱している。

また、各学部教員から要請があった場合やカウンセラーが重要ケースと判断した場合、相談室長や複数のカウンセラー、関係する学部長や教員で対応について協議することとし、必要に応じて岡山県精神科医療センターと連携を図ることとしている。

2-4-2 相談室の取組

学生相談室（愛称：ほっとルーム）でのカウンセリング以外の取組としては、下記のものがある。

(1)こころの健康チェック（UPI）

2011 年度から、全学生を対象とした「こころの健康チェック（UPI：University Personality Inventory）」を実施している。結果の返却はカウンセラーが行い、必要に応じて学生相談室（ほっとルーム）を勧めるなど、学生の心的問題へ早期対応を行っている。

(2)チラッとほっとルームキャンペーン

4 月前半に相談室を開放し、面談中を除き、予約なしでほっとルームを見学できるようにしており、初めての場所や人への抵抗感を和らげる取組を行っている。学科の先生方や先輩学生が新入生を連れ、ほっとルームの場所を案内している。

(3)広報活動

新入生へのパンフレットの配布、入学オリエンテーションでのPR、健康診断でのほっとルームカードの配布、教務システム「はっとりん」や学内掲示板を用いて広報活動を行っている。

(4)研修会　等

年 3 回の相談室会議に加え、学校医(精神科医)による教職員向けのメンタルヘルス研修会を全教職員対象としてオンラインで実施した。また、研修会後に YouTube による動画配信を行った。

＜メンタルヘルス研修会実施内容＞

・若年者のメンタルヘルスについて～発達障がいを含む精神障がいのある学生への対応～
　2022 年 9 月 14 日(水) 13:00～14:00
・若年者のアルコール依存、ギャンブル依存について～大学に通えない学生の一因として～
　2022 年 12 月 14 日(水) 13:00～14:00
・学生対応の事例から学ぶ、メンタルヘルス等の支援について
　2023 年 2 月 15 日(水) 13:00～14:00

(5)学生相談内容および相談件数

学生相談室は来談者との秘密保持の遵守が必要である。相談内容は、①大学環境・学生生活に関するもの、②特定の精神症状・気分変調に関するもの、③友人・知人との人間関係に関するもの、④進路の関するもの等である。件数は少ないが保護者からの相談もある。相談内容は多岐にわたり、中には病理水準域の学生も来室する場合がある。

学生相談室では、学生に個別に会い、ゆったりと時間をとり、学生が語る内容を聴き、心理臨床の専門家として必要な支援を行っている。学生が自己を語り、自己を理解し、自己をまとめていく過程を大切にして、個々の学生の発達や成長という視点から心理教育的に関わり、危機介入が必要な場面を除いては学生本人が自ら解決できるように支援していきたいと考えている。

2019 年度～2022 年度の来談者月別人数および来談者数は、次表のとおりである。

表 2-4-2　月別延来談者数の推移

月 / 年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
2022	33	28	36	38	14	16	25	28	25	23	22	12
2021	27	8	20	26	13	10	26	21	23	17	15	7
2020	12	12	10	23	9	12	15	18	20	8	19	13
2019	24	35	25	17	3	10	29	20	24	16	18	5

(R5.3.31　現在)　(人)

表 2-4-3　来談者数の推移

年度	来談者数		うち学生来談者数	
		うち実数	延数	実数
2022	300	70	290	62

2021	213	66	209	62
2020	171	54	170	53
2019	226	68	213	60

（R5.3.31 現在） （人）

2-5 保健室

2-5-1 保健室業務

保健室は、開学時より本部棟 1 階にある。主に学生の健康診断、健康相談、健康診断証明書等の発行、けがや急病の手当等、学生の心身の健康に関わる業務を行っている。

保健室のスタッフは養護教諭 1 名のみであるが、2015 年度より保健室長（学生部長）、保健室主任（学内医師免許保有教員 2 名）の体制となった。2021 年度からは保健室顧問（副学長教育担当）、保健室長（学内医師免許保有教員）、保健室主任（学内医師免許保有教員）の体制へ変更となっている。

また、現在は岡山県健康づくり財団の岸本壽男医師に学校医を委嘱しており、学生の健康や感染症予防対策、その他保健活動に関する相談をしている。

2-5-2 保健室利用状況

2022 年度の保健室利用状況は、大局的には 2020 年度より始まったコロナ禍による一連の変化が一巡し、2019 年度以前の状況に戻りつつある途上にあると思われる。内科・外科的疾患に関連した利用者の状況は、課外活動などが復旧しつつある状況を反映していると考えられ、本学において感染者が本格的に現れ始めた 2021 年度において増加した相談件数は、関連内規の整備や学内外の情報共有により旧来のレベルに戻った。一方、全国的な感染者が大きく増加した 2022 年度には出席停止者が増加したが、今後は社会全体における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応が変化してゆく中で、学内外の状況、特に本学教育にご協力いただいている各施設の状況を踏まえ、適切に対応していくことが必要と考えられる。2019 年度以降の保健室使用状況を表 2-5-1 に示す。

表 2-5-1 保健室利用状況の推移

年度	内科	外科	その他疾病	検査	相談等	入試救護等	出席停止
2022	54	46	8	29	149	4	703
2021	32	26	4	26	386	0	126
2020	11	9	1	24	129	2	74
2019	105	69	3	53	183	0	38

（R5.3.31 現在） （人）

3 まとめと課題

今年度は原則 3 年に 1 度実施する学生生活アンケートの実施年度であった。このアンケートは、これまでのセンターにおける活動（P・D）を評価して（C）、学生のために必要な改善を図る（A）こ

とが目的である。ここでは、センター活動のまとめと課題として、結果の概要と今後の改善について述べる。なお、アンケート結果については付録 E に掲載している。

キャリア形成支援部門では、キャリア形成のための県大吉備塾の開催、キャリアカルテの運用、キャリア・就職相談室でのキャリア相談を周知とともに行ってきた。このうち、県大吉備塾は全学科で実施することが定着しつつあり、参加学生の評価は非常に高い。一方で、認知度は徐々に上昇しているが 3 割程度であり、今後は多くの学生に開催を知ってもらい、参加してもらうような工夫が必要となる。また、キャリアカルテについては、認知度は 3 割弱であるが、有用性についての評価は上がってきている。今後は、アドバイザー面談での活用や周知を進めていくことを計画している。他方、本学ではキャリア教育の充実が課題となっていることから、今後は共通教育部等と連携しながら、充実を図っていく必要がある。

就職支援部門では、就職ガイダンスの実施や求人 NAVI、教務システム「はっとりん」、ニュースレター等で就職情報やインターンシップ情報の発信等を行っている。また、キャリア・就職相談室では、ES 指導、面接指導など個別の相談に応じるとともに、部門員から就職活動状況を収集して、活動がうまくいっていない学生に対して個別に対応している。このような活動は、4 年次生のアンケート結果から徐々に浸透していて、学生にとっても有意義な支援であることがうかがえる。一方、1～3 年次生については、モチベーションの違いからか、支援活動が浸透しているとは言えず、今後はキャリア形成の観点およびスムーズな就職活動のためにも、低学年から各種支援活動を知ってもらい、参加・活用してもらえるような取り組みが必要と考える。さらに、県内就職率向上のために地域創造戦略センターと連携した活動も必要となる。

学生生活支援部門では、障がい学生支援、正課外活動支援、経済的支援、学習環境や福利施設の整備、厚生補導等を行っている。これらの活動の多くは、学生に知ってもらい支援につながってもらうことが重要である。その点において、周知活動を行ってきて認知度が上がってきている活動もあれば、そうではない活動もあり、引き続き周知は必要と考える。また、2021 年度末には教職員のための学生対応マニュアルを配布、学生には相談内容と相談先が一目でわかる SUPPOR TGUIDE を配布して相談体制を整備してきた。その甲斐あってか学生の各種不安や悩みごとに対して、相談相手がいないと回答した学生の割合は減少した。今年度は SA 制度を整備して、2023 年度から運用を開始する。SA を活用した支援体制の強化が期待できる。一方、学修環境や福利施設に対する学生の改善要望は根強いため、引き続き整備を検討する必要がある。

第 3 章　グローバルラーニングセンターにおける教育活動と成果

1　概要

グローバルラーニングセンター（GLC）は、英語をコミュニケーションツールとして駆使できるグローバル人材の育成に重点を置く新しい組織として令和 2 年 4 月に開設されたセンターである。

本センターではグローバル教育支援、グローバル研究支援およびグローバル活動管理の 3 本の柱により、英語をコミュニケーションツールとして駆使できる能力を育成することを図りながら、本学の学生および教職員に対するグローバル化活動を支援している。なお、語学教育に関しては、語学教育推進室と本センターによる連携会議を定期開催し、緊密な協力体制を構築して連携強化を図っている。以下、各支援活動について報告する。

2　グローバル教育支援

2-1　学生によるグローバル活動支援：SIPS

2021 年文部科学省・官民協働留学創出プロジェクト「トビタテ！留学 JAPAN」では、大学間の相互交流や情報交換を通じて留学促進を行うことを目的として、全国の各大学に学生主体の SIPS チームを組織することを決定した。Staff & Student Initiative for Promoting Study Abroad を意味する SIPS は、学生が主体となって留学を促進する取組みである。本学では 5 人の学部生を中心としたメンバーで SIPS を組織し、2021 年度からその活動を開始している。

令和 4 年度は、スタンフォード大学（アメリカ）、ハノーバー応用科学芸術大学（ドイツ）の学生との交流を行い、藍染めや備前焼の体験、歓迎会の企画など主体的に取り組んだ。また、学生の発案で県大 SIPS の SNS アカウントを作成し、バーチャル留学体験（Instagram によるライブ配信）を行うなど、海外留学に関する情報を積極的に発信した。さらに、SIPS 事務局の開催する研修やセミナーで共有された他大学の様子や取組みを県大 SIPS の活動に活かしている。

【SIPS 事務局による研修・セミナー】

	実施日	研修・セミナー名
No.1	令和 4 年 5 月 20 日	キックオフ情報交換会
No.2	令和 4 年 9 月 7 日	高大接続研修
No.3	令和 4 年 12 月 8 日	SIPS 情報交換会

2-2　英語によるオンラインディスカッション：GLC Lunch-Talk（オンライン実施）

GLC では昼休みを利用して行うオンライン英語スピーチとディスカッションプログラムを新たに企画し、海外連携校であるマレーシアマラッカ技術大学（UTeM）との検討・協議を行い、オンラインにより実施する GLC Lunch-Talk を令和 3 年 5 月から開始した。SIPS メンバーが中心となってプログラムに取り組んでいる。本プログラムは、2 分間スピーチとそれに続くディスカッションを MC 役の学生がリードする実践英語セッションであり、和やかな雰囲気で実践的な英語力を

身に付けるきっかけとなる場を提供している。令和 4 年度は、英会話に不安がある学生でも気軽に参加できるよう、Zoomブレイクアウトルームを活用した少人数でのグループディスカッションや英会話ゲームなどの新しいコンテンツを企画した。令和 5 年度は SIPS 以外の参加者をさらに増やす工夫について、SIPS のメンバーと知恵を絞って取り組む予定である。

【GLC Lunch-Talk のプログラム概要と活動実績】

GLC Lunch-Talk（令和 4 年度）								
開催時間	12:00～13:00							
開催月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
開催回数	2	5	1	長期休業のため開催無		2	3	2
OPU 参加者	延べ 61 名							
UTeM 参加者	延べ 105 名							

2-3 グローバルに活躍する専門家によるバーチャル講演会：GLC Tech-Talk WEBINAR Series

グローバルに活躍する専門家を講師に招き、グローバルな視点からの話題提供と議論を全学学生と教職員へ提供する場となる「GLC Tech-Talk WEBINAR Series 特別講演会」をGLCで企画・実施した。学内協力者の支援で講師を募り、今年度は計８件の講演会を開催した。

【GLC Tech-Talk WEBINAR】

	実施月	講演者	所属
	講演タイトル		
No.10	令和 4 年 4 月	桜田 秀美	株式会社 D&D STUDIO
	Design is 出青因 ～デゼンインはグローバル！～		
No.11	令和 4 年 6 月	藤井 堅三	Fujii & Company
	グローバル化が死んだ ～超大国 vs. 超個人～		
No.12	令和 4 年 9 月	山口 裕子	北九州市立大学文学部
	インドネシアの小さな島からグローバルを／に考える		
No.13	令和 4 年 9 月	井上 全人	明治大学
	グローバルデザイン ～日本とドイツにおける教育・文化とモノのつくり方の違い～		
No.14	令和 4 年 11 月	池亀 はるみ	kachua
	インドの職人と共に手がけるテキスタイルブランド ～循環するグローバルなものづくり～		
No.15	令和 4 年 11 月	笹原 信一朗	筑波大学医学医療系 産業精神医学・宇宙医学
	グローバルなうつ病予防に関する研究紹介 ～スウェーデンにおける自然を活用したリハビリテーション～		

No.16	令和４年12月	大野 光平	明治大学総合数理学部
	グローバルな活動を目指して		
No.17	令和５年１月	待場 勝利	株式会社 Psychic VR Lab
	VR 映画・XR コンテンツを通したグローバルな作品展開		

2-4 グローバルな専門家による英語講義：GLC LECTURE SERIES（オンライン実施）

英語で実施される講義をオンラインで学内に公開し、本学のグローバル教育に新しい刺激となる「GLC LECTURE SERIES 特別講義」を企画し、今年度は計４件の講演会を開催した。

【GLC LECURE SERIES】

	実施月	講演者	所属等
	講演タイトル		
No.4	令和４年９月	Effendi Mohamad	マラッカ技術大学
	Malaysian industrial revolution by Industry 4.0		
No.5	令和４年12月	細野 仁美	陶芸作家
	イギリスの現在のやきものと作家たちの様子について		
No.6	令和５年１月	Lorenzo Grieco	University of Rome Tor Vergata
	ファシスト期の都市ローマ		
No.7	令和５年２月	Minna Cheung	ラハティ応用科学大学
	Circular Design in Fashion		

2-5 学部で取り組むグローバル教育活動支援

(1)海外インターンシップ（情報工学部開講授業）

- TMAC Design Workshop 2023（R5 年２月実施）-

情報工学部では令和 ４ 年度より海外インターンシップ授業科目を開講した。海外協定校であるマレーシアマラッカ技術大学（UTeM）とプログラムを企画し、情報工学部学生 ６ 名が参加した。参加学生が異文化チームに分かれてグループワークを行い、新しい製品設計のアイデアを議論・提案し、プレゼン能力を高めるプログラムとして実施した。加えて、英語によるコミュニケーション力を鍛えられる内容のプログラムとなっていた。

【海外インターンシッププログラムの様子】

(2)国際ワークショップ(情報工学部)

- 日独学生ワークショップ:OHJG-2023 Workshop(R5 年 2 月実施)-

情報工学部とドイツ・ハノーバー応用科学芸術大学との連携企画により、令和 4 年度さくらサイエンスプログラムの一環として、日独学生ワークショップを令和 5 年 2 月に実施した。日独混成チームに分かれてグループディスカッションを行い、スマート社会に向けた新しい製品企画のアイデアについて、ポスターセッション形式で提案・議論を行った。両大学ともに学生の積極的な参加が認められ、短期間ではあったが非常に有意義な成果を得ることができた。

【日独学生ワークショップの様子】

3 グローバル研究支援

3-1 国際共同研究に関する活動

本学が取り組んでいる国際共同研究の概要を紹介する。マレーシアマラッカ技術大学とは、人間情報工学科で行われている研究・教育交流が発展して交流協定校を締結し、情報工学部開講科目の海外インターンシップ派遣校としての交流も始まっている。インドネシアのハサヌディン大学とは、保健福祉学研究科(栄養学大講座)の留学生の指導を介して、共同研究が継続されている。タイ・カセサート大学とは、栄養学科および情報システム工学科で研究交流が継続されている。ドイツ・ハノーバー応用科学芸術大学と令和 4 年度に情報工学部が交流協定を締結し、日独シンポジウムを開催し、研究者間交流が始まっている。また、デザイン学部を中心としてスウェーデン・ヨンショーピン大学との交流が始まり、令和 4 年度は本学大学院生が留学し、共同研究に向けた交流が進められている。また、スウェーデン農業大学とは保健福祉学部を中心として研究交流が進められている。国立台南芸術大学とは、デザイン学部との研究・教育交流が進められており、卒業生による交流展示の開催や地域産業関係者を交えた研究交流が継続されている。以下に、主な連携活動について報告する。

3-2 学部で取り組む主な学術連携活動

(1) 情報工学部とハノーバー応用科学芸術大学との学術連携活動

情報工学部とドイツ・ハノーバー応用科学芸術大学では、連携企画による日独シンポジウム OHJG-2023(OPU-HsH Japanese-German Symposium 2023)を令和 5 年 2 月 15 日に本学にて実施した。特別講演 1 件に加えて、ドイツから招聘した 10 名、本学から 6 名の教員・研究者・学生が登壇し、インダストリー4.0 およびソサイエティ 5.0 に関連した講演報告と質疑

応答を行い、研究者間の交流の場とすることができた。本学からは、教員に加えて大学院・学部生が研究発表を英語で行っており、研究のモチベーションを上げる機会となった。

【OHJG-2023 シンポジウムの様子】

(2) デザイン学部と国立台南芸術大学との学術連携活動

デザイン学部教員と卒業生による国立台南芸術大学との交流展示展として、「風格ー脈絡」展(令和 5 年 1 月台南市呉園公会堂)および「現代工芸のダイアローグ」展(令和 5 年 2 月倉敷市倉敷物語館)を開催した。倉敷展に際して表敬訪問された関係者との間では、台湾と岡山の地域資産である天然素材いぐさに関連した今後の研究交流についての議論が交わされた。また、留学生(デザイン工学科 1 名)の派遣、台湾スタディツアー(令和 5 年 3 月 12 日-18 日)の実施、ワークショップや講演会の開催等の活動が行われた。

【国立台南芸術大学からの表敬訪問と交流展示会】

(3) デザイン学部とスウエーデン・ヨンショーピン大学との学術連携活動

デザイン学部とスウエーデン・ヨンショーピン大学との連携企画によるオンラインシンポジウムを令和 4 年 10 月 6 日に開催した。ヨンショーピン大学から研究者 2 名と学生 1 名、本学から教員 2 名と学生 1 名が参加し、研究テーマの発表とそれに関連した議論を行った。両大学ともに学生の積極的な参加が認められ、非常に有意義な成果を得ることができた。

さらにデザイン学部の教員によるヨンショーピン大学での講義や、本学からの留学生派遣等、活発な学術連携活動が行われている。

【ヨンショーピン大学での講義と学生指導の様子】

4 グローバル活動管理

4-1 基盤整備のための外部資金獲得

本学の財政状況が極めて厳しい中で、国際交流事業に関する外部資金を獲得し活用することに積極的に取り組んでいる。令和 4 年度申請と採用の状況は以下のとおりである。

(A) 日本学生支援機構:海外留学支援制度(協定派遣)

令和 4 年度は情報工学部の学生 2 名が短期留学に派遣されている。令和 5 年度に実施するマレーシアマラッカ技術大学での短期留学プログラム(情報工学部)についても、継続採用されている。

(B) トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム(全国コース)

令和 3 年 7 月に採択された栄養学科の学生 1 名が 3 月から 1 年間カナダへ、デザイン工学専攻の学生 1 名が 4 月から 1 年間ドイツへ留学した。現在は、学生 3 名(デザイン工学科 2 名およびビジュアルデザイン学科 1 名)の令和 5 年 2 月申請をサポートしている。

(C) さくらサイエンスプログラム:JST

ドイツ・ハノーバー応用科学芸術大学の短期研修プログラム(情報工学部)が令和 4 年度採択となり、学生・研究者・教員を招聘し、本学においてプログラムを実施した。令和 5 年度も継続に向けて準備を進めている。

4-2 国際交流協定校および客員教授

令和 4 年度における大学間交流協定校一覧を下表に記す。交流実績のある海外の優れた大学との交流を発展させるため、令和 4 年 11 月 10 日に「国際交流協定締結等に関する方針」を定め、MoU コーディネーターとなる教員を中心に協定に基づく交流等を推進する体制を構築した。

また、海外における取組の充実を図るため、昨年から引き続き令和 4 年度においても、香港(2 名)、台湾(1 名)、アメリカ(1 名)、フィンランド(1 名)の合計 5 名の海外在住客員教授を配置した。

【令和 4 年度大学間交流協定校一覧】

	締結年	大学名	国
1	平成 8 年	バンガー大学	イギリス

2	平成 8 年	セントアンドリュース大学	イギリス
3	平成 17 年	又松大学校	韓国
4	平成 19 年	四川大学	中国
5	平成 19 年	南昌大学	中国
6	平成 20 年	延辺大学	中国
7	平成 26 年	ハサヌディン大学	インドネシア
8	平成 26 年	アデレイド大学	オーストラリア
9	平成 27 年	トリプバン大学	ネパール
10	平成 27 年	雲林科技大学	台湾
11	平成 27 年	モンテレイ大学	メキシコ
12	平成 28 年	ポートランド州立大学	アメリカ
13	平成 28 年	東南大学	中国
14	平成 29 年	カセサート大学	タイ
15	平成 30 年	ラハティ応用科学大学	フィンランド
16	令和元年	ダンヌンツィオ大学	イタリア
17	令和 2 年	国立台南芸術大学	台湾

4-3 留学希望学生支援

留学に興味を示す学生の情報収集に努め、該当学生に対しては GLC センター委員が対応する体制を整えた。その結果、GLC センター委員全員が一丸となって取り組み、留学希望学生の早期発掘と、きめ細かい支援体制を構築した。

5 まとめと今後の課題

新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の海外派遣や受入ができない状況が続いていたが、令和 4 年度は学生の海外派遣と受入を行うことができた。その一方で、多くの教職員のご協力のもとで、オンラインを活用した講演会、シンポジウム、ワークショップ、セミナーなどを併用し、本学のグローバル活動の流れを絶やさないように取り組んだ。

「with コロナ」の状況は収束していないものの、令和 5 年度は「after コロナ」を前提としたオンラインでのグローバル活動を続けながら学生の留学機運を高める取り組みを行い、海外との往来が活発となった時に備えて、学生の危機管理体制の強化についても気を緩めることなく取り組む予定である。

第 4 章　学術研究推進センターにおける教育活動と成果

1　概要

本章では、平成 27 年 10 月に発足した学術研究推進センターについて、令和 4 年度における次の活動内容について報告する。

1　科研費計画書作成研修会および科研費計画書の提出前検討会の実施
2　学内の競争的研究資金の戦略的交付の実施
3　外部競争的研究資金獲得推進支援の実施
4　本学の研究シーズの発信

2　学術研究推進における教育活動と成果

2-1　科研費計画書作成研修会および科研費計画書の提出前検討会の実施

科研費申請支援活動では、外部講師を招き、3 年ぶりに対面での科研費支援講演会を行った（29 名が参加）。事後アンケートでは、ほとんどの教員から非常に好評との評価を得た。

継続的に実施している科研費支援（外部業者による添削）では、先着 13 名を募り、11 名の教員の添削を行った。

2022 年度 9 月末時点の科研費採択数 15 件、科研費の採択率 23.4%。

科研費等、外部競争的研究資金の公募情報は、随時メールで全教員に通知・リマインド継続配信した。

2-2　学内の競争的研究資金の戦略的交付の実施

前年度に実施した、学内競争的研究資金制度の変更に対する評価継続と研究活動の有効性を可視化するためのフィジビリティスタディーを実施した。特に、重点領域研究活性化および若手研究者の研究参画支援計画を重点的に検討するとともに、学内競争的研究資金から科研費へのステップアップへの発展件数調査等の仕組みづくりの検討を実施した。

2-3　外部競争的研究資金獲得推進支援の実施

前年度に引き続き、科研費を含めた外部競争的研究資金の公募情報は、随時メールで全教員に通知・リマインド配信を実施した。

2-4　本学の研究シーズの発信

県の要望と本学のシーズとの融合連携推進にむけたスタディーミーティングは、県施策推進担当各課に、連携の可能性が高い当該分野の本学シーズを抽出してインプットした結果、県からのスタディーミーティングに関するテーマ設定を受け、3 月に（3 件）実施した。

3　まとめと課題

学術研究推進センターが掲げた本年度の取り組みは十分達成された。従前から継続してきた科研費獲得に向けた各種取り組みにより、2022 年度の科研費採択率（最終）は 23.4%、新規

採択数は 15 件、獲得額は 79,118 千円。公募型研究助成事業（科研費を除く）の採択数は 28 件、獲得額は 33,648.5 千円。

今後も、科研費をはじめとする外部競争的研究資金獲得、県とのスタディーミーティングに代表される本学のシーズ発信、ならびに重点領域研究および若手研究者の活性化を念頭にした学内の競争的研究資金の戦略的交付の実施等の支援を積極的に推進するとともに、健全な研究活動推進のためのコンプライアンス教育および研究倫理教育を実施していく。

第 5 章　アドミッション・高大連携センターにおける教育活動と成果

1　概要

新課程入試となる令和 7(2025)年度入試の 2 年前予告は、令和 4 年度中の公表が求められている。文部科学省においても教育改革・入試改革を一体として捉え、共通テストの科目数も、これまでの 5 教科 7 科目から、新教科として「情報 1」の追加およびいくつかの教科での科目名の統合・変更を行い、基礎学力の評価が 6 教科 8 科目を標準とすることが決定された。本学において、これらへの適切な対応や現在の入試環境を把握するため、ベネッセ文教総研西島氏に依頼し、本学の教職員を対象とした講演会「ステークホルダーから共感され、効果を実感できる入試改革を考える」を 4 月 27 日に開催した。本センターにおいても、2022 年度当初から各学部に新課程入試への対応について検討することを要請し、各学科長との面談を実施した。新科目「情報 1」に関しては次の①～③等の問題点が指摘されているところであった。

① 「情報 1」の高校での教育に関して、地域格差および学校間格差が見られる。首都圏では情報専門教員が配置されているが、地方高校においては充分ではない(全国高校校長協会)。この点を充分に配慮しなければならない。岡山県においても多くの高校で他教科教員の兼担や複数校持ち回りの非常勤教員に頼っている現状がある。

② 「情報 1」は 2 単位科目であり、これまでの 5 教科 7 科目と同等に扱うのはバランスが悪い。

③ 大学入試センターにおいては、過年度生への対応は全く別科目である「旧情報」で対処するとしているが、入試の公平性を保てるかという懸念がある。

本センターでも前年度からこの科目の入試利用に関して、県内高校への聞き取り調査、さらに沖学長への意見聴取等を重ねた結果、「情報 1」で学ぶ知識・技術は高等教育を受けようとする人には必須の学力、スキルであるという判断から、原則として全募集単位で「情報 1」を試験科目とすること、加えて高校における英語学習が四技能重視になっていることもあり、共通テストの英語においてリーディング・リスニングの配点比を 1:1 と変更することを検討するよう要請した。また、このような変更に伴うアドミッションポリシーの改訂および入学者選抜方法の見直し・改善に取り組んだ。

本センターの 3 部門「入試広報部門」、「高大連携部門」および「入学者選抜制度開発部門」間の連携および情報共有を円滑にするために 7 回のセンター会議を開催した。本章ではこれら 3 部門の令和 4(2022)年度の活動と成果を報告する。

2　各部門における教育活動と成果

2-1　入試広報部門

入試広報部門では、高校訪問実施および進学関連業者主催の進学相談会への参加、本センター主催の「岡山県立大学の教育と入試説明会」の開催、SNS の活用(LINE アカウント開設)、学生広報委員による広報活動等を行うことによって、入試広報活動の強化を図った。

入試広報において最重要課題はステークホルダーへの入試制度の周知であるが、それ以前に本学を認知してもらうことが重要である。本学は県内ではある程度認知されているものの、県外においては充分とは言えない。志願者動向からは、南北近隣県において、愛媛・香川における認知度と、鳥取・島根における認知度とには、大きな差があることが見えてくる。また、隣接大都市圏においても、北九州地区と関西地区との比較において、人口比以上に北九州地区における認知度がかなり小さいことが分かった。本学の認知度向上について、大学を挙げて、県内は言うまでもなく近隣県においても広報活動が必要である。教職員による母校訪問を積極的に推奨して効果を上げている大学があるという話も聞くことからも、大学を挙げての取り組みが必要と思われる。

2-1-1 高校訪問

前年度入試において志願者数を多く出した県内高校への計画的な訪問により、志願の継続を依頼することは入試広報の最重要事項である。2021 年度には、志願者数上位 30 校＋α の高校訪問を行い、大学案内、選抜要項等の資料を志願者数の実績に応じて各校に配布するとともに、進路担当教諭や 3 年生担任教諭との面談を実施し、新科目「情報 1」の教育に関することの聞き取りや本学の入試制度の理解を促した。しかし、本センター専任事務職員が 2021 年度途中に退職し、2022 年度も補充されなかったことから、この計画的な高校訪問は実施できなかった。ちなみに 2022 年度入試の志願者数上位校は次のとおりであった。過年度志願者数と併せて示す。

		年　度	
	令和４	令和３	令和２
高校名	2022	2021	2020
1 岡山一宮	67	68	57
2 岡山芳泉	65	55	62
3 総社南	52	53	39
4 倉敷青陵	47	53	47
5 倉敷古城池	45	54	47
6 倉敷南	37	48	41
6 総社	37	46	26
8 瀬戸	36	35	25
9 玉島	33	46	27
10 倉敷天城	32	40	23
11 私立岡山就実	31	34	22
12 岡山朝日	30	17	9
13 西大寺	28	28	20
13 岡山城東	28	48	31

15	玉野光南	26	35	20
16	私立岡山明誠学院	25	29	22
17	私立岡山学芸館	21	24	13
18	岡山操山	19	48	29
18	井原	19	14	10
20	笠岡	18	37	18
21	岡山工業	13	17	6
21	岡山大安寺	13	22	17
23	玉野	11	10	0
23	高梁	11	12	11
25	勝山	8	7	11
25	私立金光学園	8	10	7

以上のように 2022 年の志願者数上位校は、県内でも屈指の進学校が並んでいることが分かる。本学の発展充実のためには、これらの進学校から入学者をある程度確保しておくことが重要である。そのためにも昨年のように routine visit として各校を訪問し、担当教諭と面談を実施することは極めて重要である。多くの他大学でも欠かせない広報手段の一つと捉えてられている。旧帝大の一角である名古屋大学においても昨年は 170 高校への訪問を実施している。

本年度は前述した計画的な志願者数上位校の各校訪問の完全実施はできなかったが、種々の機会を捉えて次に示した 25 件の高校訪問（オンライン訪問を含める）を実施し、大学の概要および入試制度の説明を実施した。講義形式で本学の概要説明に出席した高校生は 430 名であった。

令和 4（2022）年度高校訪問実施リスト（本センターが実施したもの）

月	日	高校名	訪問内容
4	23	岡山理大附属高校	講義実施 50 分 受講者 6 名
5	24	岡山東商業高校	講義実施 50 分 受講者 2 名
5	31	広島県立神辺旭高校	講義実施 45 分 2 回 受講者 20 名
6	2	岡山関西高校	ZIP アリーナ ブース形式 15 名
6	13	山口県立津和野高校	オンライン講義実施 60 分 3 名受講
6	14	岡山一宮高校	講義実施 40 分 38 名受講、梅田校長と面談
7	5	総社南高校	秋山校長、吉田教頭と面談
7	12	西大寺高校	オンライン講義実施 40 分x2 117 名受講
7	13	兵庫県立加古川北高校	オンライン講義実施 50 分 10 名受講
7	22	兵庫県立尼崎小田高等学校	オンライン講義実施 50 分 7 名受講
8	26	岡山就実高校	講義実施 60 分 生徒 21 名保護者 13 名受講

9	28	神戸甲南女子高校	オンライン講義実施　30 分x3　10 名受講
10	18	岡山学芸館高校	講義実施　50 分　10 名受講
10	25	総社高校	地域公開授業への参加
10	28	岡山後楽館高校	岡山国際交流センター　ブース担当　16 名対応
12	2	岡山山陽学園高校	講義実施　40 分　2 回　受講者 25 名
12	14	広島県立神辺旭高校	講義実施　50 分　2 回　受講者 53 名
12	19	岡山南高校	講義実施　40 分　受講者 25 名
1	20	総社高校	大学案内、選抜要項配布　20 部
1	20	総社南高校	大学案内、選抜要項配布　20 部
1	23	岡山一宮高校	大学案内、選抜要項配布　20 部
2	9	広島県立福山明王台	オンライン講義実施　60 分　17 名受講
3	3	玉野高校	講義実施　30 分x2
3	17	私立米子松陰高校	オンライン　講義実施　45 分
3	23	神戸市立六甲アイランド高校	オンライン　講義実施　30 分x2

2-1-2 進学説明会

本センターが主催する進学説明会と、進学関連業者が主催する進学説明会が主である。

【センター主催進学説明会】

高校教員等対象進学説明会

高校教員、予備校教員等で高校生の進路決定に係る教員を対象とした対面での進学説明会を 6 月 30 日（木、14：00～16：00）に開催した。しかし、この日程では次年度入試の変更点は確定しているが、当該年度の入学者選抜要項が納品されていないため、参加校への配布はできない。高校側からは「せっかくのチャンスなので選抜要項を必要部数配布可能な日程での開催を希望します。」という声があった。

岡山県立大学の教育と入試説明会

2020 年度までは本学から高校生に向けての情報発信する機会が設けられていなかったため、2021 年度から高校生・保護者を対象とした「岡山県立大学の教育と入試説明会」を実施することとした。2021 年度は新型コロナウイルス感染症のパンデミックによりオンライン開催となったが、2022 年度は同感染症への対策をしつつ対面開催とすることができた。遠方からの参加希望者も多いので、前年度の経験も生かし 2 回のオンラインでの説明会も実施した。本学の特徴ある教育や入試制度の概要などを説明し、次いで学生広報委員会による在学生からの大学紹介や合格体験談の発表を行った。さらに、受験希望学部に分散して各学部の教育、研究、入試の説明を実施した。3 回の開催で約 300 名の参加予約があった。

【業者主催進学相談会】

受験産業、広告業者、新聞社などが開催する進学ガイダンスに、2022 年度は 20 回のブース

出展を行った。来場者（高校生、保護者）が出展各大学のブースを訪問し、個人面談により大学の各種情報を得ようとするものである。上記感染症の影響もありオンラインで開催されたケースも多かったが、20 回の出展のうち対面 15 回、オンライン 5 回であった。ブース対応で面談した高校生、保護者は総計で 350 名であった。

令和 4（2022）年度進学ガイダンス参加リスト（本センターが実施したもの）

月	日	主催業者名	実施会場	開始	終了
4	18	山陽新聞社	コンベンションセンター	15:00	18:30
4	26	日本ドリコム	コンベンションセンター	15:30	18:00
5	9	ライセンスアカデミー	広島中小企業会館	15:00	18:00
5	26	栄美通信	コンベンションセンター	14:20	19:00
6	2	さんぽう	ZIP アリーナ	15:30	18:00
6	8	日本ドリコム	コンベンションセンター	15:45	18:00
6	15	栄美通信	松山総合コミュニティセンター	15:30	18:30
6	22	栄美通信	高松クレメントホテル	14:00	18:00
7	6	ライセンスアカデミー	コンベンションセンター	13:00	18:00
7	7	海外子女教育振興財団	ZOOM 講義	15:30	15:55
7	20	キッズコーポレーション	オンライン	13:00	15:00
9	20	日本ドリコム	コンベンションセンター	15:45	18:00
9	29	栄美通信	コンベンションセンター	15:30	18:30
10	3	山陽新聞社	コンベンションセンター	15:30	18:30
11	14	栄美通信	コンベンションセンター	16:00	18:00
12	22	ライセンスアカデミー	倉敷市民会館	15:30	16:00
12	23	キッズコーポレーション	オンライン	13:30	15:10
1	23	日本ドリコム	コンベンションセンター	16:00	18:00
3	9	さんぽう	倉敷アイビースクェアー	13:00	15:00
3	17	さんぽう	オンライン	14:00	15:40

2-1-3 SNS を利用した広報活動

動画配信（YouTube）

本学および入試制度を周知する目的で「大学の概要と入試について」と題した動画を作成し YouTube で公開した。動画資料の作成および BGM（E. Satie Gymnopedies）は本センターが担当し、ナレーションは保健福祉学部山本登志子教授が担当して作成した。入試班の最終チェックを経て 2022 年 5 月に公開した。ちなみに BGM 使用に関する著作権はクリアされている。全編約 17 分の PowerPoint 動画は 2023 年 2 月現在 2100 回視聴されている。動画データ

の第 1 ページを次に示した。

LINE アカウントの開設

2021 年度より「岡山県立大学　入試」として LINE 公式アカウントを取得し、高校生にとってより身近な情報発信手段として利用している。入試および進学相談会の情報を発信しており、様々な機会を利用して次に示すように友だち登録を勧めている。また、この QR コードは大学案内にも掲載している。2023 年 2 月現在 1062 名の友だち登録がある。

2-2 高大連携部門

高大連携部門では、高校教員対象進学説明会や岡山県立大学高大連携推進作業部会を実施した。コロナ禍で実施できていなかった「高校生のための大学授業開放」については、3 年ぶりに実施した。また、岡山県教育庁高校教育課 WWL コンソーシアム構築支援事業や総社高校が実施する「地域公開授業」へ本学教員が参加し、高大連携事業を積極的に展開した。

2-2-1 令和４年度高校等教員対象進学説明会

（県内高等学校等進路指導担当教員との意見交換会から名称変更）

(1)日時

令和４年６月 30 日(木)14:00～16:00

全体説明 14:00～15:10　　個別相談会 15:15～16:00

(2)場所

全体説明 学部共通棟(北)8201 講義室

個別相談会 学部共通棟(東)8902、8903 講義室

※なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い対面で実施した。

(3)高校側の出席状況

40 校 42 人(コロナ対策により１校２名までとして募集した)

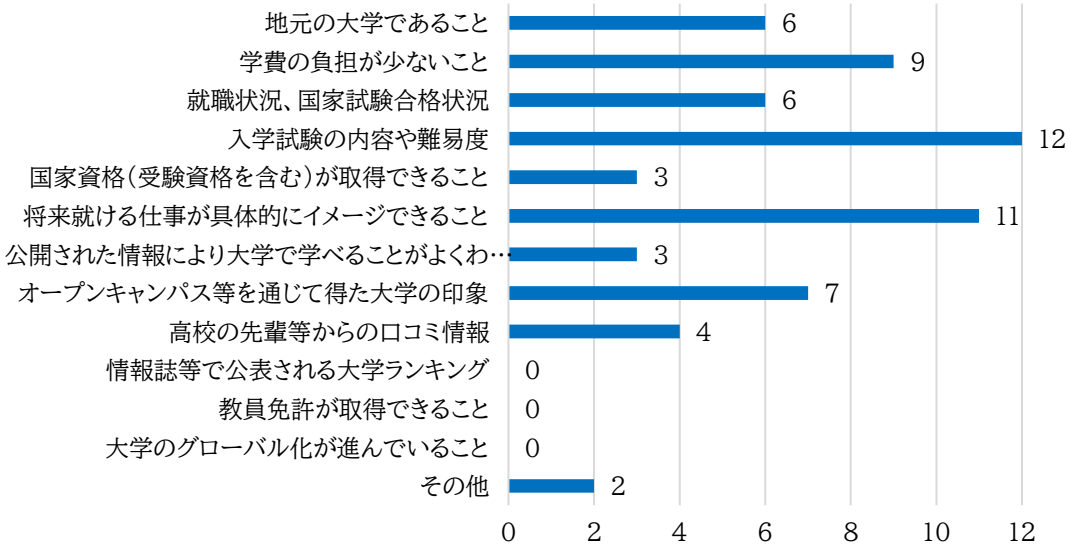
(4)説明会の内容

1. アドミッション・高大連携センター長挨拶
2. 岡山県立大学の概要(アドミッション・高大連携センター副センター長)
3. 入学者選抜の概要(入試班長)
4. 各学部説明(各学部長)
5. 質疑応答、意見交換
6. 各学部の個別相談(8902、8903 講義室)

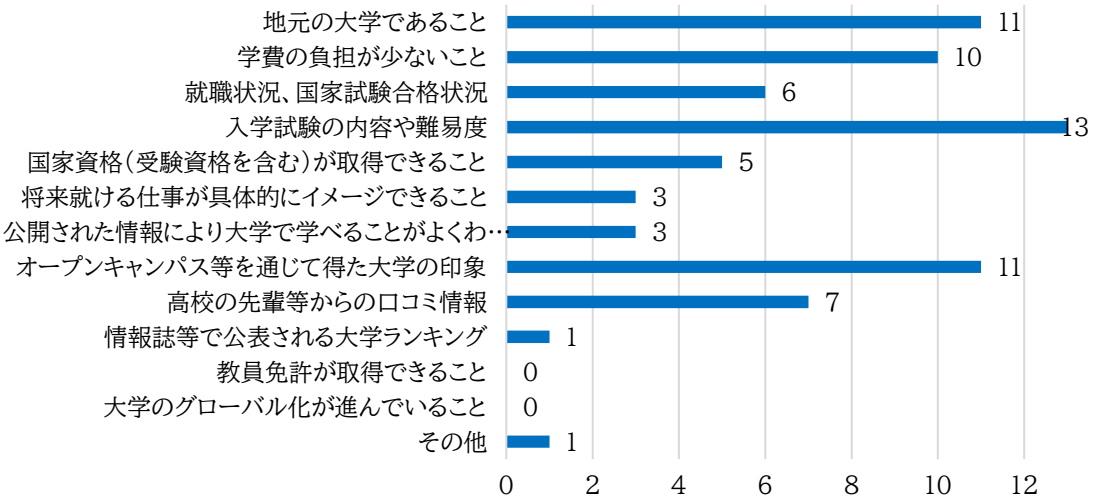
(5)アンケート集計(n=15、回収率 35.7%)

実施期間:令和４年６月 30 日～７月７日

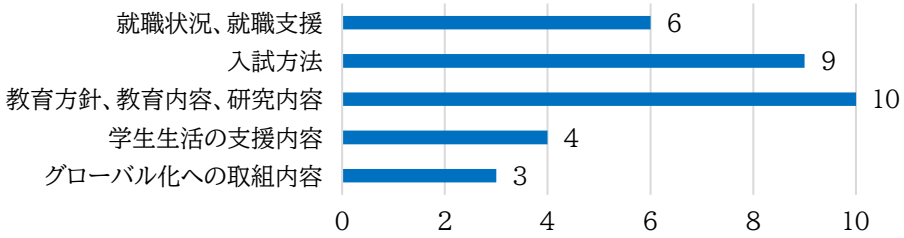
1.進路指導する際に重視していること(5 つまで回答可)



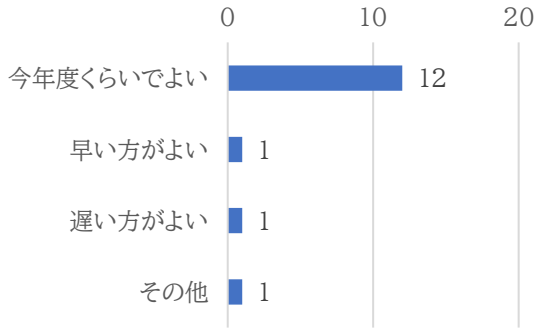
2.高校生が進学先を決める際に重視していると感じる事項(5 つまで回答可)



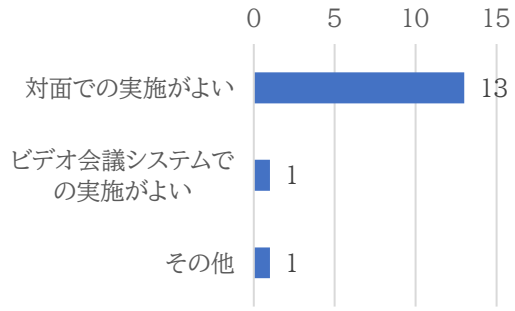
3.本学の情報のうち、発信内容を充実してほしいもの(複数回答可)



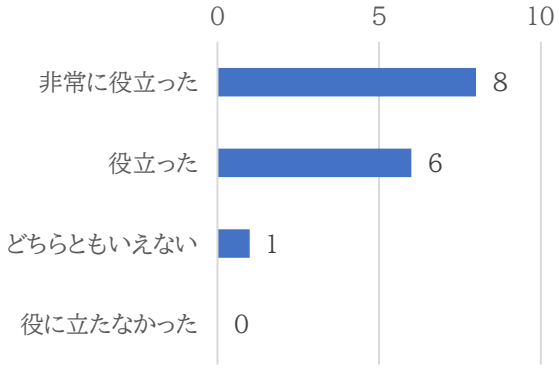
4.次年度以降の本説明会の実施時期



5.次年度以降の本説明会の実施方法



6.本説明会に参加して役に立ったか



7.本説明会に関する意見(自由記述)

- 個別相談会はありがたいです。駐車場からの距離が遠いことがびっくりしました。
- 持ち帰った情報が教員、生徒にとって有益なものとなるよう共有できればと思っております。
- 生徒を指導していくうえで、とても参考になることを教えていただきました。
- 個別相談でも詳しく丁寧に対応して下さったのでスムーズによい雰囲気でお話ができました。また来年度も、是非参加させていただきたいと思います。
- 大学の特徴や取り組みがよくわかりました。説明会で得た情報を他の教員や生徒に伝えていきたいと思います。
- 実施時期について、募集要項はおろか入学者選抜要項すらできていないのに、教員対象説明会をするのはどうかと思います。その年度に実施する入学者選抜試験に対しての大学からの説明というものが、この会に参加する目的の主である高校が多いはずです。もちろん、各学部からの説明、昨年度入試の結果等の情報は指導の参考にさせてもらえるものなのですが、あわせて確定した入試情報をご提供いただければ、もっとこの会が有益なイベントになるのではないかと感じました。
- 全体説明も重視していることがよくわかってよかったです。ただ、時間がおして全体質問がカ

ットされたのは残念でした。ただ、個別相談はとてもよく各教授陣の姿勢がとてもよかったです。デザイン学部の総合型選抜で不合格だった生徒は、同じデザイン学部の同じ学科に学校推薦型選抜で出願は可能ですか。個別相談では可能だと聞いたのですか。オープンキャンパスは人数制限があり、すぐに申込みがいっぱいになって参加できない生徒がいます。次の授業開放にも申し込みますが、それもいっぱいになった場合、ほかの見る機会はないのでしょうか。面接でも「オープンキャンパスは来ましたか」という質問がよくありますが、受験生に有利不利はおきませんか。

- 個別相談では情報工学部にて細かいところまでお教えいただき、生徒への指導に十分役立ちそうです。デザイン学部での入試変更点の『図形』の作図についてもう少し詳しく教えていただきたかったです。

- 個別のデザイン学部の説明がよくわかりました。個別相談会で親身に相談に乗っていただき感激しました。

2-2-2 岡山県立大学高大連携推進作業部会

(1)日 時 令和 4 年 8 月 22 日(月) 13 時～14 時 30 分

(2)会 場 岡山県立大学 本部棟 2 階 大会議室

(3)出席者

岡山県立大学　沖学長、伊東副学長兼アドミッション・高大連携センター長、高橋副学長、末岡副学長、近藤保健福祉学部長、尾﨑情報工学部長、嘉数デザイン学部長、田中共通教育部長、佐竹アドミッション・高大連携センター副センター長、喜村アドミッション・高大連携センター副センター長、善勝事務局長、平田教学課長、横田入試班長

岡山県高等学校長協会　武内校長(岡山操山)、文谷校長(岡山工業)、鳥越校長(倉敷南)赤松校長(津山)、内田校長(倉敷青陵)、甲本校長(玉島)、山本校長(西大寺)、山﨑校長(笠岡)、安藤校長(林野)、藤原校長(玉野)、早瀬校長(美作)、松沢校長(清心女子)、金谷事務部長(玉島)

(4)議題等

岡山県立大学の概要説明と副専攻「吉備の杜」を中心とした活動の報告、令和 5 年度入学者選抜の概要説明を行った。次に岡山県立大学(学部)の特徴・教育方針、入試への質問や要望の確認、高大連携・高大接続事業への質問と回答、情報科目や英語 4 技能の評価比重等、大学入試改革の現状や展望の説明、教員免許の取得に関する意見交換、等の議論を行い、今後の入試改革や高大連携事業の進め方の参考とした。

2-2-3 高大連携事業

令和 4 年 8 月 6 日と令和 4 年 8 月 20 日に、「高校生のための大学授業開放」を実施した(新型コロナウイルス感染症対策を講じ、事前申し込み制で定員を設けた)。参加者は 2 日間で 637 名であった。アンケート回答結果(326 名)より、県内からの参加者が 279 名(85.6%)、県

外からの参加者が 47 名(14.4%)であった。

令和 4 年度の高等学校への講師派遣は 11 件、高校生徒の訪問受入は 6 件だった。

(1)岡山県教育庁高校教育課 WWL コンソーシアム構築支援事業へ、情報工学部の末岡教授、保健福祉学部の周防准教授が参加し、高校生の学びに対して助言を行った。

(2)総社高校が実施する「地域公開授業」へ、本学からアドミッション・高大連携センター佐竹副センター長をはじめとした教員が参加した。

2-3 入学者選抜制度開発部門

入学者選抜制度開発部門ではベネッセ文教総研から講師を招へいし、近年の入試概況について情報提供を受け、2025 年度入試改革の参考とした。高校では新学習指導要領による新教育課程を学習した高校生が受験する 2025 年度入試への対応として、センターと各学科長との意見交換を基に入試委員会で議論を重ね、2 年前予告として 2022 年末に共通テストで課す試験科目や配点等について公表した。

2-3-1 本センター主催講演会の開催

ベネッセ文教総研西島一博氏に依頼し「ステークホルダーから共感され、効果を実感できる入試改革を考える」と題した講演会を、本学の教職員を対象として 4 月 27 日に開催した。大学入学者選抜における近年の概況として、①高校教育の変化、②総合型選抜における「探究入試」の取り組み例、③新学習指導要領の解説等があり、令和 7(2025)年度の新課程入試に対する準備のために有意義な情報が提供された。

2-3-2 2025 年度入試に向けた取り組み

2022 年度は、新教育課程で学んだ生徒が入試を受ける 2025(令和 7)年度入試への対応を各大学が 2 年前予告として公表する年度として、入試関連業界や高等学校でも、各大学の対応について大きな関心が寄せられた。本センターにおいても年度当初からこの件に取り組み、入試関連講演会の開催や、各学部および学科長との面談を実施した。その際、本センターからの要請事項として、①大学入学共通テストの英語科目においてリーディングとリスニングの得点比率をこれまでの 4:1 から 1:1 に変更する、②新科目「情報 1」を必須科目とすることを要請した。さらに、現状の入試において客観的に指摘されていること等も伝えて、学部内での検討を依頼した。①の事項に関しては全募集単位で要請に準じた変更がなされた。一方、②に関してはおむね必須科目とする変更がなされたが、現代福祉、子ども学科においては選択科目として課される変更となった。新課程入試における 2 年前予告(2022 年 12 月 27 日)の詳細は、大学ホームページで公表している[1]。

[1] 岡山県立大学, 入学者選抜における変更の予告, https://www.oka-pu.ac.jp/exam/page-15832/page-4745/ (2023 年 6 月 6 日閲覧)

2-3-3 現行入試制度の分析

少子化が社会問題となる昨今、学生募集は大学の死活を左右する重要課題である。志願者が定員に満たないという状況に陥る大学も見られる中、有効な選抜が期待できる入試実施の可否は、志願者の数および質に依存するところが大きい。このような観点に基づき、岡山県立大学の令和 4 年度(2022 年度)入試における志願者数の解析から、入試制度や入試科目が受験生の志願動向に与える影響を考察した。出身校の実情も把握しやすい県内志願者に重点を置き、その志願者数から入試の現状を分析し、今後の学生募集の課題を探る。志願者数は入試制度が受験生に受け入れられているかどうかのバロメーターであり、今後の入試において志願者増を考慮するための有効な指標になる。志願者数解析によって、本学が実施している入試が高校生から受け入れられているかどうかを探ろうとした。地元高校生の志願状況に注目して分析を行ったところ、地元で進学校として知られる高校からの人材が本学への入学を希望している状況を確認できた。したがって、そこで学んだ受験生に相応しい入試、あるいは受験意欲を抱かせる入試を設計していかなければならない。

現状の本学の一般選抜における受験生の志願行動を分析した結果について、岡山県立大学教育研究紀要(第 7 巻 1 号 pp.57-63)に、「志願者数解析による岡山県立大学における入試制度考察」と題した研究ノートとして発表した。

2-3-4 入学時アンケート

入学時アンケート(学部)の結果は、表として付録 B にまとめている。

1. 基本情報

・ 実施日:2022 年 4 月 5 日～4 月 27 日
・ 実施方法:Web アンケートサイト(Google Forms)で実施
・ 総数 386 名中、回答 340 名(回答率 88.08%)

2. 結果

2.1 本学志望順位

本学を第一志望とする学生が多い順に、建築学科(90.63%)、現代福祉学科(90.32%)、ビジュアルデザイン学科(87.50%)、子ども学科(85.71%)、工芸工業デザイン学科(74.19%)、栄養学科(70.45%)、看護学科(68.42%) であり、いずれも 6 割超である。一方で、情報工学部は今年度、人間情報工学科(44.00%)は減少、情報通信工学科(53.49%)、情報システム工学科(47.27%)はほぼ同じであった。

2.2 併願校

学科ごとの併願校を、付録 B 表 4 に示す。看護学科の併願校(川崎医療福祉大学、岡山大学等)は、ほとんどが大学看護学科または看護専門学校であり、看護職を強く希望している傾向が見られる。栄養学科の併願校(ノートルダム清心女子大学、武庫川女子大学等)では、栄養、食品、健康に関する専門分野に志願している。現代福祉学科の併願校(川崎医療福祉大学、就実大学、ノートルダム清心女子大学等)では、主に社会福祉、経済など、社会福祉分野が多い。子ども学科

の併願校(就実大学、ノートルダム清心女子大学等)では、児童、初等教育、保育、子ども医療福祉などが多かった。

情報工学部では、県外国公立大学を併願する者の傾向があったが近年私立大学も増えてきている傾向が見受けられる。情報通信工学科の併願校(岡山理科大学、近畿大学等)は、中国、関西、東海が多く、情報システム工学科の併願校(岡山理科大学、岡山大学等)は、中国、関西、四国が多かった。人間情報工学科の併願校(香川大学、岡山理科大学等)は、中国、四国、関西が多かった。

ビジュアルデザイン学科の併願校(近畿大学、筑波大学等)は、デザイン、芸術、環境などの学科が多く、工芸工業デザイン学科の併願校(静岡文化芸術大学、尾道市立大学等)では、造形デザイン、工芸デザイン、美術、芸術などの学科や専門学校が多かった。建築学科の併願校(岡山理科大学、近畿大学)では、近県の私立大学や専門学校等幅広く、地域も広く分布していた。

2.3 本学を志望した動機

本学を志望した動機の 1 位は、看護学科、栄養学科、現代福祉学科、子ども学科では、「希望する資格が得られる」が最も多く、情報通信工学科、情報システム工学科、ビジュアルデザイン学科、工芸工業デザイン学科、建築学科では、「教育内容が希望に近い」が最も多かった(付録 B 表 5)。人間情報工学科では、昨年の「研究内容に興味がある」から「教育内容が希望に近い」が最も多くなり、昨年と傾向が変わった。

2.4 アドミッションポリシーの理解

アドミッションポリシーの理解状況を、付録 B 表 6 に示す。「よく理解できた」と答えた学生が、看護学科、現代福祉学科、子ども学科、ビジュアルデザイン学科、建築学科では 60%以上であった。情報工学部 3 学科では 50%前後に留まった。栄養学科は 17.24 ポイント減少した。

2.5 受験科目

受験科目に関する質問では、昨年度は理科が最も受験しやすかった科目であったが、今年度は共通テスト(センター試験)になった。受験しにくかった科目について、昨年度は実技が挙げられていたが、今年度は小論文が最も受験しにくかった科目になった(付録 B 表 7)。

2.6 個別科目

個別試験にあったら受験しなかった科目は「プレゼンテーション」が最大で 37.94%、次いで「TOEIC や英語検定」の 37.65%であり、昨年と同じ順番だった(付録 B 表 8)。昨年度と比較してみると、最多の「プレゼンテーション」の割合が減少してきており、抵抗感がなくなってきている状況がうかがえる。

2.7 出願時の参考にしたもの

出願時の参考にしたものを、付録 B 表 9 に示す。本学受験に最も参考にしたものとして、看護学科、現代福祉学科、子ども学科、情報通信工学科、情報システム工学科、工芸工業デザイン学科では「大学のホームページ」、栄養学科、人間情報工学科、ビジュアルデザイン学科、建築学科

では「学科のホームページ」が挙げられ、コロナ禍で実際に現地開催できずオンライン開催であったため、昨年まで多かった「本学のオープンキャンパスで得た情報」は若干少なくなったが、大学から発信する情報を挙げる学生が最も多かった。情報工学部 3 学科では「高校からの情報やアドバイス」も多い傾向が見られた。保健福祉学部とデザイン学部ではオープンキャンパスやホームページが多く、情報工学部では高校からの情報やホームページを参考にしている学生が多かった。

2.8 入学前に知りたかった情報

入学前に知りたかった情報を、付録 B 表 10 に示す。現代福祉学科、情報システム工学科、栄養学科、子ども学科、デザイン学部 3 学科では「カリキュラムや授業内容」が最も多かった。その他、看護学科で「学生生活」、人間情報工学科で「カリキュラムや授業内容」、「就職先と就職率」が多かった。

2.9 今の気持ち

本学で学び始めるにあたっての今の気持ちを聞いた質問(付録 B 表 12)では、「真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい」を選んだ学生が、子ども学科を除くすべての学科で最も多かった。子ども学科では「真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい」、「とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)」が同率で最も多かった。

2.10 本学に対する期待

本学に対する期待では、栄養学科を除くすべての学科で「専門教育」が最も多かった。(付録 B 表 13)。栄養学科は昨年度「専門教育」が最も多かったが、今年度は「国家試験対策」が最も多かった。

2.11 本学で身につけたい能力

身につけたい能力(付録 B 表 14)は、看護学科、栄養学科、現代福祉学科、子ども学科、情報通信工学科、人間情報工学科、ビジュアルデザイン学科、建築学科では、コミュニケーションスキルの「日本語」が最も多く、看護学科では、コミュニケーションスキルの「日本語」とコミュニケーションスキルの「外国語」が同率で最も多かった。情報通信工学科では、「情報の収集・分析・発信力(ICT を利用する力)」、情報システム工学科では、「情報の収集・分析・発信力(ICT を利用する力)」が最も多かった。工芸工業デザイン学科では、「他者と協調し共に行動する力(チームワーク)」、「発見した問題を解決に導くための計画力(問題解決力)」が同率で最も多かった。

2.12 卒業後希望進路

卒業後希望進路の結果を、付録 B 表 15 に示す。県内就職希望者は看護学科、現代福祉学科、子ども学科であったのに対し、県外就職希望者は栄養学科で最も多かった。その他の学科は「まだわからない」が最も多かった。

2.13 岡山創生学

岡山創生学の受講について、現代福祉学科では「受講するつもりである」が最も多く、その他のすべての学科は「まだ決めていない」が最も多かった。

2.14　今現在において身についていると思う資質や知識、能力（付録 B 表 17）

「法や道徳を守り、社会を改善する意欲」、「未来に向けて新たな行動をする意欲」については、すべての学科において、「十分身につけている」および「ある程度身についている」が大部分を占めていた。「生涯にわたって学び続ける意欲」については、人間情報工学科を除くすべての学科で「十分身につけている」および「ある程度身についている」が大部分を占めていた。人間情報工学科においては「どちらともいえない」が最も多かった。「幅広い教養」については、すべての学科で「ある程度身についている」および「どちらともいえない」の回答が大部分を占めていた。「専門的な知識や技能」については、看護学科、栄養学科、工芸工業デザイン学科、建築学科では「どちらともいえない」、現代福祉学科、ビジュアルデザイン学科では「ある程度身についている」、情報システム工学科、人間情報工学科では「あまり身についていない」が最も多かった。子ども学科では「ある程度身についている」、「どちらともいえない」が同率で最も多く、情報通信工学科では「ある程度身についている」、「どちらともいえない」、「あまり身についていない」が同率で最も多かった。「世代や言語や文化の相違をのりこえて幅広くコミュニケーションを図ることができる」については、いずれの学科も「ある程度できる」、「どちらともいえない」、「あまりできない」の回答が約 20～40％の割合を占めていた。

「世代や言語や文化の相違をのりこえて他者と積極的に協力して行動することができる」および「自分の生活の中で課題を見つけて解決することができる」については、いずれの学科も「十分できる」、「ある程度できる」、「どちらともいえない」が大半を占め、「自ら進んで論理的に考え、判断し、実行することができる」については、「ある程度できる」の回答がすべての学科において多い傾向が見られた。

2.15 昨年と比較してアドミッションポリシーに沿った学生が入学しているか

「幅広い分野での基礎学力を身に付けた」については、すべての学科で「ある程度身につけた」が多かった。「論理的な思考力や表現力を磨いた」については、すべての学科で「ある程度磨いてきた」が多かった。

「基礎的な英語力を含めたコミュニケーション能力を磨いた」については、情報システム工学科、人間情報工学科は「どちらともいえない」が最も多く、ビジュアルデザイン学科は「あまり磨いてきていない」が最も多かった。それ以外の学科では「ある程度磨いてきた」が最も多かった。「人間性や倫理観などの素養を磨いた」については、すべての学科で「ある程度磨いてきた」が最も多かった。

入学時アンケート（大学院）の結果は、表として付録 B にまとめている。

1. 基本情報

・　実施日：2022 年 4 月 5 日～4 月 25 日
・　実施方法：Web アンケートサイト（Google Forms）で実施
・　総数 89 名中、回答 45 名（回答率 50.6％）

2. 結果

2.1 専門分野に必要な広範な知識を身に付けている

すべての専攻において、「ある程度身についている」または「どちらともいえない」が多かった。

2.2 専門分野に必要な思考力・判断力を身に付けている

ほとんどの専攻において、「ある程度身についている」または「どちらともいえない」が多かった。

2.3 専門分野の研究に主体的に取り組み、論理的に考究する意欲や態度を身に付けている

ほとんどの専攻において、「ある程度身についている」が多かった。

2.4 研究倫理を遵守することができる

ほとんどの専攻において、「十分にできる」が多かった。

2.5 自ら収集した専門分野の情報を活用し理論的に考え、課題を解決する力を身に付けている

ほとんどの専攻において、「ある程度身についている」が多かった。

2.6 専門分野の発展に寄与する研究課題を自立的に考案・促進させて、成果を得ることができる

ほとんどの専攻において、「ある程度できる」または「どちらともいえない」が多かった。

2.7 日本語を使用しての研究成果（学会発表、専門誌等での論文掲載、作品発表など）の発表件数のうち、自身が筆頭のもの、あるいは自身で制作したもの

ほとんどの専攻において、「0 件」が多かった。デザイン工学専攻では 7 件以上の発表学生が 1 名いた。

2.8 日本語以外を使用しての研究成果（学会発表、専門誌等での論文掲載、作品発表など）の発表件数のうち、自身が筆頭のもの、あるいは自身で制作したもの

すべての専攻において「0 件」が多かった。

2.9 自分の主観的な立場を離れ、物事を客観的・普遍的に考えることができる

ほとんどの専攻において、「ある程度できる」または「どちらともいえない」が多かった。

2.10 地域の問題と国際社会の問題の双方に対応して考えることができる

ほとんどの専攻において、「ある程度できる」または「どちらともいえない」が多かった。

2.11 現在解決すべき課題を、来たるべき社会を構想しながら考えることができる

ほとんどの専攻において、「ある程度できる」または「どちらともいえない」が多かった。

2.12 世代や言語や文化の相違をこえてコミュニケーションを図り、他者と協働できる

ほとんどの専攻において、「ある程度できる」または「どちらともいえない」が多かった。

2.13 自ら進んで論理的に判断し、提案し、率先して行動することができる

ほとんどの専攻において、「ある程度できる」が多かった。

2-3-5 入試日程別成績追跡調査

2019 年度から 2022 年度にかけての入学生(4 年次生～1 年次生)の、入学後の累積 GPA について、学科別・入試日程別に相関分析を行った。グループ間における平均値の差の可否については、有意水準 5%で t 検定を行った。各学科の入試区分別に、入学年度の累積 GPA の平均値を下表に示す。なお、2021 年度入学生より、保健福祉学部とデザイン学部において学科改編および入試改革を実施しており、保健福祉学科・ビジュアルデザイン学科・工芸工業デザイン学科・建築学科では総合型選抜を開始している。また、推薦選抜については 2021 年より学校推薦型選抜に移行している(表中の学校推薦型選抜の欄は、2019・2020 年度が推薦選抜、2021 年度以降は学校推薦型選抜を指す)。

看護学科

入試区分	2019 年度入学者	2020 年度入学者	2021 年度入学者	2022 年度入学者
一般選抜(前期)	3.05±0.26	2.99±0.37	2.86±0.40	2.74±0.51
一般選抜(後期)	3.13±0.13	3.07±0.24	2.69±0.24	2.58±0.49
学校推薦型選抜	2.95±0.31	3.07±0.34	2.91±0.41	2.81±0.31

栄養学科 (※1 1 名のため非公表)

入試区分	2019 年度入学者	2020 年度入学者	2021 年度入学者	2022 年度入学者
一般選抜(前期)	2.91±0.54	2.92±0.34	2.71±0.67	2.80±0.54
一般選抜(後期)	---	2.46±0.47	※1	---
学校推薦型選抜	2.75±0.33	2.77±0.43	2.51±0.37	2.80±0.47

・2020 年度:一般選抜(前期)と一般選抜(後期)において有意差あり

現代福祉学科(2019・2020 は社会福祉学科社会福祉学専攻・介護福祉学専攻)

入試区分	2019 年度入学者	2020 年度入学者	2021 年度入学者	2022 年度入学者
一般選抜(前期)	2.95±0.50	3.10±0.37	2.89±0.81	2.72±0.48
一般選抜(後期)	3.31±0.28	3.09±0.27	2.25±1.53	2.24±0.73
学校推薦型選抜	3.06±0.27	3.11±0.57	2.99±0.74	3.02±0.33
総合型選抜	---	---	3.21±0.33	2.44±0.50

・2022 年度:推薦型選抜と一般選抜(後期)・総合型選抜において有意差あり。

また、一般選抜(前期)と一般選抜(後期)においても有意差あり。

子ども学科(2019・2020 は社会福祉学科子ども学専攻)

入試区分	2019 年度入学者	2020 年度入学者	2021 年度入学者	2022 年度入学者
一般選抜(前期)	3.03±0.27	3.05±0.26	2.98±0.28	2.77±0.41

一般選抜(後期)	2.77±0.45	2.97±0.33	2.96±0.09	2.73±0.24
学校推薦型選抜	3.17±0.11	2.84±0.46	3.03±0.27	2.78±0.24

・2019 年度:学校型推薦選抜と一般選抜(後期)において有意差あり。

情報通信工学科

入試区分	2019 年度入学者	2020 年度入学者	2021 年度入学者	2022 年度入学者
一般選抜(前期)	2.50±0.79	1.95±0.82	2.63±0.71	2.43±0.62
一般選抜(中期)	2.83±0.51	2.32±0.92	2.26±0.96	2.06±0.96
学校推薦型選抜	2.52±0.57	1.74±0.85	2.73±0.54	2.05±0.94

情報システム工学科

入試区分	2019 年度入学者	2020 年度入学者	2021 年度入学者	2022 年度入学者
一般選抜(前期)	2.39±0.85	2.32±0.63	2.68±0.49	2.39±1.10
一般選抜(中期)	2.30±0.79	2.79±0.70	2.21±0.92	2.49±0.86
学校推薦型選抜	2.46±0.51	2.38±0.59	1.95±0.82	2.49±0.68

※2021 年度:学校推薦型選抜と一般入試(前期)において有意差あり。

人間情報工学科

入試区分	2019 年度入学者	2020 年度入学者	2021 年度入学者	2022 年度入学者
一般選抜(前期)	2.69±0.54	2.51±0.66	2.12±1.07	2.73±0.39
一般選抜(中期)	2.66±0.48	2.43±0.76	2.43±0.76	2.59±0.75
学校推薦型選抜	2.49±0.49	2.71±0.41	2.44±0.38	2.38±0.88

デザイン工学科

入試区分	2019 年度入学者	2020 年度入学者
一般選抜(前期)	2.52±0.44	2.47±0.62
推薦選抜	2.70±0.35	2.50±0.77

造形デザイン学科

入試区分	2019 年度入学者	2020 年度入学者
一般選抜(前期)	2.36±0.51	2.25±0.75
推薦選抜	2.36±0.62	2.56±0.51

ビジュアルデザイン学科

入試区分	2021 年度入学者	2022 年度入学者
一般選抜(前期)	2.48±0.62	2.21±0.75
学校型推薦選抜	2.58±0.42	2.40±0.92
総合型選抜	2.65±0.24	2.91±0.43

工芸工業デザイン学科

入試区分	2021 年度入学者	2022 年度入学者
一般選抜(前期)	2.15±0.82	2.34±0.60
学校型推薦選抜	2.41±0.51	2.59±0.56
総合型選抜	2.38±0.51	2.77±0.35

建築学科

入試区分	2021 年度入学者	2022 年度入学者
一般選抜(前期)	2.45±0.57	2.39±0.70
学校型推薦選抜	2.50±0.40	2.42±0.41
総合型選抜	2.68±0.40	3.07±0.64

※2022 年度:学校推薦型選抜と総合型選抜において有意差あり。

栄養学科の 2020 年度の一般選抜(前期)と一般選抜(後期)、現代福祉学科の 2022 年度の推薦型選抜と一般選抜(後期)・総合型選抜、2022 年度の一般選抜(前期)と一般選抜(後期)、子ども学科の 2019 年度の学校型推薦選抜と一般選抜(後期)、情報システム工学科の 2021 年度の学校推薦型選抜と一般入試(前期)、建築学科の 2022 年度の学校推薦型選抜と総合型選抜において有意差が認められた。それら以外には有意な差が見られなかった。今後は GPA 以外のファクターによる成績追跡評価の方法も検討する必要がある。

3 まとめと課題

最近数年間は、コロナ禍の影響によって十分な高大連携事業や入試広報活動ができなかったが、2022 年度からは参加人数に制限を設けながらではあるが、高校生のための授業開放、オープンキャンパスなどの事業を再開することができた。また、近隣高校との連携協定を締結し、高校側の活動にも積極的に参加し、さらに、SNS を活用した LINE 公式アカウント開設(有償)や、学生広報委員による入試広報の強化を行ってきた。しかし 18 歳人口が減少し、既に大学の全入時代が到来していると言われている中、岡山大学の後期日程廃止等、近隣大学の入試環境の大きな変化に伴う受験生の動向を的確に把握する必要がある。今後、現行の入学生アンケートのみならず入学生に直接問いかけ、有益な情報を抽出しながら入試広報に活かせるような活動の強化が必要である。

第３部　附属図書館における教育活動と成果

1　概要

本学図書館は、大学設置基準第 38 条に示す大学附属図書館として、学部の種類、規模等に応じ、専門書、学術雑誌、視聴覚資料等の教育研究上必要な専門的資料を系統的に備えるべく努力をしてきた。また、グローバル化の中で学生に必要とされる広い視野と教養を涵養すべく、一般教養図書、語学学習推進図書についても各学部および共通教育部教員の視点で選書を行い、充実を図っている。さらに学術情報の電子化や検索システムの整備を行い、学生、教員、地域に向けたサービスの充実･向上を目指し、積極的な取組を進めている。

2　図書館活用の推進

2-1　図書館の利用状況

平成 28 年度から令和 4 年度の期間における図書館の利用状況を以下に示す。蔵書冊数は約 21 万冊でその内訳として、和書が約 8 割、洋書が約 2 割を占め、その他視聴覚資料が約 2%となっている。コロナ禍での学修支援効果も大きいことから令和 2 年度に電子書籍を導入し、延べ 1,396 タイトルを整備した。また施設等の利用については、令和 4 年度現在、新型コロナウイルス感染症対策のため館内 PC は半数の利用を制限し、研究閲覧室およびグループ閲覧室は人数等の制限を設けた上で貸し出している。研究閲覧室およびグループ閲覧室は、学生の主体的、能動的な学修を支援するスペースで、近年多くの大学や図書館で設けられているラーニングコモンズに準じたものである。当館のエントランス部分に設けたラーニングコモンズでも、学生がグループ学習を進めている様子が常時見受けられることからも、自発的学修の意識が定着してきている故と推察する。

図書館利用状況について

(1)蔵書冊数

年　度	和　書	洋　書	視聴覚資料	電子書籍	合　計
令和 4 年度	169,445	39,570	5,331	1,398	215,744
令和 3 年度	170,445	39,599	5,303	1,160	216,507
令和 2 年度	169,507	39,471	5,277	737	214,992
令和元年度	168,508	39,334	5,217		213,059
平成 30 年度	167,592	39,141	5,211		211,944
平成 29 年度	165,831	38,648	5,180		209,659
平成 28 年度	163,716	38,161	5,070		206,947

(2)入館者数等

年度	開館日数	入館者数	1日平均	貸出冊数	1日平均	貸出人数	1日平均	学外者利用人数
令和４年度	266	56,567	213	9,017	34	4,291	16	28
令和３年度	223	34,072	153	8,852	40	4,127	19	―
令和２年度	189	26,255	139	6,958	37	2,914	15	49
令和元年度	264	81,919	310	13,715	52	6,438	24	1,741
平成30年度	263	85,371	325	16,011	61	7,343	28	1,915
平成29年度	268	90,919	339	17,873	67	7,852	29	1,971
平成28年度	269	91,458	340	18,395	68	8,323	31	2,030

※新型コロナウイルス感染症対応のため令和２年度から令和３年度にかけて臨時休館･開館時間短縮あり

※新型コロナウイルス感染症対応のため令和２年４月から令和４年９月まで学外者利用停止

(3)資料受入状況

項目	件数						
	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度	H28年度
図　書	1,833	1,619	1,404	2,583	2,373	2,682	2,514
雑　誌	140	153	161	158	167	166	159
視聴覚資料	29	38	50	35	31	95	86
電子書籍	241	423	734				

(4)相互協力

項目		件数						
		R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度	H28年度
文献複写	複写提供件数	386	642	666	610	689	685	400
	複写取寄件数	599	824	734	891	1,048	1,310	1,535
相互協力	貸出冊数	92	99	102	121	119	94	161
	借受冊数	64	43	38	147	79	85	41

(5)施設等の利用

項目	件数						
	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度	H28年度
館内パソコン利用者数	2,062	2,472	2,180	9,338	9,217	6,174	4,747
研究閲覧室	300	302	―	2,002	2,132	1,912	1,255
グループ閲覧室	28	18	6	282	206	155	114

※新型コロナウイルス感染症対応のため令和元年度から人数制限等あり

2-2 図書館ギャラリーの利用状況

図書館ギャラリーは、学生や教員に館内の壁面等の空間を有効活用してもらうことにより図書館利用の促進を図ったものである。申し込み状況を以下に示す。

件　数						
R4 年度	R3 年度	R2 年度	R 元年度	H30 年度	H29 年度	H28 年度
6	6	6	18	10	6	8

2-3 学生を対象とした図書館利用教育

図書館では蔵書検索方法やデータベース活用法を具体的に示す「図書館ガイダンス」への受講を学生に勧め、学生への教育・研究支援を図ってきた。平成 27 年度からは共通教育講義科目「大学で学ぶ」(対象:全学科 1 年次生、必修)での図書館長担当授業において、図書館ガイダンス受講を復習課題として導入している。令和 4 年度の図書館ガイダンスは館内のポイントを回るスタンプラリー方式を取り入れ、3 年ぶりに対面で実施した。

2-4 学生選書イベントおよび学生希望図書の状況

学生が学習や研究に必要な書籍を選書する取り組みとして、「ブックフェア」および「選書ツアー」をいずれもオンラインで実施した。また、令和 4 年度には新たに電子書籍をオンラインで選書する「電子ブックリクエストフェア」を実施した。その内容を以下に示す。また学生希望図書の申し込み状況を以下に示す。

(1)電子ブックリクエストフェア

年　度	実施日	申込件数	備考
令和 4 年度	令和 4 年 5 月 9 日～5 月 22 日	62 件	令和 4 年度開始

(2)ブックフェア

年　度	実施日	参加人数	選書冊数	備考
令和 4 年度	令和 4 年 6 月 27 日～7 月 10 日	76	690	Web
令和 3 年度	令和 3 年 6 月 21 日～7 月 4 日	43	361	Web
令和 2 年度	令和 2 年 10 月 19 日～10 月 25 日	41	574	Web
令和元年度	令和元年 6 月 28 日	73	638	対面
平成 30 年度	平成 30 年 6 月 22 日	130	736	対面
平成 29 年度	平成 29 年 10 月 24 日	101	1,241	対面 平成 29 年度開始

(3)選書ツアー(WEB 選書)

年　度	実施日	参加人数	選書冊数	備考
令和 4 年度	令和 4 年 11 月 1 日～11 月 14 日	15	141	WEB 選書
令和 3 年度	令和 3 年 11 月 1 日～11 月 14 日	15	161	WEB 選書

令和 2 年度	令和 2 年 12 月 1 日～12 月 13 日	11	143	WEB 選書
令和元年度	令和元年 7 月 13 日	9	201	対面
平成 30 年度	平成 30 年 10 月 6 日	9	109	対面
平成 29 年度	平成 29 年 5 月 27 日	9	113	対面
平成 28 年度	平成 28 年 6 月 18 日	14	156	対面

(4)学生希望図書

年　度	申込件数(うち Web 申込)	備考
令和 4 年度	54　(33)	
令和 3 年度	38　(32)	Web 申込開始
令和 2 年度	11	
令和元年度	73	
平成 30 年度	64	
平成 29 年度	67	
平成 28 年度	35	

3　電子ジャーナルの状況

3-1 契約タイトルと利用状況

以下に本学で契約した電子ジャーナルのタイトル数およびダウンロード数を示す。

(1)ScienceDirect(約 1,000 タイトル)

年　度	ダウンロード数
令和 4 年度	5,730
令和 3 年度	6,710
令和 2 年度	5,709
令和元年度	4,553
平成 30 年度	4,773
平成 29 年度	6,966
平成 28 年度	7,493

(2)単体購入タイトル

年　度	契約タイトル数	総ダウンロード数
令和 4 年度	7	652
令和 3 年度	7	681
令和 2 年度	9	1,077
令和元年度	9	1,197
平成 30 年度	13	782

平成 29 年度	16	1,007
平成 28 年度	28	1,457

3-2 利用促進

英語文献の利用推進を図るため、図書館に講師を招いて講習会を実施した。令和 4 年度からは、出版者が実施しているオンライン講習会への参加を呼びかけた。参加者数を以下に示す。

年　度	参加者数	備考
令和 4 年度	6	出版社実施
令和 3 年度	12	オンライン
令和 2 年度	17	オンライン
令和元年度	42	対面
平成 30 年度	21	対面
平成 29 年度	47	対面
平成 28 年度	20	対面

4 リポジトリ公開登録および利用状況

現在、日本の機関リポジトリ設置機関数は世界有数の規模にまで広がり、教育研究成果の公開やオープンアクセスの義務化も検討されようとする現状にある。このような中、オープンアクセスへ寄与することは研究者や大学、研究機関として必要とされる条件となりつつある。本学におけるリポジトリ公開登録件数および利用状況を以下に示す。

リポジトリ公開登録件数および利用状況

年　度	公開登録件数	ダウンロード数	閲覧数
令和 4 年度	45	85,271	44,914
令和 3 年度	42	89,351	48,746
令和 2 年度	23	108,213	48,971
令和元年度	37	183,365	34,477
平成 30 年度	53	258,689	27,003
平成 29 年度	51	160,913	19,682
平成 28 年度	242	74,318	13,269

5 まとめと課題

図書館利用推進の一環として本年度も図書館ギャラリーの貸出しや学生を対象とした図書館利用教育を実施した。図書館利用教育は 3 年ぶりに対面で実施し、新たにスタンプラリー方式を取り入れ、図書館の理解と利用促進を図った。学生の意向が蔵書に直接反映できる特性を持つ選書ツアーは、学生参加をさらに増やすためにも、オンライン形式とのハイブリッドなど工夫が今

後さらに必要と考えられる。書店が準備した本の中から学習等に必要な本を選ぶブックフェアをオンラインで開催し、参加した学生から「読んでみたい本がたくさんあっておもしろかった。」「初めて参加したが、新しい本と出会えたので、ぜひ次回も参加したい。」等の感想が寄せられた。また、年間を通じて受け付けている学生希望図書はオンラインによる受付も行い、全体の約 6 割がオンライン経由の申し込みであった。昨年に続いて前期はコロナ禍による来学機会減少の状況下であったが、後期からは対面授業が増えたこと、またオンライン形式を取り入れたことにより、昨年より選書冊数や希望図書の申し込みが増加したと考えられる。洋雑誌および電子ジャーナルの利用統計を蓄積し今後も利用状況をモニタリングして、よりより学修環境の提供に努めたい。

第 4 部　内部質保証推進会議の活動と成果

1　概要

本学の内部質保証に関する活動は、2019年度までは、2014年度に設置された大学教育開発センター（2019年4月に「教育開発センター」に改称）が主導的に実施してきた。当初の大学教育開発センターは、教育を実施する側（大学・学部・学科・教員）を主とする部会と、教育を享受する側（学生）を主に対象とする部会が含まれていた。しかしながら、2019年4月から、教育を享受する側（学生）を扱う部会が、キャリア・学生生活支援センターとして独立し、引き続いて、2020年4月に、入試に関する組織がアドミッション・高大連携推進センターとして独立したことにより、内部質保証に関与すべき組織が複数に跨る状況となった。

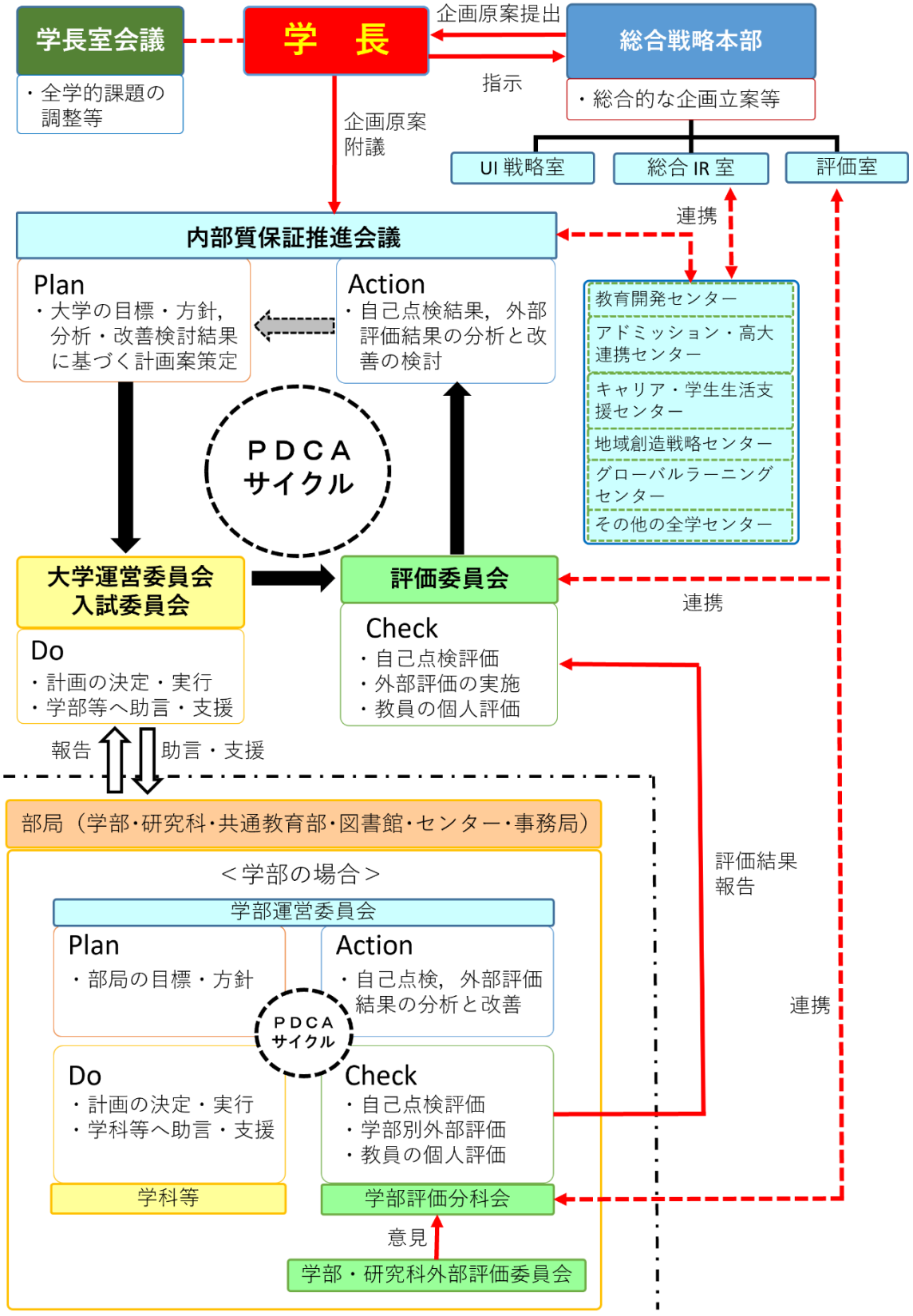
折しも、2020年1月に文部科学省中央教育審議会大学分科会「教学マネジメント指針」[1]が公表され、大学における教育は、従来の「教員が何を教えたか」から、「学生が何を学び、身に付けることができたか」へのパラダイム・シフトが求められることとなり、「学修者本位の教育の実現に向けた組織的な活動と、その成果の公表」が必須のものとなった。このため、教育開発センター、キャリア・学生生活支援センター、アドミッション・高大連携推進センターを、「内部質保証」というキーワードで連結し、学生の入学から卒業までを俯瞰した教学の管理運営の責任部署が必要となり、2020年度に教育研究担当副学長を委員長とする「教学マネジメント委員会」が発足した。この委員会は2020年度に改訂・公表した学部教育の三つのポリシーの実質化に向けた取り組みとして、カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーの作成、シラバスの教育目標の明確化、入学時アンケート、学生生活アンケート、卒業時アンケートの一貫した形への見直しと授業評価アンケートの内容見直し、アセスメント・ポリシーの改訂、FD（Faculty Development）・SD（Staff Development）活動の方向性の決定などに加えて、大学院ポリシーの策定などにも関わった。

その後、IR（Institutional Research）データを活用し、学修成果の把握・可視化を中心として、アセスメント・プランに基づく三つのポリシーの実質化に向けた内部質保証活動の推進、ならびにその情報公表までを担う組織として、同委員会は2020年11月に「内部質保証推進会議」と名称を改めることとなった。また、教学IRは学生生活支援に関わる事項ならびに入試に関わる事項の点検評価を、一貫性をもった形で実施する必要があることから、これらを包含した総合IR室を委員会内部に新規に設置した。本会議は、「教学マネジメント指針」に基づき、機関レベル、教育課程レベル、授業科目レベルにおいて三つのポリシーの点検評価を行い改善につなげることを目的として、コロナ禍における活動を含め、アセスメント・プランに従った教育成果の点検と改善、ならびに情報の公表に努めた。

2022 年度には、内部質保証の方針を含めた推進規程を定めた上で、必要な作業を分担し、学内各組織における PDCA サイクルの責任部署を明確にすることにより、さらに効果的な内部質

[1] 文部科学省中央教育審議会，教学マネジメント指針，2020 年 1 月，https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00001.html（2023 年 5 月 27 日閲覧）

岡山県立大学の内部質保証推進体制



保証体制を確立することを目的として、テ-2 ページに示す体制に刷新した。新体制では、教学・学生生活・入試に関する調査結果等について評価委員会で自己点検・評価を行い、改善が必要と認められた場合は、学長をトップとする総合戦略本部内に設置された総合 IR 室と関係部局が連携して必要な分析・検討を行い、同本部において改善方針の原案を作成する。なお、改善方針の原案は必要に応じて学長室会議において調整を行う。次に、教育担当副学長が主催する内部質保証推進会議において、改善方針の原案について協議され、大学の改善方針として大学活動委員会で決定した上で、関係部局長に通知する。関係部局では、方針に基づき具体的な改善策を検討し実施する。さらに、各部局内においても内部質保証活動を実施するが、たとえば学部の場合は、学外委員を含む学部・研究科外部評価委員会からの助言を受けて、学部評価分科会で点検・評価を行い、これに基づいて学部運営委員会で策定された改善策が実施される。ただし、2022 年度は内部質保証活動がルーチン化するまでの経過措置として、各部局内の課題についても上記大学全体の内部質保証活動を準用することとした。

2 アセスメント・ポリシーおよびプラン

2020 年 12 月に制定されたアセスメント・ポリシーは、2021 年 5 月および 6 月の改定を経て、現在に至っている。

岡山県立大学アセスメント・ポリシー

（目的）

岡山県立大学では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、機関レベル（全学）、教育課程レベル（学部・学科、研究科・専攻）、授業科目レベルの 3 段階で教育成果、学修成果を点検、評価し、その結果を踏まえて学修者本位の教育の実現に向けた教育改善を恒常的に促し、内部質保証を推進することを目的とする。

（実施体制）

機関レベル、教育課程レベル、授業科目レベルでそれぞれ具体的な評価項目と評価方法をアセスメント・プランとして定める。機関レベルは、内部質保証推進会議と評価室で、また、教育課程レベル、授業科目レベルは学部別外部評価委員会で評価を行う。データ解析と提供は、いずれのレベルも総合 IR 室が支援する。

（アセスメント・プラン）

1. 入学時　アドミッション・ポリシー検証

(1)機関レベル

①各種入学試験問題

②高大連携事業参加者

③高大連携事業関連アンケート

◎全ての教育課程レベルチェックポイント（AP）評価の点検

(2)教育課程レベル

①各種入学試験

②入学時アンケート

③入学時 TOEIC スコア

2. 在学中　カリキュラム・ポリシー検証

(1)機関レベル

①共通教育科目

②副専攻科目(研究科共通基盤科目群を含む)

③学生生活アンケート

◎全ての教育課程レベルチェックポイント(CP)評価の点検(学部教育科目、教職教育科目、大学院各専攻科目)

(2)教育課程レベル

①カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー

②授業実施形態

③アドバイザー面談

④修得単位数の年次変化

⑤副専攻履修生アンケート、教育満足度調査

◎全ての授業科目レベルチェックポイント(CP)評価の点検

(3)授業科目レベル

①シラバス

②成績分布

③授業評価・授業改善アンケート

3. 卒業時・卒業後　ディプロマ・ポリシー検証

(1)機関レベル

①卒業時・修了時アンケート

◎全ての教育課程レベルチェックポイント(DP)評価の点検

(2)教育課程レベル

①卒業時の累積 GPA

②卒業時・修了時アンケート

③TOEIC スコア

④就職率(県内就職率を含む)、進学率、国家試験合格率(該当教育課程)、表彰数

⑤卒業生アンケート、就職先アンケート

⑥退学率、4 年次卒業率

以下では、上記のアセスメント・プランに掲げられた項目ごとに、データおよび分析を述べる。なお、一部では、他の部・章・付録への参照に留めている。

3 入学時 － アドミッション・ポリシー検証

3-1 機関レベル

3-1-1 各種入学試験問題

この項目では、各出題問題とアドミッション・ポリシーとの整合性を、各問題の出題のねらいと照合して確認することとしている。

2021 年度入学者選抜試験（2020 年度実施）から、学部・学科、入試日程、教科・科目ごとに、個別学力試験の出題問題とアドミッション・ポリシーとの整合性を、部局長等が確認し、入試委員会で報告することとしている。2022 年度に実施した 2023 年度入学者選抜試験に対しても、2022 年度第 13 回入試委員会において整合性を確認した。

3-1-2 高大連携事業参加者および関連アンケート

この項目では、本学が開催する各種の高大連携事業への参加者状況および関連するアンケート結果を確認することとしている。2022 年度の状況は、

(1) 第 2 部第 5 章「アドミッション・高大連携センターにおける教育活動と概要」内 2-2 節「高大連携部門」
(2) 第 1 部第 3 章「副専攻（吉備の杜）における教育活動と成果」内 6-2 節「令和 4 年度高校生と大学生の地域における探究学習の成果報告会」

を参照されたい。

3-2 教育課程レベル

3-2-1 各種入学試験

この項目では、各教育課程で実施する入試区分および日程において、学力の三要素（基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性）[2]を評価対象としているかを確認することとしている。2021 年度に改訂したアドミッション・ポリシーに基づき、各入試区分で実施される評価方法が、どのような学力を、どのような重みづけで評価しているかを示す表を HP に公表している[3]。これより、2023 年度入学者選抜試験において、すべての学科の入試

---

[2] 文部科学省中央教育審議会，新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について－すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために－（答申），2014 年 12 月，https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1354191.htm （2023 年 5 月 27 日閲覧）

[3] 岡山県立大学， 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー），https://www.oka-pu.ac.jp/exam/page-15832/page-3335/ （2023 年 4 月 10 日閲覧）

が、入試区分ごとにそれぞれ異なった重みづけで学力の三要素のすべてを評価対象としていることを確認した。

また、2021 年度入学者選抜から、地域社会の発展に貢献する意欲ならびに主体的学習活動の成果をふまえ、多様な人々と協働して学ぶ態度に関する評価を重視する総合型選抜を、現代福祉学科ならびにデザイン学部(ビジュアルデザイン学科、工芸工業デザイン学科、建築学科)において新設し、2021 年度には計 18 名、2022 年度には計 15 名の学生が入学した。総合選抜で求める学生像に合致した学生を選抜できているかを検証するため、副専攻「岡山創生学課程」において地域活動を伴う演習科目「地域創生演習」の履修状況を調査した。その結果は、表のとおりである。総合選抜による入学者が 2 年合計で 33 名と少ないものの、「地域創生演習」履修率 48.5%は、総合選抜以外の入試区分から入学した学生の履修率 29.2%の約 1.67 倍となっており、地域活動に意欲的な学生が入学しているものと判断できる。このため、総合選抜が求める学生像と概ね合致しているものと考えられる。

総合型選抜実施以降の「地域創生演習」履修状況

入試区分	総合型選抜			総合型選抜以外			計		
入学年度	入学	履修	履修率	入学	履修	履修率	入学	履修	履修率
2021(*)	18	10	55.6%	363	96	26.4%	381	106	27.8%
2022	15	6	40.0%	366	117	32.0%	381	123	32.3%
計	33	16	48.5%	729	213	29.2%	762	229	30.1%

(*) 2021 年度および 2022 年度 2 年間での数値

総合型選抜による入学者の「地域創生演習」履修率と、総合型選抜以外による入学者の「地域創生演習」履修率に対する独立性(帰無仮説「総合型選抜による入学生と、総合型選抜以外の入学生の「地域創生演習」履修率は等しい」)の片側検定を行うため、それぞれの年度のｐ値を計算した結果、2021 年度入学生では 0.0036 であり、2022 年度では 0.2580 となった(2 年の合計では 0.0091)。これより、総合型選抜 1 年目となった 2021 年度入学生では、有意水準 1%で履修率に差(総合型選抜による入学生の履修率は、総合型選抜以外の入学生より高い)を認めることができるが、2 年目となった 2022 年度入学生では、有意な差を認めることができない結果となった。この傾向は、付録 B「入学時アンケート」にも見て取ることができる。Q49「これから本学で学ぶにあたっての今の気持ちに最も近いものはどれですか」[4]に対する回答を入試区分別に集計した結果の表 12 から、総合型選抜による入学者の回答で、「地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間力を磨きたい」を選択した割合が、2021 年度入学生では 26.3%であったが、2022 年度入学生では 0.0%であった。

[4] 回答は選択式。①真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい、②地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間力を磨きたい、③課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい、④とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)

3-2-2 入学時アンケート

この項目では、アドミッション・ポリシーに則した学生が入学しているかを新入生に対するアンケート調査で確認することとしている。2022 年度の集計結果は、第 2 部第 5 章「アドミッション・高大連携センターにおける教育活動と概要」内 2-3 節「入学者選抜制度開発部門」を参照されたい。

3-2-3 入学時 TOEIC スコア

この項目では、入学後、早期の段階における TOEIC 受検結果により、アドミッション・ポリシーに記載された【入学者に求める能力・素養】を満たしているかを確認することとしている。

本学では、英語能力を測る目的で、2016 年度入学生から TOEIC L&R IP の全員受験を、入学後の早い時期に実施している。スコアが 225 点以上であれば、CEFR（Common European Framework of Reference for Languages）で定められている A2 レベル（「ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる」とされるレベル[5]）以上であるとされている[6]。最近 4 年間の結果より、入学時点でのスコアが 225 点以上（CEFT A2 レベル以上）の学生割合を次の表に示す。これより、全学で約 97%の学生が CEFR A2 レベル以上の英語力を持っていることから、英語力に関しては、アドミッション・ポリシーを概ね満たす学生が入学していると考えられる。

入学時点で 225 点（CEFR A2 レベル）以上の割合

入学年度	全学部	保健福祉	情報工	デザイン
2019	97.3%	99.3%	96.8%	94.9%
2020	97.3%	97.2%	98.7%	96.7%
2021	97.6%	99.3%	100.0%	91.4%
2022	95.3%	98.0%	95.8%	90.2%
4 年間の平均	96.9%	98.5%	97.8%	93.3%

なお、2022 年度入学時アンケートの結果を踏まえ、アドミッション・ポリシーで求める「英語を含むコミュニケーション能力」では、英語に限定することなく、日本語も含めたコミュニケーション力全般を意味しているという観点から、入試委員会において次年度の設問 Q56 の内容の見直しを行い、「あなたは、基礎的な英語力を含めたコミュニケーション能力を磨いてきましたか」を、「あなたは、コミュニケーション能力を身に付けてきましたか」と変更することとなった。

---

[5] British Council, CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）, https://www.britishcouncil.jp/programmes/english-education/updates/4skills/about/cefr （2023 年 5 月 6 日閲覧）

[6] 国際ビジネスコミュニケーション協会, TOEIC Program 各テストスコアと CEFR との対応表, https://www.iibc-global.org/toeic/official_data/toeic_cefr.html （2023 年 4 月 10 日閲覧）

さらに、入学時アンケートにおいて、入学前に身に付けてきたことを問う設問全体（学部では Q54～Q57、大学院では Q2～Q4）対して、肯定的回答（「十分身に付けた」または「ある程度身に付けた」）の割合は、学部新入生で 68.1%、大学院新入生で 62.0%であった。しかし、英語力に関する内容を含む設問 Q56 に対する学部新入生の肯定的回答の割合は 48.4%に留まっている。

以上のことにより、学生は、入学時において、TOEIC スコアによる客観的な評価では、一定の英語力を有してはいるが、英語に対する自信の無さ、不安な印象を持っていることが浮き彫りとなった。このため、入学後の英語教育では、これらの点を踏まえたカリキュラムの作成、教育方法が求められる。

4 在学中 － カリキュラム・ポリシー検証

4-1 機関レベル

本学で開講している授業科目では、各授業科目で設定された到達目標への達成度に応じて、次の表に示すように合否が判定される。

評語の意味・定義（2022 年度以降）

成績・評語		評点	評語の意味（定義）
合格	S	100 点～90 点	授業科目の到達目標をきわめて高い水準で達成
	A	89 点～80 点	授業科目の到達目標を高い水準で達成
	B	79 点～70 点	授業科目の到達目標を標準的な水準で達成
	C	69 点～60 点	授業科目の到達目標を最低限の水準で達成
不合格	D	59 点以下	授業科目の到達目標を未達成

4-1-1 共通教育科目

この項目では、共通教育科目により評価することとしている「豊かな教養」、「協調性をもってグローバル化する社会で活躍し、学び続ける態度・意欲」が育成されているかを確認することとしている。確認方法は、共通教育科目において、上記 2 点各々に対応するカテゴリーに配置された授業科目の成績分布によるものとする。

2022 年度に卒業した学生のほとんどは 2019 年度入学生である。2019 年度入学生の共通教育科目に関する卒業要件は、次の表のとおりである。どの学科の卒業要件においても、全てのカテゴリーに最低の修得単位数を定め、各教育課程で求められる「豊かな教養」、「協調性をもってグローバル化する社会で活躍し、学び続ける態度・意欲」の育成を行っている。

共通教育科目の卒業要件単位数（2019 年度入学生）

学部・学科 / カテゴリー	保健福祉学部				情報工学部			デザイン学部	
	看護	栄養	保社	保子	通信	シス	人情	デ工	造形
修学基礎	3	2	2	2	2	2	2	2	3

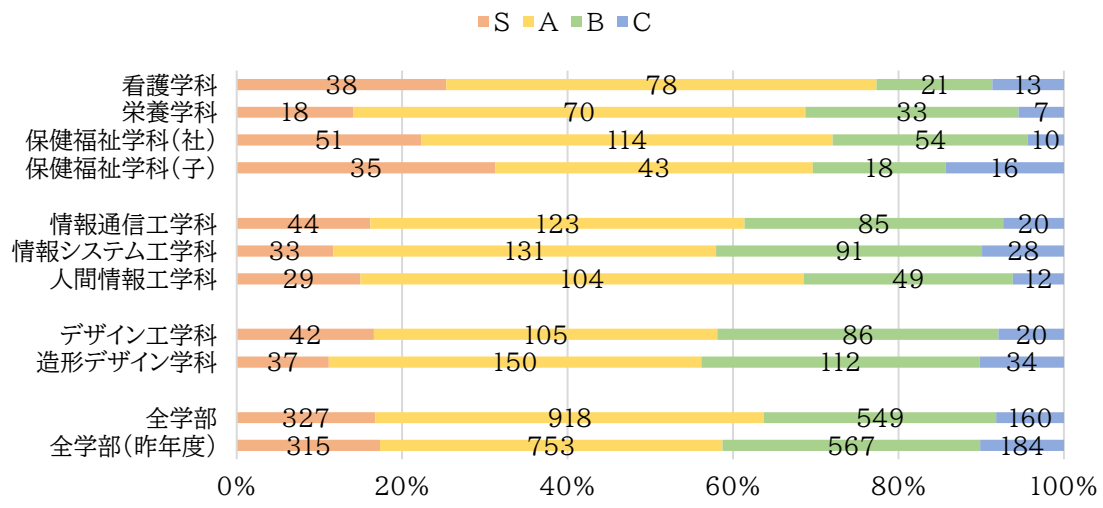
（うち必修）	(3)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(3)
人文・社会科学	6	6	8	6	8	8	8	8	8
（うち必修）	(2)	(2)	(4)	(6)	(2)	(2)	(2)	(4)	(4)
自然科学	6	8	4	4	8	14	12	6	6
（うち必修）	(2)	(2)	(2)	(4)	(8)	(10)	(8)	(2)	(2)
健康科学	2	2	4	3	4	2	2	2	3
（うち必修）	(1)	(0)	(0)	(3)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)
語学国際	6	6	6	6	8	8	8	8	8
（うち必修）	(6)	(6)	(6)	(6)	(6)	(6)	(6)	(6)	(6)
社会連携	2	2	2	2	2	2	2	3	2
（うち必修）	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
全カテゴリー	2	2	2	5	6	2	4	5	4
計	27	28	28	28	38	38	38	34	34
（うち必修）	(16)	(14)	(16)	(23)	(20)	(22)	(22)	(16)	(17)

「豊かな教養」は、人文・社会科学、自然科学、健康科学の 3 カテゴリーにおいて、また、「協調性をもってグローバル化する社会で活躍し、学び続ける態度・意欲」は、語学国際、社会連携の 2 カテゴリーにおいて、その育成を担っている。

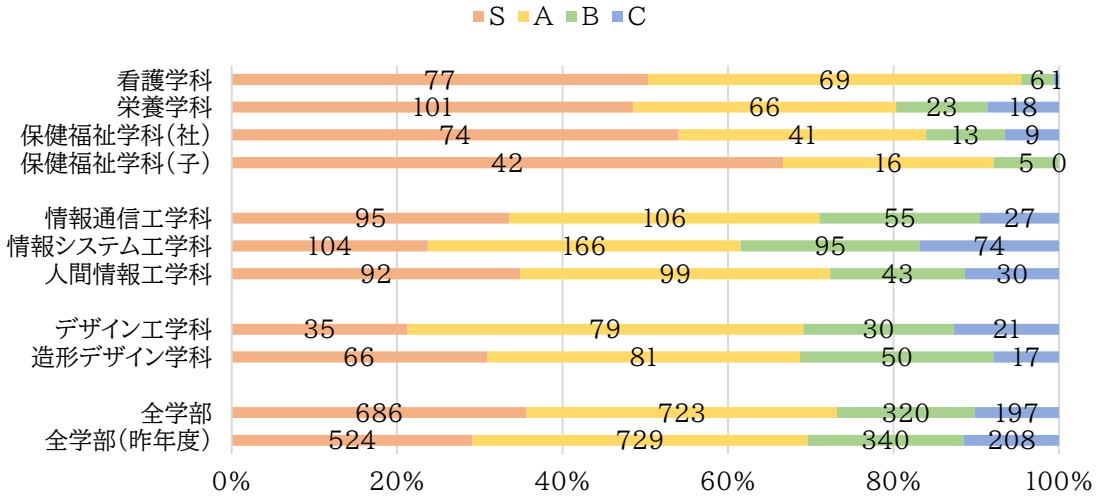
［A］豊かな教養

2019 年度入学生について、人文・社会科学、自然科学、健康科学の各カテゴリーに属する授業科目の成績分布（合格者のみ）を次に示す。

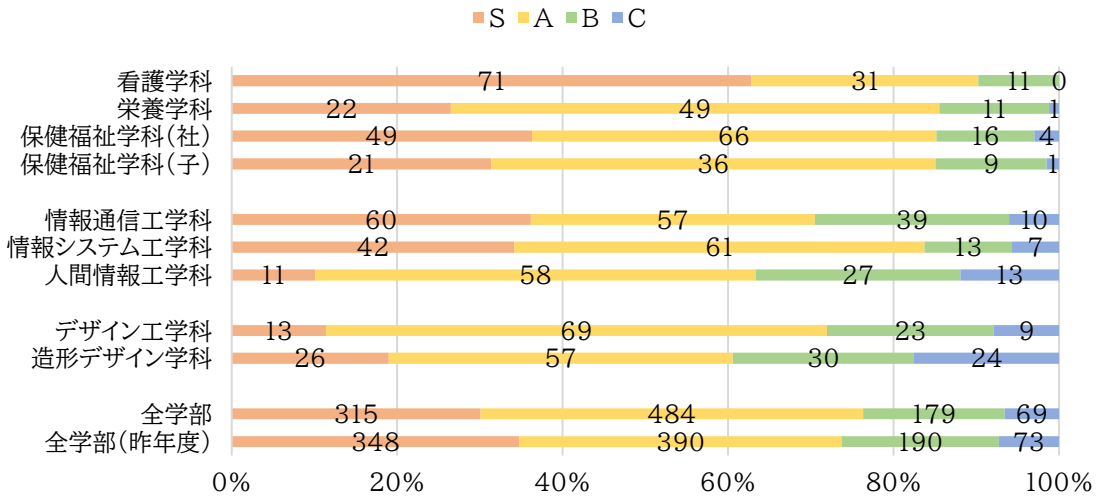
人文・社会科学（2019 年度入学生）



自然科学（2019 年度入学生）



健康科学（2019 年度入学生）

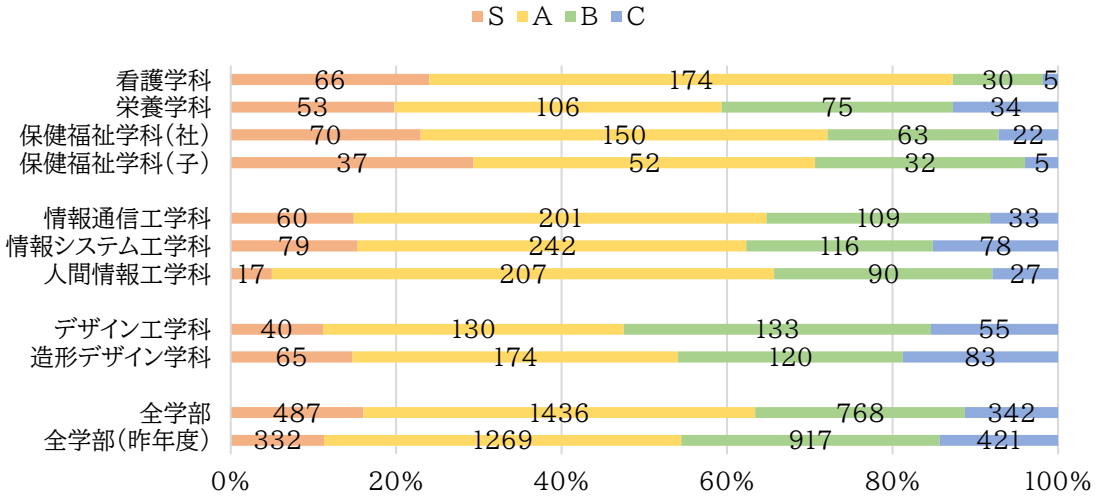


どのカテゴリーにおいても、概ね 90%が、到達目標を標準的な水準以上で達成したことを表す 70 点以上（評語 S～B）で合格しており、「豊かな教養」を育成できていると判断する。

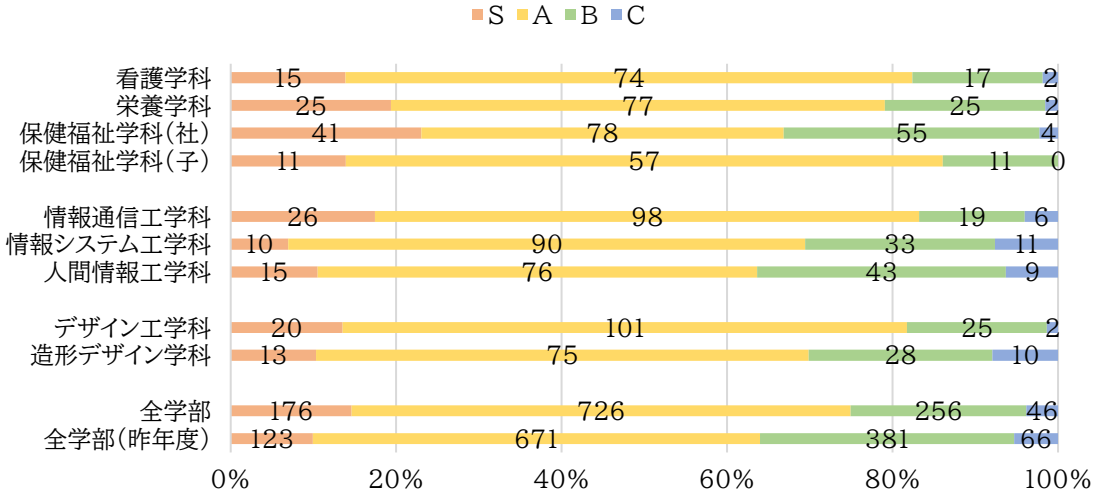
[B] 協調性をもってグローバル化する社会で活躍し、学び続ける態度・意欲

2019 年度入学生について、語学国際、社会連携の各カテゴリーに属する授業科目の成績分布（合格者のみ）を次に示す。

語学国際（2019 年度入学生）



社会連携（2019 年度入学生）



両カテゴリーとも、90％前後が、到達目標を標準的な水準以上で達成したことを表す 70 点以上（評語 S～B）で合格しており、「協調性をもってグローバル化する社会で活躍し、学び続ける態度・意欲」を育成できていると判断する。

［C］英語科目への Advanced Class の導入

第 1 部第 1 章「学部および大学院における教育活動と成果」内 3-3 節「語学教育推進室」（10）に記載のとおり、2021 年度後期から、学習意欲の高い学生を対象にした Advanced Class を英語科目に導入した。2022 年度では、入学時の TOEIC L&R IP テストで、500 点以上の入学生 40 名のうち、後期からの Advanced Class の履修を希望した学生は 33 名であり、履修者数は確保されていると判断される。一方、評価委員会において、2021 年度後期から Advanced Class を履修した 29 名のうち 17 名が 2022 年度から通常クラスへの変更を希

望し、その多くが授業のレベルが高すぎることを挙げていることが指摘された。これは、受け身の授業に慣れた学生にとって、主体的な学びの姿勢が積極的に求められる Advanced Class の授業形態は馴染みがないことがその要因の 1 つと考えられる。従って、学修意欲を低下させることなく、主体的に学ぶことの楽しさや喜びに気づかせる取組が求められることとなった。

これに対し、大学運営委員会において、次の対応を決定した。

改善方針

(1) 開講初年度であり、教員側と学生側で授業への見解の乖離があると思われる。アンケート等で学生の意向を調査し、必要な対策を講じる。

(2) 2021 年度はオンライン授業であったため、Advanced Class の特徴である主体的な学びに適応しづらかった可能性がある。対面授業に移行した 2022 年度の状況を見て、改めて判断する。

(3) TOEIC 高得点者に加え、海外留学や国際企業への就職、国際交流等を目指す学生に対しても Advanced Class の門戸を開き、Advanced Class の特徴である「主体的・対話的で深い学び」に対する受容と浸透を促す環境をつくる。

4-1-2 副専攻科目(研究科共通基盤科目群を含む)

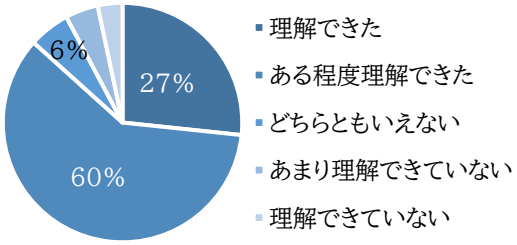
この項目では、副専攻「岡山創生学課程」、「吉備の杜クリエイター課程」、「吉備の杜プロデューサー課程」が掲げる教育方針に示される能力が育成されているかを確認することとしている。

副専攻「岡山創生学課程」の目標は「グローバル化する社会の中で地域が果たす役割を考え、そこに横たわる課題を発見し、その解決に向けた方策を自ら考え、地域との協働を通したコミュニケーション能力、グループとして協働する能力、困難な課題に立ち向かう能力を涵養する。」としている。また、副専攻「吉備の杜クリエイター課程」の目標は「高い専門性と幅広い人間力を涵養することにより、持続可能な地域の未来が展望できる雑草型人材を地域や企業と協働して育てる。」、そして、副専攻「吉備の杜プロデューサー課程」の目標は「高い専門性と幅広い人間力を涵養することにより、俯瞰的かつ複眼的な視野から本質を捉える、異世代・多文化に対応するヒューマンスキルを身に付けるとともに、企業現場で即戦力となるうる雑草型人材を地域や企業と協働して育てる。」としている。

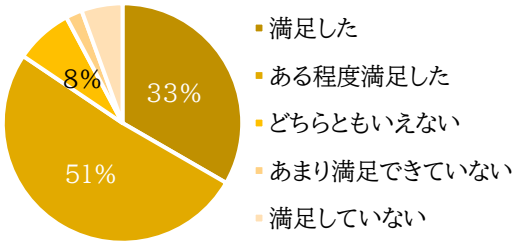
2022 年度は、「吉備の杜プロデューサー課程」における目標である「ヒューマンスキルを身に付ける」ことに注目し、研究科共通基盤科目群として開講している「知の理論」、「データサイエンス」、「地域資源学」、「地域社会とビジネス」、「アカデミック・プレゼンテーション演習」、「時事と歴史を読む」の 6 科目を履修した大学院生に対し、「授業内容の理解度」、「授業に対する満足度」、「教養科目としての授業内容の必要性」の観点でアンケートを実施した。さらに同じ講義を履修した社会人に対しても、「授業内容の理解度」、「授業に対する満足度」、「リカレント科目としての授業内容の必要性」の観点でアンケートを実施した。

【大学院生】

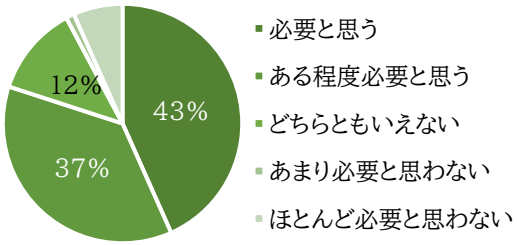
理解度	合計	90	（%）
1	理解できた	24	27%
2	ある程度理解できた	54	60%
3	どちらともいえない	5	6%
4	あまり理解できていない	4	4%
5	理解できていない	3	3%



満足度	合計	90	（%）
1	満足した	30	33%
2	ある程度満足した	46	51%
3	どちらともいえない	7	8%
4	あまり満足できていない	2	2%
5	満足していない	5	6%



必要性	合計	90	（%）
1	必要と思う	39	43%
2	ある程度必要と思う	33	37%
3	どちらともいえない	11	12%
4	あまり必要と思わない	1	1%
5	ほとんど必要と思わない	6	7%

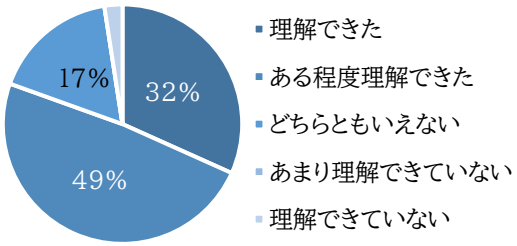


「授業の理解度」について1または2と答えた大学院生は全体の87%であり、「授業の満足度」について 1 または 2 と答えた大学院生は全体の 84%であることから、本学大学院生のレベルに合った授業が行われたと考えられる。

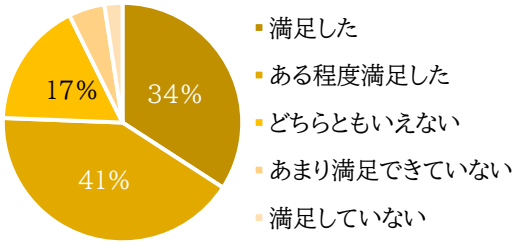
「教養科目としての授業内容の必要性」について1または2と答えた大学院生は、全体の80%であった。この結果自体は問題ないと思われるが、自由記述において「SDGs に関する授業」、「デザインに関する授業」などの要望もあったことから、本項目の最後に述べるように、2023 年度から開講する授業科目を増強する方針で改善することとした。

【社会人】

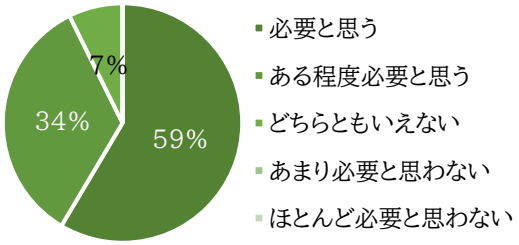
理解度	合計	41	（%）
1	理解できた	13	32%
2	ある程度理解できた	20	49%
3	どちらともいえない	7	17%
4	あまり理解できていない	0	0%
5	理解できていない	1	2%



満足度	合計	41	（%）
1	満足した	14	34%
2	ある程度満足した	17	41%
3	どちらともいえない	7	17%
4	あまり満足できていない	2	5%
5	満足していない	1	2%



必要性	合計	41	（%）
1	必要と思う	24	59%
2	ある程度必要と思う	14	34%
3	どちらともいえない	3	7%
4	あまり必要と思わない	0	0%
5	ほとんど必要と思わない	0	0%



「授業の理解度」について 1 または 2 と答えた社会人は全体の 81%であり、「授業の満足度」について 1 または 2 と答えた社会人は全体の 75%であった。この 2 つの項目について、1 または 2 と答えた人数は、いずれも社会人の方が大学院生を下回っていた。この理由として、社会人が要求する授業レベルが、大学院生のそれよりも高いためと考えられる。

「リカレント科目としての授業内容の必要性」について 1 または 2 と答えた社会人は全体の 93%であった。この結果から、社会人にとってリカレント教育やリスキリング教育の重要性が浸透していることが推察される。このようなニーズがあることから、本学として、リカレント教育やリスキリング教育のさらなる充実は必須と考えられる。

以上のアンケート結果などを踏まえ、2023 年度から（1）研究科共通基盤科目を研究科クロスセクション科目と名称変更し、（2）創造戦略プロジェクトを除く研究科クロスセクション科目を 6 科目から 13 科目に増強し、（3）創造戦略プロジェクトを除く研究科クロスセクション科目に 3 つのカテゴリーを設けることとした。具体的には次の表のようになる。

表　2023 年度　研究科クロスセクション科目

	カテゴリーの名称	授業科目の名称	授業の方法	配当年次	開講時間数	単位数		必要単位数
						必修	選択	
研究科クロスセクション科目	創造的思考力養成	知の理論	講義	1･2	15		1	6単位
		地域経済をテリトーリオから考える	講義	1･2	15		1	
		テクノロジーとビジネスの変革	講義	1･2	15		1	
		デザイン思考	講義	1･2	15		1	
	課題解決	時事と歴史を読む	講義	1･2	15		1	
		サステイナブルな社会に生きる	講義	1･2	15		1	

		ローカル・イノベーション	講義	1・2	15		1	
		高等教育を基盤とした社会人基礎力養成	講義	1・2	30		2	
		災害医療援助論	講義	1・2	30		2	
		災害医療援助論演習	演習	1・2	30		2	
	スキル養成	データアナリティクス	講義	1・2	15		1	
		アカデミック・プレゼンテーション演習	演習	1・2	15		1	
		アカデミック・ライティング演習	演習	1・2	15		1	
	創造戦略プロジェクト	創造戦略プロジェクト<食>	演習	1・2	120		4	4単位
		創造戦略プロジェクト<ICT>	演習	1・2	120		4	
		創造戦略プロジェクト<森と木>	演習	1・2	120		4	

「岡山創生学課程」、「吉備の杜クリエイター課程」、「吉備の杜プロデューサー課程」で行われている演習科目の到達度について、現時点では系統的なアンケートを実施できていない。この改善も 2023 年度の課題である。

4-1-3 学生生活アンケート

この項目では、学生の学習環境が適切であるかを、多様な観点から在学生にアンケート調査で確認することとしている。2022 年度の集計結果は、第 2 部第 2 章「キャリア・学生生活支援センターにおける教育活動と概要」内 2-3 節「学生生活支援部門」および付録 E「学生生活アンケート」を参照されたい。

4-2 教育課程レベル

4-2-1 カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー

この項目では、各教育課程のディプロマ・ポリシーに示された項目が、カリキュラムの中で適切に評価されているかを確認することとしている。特に、ディプロマ・ポリシーに示された項目について、評価されることなく卒業要件（大学院では修了要件）が満たされてしまう可能性の有無をチェックする。

各学科・研究科から教務学部専門委員会および教務大学院専門委員会に提出されたカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリーについて、カリキュラム・ポリシーおよび同委員会にて既に承認された次年度開講計画との整合性、卒業要件との整合性を、教育開発センターにて確認することとしている。その結果、2021 年度開講計画では、一部で修正が必要な点が認められたが、2022 年度以降の開講計画では、適切に修正されていることを確認することができた。さらに、カリキュラム・マップ点検・評価および学部別外部評価（第 5 部参照）の結果を受け、情報工学部では、授業科目「工業倫理」を 3 学科の必修科目として 2023 年度入学生から新設し、ディプロマ・ポリシーに沿ったより高い学修成果が得られるよう、カリキュラムの修正が行われた。

4-2-2 授業実施形態

この項目では、アクティブ・ラーニングが第 3 期中期計画で示されるように適切に導入されていること、および、2020 年度以来のコロナ禍における授業実施形態調査とオンライン授業が効果的に導入・実施されているかを確認することとしている。

[A] アクティブ・ラーニングの導入

2022 年度の状況は、第 2 部第 1 章「教育開発センターにおける教育活動と成果」内 2-2 節「FD 部門」を参照されたい。

[B] 授業実施形態調査

2020 年頭から全世界にまん延したコロナ禍により、2020 年度の当初からオンライン授業の導入を余儀なくされたが、コロナ禍 3 年目となった 2022 年度は、社会情勢を見極めた上で、次の方針に基づき各授業を実施した。

2022 年度前期 … 対面定員を教室の試験定員までとした上で（教室利用人数に制限をかけた上で）、実習演習科目を中心に対面授業を再開する。ただし、共通教育科目は一部科目を除き、原則オンライン授業とする。

2022 年度後期 … 対面授業を原則とする。ただし、対面定員を各教室の通常定員の 2/3 とし、定員を超える場合はオンライン授業とする。

その結果、付録 D「授業実施形態アンケート」に示すように、全学で 80％弱の授業科目が対面授業となった。

映像配信あるいは資料配信によるオンデマンド型授業では、毎回の授業の実施にあたって、指導補助者が教室等以外の場所において学生等に対面することにより、または、当該授業を行う教員若しくは指導補助者が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うことが必要となっている[7]。今回のアンケート調査では、オンデマンド型で授業実施している授業科目に対し、双方向性確保のための手段・方法を尋ねた。その結果、

① レポート課題等の添削指導	22.9%
② オンラインツール（MS-Teams、Google Forms など）による質疑応答	35.4%
③ メールによる質疑応答	35.4%
④ 質問回答を受講生全員に開示	6.3%

となった。また、コロナ禍におけるオンライン授業を実施した知見を活用し、反転授業を行った授業科目も少数ではあるが回答があった。

---

[7] 文部科学省，大学における多様なメディアを高度に利用した授業について，制度・教育改革ワーキンググループ（第 18 回）配付資料 6，2018 年 9 月，https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryo/_icsFiles/afieldfile/2018/09/10/1409011_6.pdf （2023 年 3 月 30 日閲覧）

4-2-3 アドバイザー面談

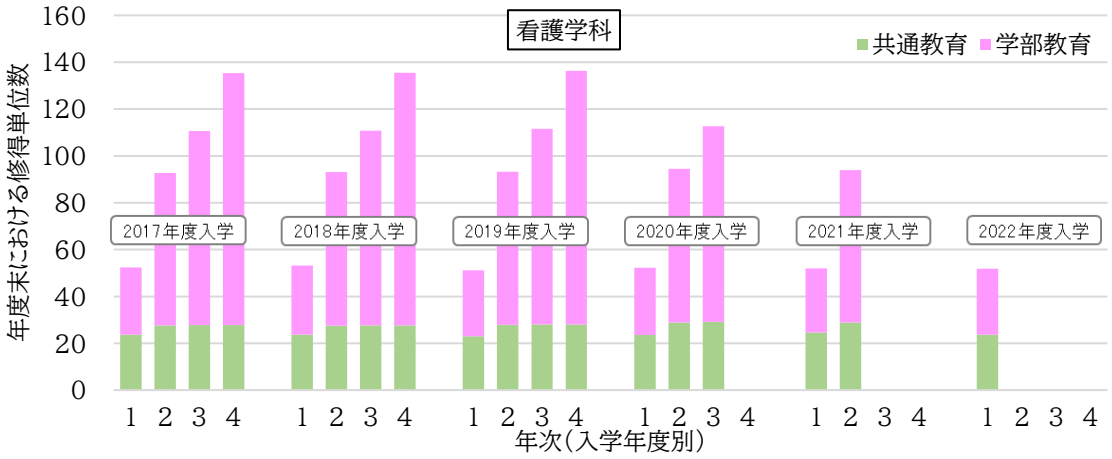
この項目では、アドバイザー面談が学生支援の観点から適切に実施されているかを確認するとともに、課題のある学生を適切にフォローできているかを確認することとしている。2022 年度の状況は、第 2 部第 2 章「キャリア・学生生活支援センターにおける教育活動と成果」内 2-3 節「学生生活支援部門」を参照されたい。

4-2-4 修得単位数の年次変化

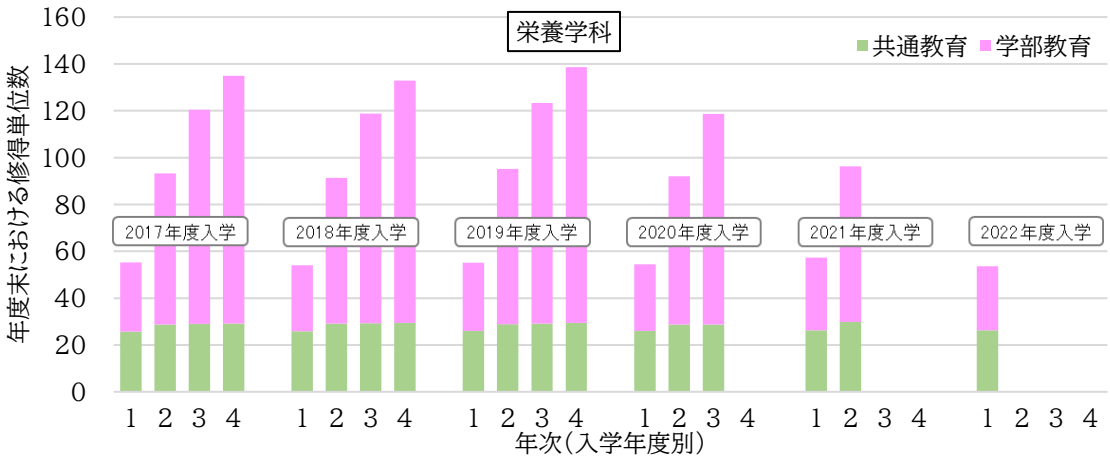
この項目では、各教育課程のディプロマ・ポリシー達成に向け、学生の単位修得が適切に年次進行しているかを入学年度別に確認することとしている。

以下では、2017 年度入学生以降について、入学後の各年次における平均修得単位数を教育課程（学科・専攻）別、共通教育科目・学部教育科目別に示す。なお、集計に際しては、修業年限で卒業することができなかった学生あるいは中途退学者も含まれるため、4 年次終了時点における修得単位数の平均値が、各教育課程（学科、専攻）の卒業要件単位数を下回る教育課程（学科、専攻）もあることに注意されたい。また、1 年間に登録することができる履修登録単位数の上限が、対象から除外される授業科目を除き、保健福祉学部では 56 単位、情報工学部とデザイン学部では 48 単位に設定されている。

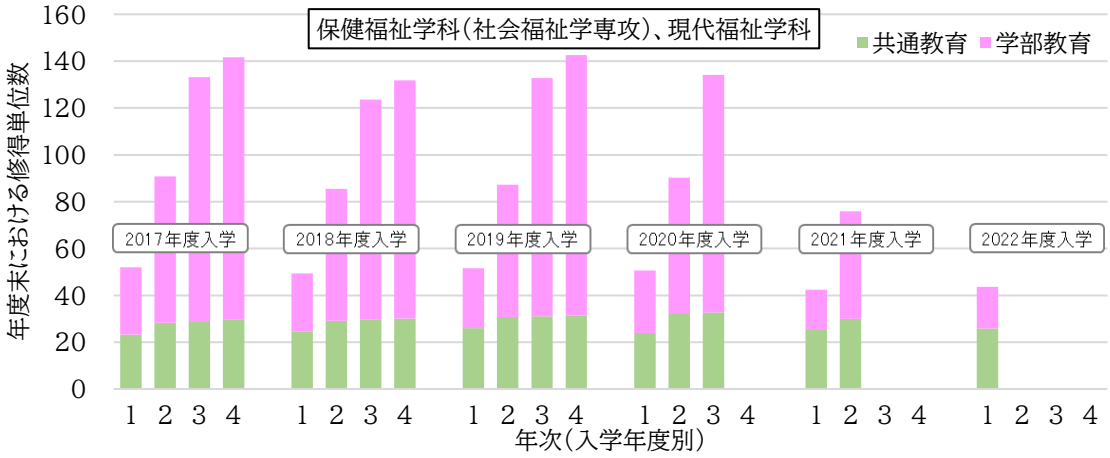
■看護学科



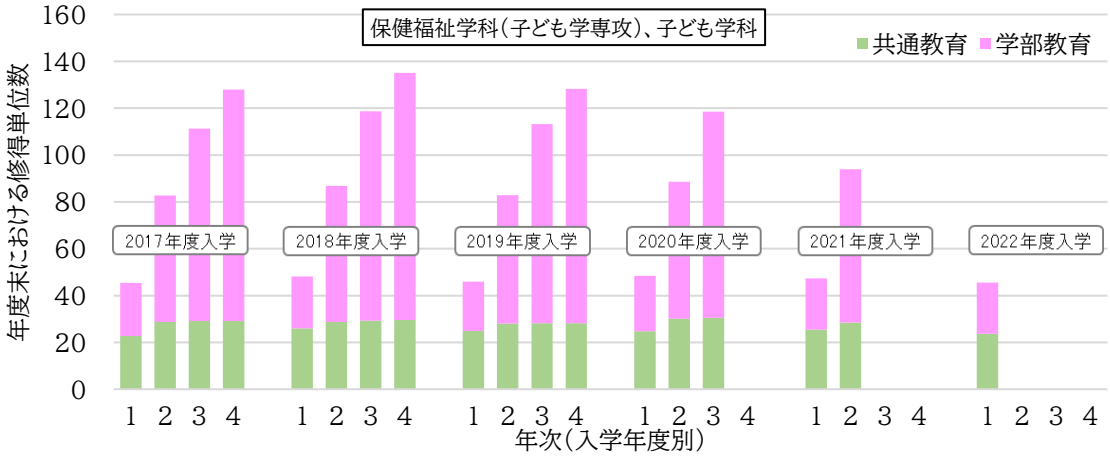
■栄養学科



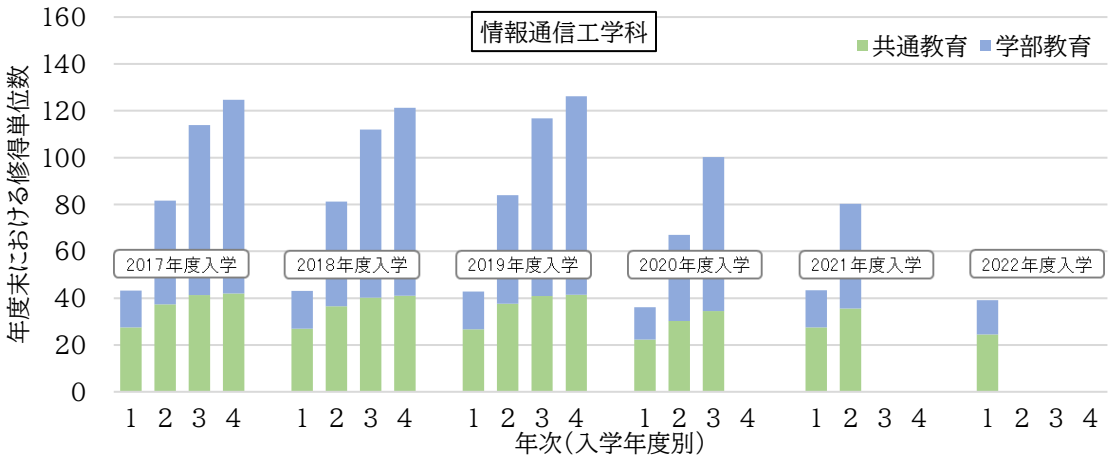
■保健福祉学科（社会福祉学専攻）、現代福祉学科（2021 年度以降入学生）



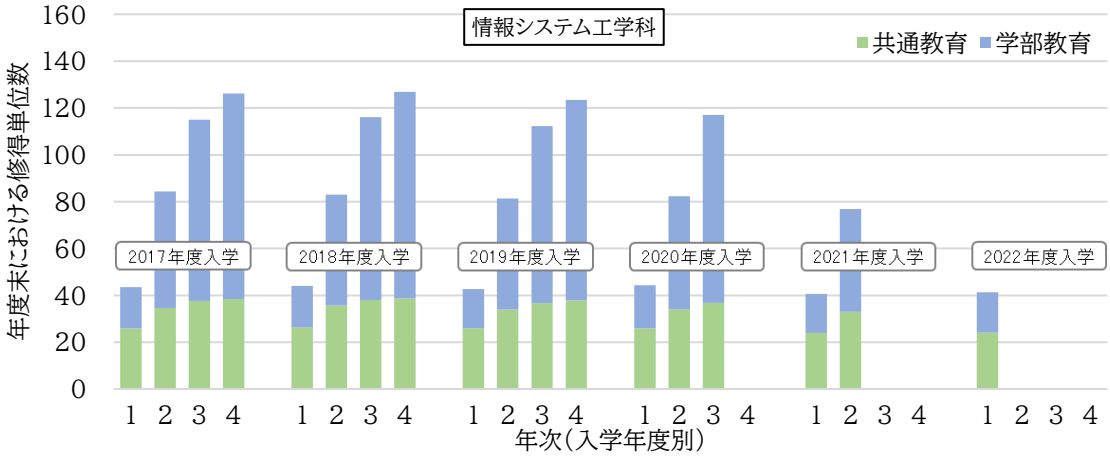
■保健福祉学科（子ども学専攻）、子ども学科（2021 年度以降入学生）



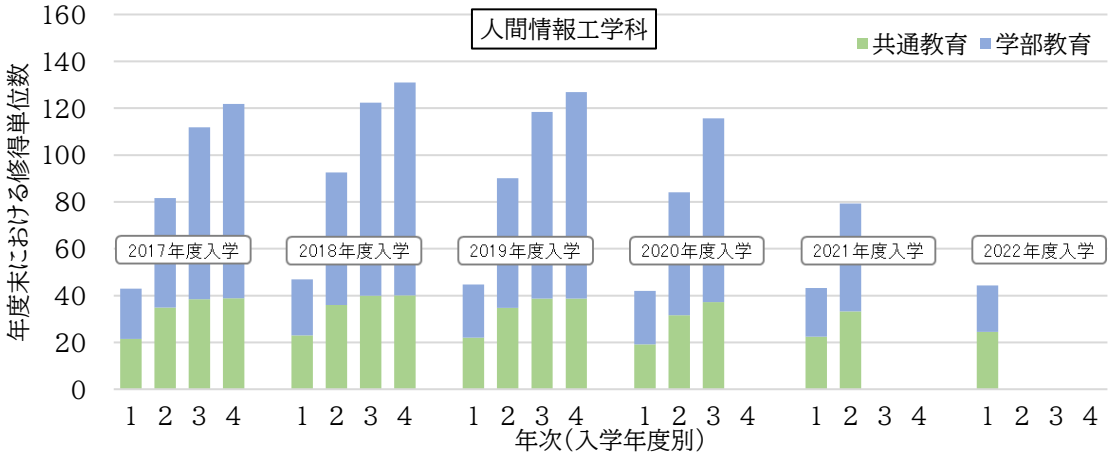
■情報通信工学科



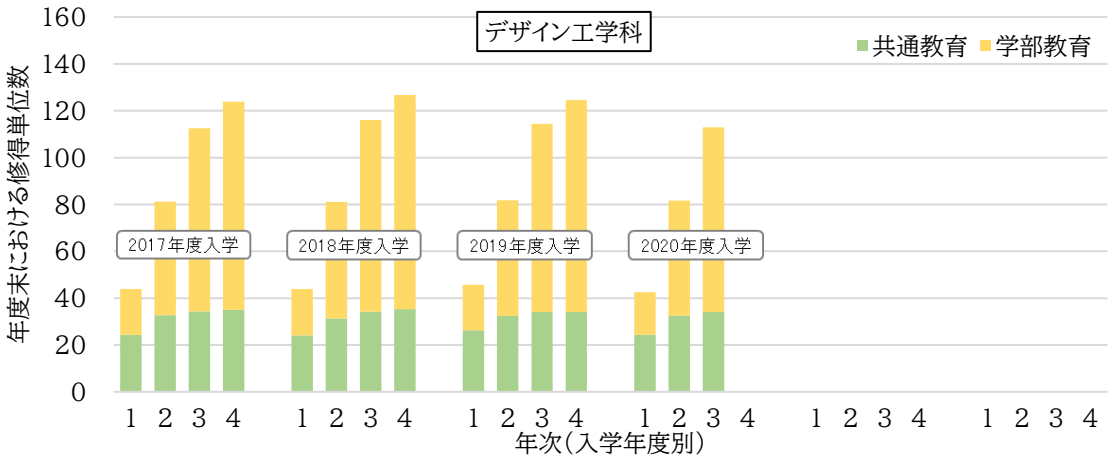
■情報システム工学科



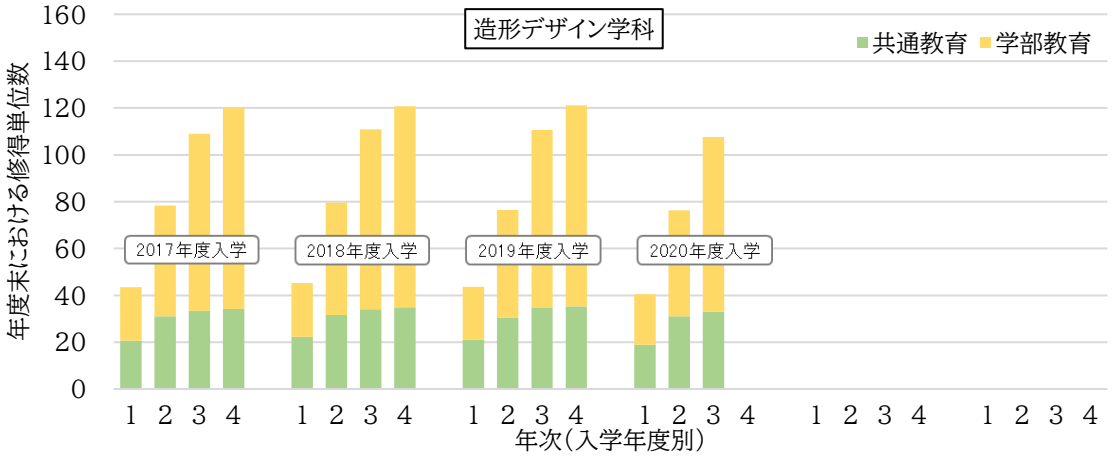
■人間情報工学科



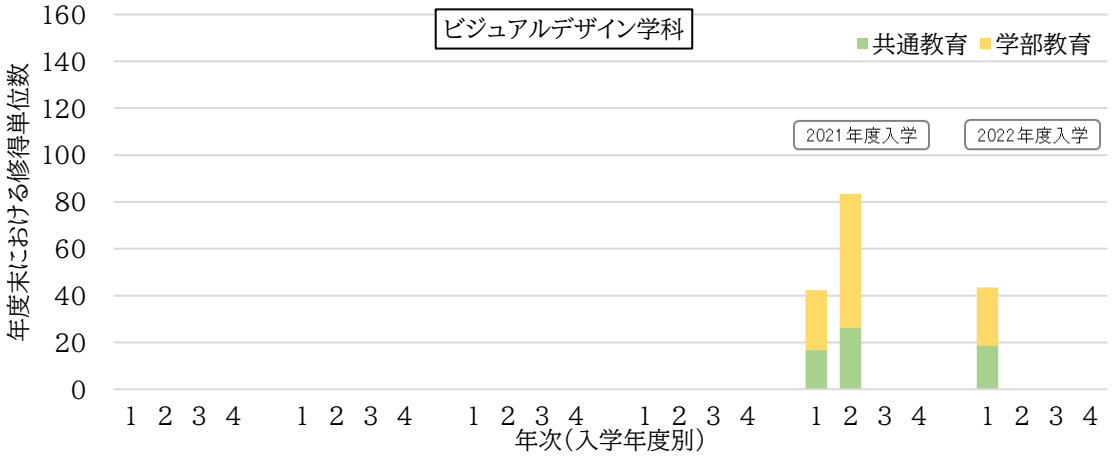
■デザイン工学科（2020 年度以前入学生）



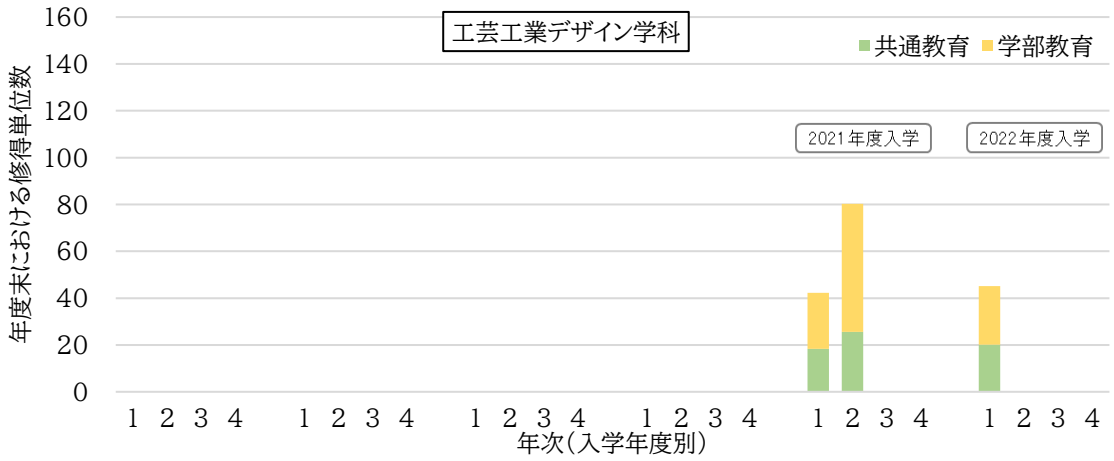
■造形デザイン学科（2020 年度以前入学生）



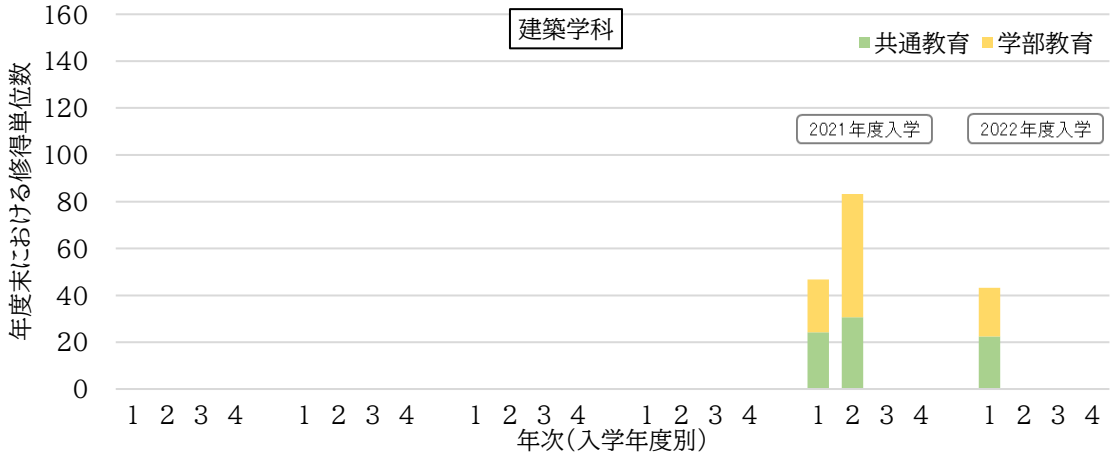
■ビジュアルデザイン学科（2021 年度以降入学生）



■工芸工業デザイン学科（2021 年度以降入学生）



■建築学科（2021 年度以降入学生）



ほとんどの学生が、共通教育科目の履修を 2 年次までに終えていることがわかる。この傾向は、保健福祉学部において顕著である。保健福祉学部では、3 年次以降になると、学外での実習科目が増えるため、2 年次までに共通教育科目を履修しておくべきとの考えに基づくものと推察される。保健福祉学科社会福祉学専攻は、2021 年度入学生から現代福祉学科として学科改組を行った。これに併せ、学部教育科目の 1 年次配当を 14 科目 25 単位から 10 科目 19 単位に減少させた。この影響を受け、2021 年度以降入学生の平均取得単位数が、2020 年度以前入学生よりも減少していると考えられる。また、情報通信工学科では、2020 年度入学生の 3 年次終了（2022 年度末）時点における修得単位数が、例年よりも少なくなっている。第 1 部第 1 章「学部における教育活動と成果」内 5-2 節「情報通信工学科」記載のとおり、2020 年度入学生の約 1/3 が 3 年次末時点で卒業研究着手要件（3 年次終了時の修得単位数 106 以上）を満足しておらず、この影響により、2020 年度入学生の平均修得単位数が例年より低調なものとなっている。

4-2-5 副専攻履修生アンケート、教育満足度調査

この項目では、履修学生に対するアンケート調査を通して、副専攻「岡山創生学課程」、「吉備の杜クリエイター課程」、「吉備の杜プロデューサー課程」が掲げる教育方針に示される能力の育成が、履修学生に実感されているかを確認することとしている。2022 年度の状況は、4-1-2 節「副専攻科目（研究科共通基盤科目群を含む）」を参照されたい。

4-3 授業科目レベル

4-3-1 シラバス

この項目では、各授業科目のシラバスに記載されている

(1) 到達目標は、合格者全員が全項目を満たすべき表現となっているか

(2) 到達目標は、教育課程のカリキュラム・マップと整合しているか

(3) 評価方法は、到達目標を適切に評価可能なものとなっているか

を確認することとしている。

学士課程では、2021 年度シラバスから、各授業科目の到達目標個々に対し、各教育課程（学科、専攻）のディプロマ・ポリシーの記号を付与することとしている。各学科および共通教育部の教務専門委員が、シラバス承認者として、カリキュラム・マップとの整合性を点検している。ただし、2021 年度の学科改組により同時に行われたディプロマ・ポリシーの改定により、改組後には引き継がれることがなかった授業科目については、ディプロマ・ポリシー記号の付与を行わないこととしている。

博士課程（保健福祉学研究科、情報系工学研究科）および修士課程（デザイン学研究科）では、2022 年度シラバスから、学士課程同様、到達目標の個々に対して、各専攻のディプロマ・ポリシーの記号を付与することとした。カリキュラム・マップとの整合性は、各専攻の教務大学院専門委員あるいは専攻長（博士後期課程）が、シラバス承認者として点検している。

4-3-2 成績分布

この項目では、各授業科目の成績評価が厳格かつ適正に行われていると判断できる成績分布となっているかを確認することとしている。

2017 年度から、各学部・研究科あるいは共通教育部各推進室において定めた次の基準に基づき、各授業科目の成績分布が特異的でないかを毎年度、調査している。なお、大学院博士前期課程・修士課程において 2021 年度から開講された研究科共通基盤科目については、基準が未設定であることから、今回は除外している。なお、デザイン学部およびデザイン学研究科の基準が、より厳格となるよう、2021 年度開講授業科目から変更された。

■共通教育科目の基準

推進室	授業の方法	基準	記号
教養教育	講義／演習	90 点以上の割合が 90%以上	N1
		1～59 点の割合が 20%以上	N2

語学教育	講義／演習	90 点以上の割合が 90%以上	P1
		1～59 点の割合が 20%以上	P2
情報教育	講義／演習	90 点以上の割合が 90%以上	Q1
		1～59 点の割合が 20%以上	Q2
健康・スポーツ教育	講義	90 点以上の割合が 90%以上	R1
		1～59 点の割合が 50%以上	R2
	実技	90 点以上の割合が 90%以上	R3
		1～59 点の割合が 20%以上	R4
社会連携教育	講義	90 点以上の割合が 90%以上	T1
		1～59 点の割合が 50%以上	T2
	演習	90 点以上の割合が 90%以上	T3
		1～59 点の割合が 20%以上	T4

■学部教育科目の基準

学部	授業の方法	基準	記号
保健福祉学部	講義／演習／実習／実験	90 点以上の割合が 90%以上	A1
情報工学部	講義	標準偏差が 2 以下	C1
		90 点以上の割合が 90%以上	C2
		1～59 点の割合が 70%以上	C3
	演習／実験	90 点以上の割合が 90%以上	C4
		1～59 点の割合が 20%以上	C5
デザイン学部	講義／演習 （2020 年度以前）	90 点以上の割合が 90%以上	E1
		1～59 点の割合が 30%以上	E2
	（2021 年度以降）	80 点以上の割合が 66%以上または 90 点以上の割合が 90%以上	E3

■大学院教育科目の基準

研究科	授業の方法	基準	記号
保健福祉学研究科	講義／演習／実習／実験	90 点以上の割合が 90%以上	J1
情報系工学研究科	講義	標準偏差が 2 以下	K1
		90 点以上の割合が 90%以上	K2
		1～59 点の割合が 70%以上	K3
	演習／実験	90 点以上の割合が 90%以上	K4
		1～59 点の割合が 20%以上	K5
デザイン学研究科	講義／演習 （2020 年度以前）	90 点以上の割合が 90%以上	M1
		1～59 点の割合が 30%以上	M2

	（2021 年度以降）	80 点以上の割合が 66%以上または 90 点以上の割合が 90%以上	M3

具体的には、履修登録者が 20 名以上である授業科目を対象として、上記の基準により成績分布の過少／過大の傾向が顕著であるものを抽出し、各部局（推進室、学部、専攻、研究科）の長等が該当する授業科目を担当する教員と面談し、必要に応じて助言を行う。2017 年度以降の調査結果は次のとおりである。なお、2022 年度については、各学部・研究科における正式な調査結果が未報告であることから、暫定値となっている。

■共通教育科目の評価結果

推進室	記号	該当科目数 / 調査科目数　（*）2022 年度は暫定値					
		2017	2018	2019	2020	2021	2022（*）
教養教育	N1	0 / 42	0 / 61	0 / 68	1 / 62	0 / 65	1 / 55
	N2	0 / 42	3 / 61	4 / 68	2 / 62	0 / 65	5 / 55
語学教育	P1	2 / 79	0 / 86	0 / 88	1 / 86	0 / 90	1 / 93
	P2	3 / 79	0 / 86	0 / 88	4 / 86	2 / 90	6 / 93
情報教育	Q1	0 / 4	1 / 8	0 / 11	2 / 10	0 / 10	0 / 7
	Q2	0 / 4	0 / 8	0 / 11	1 / 10	0 / 10	1 / 7
健康・スポーツ教育	R1	0 / 10	0 / 14	1 / 10	0 / 11	0 / 8	0 / 6
	R2	0 / 10	1 / 14	0 / 10	0 / 11	0 / 8	0 / 6
	R3	0 / 7	0 / 14	0 / 12	0 / 7	1 / 6	0 / 10
	R4	0 / 7	0 / 14	0 / 12	0 / 7	0 / 6	0 / 10
社会連携教育	T1	0 / 6	0 / 5	0 / 6	0 / 7	0 / 6	0 / 4
	T2	0 / 6	0 / 5	0 / 6	0 / 7	0 / 6	0 / 4
	T3	0 / 2	0 / 3	0 / 2	0 / 2	0 / 2	0 / 2
	T4	0 / 2	0 / 3	0 / 2	0 / 2	0 / 2	0 / 2
共通教育科目計		5 /150	5 /191	5 /197	11 /185	3 /187	14 /177

■学部教育科目の評価結果

学部	記号	該当科目数 / 調査科目数　（*）2022 年度は暫定値					
		2017	2018	2019	2020	2021	2022（*）
保健福祉学部	A1	2 /241	4 /238	2 /230	6 /240	3 /244	1 /253
情報工学部	C1	0 /122	0 /126	0 /125	0 /127	0 /118	1 /122
	C2	0 /122	0 /126	0 /125	0 /127	0 /118	1 /122
	C3	0 /122	0 /126	2 /125	0 /127	0 /118	0 /122
	C4	0 / 40	0 / 40	0 / 39	0 / 39	0 / 40	0 / 22
	C5	1 / 40	0 / 40	0 / 39	1 / 39	0 / 40	0 / 22

デザイン学部	E1	1 /113	1 /125	0 /118	1 /120	—	—
	E2	4 /113	2 /125	1 /118	1 /120	—	—
	E3	—	—	—	—	29/114	13 /122
学部教育科目計		8 /516	7 /529	5 /512	9 /526	32 /516	16 /519

■大学院教育科目の評価結果

研究科	記号	該当科目数 / 調査科目数 （*）2022 年度は暫定値					
		2017	2018	2019	2020	2021	2022 (*)
保健福祉学研究科	J1	0 / 0	0 / 1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
情報系工学研究科	K1	1 / 7	0 / 6	1 / 9	0 / 4	0 / 7	0 / 9
	K2	1 / 7	0 / 6	0 / 9	0 / 4	0 / 7	0 / 9
	K3	0 / 7	0 / 6	0 / 9	0 / 4	0 / 7	0 / 9
	K4	0 / 4	0 / 4	0 / 4	0 / 4	0 / 4	0 / 4
	K5	0 / 4	0 / 4	0 / 4	0 / 4	0 / 4	0 / 4
デザイン学研究科	M1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	—	—
	M2	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	—	—
	M3	—	—	—	—	0 / 0	0 / 0
大学院教育科目計		2 / 11	0 / 10	1 / 13	0 / 8	0 / 11	0 / 13

2021 年度開講授業に対して行われたデザイン学部およびデザイン学研究科の基準厳格化に伴い、デザイン学部において過大評価と判定された授業科目数が、2020 年度から 2021 年度にかけて急増していたが、2022 年度では半減している。

なお、成績評価の透明化を進めるため、各学科および各専攻の集大成として位置づけられる「卒業研究」および「特別研究」に対し、2023 年度からルーブリックを導入しシラバスで公開することを決定し、2022 年度を試行期間とした。また、評価委員会において、過大評価ならびに過小評価であるとされた科目について、成績評価の改善に結びつけることが課題であると指摘されたことを受け、その他の実験・実習・演習科目に対しても、2023 年度を試行期間として順次、ルーブリックを導入し 2024 年度からシラバスで公開していくことが大学運営委員会で決定された。

4-3-3 授業改善アンケート

この項目では、各授業科目において、単位実質化の観点から時間外学習が適切に実施されているかを、学生へのアンケート調査で確認することとしている。

本学では、2004 年度から定期的（毎学期末）に授業評価アンケートを実施している。授業科目ごとの集計結果は、各授業担当者にフィードバックされ、授業改善に活用してもらうとともに、組織的（学部・学科・コース・カテゴリー別授業科目単位等）な教育改善の資料として用いられてもいる。2016 年度までは、マークシートによる回答方式を採用していたが、教学システム「はっとりん」（Campus Square）が導入された 2017 年度からは、Web 回答方式に変更することとした。

その後、2021 年度からは、アンケート結果が個々の授業改善に結び付くように設問を改定し、これを機に、名称も「授業改善アンケート」と改めた。なお、学士課程（共通教育科目、学部教育科目、教職科目）および大学院教育科目（博士前期課程・修士課程、博士後期課程）共通の設問による調査としている。なお、調査対象は、履修登録者が 5 名以上の授業科目である（学外実習を伴う授業科目、インターンシップ科目および卒業研究を除く）。

アンケート結果の詳細は付録 C「授業改善アンケート」を参照されたい。また、授業科目ごとの結果は、担当教員に通知され、次年度の授業改善に活用されている。

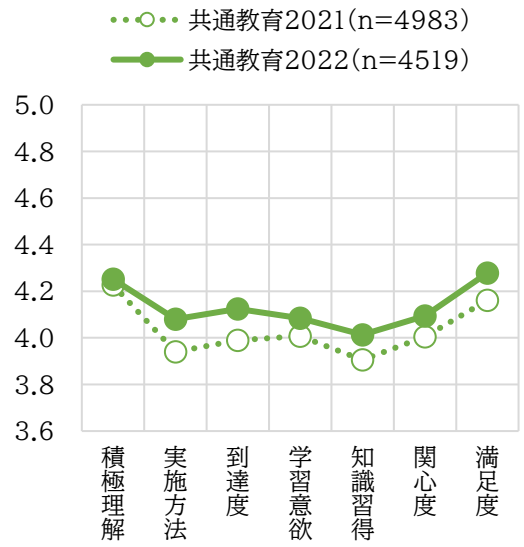
［A］アンケート結果

授業改善アンケートの設問は、2021 年度から、次の 9 問から構成されており、Q9【自由記述】以外は、5 者択 1 の選択式となっている。

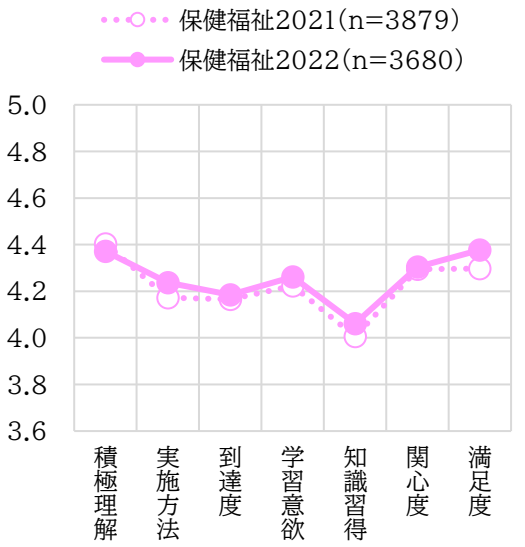
Q1【積極理解】 授業内の内容を理解するように努力しましたか。
Q2【学習時間】 1 回の授業につき、授業時間以外で、この授業に関係する学習や調査、読書や討論などの時間を平均してどのくらいつくりましたか。
Q3【実施方法】 この授業の教員の説明の仕方や工夫、設備や機器の利用、質疑やディスカッション、その他の実施方法によって、授業内容の理解を深めることができたと思いますか。
Q4【到 達 度】 この授業を受けて、シラバスの「到達目標」に達していると思いますか。
Q5【学習意欲】 この授業を受けて、自ら進んで学修に取り組む意欲をもつようになりましたか。
Q6【知識獲得】 この授業を受けて、授業に関する知識や能力が身につきましたか。
Q7【関 心 度】 この授業を受けて授業内容や関連する学問について関心を強め、さらに学修を深めたいと思いましたか。
Q8【満 足 度】 この授業を受けて満足しましたか。
Q9【自由記述】 この授業をどのようにしたら一層改善できると考えますか。（以下のキーワードも参考にしてください：担当者、講義内容、説明の仕方、オンライン授業、時間配分、資料、評価方法、開講日時、設備）

Q2【学習時間】および Q9【自由記述】以外の 7 項目に対し、肯定的回答（5 点、4 点）、ニュートラル（3 点）、否定的（2 点、1 点）として、最近 2 年間のデータより、各年度の平均値を計算した。学士課程の授業科目に対する結果を示す。

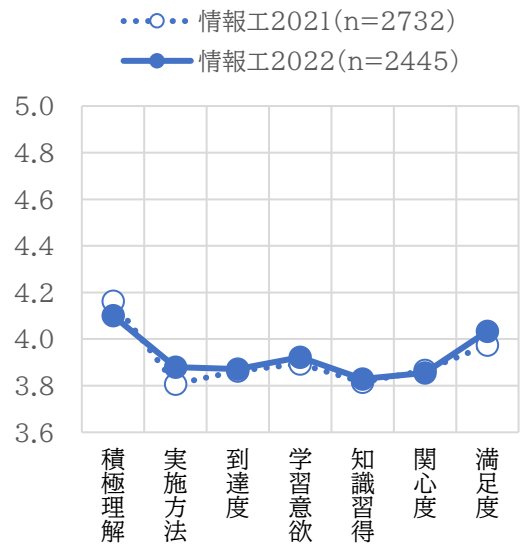
■共通教育科目



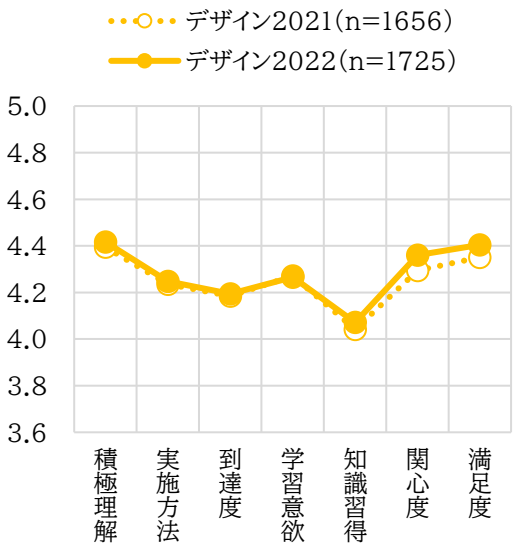
■保健福祉学部教育科目



■情報工学部教育科目



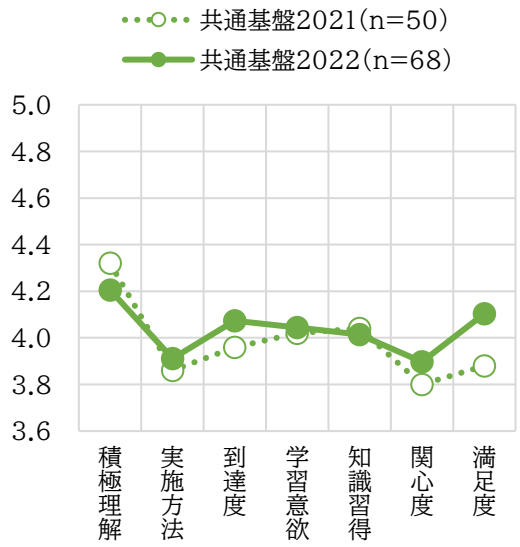
■デザイン学部教育科目



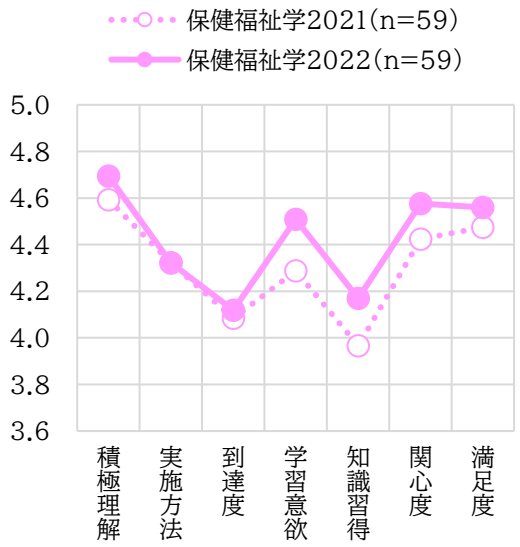
共通教育科目に対する評価は、昨年度から僅かに改善されている。学部教育科目では、学部間で平均値の差は見られるものの、各学部とも、昨年度からの変化は、ほとんどみられない。

次に、大学院教育科目に対する結果を示す。

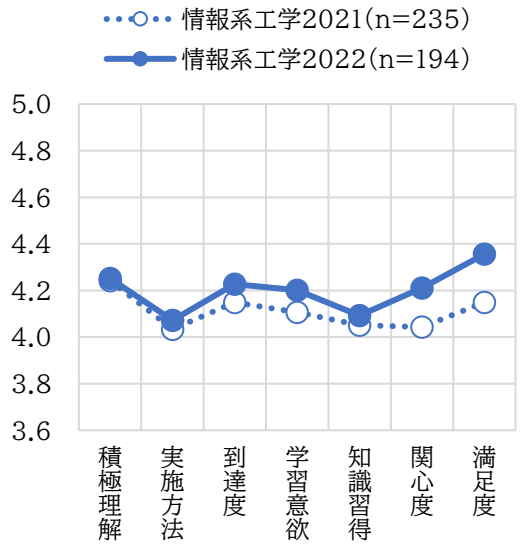
■研究科共通基盤科目



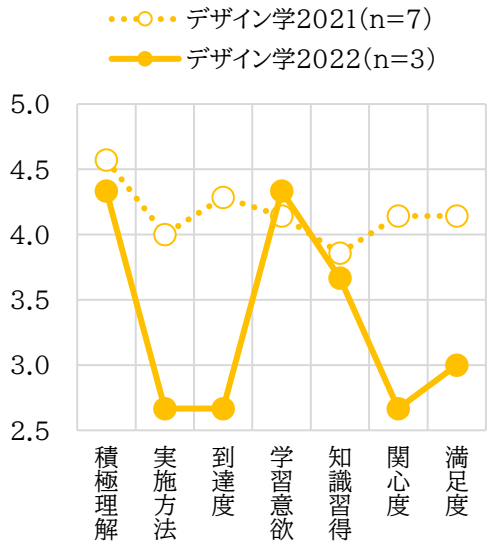
■保健福祉学研究科教育科目



■情報系工学研究科教育科目



■デザイン学研究科教育科目



研究科共通基盤科目は、副専攻「吉備の杜」創造戦略プロデューサー課程の開設に伴い新設されたものである。開設 2 年目となった 2022 年度では、「満足度」で約 0.2 ポイントの増加があった。デザイン学研究科では回答数が少ないため、参考とはなりがたいが、研究科共通基盤科目の評価は、研究科教育科目より、わずかに低いものとなった。研究科共通基盤科目の多くは、学外者の履修も可能としており、リカレント教育として受講している社会人あるいは他大学大学院学生との交流、意見交換の機会を増やすなどの取組を、2023 年度には計画している。

[B] 平均時間外学習時間

2021 年度以降の授業改善アンケートでは、5 者択 1 の選択肢に対し、次の[ ]内に示す階級値を用いて平均値を計算する。

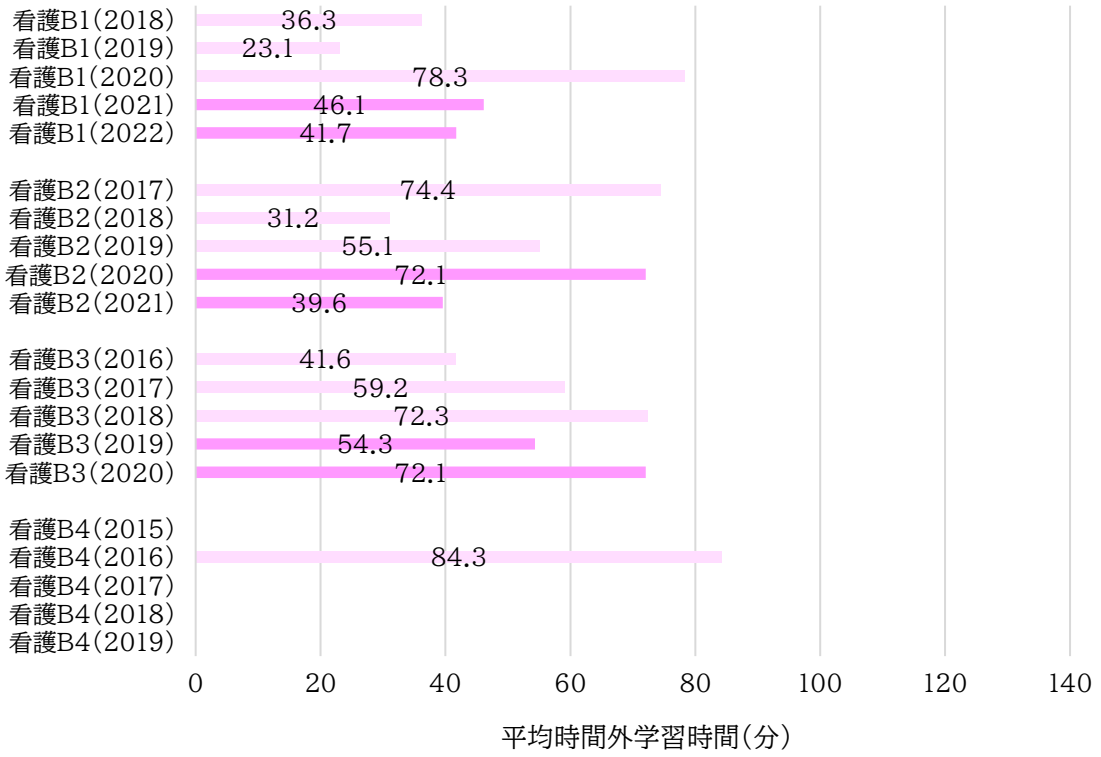
⑤ 120 分以上　　[135 分]

④ 90 分～120 分　　[105 分]
③ 60 分～90 分　　[75 分]
② 30 分～60 分　　[45 分]
① 30 分以下　　[15 分]

このため、平均値は最大でも 135 分に抑えられる。一方、2020 年度以前の授業改善アンケートでは、分単位の数値を 0～999 で回答する方式となっているため、平均値を計算した結果、例えば、200 分以上になってしまう可能性が秘められていることに留意したい。

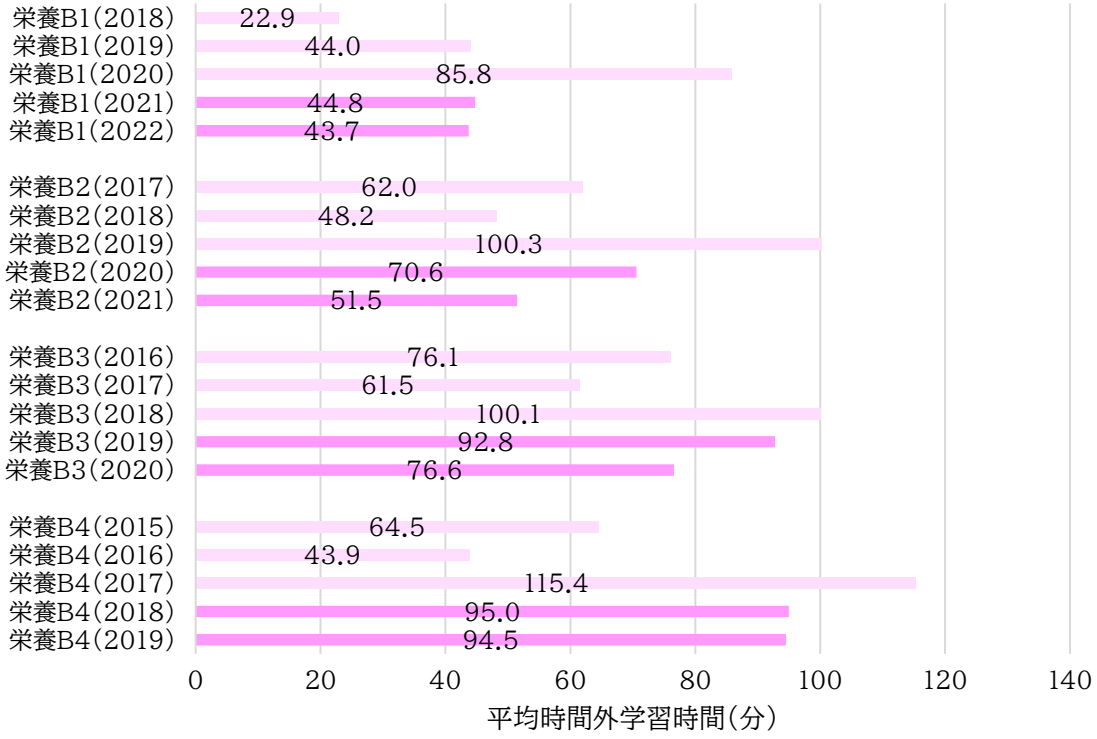
以下では、学科・年次別に、最近 5 年間の時間外学習時間の平均値を示す。なお、薄い色は 2020 年度以前実施の回答方法(数値を直接記入)による平均値を示し、濃い色は 2021 年度以降実施の回答方法(5 者択 1)による平均値を示している。また、( )内の数値は入学年度を表す。

■看護学科(カッコ内は入学年度)[8]

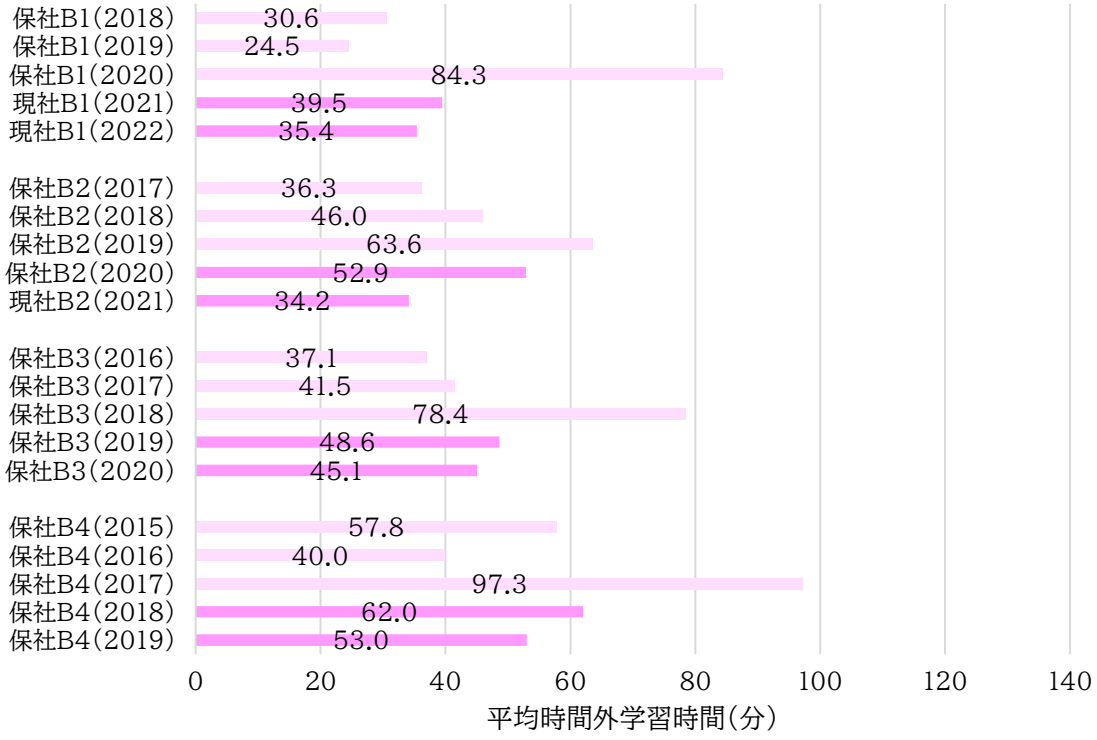


[8] 看護学科 4 年次生授業科目では、2016 年度入学生を除き、調査対象となる授業科目がなかったため、結果が示されていない。

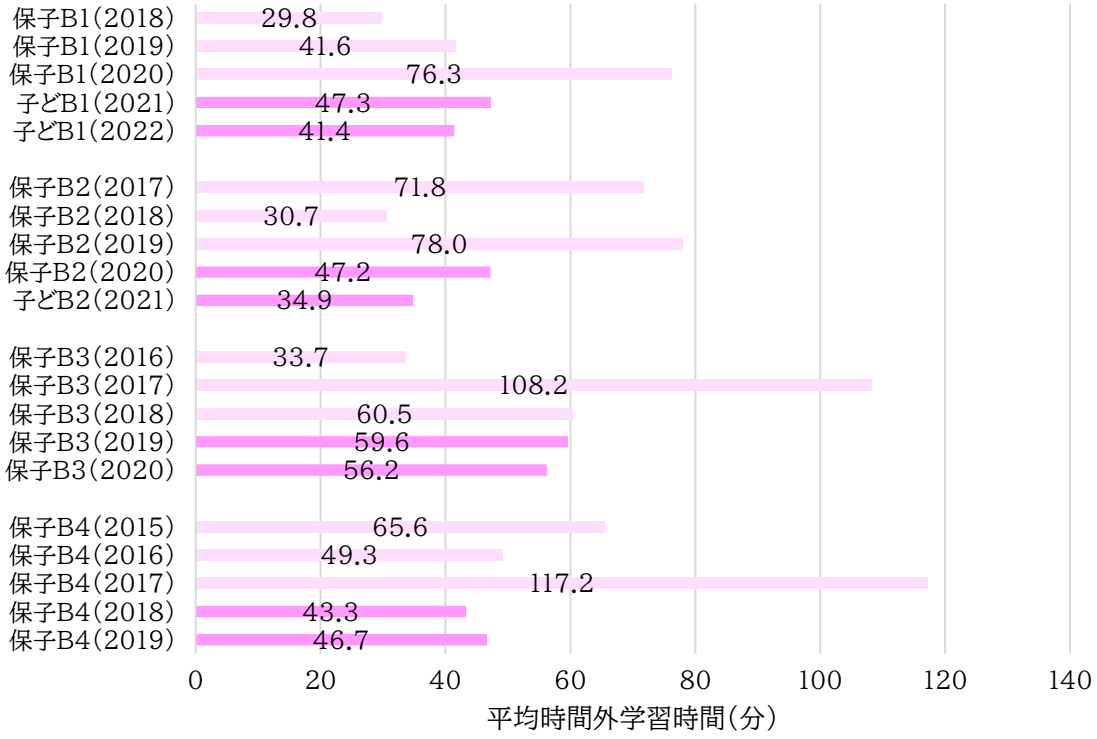
■栄養学科（カッコ内は入学年度）



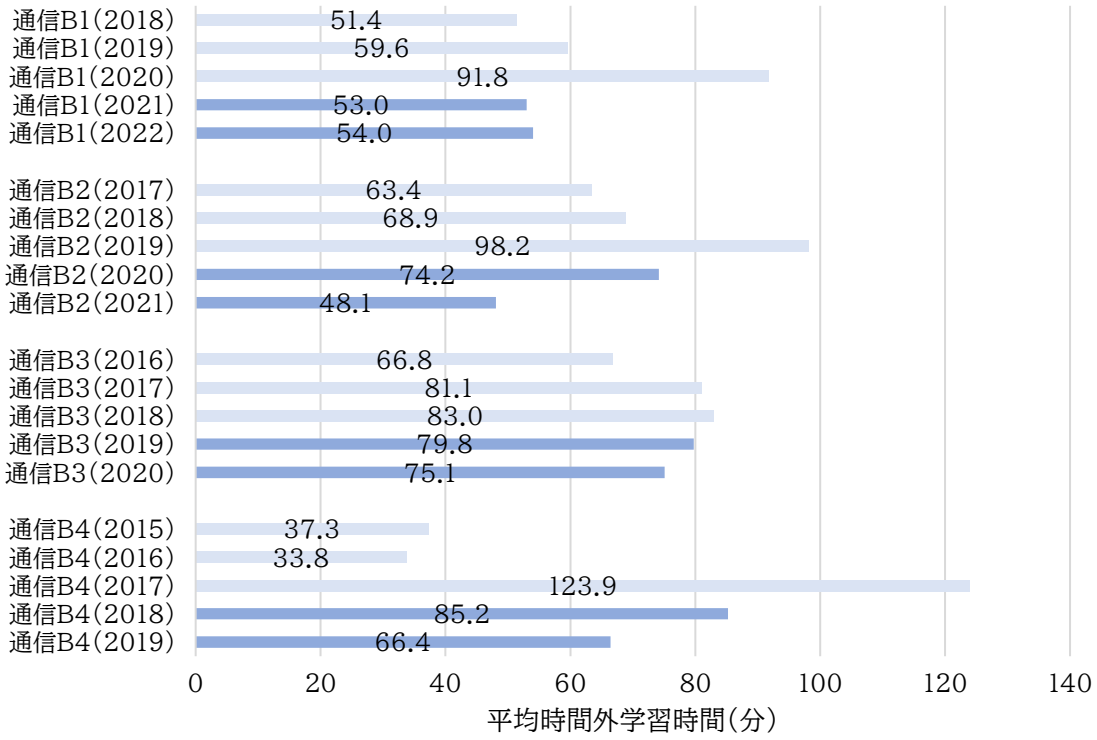
■保健福祉学科（社会福祉学専攻）、現代福祉学科（カッコ内は入学年度）



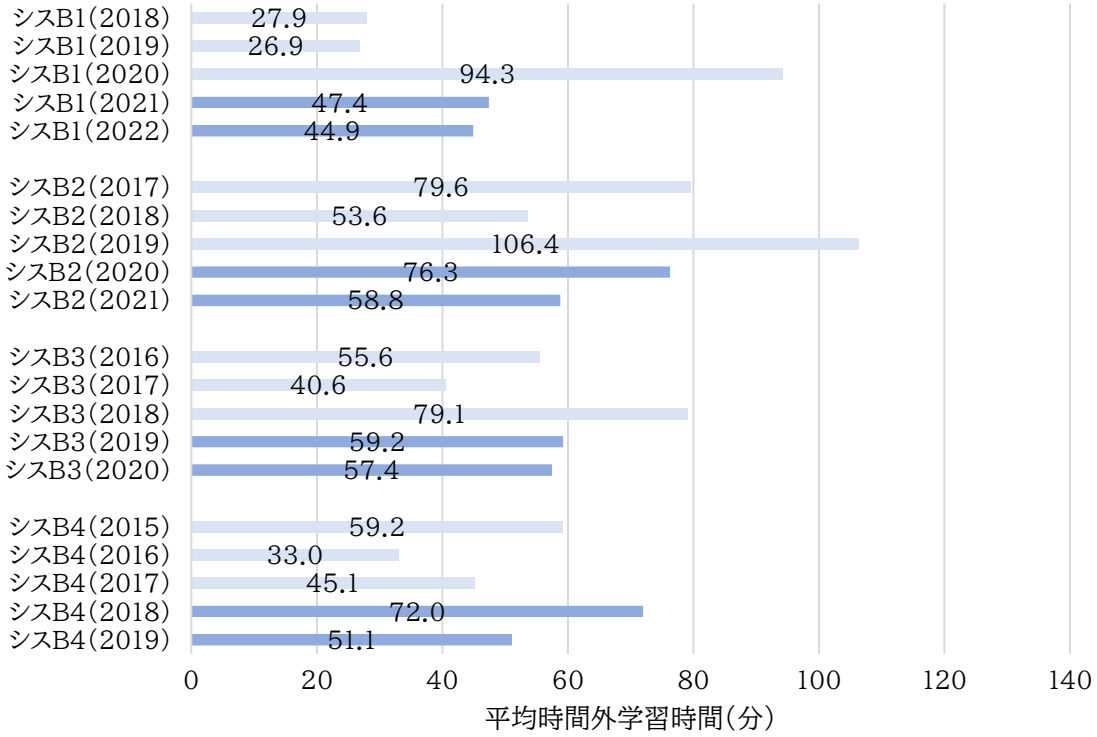
■保健福祉学科（子ども学専攻）、子ども学科（カッコ内は入学年度）



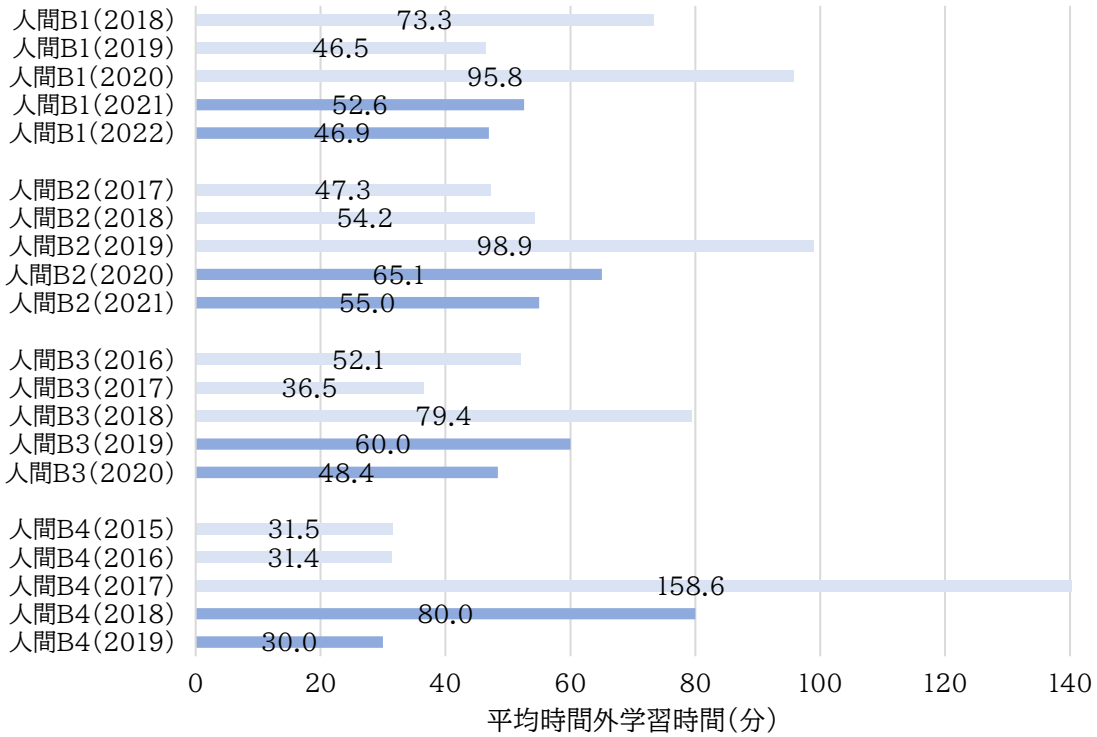
■情報通信工学科（カッコ内は入学年度）



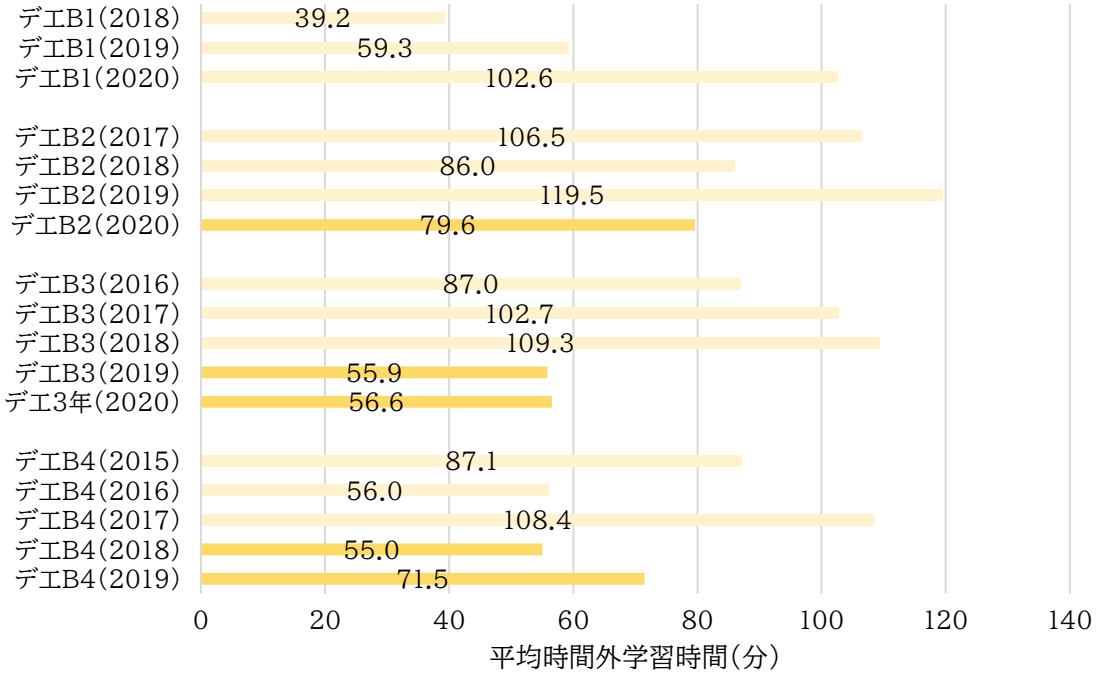
■情報システム工学科（カッコ内は入学年度）



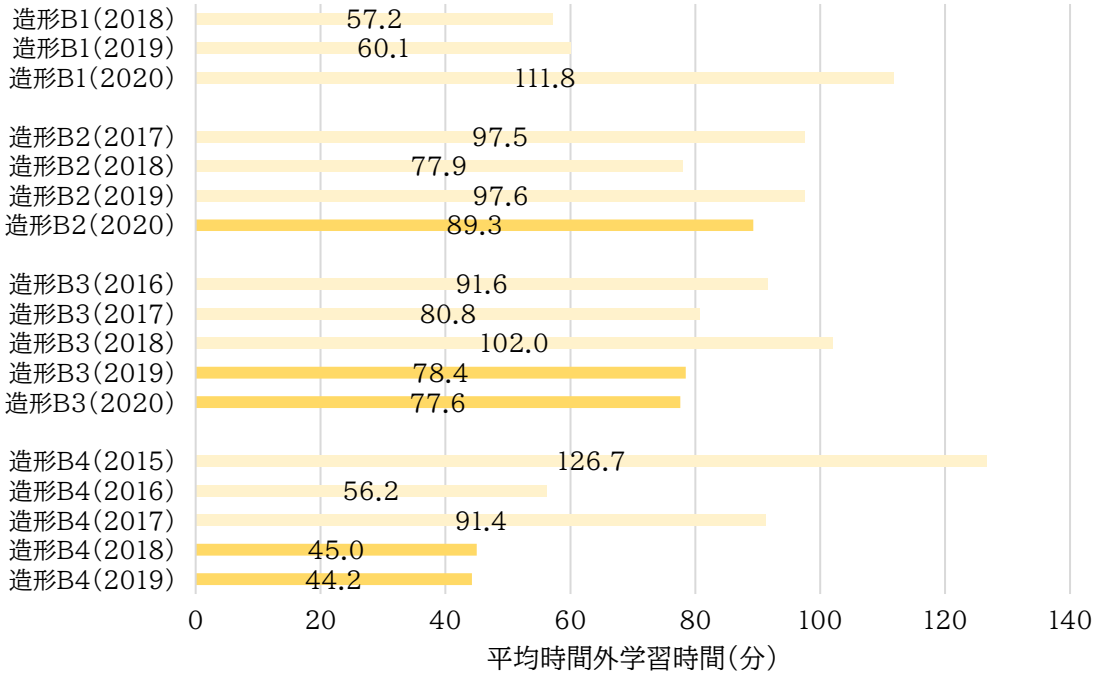
■人間情報工学科（カッコ内は入学年度）



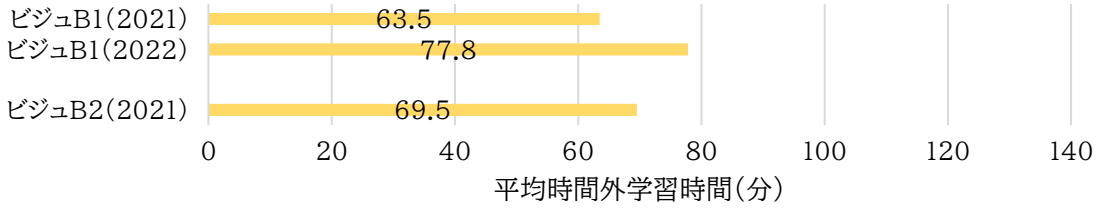
■デザイン工学科（カッコ内は入学年度）



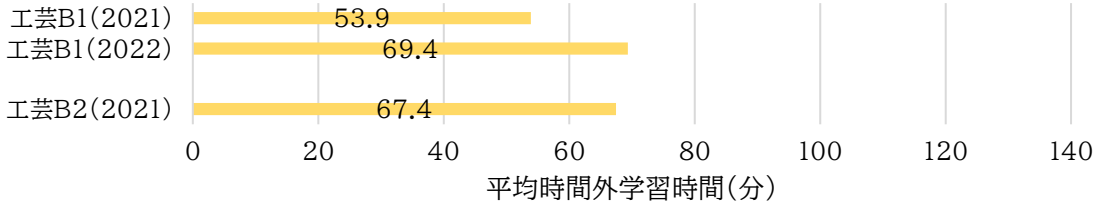
■造形デザイン学科（カッコ内は入学年度）



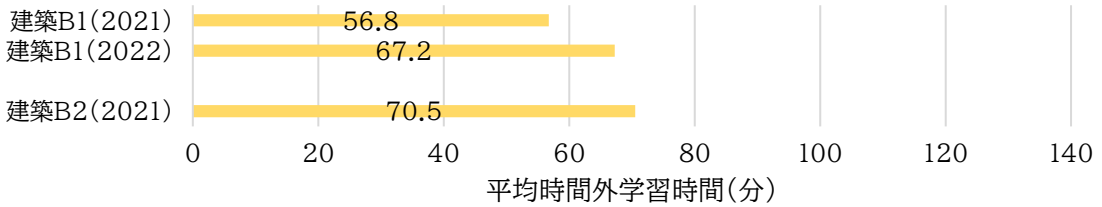
■ビジュアルデザイン学科（カッコ内は入学年度）



■工芸工業デザイン学科（カッコ内は入学年度）



■建築学科（カッコ内は入学年度）



コロナ禍 1 年目となった 2020 年度では（薄い色の最下位置の横棒結果）、オンライン授業が導入された結果、自宅学習での時間外学習時間が、多くの学科、学年で急激に増加している。しかし、コロナ禍 2 年目となった 2021 年度では（濃い色の最上位置の横棒結果）、調査方法の変更も大きく影響しているが、2020 年度より数値としては減少している。多くの授業科目が対面実施となった結果、単位制度の実質化に向け、より効果的な時間外学習時間の確保が可能な教授方法などを模索する必要がある。

5 卒業時・卒業後 － ディプロマ・ポリシー検証

5-1 機関レベル

5-1-1 卒業時アンケート

この項目では、本学の掲げるディプロマ・ポリシーへの達成度、在学中の成長を、（学士課程）卒業生へのアンケート調査を通して確認することとしている。2022 年度卒業生に対するアンケート結果の詳細については、付録 F「学部卒業時アンケートおよび学科 DP 達成度アンケート」を参照されたい。なお、卒業時アンケートは、2022 年度卒業生からは、各学科のディプロマ・ポリシーに関連する設問を追加した。

［A］学修で得たもの

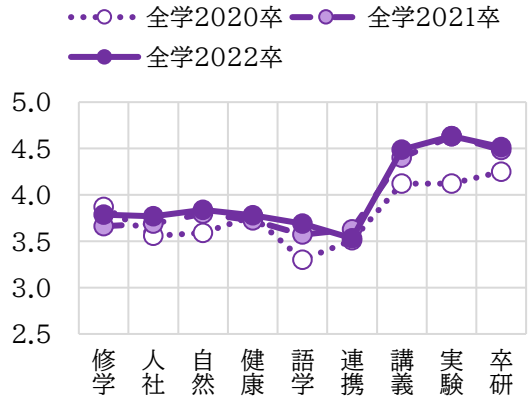
在学中の学修を通して自身の成長に得るものがあった教育に関する設問 Q4～Q12 を示す。

［修学］ Q4.「修学基礎」分野（「大学で学ぶ」、「フレッシュマンセミナー」など）
［人社］ Q5.「人文・社会科学」分野（「哲学」、「心理学」、「経済学」、「日本国憲法」など）
［自然］ Q6.「自然科学」分野（「数学 A」、「化学」、「コンピュータ演習」など）
［健康］ Q7.「健康科学」分野（「生命倫理学」、「健康スポーツ A」など）
［語学］ Q8.「語学国際」分野（「ELP1～10」、「語学文化研修」など）
［連携］ Q9.「社会連携」分野（「おかやまを学ぶ」、「地域インターンシップ」など）
［講義］ Q10. 講義科目（学部教育科目）
［実験］ Q11. 実験・実習・演習科目（学部教育科目）
［卒研］ Q12. 卒業研究

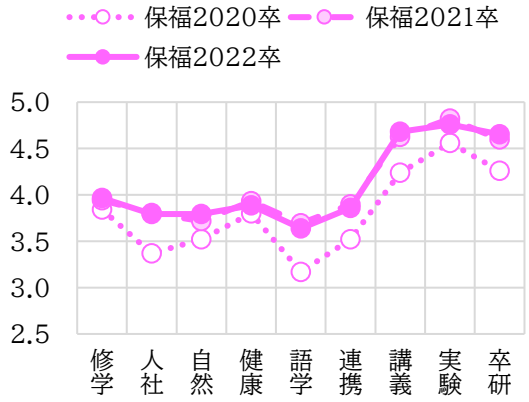
Q4～Q9 は共通教育科目の各カテゴリーに関する設問であり、Q10～Q12 は学部教育科目に対する設問である。これらの設問に対し、肯定的回答（5 点、4 点）、ニュートラル（3 点）、否定的（2 点、1 点）として、最近 3 年間のデータより、各年度の平均値を計算した結果を示す。なお、横軸は、上記 Q4～Q12 左側に記された［ ］内の略称を用いている。

■全学および学部別

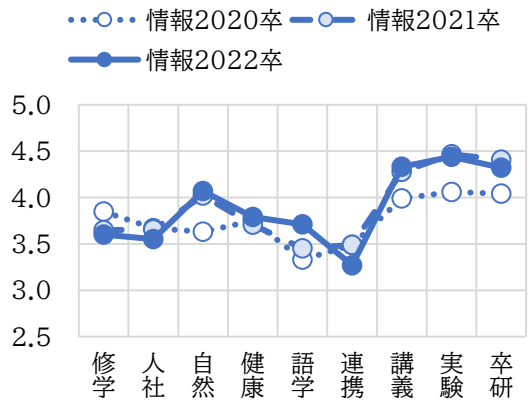
全学



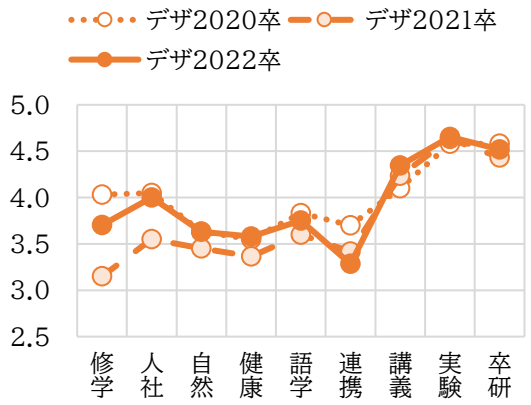
保健福祉学部



情報工学部

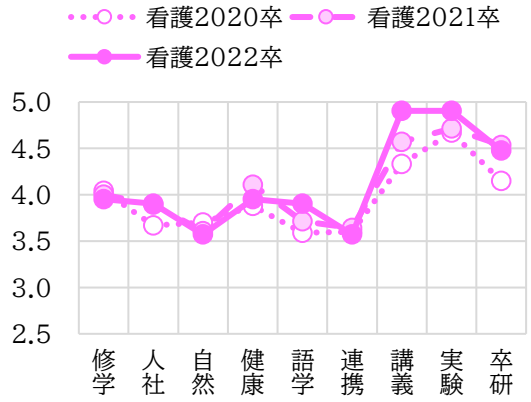


デザイン学部

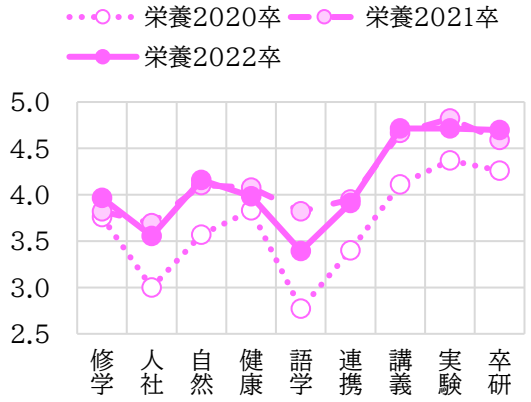


■保健福祉学部

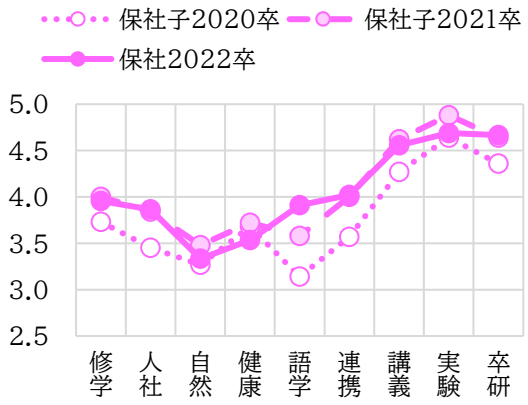
看護学科



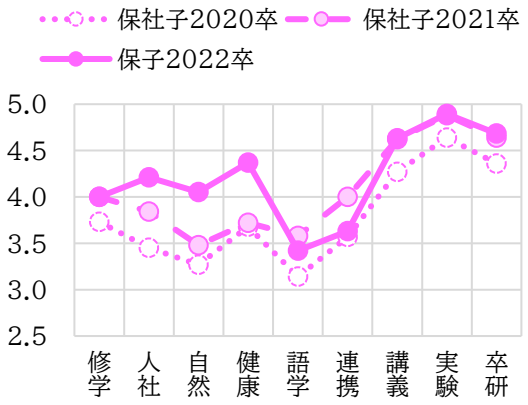
栄養学科



保健福祉学科(社会福祉学専攻)



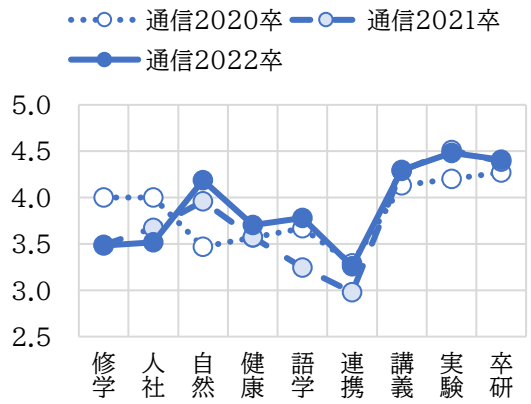
保健福祉学科(子ども学専攻)



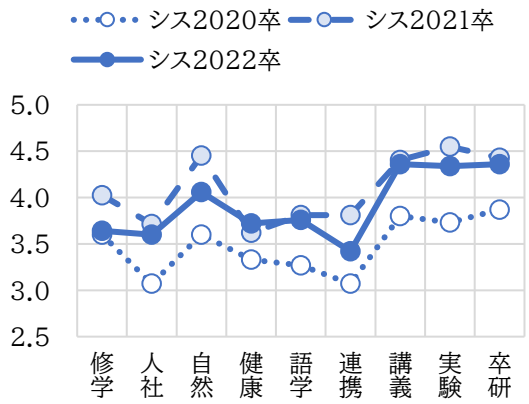
※保健福祉学科の 2021 年度以前卒業生では、専攻別の調査をしていなかったため、社会福祉学専攻と子ども学専攻のグラフでは両専攻を併せたデータを用いている。

■情報工学部

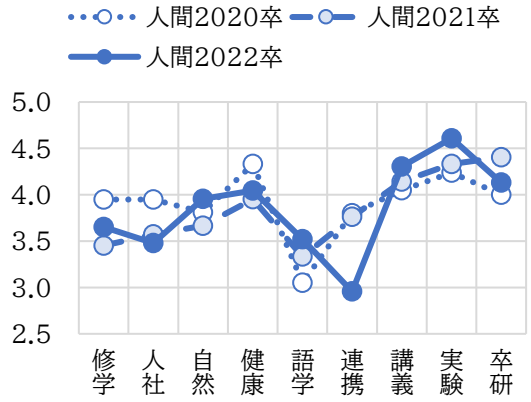
情報通信工学科



情報システム工学科

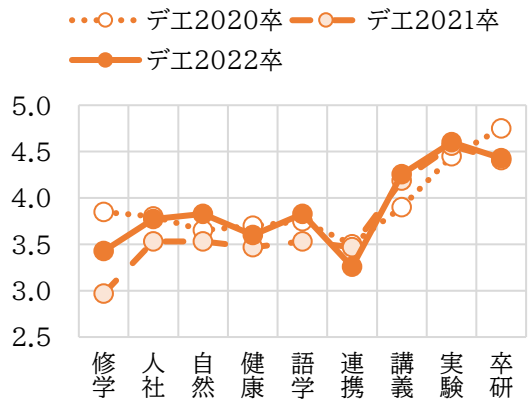


人間情報工学科

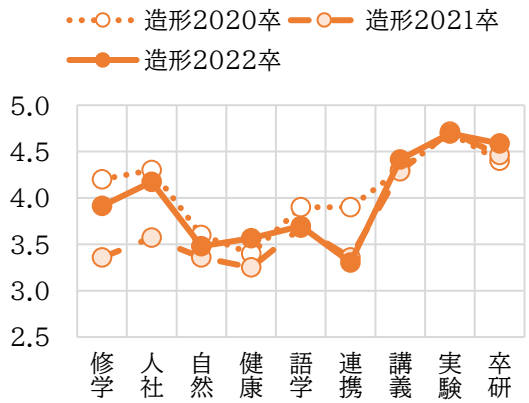


■デザイン学部

デザイン工学科



造形デザイン学科



共通教育科目について、付録 F に示す Q4～Q9 に対する回答分布より、すべてのカテゴリーで、約 70%の学生が、ある程度以上の「得るものがあった」と回答しており、平均値は 3～4 程度となっている。2020 年度(卒業生は主として 2017 年度入学生)では、「語学国際」カテゴリーが他のカテゴリーより低い評価となっていたが、2021 年度以降に改善されている。類似の傾向は、

1 年のずれはあるが、5-2-4 節に示す入学後 1 年次と 2 年次のTOEICスコアにも表れている。2017 年度入学生のTOEICスコアは、入学時と比べ 2 年次で約 6 ポイント減少しており、卒業時アンケートにおける「語学国際」カテゴリーから得たものに対する評価も 3.3 となっている。2018 年度入学生では、TOEIC スコアが約 24 ポイントも減少したため、また、文部科学省が 2019 年度（2018 年度入学生の 2 年次における TOEIC スコアの大幅減少が確認された年度）に実施した「全国学生調査（試行実施）」においても本学学生の「外国語を使う力」に対する回答が低調であったため、内部質保証推進会議および共通教育部語学国際推進室で対策を検討し、教材の改定とともに、2019 年度入学生以降には、2 年次必修科目「English Language Program 6」の単位認定要件として 300 点以上を課すこととした。その結果、2019 年度入学生では、40 ポイント近い平均スコアの上昇を得ることができたとともに、卒業時アンケートにおける評価も上昇した。この傾向は、2020 年度以降の入学生にも引き継がれている。

共通教育科目に関しては、「語学国際」に替わり、「社会連携」に対するアンケート結果が、特に情報工学部とデザイン学部において減少傾向にあるため、原因の分析が必要と考えられる。

一方、学部教育科目に対する評価は、例年どおり、概して 90％近くの学生が、ある程度以上の「得るものがあった」と回答しており、共通教育科目に対する評価より高いものとなっている。平均値において、学部教育科目が共通教育科目よりも高くなる傾向は、専門的な学びを期待して入学する学生が多数を占める中で、避けられない傾向ではあるが、本学のディプロマ・ポリシーに掲げる「豊かな教養」を達成するための授業科目として、学部教育科目と同等程度の達成感を学生が感じることができるよう、共通教育科目の工夫が望まれる。

[B] 全学共通のディプロマ・ポリシー達成度

ディプロマ・ポリシーに掲げる項目の主観的な達成度を問う設問 Q13～Q21 を示す。なお、2020 年度以前入学生に対するディプロマ・ポリシーは、次の 3 項目である。

・ 豊かな教養と高い人間性を身に付けている
・ 専門性を修得し、課題を発見し解決できる能力を身に付けている
・ グローバル並びにローカルに活躍し得る企画提案力とコミュニケーション力を身に付けている

しかしながら、2021 年度からの卒業時アンケートの見直しに際し、2020 年度以前入学生に対する卒業時アンケートでは、2021 年度以降入学生に対するディプロマ・ポリシー

【豊かな教養】

人間・社会・自然の理解を通じて、人生の各局面において課題を発見し解決できる、高い倫理観と豊かな人間性に立脚した幅広い教養を身に付けている。

【高度な実学の専門性と実践力】

専門分野で活躍できる高度な知識、技能と、それを実社会で主体的に活用できる論理的思考力、判断力、実践力を身に付けている。

【協調性をもってグローバル化する社会で活躍し、学び続ける態度・意欲】

少子高齢化やグローバル化の進む現代社会において、世界とのつながりを考えて多様な人々と協働することにより、地域社会に貢献できるコミュニケーション能力を身に付けるとともに、継続的に自己を研鑽する態度・意欲を身に付けている。

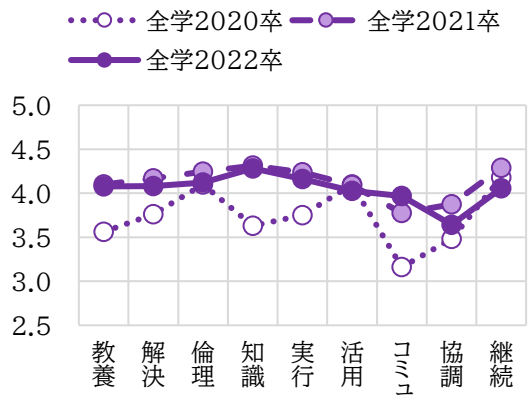
に関連する項目で問うこととした。これに従い、2022 年度卒業生に対する設問 Q13～Q21(全学ディプロマ・ポリシーに関連)の回答(5 段階評価)に対する各年度の平均値を、肯定的回答(5 点、4 点)、ニュートラル(3 点)、否定的(2 点、1 点)として、最近 3 年間のデータより計算した。

［教養］ Q13. 人間や社会や自然について幅広く教養が身に付きましたか。
［解決］ Q14. 人生の各局面において課題を発見し解決する力が身に付きましたか。
［倫理］ Q15. 法や道徳を守る倫理観が身に付きましたか。
［知識］ Q16. 専門的な知識や技能が身に付きましたか。
［実行］ Q17. 専門とする分野で自ら論理的に考え、判断し、実行する力が身に付きましたか。
［活用］ Q18. 学修した専門分野を実社会に活かす力が身に付きましたか。
［コミュ］ Q19. 世代、言語、文化の相違をのりこえてコミュニケーションを図る力が身に付きましたか。
［協調］ Q20. 世界とのつながりを考えながら社会の多様な人々と協調して積極的に行動する意欲が身に付きましたか。
［継続］ Q21. 生涯にわたって学び続けて自分を磨く意欲が身に付きましたか。

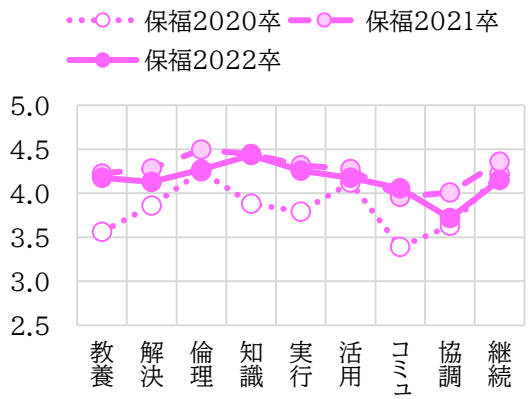
結果を以下に示す。なお、横軸は、上記 Q13～Q21 左側に記された[ ]内の略称を用いている。

■全学および学部別

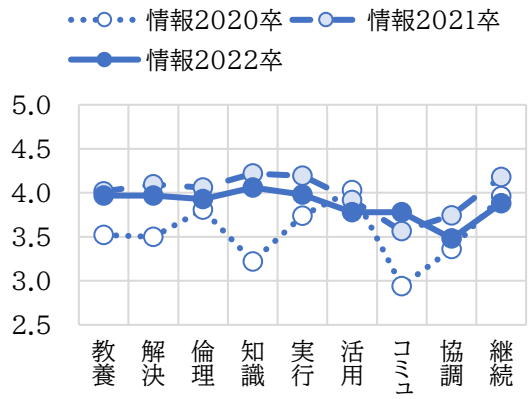
全学



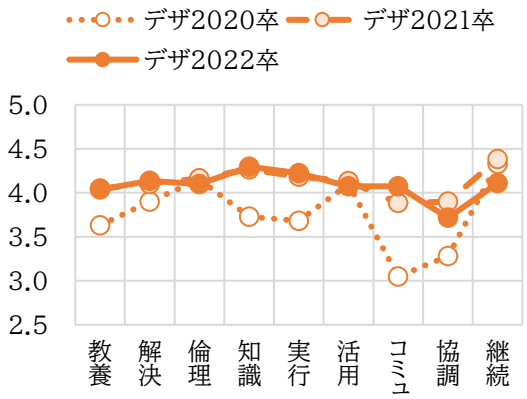
保健福祉学部



情報工学部

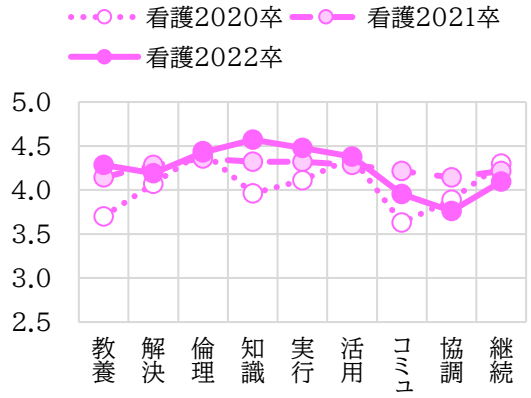


デザイン学部

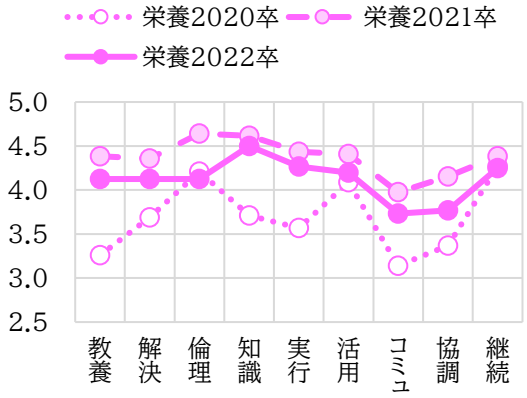


■保健福祉学部

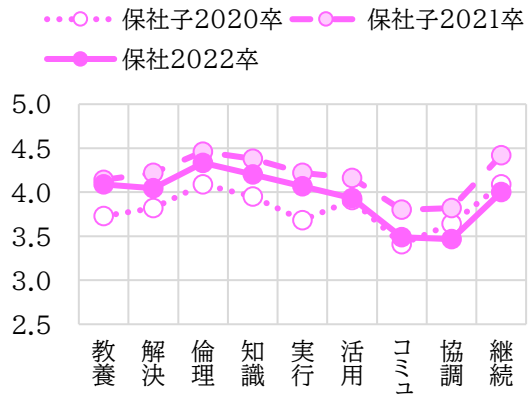
看護学科



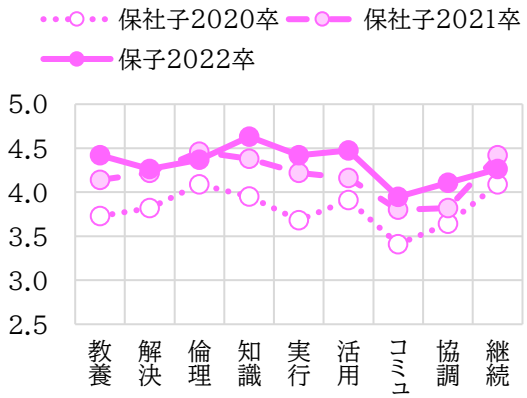
栄養学科



保健福祉学科(社会福祉学専攻)



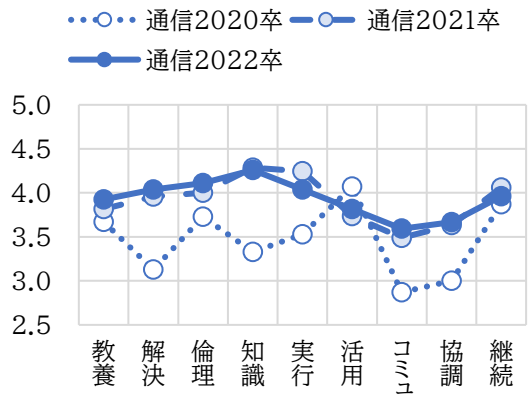
保健福祉学科(子ども学専攻)



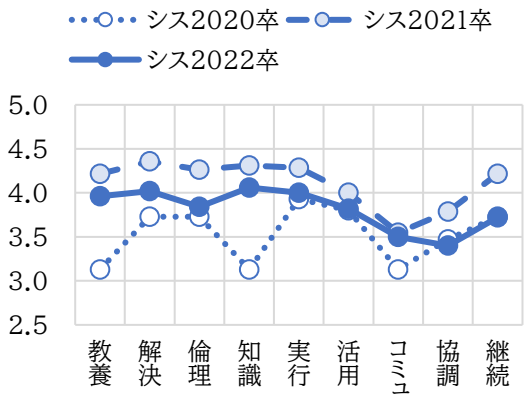
※保健福祉学科の 2021 年度以前卒業生では、専攻別の調査をしていなかったため、社会福祉学専攻と子ども学専攻のグラフでは両専攻を併せたデータを用いている。

■情報工学部

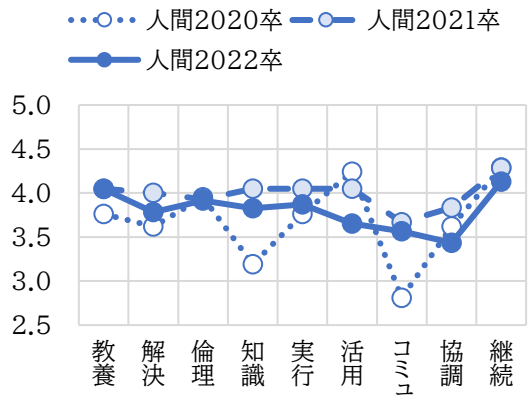
情報通信工学科



情報システム工学科

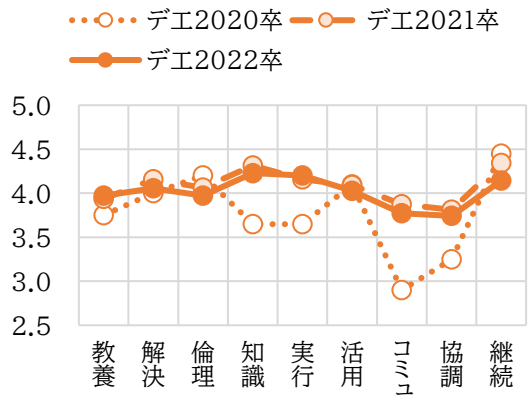


人間情報工学科

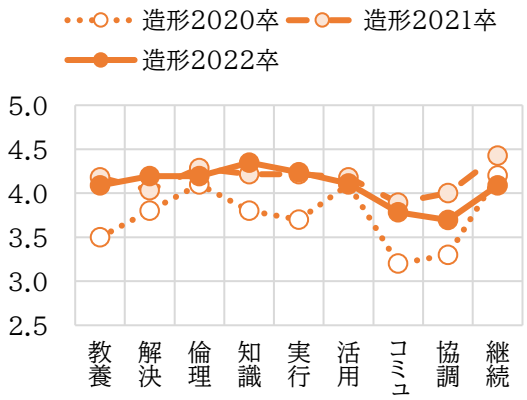


■デザイン学部

デザイン工学科



造形デザイン学科



ほとんどの学科および項目で、今年度の平均値は昨年度と同等あるいは若干の低下となった。[協調]Q20 に関する低下が、やや目に付くところとなった。共通教育科目「社会連携」カテゴリーに関する評価の低下と併せ、多様な他者と協調して行動する力の習得に対する自己評価を改善するための工夫が求められる。これは、2021 年度に実施された文部科学省「全国学生調査(第 2

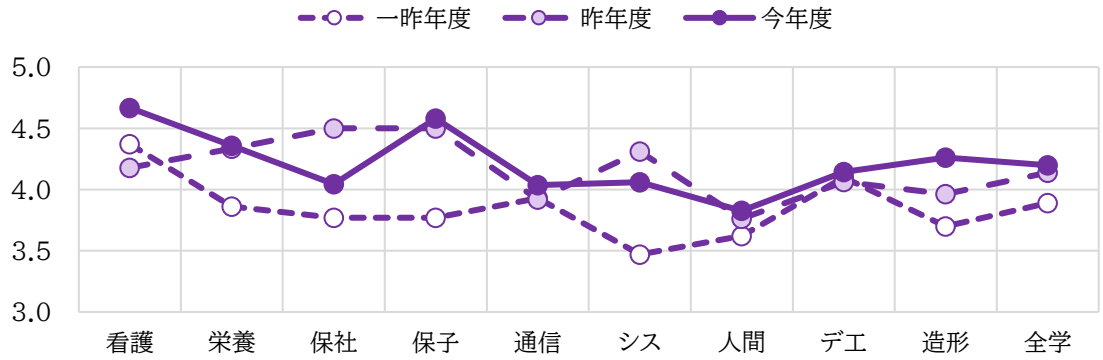
回試行）」の結果におけるキャリア教育に対する学生の自己評価の低さとも関係付けられるものと考えられる（付録 P および第 2 部第 1 章 2-3 節「教育評価部門」を参照）。

全学共通のディプロマ・ポリシーに関係する設問群Ⅳ（Q13〈Q1〉～Q21〈Q9〉）については、法人評価を担当する県評価委員会委員からの助言もあり、今年度から、従前の 4 年次生のみでなく、すべての学生を対象にアンケート調査を行った。

付録Ｆに示す結果より、肯定的回答割合の年次推移として、1 年次生ではやや高く、2 年次生、3 年次生で減少し、4 年次生で大きく増加している学科・設問が多いことが分かる。年次が進むにしたがって、学習の到達点を正しく認識することとなり、目標に向かって学修成果を積み上げている状況を示唆しているものと考えられる。4 年次生（卒業生）では、設問および学科によって差異はあるものの、6 割～8 割が肯定的に回答している。これより、卒業時においては、全学ディプロマ・ポリシーは概ね達成されていると考えられる。

［C］本学の教育に対する満足度

卒業時アンケートの最後の設問では、本学の教育に対する満足度を尋ねている。肯定的回答（5 点、4 点）、ニュートラル（3 点）、否定的（2 点、1 点）として、最近 3 年間のデータより学科別平均値および全学平均値を計算した。全学科とも一昨年度よりは高く、学科毎の差異はあるものの、昨年度と概ね同等の結果となった。



5-1-2 研究科修了時アンケート

この項目では、本学研究科の掲げるディプロマ・ポリシーへの達成度、在学中の成長を、（博士課程・修士課程）修了生へのアンケート調査を通して確認することとしている。本大学院の学位授与の方針が定められたのは 2021 年度入学生、すなわち 2022 年度修了生からであり、次のように定められている。

■博士前期・修士課程

A.【高度な専門性に立脚した研究能力】

高度な専門的知識・技能と情報収集能力、ならびにそれらを活用して理論的に思考し専門分野の課題を解決する研究能力と研究成果の発信能力を身に付けている。

B.【ヒューマンスキル】

物事を俯瞰する普遍的な視野の立場に立ち、社会の変化に柔軟に対応できる未来型思考力とコミュニケーション能力を有し、多様な他者との協働のもと、主体的に行動する態度・意欲を身に付けている。

■博士後期課程

A.【高度の専門性と自立した研究遂行能力】

専攻分野の高度な専門性と研究倫理を遵守する精神に基づいて、学問体系の確立と発展に寄与する研究を自立して展開し、成果を得る能力を身に付けている。

B.【グローバルな情報発信能力】

自ら得た研究成果を国際社会に発信できるグローバルな情報発信能力を身に付けている。

大学院修了生に対するアンケート結果の詳細については、付録 G「研究科修了時アンケートおよび在学生 DP 達成度アンケート」を参照されたい。

2022 年度博士前期・修士課程修了生に対する設問 Q3～Q7（身に付けることができたと思う研究能力）、Q10～Q14（身に付けることができたと思うヒューマンスキル）、Q15～Q18（教育全般）の回答（5 段階評価）に対する平均値（昨年度および一昨年度との比較）を、肯定的回答（5 点、4 点）、ニュートラル（3 点）、否定的（2 点、1 点）として、最近 3 年間のデータより計算する。

●専門性

［意欲］ Q3. 自らの専門分野の研究に意欲的に取り組む力が身に付きましたか。

［知識］ Q4. 専門分野の知識や技能が身に付きましたか。

［倫理］ Q5. 研究倫理を遵守する習慣が身に付きましたか。

［解決］ Q6. 自ら収集した専門分野の情報を活用し、理論的に考え、課題を解決する力が身に付きましたか。

［自立］ Q7. 専門分野の発展に寄与する研究課題を自立的に考案・促進させて、成果を得る力が身に付きましたか。

▲ヒューマンスキル

［客観］ Q10. 自分の主観的な立場を離れ、物事を客観的・普遍的に考える力が身に付きましたか。

［社会］ Q11. 地域の問題と国際社会の問題の双方に対応して考える力が身に付きましたか。

［未来］ Q12. 現在解決すべき課題を、来たるべき社会を構想しながら考える力が身に付きましたか。

［協調］ Q13. 世代、言語、文化の相違をこえてコミュニケーションを図り、他者と協働する力が身に付きましたか。

［行動］ Q14. 自ら進んで論理的に判断し、提案し、率先して行動する力が身に付きましたか。

■総合評価

［教養］ Q15. 本大学院での学修で、高度な教養が身に付きましたか[9]。

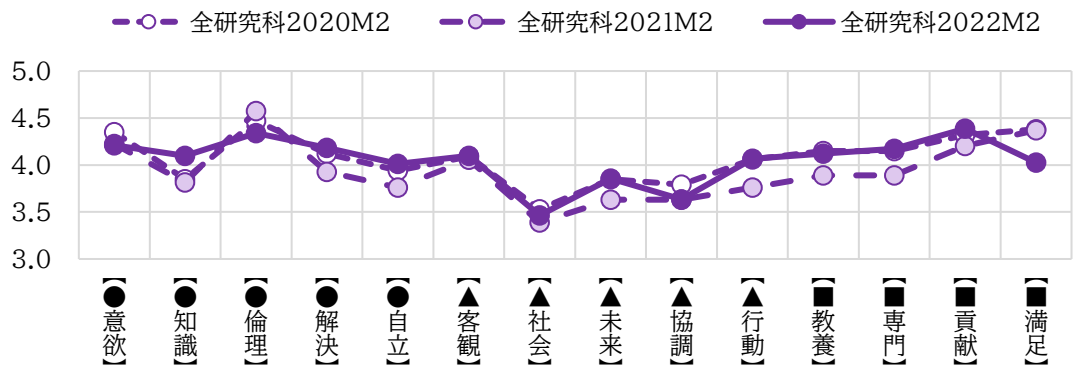
［専門］ Q16. 本大学院での学修で、高い専門性が身に付きましたか。

［貢献］ Q17. 本大学院での学修は、今後の仕事（進学先または就職先）で役立つと思いますか。

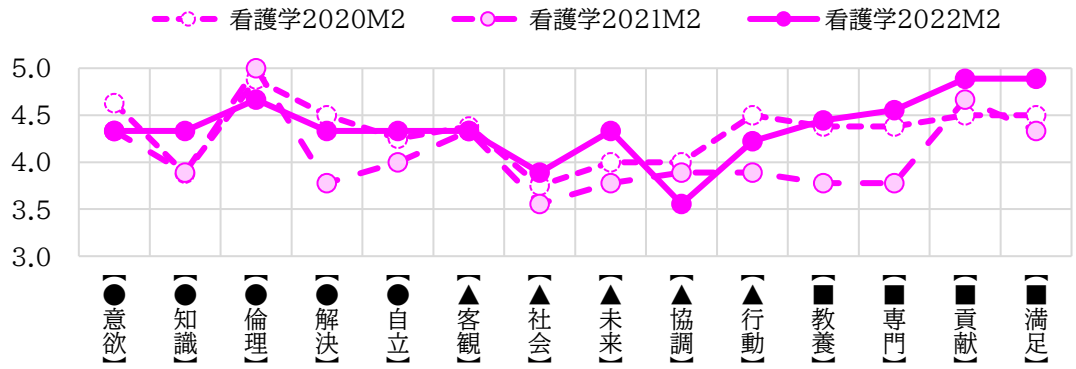
［満足］ Q18. 全般的に本学大学院の教育には満足しましたか。

結果を以下に示す。なお、横軸は、上記 Q3～Q7、Q10～Q18 左側に記された［ ］内の略称を用いている。

■全研究科 M2（2020：n=34、2021：n=49、2022：n=70）

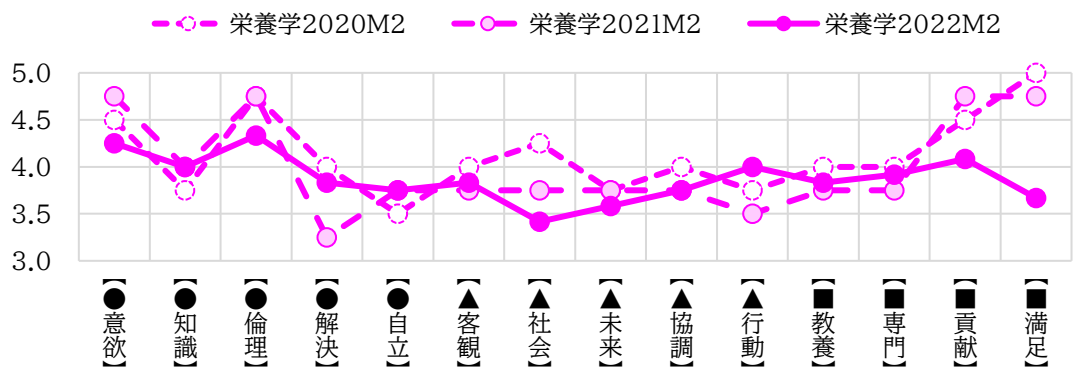


■看護学専攻 M2（2020：n=8、2021：n=9、2022：n=9）

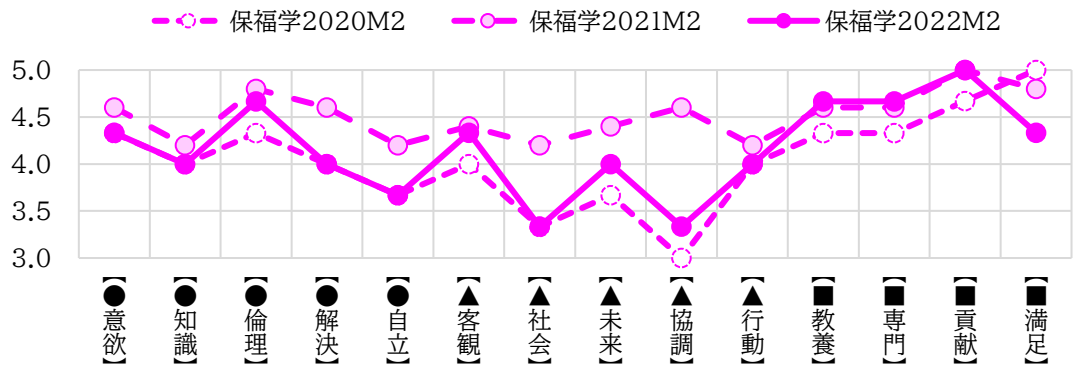


[9] 昨年度（2021 年度）までの設問では教養と専門性がまとめられており、「本大学院での学修で、高い専門性と高度の教養が身につきましたか」となっていた。このため、グラフでは「教養」「専門」の平均は同じ値とした。

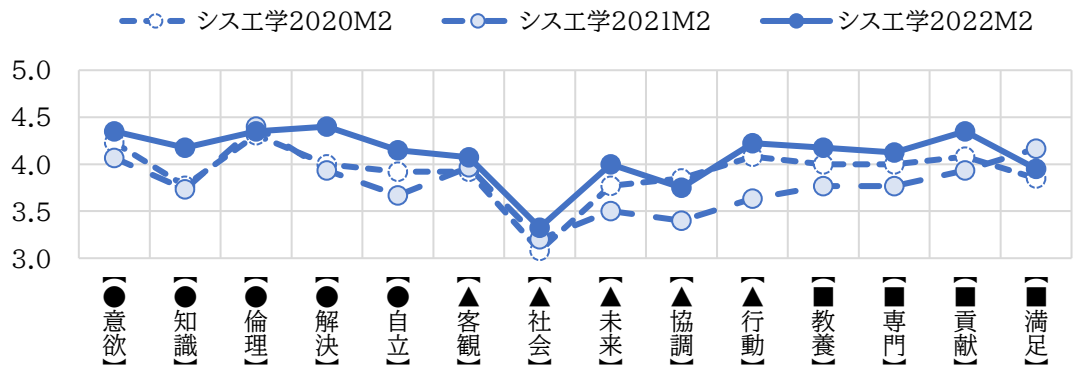
■栄養学専攻 M2（2020：n=4、2021：n=4、2022：n=3）



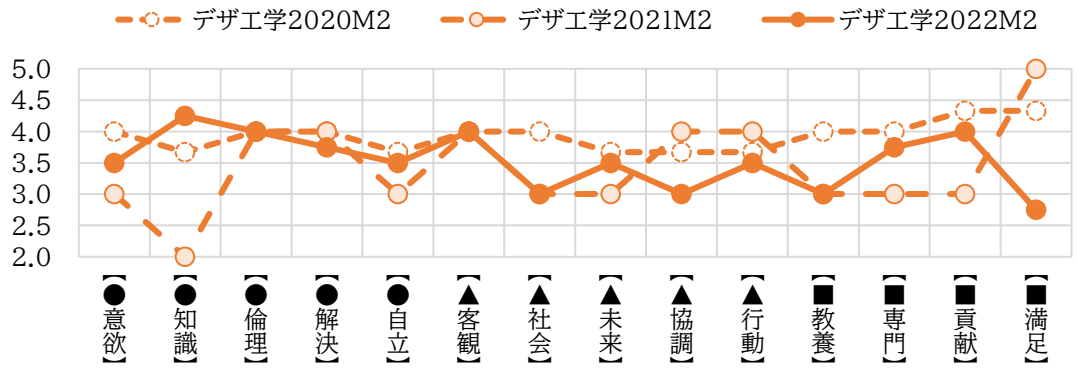
■保健福祉学専攻 M2（2020：n=3、2021：n=5、2022：n=3）



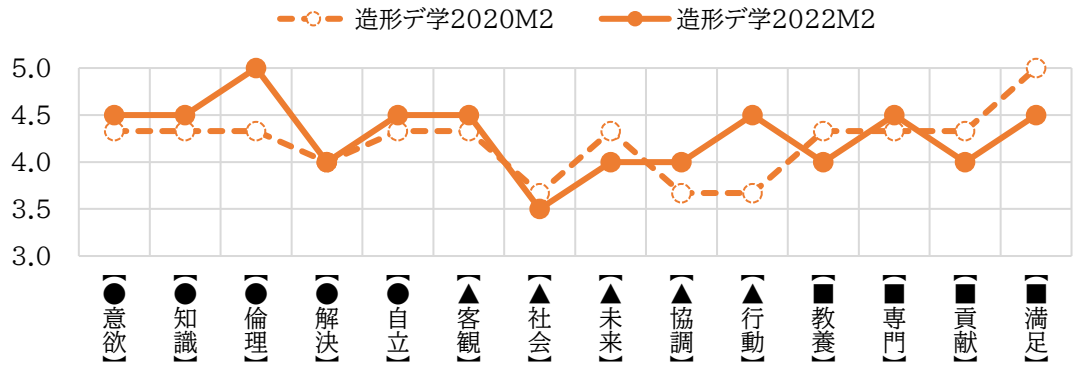
■システム工学専攻 M2（2020：n=13、2021：n=30、2022：n=40）



■デザイン工学専攻 M2（2020：n=3、2021：n=1、2022：n=2）



■造形デザイン学専攻 M2（2020：n=3、2021：n=0、2022：n=2）



情報系工学研究科システム工学専攻 M2 以外については、専攻あるいは年度によって回答者数が少なく、必ずしも有用な結果ではないことに留意したい。

ヒューマンスキルに関する設問 Q10「客観」、Q11「社会」、Q12「未来」、Q13「協調」、Q14「行動」に対する回答平均値が、若干ではあるが低調に見える。これらの項目は、大学院博士前期課程・修士課程における教養系の重点化を含み、2021 年度から大学院博士前期課程・修士課程に新設された副専攻「吉備の杜プロデューサー課程」に密接に関連する内容である。今年度の博士前期・修士課程修了者は、初めての副専攻「吉備の杜プロデューサー課程」履修者を含んでいる。

5-1-3 文部科学省「全国学生調査（第 2 回試行実施）」

アセスメント・プランには含まれていないが、2021 年度に文部科学省が実施した「全国学生調査（第 2 回試行実施）」[10]に参加し（調査実施期間 2022 年 1 月 31 日～2 月 28 日）、2021 年度の 2 年次生および 4 年次生が回答をした。集計結果は、付録 P「文部科学省「全国学生調査

[10] 文部科学省，令和 3 年度「全国学生調査（第 2 回試行実施）」の結果について，https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/chousa/1421136.htm （2023 年 3 月 24 日閲覧）

（第 2 回試行実施）」」を参照されたい。これを受け、評価委員会において自己分析を実施した結果、次の 4 点を指摘し、3 点に関して次年度以降の改善方針として大学運営委員会で決定した。

はじめに、各学部 4 年次において、大学入学後以降の学修成果に関する問 3 では、Q27（専門知識・理解）、Q28（将来の仕事に繋がる知識・技能）、Q29（文献収集・分析力）、Q33（データサイエンス知識・技能）、Q34（問題発見・解決力）、Q35（自分で考える力）、Q36（他者との協働力）などに対する肯定的回答割合は、全国 4 年次と同等レベルあるいはそれ以上となっており、本学の学士課程教育は概ね順調と考えられる。

次に、情報工学部 2 年次では、全体的に肯定的回答が低調である。特に、Q11（グループワーク）、Q12（教員との質疑応答）、Q15（大学での学習法）、Q16（少人数教育）、Q17（授業時間外での教員との関わり）などの結果より、「フレッシュマンセミナー」など初年次教育に工夫が望まれる。これに対して、次の改善方針を決定した。

改善方針 情報工学部において、共通教育部と連携の上、「フレッシュマンセミナー」など初年次教育の充実、アドバイザー面談の利活用など、1 年次生に対する学習支援の方策を検討する。

この方針に基づき、情報工学部では、2023 年度から導入されるスチューデント・アシスタント（SA）を活用し、1 年次前期に必修科目として開講される「フレッシュマンセミナー」で、新入生と高年次学生とのグループワークなど、今まで以上に少人数教育に力を入れることとなった。

第 3 点として、各学部 2 年次において、Q19（キャリア教育）、Q28（将来の仕事に繋がる知識・技能）、Q45（社会に対する理解）などの肯定的回答割合は、全国 2 年次レベルより低調であり、学生に自己のキャリアを意識させる教育（キャリア教育）の低年次からの導入あるいは充実が望まれる。この点に関する改善方針を次のように定めた。

改善方針 共通教育部は各学部と連携して、キャリアデザインに関する講義・演習科目の立ち上げを検討する。

最後に、Q32（外国語を使う力）の否定的回答割合は、前回（2019 年度全国学生調査に準じた 3 年次対象の本学独自調査の結果）より減少傾向にはあるが、各学部 2 年次における Q38（異文化理解）に対する肯定的回答割合の低調さも加味すると、共通教育科目・語学国際カテゴリーの充実が引き続き望まれるとともに、学部教育における語学力、異文化理解の必要性を涵養する仕組みの構築が望まれる。

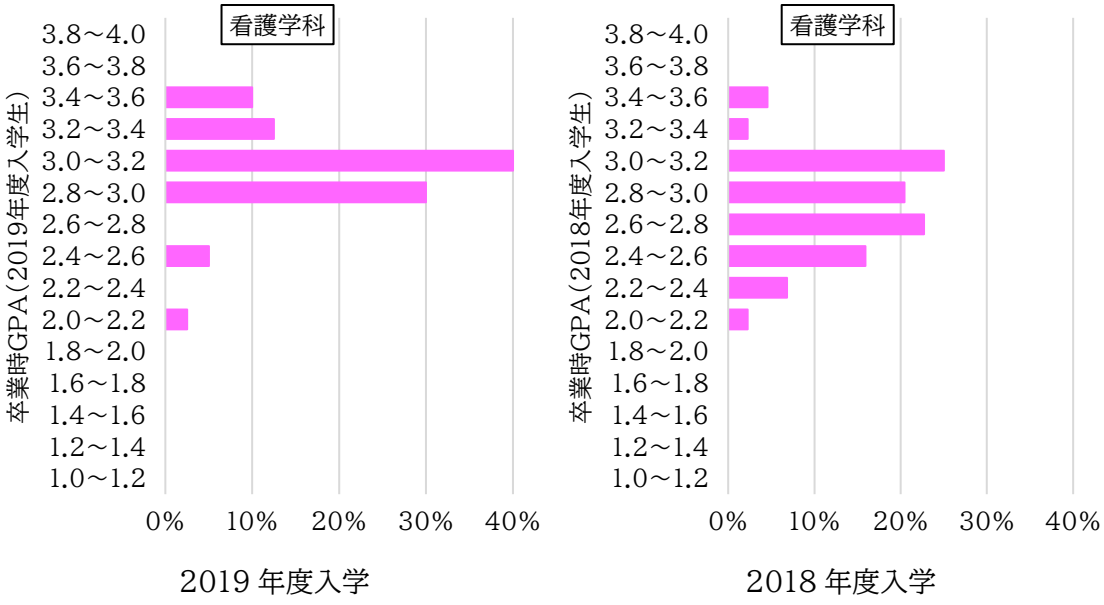
改善方針 共通教育部と各学部が連携し、語学教育、異文化理解教育の充実に向けた方策を、オンライン、ICT 機器の利用を含め検討する。

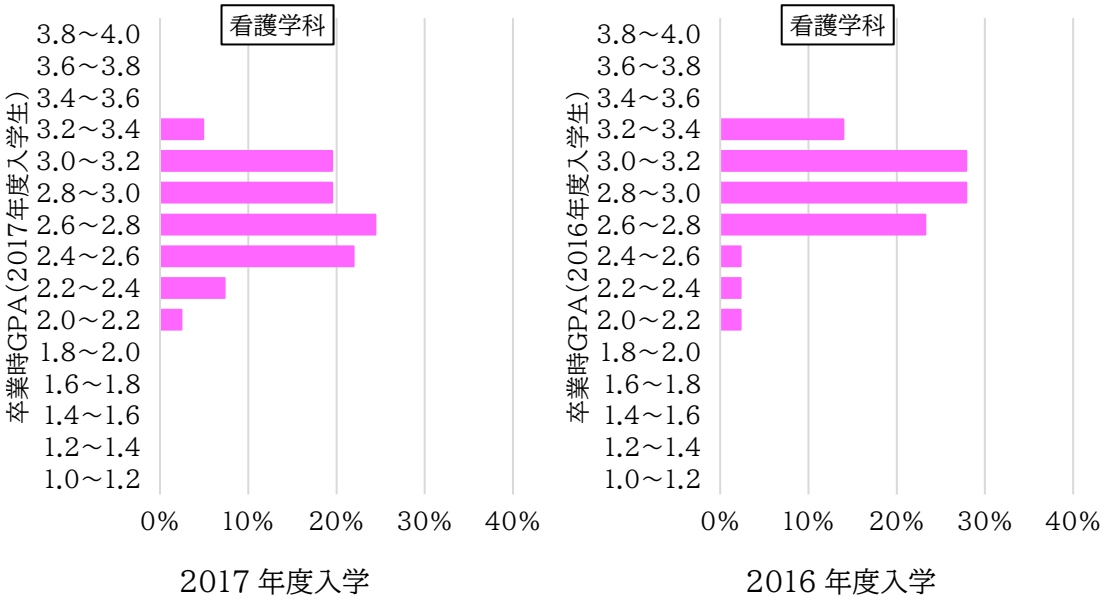
5-2 教育課程レベル

5-2-1 卒業時の累積 GPA

この項目では、(学士課程)卒業生の最終累積 GPA[11]が、ディプロマ・ポリシーを達成していると判断できる適切な分布となっているかを確認することとしている。

■看護学科

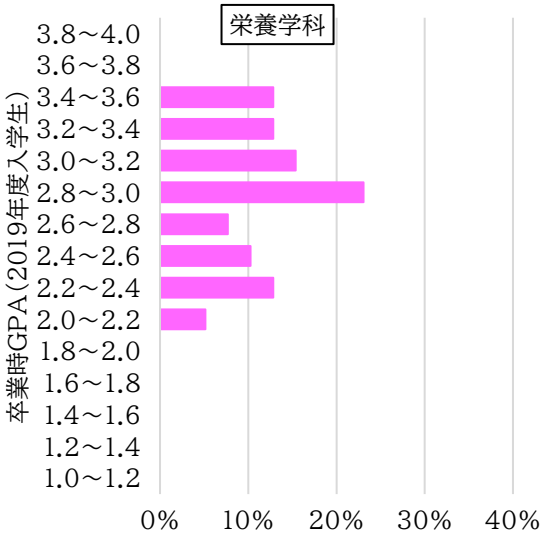




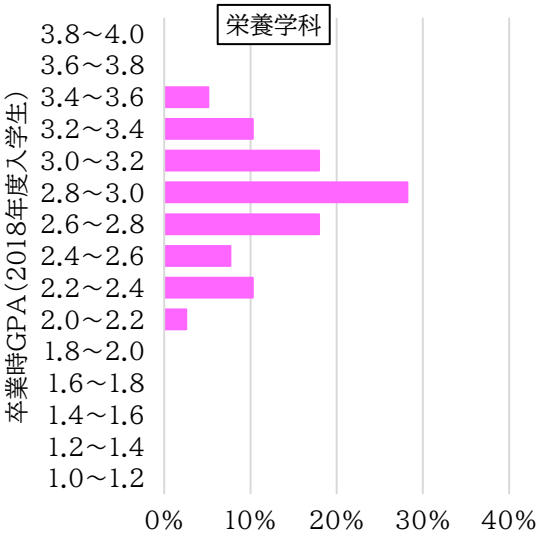
[11] 最終累積 GPA は、自由科目と D 評価(不合格)の授業科目を含まず、次式で計算される。

$$\text{最終累積GPA} = \frac{(\text{全学期の, Sの単位数}\times 4 + \text{Aの単位数}\times 3 + \text{Bの単位数}\times 2 + \text{Cの単位数}\times 1)}{\text{全学期(入学後の総履修期間)の総履修登録単位数}}$$

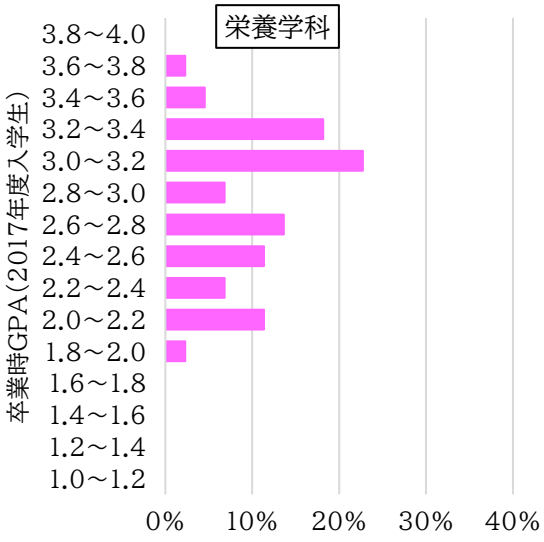
■栄養学科



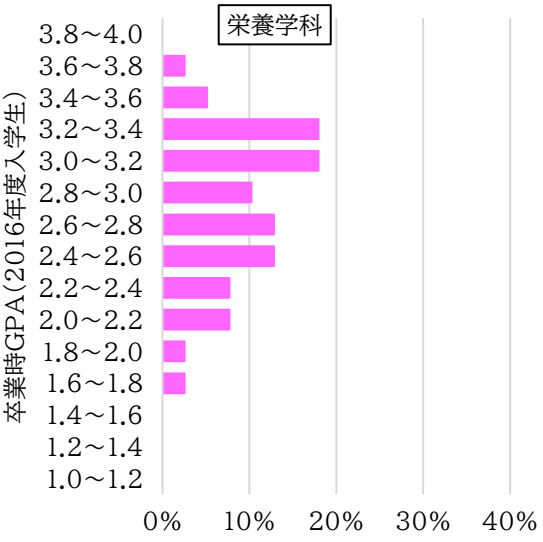
2019 年度入学



2018 年度入学

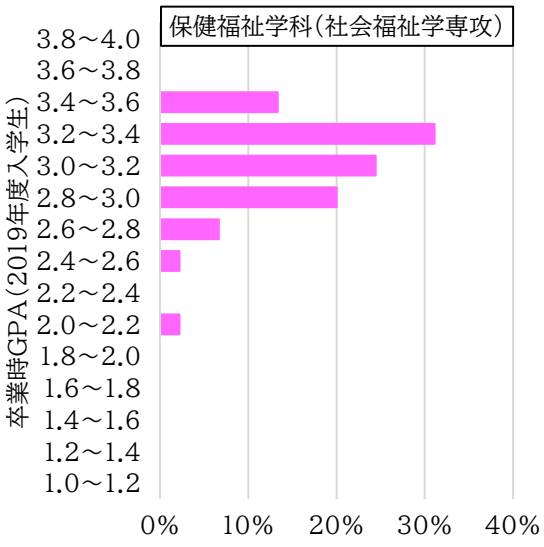


2017 年度入学

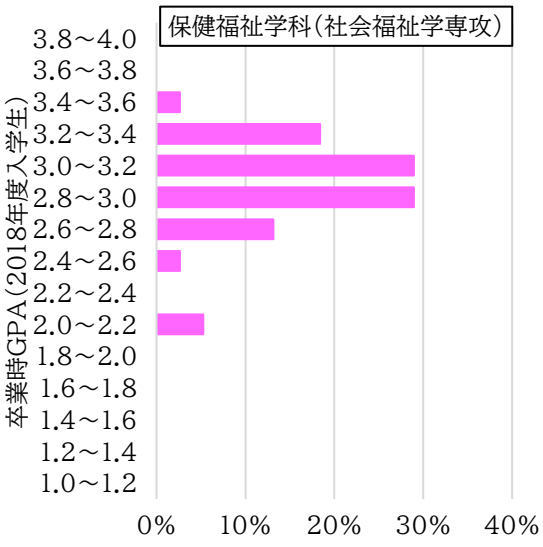


2016 年度入学

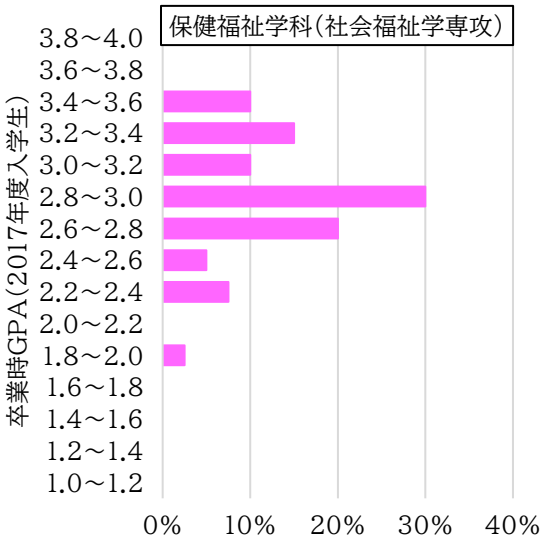
■保健福祉学科(社会福祉学専攻)



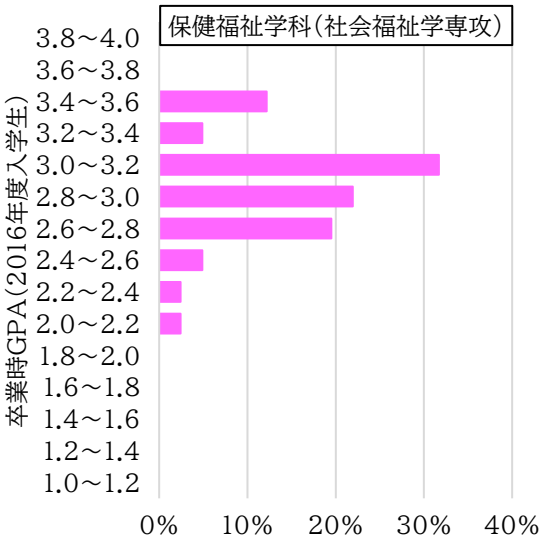
2019 年度入学



2018 年度入学

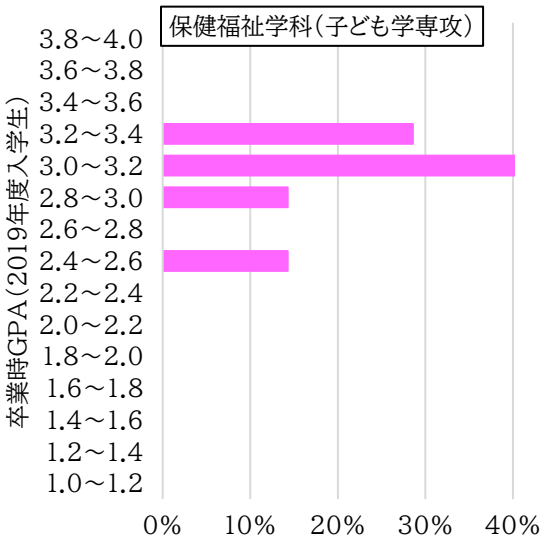


2017 年度入学

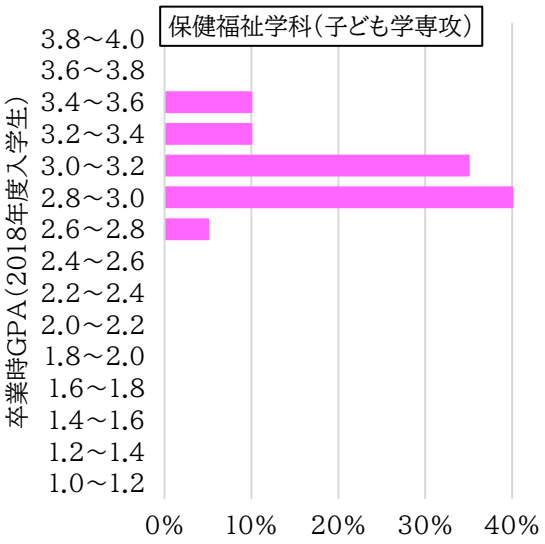


2016 年度入学

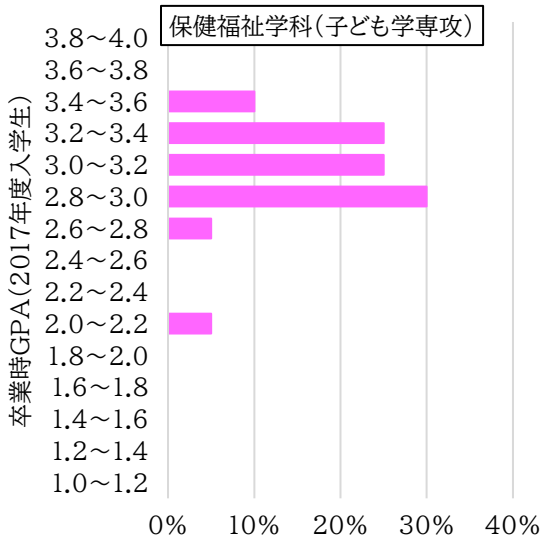
■保健福祉学科（子ども学専攻）



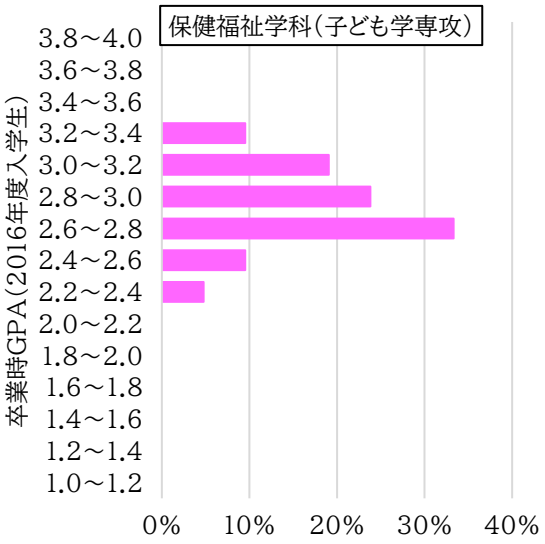
2019 年度入学



2018 年度入学

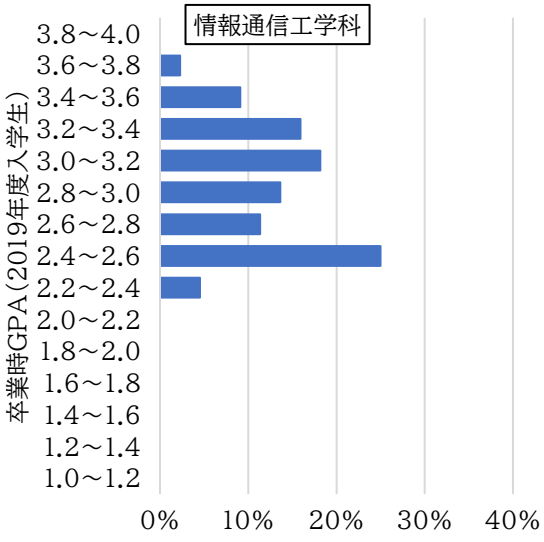


2017 年度入学

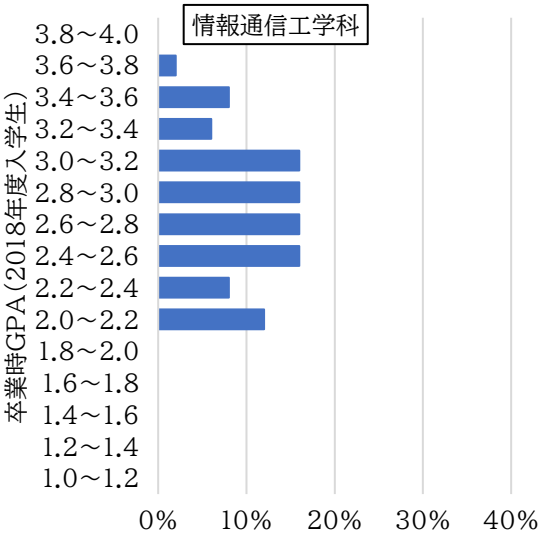


2016 年度入学

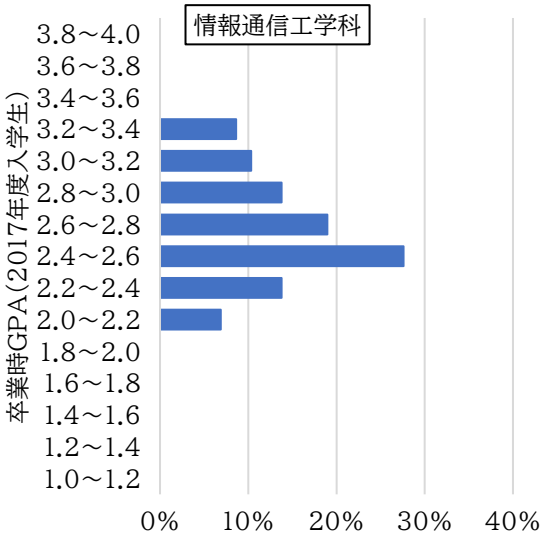
■情報通信工学科



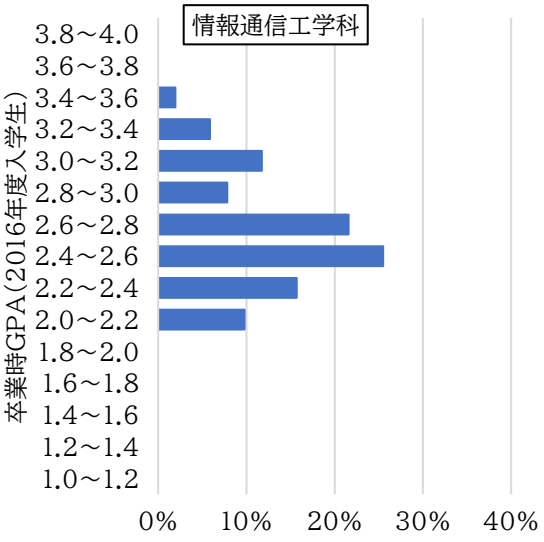
2019 年度入学



2018 年度入学

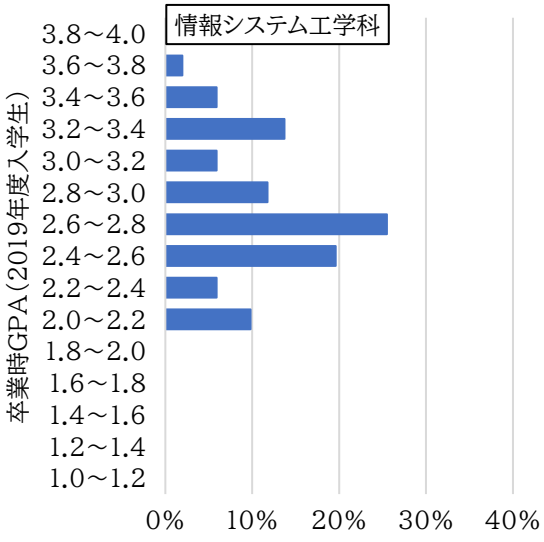


2017 年度入学

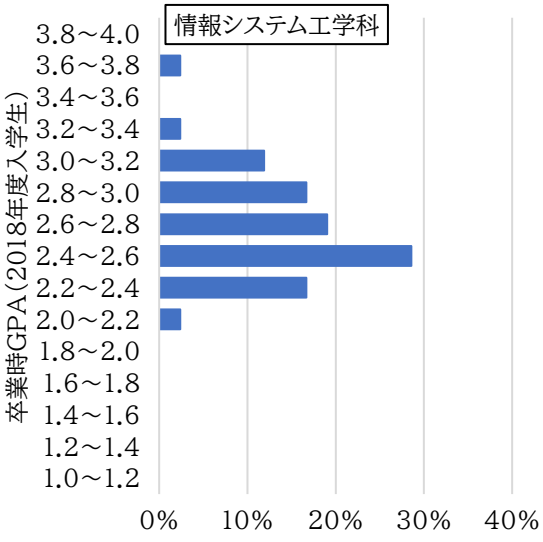


2016 年度入学

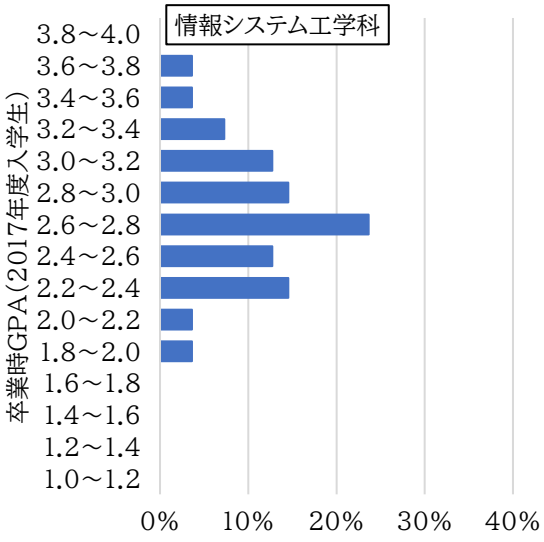
■情報システム工学科



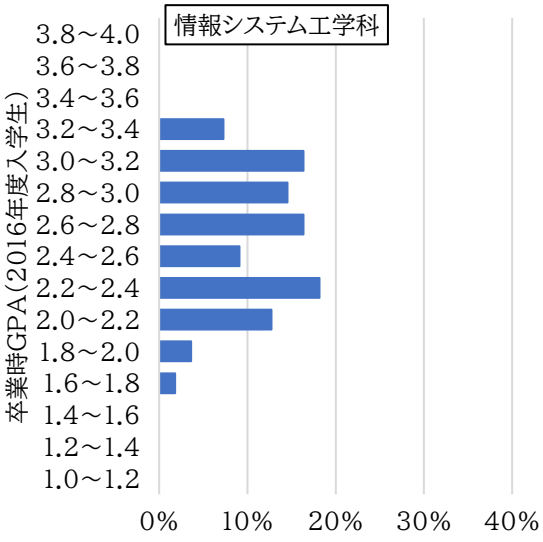
2019 年度入学



2018 年度入学

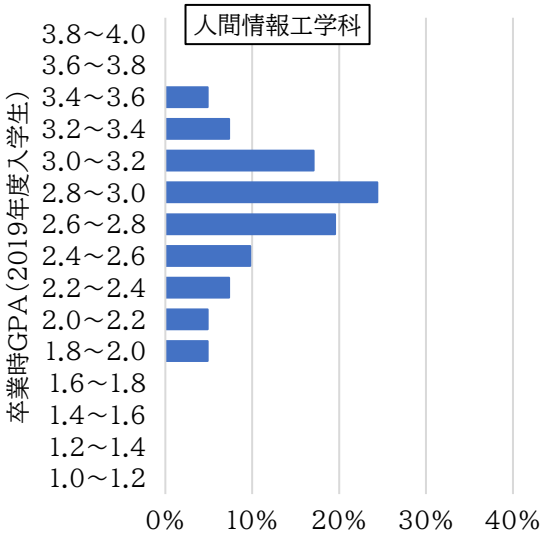


2017 年度入学

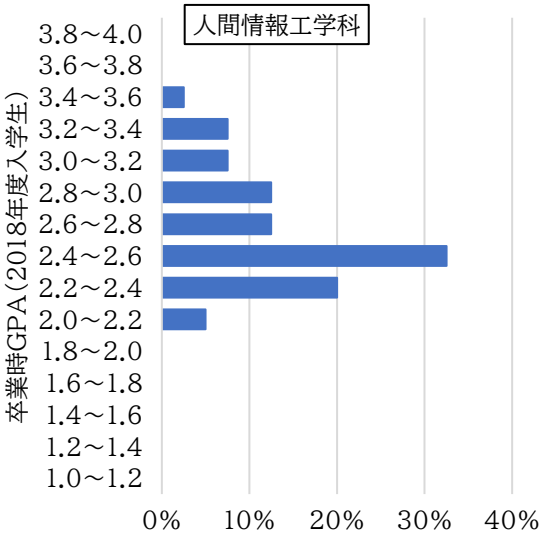


2016 年度入学

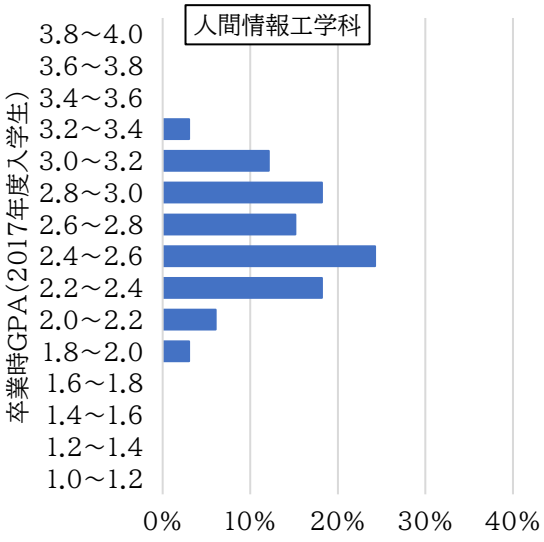
■人間情報工学科



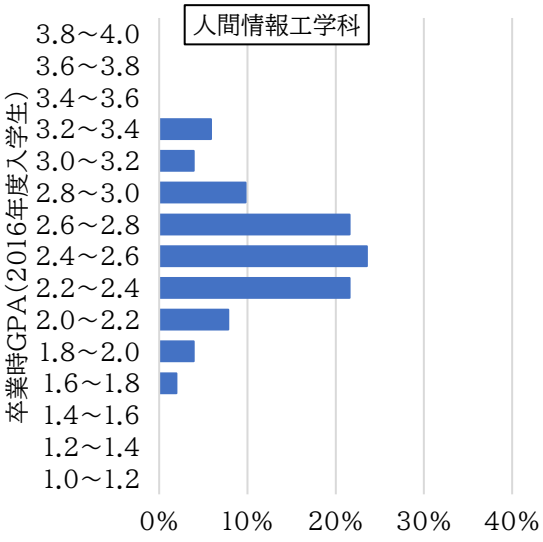
2019 年度入学



2018 年度入学

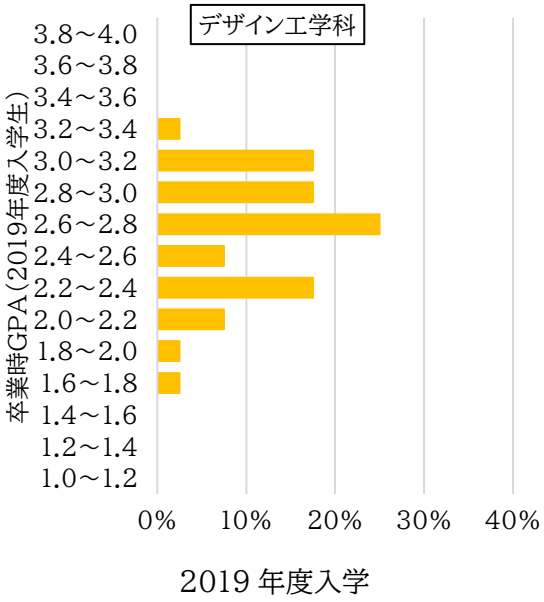


2017 年度入学

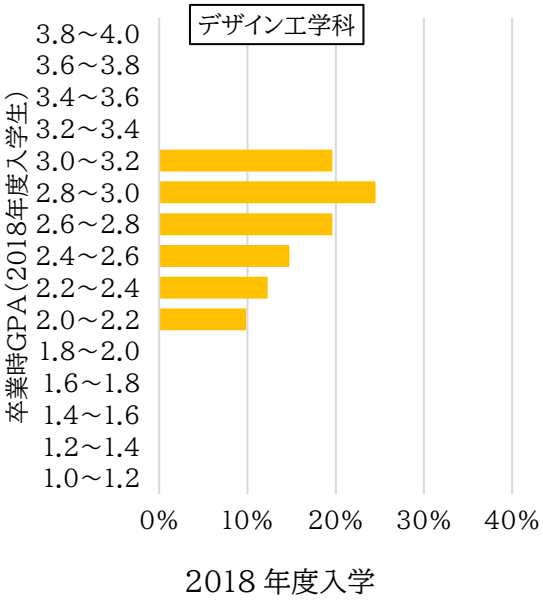


2016 年度入学

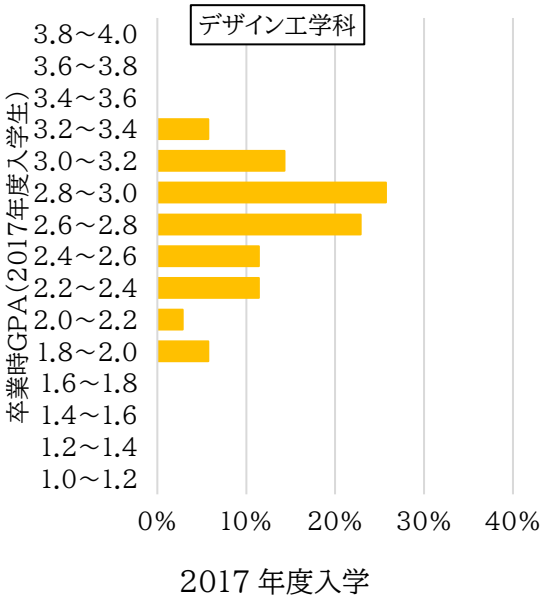
■デザイン工学科



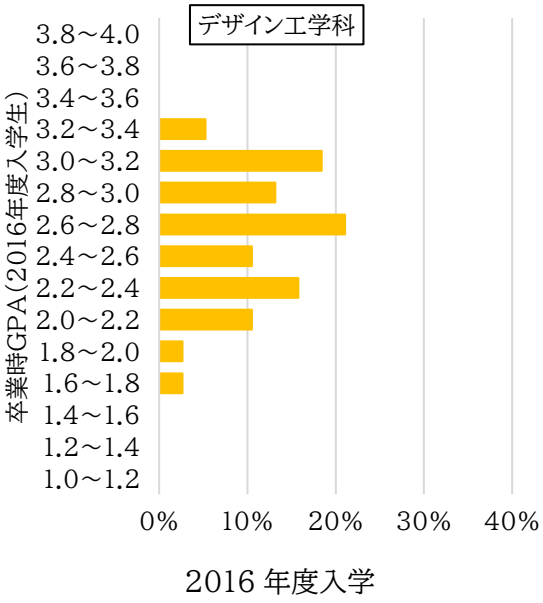
2019 年度入学



2018 年度入学

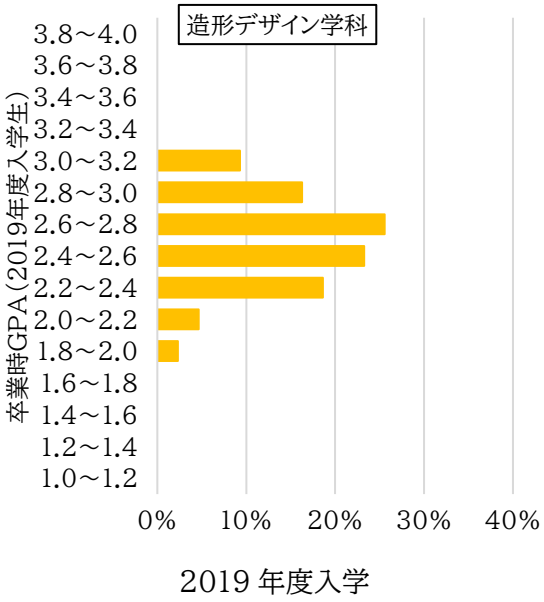


2017 年度入学

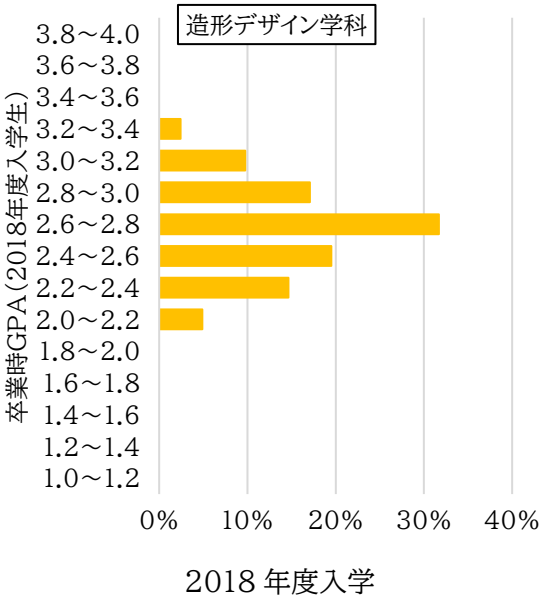


2016 年度入学

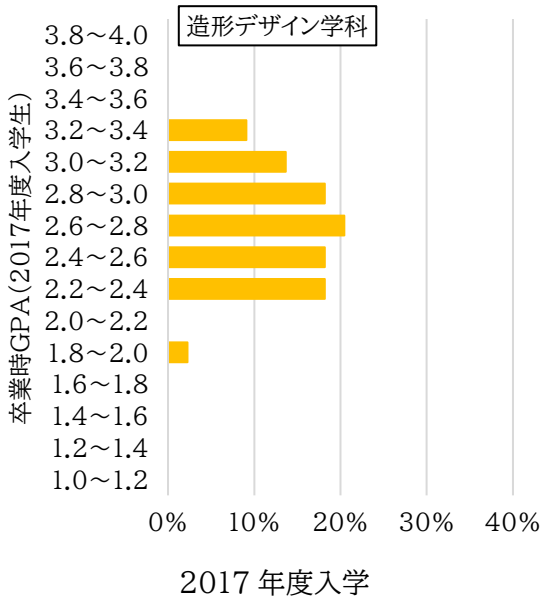
■造形デザイン学科



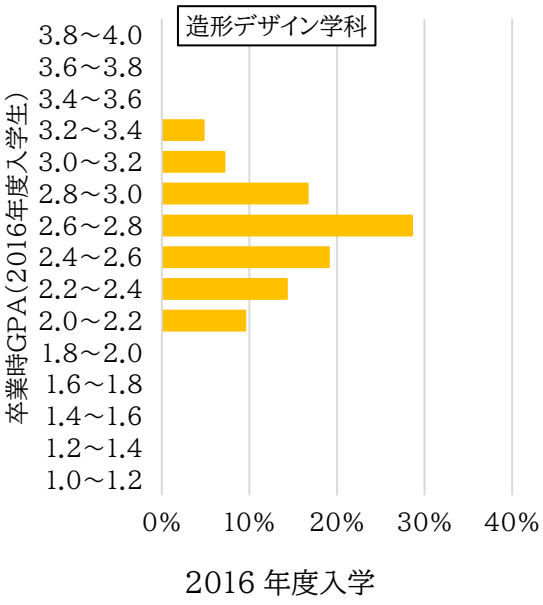
2019 年度入学



2018 年度入学



2017 年度入学



2016 年度入学

若干名を除き、最終累積 GPA は 2.0 以上であり、平均として標準的な水準以上で授業科目を合格している。保健福祉学部では 3 点台前半にボリューム層があり、情報工学部およびデザイン学部のボリューム層は 2 点台後半から 3 点前後となっている。各学科とも、入学年度による差異は見られるものの、大きな年次変化は見られない。

5-2-2 卒業時アンケート(学科ディプロマ・ポリシーの達成度と CS 分析[12])

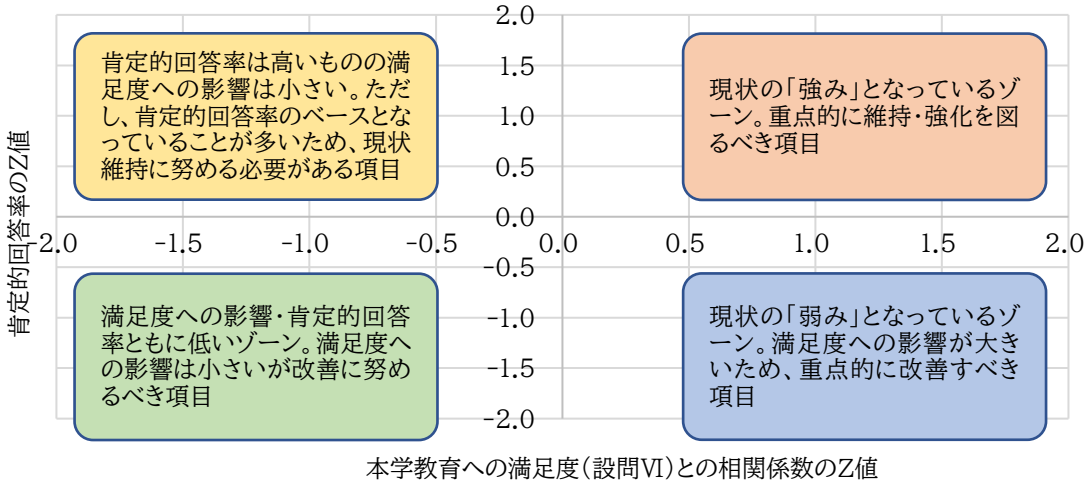
この項目では、(学士課程)卒業生がディプロマ・ポリシーを達成していると実感しているかを、卒業生へのアンケート調査により確認することとしている。今年度から、各学科のディプロマ・ポリシーに対する達成度に関する設問を新設した。さらに、2022 年度からは、4 年次生に対する全学および各学科のディプロマ・ポリシーに対する達成度に関する設問を利用して、1 年次生から 3 年次生に対しても達成度調査のためのアンケートを実施した。アンケート結果の詳細については、付録 F「学部卒業時アンケートおよび学科 DP 達成度アンケート」を参照されたい。

4 年次生に対する設問Ⅴ(本学の教育に対する満足度)の結果と、各学科のディプロマ・ポリシーに関する設問(Q13 および Q23～Q29 または Q30)の結果との関係に基づき、各学科で 8～9 個の項目で構成されるディプロマ・ポリシーの中で改善が求められる項目を抽出するため、CS (Customer Satisfaction)分析により評価する。

はじめに、設問Ⅴ(満足度)と個々のディプロマ・ポリシー項目の回答より、学生が重視しているディプロマ・ポリシー項目を抽出するために相関係数のＺ値(通常は相関係数の偏差値)を横軸、学生の評価が高いディプロマ・ポリシー項目を抽出するために各項目の肯定的回答割合の Ｚ 値(通常は項目ごとの満足度の偏差値)を縦軸とする散布図を、学科ごとに作成する。これより、

横軸より　「設問Ⅴ(満足度)との相関が高い」 → 「改善による満足度への影響が大きい」
縦軸より　「肯定的回答率が低い」 → 「改善の余地がある」

関係を得ることができる。散布図の各象限にプロットされたディプロマ・ポリシー項目に対し、



第一象限　現状の「強み」となっているゾーン。重点的に維持・強化を図るべき項目

[12] 宮城県農業・園芸総合研究所 情報経営部 情報チーム, “満足度調査(CS 分析)”, 農産物マーケティング活動の手引き②, pp.Ⅵ-55～Ⅵ-66, 2014 年 3 月 https://www.pref.miyagi.jp/documents/20321/617765.pdf (2023 年 5 月 6 日閲覧)

第二象限　肯定的回答率は高いが、本学教育に対する満足度への影響は比較的小さい。ただし、肯定的回答率のベースとなっていることが多いため、現状維持に努める必要がある項目

第三象限　本学教育に対する満足度への影響および肯定的回答率ともに低いゾーン。満足度への影響は小さいが改善に努めるべき項目。

第四象限　現状の「弱み」となっているゾーン。本学境域に対する満足度への影響が大きいため、重点的に改善すべき項目。

と評価することができる。なお、肯定的回答率が低い能力に対しては、

(1) 学生は、その能力を伸ばしたいと考えているが、カリキュラム（ディプロマ・ポリシーを支える授業科目の構成あるいは個々の授業科目の内容など）が十分に応えらえられていない場合（特に、第四象限にある能力）

(2) 学生が、その能力の重要性を十分に理解できていないままに、カリキュラムのみが先行してしまっている場合（特に、第三象限にある能力）

などが考えられる。このため、肯定的回答が少なくなっている原因が、上記(1)または(2)のどちらであるのか、あるいは両方かなどを、さらに分析する必要があると考えられる。

以下では、各学科のディプロマ・ポリシー（2020 年度以前入学生対象）を示すとともに、散布図を提示する。

■看護学科

【教養】 豊かな教養を身に付けている。

【倫理観】 看護専門職としてのアイデンティティを形成し、専門職業人の持つべき知識・価値観・倫理観を自ら継続・発展させていく能力を身に付けている。

【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】 グローバルな視点を持ち、看護の実践・教育・研究領域におけるリーダーやスペシャリストとして、必要な看護を創造するために企画や解決策を提案し、社会に貢献できる能力を身に付けている。

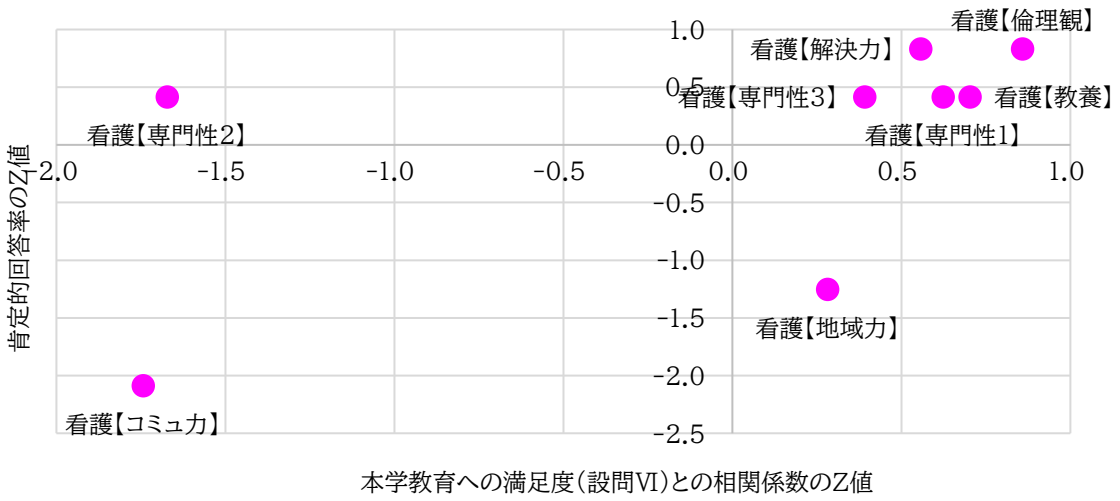
【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている。

【専門性 1】 人間理解を基盤にしたヒューマンケアリングが実践できる能力を身に付けている。

【専門性 2】 看護の専門知識・技術を用いて、人々の生涯にわたる多様な健康レベルの人々の健康課題を科学的・論理的に判断し、解決方策を提案できる能力を身に付けている。

【専門性 3】 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働できるマネジメント力、実践力を身に付けている。

【課題発見力・解決力】【生涯学習力】 自ら学び続け、将来は看護の実践・教育・研究領域において、問題解決できる力と将来にわたって自ら積み上げていく力を身に付けている。



■栄養学科

【教養】 豊かな教養を身に付けている。

【倫理観】 人間、健康、社会に関する幅広い知識と論理的な思考力および高い倫理観を身に付けている。

【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】 多様な文化や価値観を受け容れ、グローバルに活躍できる企画提案力、情報発信力を身に付けている。

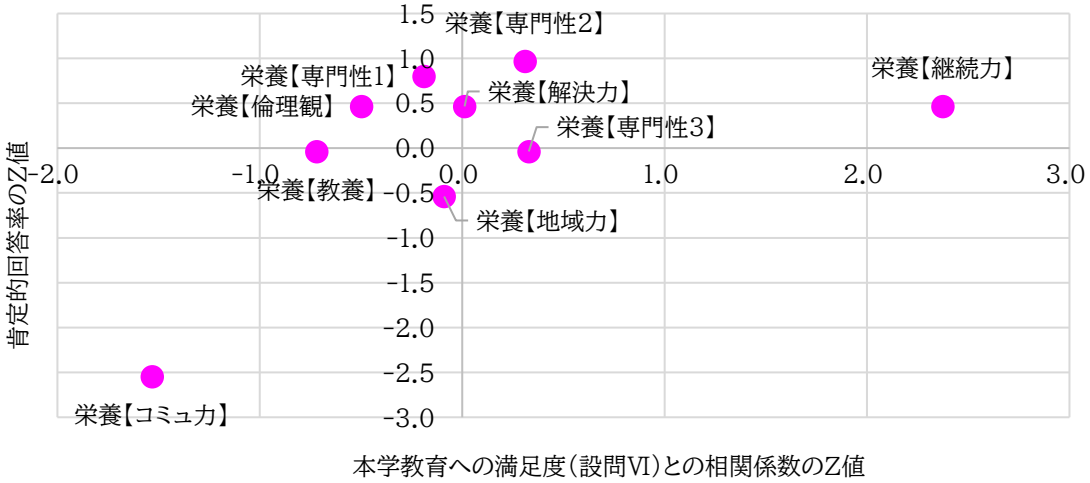
【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている。

【専門性 1】 食と健康の専門家に必要な資質として、基本的知識・技術を身に付けている。

【専門性 2】 栄養学に関する専門職業人として必要な高度な専門的応用知識・技術を発揮できる能力を身に付けている。

【専門性 3】 栄養学の総合的な学びを深め、多職種と連携・協働できるマネジメント力、実践力を身に付けている。

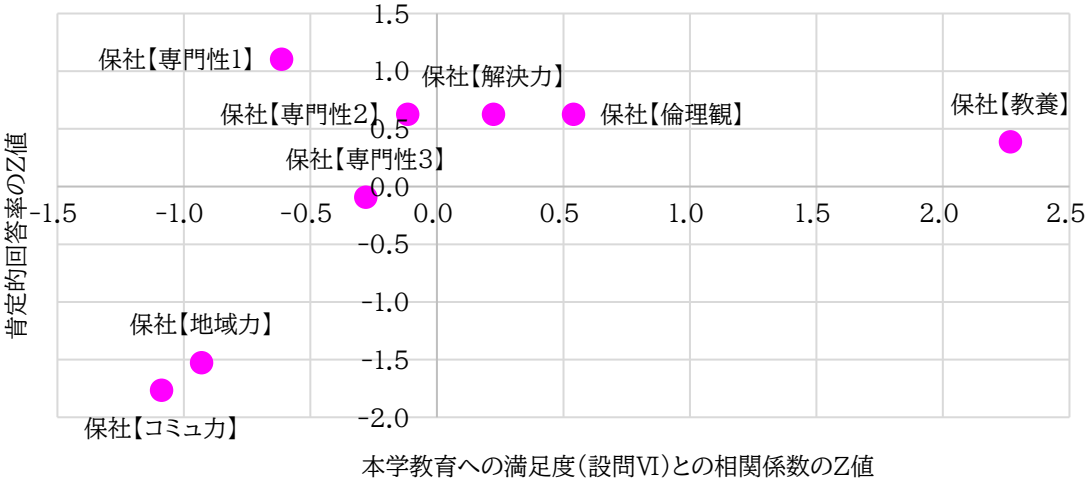
【課題発見・解決力】【生涯学習力】 専門分野における問題発見・解決能力を身に付けている。また、多様な対象者に対して、科学的思考に基づいて適切かつ高度な食・栄養支援を実践するための応用知識や技術を、将来にわたって自ら積み上げていく力を身に付けている。



※栄養学科ディプロマ・ポリシー【課題発見・解決力】【生涯学習力】を第 1 文(上記の散布図では【解決力】)と第 2 文(散布図では【継続力】)に分割して調査した。

■保健福祉学科(社会福祉学専攻)

【教養】 豊かな教養を身に付けている。
【倫理観】 人間、健康、社会に関する幅広い知識と論理的な思考力および高い倫理観を身に付けている。
【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】 多様な文化や価値観を受け容れ、グローバルに活躍できる企画提案力、情報発信力を身に付けている。
【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている。
【専門性 1】 社会福祉学と健康科学の知識・理論を身に付けている。
【専門性 2】ソーシャルワークの方法および実践的な相談援助技術を身に付けるとともに、多職種と連携できる力を身に付けている。
【専門性 3】 ケアワークの方法および実践的な生活支援技術を身に付けるとともに、多職種と連携できるマネジメント力、実践力を身に付けている。
【課題発見・解決力】【生涯学習力】 自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち、福祉や保育・教育の専門性を修得し、問題解決できる知識や技能を将来にわたって自ら積み上げていく力を身に付けている。



■保健福祉学科(子ども学専攻)

【教養】 豊かな教養を身に付けている。

【倫理観】人　間、健康、社会に関する幅広い知識と論理的な思考力および高い倫理観を身に付けている。

【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】 多様な文化や価値観を受け容れ、グローバルに活躍できる企画提案力、情報発信力を身に付けている。

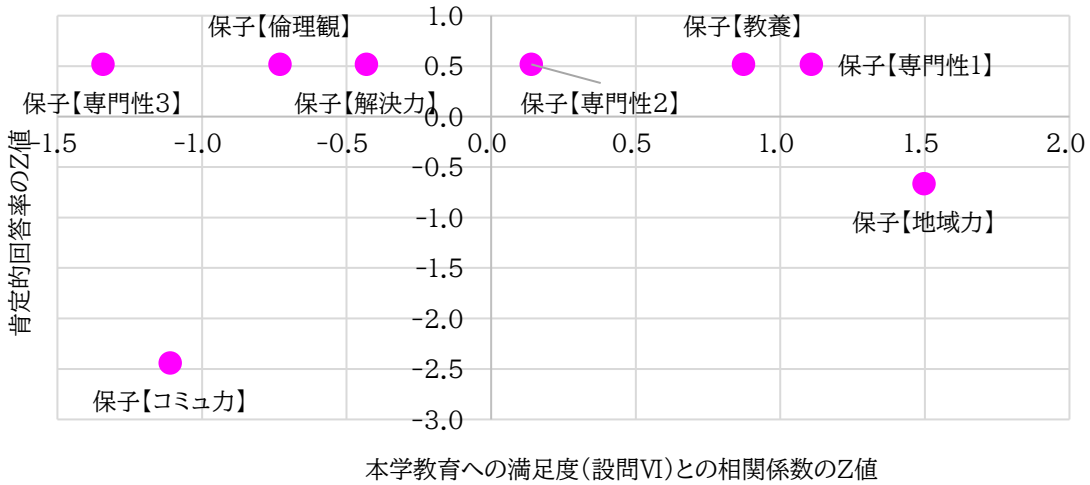
【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている。

【専門性 1】 教育学と発達科学の知識・理論を身に付けている。

【専門性 2】 子どもに対して実践的な保育および教育の指導や支援ができる力を身に付けている。

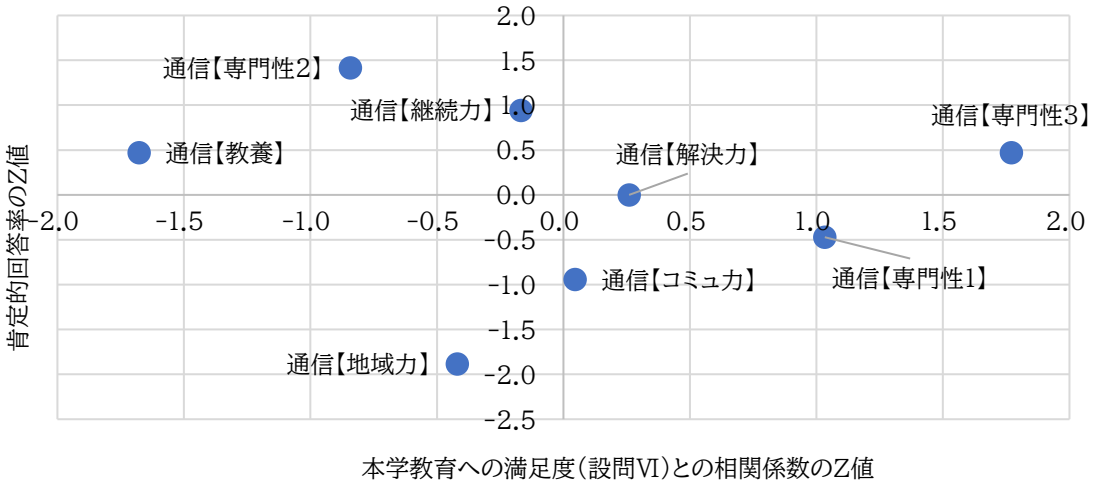
【専門性 3】 子どもの育ちと学びを家庭や地域との関係の中で捉える力を身に付けている。

【課題発見・解決力】【生涯学習力】 自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち、福祉や保育・教育の専門性を修得し、問題解決できる知識や技能を将来にわたって自ら積み上げていく力を身に付けている。



■情報通信工学科

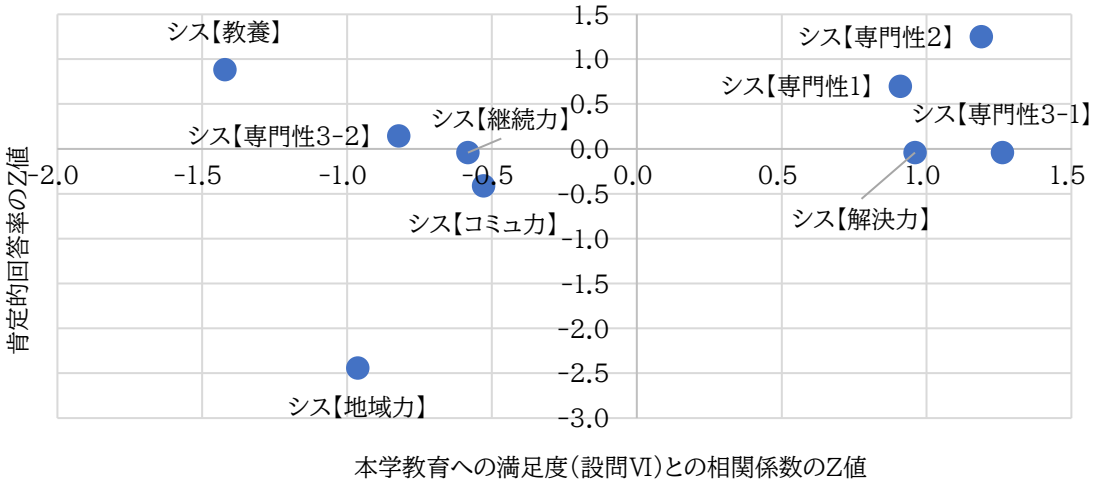
【教養・多面的思考力】 幅広く豊かな教養と多面的な思考力を身に付けている。
【異文化理解・コミュニケーション力】 論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術英文の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点から多面的に物事を捉え先導できる能力を身に付けている。
【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と企画提案力を身に付けている。
【専門性 1】 数学、自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている。
【専門性 2】 情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている。
【専門性 3】 情報工学の知識を基盤として、情報通信技術（ICT）の根幹をなす通信工学・電子工学に関する幅広い知識と応用力を身に付けている。
【行動力・課題解決力】 得られた知識を融合的に活用し、主体性と協調性を持って課題を発見、分析、解決できる能力と、技術者に求められる高い倫理観を身に付けている。
【生涯学習力】 情報通信技術（ICT）の発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度を身に付けている。



■情報システム工学科

【教養・多面的思考力】 幅広く豊かな教養と多面的な思考力を身に付けている。
【異文化理解・コミュニケーション力】 論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術英文の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている。
【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と企画提案力を身に付けている。
【専門性 1】 数学、自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている。
【専門性 2】 情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている。

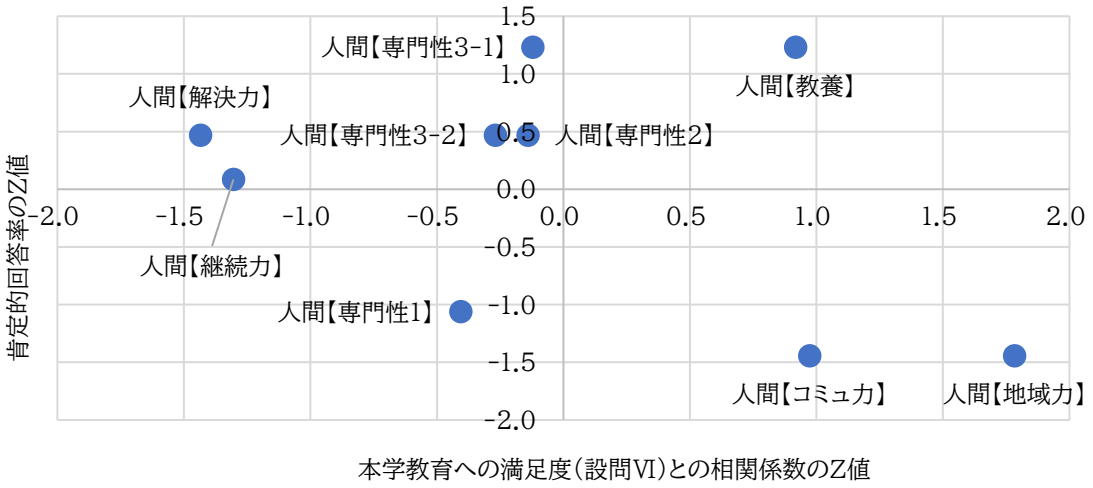
【専門性 3-1】 情報工学の知識を基盤として、機械工学、インタフェース工学に関する幅広い知識と応用力を身に付けている。
【専門性 3-2】 コンピュータや機械をインテリジェント化した機器や実用的なソフトウェアシステム、組込みシステム、機械システムを設計する基礎能力を身に付けている。
【行動力・課題解決力】 得られた知識を融合的に活用し、主体性と協調性を持って課題を発見し解決できる能力と、技術者に求められる高い倫理観を身に付けている。
【生涯学習力】 工学・技術の発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度を身に付けている。



■人間情報工学科

【教養・多面的思考力】 幅広く豊かな教養と多面的な思考力を身に付けている。
【異文化理解・コミュニケーション力】 論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術英文の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている。
【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と企画提案力を身に付けている。
【専門性 1】 数学、自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている。
【専門性 2】 情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力を身に付けている。
【専門性 3-1】 情報工学の基礎を基盤として、人間工学および機器設計工学に関する幅広い知識と応用力を身に付けている。
【専門性 3-2】 人体機能と環境変動の特性や人間の動作・行動の解析結果を活かしたシステムおよび人間の感性や生活環境に適合したソフトウェアを設計する基礎能力を身に付けている。
【行動力・課題解決力】 得られた知識を融合的に活用し、主体性と協調性を持って課題を発見し解決できる能力と、技術者に求められる高い倫理観を身に付けている。

【生涯学習力】 工学・技術の発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度を身に付けている。



■デザイン工学科

【教養・多面的思考力】 人間性を尊ぶ姿勢を学び、社会人としての基礎的教養を身につけ、幅広い視点の獲得により多面的に思考できる。

【倫理観】 デザイナーに求められる高い倫理観を身に付けている。

【異文化理解・コミュニケーション力】 日本語による記述力、口頭発表力、企画提案力、製品や作品提案等を通じたコミュニケーション力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている。

【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている。

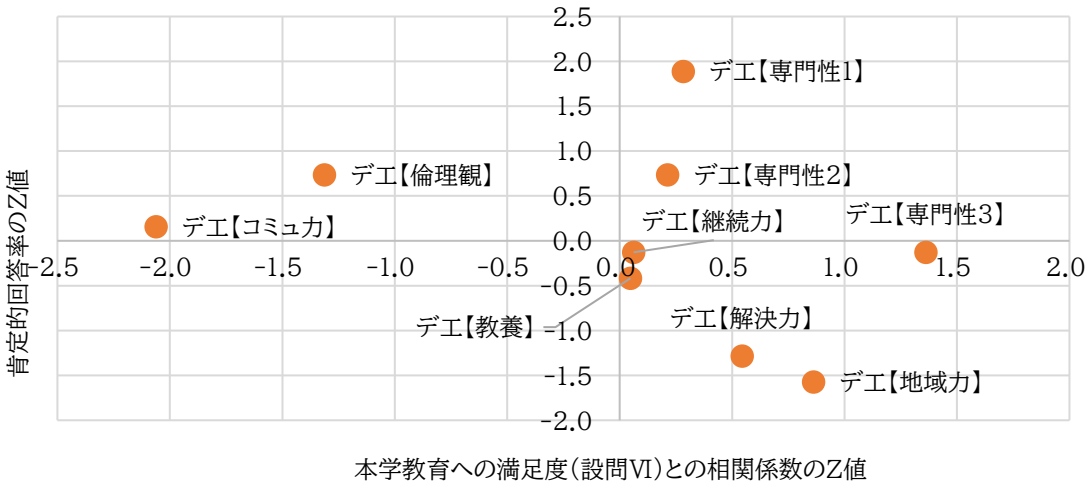
【専門性 1】 デザイン基礎に関する知識・技能とそれらを応用できる能力を身に付けている。

【専門性 2】 製品・情報デザイン領域及び建築・都市デザイン領域に求められる知識・技能を有し、それらを柔軟に活用することができる。

【専門性 3】 製品・情報デザイン領域及び建築・都市デザイン領域に求められる知識・技能を活用し、学術文化や産業の振興を念頭に、社会の課題に取り組む研究能力や実務能力を有している。

【行動力・課題解決力】 持続的な発展・開発、少子高齢化への対策などの社会の要請に対し、デザインによる新たな視点やイノベーション対応能力を活かし、実効性を伴う問題提起ならびに問題解決策の提案ができる。

【生涯学習力】 地域の文化や技術の持続的発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度を身に付け、自律的に活動できる。



■造形デザイン学科

【教養・多面的思考力】 人間性を尊ぶ姿勢を学び、社会人としての基礎的教養を身につけ、幅広い視点の獲得により多面的に思考できる。

【倫理観】 デザイナーに求められる高い倫理観を身に付けている。

【異文化理解・コミュニケーション力】 日本語による記述力、口頭発表力、企画提案力、作品提案等を通じたコミュニケーション力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている。

【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている。

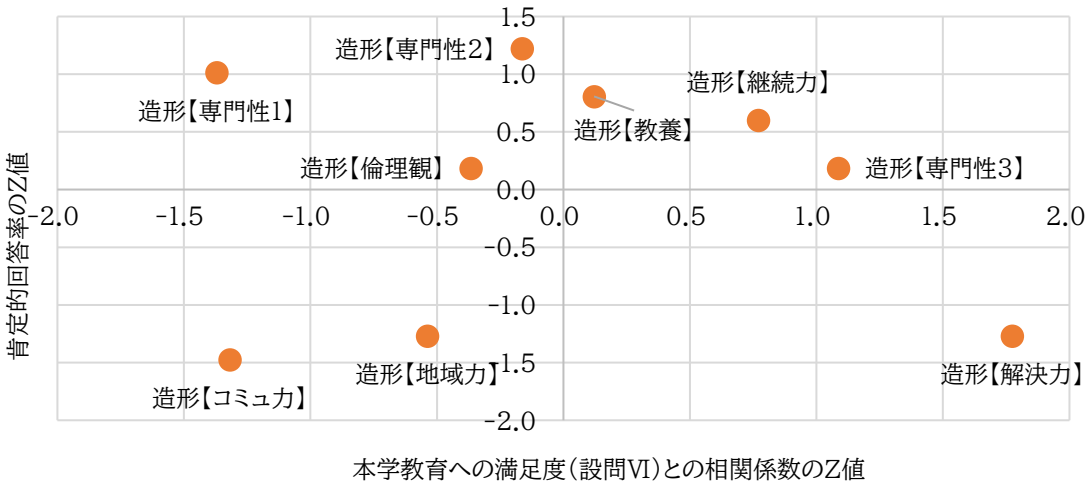
【専門性 1】 デザイン基礎に関する知識・技能とそれらを応用できる能力を身に付けている。

【専門性 2】 ビジュアルデザイン領域及び造形デザイン領域に求められる知識・技能を有し、それらを柔軟に活用することができる。

【専門性 3】 ビジュアルデザイン領域及び造形デザイン領域に求められる知識・技能を活用し、学術文化や産業の振興を念頭に、社会の課題に取り組む研究能力や実務能力を有している。

【行動力・課題解決力】 持続的な発展・開発、少子高齢化への対策などの社会の要請に対し、デザインによる新たな視点や文化的価値の創造力を活かし、実効性を伴う問題提起ならびに問題解決策の提案ができる。

【生涯学習力】 地域の文化や技術の持続的発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度を身に付け、自律的に活動できる。



【地域力】、【コミュ力】について多くの学科で肯定的回答率が低くなっている。全学ディプロマ・ポリシーに対する設問群Ⅳ（Q13～Q21）の結果（平均値）から、本学教育の弱みではないかと考えられる「世代、言語、文化の相違をのりこえたコミュニケーション力」、「多様な人々と協調して積極的に行動する力」に対応するものと考えられる。CS 分析の結果から、学科により細かな差異はある、ものの全体的な傾向として、保健福祉学部においては、グローバルなコミュニケーション力の修得の重要性を学生に理解させることが、情報工学部とデザイン学部においては地域課題を解決する能力の修得の重要性を学生に理解させることが必要であると示唆される。

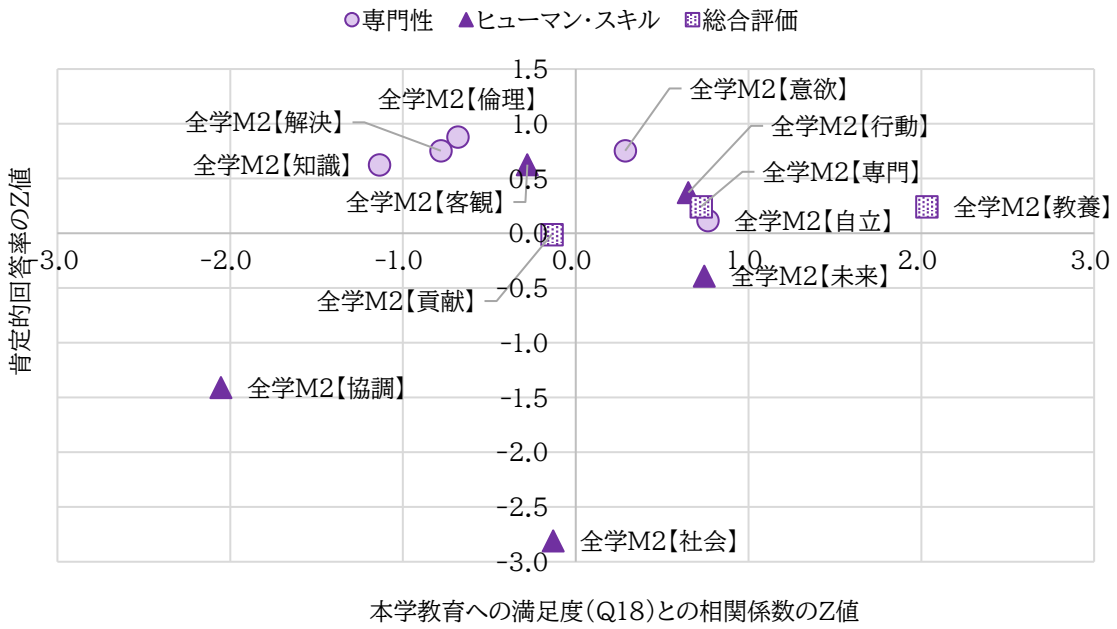
5-2-3 研究科修了時アンケート（研究科ディプロマ・ポリシーの達成度と CS 分析）

この項目では、本学研究科の掲げるディプロマ・ポリシーへの達成度、在学中の成長を、（博士課程・修士課程）修了生へのアンケート調査を通して確認することとしている。なお、2021 年度入学生から各研究科および各専攻のディプロマ・ポリシーが改定されている。この意味において、博士前期課程・修士課程では、2022 年度修了生から改定後のディプロマ・ポリシーの達成度を評価できることとなった。加えて、副専攻「吉備の杜プロデューサー課程」の一期生が修了したのも 2022 年度である。また、2022 年度からは、最終年次（博士前期課程・修士課程 2 年次および博士後期課程 3 年次）以外の年次に対しても、同達成度調査のためのアンケートを実施した。アンケート結果の詳細については、付録 G「研究科修了時アンケートおよび在学生 DP 達成度アンケート」を参照されたい。

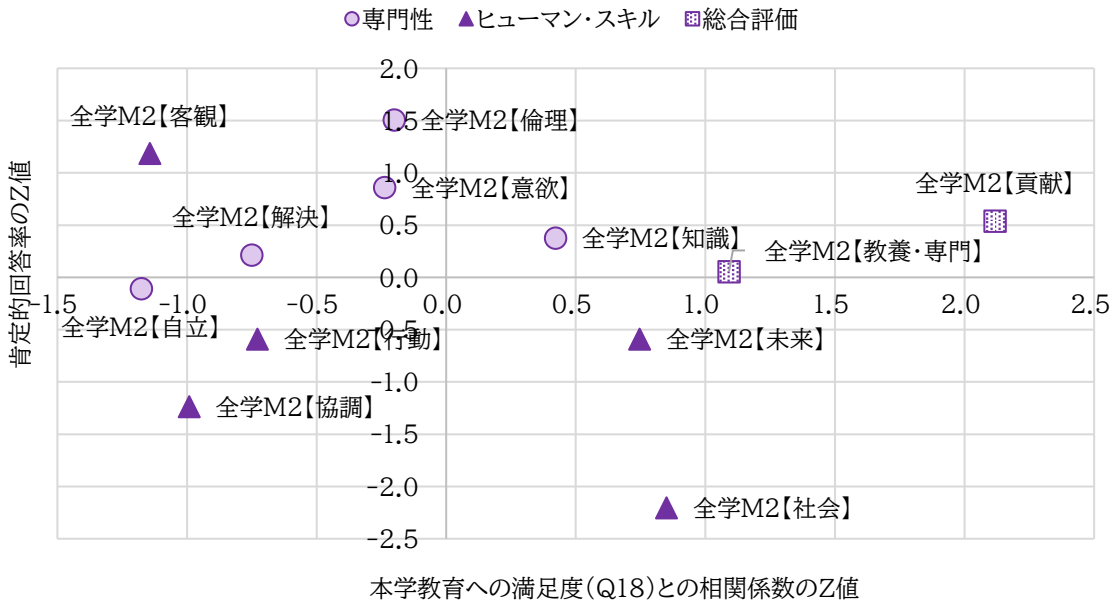
5-2-2 節と同様に、博士前期課程・修士課程 2 年次生（修了生）に対する Q18（本学大学院教育への満足度）の結果と、研究科ディプロマ・ポリシーに関する設問（Q3～Q17）の結果との関係に基づき、CS（Customer Satisfaction）分析により評価する。

2022 年度博士前期課程・修士課程修了生が、副専攻「吉備の杜プロデューサー課程」の修了一期生となることから、副専攻導入前となった 2021 年度博士前期課程・修士課程修了生に対するアンケート結果に対しても、研究科別に散布図を作成した。

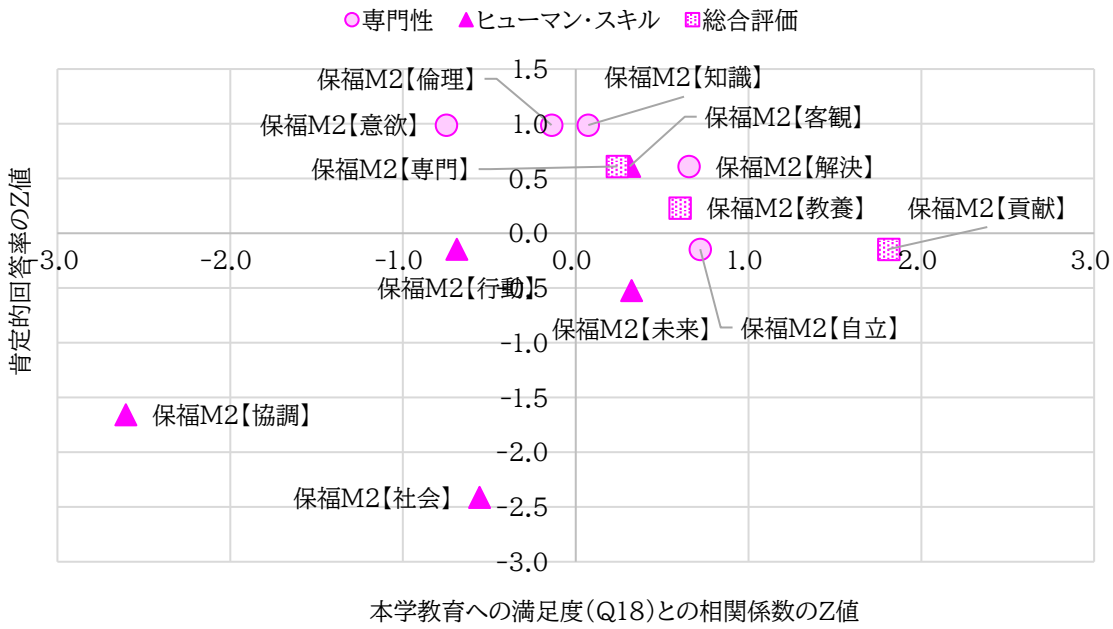
★CS 分析･全研究科 M2 （n=70：副専攻一期生）



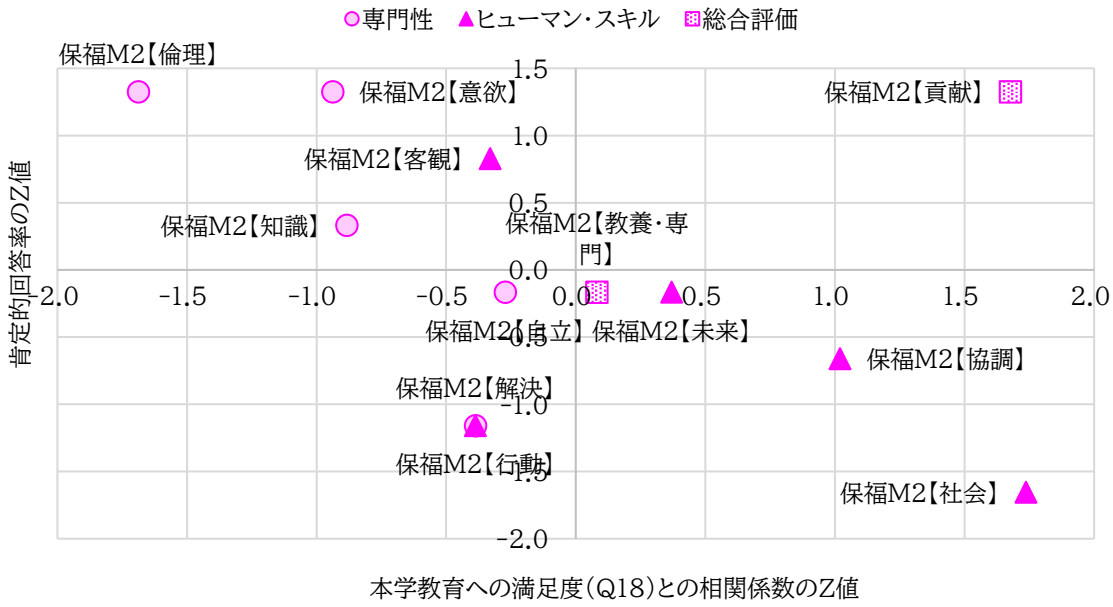
CS 分析･全研究科 M2〔昨年度〕（n=49：副専攻設置前）



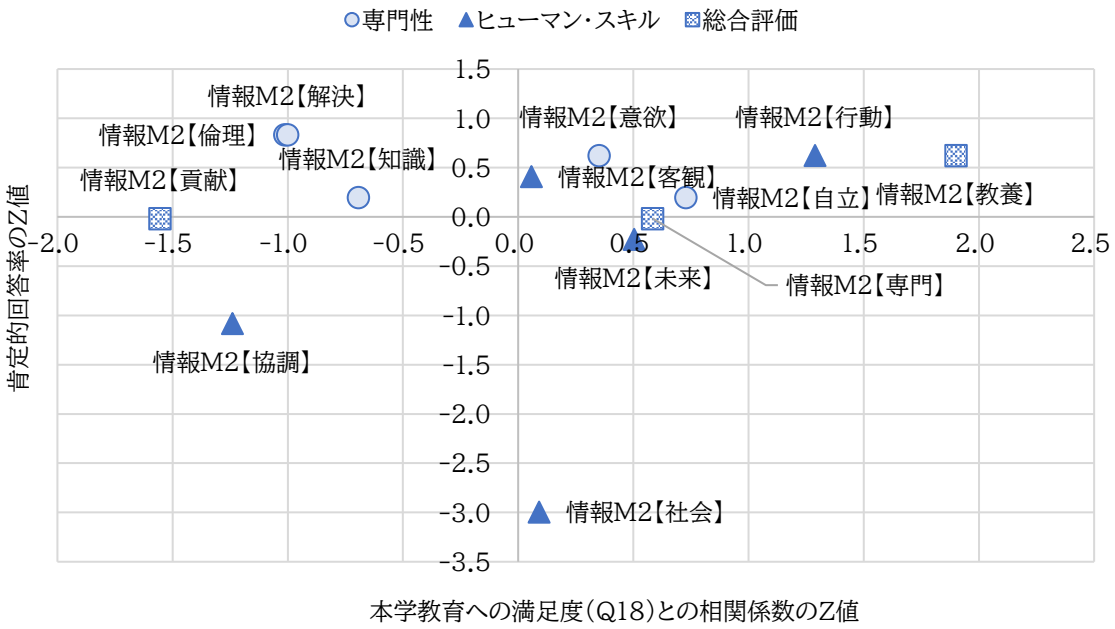
★CS 分析･保健福祉学研究科 M2 （n=24:副専攻一期生）



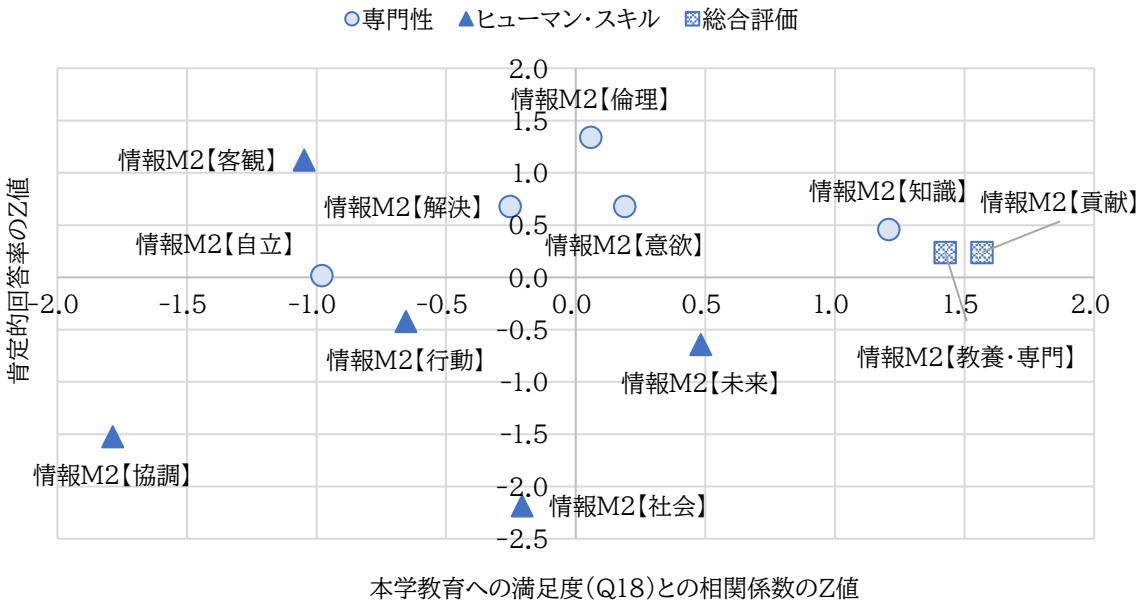
CS 分析･保健福祉学研究科 M2〔昨年度〕（n=18:副専攻設置前）



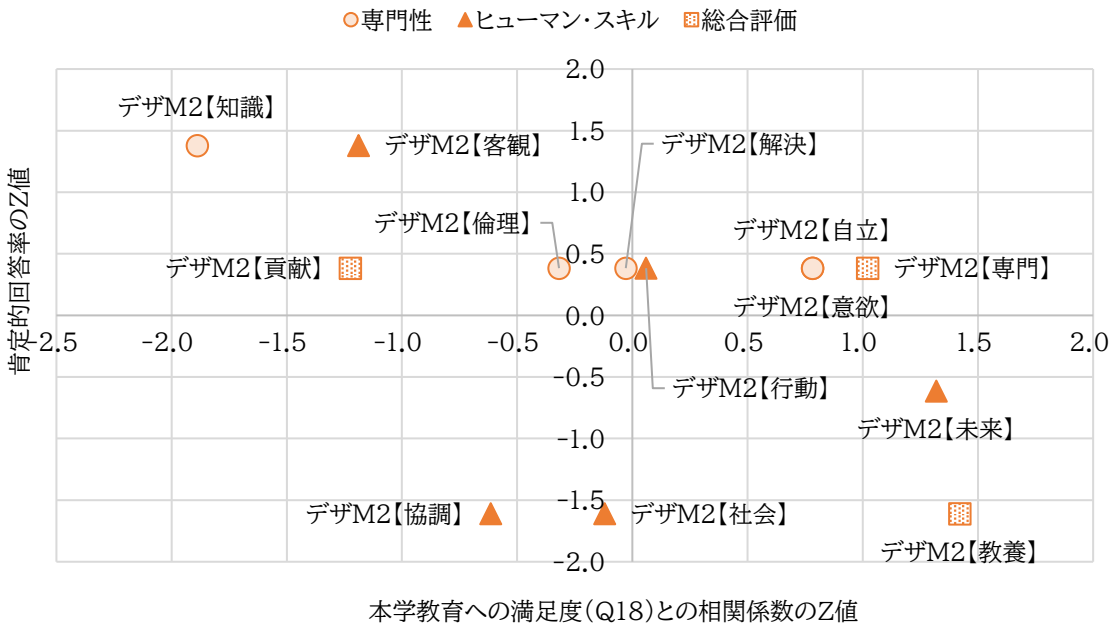
★CS 分析･情報系工学研究科 M2 （n=40：副専攻一期生）



CS 分析･情報系工学研究科 M2〔昨年度〕（n=30：副専攻設置前）



★CS 分析・デザイン学研究科 M2 （n=6：副専攻一期生）



CS 分析・デザイン学研究科 M2〔昨年度〕 （n=1：副専攻設置前）
回答者数 n=1 のため CS 分析適用不可。

5-1-2 節に示す【社会】、【協調】に対する肯定的回答率の相対的な低さは、副専攻「吉備の杜プロデューサー課程」導入前から継続するものである。4-1-2 節「副専攻科目（研究科共通基盤科目群を含む）」に示すように、次年度から、大学院「研究科クロスセクション科目」の増設など、副専攻充実に向けた取り組みが実施される。今後の推移を継続的にモニターしていく必要がある。

5-2-4 TOEIC スコア

この項目では、卒業時における TOEIC スコアが、ディプロマ・ポリシーを達成していると判断できる結果となっているかを確認することとしている。

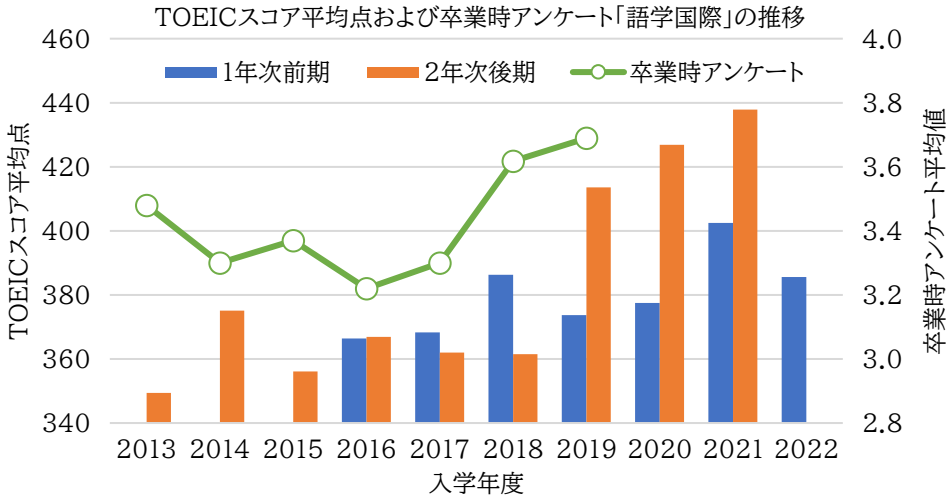
2020 年度から、全学 2 年次必修科目 ELP6 の単位認定要件として、TOEIC L&R IP スコア 300 点以上を課している。この要件を課すことにより、前述のとおり、入学時と比較して、2019 年度入学生の 2 年次 TOEIC L&R IP スコアは 39.88 点上昇した。要件を課していない 2019 年度以前 2 年次生の結果と比較すると大きく向上することができた。その後、2020 年度入学生では、2 年次での平均点上昇幅を広げることができた。続く 2021 年度入学生は、1 年次のスコアが例年より高かったこともあり、2 年次での平均点上昇幅は小さくなったが、2 年次スコアの平均点自体は 3 年連続で上昇することができた。

これより、ディプロマ・ポリシーで掲げている「グローバル化の進む現代社会において、世界とのつながりを考えて多様な人々と協働するための英語能力」を達成していると判断する。今後、この傾向が続くかどうかを引き続き分析していくとともに、この単位認定要件を今後どのように引き上げていくかが課題である。

TOEIC L&R IP スコア全学平均点の入学時と 2 年次後期の変化

入学年度	入学時平均点	2 年次平均点	差	卒業時アンケート
2016	366.43	366.85	0.42	3.22
2017	368.28	362.01	−6.27	3.30
2018	386.31	361.46	−24.85	3.62
2019	373.72	413.60	39.88	3.69
2020	377.49	426.82	49.33	
2021	402.51	437.81	35.50	

また、4 年次生に対する卒業時アンケート内の共通教育「語学国際」カテゴリーに対する評価（平均値）と組み合わせた結果を次に示す。



入学時にすでに高い英語力を有する学生に、さらにレベルアップしてもらうことを目的として、1 年次の TOEIC L&R IP スコアが 550 点以上（CEFR B1 レベル（「仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる」[5]に相当）で、かつ英語力を向上させることに対して高いモチベーションを有する学生を対象とし、2021 年度から Advanced Class を設置している。詳細については、4-1-1 節「共通教育科目」および第 1 部第 1 章「学部における教育活動と成果」内 3-3 節「語学教育推進室」を参照されたい。

5-2-5 就職率（県内就職率を含む）、進学率、国家試験合格率、表彰数

この項目では、第 3 期中期目標[15]で設定された指標を満たしているかを確認することとしている。

[15] 岡山県立大学，第 3 期中期目標期間（平成 31～令和 6 年度），https://www.oka-pu.ac.jp/guide/page-162/page-195/page-216/ （2023 年月 6 日閲覧）

［A］学士課程卒業者の進路状況

年度	進路状況	保健福祉学部				情報工学部			デザイン学部		合計
		看護	栄養	保社	保子	通信	シス	人情	デ工	造形	
2019年度卒業	卒業者	43	35	40	21	53	54	53	38	47	384
	就職希望者	34	33	37	18	34	36	39	33	42	306
	就職者	34	33	37	18	34	34	39	32	38	299
	うち県内	16	15	26	15	10	11	17	7	20	137
	就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	94.4%	100.0%	97.0%	90.5%	97.7%
	うち県内	47.1%	45.5%	70.3%	83.3%	29.4%	32.4%	43.6%	21.9%	52.6%	45.8%
	進学	8	2	3	2	19	17	14	5	2	72
	進学率	18.6%	5.7%	7.5%	9.5%	35.8%	31.5%	26.4%	13.2%	4.3%	18.8%
	その他(*)	1	0	0	1	0	1	0	0	3	6
2020年度卒業	卒業者	43	49	41	20	65	60	37	38	46	399
	就職希望者	39	37	38	19	42	37	19	31	29	291
	就職者	39	37	38	19	42	34	19	26	25	279
	うち県内	21	18	26	14	17	16	8	4	6	130
	就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	91.9%	100.0%	83.9%	86.2%	95.9%
	うち県内	53.8%	48.6%	68.4%	73.7%	40.5%	47.1%	42.1%	15.4%	24.0%	46.6%
	進学	4	11	1	1	20	22	17	7	3	86
	進学率	9.3%	22.4%	2.4%	5.0%	30.8%	36.7%	45.9%	18.4%	6.5%	21.6%
	その他(*)	0	1	2	0	3	1	1	0	14	22
2021年度卒業	卒業者	45	39	38	20	56	46	48	45	42	379
	就職希望者	42	37	37	18	24	23	33	37	30	281
	就職者	42	37	36	18	24	23	33	37	30	280
	うち県内	30	16	24	13	12	11	15	11	19	151
	就職率	100.0%	100.0%	97.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.6%
	うち県内	71.4%	43.2%	66.7%	72.2%	50.0%	47.8%	45.5%	29.7%	63.3%	53.9%
	進学	3	2	1	2	30	21	15	6	6	86
	進学率	6.7%	5.1%	2.6%	10.0%	53.6%	45.7%	31.3%	13.3%	14.3%	22.7%
	その他(*)	0	0	0	0	2	2	0	2	6	12
2022年度卒業	卒業者	40	41	47	22	47	56	43	42	44	382
	就職希望者	37	34	44	21	36	31	31	34	39	307
	就職者	37	34	43	21	36	30	31	33	37	302
	うち県内	23	8	29	16	20	13	12	12	12	145
	就職率	100.0%	100.0%	97.7%	100.0%	100.0%	96.8%	100.0%	97.1%	94.9%	98.4%
	うち県内	62.2%	23.5%	67.4%	76.2%	55.6%	43.3%	38.7%	36.4%	32.4%	48.0%
	進学	3	6	3	0	10	24	11	5	2	64
	進学率	7.5%	14.6%	6.4%	0.0%	21.3%	42.9%	25.6%	11.9%	4.5%	16.8%
	その他(*)	0	1	0	1	1	1	1	3	3	11
目標就職率		99%				98%			90%		97%
目標進学率		8%				32%			5%		17%

(*) 自営業、フリーランスを希望する者、就職を希望しない者

最下段に示す第 3 期中期計画で設定された成果指標(目標就職率、目標進学率)に対し、学部・学科および卒業年度により変動はあるものの、概ね目標を達成できているものと考えられる。

一方、大学院への進学率については、コロナ禍における景気の後退、新卒採用の抑制などもあり、コロナ禍の 2020 年度および 2021 年度は全学で進学率 20%となり、目標値を超えることができたが、コロナ禍が落ち着きを見せ、景気が回復方向へ向かう中での 2022 年度進学率は、目標値の 17%をやや下回る結果となった。

第 3 期中期計画[15]において岡山県内就職率の成果指標は 50%強で設定されており、それに対して過去 3 年の県内就職率は 50%前後で推移している。県内就職率向上のためには情報工学部とデザイン学部の動向が鍵になる。また、次の[B]節に、卒業年度ごとの出身地別(岡山県内、県外)の就職地(岡山県、U ターン、県外)の内訳を示す。「岡山県内出身で県外に就職する学生数」が、「県外出身で岡山県内に就職する学生数」を超過している。このため、在学中のキャリア教育等において、岡山県内に就職することの魅力を、いかにして伝えるかが課題となる。

なお、4-1-2 節「副専攻科目」で述べた副専攻「岡山創生学課程」および「吉備の杜クリエイター課程」を修了し、称号「地域創生推進士」(2019 年度卒業生が一期生)および「地域創生クリエイター」(2022 年度卒業生が一期生)を授与された学生の 2022 年度県内就職率は、それぞれ 73.9%および 75.0%である。人数は限られてはいるが、副専攻非履修者と比較して明らかに高くなっている。これは、副専攻の成果として捉えることもでき、今後、副専攻履修者をさらに増やすことで、県内就職率の向上を期待することができることを示唆している。また、本学の県内就職率は、岡山県、中国地区、全国の地元残留率より、やや高い値となっている。

県内就職率(地元残留率)の推移

卒業年度		2018	2019	2020	2021	2022
岡山県立大学		52.2%	45.8%	46.6%	53.9%	48.0%
地域創生推進士	称号授与者[16]	—	28	26	26	26
	就職者	—	26	20	22	22
	県内就職者	—	16	16	16	17
	県内就職率	—	64.0%	80.0%	72.7%	73.9%
地域創生クリエイター	称号授与者	—	—	—	—	11
	就職者	—	—	—	—	8
	県内就職者	—	—	—	—	6
	県内就職率	—	—	—	—	75.0%
岡山県[17]		44.5%	43.0%	42.4%	41.8%	*
中国地区[17]		40.9%	40.4%	40.9%	40.3%	*
全国[17]		44.4%	44.1%	44.7%	44.8%	*

*: 2023 年 4 月 11 日時点で未発表

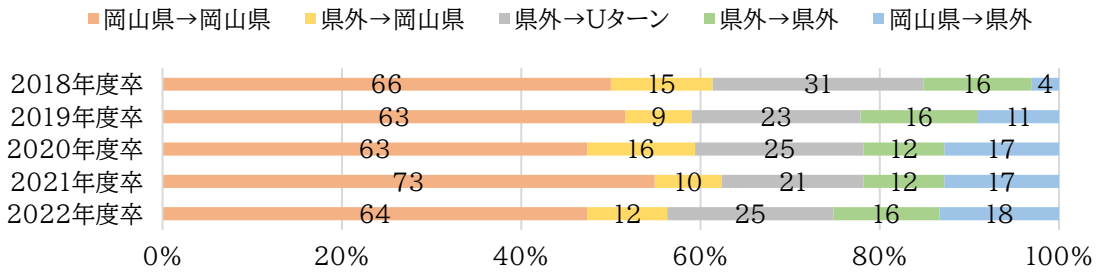
[16] 称号を授与された年度ではなく、称号授与者の卒業年度別の人数となっている。

[17] リクルート進学総研, 18 歳人口・進学率・残留率の推移, マーケットレポート 2022, 2023 年 2 月号, https://souken.shingakunet.com/research/18/ (2023 年 2 月 21 日閲覧)

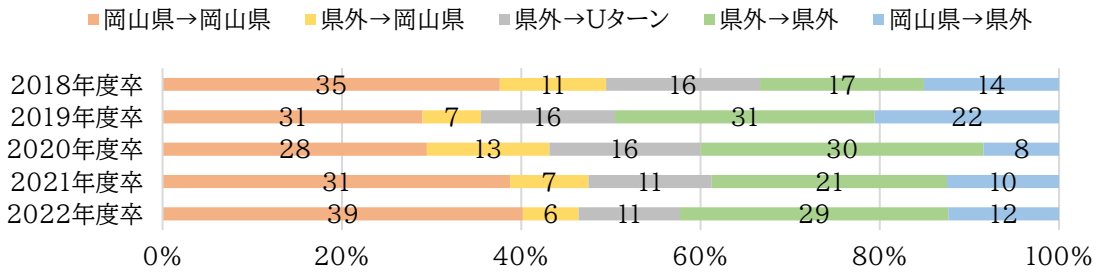
［B］学士課程卒業者の出身地別就職地区分

卒業年度ごとに、出身地別（岡山県内、県外）に就職地（岡山県内、U ターン、県外）の内訳を次に示す。

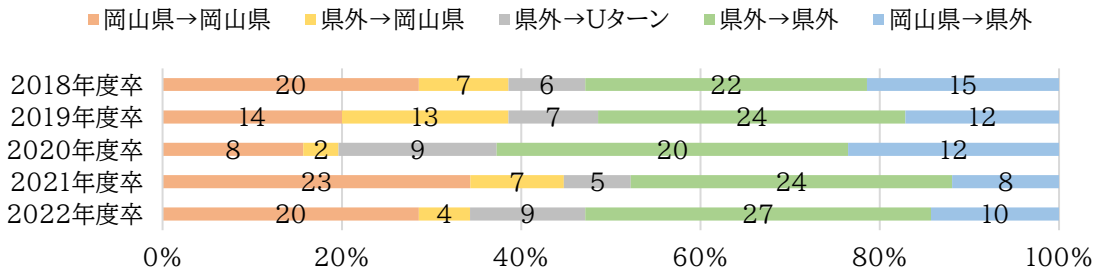
■保健福祉学部



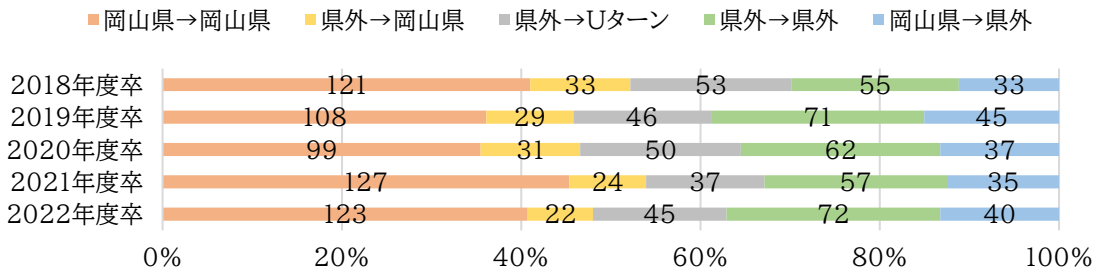
■情報工学部



■デザイン学部



■全学部計



［C］博士前期・修士課程および博士後期課程修了者の進路状況

年度	進路状況	保健福祉学				情報系工学		デザイン学		合計
		前期			後期	前期	後期	修士		
		看護	栄養	保福	保福	シス	シス	デエ	造形	
2019年度修了	修了者	10	4	3	3	40	2	2	2	66
	就職希望者	7	3	0	1	40	0	2	1	54
	就職者	7	3	0	1	39	0	2	1	53
	うち県内	4	1	0	0	3	0	0	0	8
	就職率	100.0%	100.0%	—	100.0%	97.5%	—	100.0%	100.0%	98.1%
	うち県内	57.1%	33.3%	—	0.0%	7.7%	—	0.0%	0.0%	15.1%
	進学	0	1	1	0	0	0	0	1	3
	進学率	0.0%	25.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	4.5%
	その他(*)	3	0	2	2	0	2	0	0	9
	進路決定率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%	98.5%
2020年度修了	修了者	8	7	6	3	44	2	3	1	74
	就職希望者	4	4	3	0	42	1	2	1	57
	就職者	4	4	3	0	41	0	1	1	54
	うち県内	3	1	0	0	10	0	1	1	16
	就職率	100.0%	100.0%	100.0%	—	97.6%	0.0%	50.0%	100.0%	94.7%
	うち県内	75.0%	25.0%	0.0%	—	24.4%	—	100.0%	100.0%	29.6%
	進学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	進学率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他(*)	4	3	3	3	2	1	1	0	17
	進路決定率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.7%	50.0%	66.7%	100.0%	95.9%
2021年度修了	修了者	10	4	5	6	38	2	1	1	67
	就職希望者	8	3	1	1	36	0	1	1	51
	就職者	8	3	1	1	34	0	1	0	48
	うち県内	6	1	1	0	6	0	0	0	14
	就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	94.4%	—	100.0%	0.0%	94.1%
	うち県内	75.0%	33.3%	100.0%	0.0%	17.6%	—	0.0%	—	29.2%
	進学	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	進学率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%
	その他(*)	2	1	4	5	0	2	0	0	14
	進路決定率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	94.7%	100.0%	100.0%	0.0%	95.5%
2022年度修了	修了者	8	12	5	2	47	0	4	3	81
	就職希望者	6	9	2	1	44	0	4	2	68
	就職者	6	9	2	1	42	0	4	2	66
	うち県内	1	3	1	0	8	0	0	1	14
	就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	95.5%	—	100.0%	100.0%	97.1%
	うち県内	16.7%	33.3%	50.0%	0.0%	19.0%	—	0.0%	—	21.2%
	進学	0	2	0	0	1	0	0	0	3
	進学率	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	2.1%	—	0.0%	0.0%	3.7%
	その他(*)	2	1	3	1	1	0	0	1	9
	進路決定率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	93.6%	—	100.0%	100.0%	96.3%
目標進路決定率		100%								100%

(*) 自営業、フリーランスを希望する者、就職を希望しない者、社会人学生

保健福祉学研究科は、目標とする進路決定率を満たしている。情報系工学研究科では、毎年、1～2 名程度の進路未決定者がおり、解消に向けた方策が課題となっている。デザイン学研究科

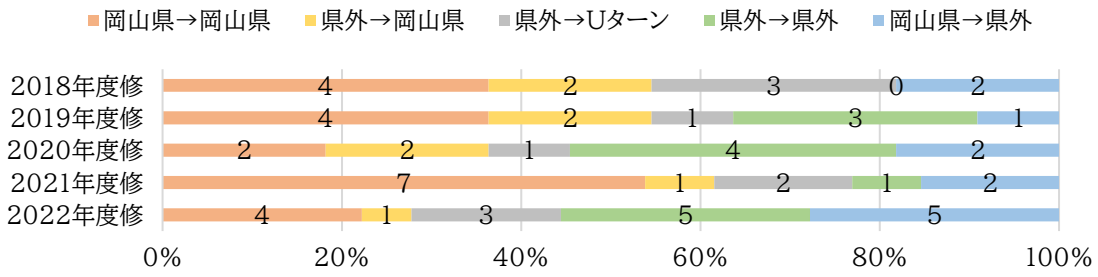
では、各年度の修了生が少ないこともあり、進路決定率が激しく変動している。また、学部卒業生と比べ、岡山県内に就職する割合が低く、20～30%程度に留まっている。大学院修了者は、専門性を活かすことができる職種を希望する傾向が強く、就職先選択の幅が広がる都市圏に就職することが多い傾向にある。

なお、4-1-2 節「副専攻科目」で述べた副専攻「吉備の杜プロデューサー課程」を修了し、称号「創造戦略プロデューサー」を授与された一期生 5 名の 2022 年度県内定着率は 20.0%であり、副専攻非履修者と同等程度に留まった。

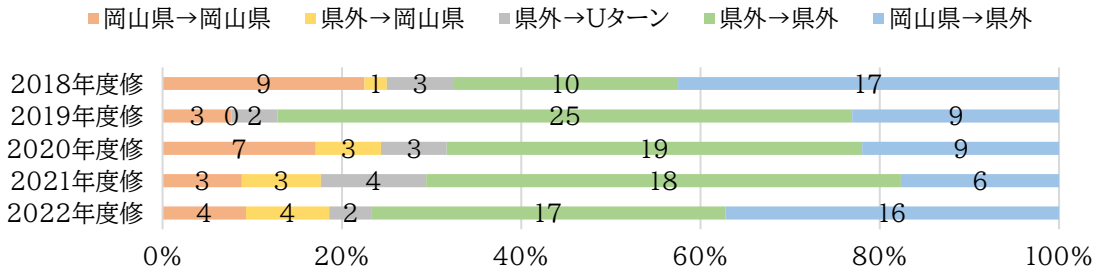
[D] 博士前期・修士課程および博士後期課程修了者の出身地別就職地区分

修了年度ごとに、出身地別（岡山県内、県外）に就職地（岡山県内、U ターン、県外）の内訳を次に示す。

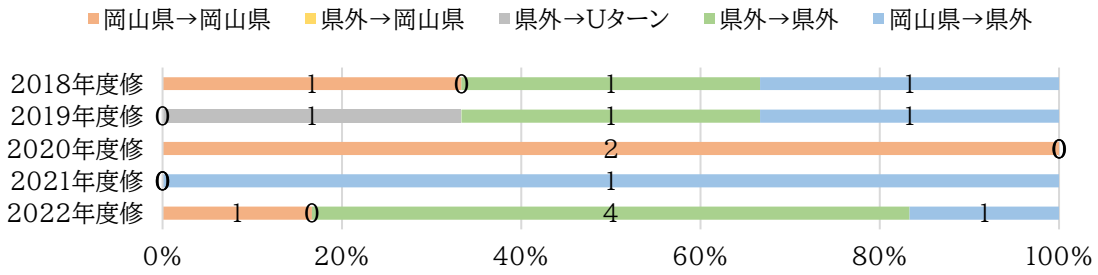
■保健福祉学研究科



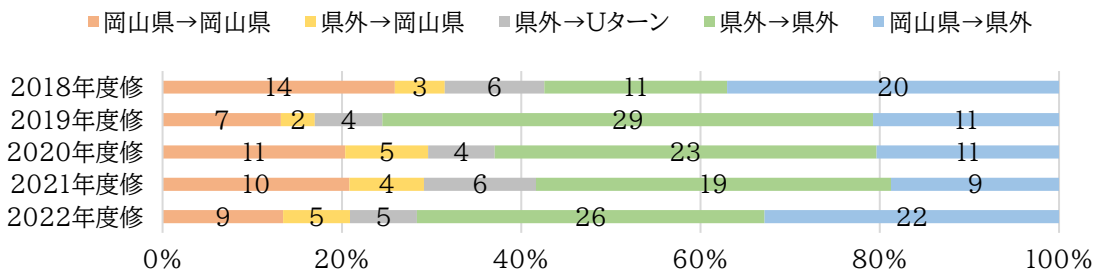
■情報系工学研究科



■デザイン学研究科



■全研究科計



[E] 国家資格等取得状況

年度		看護師	助産師	管理栄養士	社会福祉士	介護福祉士	保育士	保健師
2019	受験者	43	4	35	40	17	(取得者)	7
	合格者	42	4	33	33	17	21	7
	合格率	97.7%	100.0%	94.3%	82.5%	100.0%		100.0%
2020	受験者	43	4	48	40	7	(取得者)	4
	合格者	43	4	47	27	7	20	4
	合格率	100.0%	100.0%	97.9%	67.5%	100.0%	—	100.0%
2021	受験者	45	4	39	37	3	(取得者)	6
	合格者	45	4	39	28	3	20	6
	合格率	100.0%	100.0%	100.0%	75.7%	100.0%	—	100.0%
2022	受験者	40	4	41	45	3	(取得者)	5
	合格者	40	4	37	39	3	21	5
	合格率	100.0%	100.0%	90.2%	86.7%	100.0%	—	100.0%
目標合格率		100%	100%	96%	80%	—	—	90%

2020 年度、2021 年度と目標合格率を下回っていた社会福祉士合格率は、2022 年度は目標合格率を達成できた。一方、2020 年度、2021 年度と目標合格率を達成できていた栄養管理士合格率は、目標を達成することができなかった。

[F] 表彰

学生および教員の各種表彰・受賞については、大学 HP「学生・教員の受賞情報」[18]を参照されたい。

[18] 岡山県立大学, 学生・教員の受賞情報, https://www.oka-pu.ac.jp/information/category/学生・教員の受賞情報/ (2023 年 5 月 6 日閲覧)

5-2-6 卒業生・修了生アンケート

この項目では、本学の教育において、ディプロマ・ポリシーが達成されていると判断することができるかを、卒業生・修了生の立場から評価していただくことを目的とするアンケート調査を通して確認することとしている。

卒業生・修了生アンケートは 3 年ごとに実施することとされ、直近では、2021 年 7 月～8 月に実施された。その結果は、「教育年報 2021」[19]第 2 部第 2 章「キャリア・学生生活支援センターにおける教育活動と成果」内 2-1-5 節「卒業生および了生アンケートの実施」および同年報付録 F「卒業生・修了生アンケート」に掲載されている。次回は、2024 年度の実施が予定されている。

5-2-7 就職先アンケート

この項目では、本学の教育において、ディプロマ・ポリシーが達成されていると判断することができるかを、就職先の立場（卒業生・修了生を受け入れた立場）から評価していただくことを目的とするアンケート調査を通して確認することとしている。

就職先アンケートは 3 年ごとに実施することとされ、直近では、2022 年 2 月に実施された。アンケート結果の詳細は、第 2 部第 2 章「キャリア・学生生活支援センターにおける教育活動と成果」内 2-2-3 節「就職先アンケートの実施」および付録 I「就職先アンケート」に掲載されている。この結果を受け、評価委員会において、大学ディプロマ・ポリシーについては、就職先が本学に期待する課題発見解決力や専門分野における論理的思考力を含め、概ね身に付けて卒業または修了しているとの評価であると判断された。ただし、世界とのつながりを考えて多様な人々と協働する意欲ならびにグローバルコミュニケーション能力の向上は課題であり、コロナ禍で実施できなかった海外研修を含むグローバル教育の充実が求められると分析した。そして、次の点を次年度以降の改善方針として大学運営委員会で決定した。

改善方針
共通教育部及び各学部では、語学文化研修ならびに学部教育における海外研修科目を再開し、履修しやすい環境を整える。

5-2-8 修業年限内卒業率、退学率

この項目では、修業年限内卒業率あるいは退学率の改善に向けた分析と対策が講じられているかを確認することとしている。

[A] 修業年限内卒業率

2016 年度末から 2022 年度末に学士課程を卒業あるいは大学院を修了する学生（学士課程では 2013 年度入学生から 2019 年度入学生）の修業年限内卒業者数（率）、修業年限超過卒業者数および中途退学者（率）の詳細については、付録 J「修業年限期間内に卒業・修了する学生

[19] 岡山県立大学，教育年報 2021，pp.F-1～F-6，2022 年 6 月，https://www.oka-pu.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2022/08/kyouikunenpou2021.pdf （2023 年 5 月 6 日閲覧）

の割合、留年者数、中途退学者数、除籍者数」を参照されたい。修業年限期間内卒業率の指標として、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構大学ポートレートセンターが公開している大学基本情報分析レポート[20]を参照する。また、中途退学率の指標として、朝日新聞と河合塾によって実施された 2020 年度「ひらく日本の大学」調査結果[21](コロナ禍での調査)および 2018 年度「ひらく日本の大学」調査結果[22](コロナ禍以前の調査)を参照する。

公立大学における修業年別卒業率(大学基本情報分析レポート 2022)

卒業年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
卒業率	87.7%	88.7%	88.3%	80.0%	89.0%	—

付録Ｊに示すとおり、修業年限内卒業率(4 年次卒業率)は、2016 年度卒業生(2013 年度入学生)まで 88～89%台で推移しており、大学基本情報分析レポートの公立大学の値と同程度である。2019 年度卒業生は保健福祉学部と情報工学部が過去に比べて下がったことにより 86%台まで低下した。しかし、2020 年度からは情報工学部とデザイン学部の値が上昇したことを受けて、全体では 90%台まで上昇して大学基本情報分析レポートの値を上回っている。2022 年度は保健福祉学部で前年よりも上昇したものの、情報工学部とデザイン学部で低下したことで 89.0%と前年を下回った。

卒業までの退学率(2020 年度・2018 年度「ひらく日本の大学」より(カッコ内は 2018 年度))

学部系統	全体	国立大学	公立大学	私立大学
保健	8.0% (6.5%)	1.7% (2.9%)	2.0% (2.4%)	9.1% (7.7%)
医	2.1% (2.0%)	1.8% (1.1%)	1.7% (1.4%)	3.3% (3.5%)
生活科学	5.9% (6.1%)	2.5% (0.8%)	0.6% (1.8%)	6.1% (6.3%)
工	7.1% (7.9%)	3.9% (4.1%)	6.0% (5.4%)	8.9% (10.0%)
総合・環境・人間・情報	7.0% (7.4%)	3.3% (2.5%)	3.0% (4.4%)	7.9% (8.1%)
芸術・スポーツ科学	9.2% (8.3%)	2.7% (1.9%)	6.5% (3.9%)	9.6% (8.8%)
全体	7.1% (7.0%)	3.0% (3.0%)	3.9% (3.9%)	8.2% (8.0%)

[20] 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構大学ポートレートセンター, 大学基本情報 分析レポート, https://jpcup.sharepoint.com/sites/univ-info/ (ID・PW が必要)(2023 年 5 月 12 日閲覧)

[21] 朝日新聞, 河合塾, 「ひらく日本の大学」2020 年度調査結果報告, Guideline, 2020 年度 2・3 月号, p.16, 2021 年 2 月, https://www.keinet.ne.jp/teacher/media/guideline/backnumber/20/0203/tokushu.pdf (2023 年 5 月 6 日閲覧)

[22] 朝日新聞, 河合塾, 「ひらく日本の大学」2018 年度調査結果報告, Guideline, 2018 年度 11 月号, p.17, 2018 年 11 月, https://www.keinet.ne.jp/teacher/media/guideline/backnumber/18/11/toku.pdf (2023 年 5 月 6 日閲覧)

卒業率に関係する一番の要素は退学率である。2019 年度卒業生までは 4.3%～6.1%となっており、2018 年度「ひらく日本の大学」公立大学全体の退学率 3.9%を上回っている。しかし、2020 年度以降では 3.7%、3.3%であり、2020 年度公立大学全体の退学率 3.9%を下回っている。一方、2022 年度は 4.2%と上昇し同程度になった。つまり、退学率が卒業率に強く関係していることから、今後は退学理由について精査しながら必要な対策を講じる。また、コロナ禍で低学年からオンライン授業を受けた学生の修業年限期間内の卒業率については、今後も注視しながら必要な対策を講じる。

[B] 退学率

2017 年度以降の年間退学者数(学部)を次表に示す。

年間退学者数(カッコ内は当該年度 5 月 1 日在学者数に対する率)

学部・学科＼年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
保健福祉	3 (0.5%)	2 (0.3%)	5 (0.8%)	0 (0.0%)	5 (0.9%)	3(0.5%)
看護	1	0	1	0	1	1
栄養	1	1	1	0	2	1
保福	1	1	3	0	0	1
現社	-	-	-	-	1	0
子ども	-	-	-	-	1	0
情報工	9 (1.3%)	7 (1.1%)	12 (1.8%)	10(1.6%)	12 (2.0%)	16(2.7%)
情報	4	2	5	3	4	5
シス	3	3	3	3	5	9
人間	2	2	4	4	3	2
デザイン	15 (4.0%)	9 (2.4%)	11 (2.6%)	6 (1.6%)	5(1.3%)	10(2.6%)
デ工	7	4	1	1	2	1
造形	8	5	10	5	3	6
ビジュ	-	-	-	-	0	1
工芸	-	-	-	-	0	1
建築	-	-	-	-	0	1
全学	27 (1.7%)	18 (1.1%)	28 (1.7%)	16 (1.0%)	22 (1.4%)	29(1.8%)
文科省調査[23]			2.50%	1.95%	1.95%	
1 年次生	2(0.5%)	2(0.5%)	6(1.5%)	3(0.8%)	3(0.8%)	5(1.3%)

[23] 文部科学省，大学等における令和4年度前期の授業の実施方針等に関する調査及び学生の修学状況(中退・休学)等に関する調査の結果について(周知)，別紙 3“学生の修学状況(中退者・休学者)等に関する調査(令和 3 年度末時点)”，2022 年 6 月 3 日，https://www.mext.go.jp/content/20220603-mxt_kouhou01-000004520_03.pdf#page=10 (2023 年 4 月 10 日閲覧)

2 年次生	4(1.0%)	3(0.7%)	3(0.8%)	3(0.7%)	8(2.1%)	7(1.9%)
3 年次生	2(0.5%)	3(0.7%)	2(0.5%)	3(0.8%)	5(1.3%)	5(1.4%)
4 年次生	6(1.6%)	5(1.3%)	10(2.5%)	2(0.5%)	2(0.5%)	4(0.9%)
過年度生	13(26.0%)	5(13.2%)	7(14.9%)	5(9.6%)	4(8.5%)	8(18.6%)

コロナ禍となった 2020 年度では、保健福祉学部(退学者なし)、デザイン学部(前年度から半減)の退学者が減少し、全体として改善している。コロナ禍 2 年目となった続く 2021 年度では、デザイン学部以外では増加に転じている。一方で 2022 年度では、デザイン学部の退学者が大幅に増加したことで全体の退学率は 1.7%に上昇した。文部科学省が 2022 年 6 月 3 日に発表した「学生の修学状況(中退者・休学者)に関する調査」の結果 [23] によれば、2021 年度における退学者数は、前年度と比べ大きな変化はなく 1.95%となっている。2022 年度の退学率の公表が待たれるが、2021 年度から大きな変化がないと仮定した場合、本学の退学率は依然として下回って推移しているといえる。他方、2022 年度は、コロナ禍による制限がほとんどなかったため、多くの授業も対面で実施された。退学者 27 名のうちでどのくらいの学生がコロナ禍の影響を受けたかについては不明であるが、在籍中にコロナ禍を経験した学生のうち 2 年次生、3 年次生および過年度生の退学者数はコロナ禍前に比べて若干増加しており、コロナ禍の影響は否定できない。引き続き、退学理由を精査しながら対応策について検討していく必要がある。

改善方針

各学部では、リメディアル教育の導入を含めた学修支援体制の充実を検討する。また、休退学する学生の傾向を早期に発見するための分析方法や支援方法を検討する。

次に、2017 年度以降の年間退学者数(研究科)を次表に示す。

年間退学者数(カッコ内は各年度 5 月 1 日在学者数に対する率)

年度 / 研究科・専攻	2017	2018	2019	2020	2021	2022
保健福祉学	1(1.2%)	3(4.2%)	1(1.4%)	3(3.7%)	3(3.5%)	9(11.8%)
看護学(前)	0	1	0	0	0	1
栄養学(前)	0	0	0	0	1	0
保健福祉学(前)	0	1	0	1	1	0
保福科学(後)	1	1	1	2	1	8
情報系工学	0(0.0%)	2(2.1%)	4(3.9%)	2(2.0%)	7(6.4%)	3(2.5%)
ｼｽﾃﾑ工学(前)	0	2	1	2	7	3
ｼｽﾃﾑ工学(後)	0	0	3	0	0	0
デザイン学	1(9.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	2(20.0%)	1(7.7%)	1(4.8%)
ﾃﾞｻﾞｲﾝ工学(修)	0	0	0	0	0	1
造形ﾃﾞｻﾞｲﾝ学(修)	1	0	0	2	1	0

全研究科	2(1.0%)	5(2.8%)	5(2.7%)	7(3.6%)	11(5.3%)	13(5.9%)

2022 年度の退学者数は前年に比べて増加した。特に、保健福祉学研究科後期課程の退学者数が大きく増加した。退学者 8 名のうち 5 名は、本業が多忙になり学業との両立が困難となったことが理由であった。その他の研究科・課程においても同様の理由に加え、就職が決まったことによる退学者も複数人いた。博士後期課程在籍者のほとんどは社会人学生であり、業務と学業とをいかにして両立させるかが、研究活動の継続における鍵となる。

6 まとめと課題

2022 年度は、前年度に行ったアセスメント・ポリシーに沿った教学データの分析とそれに基づく改善の過程で明らかとなった課題について、アンケートの修正を含めて分析を大幅に追加することにより、大学院教育課程を含め、学修成果の把握とその点検評価に基づく改善の手順と役割分担についてはほぼ完成した。これにより、3 ポリシーに基づく教育成果がこれまでの取り組みにより十分達成されていると評価できる点がデータに基づいて示されたと同時に、今後の改善が期待されるポイントも明らかとなったと言える。たとえば、入学者選抜は学力の三要素(基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性)すべてを各日程において重みづけを変えながら評価することにより、アドミッション・ポリシーに沿った学生を概ね選抜できていることが示されている一方で、新たに設置した総合型選抜においてはアドミッション・ポリシーに沿った学生が選抜できていることが 2 年目に十分には確認できなくなったことは、卒業生の県内就職率にも影響する重要な課題である。共通教育においてこれまで本学の弱みであった語学教育については、PDCA に基づくカリキュラム改善の効果が TOEIC のような客観的な評価のみならず、アンケートによる主観的評価にも反映されており、学修成果の改善の最たる例の一つである一方で、CS 分析の結果からは一部の学部・学科の学生が語学能力の修得をそもそも重視していないことも示唆され、学修への意識づけに向けた取り組みも必要である。さらに、社会連携科目については、卒業時までに得るものがあったかどうかの評価が低迷しており、学修成果についても社会課題の解決力が身に付いたと考える学生数は低調で、県内就職率の向上にも必ずしも反映できていない。大学院教育においても、地域や国際社会の課題への対応力が身に付いたと考える学生数は低調で、副専攻設置後に改善しておらず、むしろそれを身に付けることを重視しない学生が増えたことを暗示するような CS 分析結果も得られており、今後の継続した分析が必要である。一方で、学部教育における学修成果については、カリキュラムの継続的な見直しも行われる中で、卒業時における大学・学部・学科ディプロマ・ポリシー達成度の主観的評価、就職先からの客観的な評価から、概ね達成できていると考えられる。今後は、ルーブリック導入の拡大による更に厳格な成績評価に基づき、GPA を活用した学修成果の把握ができる体制を目指すとともに、社会のニーズに沿った学生を送り出す教育体制の整備に向けて、再度の学科再編も視野に入れた大きな改革を続けていく必要がある。学生生活支援については、ポストコロナ時代を見据えて、退学率の更なる減少に向け、アドバイザー制度を含めた支援体制の充実が期待される。

今後は、大学全体としては確立した内部質保証推進体制による PDCA サイクルを実質的に回し続け、さらなる改善につなげることができるかどうかが最大の課題である。現時点では改善方針を指示された部局における進捗状況を点検する方法が定められていない。評価と改善を学部・学科で行う体制も確立し、より効率的な内部質保証活動を行うことにより、3 ポリシーに基づく学習者主体の教育の質向上を目指す。

第５部　学部・研究科別外部評価

１ 概要

平成16（2004）年度から、すべての大学、短期大学、高等専門学校は、７年以内ごとに文部科学大臣が認証する評価機関の評価を受けることが法律で義務付けられた。岡山県立大学においても、平成19年度の公立大学法人化以降、平成21年度および平成28年度に、文部科学大臣により認証された評価機関による大学機関別認証評価を受審し、「大学評価基準を満たしている」との評価を受けた。次回は、令和５年度に受審することを予定している。認証評価では、大学における教育研究の質保証および改善のための体制作りと、その活動が重要な視点となる。本学においても、各審議会および各委員会などで不断の取り組みを行い、今年度からは学部に加え大学院も評価対象とし、「学部・研究科外部評価委員会」として要項を定めて実施している。学内構成員とは異なる視点、知見を有している学外の方を評価者として、大所高所の見地からご意見をいただく外部評価を実施することにより、更なる向上を図るため、今年度は、令和２年度および令和３年度に引き続き３回目の実施となった。事前にお渡しした外部評価資料をもとに令和５年１月に外部評価委員との意見交換会を対面およびオンラインによるハイブリッド形式で開催した。外部評価委員の皆様におかれては、ご多忙の時期にも関わらず快くお引受けいただき、貴重なご意見、ご助言をいただいたことを、ここに厚くお礼申し上げる。

２ 保健福祉学部・保健福祉学研究科

（1） 開催日時

令和５年１月20日（金）10：00～12：00

（2） 外部評価委員名簿

則武　直美　　岡山聖園子供の家　施設長
甲本　龍平　　岡山県立玉島高等学校　校長
片岡　洋行　　就実大学薬学部教授
大同　久人　　生活協同組合おかやまコープ本部長
曽我　比呂子　公益財団法人倉敷中央医療機構倉敷中央病院
医療福祉相談グループ　グループ長　ソーシャルワーカー

（3） 委員会の概要

＜外部評価委員＞

- R3年度の外部評価の回答に、「性的虐待に対する先進的な事例も教えている」とあるが、その内容はどのようなものか。
- 保育士の就職先について、社会的養護の施設にも就職をしてほしい。
- 新しい資格「子ども家庭福祉ソーシャルワーカー」について、現段階では、社会福祉士と精神保健福祉士を基礎資格として、その上に積み上げてこの資格を取れるような仕組みになっていたと思うが、社会人の受け入れ枠はあるのか。

・ 福祉分野では、現在、「地域共生社会」が強調されており、コミュニティーソーシャルワークという視点がこれから大事になっていくので、ぜひそのあたりも意識していただきたい。

＜大学側＞

・ 性的虐待について、国際福祉論において、日本の性的虐待に関する取り組みが非常に遅れていることを伝えた上で、韓国やフランスなどの海外の先進的取組みについて説明している。
・ 地域共生社会の構築のためには、コミュニティーソーシャルワークが非常に重要だが、その取り組みがあまり公表できておらず、その点に関しては少し弱い点もある。もちろん、コミュニティーソーシャルワークについて、地域福祉系の科目で教えてはいるが、それを全面的に学科として打ち出していないので、今後考えていきたい。

＜大学側＞

・ 保育士の就職先について、実習も含めて、社会福祉施設に毎年お世話になっている。確かに就職先は保育所等が多いが、毎年、福祉施設に就職を希望する学生もいる。入学時には保育士のイメージが強いが、実習で指導していただき、福祉施設に就職したいという学生もいる。今後、イメージ先行ではなく、いろいろな進路先があることを強調していきたい。
・ 必修として 2 年次生の保育実習ＩＡで児童福祉施設に 3 年次生の保育実習ＩＢで保育所に実習に行き、4 年次生の選択実習として保育所（保育実習Ⅱ）と児童福祉施設（保育実習Ⅲ）のどちらかを選択することになっているが、保育実習Ⅲ（児童福祉施設実習）を希望する学生もいる。

＜大学側＞

・ 現代福祉学科でも、社会福祉士として児童福祉施設や障がい児の施設に就職する学生がいる。

＜大学側＞

・ 子ども家庭福祉ソーシャルワーカーについて、現段階では、社会福祉士養成課程に積み上げる形で授業科目を組み立てる予定である。今後、養成カリキュラムが明示されると思われるが、実習等についてどの程度の制約があるか精査し、リカレント教育として、社会人の受入れについても考えていきたい。

＜大学側＞

・ 社会人を受け入れることまで、まだ計画ができていない。ただ、国でも、本学でも、リカレント教育を推進しており、現代福祉学科も、この部分でリカレント教育ができるという気付きをいただいたので、検討させていただきたい。

＜外部評価委員＞

・ 入試改革で、前期・後期試験入学者を減らして、学校推薦型、総合型選抜を増やす傾向は、生徒が地域に出て行き主体的に課題を見つけるという、高校での「総合的な探究の時間」等での教育の力を見取ってもらう方向性と感じており、ありがたい。

・ 生徒をどのように見取ってもらうかが非常に大切である。自分たちがどのように主体性を持って取り組んできたかが提出する書面だけでは分かりにくいので、時間の制約もあるが、そこをしっかり聞いてもらい、生徒が持つ学力以外の力を評価していただきたい。学力が足りない場合には、大学に入学してから厳しい判断というのもあり得るとは思う。
・ 看護学科には、養護教諭として勤務する卒業生がいるとのことだが、看護学科での養護教諭の取得はどのような流れになるのか。
・ 岡山アウトリーチプログラムについて、どう将来につなげるのか。高校でも近い取り組みをしており、連携できれば面白い。英語だけではなく、先輩の大学生と関わることも、目指す目標につながる。県内の高校とも連携できるところはしてもらえるとありがたい。「グローバル」は語学が全てではなく、その意識を共有していくことが大切な場であると思っている。せっかく素晴らしい取り組みをしているので、方向性を教えてほしい。
・ グローバル教育について、韓国の大学との交流を行っているようだが、このときの言語は英語なのか。グローバル教育は英語がすべてではないと思うが、海外と繋がるとなると、どうしても英語が必須になり、そうすると高校生には難しい面も感じる。Zoom にも翻訳機能があるので、それを活用しながら、言語によらない、環境の違う子どもたちが、子どもたち同士で腹を割って話し、疑問に思ったことを率直に述べることができる場ができればよいと思う。貴学の考えるグローバル教育の方向性を教えていただきたい。

＜大学側＞

・ 総合型選抜の定員を増やすのは、本学を強く志望する生徒にできるだけ入学してもらいたいからである。
・ 主体的に探求に取り組んでいることをどう評価するかについては、課題ではあるが、総合型選抜では面接の時間を長めに設けており、形式的な質問もするが、取り組んできた内容について更に 2 つ、3 つと質問を重ねることで、本人の考え方や、どこまで思考しているかを聞き取ったり、読み取ったりして、その場の論理的な思考や応対の能力などを見て評価の指標の一つとしている。

＜外部評価委員＞

・ 面接の練習では、志望理由を最初に語るが、志望理由は上辺だけになることを感じる。質問を重ねて徐々に引き出すと、語れる生徒が出てくる。もともと上手な生徒もいるが、うまく表現できない生徒の中にも秘めた力を持っている生徒がいる。少しでも長い時間、しっかり質問を重ねて話をして読み取ってもらえれば、生徒の本来の力がより評価される。厳しいところは厳しく判断をしてもらい、駄目は駄目だと思うが、少しでも読み取れるような面接にしてもらえれば、高校現場もやりがいがある。

＜大学側＞

・ 面接時間や質問内容などについて再考したい。

＜大学側＞

・ 看護学科には養護教諭の課程がない。学部で保健師を養成していたときには、保健師免許を取得後に申請により養護教諭二種免許が取得できたが、現在、保健師養成課程が大学院に移

行しているため 4 年間の学部教育では養護教諭二種免許は取得できない。養護教諭を志望する学生は、学部を卒業後に岡山大学教育学部の養護教諭の課程に進学するケースが多い。

＜外部評価委員＞

・ 岡山県立大学で教員を養成する部分が少しでも広がれば本当にありがたい。負担が非常に高いことも聞いているが、可能ならば、情報等でも検討していただきたい。県立高校としては切実な希望である。

＜大学側＞

・ 毎年、大学院看護学専攻には 5 名程入学している。早急にできることとして、学生にも養護教諭二種免許の取得を勧め、養護教諭という就職もあることを伝えていきたい。養護教諭の養成については、今後の検討課題とさせていただきたい。

＜大学側＞

・ 岡山アウトリーチプログラムの 1 つ目の目標は、英語で海外の人とコミュニケーションを取ることにある。ただし、語学能力を高めるだけではなく、岡山県観光課とも連携し、観光という側面から知識を得たり、実体験をすることを２つ目の目標にしている。高校生との連携については、アウトリーチプログラムの担当教員に伝えて、連携を推進できればと思う。

＜外部評価委員＞

・ 実は、高校でもそのような取り組みをしている。高校生は地元を意外と知らない。ある公民館の講座を中心にSDGsを学ぶ中で、町を知り、生徒の言葉で町について語れるようにし、外国人観光客が来るようになったら観光の説明ができればということで、英語も伏線で準備をしている。この取り組みは岡山アウトリーチプログラムに近い。岡山の大学に来て岡山のいろいろなことを知り、地元である地域を知る大切な機会になっていると思う。これは高校生にとっても同じであって、自分たちが育ってきた岡山県について説明できるようになることだけでも意味は大きい。県外に出ていくことを考えたときに、自分たちが生まれたところを説明できるというのは非常に大切だと感じる。誰が岡山城を築城したのかも知らない高校生も多く、そのようなところにも非常に危機感を持っている。もし高校生とつながることができれば、相互に学べる機会ができ、高校生もそれを求めているような気がする、自分たちで学ぶチャンスにもなると思うので、高校生との連携も前向きに検討いただければありがたい。

＜大学側＞

・ 韓国の大学との交流プログラムについては通訳を入れている。本プログラムは、英語教育のためのプログラムではなく、自分の専門性に関して他国の状況を知り、自国を相対化する力を養うためのプログラムである。次の段階として、学生さんが自ら韓国の方と英語でコミュニケーションできればいいと思っている。今年度は本学と韓国の大学の教員が、児童虐待、高齢者の栄養、就学前教育と小学校教育の連携、コロナ禍の看護といったテーマについて、それぞれ日韓の状況について報告した後、その報告を聞いた両国の学生さんが通訳を入れながら質問をしたが、来年度は韓国の学生と本学の学生がオンラインで対話することを考えている。その時は

英語を使うかもしれないが、自分の専門性に関して他国のことを知ることは非常に重要であり、英語はその際のツールであると考えている。こうした考えのもと、専門教育を重視したグローバル教育を実践したいと思っている。

＜外部評価委員＞

・ 入試状況も非常に良いし、いろいろな特色ある教育をしており、その成果がおそらく国家試験の合格率や就職率が良いことに繋がっているのではないか。
・ 大学では、現在、内部質保証の取り組みが非常に重視されている。これに関してどういった取り組みをしているのか。例えば、学修成果や教育の成果などの可視化については、どうしているのか。
・ 学生の学修の達成感を把握しているのか。教員は、合格率などの数値でうまくいっていると思っているが、実際に学生に教育がちゃんと身に付いているのか把握するためにどうしているのか。
・ 教育の質の向上という観点では、いろいろ改善の取り組みをしていると思うが、例えばFD活動として教員間で研修会を開くなど、教育の質の向上に向けた取り組みをしているのか。
・ 休退学者はほとんどいないが、中には成績がなかなか上がらないとか、ミスマッチなどで退学者がいるのではないか。成績不振者に対してどのようなケアをしているのか。
・ 現代福祉学科のコース制について、入学後にコースに分かれるとのことだが、希望コースが極端に偏った場合どうしているのか。全員希望コースに入れるのか。
・ 国家試験対策の講座について、看護学科であればほとんどの学生が受けると思うが、他の学科は、希望者となる。希望者が 1 人や 2 人でも対策講座をしているのか。
・ 副専攻「吉備の杜」という非常に特色ある教育をしているが、授与される県立大学独自の資格である「地域創生推進士」は、例えば就職時に役に立つというようなメリットがあるのか。また、副専攻には、どの学科学部から進んでいるのか。自分の学科に所属しながら副専攻も学ぶとなると、カリキュラムや授業の取り方も変わってくると思うが、どうしているのか。
・ これから少子化で、入学者を集めるのが非常に厳しくなる。今のところ、入学者を非常にうまく確保しているが、今後、入学者を確保するために、将来的に 5 年、10 年先を見据えて、対策を練っているのか。入試で志望動機を聞くと思うが、なぜ県立大学を受けたのか調査しているのか。他の大学でなくて県立大学を受けたいという理由は何だったのか。
・ 大学院の入学者について、学内からか、学外からか、あるいは社会人からか。社会人の大学院コースというのはあるのか。例えば臨床心理士などは大学院に行かないと取れないが、大学院への志望動機が聞きたい。

＜大学側＞

・ 内部質保証について、令和 4 年度から学長主導の下、新しい体制が作られた。学長、副学長、図書館長、事務局長等の執行部でもPDCAサイクルを回し、各学部および各学科でもPDCAサイクルを回して、両方の組織が相互にコミュニケーションを取るシステムである。さらには、グ

ローバルセンター等の各種センターでもPDCAサイクルを回して、これら 3 つの層が相互連関しながら新しい方向性を決め、実施し、評価し、また新しい方向性をさらに検討する流れとなっている。それらをつなぐ組織として、内部質保証推進会議がある。

・ 学部としては、学部自治という理念の下、自分たちで課題発見をして解決していくことを意識している。最近では、労働環境の改善として、各学科の教員の負担について検討して改善する計画を立てたり、去年は防災のために学部の空間を整備した。
・ 学修の達成度については、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを基に達成できているかを、最終学年だけではなく、その他の学年も対象に調査アンケートを実施する予定である。現代福祉学科と子ども学科が新学科であるので、より詳細な調査項目をモデル事業として実施する予定である。アンケートは学生の負担が大きいものの、たくさん実施しており、回収率を上げるための声掛けも何度もしている。それらの結果を基に、たとえば、令和 5 年度のシラバスからルーブリックを一部導入している。
・ 学内、学外から社会人が大学院に入学している。キャリアップのために入学する学生が多い。

＜大学側＞

・ 看護学科では、ミスマッチについて、授業の出席率が悪いとか、レポート提出がないとか、授業に関連して気が付いたら、まずはアドバイザーの教員に連絡し、できるだけ早く対処するようにしている。

＜外部評価委員＞

・ オンライン授業はあるのか。ほとんど対面で実施しているのか。

＜大学側＞

・ 基本的には対面だが、オンライン授業もしている。

＜外部評価委員＞

・ オンライン授業になると、本当に受講しているのか、授業が分かっているのか、判断が難しいので、試験はオンラインではなく対面で実施している。やはり学生が大学に来ていろいろ学び、きちんと身に付いているということが保証されて社会に出なければいけない。単に試験だけ受けて単位が取れたから社会に出るということではいけない。学修成果をどう判断するかが非常に難しい。

＜大学側＞

・ 授業は大体、双方向の授業を基本にしている。
・ 現在、2 年次生で、成人式の関係で休む人が 10 名程になり、オンラインに変わった科目もあるが、基本的に専門科目はオンラインでは実施していない。

＜外部評価委員＞

・ コロナに感染したり、あるいは濃厚接触者になれば、大学に来られないから、その期間はオンラインになるのか。

＜大学側＞

・ 体調が良ければ授業に参加できるように Teams を併用してハイブリットで講義を実施するなど工夫している。

＜大学側＞

・ 栄養学科では、少し分野が合っていないと思われる学生や、心理的課題によりなかなか授業についてこられない学生が増えてきている印象がある。教員は、課題があると感じた学生については、定期的に会議をして、他の科目ではどうかというような情報を共有しつつ、状態が悪い学生は、アドバイザー教員や担当教員が面談してサポートをしている。それでも休学する学生は、どうしても一定数いるのが現状である。

＜大学側＞

・ 現代福祉学科は、資格を取得する科目が多く、ほぼ全員が受講する授業が各学年にあるので、授業担当の教員から、欠席が 2 回、3 回と重なるような状況になった段階で、アドバイザー教員と学科長に連絡が入るようになっている。それを受けて、アドバイザー教員から連絡を取ったりしている。連絡がつかない学生には、その次の段階として、保護者に連絡をするというように段階的に対応して、何とか状況を把握したり、学生の希望に沿うように話をしている。

＜大学側＞

・ 子ども学科は、4 学科の中で一番定員数が少なく、教員 1 人が担当する学生の割合が低い。それに加えて、学年の横のつながりだけでなく、縦の異学年とのつながりが非常に親密な学科でもある。そのため、教員のサポートはもちろんだが、学生のピアな関係が出来上がっており、成績不振で退学する学生はいない。

＜大学側＞

・ 現代福祉学科のコースについて、定員 35 名の全員が社会福祉士国家試験受験資格を取得できるようにしている。そのうち、2 年次に上がるタイミングで、介護福祉マネジメント学コースに 10 名という上限を設けている。取得できる資格については公表しており、入学時あるいは 1 年次の 12 月に、それぞれのコースの特徴等を説明してコース選択をさせている。どちらかに偏るということではなく、社会福祉学コースに入って、そのまま進級していくという例が今のところは多い。

＜大学側＞

・ 看護学科では、国家試験は全員が受ける。国家試験対策の授業はないが、学生主体で模試を 1 年に 5 回～6 回受験できるようにしている。

・ 少子化に対応する入学者確保については、入試の面接や志望動機では、表向きかもしれないが、チームで学べる授業があるなどの話があった。ほかで学べないことがここで学べるということを強調していきたい。

＜外部評価委員＞

・ 受験生は、資格を取りたいということで受験するのだと思うのだが、看護師は他の大学でも取れる。岡山県立大学に入学したいという強い動機には何があるのか。

＜大学側＞

・ 近隣の大学では、助産師国家試験の受験資格を大学院で取得するようになっているためか、助産師国家試験の受験資格が 4 年間で取れるから本学を受験したという理由が多くなっている。先ほどお話になった養護教諭の免許が取得できるコースも加われば、強みになると思う。

＜外部評価委員＞

・ そのような魅力やここにしかないものがあれば志望動機につながる。

＜大学側＞

・ 4 学科の中で、一番岡山県内の出身者が多いのが看護学科であるので、家から近いという動機で受験する学生も多いかもしれない。ただ、今後、先ほどお伝えしたような考えをもとに魅力を発信できるように頑張っていきたい。

＜大学側＞

・ 栄養学科では、ほぼ全員が管理栄養士の国家試験を受験するので、国家試験対策は、全員に対して、模試等を行っている。
・ 少子化に対する入学者確保については、非常に難しい問題で、我々もずっと考えている。岡山県内で管理栄養士養成施設は私学にもたくさんあり、本学も少しでも他と違った特徴を出して、本学を選んでいただければと思っている。今後、健康寿命の延伸に加えて、持続可能な社会の実現が大事になるので、単なる健康にいい食というだけでなく、食品の生産から開発・消費まで、トータルな知識が必要になってくると考えている。
・ 食品の機能性や開発などを研究している教員も多くいるので、食品というところに少し重点を置きつつ、ほかの大学の管理栄養士養成施設とは違う特色を出せたらと考えている。

＜大学側＞

・ 他の私学に比べ、本学は基礎的な科学的知識や、それに伴う技術も含めて、実験実習等で非常に充実した内容を備えている。これは維持しつつプラスアルファで、社会のニーズに応えられるように、現在求められている食の機能性も含めて、食品科学の分野を強化していくことを構想中である。それは、大学院でも同じである。

＜大学側＞

・ 大学院看護学専攻では、人数や場所などもあるが、ナース・プラクティショナーやAPN・高度実践看護師など、新しいことができたらと思う。いい教育をしていればそれになりに評判になるので、続けていけたらと考えている。

＜大学側＞

・ 現代福祉学科では、社会福祉士の国家試験をほぼ全員が受験するので、国家試験の対策講座もほぼ全員が受講している。教員が、正規の授業が入っていない時間帯で講座を用意している。また、4 年次生になると、それほど授業は多くないため、その時間を使って外部の業者の模擬試験を受験させる対策をしている。国家試験の受験者が少な過ぎるということはない。
・ 少子化に対する入学者確保については、現代福祉学科という新しい学科に改組し、現代の新しい課題に対応できるような人材を育成しているということを、積極的にアピールしていきたい。

今の在学生がなぜ本学を選んだのかについては、1 年次生を対象に調査をしている。資格取得ができるために本学科を選ぶ学生が多い。

＜外部評価委員＞

・ 1 人が複数の資格を取れるようなシステムもあるのか。

＜大学側＞

・ 社会福祉士をベースに、精神保健福祉士やスクールソーシャルワーカーがあり、将来的には子ども家庭福祉ソーシャルワーカーという新しい資格もある。

＜外部評価委員＞

・ カリキュラム上は、たくさんの資格を取ることに問題はないということか。

＜大学側＞

・ 単位の実質化という面で、単位があまり多くなり過ぎないように、積み上げる形になっているので問題ない。4 年間で取得できる余裕のあるカリキュラムコースになっている。

＜外部評価委員＞

・ 資格を取っても就職先がないということになると困る。

＜大学側＞

・ 子どもの貧困や虐待、認知症、外国人労働者など新しい社会的課題にどんどん取り組んでいくような学科にしたいと思っているし、これは国でも推進していることなので、今の流れに合っている。

＜大学側＞

・ 子ども学科は、国家資格の受験がないので、対策はしていない。ただ、公立の園を希望する学生には、公立試験対策講座を実施しており、1 名でも 2 名でも希望があれば、特に実技系・表現系のピアノや図画工作などの指導を授業とは別に実施している。
・ 少子化に対する入学者確保について、子ども学科は近隣の私学に比べて、資格には魅力がない。保育士資格と幼稚園教諭一種が取得できるが、他の大学では、小学校教諭などの資格も取得できる。表面的かもしれないが、「県大そうじゃ子育てカレッジ」で実施している「チュッピー広場」で実際の子どもや保護者に接し、普段の学びを確かめることができることが魅力だと、受験生は言ってくれている。今後は、学校菜園・ガーデンを中心とした植生と食育の実現について、それを幼児教育に引用したり、あるいは保育者養成に関連させて取り組みを広げていき、将来的にはアピールポイントにしたい。

＜大学側＞

・ 地域創生推進士のメリットについて、今のところ「これだ」というものはない。現在 4 学年が地域創生推進士として社会に出ているので、彼らに調査してみようと考えている。
・ 副専攻のカリキュラムのバランスについて、時間割の中に正課の授業として組み込まれているので、それを学生が選択して受講している状況である。また、長期休暇の期間にインターンシップや地域での実習という学習プログラムが組まれている。しかも、地域創生推進士の場合は

1･2 年次生の間に主な授業科目を受講するので、専門科目との兼ね合いはバランスが取れている。

＜外部評価委員＞

・ 私どもは、岡山県内で、食品、生活用品、生活に必要なものの供給をベースにしながら、福祉事業もしており、現在、岡山県下全域で、大体 43%ぐらいの世帯に加入していただいている。これから人口も胃袋も減ってくるので、我々の事業体としても、地域とともにというのが欠かせない状態にある。それから、当然、生活に関わる全てのことをしているので、ライフタイムバリューと言っているが、ゆりかごから墓場まで生涯にわたって貢献できる事業を中心に据えており、保健福祉学部の学修や取り組みが、生活協同組合の取り組みと親和性があるなと思った。
・ 地域との連携がないとあり得ない学部であるという説明があったが、いろいろな学修の中で、地域をどう意識させようとしているのか。あるいは、今後いろいろなことをしようと思うと、いろいろな組織と連携していかないといけないが、地域の中の組織との連携をどのように意識付けているのか。吉備の杜では、フードビジネスの講座を担当して協力しているが、吉備の杜の他に、日常的な教育の中でどのように地域ないしは連携ということを意識させているのか。
・ 今年度はできなかったが、保健福祉学部と連携して食育に関わる実践をしている。我々も消費者組織として食育は大事にしている。地味なテーマではあるが、今、食に関する関心が結構低くなっている。食事を作ることにかける時間も減っているし、みんなで食卓を囲むこともなかなか難しくなっている。食育や、その取り組みについてどのように考えているのか。希望としては、強化していただきたいと思う。
・ 食料自給率や岡山地産地消などもぜひ広めてほしい。
・ 希望になるが、我々は岡山の中でしか事業ができないので、岡山で優秀な人材が欲しい。ぜひ、岡山に残る優秀な人材を育てていただきたい。何でもかんでも東京一極集中にならないような育て方をしていただきたい。

＜大学側＞

・ 地域について、看護学科では、今年度からカリキュラムを改正し、1 年次生で病院実習に行く前に、地域でどういう生活をしているのか、まず生活者を知るということで、地域の障がい者施設や老人施設などに行っている。その次に、病院で実習をして、最後の 4 年次生で、地域で健康課題を持った方々を支援するために、地域の中のシステムや施設などを、どうつないで支援したらいいか、連携について考える実習を新たに導入した。

＜大学側＞

・ 地域について、栄養学科では、ほぼ全ての学生が地域の施設で隣地実習をしている。その際に、地域の医療や福祉について勉強するので、意識していると感じている。また、4 年次生の卒業研究で、地域の自治体や企業と協力して研究を進めるテーマを持っている学生も多いので、そのような学生の研究を通じて、周りの学生も地域を意識してくれていると考えている。
・ 食育について、臨地実習で小学校などの給食施設に行く学生が多く、食育に関することを前もって準備したり、どういう話をするか勉強している学生が多い。栄養学科では、全員ではない

が栄養教諭の免許状が取れるので、毎年数人が小学校や中学校の栄養教諭の免許状を取得している。そのような学生は、特に教育実習に行く前には、小学生にどんな食育をするか準備を一生懸命しているので、食育にも力を入れていると考えている。

＜大学側＞

・ 現代福祉学科では、社会福祉士のソーシャルワーク実習で、地域へ出かけていってお世話になっているものが 3 年次にあるが、その前に現場のことを知るために、外部講師にお話しいただき、地域の実情を学ぶ機会を設けている。他には、副専攻の吉備の杜で、実際にボランティアをすることを設けているが、特に保健福祉学部の学生は、この副専攻にも興味を持つ学生が多い。

＜大学側＞

・ 子ども学科では、県大そうじゃ子育てカレッジ事業で、地域子育て拠点「チュッピーひろば」を開設しているが、そこで日常的に地域の保護者と関わる機会がある。
・ 食育に関して、出前講義でおかやまコープと一緒に学生が共同で研究させてもらっている。その縁もあり、今年度は特別講義で、食に関して、京都府立大学の先生と岡山大学名誉教授の先生をお招きし、2 回にわたってシリーズの食の講義を学生に聞いてもらって知見を深める努力をしている。

＜外部評価委員＞

・ 看護学科の教育の特色の中に、VRを活用した教育方法を導入したとある。4～5 年前に、病院でもVRを用いて認知症の疑似体験を行うことを少し取り入れたりしたが、学生もそのようなことをしているのか。
・ 医療は非常にDX化が遅れている分野であり、電子カルテすら入っていない病院がまだたくさんある。一方で、2024 年に医師の働き方改革が始まるので、効率化を進めていかなくてはならない。看護学科に限らず、学生に情報システムの面での力をつけるような機会があれば、現場に出たときに助かると思うが、そのような取り組みはあるのか。
・ 現代福祉学科の就職セミナーで、公務員への希望が多いとあるが、現代福祉学科は、公務員をはじめいろいろな福祉の分野で働く窓口があるので、公務員以外にも就職してくれると嬉しいと思う。
・ 救急医療をしている病院では、最前線で第一に虐待を発見することが非常に増えている。当院では、年間 80 件ぐらいの児童虐待に対応しており、多くは支援につなげているが、性的虐待についてあまり知らない関係者もおり、検察や警察や児童相談所の誰か一人が面接を行って、同じことを何度も聞かないということも、学校でももちろん学んでいないし、現場でも知らないというような状況もある。そのようなことも学校で学べる機会があれば、これからは本当に役に立つと思う。
・ 社会の情勢が変わっていく中で、現場で対応するスタッフは、もちろんプロとして働かなければならないのでしんどい思いもする。特に医療の分野だと、日々病気か怪我の人しか来ないので、職員側のメンタルヘルスはとても大事だと思う。学生が、就職して早いうちにメンタルが不調に

なると、どこでトレーニングを受けるかということも職場としても考えないといけない。また、就職したら全然違ったということがないように、学校で病院とはどういうところかという基本的なことを知った上で、就職してほしいと思う。気持ちの切り替え方や、病院の看護・栄養について、社会福祉士などは、基礎的な研修の中で自己覚知を行ったりするが、それを早い段階から取り入れることで、日々自分の気持ちの持っていき方を学んできてくれると、実際の仕事の現場ではとても役に立つので、ご検討いただきたい。

＜大学側＞

・ 就職セミナー、虐待とメンタルヘルスについては、各学科長と相談して、よりよい方向性について考えていきたい。

＜大学側＞

・ VRについて、文部科学省の補助金で整備を行っているが、患者に声を掛けて血圧を測るとか、環境を整えるとか、ケアをするなど、いろいろなストーリーが入っている。実際にケアや看護技術は実践しないが、血圧計が出てきたり、患者さんが反応するので、声掛けや全体の様子がイメージできるというものである。急性期の演習で取り入れたり、オープンキャンパスで高校生に紹介したりしている。
・ 統計学は以前から共通教育で必修科目として学んでいるが、カリキュラム改正によって、看護情報学が今年度から新しく導入された。

＜大学側＞

・ 統計処理の科目は子ども学科以外の各学科に設置されており、高度な分析もできるようなレッスンをしている。コンピューターの統計ソフトを使って学んでいる。
・ 貴重な御意見をありがとうございました。

3 情報工学部・情報系工学研究科

(1) 開催日時

令和５年１月17日(火)10:00～12:00

(2) 外部評価委員名簿

畫田眞三　ヒルタ工業株式会社　代表取締役会長
中島義雄　株式会社システムズナカシマ　代表取締役社長
豊田晃敏　岡山県立総社高等学校　校長
菅　誠治　岡山大学工学部長
万殿貴志　株式会社英田エンジニアリング　代表取締役
茅野　功　川崎医療福祉大学教授

(3) 委員会の概要

＜外部評価委員＞

・ グローバル教育支援について、９人の方がお話をされているが、このうち民間人が３人おられ、３人とも存じ上げている方であり、私の年齢からすると１世代下の方々である。1世代下の人

たちは、国際結婚するケースも多いし、グローバルに活躍している世代の人たちが多い。こういう方たちは、こういう立ち位置でスピーチをする、発信するということに慣れている。そういうことがものすごく重要だと思っている。

・ ウイングバレイという協同組合には実質的にファンドがオーナーの会社がある。中小企業なのになぜファンドが買ったのか、買う価値があったのかというと、それは会社の中身があるという評価だ。規模的にそんなに大きいわけではないけれど、世界を相手にビジネスをしているケースが多いので、そういうことが評価されての話だと思う。そこでは、岡山の人がグローバルに出ていって仕事をしていることが評価されている。そういった仕事の後継者づくりや人づくりの面をもっと発信していけばいい。

そういう会社は、あまり規模が大きくないので地味である。新卒大卒採用では、結構皆さん苦労していると思う。でも、入社すると、中小企業であるが故に個人の守備範囲が広い。そうすると、会社の中での役割も広がるし、そこは大企業とは違うところだと思う。そういうところに面白みを感じることはできるのではないか。そういった意味で、インターンシップも非常に役に立つと思うので、企業側の発信も必要だし、それを受け止めていただくことも重要であると思う。

＜大学側＞

・ この人の話は面白そうだよという方がいれば、ご紹介いただけると、ご講演をお願いしたいと思う。

＜外部評価委員＞

・ 岡山県中小企業団体中央会の中に最近「岡山県ものづくり女性中央会」が発足した。女性経営者は、ものづくりに絞ると、実際には苦労した人ばかりである。男社会でやってきましたという方々の集まりなので、ものづくり女性中央会に来る人はみんなよくしゃべる。そういうことは、もう今の時代、当たり前である。ダイバーシティというか、そういうことがものづくりの世界でも増えていくと思う。そこのメンバーとの交流などは、結構面白いと思う。

＜大学側＞

・ ありがとうございます。

＜外部評価委員＞

・ 入学者選抜の状況で、男性と女性の割合が出ている。特に今年は、男性が123名、女性が22名で、やはり女性の割合が低い。もちろん、合格者にいなければどうしようもないが、何らかの手を打っていかないと。経営者にも女性が増えて、会社の中にも女性のエンジニアを置くとか、ものづくりをやっている方もいらっしゃるので、そういう方をもっと増やすということをぜひやっていただきたい。

・ ディプロマ・ポリシーの達成度の中で、「世代や言語や文化の相違をのりこえてコミュニケーションを図ることができるか？」が少し低い。具体的にどうやってコミュニケーション能力を伸ばそうと思われているのか。

＜大学側＞
・ 本学では、地域連携教育により学生を外へ出すようにしている。学内の授業でもディスカッションや、グループワークでものづくりをさせるとか、できる範囲でやっているというところである。そのような取り組みを少しずつ増やしているところで、なんとかコミュニケーション力を伸ばそうと考えている。

＜外部評価委員＞
・ 学部では、なかなか対話するのは難しいが、例えば卒業論文を 2 人でチームを組んでやるとか、そういうことがあると少しコミュニケーション能力が上がるのかなという気がする。
・ 技術者なので、技術のテーマの中で具体的に話をして、お互いに相手のことを聞くことを経験させていくのが重要であるので、そういう機会をできるだけ増やしていただけたらと思う。
・ 外部資金が入ってきていない、共同研究が減ってきているのが気になる。これはもちろん、経済環境の問題もあると思うが、やはりアピールというか、もう少し宣伝もしっかりして、先生方がもっと地元の企業に入っていって、何かを一緒にやることを提案していかないとなかなか増えないと思う。これは、地元とのつながりもたぶん大きいと思うので、ぜひそういうことをもっと地道に頑張っていただければと思う。

＜大学側＞
・ 学部内で共同研究を推進しているが、なかなか一気には伸びない。いろいろな対策を考えてやっていく。

＜外部評価委員＞
・ インターンシップは今もやっているが、必修にするなどしていただくと。もちろん受け入れ側の企業の問題もあるのかもしれないが、地元の企業から見ると、インターンシップの学生といると、その学生の中身がよく分かる。特に 1 時間、2 時間の面接ではなかなか分からない部分が、やはり長時間一緒にいるといろいろと分かる。それはお互いさまで、学生も会社の雰囲気がよく分かると思うので、もっともっとやっていただくと、地元の就職率も増えるのではないかという気がするので、ぜひその辺に力を入れていただきたい。

＜大学側＞
・ 必修にすることは難しいと思うが、履修を促すことには力を入れている。

＜外部評価委員＞
・ 県内の就職率が少し低い、55％以下である。そこをどうにか増やしていけるようなことができたらいいと思う。やはり、県立大学のユニバーシティー・ポリシーは地方創生とか地域で活躍する人材育成ということだと思うので、県内の就職率を高くするというのが、一つの非常に大きな目的ではないか。
・ 県内からの入学者が多いと県内の就職者も多い傾向があるとおっしゃられたが、実際そういう気がする。ここ数年、高校現場も大学進学をする時に県内志向というのが非常に高くなっている。浪人をしない、親が県外に行けと言っても県内がよいという生徒も非常に増えているので、

県内に目が向いているという意味ではいいと思う。県内からの入学者が増えるよう、いろいろな学校との連携をさらに進めていくことも一つかと思う。

・ エンジニアリング演習等を受けている学生は、やはり県内の就職が多いという話があった。長期インターンシップやグローバル教育もそうなのだろうが、一部の学生だけが対象になってしまっているところが、一つ大きなところではないかなと思う。できれば、たくさんの学生が、インターンシップや、県内の企業との連携やつながりができるような工夫というのがあればいいと思う。
・ A～Hまであるディプロマ・ポリシー、卒業時の到達点になると思うが、それを実現するためのカリキュラム・ポリシーがあって、最終的にディプロマ・ポリシーの達成度の確認をアンケートで進めているということだが、もう少し系統性があれば分かりやすく、評価もしやすくなると思う。
・ 学部のディプロマ・ポリシーはA～Hまであり、カリキュラム・ポリシーもA～Hに相当するものが明確化されているが、できれば、それぞれの相関や関連が見えればいいのではないか。卒業時アンケートのディプロマ・ポリシーの達成度を図るものについても、A～H部分の相関がもう少し見やすくなれば、もっと評価しやすく、確認して改善が図りやすくなってくると思う。
・ ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーについては、大学院は割とリンクされているのではないかなと思う。学部も、もう少しそのあたりをリンクしていただいたら分かりやすく、評価もしやすくなると思う。

＜大学側＞

・ ありがとうございました。

＜外部評価委員＞

・ ディプロマ・ポリシー等のポリシー関係について、工学部を新しく改組した際に全部作り変えたが、文部科学省の方針等が随分変わって、それに合わせてやられているのかなと思う。ここ 2 年間くらいで全部の学部を作り変えたので、参考にしていただいたらいいかと思う。作成時には、センター・オブ・エクセレンスを作って、いわゆるディプロマ・ポリシーなどを専門的に見られる方が確認し、論理的に構成する形にした。
・ 何年か前から入学定員に女子枠を設ける話があった。工学部が改組して 2 年経つが、3 年ぐらい前の時点では、時期尚早というか、文部科学省はどちらかというと、あまり OK ではなかった。それが、突然方針が変わって、急に女子枠の話が出て、今、東京工業大学も百何人も枠を作っている。ただ、高校で話を聞くと、女子枠を作っても受ける人がいないのではないかと言われて、どうしたものかなと思っている。
・ やはり優秀な方に来ていただきたいので、男女 50 対 50 の比率で優秀な人に来ていただくような枠を作る、いわゆるクォーター制などで。推薦入試の枠を作っても、そもそも推薦入試は本学も 2 倍くらいで、そんなにたくさんの方に来ていただくわけではないので、どちらかというとインセンティブ的に、例えば入学金に相当するものを奨学金として出すとか、そういうことを考えたほうがいいのではないかという議論をしている。やはりインセンティブを出すとなると、

「女子枠」にすると、男性は「どうして」となると思うので、個人的には１対１で出すというのがいいのではないかと、まだ全然具体的にはなっていないが、そんなことを考えている。

・ 女性で理系の場合は、どうしても資格系である看護師とか、いわゆる医療系に行かれる方が多い。工学系は何年かかってもなかなか増えないという状況は、そもそも不公平だなと思っている。

・ インターンシップに関しては、本学の場合は大手志向が強く、地元とのマッチングがどうしてもミスマッチになる。経済同友会等でインターンシップをしていただいているが、地元就職に結び付かないので、どういう形でするのがいいのか非常に難しいというのが正直なところである。
必修化することについて、今年の４月から大学院を改組して、自然科学系の大学院は一つになる。そのときに必修化しようという話もあったが、それだけの人数の大学院生を受け入れてもらうとなると無理なので、単位化はもちろんしているが、そこは諦めて、できるだけたくさんの人にインターンシップをということで、特に長期・2 週間以上はできるように、プログラムをいろいろ考えているところである。ただ、やはり非常に難しい。

・ ウィズコロナの時代で、少し前まではハイブリッドが必須であり、それでうまくいくと思っていたが、現実は、ハイブリッドにすると学生が来ない。だんだん減っていく。来られないという人がいるからハイブリッドにすると、来ていた人も来なくなるという現象がある。ハイブリッドの部屋も多く作り、また作ろうとしているが、どうしたものかと非常に悩んでいる。貴学はどうか。

＜大学側＞

・ 本学はハイブリッドの設備が整っていないが、やはり、出てこなくてもいいように選択にすれば学生は来ない。ただ、リカレント教育等には活用できそうである。

＜外部評価委員＞

・ やらなきゃいけないという思いが強い人に対しては、どういう形でやるのでもいいし、たぶんオンデマンドの方がいい。でも、学生はどちらかというと、まだやらされている感があるので、どうしてもその辺は難しいと思う。本学も今は原則対面になっているので普通に授業をしているが、オンデマンドやオンラインでもいいと少しでも口にしようものなら、その辺は、やはりそんなものだなと思っている。

＜大学側＞

・ ありがとうございます。

＜外部評価委員＞

・ 「あなたは、地域の問題と国際社会の問題の双方に対応して考えることができますか」の回答が、想像以上に低いような気がする。こういうことは非常に大事なことであり、特に大学院の学生には、もっとこの辺を深めてもらいたいと思うが、どんな対策を考えているのか。

＜大学側＞

・ 対策を検討できていないが、地域の問題などは、そのような授業や講演を１回聞かせないといけないかもしれない。地域の企業さんと共同研究をやっていると、自然とそういう感覚は身に

付くでしょうし、研究成果は必ず国際的なものであるので。ただ、地域というものに目を向けさせる工夫を、もう少し考えてみる。

＜外部評価委員＞
・ 県内就職率を上げるいい方法がないか。岡山県立大学協力会として一生懸命やっているが、なかなか上がってこないのが現実なので、いいご意見があれば教えていただきたい。
＜外部評価委員＞
・ 今、情報系の人材を増やすということで、文部科学省も相当お金を投入すると言っている。特に情報系の学生は、首都圏や都市部に流れているというデータがあり、そうなっているので全体を増やすしかないということを、文部科学省や政府は言っている。おそらく、ここ数年間で情報系人材の大学の入学定員は相当増える方向にいく。そもそも学生がどんどん都市部に逃げているので、もっと全体を増やすしかない、答えはそれしかないと思う。
＜外部評価委員＞
・ 親御さんも、やはりネームバリューというか、有名な大企業のほうがいいと言われるようである。
＜外部評価委員＞
・ どうしてもそういうふうに言われる。おっしゃるとおりである。
＜外部評価委員＞
・ 結局、どんどん街に出ていってしまって、特に岡山の県北なので、どんどんシュリンクしてしまっているのが現状なので、なんとかしないといけないと思うのだが。
＜外部評価委員＞
・ 本学の場合は、どちらかというと昔に比べると、どうしても県内就職という人が減っているように思う。親御さんも、都会に出ていいよという感じでいるような気がする。

＜外部評価委員＞
・ 地域の情報技術者の育成という観点では、確かに情報技術者を育てるのは大事だが、一般企業の中で働いているエンジニアに、もっと情報系の勉強をさせることが大事だと思っている。設計だけではなくソフトウエアの開発ということを理解してもらわないと。DXの観点で、システムエンジニアに内容を説明して開発するより、内容をよく知っている人間がソフトウエアを作る方が良いソフトができると思っている。そういう仕組みをもっとやっていただけると、たぶん地域にとっては役に立つだろうと思うし、いわゆる製造業のDX化は、実際にやっている人たちがソフトウエアを組んだほうが早い気がする。
＜外部評価委員＞
・ おっしゃるとおりで、今の政府のいろいろな動きで答申等は出ているが、基本的に機械などを勉強して就職した者が、一番後で勉強するので負荷がかかっている。後で勉強しなければいけないものが情報だというのがデータで出ている。大学の中で、機械だけではなく、機械と情報と両方学ぶようなことが必須になっていくと思う。そこまで、なかなか制度ができていないが、

本学の新工学部ではそういうプログラムに少しずつしている。教える人材もまだ足りないので、なかなか厳しいが、その方向は間違いない。

＜大学側＞

・ 本学部は情報工学部だが、情報システム工学科は、機械工学と情報工学の両方を教えているので、製造業の企業に就職してから Excel のマクロを書いたら、ものすごく重宝がられることがある。

＜外部評価委員＞

・ そういう人材が今、非常に大事だと思う。

＜大学側＞

・ 言われたように、確かに学生数が少ないかもしれない。ただ、少子化も見えているので、なかなか思い切って入学定員を増やすというのも難しい。

＜外部評価委員＞

・ そのとおりで、少子化なのに情報の枠は増やしたいと言っている。あとは、高校との連携、中高かもしれないが、今の女子枠の話もあるが、人材を理系の方に。今年は理系が人気だという話だが、理系に向いてもらい、全体で増やしていくことは必須なのではないか。

＜大学側＞

・ 高校入学時点ではもう遅いと思う。中学生ぐらいにPRしていかないと。

＜外部評価委員＞

・ 前回の意見への対応状況で、「退学率について、アドバイザー制度の効果はあるのか」ということで、面談の報告を義務化しているということだが、理由のトップは何になるのか。

＜大学側＞

・ 集計結果を記憶していないが、学業と病気の 2 項目が多かったと思う。

＜外部評価委員＞

・ もったいない。そういう人の支援をしたいなと考えていて、少しずつやっているが、やはり途中で辞められる人は結構いらっしゃるので、そういう人がもったいないなと思っている。この辺のところがまとまったら、また教えていただきたい。

＜大学側＞

・ 出せるデータは公表させてもらおうと思う。

＜外部評価委員＞

・ イメージだけでもいいので。

＜大学側＞

・ 報告を義務化してから、この前、初めて集計が出てきた。今回は昨年度の評価のため、今年度のデータが含まれていないので、次年度以降、資料に掲載する方向で検討させていただく。

＜外部評価委員＞

・ 貴学の最大の年間履修登録は 48 単位である。本学でも同じような制度があり、最大で 49 単位になっている。ただし、「もうちょっと学びたい単位があるのでなんとかなりませんか」という要望がとても多かったので、GPA の制度を活用し、GPA を 3.5 以上取ると、翌年度の修得単位数の上限が 5 単位増える、54 単位まで修得できるという制度を作って運用している。あまり活用する学生はいないのかなと思ったら、意外といて、好評なのかどうかは分からないが、ありがとうございましたという評価をいただいている。これは、学部というより大学全体の話になるが、参考にしていただければいいのではないか。その制度を使って何を学んでいるかというと、学部を越えた他学部の科目を受けたいというので、それを利用している学生が多い。最近は多職種連携が訴えられているので、他学部の科目を積極的に取りにいくのも非常にいいことだと思う。

・ 大学院について、就職するにあたり、マスターに上がると、自分の専門としている研究に集約していて、どうしても頭がそこにとがってしまう。ドクターにいくと、さらに視野が狭くなって、そこに集約して、どんどん専門性を高めていくことに特化している。そういうときに、せっかく県立大学には、デザイン学部も看護も栄養も保福も、いろんな学部があるので、例えば大学院の中で他学部の講義、あるいは他学部の先生の研究内容を聞くようなテーマが、講義科目として設定されているのであればそれに越したことはないと思うが、そういう機会を増やしていただいて、視野を広く見ていただくと、自分の研究にも、ああそういう考え方もあったのだなということで広がっていくのではないか。研究者はそういうところがすごく大事なのではないかと思うので、そういったところが設定されているのか。

＜大学側＞

・ 全研究科共通の授業は、既にある。ただ、多くの授業を履修しなくてもいいので、視野を広げることを推奨するという取り組みが、確かに必要である。

＜外部評価委員＞

・ 就職について、近年の学生の傾向は、大学によってかなり学生の質が違うので何とも言えないが、本学に関して言うと、受け身の学生がすごく多い。良く言うと、言われたとおりにやってくれる学生が非常に多い傾向がある。そうすると、就職のときに初めて自分で企業を選ばないといけない。どこに行こうか考えたときに、就職支援センターがあるが、そこに来る学生は、我々の想定は、例えば「履歴書の書き方を教えてください」とか「面接練習をしてください」という目的のために就職支援センターを開いていたが、それより前段階で、「私はどこに就職したらいいでしょうか」という質問で来られる件数が、近年すごく多くなってきた。

そこで、本学では一昨年から、就職先は病院がほとんどなので、こういうことを専門とした病院がありますよ、あなたの出身地にはこういう病院がたくさんあって、こういうところを強みにやっていますよね、こういったことをしている企業がありますよという、企業紹介のようなことを就職支援センターの中でもやるようになってきた。もしかすると県立大学の中の学生も、どこに行ったらいいか分からないので、取りあえず大手から攻めていくかと。頭のいい学生でも受け身の

学生はすごく多いので、それで都会に出ていってしまう。実は、県内にもすごくいい企業がたくさんあるのを知らずに出ていってしまっているのもあるのではないかと考えている。

例えば就職支援をしているセンターや、あるいは先生方が、受け身の学生は本当によく話を聞いてくれるので、例えば県内にこんな就職先があるよとちゃんと教えてあげると、実は県内の就職率はもっとグッと上がってくるのではないかと思う。こんな企業があるよという斡旋のポスターも学部の中で結構見るので、たくさんされているのだろうとは思うが、履歴書の書き方とか面接練習などで来たときに、「今どこを希望しているの」「なんで希望しているの」と聞くと、以外と「ホームページでたまたま見て」とか「リクナビで一番上に出てきたから」という感覚で受けている学生が、とても多い気がする。そういったところをもう一回深掘りして、学生に「なぜ今あなたはそこに行きたいと思っているの？」というところから支援していただけると、実は県内に向いてくるのかなと思ったので、参考にしていただければ。

＜大学側＞

・どうもありがとうございました。

4 デザイン学部・デザイン学研究科

(1) 開催日時

令和 5 年 1 月 25 日(水)10:00～12:00

(2) 外部評価委員名簿

梶谷俊介　岡山トヨタ自動車株式会社　代表取締役社長
秋山　宏　岡山県立総社南高等学校　校長
上田恭嗣　ノートルダム清心女子大学名誉教授
大橋宗志　株式会社山陽新聞社　顧問
小野　力　株式会社英田エンジニアリング

(3) 委員会の概要

＜外部評価委員＞

・ 建築というのは男性がこれまで多いイメージがあるが、全国的には女性が増えている。岡山県立大学でも、再編 1 年目の令和 3 年度は、女性 17 人、男性 14 人であり、あまり違いはないが、令和 4 年度の 1 年次生は、女性 21 人、男性 8 人と極端になっている。これは、岡山県立大学建築学科の特色なのか。

＜大学側＞

・ 建築学科は工学部に属していることが多いが、たくさん学科がある工学部の中でも、建築学科というのは異色なくらい女子が多いという特色はある。年々増加しているという統計もある。本学では、もともと改編前のデザイン工学科に建築があったが、そこでもやはり男性が少なくて、2 割から 2 割 5 分程度だった。建築学科になって男性が増えるだろうと思っていたが、実際に 1 年目は増えた。2 年目は減ったが、受験者が減っているわけではない。推測だが、女性のほうが真面目にいろいろなことに取り組んで、合格しやすいのかなと思う。

＜大学側＞

・ おそらく 1 年目の場合は、まだ建築学科は理系のイメージが強く、文系でも意匠系だから大丈夫ですよというイメージを出して広報したせいもあって女性が増えたのかなと思う。建築そのものは、武庫川女子大学なども開設し、女性が増えているのは実情だと思う。

＜外部評価委員＞

・ 卒業時アンケートについて、「幅広く教養を身に付けましたか」「専門的な知識や教養や技術を身に付けていますか」「コミュニケーションを図ることができますか」の問いの回答を見ると、そんなに不満がないように思うが、「全般的に本学の教育に満足したか」の問いに、12％が「あまりない」「ほとんどない」を選んでおり、これはどういうところでそう思ったのか調べているのか。

＜大学側＞

・ 例えば、コミュニケーションの部分でも、英語が頭にあって、英語があまり身に付かなかったと思っている学生が多いから、それが影響していると思う。専門的な知識は、ある程度身に付けたと感じている学生が多いと思うが、やはり教養については、入学時から非常に不足しているというのもあって、本学も共通教育に力を入れているが、なかなか専門以外のものに興味を持たないという傾向が高いという結果かなと思う。

＜外部評価委員＞

・ 最後の、「全般的に本学の教育に満足しましたか」の問いに、10 人に約 1 人が否定的な反応を示しているが、どこに満足しなかったのか気になる。そこは、くみ取って生かしていかなければいけないのではないかなと思う。

＜大学側＞

・ 学生は、いろいろアンケートに非常に多く答えていて、かなりストレスを感じていると思う。その中で、アンケートにどこまで正確に答えてくれているのかというのは非常に難しいところである。
・ 教員の授業評価もあるが、私見だが、いい授業ほど評価しない意見もある。だから、ある程度は仕方がないとは思うが、なぜ満足しなかったかという原因は、卒業時なのでなかなか難しいが、その意見も聞いていけるようなことがあれば生かしていきたい。

＜外部評価委員＞

・ オープンキャンパスが初めてということだが、学園祭に合わせて開催したのが初めてということか。

＜大学側＞

・ そうである。

＜外部評価委員＞

・ 入学前教育について、これは推薦入試合格者への特典のようなものなのかと思う。

＜大学側＞

・ 推薦で入学した者は、合格から入学するまでに期間があるので、せっかく熱いのが冷めてしまっても駄目なので、そこの部分をフォローするためにやっている。

＜外部評価委員＞

・ 一般入試合格者と差を付けるのもどうかと思うので、推薦入試合格者だけではなく、一般入試合格者もしてはどうか。それから、入学前教育をした人としなかった人の差が、大学に入ってどの程度出てくるのかも気になる。もし効果が絶大なら、一般入試合格者も入学前教育をすればいいのではないか。小中接続とか中高接続とかいろいろな問題があるが、これは高大接続であり、重要な問題だと思う。

＜大学側＞

・ 入学前教育がどれだけ効果があるかについて、入学前教育を受けた者と受けていない者の差は、入試の違う選抜を比べることになるのであまり意味がないのかなと思っている。総合選抜が一番早い時期にあり、学校推薦型、それから一般選抜と実施するが、これをまとめてやる期間がない。本当のことを言えば入学後のほうがいいが、それは現実的ではない。今の入学生を見ていると、入学前教育より、入学後教育でさまざまな科目をもう一回やってもらわないといけないように思う。

  入学前教育の在り方については、各学科で考えており、その成果については、学科から回答する。

＜大学側＞

・ ビジュアルデザイン学科では、英語をあえて組んでいる。その理由は、英語の学力が不足していると思われるからであるが、担当の教員からは、その効果はあまり出ていないと聞いている。一般入試の合格発表が 3 月 8 日くらいだが、その後、合格をした学生たちは住むところを決める等、いろいろやらないといけないことがあるので、入学前教育に対応できるような期間がそもそもない。一般入試の合格者に対して入学前教育を実施するのは困難かなと思う。

＜外部評価委員＞

・ 就職内定状況が 100%という素晴らしい数字で驚いたが、どのようにしてこの結果になったのか。また、県内の就職者が去年よりだいぶ増えており、良かった。コロナ以外にも教員の皆さんのご努力もあるのでしょう。

＜大学側＞

・ 県内の企業を知ってもらう機会に連れて行ったりして、県内への就職への意欲となったと思われる。また、各先生方が意識して努力した結果もあると思う。

・ 最初から就職する意志がない学生、例えば作家活動をするといった学生を、今までは分母に入れていたが、外した。

＜外部評価委員＞

・ 副専攻の「岡山創生学」について、地域創生推進士は、地域に貢献できる人材を育てるという県立大学らしい取り組みだと思うが、デザイン学部の学生が 2 人しかおらず、ほかの学部に比べて極端に少ない。何か理由があるのか。

＜大学側＞

・ 一生懸命進めている。県内の企業と一緒にプロジェクトをやる大学院生が対象の「創造戦略プロジェクト」という科目があるが、大学院生はデザイン学部だけ必修科目にしており、情報工学部や保健福祉学部は必修ではない。必修にしてもそれが認定されないということは、ほかの科目を取っていないということである。学生にヒアリングをしてみると、やっぱり負荷が大きいようである。実際に建築学科の学生が受講しているのを見られて、どうか。

＜大学側＞

・ 「地域創生クリエイター」と「地域創生推進士」があるが、授業のつくり方が違い、地域創生推進士は、どちらかというと情報工学部や保健福祉学部の先生が中心になって実施している。学部の取り組み方の姿勢が違うので、学生もそれを敏感に受け取って受講生自体が少ない。地域創生推進士が 2 人しかいないということだが、彼らが逆に非常に奇特な人だと思っていただきたい。

＜外部評価委員＞

・ 学部の特性を反映しているということか。

＜大学側＞

・ そうである。

＜外部評価委員＞

・ ホームページが新しく変わって、非常に見やすくなっている。

・ コロナ禍における授業形態について、基本は対面とオンラインのハイブリッド形式であることは、高等学校とまったく同じである。高等学校では、対面のほうが子どもたちに対しては効果があるという認識をしているが、やはり不安で登校ができない生徒もいる。そういう時には配慮という形でしている。中には、わがままかなということも見受けられるが、大学でそういうところがあれば教えていただきたい。

・ 大学の先生方は、学部の特性もあるが、どちらが授業がしやすいのだろうか。

＜大学側＞

・ 本学でも、演習科目等は対面でないとできないし、講義科目でもグループで検討するという部分もあるので、多くの学生は対面を希望し、多くの先生は対面を希望している。それもあって、人数の制限がある中、例えば、スタジオでの撮影などは、スタジオという閉鎖空間の中で、外光も入らないようドアも開けっ放しにできず、入れる人数に限界があるので、もともとクラスを 2 つに分けているのをさらに 2 つに分けて、同じ授業を 4 回実施した。先生方も対面では大変なご苦労をしながらというのが事実である。

・ また、学生にちょっとわがままな部分もあるかなと思うが、それを放っておくわけにもいかないので、ハイブリッドでオンラインでの参加を認めるという形にしている。

＜外部評価委員＞
・ アクティブラーニング導入率について、学部の特性もあるかもしれないが、実施率が 100％である。高等学校も、令和 4 年度から大きく新学習指導要領が変わった。観点が 3 つあり、3 つ目の観点が「授業で学び合う力」で、主体的・対話的で深い学びという項目があり、高校でもアクティブラーニングの授業を導入していきましょうということで、各高等学校が工夫をしながらやっている。年に何回かは高校での授業を見るが、どうしてもかたちにこだわって、ちょっと授業をしたらすぐに近くの席で班を形成して、「これについて話をしてみましょう」という授業が散見され、半分くらいは雑談をしているのかなということも見受けられる。大学では、どうなのか。毎回の授業ではないと思うが、どのくらいの頻度で学生と対話をするような授業形態にしているのか。

＜大学側＞
・ アクティブラーニングは、無理やりアクティブラーニングの形式にしているというのが現状である。これは私見だが、80 名くらいの授業で、これをグループ分けするだけでも手間がかかって無駄な時間がかかり、ほとんど効果がない。そこで、予習として、授業の中ではほとんどやらないが、例えば与えているテーマに沿ってグループで相談して実地調査する内容で、どういうかたちで進めるかをグループで話し合うというぐらいの程度にしている。

＜外部評価委員＞
・ アンケートについて、高等学校では 12 月ごろに取るようにしている。理由は分析をする期間がないためで、忙しいが 12 月ごろ、生徒と保護者と教員について取っている。最近、保護者については、我が子への関心度が数年前より非常に高いので、保護者の方からも、建設的な少し厳しい意見をいただけるので、もし可能であればされてみると、また違う視点でのご意見がいろいろ吸い上げられていいと思う。保護者の方の意見は割とズバッと突いてくるようなところもあるので、参考になっている。

＜大学側＞
・ 就職先の企業へはアンケートをお願いしているが、保護者や教員へのアンケートはないので、これは非常に参考になる。これはデザイン学部だけの問題ではないので、検討していきたい。貴重なご意見をいただき、ありがたい。

＜外部評価委員＞
・ やはり一番は広報で、まず入学してくれないといけないので、高等学校も中学校に対して広報に行く。大抵大学の方が高校に来られると進路担当の先生と面談をすると思うが、その先生が例えば美術やそのあたりに造詣がないと、横に資料を積んでおくだけで担当の先生まで届かない。一番いいのは、手間はかかるが、その学校の美術系の先生まで直接予約を取って行か

れると、非常に効果があると思う。予約を取るのは大変かもしれないが、その方が行っただけの費用対効果はあると思う。

＜大学側＞

・ 貴重なご意見をいただき、ありがたい。特に最後の 2 つは早速検討する。

＜外部評価委員＞

・ まずビジュアルとプロダクトと建築とに、学科を 3 つに分けて、非常に分かりやすくなった。いい傾向である。
・ 2 年間の学生の修学状況について、全学的なことだが、休学などがこの 2 年間ほとんど起こっていない。これは、学生の入ってきたときの思いと教育が比較的マッチングしているのではないか。単純な数の上からの推察だが、そういうことが見えたような思いがする。今までは非常に中途退学とか停学、休学が多かったが、それがほとんど見られなくなっているというのは、非常に素晴らしい流れになっているのではないか。
・ 女子学生が多いのも、これもある意味、受験生の中で、非常に真面目に勉強してきて学ぶ姿勢が付いている学生が、男性よりも女性のほうが多いというのもあるのかと思う。それと、大学にどのレベルでの学生が受験しているのかというのも、一つ大きなポイントにもなるかと思う。逆に言うと、男子学生の魅力を高めるというのも一つある。例えば県外に出てしまう学生を県内に留めるためには、教育の質とか内容を高めないといけない。ただ、県内組では女性の比率が高いのではないだろうか。
・ 試験の枠の中で指定校的な並びで県内の高校が来るが、普通科と職業系・工業系という、そのバランスもあると思う。学生数というのは 18 年先まで分かるので、5 年先、10 年先、大学としてどの位置に立つのかという将来計画や立ち位置をきっちりする必要があるのではないか。特に建築では、岡山県内には岡山県立大学と岡山大学、岡山理科大学があり、これから競争になっていくと思われる。いかにいい学生を集めるかということについては、立ち位置もあるが、5 年先くらいを見つめて教育のレベルを高めていく必要があるのではないか。逆に言うと、受験生の質をいかに高めていくかというのも、非常に重要なことである。
・ 建築でもどの学科でもそうだが、1 期生の卒業生がどこに行くのかということは、非常に重要な視点になる。建築に関して言うと、今建築業界では、5 年先、10 年先と、ものすごく大きく変革の時代を迎えている。設計にしても、BIMなど、今まで経験したことがないようなコンピューターを使う対応が、大きく進化していく時代を迎えている。そういったことに対する教育も、今後は非常に必要になってくるのではないか。当然、建築学科の先生方も分かっておられるかと思うが、今までの教育とは違う手法も必要と感じている。特に設計手法などは相当変わってくる。設計というものの在り方も、これまでの設計事務所という立ち位置が、ゼネコンという大手企業の中での設計部の在り方との違いとが、かなり明確に出てくるのではないか。組織力がないと、よほどの設計事務所でなければ太刀打ちできない時代が来るのではないかという思いを持っている。そういったことに関する教育など、今までにない教育の在り方が求められるのではないか。

・ SDGsは、高校の教育の中でもかなり言われている。今回、学科ごとにパンフレットを作っているが、特にプロダクトと建築というのは、ある意味ではSDGsにかなった分野がたくさんあると思う。建築だと、リノベーションとか、あるものをいかに使うか、保存活用も大きなキーワードとして今、流れがあるので、そういう言葉を学科の紹介の中でも、SDGsという一つの文字ではないが、きちんと表現して受験学生に伝えるということも、重要である。
・ いずれにしても、今後、学生数がかなり減少していくので、これから大学は、いかに残るかということを、5 年、10 年先くらい見越して考えて、教育をしていかないといけないのではないか。併せて岡山県立大学の立ち位置について、どのレベルの学生を集めるのかということも、非常に大きな視点になるのではないか。入試制度もどんどん変わっていき、推薦により早期に決めてしまうという流れが出る可能性もあるかと思う。将来計画、5 年先どういう立ち位置で大学が残っていくべきなのか、当然考えておられると思うが、そういうことをヒシヒシと感じており、何かの参考になればということで一言申し上げた。勝手なことを申し上げたが、全般的には岡山県立大学のレポートの内容を拝見すると、非常にいい方向に進んでおられるのではないかと思っている。

＜大学側＞
・ 3 学科に分かれて、学生から見ると非常に分かりやすくなったというのは事実だと思う。休学者等が減ったというのは、数字に表れていない隠れ休学者もあるので最終的には分からないが、分けたことは成功だと思っている。
・ 立ち位置は、非常に重要なポイントであり、よそにない特色をいかに出していくかということが非常に重要だと思っている。本学の建築学科の場合は、表立ってはあまり謳っていないが、大学院を含めた 6 年での教育という部分を意識している。今度、大学院の入試も改革という部分を含めて、今の学部の完成年度の次の年には、新しい大学院がスタートするという形になるが、そちらでも、推薦入学、学内推薦という制度を導入して、入る前から建築で 6 年間学ぶんだという部分を、一つの売りとして考えていきたいと思っている。
・ SDGsや最近のAIの進歩で教育が変わってくるというのはご指摘のとおりで、SDGsも、小学生、中学生、高校生は授業の中である程度取り上げているが、大学生が一番知らないというのが実際ではないかと思っている。特に、建築、プロダクトは、持続可能という部分が非常に重要なポイントになるので、今後ホームページやパンフレット等で、その部分の取り組みを積極的に広報していくべきだと思っている。

＜外部評価委員＞
・ 卒業時のアンケートについて、「十分にある」という比率が少し低い。「ある程度ある」は結構あるが、やはり、十分良かったという印象を持って卒業する人が、せめて半数くらいはいてほしいと感じる。「ある程度ある」でとどまっているのはどういうところに原因があるのかを、一度検証してみる必要性があるのではないか。「ほとんどない」「あまりない」という人もある程度は出て

くるのだろうとは思うが、もう少し多くの方が「十分にあったな」というかたちで卒業していただけるように、このアンケートを少し深めていただければと感じた。

・ 先ほどのアクティブラーニングや吉備の杜の地方創生推進士が、なかなかデザイン学部としては負荷が大きいという話があったが、SDGsや地域課題にどう取り組んでいくのかという観点で言うと、副専攻になっているということもあるのだろうが、ある意味岡山県立大学の一つの特色だとすると、それを本当にデザイン学部としてもどう活用して、今後の学生の関心をどう向けていくかという観点では、もう少し積極的な取り組みが必要かなと思う。

・ 特に、今回の吉備の杜のポイントは、企業と一緒になって教育をどのように組み立てるかというテーマがあったと思うので、今のカリキュラムでいろいろ課題があるのであれば、どんなカリキュラムにすれば、企業と一緒になって次の世代に、地方創生というか、地域をより良くするためにつなげていけるか、今、大学で学んでいることが地域を良くすることとどう関係していて、自分がどのように役割を果たすかというところにつながるような教育をしていただければと思う。逆にそのことが、企業側にとっても大きな気付きが得られるようなカリキュラムへの転換を、ぜひ検討していただければと思う。

・ 若干、企業の参加者から聞いたが、単なる講義だけではつまらないという話もあった。大学院の講義になるのかもしれないが、もう少し地域と絡めてどうやっていくかということもこれからテーマになるのかなと思う。高卒の学生は減るが、リスキリングやリカレントなど、企業側の教育ニーズはこれから高まってくるのだろうと思う。

・ やはり、デザインという思考は、専門的な職業としての必要性もあるが、一般企業においても、店舗をどう活用していくかとか、お客様に本当に喜んでいただける空間づくりで必要になってくる。いろいろなところで、付加価値を高めるという意味で必要になってくる技能ではないかと思う。そういった意味では、もっといろんなデザインの可能性を発信していただければありがたいなと思う。

＜大学側＞

・ 卒業時アンケートについて、皆さんにご指摘をいただいたということは、これで満足していたら駄目だというメッセージではないかと思っている。やはり、アンケートの結果こうなりましただけでは駄目なので、PDCAサイクルが回るように、なぜこの程度しか十分に満足していないのかという部分を今後調査して、これをどう生かしていくかということを学部として考えないといけない。今後原因を解明して、それをどう生かしていくかということを、次のサイクルとして考えていきたいと思っている。

・ 吉備の杜に関しては、デザイン学部が積極的ではない部分が確かにあると思うので、教員を含め学生にも認識を持ってもらい、地域に貢献する意味、価値という部分を含めて、そこでどう学ぶかを考えていかないといけない問題だと思う。

・ 吉備の杜に、大学全体ではクロスセクションという形で参加しているが、それはほとんど講義だけで、演習の部分は、それなりに一緒になってやっているとは思う。リカレントは、大学の今後の大きな取り組みのテーマにもなるので、リカレントを含めてやっていこうと考えている。今度、新

しくクロスセクションの科目として、デザイン思考という科目を新設したので、企業の方にもいかに興味を持ってやっていただけるかを考えていきたいと思う。

・ 本学の学生が地元の会社でどういうことを求めているのか、一般企業でどういうことに自分の力が生かせるのかという部分が、なかなか認識されていないというのもあって、もう少し積極的にいろんな企業にお声がけをして、先ほどの説明会や、インターンシップのセミナーなどを開催するようお願いしていこうと考えている。

＜外部評価委員＞

・ このたび、建築学科が新たに増え、ポリシー等で「デザインと建築」という表現があったが、そこが分けられていることに関して、自分の大学生時代も今も、建築がデザイン学部の中にあるが、デザインと建築が切り離されているような表現になっているのが、違和感を覚えた。
・ 倫理観について、確かフレッシュマンセミナーは 1 年次生のときに受講したような気がして、もしかしたら 1 年次生に倫理観という説明は早過ぎるのかなと思った。
・ 今日の皆さまのお話に出ていたアンケートだが、自分が在校していたときも、課題があったとしても、一生懸命するグループ、それなりにやるグループ、全然頑張らないグループがあってと、どうしても分かれてしまうのが、こういうアンケートの結果にも直結しているのかなと感じた。社会の構造的には 2:6:2 の法則と言ったりもするが、難しいところではあるのかなと思う。僕自身、先生方も含めて周りの環境もそうだが、モチベーションを非常に上げてもらえたので頑張れたところもあった。学生一人一人のモチベーションをどう上げていくかというところが、アンケートの「十分にある」を増やすために大切ではないかと感じた。

＜大学側＞

・ 倫理観について、各学科で倫理観をポリシーの中に謳っているが、どの科目でとまでは決めてはいない。ご指摘のとおり、倫理観というのは大学生活の中で身に付けていただきたい部分だと思う。
・ 建築の部分はあくまで文章的にそう見えるかもしれないが、デザインの中にある建築学科という部分を売りにしているので、それが分かる表現という部分を今後検討していかないといけないと思う。
・ 卒業時アンケートをフォローしていただき、ありがたい。2:6:2 と言われたが、今は、モチベーションの高い学生と低い学生の 2 つに極端に分かれてしまうようなところがある。これ自体は、アンケートの結果をもう少し分析した上で、今後の対応を考えたい。

＜外部評価委員＞

・ 入学前教育について、それぞれの学科ごとに入学前教育で課題を出しているようだが、逆に大学に入ってからよりも、高校の中でやっておいてほしいことを、入学前に再度大学からもアピールする入学前教育を出すという方法もあると思う。要するに、高校で学ぶべきことが本当にきちんと完全に身に付けられているか、抜けていないかというフィードバックの仕方もあるのかなと思った。基礎的な知識とか、高校のカリキュラムの中で学んでおくべきことがきちんと学べ

ているかどうか、大学側から「やっておいてよ」というメッセージを出していくと、一般入試をする方と同じような学びが継続できていくのかなと思う。大学の方からカリキュラムの違うものを出すと、ちょっと違ってくるかなと思ったりしたので、どちらがいいのか少し検討してみてはどうか。

＜大学側＞

・ 実際難しいところで、現実、高校までの間に学んでおかないといけない部分が、近年欠けているのは事実だと思う。高校までの教育を大学に入ってから学ぶというのはなかなか難しい。これはやはり高等学校の先生方と話をしながら、最低限の部分、数学は微分積分が分からなくてもいいけれども、数字の概念くらいはちゃんと理解しておいてくださいよという部分はお願いもしつつ、高校の先生方の協力なしではなかなか難しい部分もある。大学としては、ここの部分は入る前までにちゃんともう一度学んでおいてくださいよというメッセージは、出していくべきだと思う。
・ 貴重なご意見をありがとうございました。

5 まとめと課題

初回である一昨年度の反省を受け、昨年度から意見交換会の開催を 1 月中旬に行い、結果を次年度の計画にフィードバックできる仕組みを作った。今年度は、フィードバックの確認を含めた実施の初回となった。3 学部・研究科とも、いただいたご意見、ご提案を真摯に受け止め、実行できるものから順次取り組んでいく。また、学部・研究科間に共通する課題、あるいは学部・研究科だけでは対応が難しい課題を切り分け、それらに対応する教育研究の質保証および改善のための仕組みづくりに反映させていく。

付録

A　入試統計

A-1　学部入試

一般選抜　　単位：人　　単位：人

学部	学科	令和4年度						令和5年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学部	看護学科	28	174	109	31	27	3.5	28	80	48	28	28	1.7
	栄養学科	28	140	132	34	29	3.9	28	104	95	39	31	2.4
	現代福祉学科	21	84	42	27	25	1.6	21	79	37	26	22	1.4
	子ども学科	17	48	31	21	19	1.5	17	69	41	19	19	2.2
	学部計	94	446	314	113	100	2.8	94	332	221	112	100	2.0
情報工学部	情報通信工学科	37	514	286	88	35	3.3	37	666	333	85	34	3.9
	情報システム工学科	37	906	499	117	40	4.3	37	837	413	108	42	3.8
	人間情報工学科	27	255	147	49	27	3.0	27	332	183	47	28	3.9
	学部計	101	1,675	932	254	102	3.7	101	1,835	929	240	104	3.9
デザイン学部	ビジュアルデザイン学科	18	52	49	19	19	2.6	18	55	52	19	18	2.7
	工芸工業デザイン学科	18	37	35	22	21	1.6	18	53	50	21	18	2.4
	建築学科	18	51	49	19	16	2.6	18	36	33	21	18	1.6
	学部計	54	140	133	60	56	2.2	54	144	135	61	54	2.2
合計		249	2,261	1,379	427	258	3.2	249	2,311	1,285	413	258	3.1

総合型選抜　　単位：人　　単位：人

学部	学科	令和4年度						令和5年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学部	現代福祉学科	3	33	33	3	3	11.0	3	29	29	3	3	9.7
	学部計	3	33	33	3	3	11.0	3	29	29	3	3	9.7
デザイン学部	ビジュアルデザイン学科	4	48	48	4	4	12.0	4	46	46	4	4	11.5
	工芸工業デザイン学科	4	15	15	4	4	3.8	4	22	22	4	4	5.5
	建築学科	4	28	28	4	4	7.0	4	29	29	4	4	7.3
	学部計	12	91	91	12	12	7.6	12	97	97	12	12	8.1
合計		15	124	124	15	15	8.3	15	126	126	15	15	8.4

学校推薦型選抜　　単位：人　　単位：人

学部	学科	令和4年度						令和5年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学部	看護学科	12	40	40	14	14	2.9	12	38	38	14	14	2.7
	栄養学科	12	23	23	12	12	1.9	12	23	22	12	12	1.8
	現代福祉学科	11	27	27	11	11	2.5	11	33	33	12	12	2.8
	子ども学科	8	24	24	9	9	2.7	8	26	26	8	8	3.3
	学部計	43	114	114	46	46	2.5	43	120	119	46	46	2.6
情報工学部	情報通信工学科	13	29	29	14	14	2.1	13	28	27	13	13	2.1
	情報システム工学科	13	27	27	15	15	1.8	13	32	32	14	14	2.3
	人間情報工学科	13	26	26	13	13	2.0	13	26	25	15	15	1.7
	学部計	39	82	82	42	42	2.0	39	86	84	42	42	2.0
デザイン学部	ビジュアルデザイン学科	8	19	19	8	8	2.4	8	27	27	8	8	3.4
	工芸工業デザイン学科	8	8	8	7	7	1.1	8	15	15	8	8	1.9
	建築学科	8	18	18	9	9	2.0	8	17	17	8	8	2.1
	学部計	24	45	45	24	24	1.9	24	59	59	24	24	2.5
合計		106	241	241	112	112	2.2	106	265	262	112	112	2.3

帰国生入試（出願があった学科のみ）　　単位：人　　単位：人

学部	学科	令和4年度						令和5年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学部	看護学科	若干名	2	2	2	0	－	若干名	1	1	1	1	－
	学部計	若干名	2	2	2	0	－	若干名	1	1	1	1	－
情報工学部	情報通信工学科	若干名	1	1	1	1	－	若干名	0	0	0	0	－
	情報システム工学科	若干名	0	0	0	0	－	若干名	1	0	0	0	－
	学部計	若干名	1	1	1	1	－	若干名	1	0	0	0	－
デザイン学部	ビジュアルデザイン学科	若干名	1	1	0	0	－	若干名	0	0	0	0	－
	学部計	若干名	1	1	0	0	－	若干名	0	0	0	0	－
合計		若干名	4	4	3	1	－	若干名	2	1	1	1	－

私費外国人留学生入試（出願があった学科のみ）　　単位：人　　単位：人

学部	学科	令和4年度						令和5年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
情報工学部	情報通信工学科	若干名	0	0	0	0	－	若干名	2	2	2	2	－
	学部計	若干名	0	0	0	0	－	若干名	2	2	2	2	－
合計		若干名	0	0	0	0	－	若干名	2	2	2	2	－

○倍率＝受験者数/合格者数

A-2 大学院入試

博士前期課程・修士課程　　単位：人　　単位：人

研究科	専攻	令和4年度						令和5年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学研究科	看護学専攻	7	12	12	7	5	1.7	7	9	9	7	7	1.3
	栄養学専攻	6	4	4	4	3	1.0	6	9	8	8	8	1.0
	保健福祉学専攻	7	4	4	4	4	1.0	7	5	5	5	4	1.0
	研究科計	20	20	20	15	12	1.3	20	23	22	20	19	1.1
情報系工学研究科	システム工学専攻	52	78	78	65	60	1.2	52	53	51	49	47	1.0
デザイン学研究科	デザイン工学専攻	7	11	11	9	9	1.2	7	4	4	4	4	1.0
	造形デザイン学専攻	9	2	2	2	2	1.0	9	3	3	3	3	1.0
	研究科計	16	13	13	11	11	1.2	16	7	7	7	7	1.0
合計		88	111	111	91	83	1.2	88	83	80	76	73	1.1

博士後期課程　　単位：人　　単位：人

研究科	専攻	令和4年度						令和5年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学研究科	保健福祉科学専攻	5	12	12	6	6	2.0	5	7	7	7	7	1.0
情報系工学研究科	システム工学専攻	6	0	0	0	0	－	6	2	2	2	2	1.0
合計		11	12	12	6	6	2.0	11	9	9	9	9	1.0

○倍率＝受験者数/合格者数

B 入学時アンケート

B-1 学部入学生

表1 アンケート回答率

	回答数	全数	回答率(%)
看護学科	19	41	46.34
栄養学科	44	41	107.32
現代福祉学科	31	39	79.49
子ども学科	28	28	100.00
情報通信工学科	43	50	86.00
情報システム工学科	55	55	100.00
人間情報工学科	25	40	62.50
ビジュアルデザイン学科	32	31	103.23
工芸工業デザイン学科	31	32	96.88
建築学科	32	29	110.34
全体	340	386	88.08

表2 出身高校分布(都道府県別)

	看護学科			栄養学科			現代福祉学科			子ども学科			情報通信工学科			情報システム工学科			人間情報工学科			ビジュアルデザイン学科			工芸工業デザイン学科			建築学科			都道府県別平均			地方別平均			東西別平均		
	2020	2021	2022	2020	2021	2022	2020	2021	2022	2020	2021	2022	2020	2021	2022	2020	2021	2022	2020	2021	2022	2020	2021	2022	2020	2021	2022	2020	2021	2022	2020	2021	2022	2020	2021	2022	2020	2021	2022
1 北海道									3.23							2.00	2.38										3.23				2.00	2.38	3.23	2.00	2.38	3.16	2.69	3.47	3.19
2 青森県																														3.13			3.13					
3 岩手県																														3.13			3.13					
4 宮城県																																						
5 秋田県																																						
6 山形県																																						
7 福島県																																						
8 茨城県																																		3.55	3.13	2.76		
9 栃木県																																						
10 群馬県																																						
11 埼玉県															2.33																	2.33					
12 千葉県																											3.23					3.23					
13 東京都										5.00															3.13	3.23					5.00	3.13	3.23					
14 神奈川県						2.27							2.10												3.13						2.10	3.13	2.27					
15 新潟県																									3.13							3.13		2.51	3.69	3.45		
16 富山県															2.33		2.38					3.33										2.86	2.33					
17 石川県					2.56		2.60																								2.60	2.56						
18 福井県		2.50		2.70		2.27							2.10		2.33								3.13								2.40	2.50	2.57					
19 山梨県																																						
20 長野県						2.27																	3.13				3.23						2.87					
21 岐阜県				2.70			2.60	4.88						2.00	4.65				2.40												2.57	3.44	4.65					
22 静岡県				2.70	5.13	9.09	2.60											1.82	2.40		4.00										2.57	5.13	4.97					
23 愛知県			5.26		2.56	4.55								2.00	2.33	2.00		1.82		2.44		3.33	3.13				3.23			6.25	2.00	2.58	3.79					
24 三重県	2.50			2.70									4.20		2.33			3.64	2.40	7.32											2.95	7.32	2.98					
25 滋賀県				2.70	2.56	2.27					7.14																				2.70	4.85	2.27	5.28	5.13	5.27	6.50	6.34	6.44
26 京都府							5.30						8.30	6.00		6.10			7.30										6.25	6.75	6.00	6.25					
27 大阪府				2.70		2.27			3.23			3.57	10.40	8.00	4.65	8.20	7.14	5.45	7.30	2.44	4.00		3.13		6.25	3.23		3.45			7.15	5.46	3.69					
28 兵庫県	5.00	2.50		5.40	5.13	20.45	15.80	12.20	6.45	5.00	21.43	10.71	14.60	4.00	11.63	14.30	9.52	14.55	12.20	12.20	20.00	6.67	12.50		3.13			3.45		10.33	8.02	13.76					
29 奈良県				2.70									2.10					1.82							3.13			3.45	3.13	2.40	3.29	2.47					
30 和歌山県				2.70	2.56				3.23			3.57		2.00	2.33	2.00		3.64		4.88					3.13						2.35	3.14	3.19					
31 鳥取県					2.56			2.44		15.00			2.10	6.00			2.38	1.82				6.67	3.13		6.25	3.23					8.55	4.38	2.72	14.54	14.42	13.51		
32 島根県	2.50	2.50	5.26	2.70	5.13			2.44						2.00	2.33					2.44											2.60	2.90	3.79					
33 岡山県	80.00	85.00	73.68	51.40	58.97	40.91	52.60	51.22	54.84	65.00	50.00	71.43	35.40	50.00	41.86	51.00	57.14	45.45	48.80	51.22	52.00	50.00	31.25		40.63	48.39		58.62	43.75		54.89	55.28	50.36					
34 広島県	5.00	2.50		2.70	2.56	4.55	2.60	7.32			7.14		6.30	10.00	6.98		7.14	5.45	4.90	4.88					6.25	9.68		13.79	6.25		4.30	6.84	6.58					
35 山口県				2.70		2.27	2.60	2.44	6.45			7.14	2.10		2.33	2.00	2.38	1.82	2.40	2.44			3.13			3.23		3.45	6.25		2.36	2.68	4.08					
36 徳島県		2.50	5.26		2.56		2.60	4.88	3.23				2.10	4.00	2.33	2.00			2.40						3.13						2.28	3.41	3.60	2.99	4.78	4.29		
37 香川県	2.50		5.26	5.40	2.56	2.27	5.30	4.88	3.23	5.00	7.14	3.57				2.00		5.45			4.00	6.67	9.38		3.13	3.23		6.90	3.13		4.04	5.21	4.39					
38 愛媛県			5.26		5.13				12.90	5.00	7.14		2.10	2.00		4.10	4.76	1.82	2.40		4.00	3.33	3.13		3.13	3.23			6.25		3.40	4.25	5.23					
39 高知県							2.60	2.44					2.10		2.33	2.00					4.00	10.00	6.25		6.25				3.13		2.23	6.23	3.93					
40 福岡県		2.50				2.27		2.44	3.23				2.10					1.82	4.90	2.44	4.00		15.63			3.23			3.13		3.50	2.46	4.76	2.73	2.99	3.15		
41 佐賀県															2.33							3.33						3.45			3.39	2.33					
42 長崎県																				2.44	4.00				3.13	3.23			6.25		2.78	4.49					
43 熊本県						2.27									2.33			1.82							3.13	3.23					3.13	2.41					
44 大分県				2.70									2.10					1.82		4.88		3.33								2.40	4.11	1.82					
45 宮崎県				2.70																								3.45		2.70	3.45						
46 鹿児島県	2.50						2.60							2.00		2.00	2.38						3.13								2.37	2.19	3.13					
47 沖縄県				2.70				2.44																							2.70	2.44						
99 その他															2.33		2.38					3.33									2.86							
n=	40	40	19	37	39	44	38	41	31	20	14	28	48	50	43	49	42	55	41	41	25	30	32		32	31		29	32										

表3 志望順位

		2020		2021		2022	
	項目	度数	割合(%)	度数	割合(%)	度数	割合(%)
看護学科	第1志望	36	90.00	33	82.50	13	68.42
	第2志望	4	10.00	6	15.00	3	15.79
	第3志望	0	0.00	0	0.00	2	10.53
	第4志望以下	0	0.00	1	2.50	1	5.26
栄養学科	第1志望	30	81.08	35	89.74	31	70.45
	第2志望	6	16.22	3	7.69	7	15.91
	第3志望	0	0.00	0	0.00	2	4.55
	第4志望以下	1	2.70	1	2.56	4	9.09
現代福祉学科	第1志望	37	100.00	38	92.68	28	90.32
	第2志望	0	0.00	3	7.32	3	9.68
	第3志望	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	第4志望以下	0	0.00	0	0.00	0	0.00
子ども学科	第1志望	18	90.00	12	85.71	24	85.71
	第2志望	2	10.00	1	7.14	4	14.29
	第3志望	0	0.00	1	7.14	0	0.00
	第4志望以下	0	0.00	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	第1志望	24	50.00	27	54.00	23	53.49
	第2志望	7	14.58	18	36.00	14	32.56
	第3志望	13	27.08	5	10.00	5	11.63
	第4志望以下	4	8.33	0	0.00	1	2.33
情報システム工学科	第1志望	25	51.02	20	47.62	26	47.27
	第2志望	13	26.53	15	35.71	14	25.45
	第3志望	10	20.41	5	11.90	14	25.45
	第4志望以下	1	2.04	2	4.76	1	1.82
人間情報工学科	第1志望	22	53.66	28	68.29	11	44.00
	第2志望	12	29.27	8	19.51	6	24.00
	第3志望	4	9.76	4	9.76	5	20.00
	第4志望以下	3	7.32	1	2.44	3	12.00
ビジュアルデザイン学科	第1志望	ー	ー	29	96.67	28	87.50
	第2志望	ー	ー	1	3.33	3	9.38
	第3志望	ー	ー	0	0.00	1	3.13
	第4志望以下	ー	ー	0	0.00	0	0.00
工芸工業デザイン学科	第1志望	ー	ー	31	96.88	23	74.19
	第2志望	ー	ー	1	3.13	8	25.81
	第3志望	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	第4志望以下	ー	ー	0	0.00	0	0.00
建築学科	第1志望	ー	ー	26	89.66	29	90.63
	第2志望	ー	ー	3	10.34	1	3.13
	第3志望	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	第4志望以下	ー	ー	0	0.00	2	6.25

表4　併願校（保健福祉学部）

学科	併願校	人数
看護	川崎医療福祉大学	7
	岡山大学	4
	川崎医療短期大学	3
	防衛医科大学	2
	名古屋市立大学	1
	同志社大学	1
	大阪公立大学	1
	新見公立大学	1
	就実大学	1
	山口大学	1
	岡山理科大学	1
	岡山済生会看護専門学校	1
	ノートルダム清心女子大学	1

学科	併願校	人数
栄養	ノートルダム清心女子大学	10
	武庫川女子大学	5
	奈良女子大学	4
	同志社女子大学	3
	山口県立大学	3
	名古屋学芸大学	2
	福岡女子大学	2
	中部大学	2
	椙山女学園大学	2
	神戸女子大学	2
	近畿大学	2
	岡山大学	2
	名古屋女子大学	1
	兵庫県立大学	1
	美作大学	1
	東京農業大学	1
	長崎県立大学	1
	摂南大学	1
	清心女子大学	1
	新潟県立大学	1
	常葉大学	1
	女子栄養大学	1
	滋賀県立大学	1
	山形県立米沢栄養大学	1
	甲南大学	1
	甲南女子大学	1
	広島修道大学	1
	広島国際大学	1
	京都女子大学	1
	鎌倉女子大学	1
	岡山理科大学	1
	くらしき作陽大学	1

学科	併願校	人数
現代福祉	川崎医療福祉大学	4
	就実大学	3
	ノートルダム清心女子大学	3
	新見公立大学	2
	新見公立大学	2
	松山大学	2
	山口県立大学	2
	北九州市立大学	1
	周南公立大学	1
	高知県立大学	1
	吉備国際大学	1
	関西福祉大学	1
	岡山商科大学	1

学科	併願校	人数
子ども	就実大学	7
	ノートルダム清心女子大学	7
	武庫川女子大学	2
	川崎医療福祉大学	2
	佛教大学	1
	北九州市立大学	1
	美作短大	1
	中国学園大学	1
	大谷大学	1
	神戸常盤大学	1
	山陽学園短期大学	1
	山口学芸大学	1
	香川大学	1
	関西学院大学	1
	くらしき作陽大学	1

表4 併願校(情報工学部)

学科	併願校	人数
情報通信	岡山理科大学	9
	近畿大学	6
	静岡大学	4
	岡山大学	4
	中京大学	3
	名城大学	2
	徳島大学	2
	電気通信大学	2
	広島市立大学	2
	広島工業大学	2
	九州大学	2
	九州工業大学	2
	和歌山大学	1
	名古屋市立大学	1
	兵庫県立大学	1
	福山大学	1
	奈良女子大学	1
	同志社大学	1
	東京海洋大学	1
	鳥取大学	1
	大阪電気通信大学	1
	大阪工業大学	1
	大阪公立大学	1
	神戸大学	1
	滋賀大学	1
	佐賀大学	1
	香川大学	1
	岐阜大学	1
	関西大学	1
	愛媛大学	1
	愛知県立大学	1

学科	併願校	人数
システム	岡山理科大学	6
	岡山大学	6
	徳島大学	5
	広島市立大学	5
	大阪工業大学	4
	大阪公立大学	2
	信州大学	2
	高知工科大学	2
	広島大学	2
	熊本大学	2
	近畿大学	2
	京都工芸繊維大学	2
	愛媛大学	2
	琉球大学	1
	名城大学	1
	兵庫県立大学	1
	同志社大学	1
	東北大学	1
	東京農工大学	1
	東京工業大学	1
	島根大学	1
	長崎大学	1
	長崎県立大学	1
	中部大学	1
	大阪大学	1
	静岡大学	1
	山口大学	1
	三条市立大学	1
	高知工科大学	1
	香川大学	1
	甲南大学	1
	広島工業大学	1
	九州工業大学	1
	京都府立大学	1
	岐阜大学	1
	関西大学	1
	愛知工業大学	1

学科	併願校	人数
人間情報	香川大学	3
	岡山理科大学	3
	兵庫県立大学	2
	徳島大学	2
	岡山大学	2
	富山大学	1
	鳥取大学	1
	長崎大学	1
	大分大学	1
	大阪公立大学	1
	川崎医療福祉大学	1
	高知工科大学	1
	県立広島大学	1
	九州大学	1
	近畿大学	1
	岐阜大学	1
	関西大学	1

表4　併願校（デザイン学部）

学科	併願校	人数
ビジュアルデザイン	近畿大学	3
	筑波大学	2
	倉敷芸術科学大学	2
	静岡文化芸術大学	2
	松山大学	2
	金沢美術工芸大学	2
	富山大学	1
	長岡造形大学	1
	大同大学	1
	大阪成蹊大学	1
	崇城大学	1
	秋田公立美術大学	1
	香川短期大学	1
	九州産業大学	1
	京都芸術大学	1
	吉備国際大学	1
	下関市立大学	1
	愛知淑徳大学	1
	愛知県立芸術大学	1

学科	併願校	人数
工芸工業デザイン	静岡文化芸術大学	5
	尾道市立大学	2
	川崎医療福祉大学	2
	岡山理科大学	2
	徳島大学	1
	長岡造形大学	1
	成安造形大学	1
	神戸芸術工科大学	1
	秋田公立美術大学	1
	就実大学	1
	山口県立大学	1
	嵯峨美術大学	1
	九州大学	1
	京都芸術大学	1

学科	併願校	人数
建築	岡山理科大学	5
	近畿大学	4
	広島工業大学	2
	京都美術工芸大学	2
	岡山県立大学	2
	同志社女子大学	1
	就実大学	1
	滋賀県立大学	1
	香川大学	1
	群馬大学	1
	京都工芸繊維大学	1
	岐阜市立女子短期大学	1
	関西学院大学	1
	岡山理大専門学校	1
	愛知淑徳大学	1
	愛知工業大学	1
	工学院大学	1

表5 志望動機

	項目	2020 度数	2020 割合	2021 度数	2021 割合	2022 度数	2022 割合
看護学科	教育内容が希望に近い	10	25.00	9	22.50	2	10.53
	研究内容に興味がある	1	2.50	0	0.00	0	0.00
	施設設備が充実	0	0.00	0	0.00	1	5.26
	就職職種が希望に近い	3	7.50	3	7.50	0	0.00
	希望する資格が得られる	13	32.50	15	37.50	8	42.11
	卒業生が社会で活躍している	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	2	5.00	3	7.50	2	10.53
	本学で学ぶことに誇りを感じる	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	1	2.50	0	0.00	0	0.00
	本学が開催した事業の印象がよかった	1	2.50	0	0.00	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	0	0.00	1	2.50	1	5.26
	入試日程が受験しやすかった	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	センター試験等、学力的にみて適当だった	4	10.00	7	17.50	3	15.79
	学費が安い	2	5.00	1	2.50	2	10.53
	通学に便利	1	2.50	1	2.50	0	0.00
	その他	2	5.00	0	0.00	0	0.00
現代福祉学科	教育内容が希望に近い	6	16.67	15	36.59	9	29.03
	研究内容に興味がある	2	5.56	0	0.00	0	0.00
	施設設備が充実	0	0.00	1	2.44	0	0.00
	就職職種が希望に近い	2	5.56	1	2.44	3	9.68
	希望する資格が得られる	18	50.00	15	36.59	14	45.16
	卒業生が社会で活躍している	0	0.00	0	0.00	1	3.23
	本学で学ぶことを強く希望していた	3	8.33	4	9.76	1	3.23
	本学で学ぶことに誇りを感じる	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	1	2.78	0	0.00	1	3.23
	本学が開催した事業の印象がよかった	1	2.78	0	0.00	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	1	2.78	0	0.00	0	0.00
	入試日程が受験しやすかった	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	センター試験等、学力的にみて適当だった	2	5.56	3	7.32	2	6.45
	学費が安い	0	0.00	1	2.44	0	0.00
	通学に便利	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	その他	0	0.00	1	2.44	0	0.00
情報通信工学科	教育内容が希望に近い	10	21.28	14	28.00	16	37.21
	研究内容に興味がある	2	4.26	7	14.00	3	6.98
	施設設備が充実	0	0.00	0	0.00	1	2.33
	就職職種が希望に近い	3	6.38	1	2.00	5	11.63
	希望する資格が得られる	1	2.13	1	2.00	1	2.33
	卒業生が社会で活躍している	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	0	0.00	2	4.00	3	6.98
	本学で学ぶことに誇りを感じる	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	1	2.13	1	2.00	0	0.00
	本学が開催した事業の印象がよかった	0	0.00	1	2.00	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	11	23.40	7	14.00	6	13.95
	入試日程が受験しやすかった	1	2.13	3	6.00	2	4.65
	センター試験等、学力的にみて適当だった	15	31.91	8	16.00	3	6.98
	学費が安い	2	4.26	3	6.00	0	0.00
	通学に便利	1	2.13	1	2.00	2	4.65
	その他	0	0.00	1	2.00	1	2.33
人間情報工学科	教育内容が希望に近い	10	24.39	6	15.00	7	28.00
	研究内容に興味がある	5	12.20	13	32.50	4	16.00
	施設設備が充実	0	0.00	1	2.50	1	4.00
	就職職種が希望に近い	2	4.88	1	2.50	1	4.00
	希望する資格が得られる	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	卒業生が社会で活躍している	0	0.00	2	5.00	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	0	0.00	2	5.00	2	8.00
	本学で学ぶことに誇りを感じる	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学が開催した事業の印象がよかった	1	2.44	0	0.00	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	10	24.39	3	7.50	4	16.00
	入試日程が受験しやすかった	1	2.44	5	12.50	0	0.00
	センター試験等、学力的にみて適当だった	9	21.95	6	15.00	5	20.00
	学費が安い	3	7.32	0	0.00	0	0.00
	通学に便利	0	0.00	1	2.50	0	0.00
	その他	0	0.00	0	0.00	1	4.00
工芸工業デザイン学科	教育内容が希望に近い	ー	ー	13	40.63	13	41.94
	研究内容に興味がある	ー	ー	4	12.50	2	6.45
	施設設備が充実	ー	ー	3	9.38	2	6.45
	就職職種が希望に近い	ー	ー	1	3.13	2	6.45
	希望する資格が得られる	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	卒業生が社会で活躍している	ー	ー	0	0.00	1	3.23
	本学で学ぶことを強く希望していた	ー	ー	1	3.13	0	0.00
	本学で学ぶことに誇りを感じる	ー	ー	1	3.13	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	ー	ー	0	0.00	1	3.23
	本学が開催した事業の印象がよかった	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	ー	ー	2	6.25	2	6.45
	入試日程が受験しやすかった	ー	ー	1	3.13	0	0.00
	センター試験等、学力的にみて適当だった	ー	ー	1	3.13	3	9.68
	学費が安い	ー	ー	3	9.38	1	3.23
	通学に便利	ー	ー	1	3.13	4	12.90
	その他	ー	ー	1	3.13	0	0.00

	項目	2020 度数	2020 割合	2021 度数	2021 割合	2022 度数	2022 割合
栄養学科	教育内容が希望に近い	4	12.12	11	28.21	6	13.64
	研究内容に興味がある	3	9.09	4	10.26	2	4.55
	施設設備が充実	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	就職職種が希望に近い	2	6.06	0	0.00	3	6.82
	希望する資格が得られる	14	42.42	15	38.46	25	56.82
	卒業生が社会で活躍している	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	3	9.09	3	7.69	1	2.27
	本学で学ぶことに誇りを感じる	0	0.00	0	0.00	1	2.27
	本学で学びたい先生がいる	1	3.03	0	0.00	0	0.00
	本学が開催した事業の印象がよかった	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	1	3.03	1	2.56	1	2.27
	入試日程が受験しやすかった	0	0.00	1	2.56	0	0.00
	センター試験等、学力的にみて適当だった	3	9.09	2	5.13	3	6.82
	学費が安い	1	3.03	0	0.00	1	2.27
	通学に便利	1	3.03	2	5.13	1	2.27
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
子ども学科	教育内容が希望に近い	9	47.37	3	21.43	9	32.14
	研究内容に興味がある	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	施設設備が充実	0	0.00	1	7.14	0	0.00
	就職職種が希望に近い	1	5.26	1	7.14	1	3.57
	希望する資格が得られる	6	31.58	6	42.86	11	39.29
	卒業生が社会で活躍している	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	2	10.53	1	7.14	3	10.71
	本学で学ぶことに誇りを感じる	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学が開催した事業の印象がよかった	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	1	5.26	1	7.14	1	3.57
	入試日程が受験しやすかった	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	センター試験等、学力的にみて適当だった	0	0.00	1	7.14	1	3.57
	学費が安い	0	0.00	0	0.00	1	3.57
	通学に便利	0	0.00	0	0.00	1	3.57
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
情報システム工学科	教育内容が希望に近い	15	30.61	11	27.50	14	25.45
	研究内容に興味がある	3	6.12	6	15.00	5	9.09
	施設設備が充実	1	2.04	0	0.00	0	0.00
	就職職種が希望に近い	0	0.00	3	7.50	4	7.27
	希望する資格が得られる	0	0.00	1	2.50	0	0.00
	卒業生が社会で活躍している	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	1	2.04	0	0.00	2	3.64
	本学で学ぶことに誇りを感じる	2	4.08	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学が開催した事業の印象がよかった	1	2.04	0	0.00	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	2	4.08	9	22.50	8	14.55
	入試日程が受験しやすかった	7	14.29	2	5.00	6	10.91
	センター試験等、学力的にみて適当だった	11	22.45	4	10.00	6	10.91
	学費が安い	2	4.08	3	7.50	6	10.91
	通学に便利	4	8.16	1	2.50	3	5.45
	その他	0	0.00	0	0.00	1	1.82
ビジュアルデザイン学科	教育内容が希望に近い	ー	ー	13	43.33	23	71.88
	研究内容に興味がある	ー	ー	3	10.00	0	0.00
	施設設備が充実	ー	ー	0	0.00	2	6.25
	就職職種が希望に近い	ー	ー	1	3.33	1	3.13
	希望する資格が得られる	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	卒業生が社会で活躍している	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	ー	ー	2	6.67	1	3.13
	本学で学ぶことに誇りを感じる	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	本学が開催した事業の印象がよかった	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	ー	ー	2	6.67	0	0.00
	入試日程が受験しやすかった	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	センター試験等、学力的にみて適当だった	ー	ー	3	10.00	1	3.13
	学費が安い	ー	ー	5	16.67	3	9.38
	通学に便利	ー	ー	1	3.33	0	0.00
	その他	ー	ー	0	0.00	1	3.13
建築学科	教育内容が希望に近い	ー	ー	13	44.83	16	50.00
	研究内容に興味がある	ー	ー	2	6.90	3	9.38
	施設設備が充実	ー	ー	1	3.45	0	0.00
	就職職種が希望に近い	ー	ー	1	3.45	2	6.25
	希望する資格が得られる	ー	ー	5	17.24	2	6.25
	卒業生が社会で活躍している	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	ー	ー	1	3.45	2	6.25
	本学で学ぶことに誇りを感じる	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	本学が開催した事業の印象がよかった	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	ー	ー	2	6.90	1	3.13
	入試日程が受験しやすかった	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	センター試験等、学力的にみて適当だった	ー	ー	2	6.90	6	18.75
	学費が安い	ー	ー	1	3.45	0	0.00
	通学に便利	ー	ー	1	3.45	0	0.00
	その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00

表6　APの理解

		2020		2021		2022	
	項目	度数	割合	度数	割合	度数	割合
看護学科	よく理解できた	33	82.50	37	92.50	17	89.47
	どちらとも言えない	5	12.50	0	0.00	1	5.26
	わかりにくかった	2	5.00	3	7.50	1	5.26
栄養学科	よく理解できた	23	69.70	28	71.79	24	54.55
	どちらとも言えない	9	27.27	1	2.56	17	38.64
	わかりにくかった	1	3.03	10	25.64	3	6.82
現代福祉学科	よく理解できた	31	86.11	37	90.24	24	77.42
	どちらとも言えない	5	13.89	0	0.00	7	22.58
	わかりにくかった	0	0.00	4	9.76	0	0.00
子ども学科	よく理解できた	17	85.00	10	76.92	24	85.71
	どちらとも言えない	2	10.00	2	15.38	4	14.29
	わかりにくかった	1	5.00	1	7.69	0	0.00
情報通信工学科	よく理解できた	15	48.39	22	59.46	22	51.16
	どちらとも言えない	9	29.03	2	5.41	18	41.86
	わかりにくかった	7	22.58	13	35.14	3	6.98
情報システム工学科	よく理解できた	18	51.43	13	46.43	30	54.55
	どちらとも言えない	13	37.14	1	3.57	23	41.82
	わかりにくかった	4	11.43	14	50.00	2	3.64
人間情報工学科	よく理解できた	11	34.38	18	52.94	13	52.00
	どちらとも言えない	19	59.38	2	5.88	11	44.00
	わかりにくかった	2	6.25	14	41.18	1	4.00
ビジュアルデザイン学科	よく理解できた	ー	ー	16	53.33	21	65.63
	どちらとも言えない	ー	ー	3	10.00	9	28.13
	わかりにくかった	ー	ー	11	36.67	2	6.25
工芸工業デザイン学科	よく理解できた	ー	ー	19	65.52	18	58.06
	どちらとも言えない	ー	ー	4	13.79	13	41.94
	わかりにくかった	ー	ー	6	20.69	0	0.00
建築学科	よく理解できた	ー	ー	23	79.31	25	78.13
	どちらとも言えない	ー	ー	2	6.90	6	18.75
	わかりにくかった	ー	ー	4	13.79	1	3.13

表7 受験科目

	項目	2020 度数	2020 割合	2021 度数	2021 割合	2022 度数	2022 割合
センター試験（共通テスト）	受験しやすかった	297	95.19	298	96.44	278	95.53
	どちらかというと受験しにくかった	15	4.81	11	3.56	13	4.47
	受験しなかった	47		49		49	
小論文	受験しやすかった	104	94.55	49	89.09	44	77.19
	どちらかというと受験しにくかった	6	5.45	6	10.91	13	22.81
	受験しなかった	249		303		283	
理科	受験しやすかった	58	98.31	67	95.71	65	90.28
	どちらかというと受験しにくかった	1	1.69	3	4.29	7	9.72
	受験しなかった	300		288		268	
数学	受験しやすかった	123	93.89	130	97.74	112	94.12
	どちらかというと受験しにくかった	8	6.11	3	2.26	7	5.88
	受験しなかった	228		225		221	
実技	受験しやすかった	83	91.21	72	83.72	77	81.05
	どちらかというと受験しにくかった	8	8.79	14	16.28	18	18.95
	受験しなかった	268		272		245	
面接	受験しやすかった	155	94.51	162	89.50	154	90.06
	どちらかというと受験しにくかった	9	5.49	19	10.50	17	9.94
	受験しなかった	195		177		169	

表8 個別科目

	2020,n= 359		2021,n= 358		2022,n= 340		2021との
	度数	割合(%)	度数	割合(%)	度数	割合(%)	%の差異
集団面接	112	31.20	90	25.14	80	23.53	-1.61
学力試験(英語)	72	20.06	59	16.48	46	13.53	-2.95
TOEICや英語検定	169	47.08	147	41.06	128	37.65	-3.41
小論文	116	32.31	113	31.56	93	27.35	-4.21
総合問題	100	27.86	83	23.18	75	22.06	-1.13
学力試験(理科)	68	18.94	75	20.95	59	17.35	-3.60
その他	2	0.56	6	1.68	0	0.00	-1.68
学力試験(数学)	82	22.84	87	24.30	75	22.06	-2.24
個人面接	81	22.56	62	17.32	53	15.59	-1.73
聴講型試験	131	36.49	105	29.33	104	30.59	1.26
口頭試問	128	35.65	105	29.33	71	20.88	-8.45
プレゼンテーション	192	53.48	152	42.46	129	37.94	-4.52
ディベート	158	44.01	139	38.83	118	34.71	-4.12
集団討論	147	40.95	134	37.43	118	34.71	-2.72
実技	115	32.03	79	22.07	59	17.35	-4.71

表9 出願時の参考

	項目	2020 度数	2020 割合	2021 度数	2021 割合	2022 度数	2022 割合
看護学科	大学のホームページ	5	12.50	10	25.00	5	26.32
	学科のホームページ	6	15.00	9	22.50	2	10.53
	SNS(Twitter、Facebook、Youtube)	－	－	0	0.00	0	0.00
	大学案内	4	10.00	3	7.50	2	10.53
	学部学科パンフレット(チラシ)	5	12.50	4	10.00	2	10.53
	学科の受入方針(アドミッションポリシー)	2	5.00	1	2.50	0	0.00
	本学のオープンキャンパスで得た情報	7	17.50	5	12.50	1	5.26
	本学の「高校生のための大学授業開放」	3	7.50	0	0.00	0	0.00
	「岡山県立大学の教育と入試説明会」での情報	－	－	－	－	－	－
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	1	5.26
	本学で実施した進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	0	0.00	1	2.50	1	5.26
	赤本等の過去問	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	予備校が提供する情報	1	2.50	0	0.00	0	0.00
	高校からの情報やアドバイス	3	7.50	5	12.50	2	10.53
	塾の教員からの情報やアドバイス	1	2.50	1	2.50	2	10.53
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	1	2.50	1	2.50	1	5.26
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	2	5.00	0	0.00	0	0.00
現代福祉学科	大学のホームページ	2	5.41	12	29.27	8	26.67
	学科のホームページ	9	24.32	7	17.07	7	23.33
	SNS(Twitter、Facebook、Youtube)	－	－	0	0.00	0	0.00
	大学案内	3	8.11	6	14.63	3	10.00
	学部学科パンフレット(チラシ)	5	13.51	5	12.20	2	6.67
	学科の受入方針(アドミッションポリシー)	1	2.70	1	2.44	2	6.67
	本学のオープンキャンパスで得た情報	6	16.22	4	9.76	2	6.67
	本学の「高校生のための大学授業開放」	5	13.51	0	0.00	0	0.00
	「岡山県立大学の教育と入試説明会」での情報	－	－	－	－	－	－
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学で実施した進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	1	3.33
	イベント会場等で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	赤本等の過去問	1	2.70	0	0.00	0	0.00
	予備校が提供する情報	0	0.00	0	0.00	1	3.33
	高校からの情報やアドバイス	4	10.81	5	12.20	3	10.00
	塾の教員からの情報やアドバイス	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	1	2.70	0	0.00	1	3.33
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	0	0.00	1	2.44	0	0.00
情報通信工学科	大学のホームページ	7	14.58	12	24.00	11	26.19
	学科のホームページ	11	22.92	9	18.00	8	19.05
	SNS(Twitter、Facebook、Youtube)	－	－	0	0.00	0	0.00
	大学案内	3	6.25	2	4.00	2	4.76
	学部学科パンフレット(チラシ)	1	2.08	4	8.00	2	4.76
	学科の受入方針(アドミッションポリシー)	1	2.08	0	0.00	0	0.00
	本学のオープンキャンパスで得た情報	4	8.33	0	0.00	0	0.00
	本学の「高校生のための大学授業開放」	1	2.08	1	2.00	0	0.00
	「岡山県立大学の教育と入試説明会」での情報	－	－	－	－	－	－
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	2	4.76
	本学で実施した進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	1	2.08	0	0.00	3	7.14
	赤本等の過去問	3	6.25	0	0.00	2	4.76
	予備校が提供する情報	0	0.00	2	4.00	2	4.76
	高校からの情報やアドバイス	14	29.17	14	28.00	5	11.90
	塾の教員からの情報やアドバイス	0	0.00	0	0.00	2	4.76
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	1	2.08	6	12.00	3	7.14
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	1	2.08	0	0.00	0	0.00
人間情報工学科	大学のホームページ	6	14.63	8	19.51	5	20.00
	学科のホームページ	5	12.20	11	26.83	4	16.00
	SNS(Twitter、Facebook、Youtube)	－	－	0	0.00	0	0.00
	大学案内	2	4.88	3	7.32	2	8.00
	学部学科パンフレット(チラシ)	5	12.20	2	4.88	3	12.00
	学科の受入方針(アドミッションポリシー)	0	0.00	1	2.44	1	4.00
	本学のオープンキャンパスで得た情報	4	9.76	2	4.88	1	4.00
	本学の「高校生のための大学授業開放」	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	「岡山県立大学の教育と入試説明会」での情報	－	－	－	－	－	－
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学で実施した進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	0	0.00	1	2.44	2	8.00
	赤本等の過去問	0	0.00	2	4.88	1	4.00
	予備校が提供する情報	5	12.20	1	2.44	3	12.00
	高校からの情報やアドバイス	12	29.27	6	14.63	2	8.00
	塾の教員からの情報やアドバイス	1	2.44	3	7.32	1	4.00
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	1	2.44	1	2.44	0	0.00
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	0	0.00	0	0.00	0	0.00
工芸工業デザイン学科	大学のホームページ	－	－	9	28.13	8	25.81
	学科のホームページ	－	－	7	21.88	7	22.58
	SNS(Twitter、Facebook、Youtube)	－	－	0	0.00	0	0.00
	大学案内	－	－	1	3.13	4	12.90
	学部学科パンフレット(チラシ)	－	－	4	12.50	4	12.90
	学科の受入方針(アドミッションポリシー)	－	－	0	0.00	1	3.23
	本学のオープンキャンパスで得た情報	－	－	1	3.13	0	0.00
	本学の「高校生のための大学授業開放」	－	－	0	0.00	0	0.00
	「岡山県立大学の教育と入試説明会」での情報	－	－	－	－	－	－
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	－	－	1	3.13	0	0.00
	本学で実施した進学ガイダンスでの情報	－	－	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンスでの情報	－	－	1	3.13	0	0.00
	受験雑誌	－	－	1	3.13	0	0.00
	赤本等の過去問	－	－	1	3.13	0	0.00
	予備校が提供する情報	－	－	0	0.00	0	0.00
	高校からの情報やアドバイス	－	－	2	6.25	1	3.23
	塾の教員からの情報やアドバイス	－	－	0	0.00	4	12.90
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	－	－	4	12.50	1	3.23
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	－	－	0	0.00	1	3.23

	項目	2020 度数	2020 割合	2021 度数	2021 割合	2022 度数	2022 割合
栄養学科	大学のホームページ	5	13.51	6	15.38	9	20.45
	学科のホームページ	5	13.51	9	23.08	12	27.27
	SNS(Twitter、Facebook、Youtube)	－	－	0	0.00	0	0.00
	大学案内	3	8.11	7	17.95	2	4.55
	学部学科パンフレット(チラシ)	5	13.51	1	2.56	4	9.09
	学科の受入方針(アドミッションポリシー)	1	2.70	1	2.56	2	4.55
	本学のオープンキャンパスで得た情報	6	16.22	6	15.38	2	4.55
	本学の「高校生のための大学授業開放」	1	2.70	1	2.56	0	0.00
	「岡山県立大学の教育と入試説明会」での情報	－	－	－	－	－	－
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学で実施した進学ガイダンスでの情報	0	0.00	1	2.56	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	0	0.00	0	0.00	1	2.27
	赤本等の過去問	1	2.70	1	2.56	2	4.55
	予備校が提供する情報	3	8.11	0	0.00	4	9.09
	高校からの情報やアドバイス	4	10.81	4	10.26	3	6.82
	塾の教員からの情報やアドバイス	1	2.70	1	2.56	2	4.55
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	2	5.41	1	2.56	1	2.27
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	0	0.00	0	0.00	0	0.00
子ども学科	大学のホームページ	3	15.00	2	14.29	7	25.00
	学科のホームページ	2	10.00	2	14.29	4	14.29
	SNS(Twitter、Facebook、Youtube)	－	－	1	7.14	1	3.57
	大学案内	1	5.00	1	7.14	3	10.71
	学部学科パンフレット(チラシ)	3	15.00	3	21.43	7	25.00
	学科の受入方針(アドミッションポリシー)	0	0.00	1	7.14	1	3.57
	本学のオープンキャンパスで得た情報	2	10.00	1	7.14	1	3.57
	本学の「高校生のための大学授業開放」	4	20.00	0	0.00	0	0.00
	「岡山県立大学の教育と入試説明会」での情報	－	－	－	－	－	－
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学で実施した進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	1	5.00	0	0.00	0	0.00
	赤本等の過去問	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	予備校が提供する情報	1	5.00	0	0.00	1	3.57
	高校からの情報やアドバイス	1	5.00	1	7.14	2	7.14
	塾の教員からの情報やアドバイス	0	0.00	2	14.29	0	0.00
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	2	10.00	0	0.00	0	0.00
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	0	0.00	0	0.00	1	3.57
情報システム工学科	大学のホームページ	7	14.29	15	35.71	13	23.64
	学科のホームページ	8	16.33	6	14.29	10	18.18
	SNS(Twitter、Facebook、Youtube)	－	－	1	2.38	0	0.00
	大学案内	3	6.12	0	0.00	3	5.45
	学部学科パンフレット(チラシ)	1	2.04	2	4.76	4	7.27
	学科の受入方針(アドミッションポリシー)	1	2.04	0	0.00	1	1.82
	本学のオープンキャンパスで得た情報	2	4.08	0	0.00	2	3.64
	本学の「高校生のための大学授業開放」	1	2.04	0	0.00	0	0.00
	「岡山県立大学の教育と入試説明会」での情報	－	－	－		－	－
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	1	1.82
	本学で実施した進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	2	4.08	2	4.76	1	1.82
	赤本等の過去問	4	8.16	0	0.00	3	5.45
	予備校が提供する情報	1	2.04	1	2.38	2	3.64
	高校からの情報やアドバイス	13	26.53	6	14.29	10	18.18
	塾の教員からの情報やアドバイス	3	6.12	3	7.14	3	5.45
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	1	2.04	6	14.29	2	3.64
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	2	4.08	0	0.00	0	0.00
ビジュアルデザイン学科	大学のホームページ	－	－	5	16.67	6	18.75
	学科のホームページ	－	－	5	16.67	9	28.13
	SNS(Twitter、Facebook、Youtube)	－	－	0	0.00	0	0.00
	大学案内	－	－	6	20.00	2	6.25
	学部学科パンフレット(チラシ)	－	－	1	3.33	2	6.25
	学科の受入方針(アドミッションポリシー)	－	－	1	3.33	0	0.00
	本学のオープンキャンパスで得た情報	－	－	4	13.33	2	6.25
	本学の「高校生のための大学授業開放」	－	－	0	0.00	0	0.00
	「岡山県立大学の教育と入試説明会」での情報	－	－			－	－
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	－	－	0	0.00	1	3.13
	本学で実施した進学ガイダンスでの情報	－	－	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンスでの情報	－	－	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	－	－	1	3.33	0	0.00
	赤本等の過去問	－	－	0	0.00	0	0.00
	予備校が提供する情報	－	－	0	0.00	1	3.13
	高校からの情報やアドバイス	－	－	4	13.33	1	3.13
	塾の教員からの情報やアドバイス	－	－	0	0.00	4	12.50
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	－	－	2	6.67	4	12.50
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	－	－	1	3.33	0	0.00
建築学科	大学のホームページ	－	－	9	31.03	3	9.38
	学科のホームページ	－	－	7	24.14	11	34.38
	SNS(Twitter、Facebook、Youtube)	－	－	0	0.00	0	0.00
	大学案内	－	－	1	3.45	5	15.63
	学部学科パンフレット(チラシ)	－	－	3	10.34	6	18.75
	学科の受入方針(アドミッションポリシー)	－	－	1	3.45	0	0.00
	本学のオープンキャンパスで得た情報	－	－	1	3.45	0	0.00
	本学の「高校生のための大学授業開放」	－	－	1	3.45	0	0.00
	「岡山県立大学の教育と入試説明会」での情報	－	－			－	－
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	－	－	0	0.00	1	3.13
	本学で実施した進学ガイダンスでの情報	－	－	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンスでの情報	－	－	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	－	－	0	0.00	0	0.00
	赤本等の過去問	－	－	0	0.00	1	3.13
	予備校が提供する情報	－	－	1	3.45	2	6.25
	高校からの情報やアドバイス	－	－	4	13.79	1	3.13
	塾の教員からの情報やアドバイス	－	－	0	0.00	0	0.00
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	－	－	1	3.45	2	6.25
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	－	－	0	0.00	0	0.00

表10　知りたかった情報

	項目	2020 度数	2020 割合	2021 度数	2021 割合	2022 度数	2022 割合
看護学科	各学部・学科の特色	12	11.65	12	12.63	8	16.67
	カリキュラムや授業内容	25	24.27	25	26.32	10	20.83
	教員の研究内容や人物	9	8.74	10	10.53	2	4.17
	取得できる資格と合格率	12	11.65	8	8.42	4	8.33
	就職先と就職率	10	9.71	10	10.53	5	10.42
	学生生活	19	18.45	16	16.84	12	25.00
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	4	3.88	4	4.21	2	4.17
	教育設備や周辺環境	11	10.68	9	9.47	5	10.42
	その他	1	0.97	1	1.05	0	0.00
現代福祉学科	各学部・学科の特色	16	14.95	7	7.61	11	14.47
	カリキュラムや授業内容	23	21.50	24	26.09	22	28.95
	教員の研究内容や人物	10	9.35	9	9.78	7	9.21
	取得できる資格と合格率	10	9.35	6	6.52	5	6.58
	就職先と就職率	12	11.21	10	10.87	9	11.84
	学生生活	23	21.50	22	23.91	14	18.42
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	8	7.48	5	5.43	2	2.63
	教育設備や周辺環境	5	4.67	8	8.70	6	7.89
	その他	0	0.00	1	1.09	0	0.00
情報通信工学科	各学部・学科の特色	16	13.22	27	18.24	21	17.65
	カリキュラムや授業内容	23	19.01	31	20.95	20	16.81
	教員の研究内容や人物	7	5.79	9	6.08	8	6.72
	取得できる資格と合格率	20	16.53	16	10.81	17	14.29
	就職先と就職率	23	19.01	28	18.92	20	16.81
	学生生活	14	11.57	19	12.84	14	11.76
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	8	6.61	6	4.05	4	3.36
	教育設備や周辺環境	8	6.61	12	8.11	15	12.61
	その他	2	1.65	0	0.00	0	0.00
人間情報工学科	各学部・学科の特色	14	12.61	13	12.04	10	13.33
	カリキュラムや授業内容	26	23.42	19	17.59	13	17.33
	教員の研究内容や人物	9	8.11	7	6.48	8	10.67
	取得できる資格と合格率	13	11.71	19	17.59	11	14.67
	就職先と就職率	21	18.92	21	19.44	13	17.33
	学生生活	13	11.71	18	16.67	11	14.67
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	6	5.41	3	2.78	2	2.67
	教育設備や周辺環境	7	6.31	7	6.48	7	9.33
	その他	2	1.80	1	0.93	0	0.00
工芸工業デザイン学科	各学部・学科の特色	ー	ー	15	14.29	18	20.93
	カリキュラムや授業内容	ー	ー	22	20.95	21	24.42
	教員の研究内容や人物	ー	ー	11	10.48	8	9.30
	取得できる資格と合格率	ー	ー	17	16.19	6	6.98
	就職先と就職率	ー	ー	11	10.48	11	12.79
	学生生活	ー	ー	11	10.48	13	15.12
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	ー	ー	8	7.62	3	3.49
	教育設備や周辺環境	ー	ー	9	8.57	6	6.98
	その他	ー	ー	1	0.95	0	0.00

		2020 度数	2020 割合	2021 度数	2021 割合	2022 度数	2022 割合
栄養学科	各学部・学科の特色	14	14.74	7	7.95	18	15.79
	カリキュラムや授業内容	17	17.89	18	20.45	27	23.68
	教員の研究内容や人物	9	9.47	6	6.82	8	7.02
	取得できる資格と合格率	7	7.37	9	10.23	11	9.65
	就職先と就職率	14	14.74	11	12.50	21	18.42
	学生生活	25	26.32	23	26.14	21	18.42
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	3	3.16	5	5.68	4	3.51
	教育設備や周辺環境	5	5.26	9	10.23	4	3.51
	その他	1	1.05	0	0.00	0	0.00
子ども学科	各学部・学科の特色	4	8.70	4	11.11	14	19.18
	カリキュラムや授業内容	14	30.43	7	19.44	20	27.40
	教員の研究内容や人物	5	10.87	4	11.11	6	8.22
	取得できる資格と合格率	5	10.87	2	5.56	7	9.59
	就職先と就職率	4	8.70	4	11.11	6	8.22
	学生生活	8	17.39	9	25.00	12	16.44
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	3	6.52	2	5.56	2	2.74
	教育設備や周辺環境	3	6.52	4	11.11	6	8.22
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
情報システム工学科	各学部・学科の特色	27	20.15	18	18.18	28	21.54
	カリキュラムや授業内容	31	23.13	23	23.23	30	23.08
	教員の研究内容や人物	12	8.96	7	7.07	8	6.15
	取得できる資格と合格率	10	7.46	7	7.07	14	10.77
	就職先と就職率	17	12.69	13	13.13	18	13.85
	学生生活	17	12.69	19	19.19	19	14.62
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	7	5.22	3	3.03	3	2.31
	教育設備や周辺環境	13	9.70	9	9.09	10	7.69
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
ビジュアルデザイン学科	各学部・学科の特色	ー	ー	12	12.90	13	16.25
	カリキュラムや授業内容	ー	ー	22	23.66	21	26.25
	教員の研究内容や人物	ー	ー	7	7.53	3	3.75
	取得できる資格と合格率	ー	ー	9	9.68	6	7.50
	就職先と就職率	ー	ー	16	17.20	12	15.00
	学生生活	ー	ー	11	11.83	12	15.00
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	ー	ー	7	7.53	3	3.75
	教育設備や周辺環境	ー	ー	9	9.68	10	12.50
	その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
建築学科	各学部・学科の特色	ー	ー	13	15.66	19	17.27
	カリキュラムや授業内容	ー	ー	16	19.28	21	19.09
	教員の研究内容や人物	ー	ー	6	7.23	13	11.82
	取得できる資格と合格率	ー	ー	12	14.46	13	11.82
	就職先と就職率	ー	ー	9	10.84	13	11.82
	学生生活	ー	ー	16	19.28	18	16.36
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	ー	ー	3	3.61	2	1.82
	教育設備や周辺環境	ー	ー	8	9.64	11	10.00
	その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00

表11 大学授業開放

	項目	2020 度数	2020 割合	2021 度数	2021 割合	2022 度数	2022 割合
看護学科	受講した	11	27.50	5	12.50	1	5.26
	知っていたが、受講しなかった	13	32.50	12	30.00	8	42.11
	知らなかった	16	40.00	23	57.50	10	52.63
栄養学科	受講した	15	40.54	12	30.77	4	9.09
	知っていたが、受講しなかった	5	13.51	5	12.82	11	25.00
	知らなかった	17	45.95	22	56.41	29	65.91
現代福祉学科	受講した	12	32.43	4	13.79	3	9.68
	知っていたが、受講しなかった	6	16.22	1	3.45	8	25.81
	知らなかった	19	51.35	24	82.76	20	64.52
子ども学科	受講した	6	30.00	0	0.00	5	17.86
	知っていたが、受講しなかった	6	30.00	0	0.00	8	28.57
	知らなかった	8	40.00	14	100.00	15	53.57
情報通信工学科	受講した	7	14.58	2	4.00	1	2.33
	知っていたが、受講しなかった	4	8.33	7	14.00	7	16.28
	知らなかった	37	77.08	41	82.00	35	81.40
情報システム工学科	受講した	6	12.24	1	2.38	3	5.45
	知っていたが、受講しなかった	2	4.08	5	11.90	5	9.09
	知らなかった	41	83.67	36	85.71	47	85.45
人間情報工学科	受講した	8	19.51	4	9.76	2	8.00
	知っていたが、受講しなかった	5	12.20	3	7.32	4	16.00
	知らなかった	28	68.29	34	82.93	19	76.00
ビジュアルデザイン学科	受講した	ー	ー	2	6.67	1	3.13
	知っていたが、受講しなかった	ー	ー	10	33.33	15	46.88
	知らなかった	ー	ー	18	60.00	16	50.00
工芸工業デザイン学科	受講した	ー	ー	3	9.38	5	16.13
	知っていたが、受講しなかった	ー	ー	3	9.38	4	12.90
	知らなかった	ー	ー	26	81.25	22	70.97
建築学科	受講した	ー	ー	2	6.90	1	3.13
	知っていたが、受講しなかった	ー	ー	4	13.79	8	25.00
	知らなかった	ー	ー	23	79.31	23	71.88

表12　今の気持ち

	項目	2020 度数	2020 割合	2021 度数	2021 割合	2022 度数	2022 割合
看護学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	22	55.00	26	65.00	11	57.89
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	6	15.00	4	10.00	5	26.32
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	8	20.00	3	7.50	1	5.26
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	4	10.00	7	17.50	2	10.53
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
栄養学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	17	45.95	24	61.54	23	52.27
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	2	5.41	4	10.26	6	13.64
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	8	21.62	5	12.82	6	13.64
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	9	24.32	5	12.82	9	20.45
	その他	1	2.70	1	2.56	0	0.00
現代福祉学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	18	47.37	18	43.90	16	51.61
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	9	23.68	17	41.46	8	25.81
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	3	7.89	3	7.32	4	12.90
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	8	21.05	3	7.32	2	6.45
	その他	0	0.00	0	0.00	1	3.23
子ども学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	11	55.00	3	21.43	9	32.14
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	3	15.00	4	28.57	4	14.29
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	3	15.00	5	35.71	6	21.43
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	3	15.00	2	14.29	9	32.14
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	32	66.67	29	58.00	28	66.67
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	0	0.00	3	6.00	1	2.38
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	5	10.42	5	10.00	5	11.90
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	10	20.83	13	26.00	8	19.05
	その他	1	2.08	0	0.00	0	0.00
情報システム工学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	31	63.27	29	69.05	34	61.82
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	1	2.04	0	0.00	0	0.00
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	7	14.29	5	11.90	7	12.73
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	10	20.41	7	16.67	14	25.45
	その他	0	0.00	1	2.38	0	0.00
人間情報工学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	20	48.78	15	36.59	11	45.83
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	3	7.32	3	7.32	1	4.17
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	8	19.51	11	26.83	5	20.83
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	10	24.39	11	26.83	6	25.00
	その他	0	0.00	1	2.44	1	4.17
ビジュアルデザイン学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	19	63.33	19	59.38
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	3	10.00	2	6.25
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	4	13.33	6	18.75
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	3	10.00	5	15.63
	その他	ー	ー	1	3.33	0	0.00
工芸工業デザイン学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	18	56.25	20	64.52
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	2	6.25	1	3.23
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	3	9.38	6	19.35
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	7	21.88	4	12.90
	その他	ー	ー	2	6.25	0	0.00
建築学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	15	51.72	16	50.00
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	3	10.34	4	12.50
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	7	24.14	9	28.13
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	4	13.79	3	9.38
	その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00

	項目	2020		2021		2022	
		度数	割合	度数	割合	度数	割合
総合型選抜	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	11	57.89	5	38.46
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	5	26.32	0	0.00
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	3	15.79	4	30.77
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	0	0.00	4	30.77
	その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
学校推薦型選抜	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	68	66.67	52	50.49	58	61.05
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	10	9.80	15	14.56	9	9.47
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	11	10.78	16	15.53	14	14.74
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	13	12.75	17	16.50	13	13.68
	その他	0	0.00	3	2.91	1	1.05
帰国生入試	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	0		0		1	100.00
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	0		0		0	0.00
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	0		0		0	0.00
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	0		0		0	0.00
	その他	0		0		0	0.00
私費外国人留学生入試	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	0		0	0.00	0	
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	0		0	0.00	0	
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	0		1	100.00	0	
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	0		0	0.00	0	
	その他	0		0	0.00	0	
一般選抜　前期日程	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	88	51.76	99	59.64	89	52.66
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	17	10.00	18	10.84	19	11.24
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	32	18.82	21	12.65	27	15.98
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	32	18.82	27	16.27	34	20.12
	その他	1	0.59	1	0.60	0	0.00
一般選抜　中期日程	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	34	54.84	30	53.57	27	56.25
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	0	0.00	1	1.79	1	2.08
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	10	16.13	8	14.29	10	20.83
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	17	27.42	16	28.57	10	20.83
	その他	1	1.61	1	1.79	0	0.00
一般選抜　後期日程	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	18	69.23	4	30.77	8	61.54
	地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	3	11.54	4	30.77	3	23.08
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	4	15.38	2	15.38	0	0.00
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	1	3.85	2	15.38	1	7.69
	その他	0	0.00	1	7.69	1	7.69

		項目	2020		2021		2022	
			度数	割合	度数	割合	度数	割合
看護学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	10	90.91	11	84.62	4	80.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	1	9.09	0	0.00	1	20.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	0	0.00	0	0.00	0	0.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	0	0.00	2	15.38	0	0.00
		その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	6	31.58	11	55.00	5	45.45
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	4	21.05	3	15.00	4	36.36
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	6	31.58	2	10.00	1	9.09
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	3	15.79	4	20.00	1	9.09
		その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	後期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	6	75.00	4	57.14	2	66.67
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	1	12.50	1	14.29	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	12.50	1	14.29	0	0.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	0	0.00	1	14.29	1	33.33
		その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
栄養学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	4	33.33	7	53.85	10	71.43
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	2	16.67	3	23.08	1	7.14
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	3	25.00	2	15.38	1	7.14
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	3	25.00	1	7.69	2	14.29
		その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	10	50.00	17	68.00	13	43.33
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	0	0.00	1	4.00	5	16.67
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	4	20.00	3	12.00	5	16.67
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	5	25.00	4	16.00	7	23.33
		その他	1	5.00	0	0.00	0	0.00
	後期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	3	60.00	0	0.00	0	
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	0	0.00	0	0.00	0	
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	20.00	0	0.00	0	
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	1	20.00	0	0.00	0	
		その他	0	0.00	1	100.00	0	
現代福祉学科	総合	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	3	37.50	1	100.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	4	50.00	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	1	12.50	0	0.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	0	0.00	0	0.00
		その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	3	27.27	4	36.36	3	37.50
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	5	45.45	6	54.55	4	50.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	0	0.00	1	9.09	1	12.50
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	3	27.27	0	0.00	0	0.00
		その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	10	50.00	11	57.89	9	52.94
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	3	15.00	4	21.05	3	17.65
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	2	10.00	1	5.26	3	17.65
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	5	25.00	3	15.79	2	11.76
		その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	後期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	5	71.43	0	0.00	3	60.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	1	14.29	3	100.00	1	20.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	14.29	0	0.00	0	0.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	0	0.00	0	0.00	0	0.00
		その他	0	0.00	0	0.00	1	20.00
子ども学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	5	83.33	1	25.00	4	44.44
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	1	16.67	1	25.00	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	0	0.00	1	25.00	2	22.22
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	0	0.00	1	25.00	3	33.33
		その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	2	25.00	2	25.00	2	14.29
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	1	12.50	3	37.50	2	14.29
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	2	25.00	3	37.50	4	28.57
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	3	37.50	0	0.00	6	42.86
		その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	後期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	4	66.67	0	0.00	3	60.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	1	16.67	0	0.00	2	40.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	16.67	1	50.00	0	0.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	0	0.00	1	50.00	0	0.00
		その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00

		項目	2020		2021		2022	
			度数	割合	度数	割合	度数	割合
情報通信工学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	11	84.62	8	57.14	7	70.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	0	0.00	1	7.14	1	10.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	7.69	3	21.43	0	0.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	1	7.69	2	14.29	2	20.00
		その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	帰国	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	ー	ー	1	100.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	ー	ー	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	ー	ー	0	0.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	ー	ー	0	0.00
		その他	ー	ー	ー	ー	0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	7	53.85	9	56.25	12	80.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	0	0.00	1	6.25	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	3	23.08	1	6.25	0	0.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	3	23.08	5	31.25	3	20.00
		その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	中期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	14	63.64	12	60.00	9	52.94
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	0	0.00	1	5.00	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	4.55	1	5.00	5	29.41
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	6	27.27	6	30.00	3	17.65
		その他	1	4.55	0	0.00	0	0.00
情報システム工学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	9	69.23	6	54.55	11	68.75
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	1	7.69	0	0.00	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	2	15.38	1	9.09	2	12.50
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	1	7.69	3	27.27	3	18.75
		その他	0	0.00	1	9.09	0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	8	61.54	8	80.00	7	46.67
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	0	0.00	0	0.00	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	7.69	2	20.00	1	6.67
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	4	30.77	0	0.00	7	46.67
		その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	中期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	14	60.87	15	71.43	16	66.67
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	0	0.00	0	0.00	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	4	17.39	2	9.52	4	16.67
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	5	21.74	4	19.05	4	16.67
		その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
人間情報工学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	8	66.67	6	46.15	4	50.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	0	0.00	2	15.38	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	2	16.67	3	23.08	1	12.50
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	2	16.67	2	15.38	2	25.00
		その他	0	0.00	0	0.00	1	12.50
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	6	50.00	6	46.15	5	55.56
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	3	25.00	1	7.69	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	8.33	3	23.08	3	33.33
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	2	16.67	3	23.08	1	11.11
		その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	中期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	6	35.29	3	20.00	2	28.57
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	0	0.00	0	0.00	1	14.29
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	5	29.41	5	33.33	1	14.29
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	6	35.29	6	40.00	3	42.86
		その他	0	0.00	1	6.67	0	0.00

		項目	2020		2021		2022	
			度数	割合	度数	割合	度数	割合
ビジュアルデザイン学科	総合	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	3	100.00	0	0.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	0	0.00	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	0	0.00	2	50.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	0	0.00	2	50.00
		その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	4	44.44	3	37.50
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	1	11.11	1	12.50
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	2	22.22	3	37.50
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	2	22.22	1	12.50
		その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	私費留学	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	0	0.00	ー	ー
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	0	0.00	ー	ー
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	1	100.00	ー	ー
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	0	0.00	ー	ー
		その他	ー	ー	0	0.00	ー	ー
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	12	70.59	16	80.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	2	11.76	1	5.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	1	5.88	1	5.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	1	5.88	2	10.00
		その他	ー	ー	1	5.88	0	0.00
工芸工業デザイン学科	総合	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	2	50.00	3	75.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	1	25.00	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	1	25.00	0	0.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	0	0.00	1	25.00
		その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	2	25.00	7	100.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	0	0.00	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	1	12.50	0	0.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	3	37.50	0	0.00
		その他	ー	ー	2	25.00	0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	14	70.00	10	50.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	1	5.00	1	5.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	1	5.00	6	30.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	4	20.00	3	15.00
		その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
建築学科	総合	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	3	75.00	1	25.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	0	0.00	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	1	25.00	2	50.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	0	0.00	1	25.00
		その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	3	42.86	5	50.00
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	1	14.29	1	10.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	2	28.57	4	40.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	1	14.29	0	0.00
		その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	ー	ー	9	50.00	10	55.56
		地域ボランティアや海外留学などの多くの経験を積んで、人間力を磨きたい	ー	ー	2	11.11	3	16.67
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	ー	ー	4	22.22	3	16.67
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	ー	ー	3	16.67	2	11.11
		その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00

表13　本学に対する期待

	項目	2020 度数	2020 割合	2021 度数	2021 割合	2022 度数	2022 割合
看護学科	専門教育	18	45.00	19	48.72	6	31.58
	国家試験対策(保健福祉学部のみ)	14	35.00	11	28.21	9	47.37
	一般教養教育	1	2.50	1	2.56	1	5.26
	語学教育	1	2.50	5	12.82	0	0.00
	学内教育設備	1	2.50	0	0.00	0	0.00
	地域活動・ボランティア活動の機会	2	5.00	2	5.13	2	10.53
	国際的活動(海外での授業など)の機会	2	5.00	1	2.56	0	0.00
	インターンシップ	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	学生生活支援(奨学金・就活サポートなど)	0	0.00	0	0.00	1	5.26
	図書館	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	課外活動施設(体育館・プールなど)	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	その他	1	2.50	0	0.00	0	0.00
現代福祉学科	専門教育	12	33.33	16	40.00	18	58.06
	国家試験対策(保健福祉学部のみ)	18	50.00	9	22.50	9	29.03
	一般教養教育	2	5.56	3	7.50	0	0.00
	語学教育	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	学内教育設備	0	0.00	0	0.00	1	3.23
	地域活動・ボランティア活動の機会	2	5.56	9	22.50	2	6.45
	国際的活動(海外での授業など)の機会	1	2.78	1	2.50	0	0.00
	インターンシップ	0	0.00	1	2.50	0	0.00
	学生生活支援(奨学金・就活サポートなど)	1	2.78	1	2.50	0	0.00
	図書館	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	課外活動施設(体育館・プールなど)	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	その他	0	0.00	0	0.00	1	3.23
情報通信工学科	専門教育	32	68.09	33	64.71	34	79.07
	国家試験対策(保健福祉学部のみ)	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	一般教養教育	6	12.77	4	7.84	6	13.95
	語学教育	0	0.00	1	1.96	0	0.00
	学内教育設備	1	2.13	4	7.84	0	0.00
	地域活動・ボランティア活動の機会	0	0.00	2	3.92	0	0.00
	国際的活動(海外での授業など)の機会	1	2.13	0	0.00	0	0.00
	インターンシップ	2	4.26	0	0.00	1	2.33
	学生生活支援(奨学金・就活サポートなど)	2	4.26	1	1.96	0	0.00
	図書館	3	6.38	1	1.96	2	4.65
	課外活動施設(体育館・プールなど)	0	0.00	4	7.84	0	0.00
	その他	0	0.00	1	1.96	0	0.00
人間情報工学科	専門教育	23	56.10	24	60.00	16	64.00
	国家試験対策(保健福祉学部のみ)	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	一般教養教育	3	7.32	5	12.50	3	12.00
	語学教育	3	7.32	0	0.00	0	0.00
	学内教育設備	2	4.88	3	7.50	3	12.00
	地域活動・ボランティア活動の機会	1	2.44	5	12.50	1	4.00
	国際的活動(海外での授業など)の機会	0	0.00	1	2.50	0	0.00
	インターンシップ	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	学生生活支援(奨学金・就活サポートなど)	1	2.44	1	2.50	0	0.00
	図書館	6	14.63	0	0.00	0	0.00
	課外活動施設(体育館・プールなど)	0	0.00	1	2.50	1	4.00
	その他	2	4.88	0	0.00	1	4.00
工芸工業デザイン学科	専門教育	ー	ー	27	84.38	29	93.55
	国家試験対策(保健福祉学部のみ)	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	一般教養教育	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	語学教育	ー	ー	1	3.13	0	0.00
	学内教育設備	ー	ー	1	3.13	2	6.45
	地域活動・ボランティア活動の機会	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	国際的活動(海外での授業など)の機会	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	インターンシップ	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	学生生活支援(奨学金・就活サポートなど)	ー	ー	1	3.13	0	0.00
	図書館	ー	ー	2	6.25	0	0.00
	課外活動施設(体育館・プールなど)	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
栄養学科	専門教育	16	43.24	20	51.28	11	25.00
	国家試験対策(保健福祉学部のみ)	16	43.24	14	35.90	27	61.36
	一般教養教育	2	5.41	2	5.13	0	0.00
	語学教育	0	0.00	0	0.00	1	2.27
	学内教育設備	0	0.00	0	0.00	1	2.27
	地域活動・ボランティア活動の機会	2	5.41	1	2.56	2	4.55
	国際的活動(海外での授業など)の機会	0	0.00	1	2.56	0	0.00
	インターンシップ	1	2.70	0	0.00	0	0.00
	学生生活支援(奨学金・就活サポートなど)	0	0.00	1	2.56	1	2.27
	図書館	0	0.00	0	0.00	1	2.27
	課外活動施設(体育館・プールなど)	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
子ども学科	専門教育	15	75.00	8	57.14	19	67.86
	国家試験対策(保健福祉学部のみ)	4	20.00	2	14.29	2	7.14
	一般教養教育	0	0.00	0	0.00	2	7.14
	語学教育	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	学内教育設備	0	0.00	0	0.00	1	3.57
	地域活動・ボランティア活動の機会	1	5.00	3	21.43	4	14.29
	国際的活動(海外での授業など)の機会	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	インターンシップ	0	0.00	1	7.14	0	0.00
	学生生活支援(奨学金・就活サポートなど)	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	図書館	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	課外活動施設(体育館・プールなど)	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
情報システム工学科	専門教育	35	74.47	26	74.29	46	83.64
	国家試験対策(保健福祉学部のみ)	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	一般教養教育	5	10.64	4	11.43	6	10.91
	語学教育	1	2.13	1	2.86	0	0.00
	学内教育設備	2	4.26	0	0.00	0	0.00
	地域活動・ボランティア活動の機会	1	2.13	0	0.00	0	0.00
	国際的活動(海外での授業など)の機会	1	2.13	0	0.00	1	1.82
	インターンシップ	0	0.00	1	2.86	0	0.00
	学生生活支援(奨学金・就活サポートなど)	1	2.13	0	0.00	0	0.00
	図書館	0	0.00	2	5.71	1	1.82
	課外活動施設(体育館・プールなど)	0	0.00	1	2.86	0	0.00
	その他	1	2.13	0	0.00	1	1.82
ビジュアルデザイン学科	専門教育	ー	ー	29	100.00	26	81.25
	国家試験対策(保健福祉学部のみ)	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	一般教養教育	ー	ー	0	0.00	1	3.13
	語学教育	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	学内教育設備	ー	ー	0	0.00	1	3.13
	地域活動・ボランティア活動の機会	ー	ー	0	0.00	1	3.13
	国際的活動(海外での授業など)の機会	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	インターンシップ	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	学生生活支援(奨学金・就活サポートなど)	ー	ー	0	0.00	1	3.13
	図書館	ー	ー	0	0.00	2	6.25
	課外活動施設(体育館・プールなど)	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
建築学科	専門教育	ー	ー	25	89.29	26	81.25
	国家試験対策(保健福祉学部のみ)	ー	ー	1	3.57	0	0.00
	一般教養教育	ー	ー	1	3.57	0	0.00
	語学教育	ー	ー	0	0.00	1	3.13
	学内教育設備	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	地域活動・ボランティア活動の機会	ー	ー	0	0.00	3	9.38
	国際的活動(海外での授業など)の機会	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	インターンシップ	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	学生生活支援(奨学金・就活サポートなど)	ー	ー	1	3.57	1	3.13
	図書館	ー	ー	0	0.00	1	3.13
	課外活動施設(体育館・プールなど)	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00

表14　身につけたい能力

	項目	2020 度数	2020 割合	2021 度数	2021 割合	2022 度数	2022 割合
看護学科	コミュニケーションスキル(日本語)	26	13.83	32	19.39	13	14.13
	コミュニケーションスキル(外国語)	26	13.83	27	16.36	13	14.13
	情報の収集・分析・発信力(ICTを利用する力)	4	2.13	10	6.06	8	8.70
	卒業後も自律的に学習する力(生涯学習力)	15	7.98	15	9.09	8	8.70
	社会や自然の事象を数量的に扱う力(数量的スキル)	4	2.13	3	1.82	2	2.17
	論理的思考力(ものごとの客観的な分析や表現)	17	9.04	8	4.85	9	9.78
	グローバルに考える力(多文化、異文化の知識と理解)	17	9.04	16	9.70	7	7.61
	自分の行動や生活を適切に律する力(自己管理力)	18	9.57	14	8.48	9	9.78
	他者と協調し共に行動する力(チームワーク)	32	17.02	26	15.76	11	11.96
	発見した問題を解決に導くための計画力(問題解決力)	29	15.43	14	8.48	12	13.04
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
栄養学科	コミュニケーションスキル(日本語)	27	14.75	30	16.85	33	16.84
	コミュニケーションスキル(外国語)	24	13.11	20	11.24	20	10.20
	情報の収集・分析・発信力(ICTを利用する力)	11	6.01	11	6.18	11	5.61
	卒業後も自律的に学習する力(生涯学習力)	17	9.29	13	7.30	23	11.73
	社会や自然の事象を数量的に扱う力(数量的スキル)	4	2.19	3	1.69	6	3.06
	論理的思考力(ものごとの客観的な分析や表現)	20	10.93	15	8.43	13	6.63
	グローバルに考える力(多文化、異文化の知識と理解)	12	6.56	17	9.55	16	8.16
	自分の行動や生活を適切に律する力(自己管理力)	21	11.48	17	9.55	23	11.73
	他者と協調し共に行動する力(チームワーク)	24	13.11	27	15.17	32	16.33
	発見した問題を解決に導くための計画力(問題解決力)	23	12.57	25	14.04	19	9.69
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
現代福祉学科	コミュニケーションスキル(日本語)	32	15.92	35	17.16	30	19.48
	コミュニケーションスキル(外国語)	17	8.46	16	7.84	16	10.39
	情報の収集・分析・発信力(ICTを利用する力)	12	5.97	8	3.92	7	4.55
	卒業後も自律的に学習する力(生涯学習力)	15	7.46	17	8.33	13	8.44
	社会や自然の事象を数量的に扱う力(数量的スキル)	8	3.98	6	2.94	4	2.60
	論理的思考力(ものごとの客観的な分析や表現)	20	9.95	19	9.31	13	8.44
	グローバルに考える力(多文化、異文化の知識と理解)	18	8.96	26	12.75	18	11.69
	自分の行動や生活を適切に律する力(自己管理力)	21	10.45	19	9.31	15	9.74
	他者と協調し共に行動する力(チームワーク)	31	15.42	32	15.69	22	14.29
	発見した問題を解決に導くための計画力(問題解決力)	27	13.43	26	12.75	16	10.39
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
子ども学科	コミュニケーションスキル(日本語)	17	15.18	11	17.74	25	22.94
	コミュニケーションスキル(外国語)	11	9.82	5	8.06	11	10.09
	情報の収集・分析・発信力(ICTを利用する力)	6	5.36	3	4.84	4	3.67
	卒業後も自律的に学習する力(生涯学習力)	12	10.71	5	8.06	10	9.17
	社会や自然の事象を数量的に扱う力(数量的スキル)	1	0.89	2	3.23	2	1.83
	論理的思考力(ものごとの客観的な分析や表現)	10	8.93	6	9.68	7	6.42
	グローバルに考える力(多文化、異文化の知識と理解)	14	12.50	9	14.52	11	10.09
	自分の行動や生活を適切に律する力(自己管理力)	11	9.82	8	12.90	8	7.34
	他者と協調し共に行動する力(チームワーク)	17	15.18	7	11.29	19	17.43
	発見した問題を解決に導くための計画力(問題解決力)	13	11.61	6	9.68	12	11.01
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	コミュニケーションスキル(日本語)	27	12.68	28	11.29	33	15.28
	コミュニケーションスキル(外国語)	28	13.15	28	11.29	23	10.65
	情報の収集・分析・発信力(ICTを利用する力)	35	16.43	45	18.15	32	14.81
	卒業後も自律的に学習する力(生涯学習力)	17	7.98	21	8.47	14	6.48
	社会や自然の事象を数量的に扱う力(数量的スキル)	6	2.82	13	5.24	13	6.02
	論理的思考力(ものごとの客観的な分析や表現)	23	10.80	20	8.06	20	9.26
	グローバルに考える力(多文化、異文化の知識と理解)	18	8.45	18	7.26	18	8.33
	自分の行動や生活を適切に律する力(自己管理力)	20	9.39	24	9.68	16	7.41
	他者と協調し共に行動する力(チームワーク)	20	9.39	28	11.29	23	10.65
	発見した問題を解決に導くための計画力(問題解決力)	19	8.92	22	8.87	24	11.11
	その他	0	0.00	1	0.40	0	0.00
情報システム工学科	コミュニケーションスキル(日本語)	29	11.65	27	15.43	41	14.09
	コミュニケーションスキル(外国語)	30	12.05	26	14.86	27	9.28
	情報の収集・分析・発信力(ICTを利用する力)	36	14.46	25	14.29	46	15.81
	卒業後も自律的に学習する力(生涯学習力)	19	7.63	10	5.71	31	10.65
	社会や自然の事象を数量的に扱う力(数量的スキル)	12	4.82	11	6.29	15	5.15
	論理的思考力(ものごとの客観的な分析や表現)	26	10.44	17	9.71	29	9.97
	グローバルに考える力(多文化、異文化の知識と理解)	20	8.03	12	6.86	19	6.53
	自分の行動や生活を適切に律する力(自己管理力)	22	8.84	17	9.71	25	8.59
	他者と協調し共に行動する力(チームワーク)	28	11.24	16	9.14	30	10.31
	発見した問題を解決に導くための計画力(問題解決力)	27	10.84	14	8.00	28	9.62
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
人間情報工学科	コミュニケーションスキル(日本語)	23	13.29	26	12.32	20	18.02
	コミュニケーションスキル(外国語)	21	12.14	27	12.80	15	13.51
	情報の収集・分析・発信力(ICTを利用する力)	28	16.18	25	11.85	12	10.81
	卒業後も自律的に学習する力(生涯学習力)	14	8.09	17	8.06	4	3.60
	社会や自然の事象を数量的に扱う力(数量的スキル)	8	4.62	12	5.69	5	4.50
	論理的思考力(ものごとの客観的な分析や表現)	15	8.67	22	10.43	10	9.01
	グローバルに考える力(多文化、異文化の知識と理解)	15	8.67	19	9.00	9	8.11
	自分の行動や生活を適切に律する力(自己管理力)	13	7.51	20	9.48	11	9.91
	他者と協調し共に行動する力(チームワーク)	19	10.98	18	8.53	13	11.71
	発見した問題を解決に導くための計画力(問題解決力)	17	9.83	25	11.85	12	10.81
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00

	項目	2020		2021		2022	
		度数	割合	度数	割合	度数	割合
ビジュアルデザイン学科	コミュニケーションスキル(日本語)	ー	ー	26	15.66	22	16.18
	コミュニケーションスキル(外国語)	ー	ー	22	13.25	18	13.24
	情報の収集・分析・発信力(ICTを利用する力)	ー	ー	14	8.43	9	6.62
	卒業後も自律的に学習する力(生涯学習力)	ー	ー	17	10.24	14	10.29
	社会や自然の事象を数量的に扱う力(数量的スキル)	ー	ー	4	2.41	0	0.00
	論理的思考力(ものごとの客観的な分析や表現)	ー	ー	15	9.04	13	9.56
	グローバルに考える力(多文化、異文化の知識と理解)	ー	ー	15	9.04	15	11.03
	自分の行動や生活を適切に律する力(自己管理力)	ー	ー	17	10.24	16	11.76
	他者と協調し共に行動する力(チームワーク)	ー	ー	15	9.04	16	11.76
	発見した問題を解決に導くための計画力(問題解決力)	ー	ー	21	12.65	13	9.56
	その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
工芸工業デザイン学科	コミュニケーションスキル(日本語)	ー	ー	24	14.37	20	13.16
	コミュニケーションスキル(外国語)	ー	ー	21	12.57	16	10.53
	情報の収集・分析・発信力(ICTを利用する力)	ー	ー	10	5.99	7	4.61
	卒業後も自律的に学習する力(生涯学習力)	ー	ー	19	11.38	12	7.89
	社会や自然の事象を数量的に扱う力(数量的スキル)	ー	ー	4	2.40	5	3.29
	論理的思考力(ものごとの客観的な分析や表現)	ー	ー	14	8.38	15	9.87
	グローバルに考える力(多文化、異文化の知識と理解)	ー	ー	19	11.38	17	11.18
	自分の行動や生活を適切に律する力(自己管理力)	ー	ー	15	8.98	18	11.84
	他者と協調し共に行動する力(チームワーク)	ー	ー	19	11.38	21	13.82
	発見した問題を解決に導くための計画力(問題解決力)	ー	ー	22	13.17	21	13.82
	その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
建築学科	コミュニケーションスキル(日本語)	ー	ー	21	13.91	27	14.14
	コミュニケーションスキル(外国語)	ー	ー	20	13.25	21	10.99
	情報の収集・分析・発信力(ICTを利用する力)	ー	ー	11	7.28	16	8.38
	卒業後も自律的に学習する力(生涯学習力)	ー	ー	14	9.27	16	8.38
	社会や自然の事象を数量的に扱う力(数量的スキル)	ー	ー	5	3.31	7	3.66
	論理的思考力(ものごとの客観的な分析や表現)	ー	ー	15	9.93	16	8.38
	グローバルに考える力(多文化、異文化の知識と理解)	ー	ー	17	11.26	19	9.95
	自分の行動や生活を適切に律する力(自己管理力)	ー	ー	13	8.61	19	9.95
	他者と協調し共に行動する力(チームワーク)	ー	ー	17	11.26	25	13.09
	発見した問題を解決に導くための計画力(問題解決力)	ー	ー	18	11.92	25	13.09
	その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00

	項目	2020		2021		2022	
		度数	割合	度数	割合	度数	割合
看護学科	物事に自ら進んで取り組む力(主体性)	9	22.50	29	19.73	12	14.81
	目的を設定し確実に行動する力(実行力)	6	15.00	21	14.29	14	17.28
	自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)	7	17.50	21	14.29	12	14.81
	社会のルールや人との約束を守る力(規律・倫理性)	0	0.00	7	4.76	4	4.94
	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力(状況把握力)	1	2.50	13	8.84	6	7.41
	他人に働きかけ協働する力(働きかけ力)	4	10.00	18	12.24	5	6.17
	現状を分析し目的や課題を明らかにする力(課題発見力)	5	12.50	10	6.80	9	11.11
	新しい価値を生み出す力(創造力)	2	5.00	9	6.12	7	8.64
	相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)	6	15.00	19	12.93	12	14.81
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
栄養学科	物事に自ら進んで取り組む力(主体性)	9	24.32	25	15.63	38	21.71
	目的を設定し確実に行動する力(実行力)	7	18.92	22	13.75	18	10.29
	自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)	3	8.11	26	16.25	31	17.71
	社会のルールや人との約束を守る力(規律・倫理性)	0	0.00	9	5.63	9	5.14
	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力(状況把握力)	4	10.81	14	8.75	16	9.14
	他人に働きかけ協働する力(働きかけ力)	3	8.11	14	8.75	20	11.43
	現状を分析し目的や課題を明らかにする力(課題発見力)	5	13.51	18	11.25	15	8.57
	新しい価値を生み出す力(創造力)	5	13.51	17	10.63	15	8.57
	相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)	1	2.70	15	9.38	13	7.43
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
現代福祉学科	物事に自ら進んで取り組む力(主体性)	12	32.43	31	16.15	21	14.69
	目的を設定し確実に行動する力(実行力)	5	13.51	21	10.94	14	9.79
	自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)	4	10.81	24	12.50	19	13.29
	社会のルールや人との約束を守る力(規律・倫理性)	2	5.41	10	5.21	10	6.99
	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力(状況把握力)	2	5.41	16	8.33	14	9.79
	他人に働きかけ協働する力(働きかけ力)	4	10.81	28	14.58	20	13.99
	現状を分析し目的や課題を明らかにする力(課題発見力)	5	13.51	20	10.42	18	12.59
	新しい価値を生み出す力(創造力)	2	5.41	18	9.38	11	7.69
	相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)	1	2.70	24	12.50	16	11.19
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
子ども学科	物事に自ら進んで取り組む力(主体性)	5	25.00	12	18.18	23	21.50
	目的を設定し確実に行動する力(実行力)	6	30.00	10	15.15	15	14.02
	自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)	1	5.00	10	15.15	17	15.89
	社会のルールや人との約束を守る力(規律・倫理性)	1	5.00	6	9.09	4	3.74
	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力(状況把握力)	0	0.00	6	9.09	9	8.41
	他人に働きかけ協働する力(働きかけ力)	2	10.00	3	4.55	12	11.21
	現状を分析し目的や課題を明らかにする力(課題発見力)	1	5.00	6	9.09	9	8.41
	新しい価値を生み出す力(創造力)	2	10.00	5	7.58	9	8.41
	相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)	2	10.00	8	12.12	9	8.41
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	物事に自ら進んで取り組む力(主体性)	13	27.66	35	15.91	37	20.44
	目的を設定し確実に行動する力(実行力)	10	21.28	27	12.27	25	13.81
	自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)	7	14.89	30	13.64	24	13.26
	社会のルールや人との約束を守る力(規律・倫理性)	0	0.00	19	8.64	12	6.63
	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力(状況把握力)	3	6.38	25	11.36	16	8.84
	他人に働きかけ協働する力(働きかけ力)	1	2.13	18	8.18	15	8.29
	現状を分析し目的や課題を明らかにする力(課題発見力)	8	17.02	24	10.91	14	7.73
	新しい価値を生み出す力(創造力)	4	8.51	25	11.36	23	12.71
	相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)	1	2.13	17	7.73	15	8.29
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
情報システム工学科	物事に自ら進んで取り組む力(主体性)	11	22.45	28	19.44	41	15.77
	目的を設定し確実に行動する力(実行力)	10	20.41	23	15.97	39	15.00
	自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)	6	12.24	23	15.97	38	14.62
	社会のルールや人との約束を守る力(規律・倫理性)	1	2.04	6	4.17	21	8.08
	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力(状況把握力)	3	6.12	17	11.81	25	9.62
	他人に働きかけ協働する力(働きかけ力)	1	2.04	10	6.94	21	8.08
	現状を分析し目的や課題を明らかにする力(課題発見力)	4	8.16	11	7.64	27	10.38
	新しい価値を生み出す力(創造力)	12	24.49	18	12.50	26	10.00
	相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)	1	2.04	8	5.56	22	8.46
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00
人間情報工学科	物事に自ら進んで取り組む力(主体性)	11	26.83	26	14.21	18	20.22
	目的を設定し確実に行動する力(実行力)	9	21.95	21	11.48	13	14.61
	自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)	9	21.95	29	15.85	12	13.48
	社会のルールや人との約束を守る力(規律・倫理性)	0	0.00	11	6.01	5	5.62
	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力(状況把握力)	6	14.63	22	12.02	6	6.74
	他人に働きかけ協働する力(働きかけ力)	2	4.88	18	9.84	8	8.99
	現状を分析し目的や課題を明らかにする力(課題発見力)	0	0.00	21	11.48	7	7.87
	新しい価値を生み出す力(創造力)	4	9.76	24	13.11	13	14.61
	相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)	0	0.00	11	6.01	7	7.87
	その他	0	0.00	0	0.00	0	0.00

	項目	2020		2021		2022	
		度数	割合	度数	割合	度数	割合
ビジュアルデザイン学科	物事に自ら進んで取り組む力(主体性)	ー	ー	21	13.73	23	16.31
	目的を設定し確実に行動する力(実行力)	ー	ー	22	14.38	16	11.35
	自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)	ー	ー	23	15.03	22	15.60
	社会のルールや人との約束を守る力(規律・倫理性)	ー	ー	9	5.88	12	8.51
	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力(状況把握力)	ー	ー	13	8.50	11	7.80
	他人に働きかけ協働する力(働きかけ力)	ー	ー	14	9.15	12	8.51
	現状を分析し目的や課題を明らかにする力(課題発見力)	ー	ー	16	10.46	11	7.80
	新しい価値を生み出す力(創造力)	ー	ー	23	15.03	23	16.31
	相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)	ー	ー	12	7.84	11	7.80
	その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
工芸工業デザイン学科	物事に自ら進んで取り組む力(主体性)	ー	ー	20	13.07	21	14.38
	目的を設定し確実に行動する力(実行力)	ー	ー	25	16.34	18	12.33
	自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)	ー	ー	22	14.38	22	15.07
	社会のルールや人との約束を守る力(規律・倫理性)	ー	ー	11	7.19	10	6.85
	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力(状況把握力)	ー	ー	14	9.15	11	7.53
	他人に働きかけ協働する力(働きかけ力)	ー	ー	9	5.88	11	7.53
	現状を分析し目的や課題を明らかにする力(課題発見力)	ー	ー	17	11.11	16	10.96
	新しい価値を生み出す力(創造力)	ー	ー	24	15.69	25	17.12
	相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)	ー	ー	11	7.19	12	8.22
	その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00
建築学科	物事に自ら進んで取り組む力(主体性)	ー	ー	22	16.54	24	13.79
	目的を設定し確実に行動する力(実行力)	ー	ー	19	14.29	23	13.22
	自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)	ー	ー	18	13.53	26	14.94
	社会のルールや人との約束を守る力(規律・倫理性)	ー	ー	7	5.26	14	8.05
	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力(状況把握力)	ー	ー	10	7.52	18	10.34
	他人に働きかけ協働する力(働きかけ力)	ー	ー	14	10.53	14	8.05
	現状を分析し目的や課題を明らかにする力(課題発見力)	ー	ー	17	12.78	19	10.92
	新しい価値を生み出す力(創造力)	ー	ー	21	15.79	23	13.22
	相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)	ー	ー	5	3.76	13	7.47
	その他	ー	ー	0	0.00	0	0.00

表15 希望進路

	項目	2020 度数	2020 割合	2021 度数	2021 割合	2022 度数	2022 割合
看護学科	岡山県内に就職したい	23	57.50	17	42.50	12	63.16
	岡山県外に就職したい	6	15.00	5	12.50	3	15.79
	就職は希望しない	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	0	0.00	6	15.00	1	5.26
	他大学の大学院に進学したい	1	2.50	3	7.50	1	5.26
	まだわからない	10	25.00	9	22.50	2	10.53
栄養学科	岡山県内に就職したい	11	29.73	15	38.46	13	29.55
	岡山県外に就職したい	9	24.32	6	15.38	15	34.09
	就職は希望しない	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	0	0.00	1	2.56	1	2.27
	他大学の大学院に進学したい	1	2.70	17	43.59	1	2.27
	まだわからない	16	43.24	0	0.00	14	31.82
現代福祉学科	岡山県内に就職したい	15	40.54	18	43.90	16	51.61
	岡山県外に就職したい	10	27.03	14	34.15	10	32.26
	就職は希望しない	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	0	0.00	1	2.44	1	3.23
	他大学の大学院に進学したい	2	5.41	0	0.00	0	0.00
	まだわからない	10	27.03	8	19.51	4	12.90
子ども学科	岡山県内に就職したい	11	55.00	8	57.14	16	57.14
	岡山県外に就職したい	6	30.00	3	21.43	5	17.86
	就職は希望しない	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	他大学の大学院に進学したい	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	まだわからない	3	15.00	3	21.43	7	25.00
情報通信	岡山県内に就職したい	6	12.50	4	8.00	5	11.63
工学科	岡山県外に就職したい	7	14.58	7	14.00	3	6.98
	就職は希望しない	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	1	2.08	1	2.00	2	4.65
	他大学の大学院に進学したい	15	31.25	8	16.00	11	25.58
	まだわからない	19	39.58	30	60.00	22	51.16
情報システム	岡山県内に就職したい	6	12.24	3	7.14	4	7.27
工学科	岡山県外に就職したい	2	4.08	6	14.29	9	16.36
	就職は希望しない	0	0.00	0	0.00	1	1.82
	本学の大学院に進学したい	2	4.08	3	7.14	4	7.27
	他大学の大学院に進学したい	16	32.65	9	21.43	11	20.00
	まだわからない	23	46.94	21	50.00	26	47.27
人間情報	岡山県内に就職したい	4	9.76	8	19.51	5	20.00
工学科	岡山県外に就職したい	5	12.20	3	7.32	3	12.00
	就職は希望しない	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	4	9.76	4	9.76	0	0.00
	他大学の大学院に進学したい	3	7.32	8	19.51	3	12.00
	まだわからない	25	60.98	18	43.90	14	56.00
ビジュアル	岡山県内に就職したい	ー	ー	4	13.33	7	21.88
デザイン学科	岡山県外に就職したい	ー	ー	12	40.00	9	28.13
	就職は希望しない	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	他大学の大学院に進学したい	ー	ー	1	3.33	2	6.25
	まだわからない	ー	ー	13	43.33	14	43.75
工芸工業	岡山県内に就職したい	ー	ー	4	12.50	6	19.35
デザイン学科	岡山県外に就職したい	ー	ー	16	50.00	9	29.03
	就職は希望しない	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	ー	ー	0	0.00	1	3.23
	他大学の大学院に進学したい	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	まだわからない	ー	ー	12	37.50	15	48.39
建築学科	岡山県内に就職したい	ー	ー	11	37.93	5	15.63
	岡山県外に就職したい	ー	ー	1	3.45	8	25.00
	就職は希望しない	ー	ー	0	0.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	ー	ー	1	3.45	1	3.13
	他大学の大学院に進学したい	ー	ー	4	13.79	4	12.50
	まだわからない	ー	ー	12	41.38	14	43.75

表16　岡山創生学

		2021		2022	
	項目	度数	割合	度数	割合
看護学科	受講するつもりである	10	25.00	4	21.05
	受講するつもりはない	1	2.50	1	5.26
	まだ決めていない	29	72.50	12	63.16
	「岡山創生学」を知らない	0	0.00	2	10.53
栄養学科	受講するつもりである	14	35.90	11	25.00
	受講するつもりはない	2	5.13	1	2.27
	まだ決めていない	21	53.85	28	63.64
	「岡山創生学」を知らない	2	5.13	4	9.09
現代福祉学科	受講するつもりである	28	68.29	20	64.52
	受講するつもりはない	0	0.00	0	0.00
	まだ決めていない	13	31.71	10	32.26
	「岡山創生学」を知らない	0	0.00	1	3.23
子ども学科	受講するつもりである	9	64.29	7	25.00
	受講するつもりはない	1	7.14	1	3.57
	まだ決めていない	3	21.43	18	64.29
	「岡山創生学」を知らない	1	7.14	2	7.14
情報通信工学科	受講するつもりである	9	18.00	3	6.98
	受講するつもりはない	3	6.00	1	2.33
	まだ決めていない	36	72.00	37	86.05
	「岡山創生学」を知らない	2	4.00	2	4.65
情報システム工学科	受講するつもりである	4	9.52	9	16.36
	受講するつもりはない	4	9.52	6	10.91
	まだ決めていない	28	66.67	32	58.18
	「岡山創生学」を知らない	6	14.29	8	14.55
人間情報工学科	受講するつもりである	6	14.63	4	16.00
	受講するつもりはない	1	2.44	5	20.00
	まだ決めていない	31	75.61	14	56.00
	「岡山創生学」を知らない	3	7.32	2	8.00
ビジュアルデザイン学科	受講するつもりである	4	13.33	8	25.00
	受講するつもりはない	4	13.33	1	3.13
	まだ決めていない	21	70.00	16	50.00
	「岡山創生学」を知らない	1	3.33	7	21.88
工芸工業デザイン学科	受講するつもりである	12	37.50	7	22.58
	受講するつもりはない	1	3.13	1	3.23
	まだ決めていない	18	56.25	21	67.74
	「岡山創生学」を知らない	1	3.13	2	6.45
建築学科	受講するつもりである	14	48.28	8	25.00
	受講するつもりはない	0	0.00	0	0.00
	まだ決めていない	15	51.72	23	71.88
	「岡山創生学」を知らない	0	0.00	1	3.13

表17① 現在身に付けていると思う資質や知識、能力（法や道徳を守り、社会を改善する意欲）

		2021		2022	
	項目	度数	割合	度数	割合
看護学科	十分ある	31	77.50	13	68.42
	ある程度ある	9	22.50	6	31.58
	どちらともいえない	0	0.00	0	0.00
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
栄養学科	十分ある	22	56.41	23	52.27
	ある程度ある	15	38.46	16	36.36
	どちらともいえない	2	5.13	5	11.36
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
現代福祉学科	十分ある	31	75.61	17	54.84
	ある程度ある	10	24.39	14	45.16
	どちらともいえない	0	0.00	0	0.00
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
子ども学科	十分ある	9	64.29	22	78.57
	ある程度ある	4	28.57	6	21.43
	どちらともいえない	1	7.14	0	0.00
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	十分ある	29	59.18	22	51.16
	ある程度ある	15	30.61	16	37.21
	どちらともいえない	3	6.12	5	11.63
	あまりない	2	4.08	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
情報システム工学科	十分ある	19	45.24	28	50.91
	ある程度ある	17	40.48	21	38.18
	どちらともいえない	6	14.29	4	7.27
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	2	3.64
人間情報工学科	十分ある	22	53.66	13	52.00
	ある程度ある	15	36.59	11	44.00
	どちらともいえない	4	9.76	0	0.00
	あまりない	0	0.00	1	4.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
ビジュアルデザイン学科	十分ある	15	50.00	14	43.75
	ある程度ある	13	43.33	15	46.88
	どちらともいえない	2	6.67	3	9.38
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
工芸工業デザイン学科	十分ある	22	68.75	20	64.52
	ある程度ある	8	25.00	11	35.48
	どちらともいえない	2	6.25	0	0.00
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
建築学科	十分ある	17	58.62	21	65.63
	ある程度ある	10	34.48	8	25.00
	どちらともいえない	2	6.90	2	6.25
	あまりない	0	0.00	1	3.13
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00

表17② 現在身に付けていると思う資質や知識、能力（未来に向けて新たな行動をする意欲）

		2021		2022	
	項目	度数	割合	度数	割合
看護学科	十分ある	28	70.00	15	78.95
	ある程度ある	10	25.00	4	21.05
	どちらともいえない	2	5.00	0	0.00
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
栄養学科	十分ある	17	43.59	23	52.27
	ある程度ある	18	46.15	17	38.64
	どちらともいえない	4	10.26	4	9.09
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
現代福祉学科	十分ある	24	58.54	13	41.94
	ある程度ある	13	31.71	16	51.61
	どちらともいえない	2	4.88	1	3.23
	あまりない	2	4.88	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	1	3.23
子ども学科	十分ある	7	50.00	13	46.43
	ある程度ある	7	50.00	15	53.57
	どちらともいえない	0	0.00	0	0.00
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	十分ある	19	38.00	21	48.84
	ある程度ある	22	44.00	18	41.86
	どちらともいえない	7	14.00	4	9.30
	あまりない	2	4.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
情報システム工学科	十分ある	14	33.33	23	41.82
	ある程度ある	20	47.62	24	43.64
	どちらともいえない	7	16.67	7	12.73
	あまりない	1	2.38	1	1.82
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
人間情報工学科	十分ある	20	48.78	11	44.00
	ある程度ある	17	41.46	10	40.00
	どちらともいえない	4	9.76	4	16.00
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
ビジュアルデザイン学科	十分ある	15	50.00	18	56.25
	ある程度ある	14	46.67	10	31.25
	どちらともいえない	0	0.00	3	9.38
	あまりない	1	3.33	1	3.13
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
工芸工業デザイン学科	十分ある	18	58.06	16	51.61
	ある程度ある	9	29.03	12	38.71
	どちらともいえない	3	9.68	2	6.45
	あまりない	1	3.23	1	3.23
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
建築学科	十分ある	17	58.62	19	59.38
	ある程度ある	11	37.93	12	37.50
	どちらともいえない	1	3.45	0	0.00
	あまりない	0	0.00	1	3.13
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00

表17③ 現在身に付けていると思う資質や知識、能力（生涯にわたって学び続ける意欲）

		2021		2022	
	項目	度数	割合	度数	割合
看護学科	十分ある	27	67.50	13	68.42
	ある程度ある	13	32.50	6	31.58
	どちらともいえない	0	0.00	0	0.00
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
栄養学科	十分ある	18	46.15	16	36.36
	ある程度ある	17	43.59	19	43.18
	どちらともいえない	4	10.26	9	20.45
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
現代福祉学科	十分ある	22	53.66	11	35.48
	ある程度ある	16	39.02	19	61.29
	どちらともいえない	1	2.44	1	3.23
	あまりない	2	4.88	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
子ども学科	十分ある	5	35.71	11	39.29
	ある程度ある	7	50.00	16	57.14
	どちらともいえない	1	7.14	1	3.57
	あまりない	1	7.14	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	十分ある	19	38.00	18	41.86
	ある程度ある	21	42.00	19	44.19
	どちらともいえない	7	14.00	6	13.95
	あまりない	3	6.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
情報システム工学科	十分ある	11	26.83	18	32.73
	ある程度ある	20	48.78	30	54.55
	どちらともいえない	8	19.51	5	9.09
	あまりない	2	4.88	2	3.64
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
人間情報工学科	十分ある	9	21.95	6	24.00
	ある程度ある	27	65.85	8	32.00
	どちらともいえない	5	12.20	11	44.00
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
ビジュアルデザイン学科	十分ある	13	43.33	16	50.00
	ある程度ある	14	46.67	10	31.25
	どちらともいえない	3	10.00	5	15.63
	あまりない	0	0.00	1	3.13
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
工芸工業デザイン学科	十分ある	13	40.63	14	45.16
	ある程度ある	15	46.88	12	38.71
	どちらともいえない	4	12.50	5	16.13
	あまりない	0	0.00	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00
建築学科	十分ある	18	62.07	12	37.50
	ある程度ある	7	24.14	16	50.00
	どちらともいえない	3	10.34	4	12.50
	あまりない	1	3.45	0	0.00
	ほどんどない	0	0.00	0	0.00

表17④ 現在身に付けていると思う資質や知識、能力（幅広い教養）

		2021		2022	
	項目	度数	割合	度数	割合
看護学科	十分身についている	4	10.00	4	21.05
	ある程度身についている	25	62.50	14	73.68
	どちらともいえない	9	22.50	1	5.26
	あまり身についていない	2	5.00	0	0.00
	ほどんどみについていない	0	0.00	0	0.00
栄養学科	十分身についている	0	0.00	4	9.09
	ある程度身についている	17	44.74	25	56.82
	どちらともいえない	15	39.47	14	31.82
	あまり身についていない	6	15.79	1	2.27
	ほどんどみについていない	0	0.00	0	0.00
現代福祉学科	十分身についている	5	12.20	1	3.23
	ある程度身についている	21	51.22	23	74.19
	どちらともいえない	12	29.27	6	19.35
	あまり身についていない	3	7.32	0	0.00
	ほどんどみについていない	0	0.00	1	3.23
子ども学科	十分身についている	1	7.14	5	17.86
	ある程度身についている	6	42.86	17	60.71
	どちらともいえない	5	35.71	6	21.43
	あまり身についていない	2	14.29	0	0.00
	ほどんどみについていない	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	十分身についている	5	10.42	4	9.30
	ある程度身についている	17	35.42	22	51.16
	どちらともいえない	16	33.33	10	23.26
	あまり身についていない	10	20.83	5	11.63
	ほどんどみについていない	0	0.00	2	4.65
情報システム工学科	十分身についている	2	4.88	8	14.55
	ある程度身についている	15	36.59	25	45.45
	どちらともいえない	20	48.78	16	29.09
	あまり身についていない	4	9.76	5	9.09
	ほどんどみについていない	0	0.00	1	1.82
人間情報工学科	十分身についている	3	7.32	2	8.00
	ある程度身についている	15	36.59	12	48.00
	どちらともいえない	16	39.02	9	36.00
	あまり身についていない	7	17.07	2	8.00
	ほどんどみについていない	0	0.00	0	0.00
ビジュアルデザイン学科	十分身についている	1	3.45	2	6.25
	ある程度身についている	12	41.38	17	53.13
	どちらともいえない	10	34.48	11	34.38
	あまり身についていない	6	20.69	2	6.25
	ほどんどみについていない	0	0.00	0	0.00
工芸工業デザイン学科	十分身についている	0	0.00	2	6.45
	ある程度身についている	9	30.00	16	51.61
	どちらともいえない	17	56.67	9	29.03
	あまり身についていない	4	13.33	4	12.90
	ほどんどみについていない	0	0.00	0	0.00
建築学科	十分身についている	2	7.14	3	9.38
	ある程度身についている	17	60.71	16	50.00
	どちらともいえない	5	17.86	12	37.50
	あまり身についていない	4	14.29	1	3.13
	ほどんどみについていない	0	0.00	0	0.00

表17⑤ 現在身に付けていると思う資質や知識、能力（専門的な知識や技能）

		2021		2022	
	項目	度数	割合	度数	割合
看護学科	十分身についている	2	5.56	1	5.26
	ある程度身についている	6	16.67	4	21.05
	どちらともいえない	21	58.33	9	47.37
	あまり身についていない	7	19.44	2	10.53
	ほどんどみについていない	0	0.00	3	15.79
栄養学科	十分身についている	0	0.00	3	6.82
	ある程度身についている	5	13.89	15	34.09
	どちらともいえない	18	50.00	18	40.91
	あまり身についていない	13	36.11	8	18.18
	ほどんどみについていない	0	0.00	0	0.00
現代福祉学科	十分身についている	3	8.33	1	3.23
	ある程度身についている	4	11.11	11	35.48
	どちらともいえない	14	38.89	7	22.58
	あまり身についていない	15	41.67	9	29.03
	ほどんどみについていない	0	0.00	3	9.68
子ども学科	十分身についている	0	0.00	3	10.71
	ある程度身についている	3	23.08	10	35.71
	どちらともいえない	6	46.15	10	35.71
	あまり身についていない	4	30.77	5	17.86
	ほどんどみについていない	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	十分身についている	3	7.50	3	6.98
	ある程度身についている	5	12.50	11	25.58
	どちらともいえない	12	30.00	11	25.58
	あまり身についていない	20	50.00	11	25.58
	ほどんどみについていない	0	0.00	7	16.28
情報システム工学科	十分身についている	1	2.63	3	5.45
	ある程度身についている	7	18.42	8	14.55
	どちらともいえない	13	34.21	14	25.45
	あまり身についていない	17	44.74	25	45.45
	ほどんどみについていない	0	0.00	5	9.09
人間情報工学科	十分身についている	1	2.86	2	8.00
	ある程度身についている	4	11.43	4	16.00
	どちらともいえない	11	31.43	8	32.00
	あまり身についていない	19	54.29	10	40.00
	ほどんどみについていない	0	0.00	1	4.00
ビジュアルデザイン学科	十分身についている	0	0.00	1	3.13
	ある程度身についている	7	25.00	14	43.75
	どちらともいえない	12	42.86	11	34.38
	あまり身についていない	9	32.14	5	15.63
	ほどんどみについていない	0	0.00	1	3.13
工芸工業デザイン学科	十分身についている	0	0.00	3	9.68
	ある程度身についている	5	17.86	7	22.58
	どちらともいえない	9	32.14	10	32.26
	あまり身についていない	14	50.00	9	29.03
	ほどんどみについていない	0	0.00	2	6.45
建築学科	十分身についている	1	3.85	2	6.25
	ある程度身についている	6	23.08	4	12.50
	どちらともいえない	8	30.77	13	40.63
	あまり身についていない	11	42.31	12	37.50
	ほどんどみについていない	0	0.00	1	3.13

表17⑥ 現在身に付けていると思う資質や知識、能力
（世代や言語や文化の相違をのりこえて幅広くコミュニケーションを図ることができる）

		2021		2022	
	項目	度数	割合	度数	割合
看護学科	十分できる	5	12.82	3	15.79
	ある程度できる	18	46.15	15	78.95
	どちらともいえない	15	38.46	1	5.26
	あまりできない	1	2.56	0	0.00
	ほどんどできない	0	0.00	0	0.00
栄養学科	十分できる	2	5.26	3	6.82
	ある程度できる	12	31.58	19	43.18
	どちらともいえない	12	31.58	15	34.09
	あまりできない	12	31.58	5	11.36
	ほどんどできない	0	0.00	2	4.55
現代福祉学科	十分できる	4	10.00	2	6.45
	ある程度できる	17	42.50	14	45.16
	どちらともいえない	11	27.50	7	22.58
	あまりできない	8	20.00	7	22.58
	ほどんどできない	0	0.00	1	3.23
子ども学科	十分できる	2	14.29	3	10.71
	ある程度できる	6	42.86	12	42.86
	どちらともいえない	3	21.43	11	39.29
	あまりできない	3	21.43	2	7.14
	ほどんどできない	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	十分できる	4	8.70	5	11.63
	ある程度できる	13	28.26	18	41.86
	どちらともいえない	16	34.78	8	18.60
	あまりできない	13	28.26	8	18.60
	ほどんどできない	0	0.00	4	9.30
情報システム工学科	十分できる	2	5.41	9	16.36
	ある程度できる	11	29.73	12	21.82
	どちらともいえない	16	43.24	18	32.73
	あまりできない	8	21.62	12	21.82
	ほどんどできない	0	0.00	4	7.27
人間情報工学科	十分できる	2	5.00	4	16.00
	ある程度できる	14	35.00	7	28.00
	どちらともいえない	13	32.50	8	32.00
	あまりできない	11	27.50	5	20.00
	ほどんどできない	0	0.00	1	4.00
ビジュアルデザイン学科	十分できる	2	7.69	4	12.50
	ある程度できる	8	30.77	6	18.75
	どちらともいえない	9	34.62	9	28.13
	あまりできない	7	26.92	12	37.50
	ほどんどできない	0	0.00	1	3.13
工芸工業デザイン学科	十分できる	2	6.90	4	12.90
	ある程度できる	8	27.59	14	45.16
	どちらともいえない	10	34.48	6	19.35
	あまりできない	9	31.03	5	16.13
	ほどんどできない	0	0.00	2	6.45
建築学科	十分できる	3	10.71	4	12.50
	ある程度できる	8	28.57	12	37.50
	どちらともいえない	8	28.57	12	37.50
	あまりできない	9	32.14	3	9.38
	ほどんどできない	0	0.00	1	3.13

表17⑦ 現在身に付けていると思う資質や知識、能力
（世代や言語や文化の相違をのりこえて他者と積極的に協力して行動することができる）

		2021		2022	
	項目	度数	割合	度数	割合
看護学科	十分できる	12	30.77	7	36.84
	ある程度できる	11	28.21	12	63.16
	どちらともいえない	14	35.90	0	0.00
	あまりできない	2	5.13	0	0.00
	ほどんどできない	0	0.00	0	0.00
栄養学科	十分できる	2	5.26	5	11.36
	ある程度できる	18	47.37	19	43.18
	どちらともいえない	10	26.32	17	38.64
	あまりできない	8	21.05	2	4.55
	ほどんどできない	0	0.00	1	2.27
現代福祉学科	十分できる	9	22.50	4	12.90
	ある程度できる	20	50.00	17	54.84
	どちらともいえない	9	22.50	8	25.81
	あまりできない	2	5.00	2	6.45
	ほどんどできない	0	0.00	0	0.00
子ども学科	十分できる	3	21.43	4	14.29
	ある程度できる	6	42.86	16	57.14
	どちらともいえない	2	14.29	7	25.00
	あまりできない	3	21.43	1	3.57
	ほどんどできない	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	十分できる	6	12.24	3	6.98
	ある程度できる	24	48.98	25	58.14
	どちらともいえない	10	20.41	7	16.28
	あまりできない	9	18.37	4	9.30
	ほどんどできない	0	0.00	4	9.30
情報システム工学科	十分できる	1	2.56	8	14.55
	ある程度できる	17	43.59	14	25.45
	どちらともいえない	16	41.03	20	36.36
	あまりできない	5	12.82	11	20.00
	ほどんどできない	0	0.00	2	3.64
人間情報工学科	十分できる	6	15.38	3	12.00
	ある程度できる	16	41.03	9	36.00
	どちらともいえない	11	28.21	8	32.00
	あまりできない	6	15.38	5	20.00
	ほどんどできない	0	0.00	0	0.00
ビジュアルデザイン学科	十分できる	1	3.57	4	12.50
	ある程度できる	11	39.29	9	28.13
	どちらともいえない	12	42.86	10	31.25
	あまりできない	4	14.29	8	25.00
	ほどんどできない	0	0.00	1	3.13
工芸工業デザイン学科	十分できる	8	27.59	5	16.13
	ある程度できる	8	27.59	17	54.84
	どちらともいえない	7	24.14	4	12.90
	あまりできない	6	20.69	4	12.90
	ほどんどできない	0	0.00	1	3.23
建築学科	十分できる	3	10.34	6	18.75
	ある程度できる	9	31.03	14	43.75
	どちらともいえない	13	44.83	8	25.00
	あまりできない	4	13.79	3	9.38
	ほどんどできない	0	0.00	1	3.13

表17⑧ 現在身に付けていると思う資質や知識、能力
（自分の生活の中で課題を見つけて解決することができる）

		2021		2022	
	項目	度数	割合	度数	割合
看護学科	十分できる	9	22.50	8	42.11
	ある程度できる	21	52.50	10	52.63
	どちらともいえない	8	20.00	1	5.26
	あまりできない	2	5.00	0	0
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
栄養学科	十分できる	5	12.82	6	13.64
	ある程度できる	22	56.41	20	45.45
	どちらともいえない	10	25.64	15	34.09
	あまりできない	2	5.13	3	6.82
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
現代福祉学科	十分できる	7	17.50	2	6.45
	ある程度できる	24	60.00	20	64.52
	どちらともいえない	8	20.00	7	22.58
	あまりできない	1	2.50	2	6.45
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
子ども学科	十分できる	1	7.14	5	17.86
	ある程度できる	6	42.86	18	64.29
	どちらともいえない	7	50.00	5	17.86
	あまりできない	0	0.00	0	0
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
情報通信工学科	十分できる	3	6.25	5	11.63
	ある程度できる	31	64.58	26	60.47
	どちらともいえない	9	18.75	6	13.95
	あまりできない	5	10.42	6	13.95
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
情報システム工学科	十分できる	5	11.90	12	26.67
	ある程度できる	17	40.48	33	73.33
	どちらともいえない	16	38.10	6	13.33
	あまりできない	4	9.52	4	8.89
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
人間情報工学科	十分できる	7	17.07	3	12
	ある程度できる	19	46.34	13	52
	どちらともいえない	7	17.07	6	24
	あまりできない	8	19.51	3	12
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
ビジュアルデザイン学科	十分できる	0	0.00	7	21.88
	ある程度できる	22	73.33	15	46.88
	どちらともいえない	5	16.67	8	25
	あまりできない	3	10.00	2	6.25
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
工芸工業デザイン学科	十分できる	3	9.38	3	9.68
	ある程度できる	19	59.38	18	58.06
	どちらともいえない	6	18.75	7	22.58
	あまりできない	4	12.50	3	9.68
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
建築学科	十分できる	4	13.79	5	15.63
	ある程度できる	16	55.17	16	50
	どちらともいえない	7	24.14	8	25
	あまりできない	2	6.90	3	9.38
	ほどんどできない	0	0.00	0	0

表17⑨ 現在身に付けていると思う資質や知識、能力
（自ら進んで論理的に考え、判断し、実行することができる）

		2021		2022	
	項目	度数	割合	度数	割合
看護学科	十分できる	11	27.50	8	36.36
	ある程度できる	24	60.00	10	45.45
	どちらともいえない	4	10.00	1	4.55
	あまりできない	1	2.50	3	13.64
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
栄養学科	十分できる	4	10.53	6	13.64
	ある程度できる	22	57.89	20	45.45
	どちらともいえない	10	26.32	15	34.09
	あまりできない	2	5.26	3	6.82
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
現代福祉学科	十分できる	7	17.07	2	6.45
	ある程度できる	26	63.41	20	64.52
	どちらともいえない	6	14.63	7	22.58
	あまりできない	2	4.88	2	6.45
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
子ども学科	十分できる	1	7.14	4	14.81
	ある程度できる	7	50.00	18	66.67
	どちらともいえない	6	42.86	5	18.52
	あまりできない	0	0.00	0	0
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
情報通信工学科	十分できる	8	16.00	5	11.63
	ある程度できる	27	54.00	26	60.47
	どちらともいえない	10	20.00	6	13.95
	あまりできない	5	10.00	6	13.95
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
情報システム工学科	十分できる	8	19.05	12	21.82
	ある程度できる	18	42.86	33	60
	どちらともいえない	13	30.95	6	10.91
	あまりできない	3	7.14	4	7.27
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
人間情報工学科	十分できる	5	12.20	3	12
	ある程度できる	24	58.54	13	52
	どちらともいえない	7	17.07	6	24
	あまりできない	5	12.20	3	12
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
ビジュアルデザイン学科	十分できる	2	6.67	7	21.88
	ある程度できる	18	60.00	15	46.88
	どちらともいえない	7	23.33	8	25
	あまりできない	3	10.00	2	6.25
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
工芸工業デザイン学科	十分できる	5	15.63	3	9.68
	ある程度できる	13	40.63	18	58.06
	どちらともいえない	9	28.13	7	22.58
	あまりできない	5	15.63	3	9.68
	ほどんどできない	0	0.00	0	0
建築学科	十分できる	7	24.14	5	15.63
	ある程度できる	15	51.72	16	50
	どちらともいえない	3	10.34	8	25
	あまりできない	4	13.79	3	9.38
	ほどんどできない	0	0.00	0	0

表18①　昨年と比較してアドミッションポリシーに沿った学生が入学しているか
（幅広い分野での基礎学力を身に付けた）

		2022	
	項目	度数	割合
看護学科	十分身に付けた	4	21.05
	ある程度身に付けた	14	73.68
	どちらともいえない	1	5.26
	あまり身に付けていない	0	0
	ほとんど身に付けていない	0	0
栄養学科	十分身に付けた	5	11.36
	ある程度身に付けた	25	56.82
	どちらともいえない	13	29.55
	あまり身に付けていない	0	0
	ほとんど身に付けていない	1	2.27
現代福祉学科	十分身に付けた	3	9.68
	ある程度身に付けた	18	58.06
	どちらともいえない	7	22.58
	あまり身に付けていない	2	6.45
	ほとんど身に付けていない	1	3.23
子ども学科	十分身に付けた	5	17.86
	ある程度身に付けた	19	67.86
	どちらともいえない	2	7.14
	あまり身に付けていない	2	7.14
	ほとんど身に付けていない	0	0
情報通信工学科	十分身に付けた	5	11.63
	ある程度身に付けた	24	55.81
	どちらともいえない	10	23.26
	あまり身に付けていない	2	4.65
	ほとんど身に付けていない	2	4.65
情報システム工学科	十分身に付けた	7	12.73
	ある程度身に付けた	29	52.73
	どちらともいえない	13	23.64
	あまり身に付けていない	5	9.09
	ほとんど身に付けていない	1	1.82
人間情報工学科	十分身に付けた	3	12
	ある程度身に付けた	14	56
	どちらともいえない	6	24
	あまり身に付けていない	2	8
	ほとんど身に付けていない	0	0
ビジュアルデザイン学科	十分身に付けた	2	6.25
	ある程度身に付けた	20	62.5
	どちらともいえない	8	25
	あまり身に付けていない	2	6.25
	ほとんど身に付けていない	0	0
工芸工業デザイン学科	十分身に付けた	2	6.45
	ある程度身に付けた	13	41.94
	どちらともいえない	11	35.48
	あまり身に付けていない	5	16.13
	ほとんど身に付けていない	0	0
建築学科	十分身に付けた	1	3.13
	ある程度身に付けた	25	78.13
	どちらともいえない	3	9.38
	あまり身に付けていない	3	9.38
	ほとんど身に付けていない	0	0

表18② 昨年と比較してアドミッションポリシーに沿った学生が入学しているか
（論理的な思考力や表現力を磨いた）

		2022	
	項目	度数	割合
看護学科	十分磨いてきた	4	21.05
	ある程度磨いてきた	14	73.68
	どちらともいえない	1	5.26
	あまり磨いてきていない	0	0
	ほとんど磨いてきていない	0	0
栄養学科	十分磨いてきた	3	6.82
	ある程度磨いてきた	25	56.82
	どちらともいえない	15	34.09
	あまり磨いてきていない	1	2.27
	ほとんど磨いてきていない	0	0
現代福祉学科	十分磨いてきた	2	6.45
	ある程度磨いてきた	23	74.19
	どちらともいえない	4	12.9
	あまり磨いてきていない	2	6.45
	ほとんど磨いてきていない	0	0
子ども学科	十分磨いてきた	4	14.29
	ある程度磨いてきた	17	60.71
	どちらともいえない	7	25
	あまり磨いてきていない	0	0
	ほとんど磨いてきていない	0	0
情報通信工学科	十分磨いてきた	3	6.98
	ある程度磨いてきた	27	62.79
	どちらともいえない	10	23.26
	あまり磨いてきていない	1	2.33
	ほとんど磨いてきていない	2	4.65
情報システム工学科	十分磨いてきた	7	12.73
	ある程度磨いてきた	36	65.45
	どちらともいえない	13	23.64
	あまり磨いてきていない	6	10.91
	ほとんど磨いてきていない	1	1.82
人間情報工学科	十分磨いてきた	3	12
	ある程度磨いてきた	13	52
	どちらともいえない	9	36
	あまり磨いてきていない	0	0
	ほとんど磨いてきていない	0	0
ビジュアルデザイン学科	十分磨いてきた	5	15.63
	ある程度磨いてきた	18	56.25
	どちらともいえない	8	25
	あまり磨いてきていない	1	3.13
	ほとんど磨いてきていない	0	0
工芸工業デザイン学科	十分磨いてきた	9	29.03
	ある程度磨いてきた	14	45.16
	どちらともいえない	6	19.35
	あまり磨いてきていない	2	6.45
	ほとんど磨いてきていない	0	0
建築学科	十分磨いてきた	1	3.13
	ある程度磨いてきた	22	68.75
	どちらともいえない	6	18.75
	あまり磨いてきていない	3	9.38
	ほとんど磨いてきていない	0	0

表18③　昨年と比較してアドミッションポリシーに沿った学生が入学しているか
（基礎的な英語力を含めたコミュニケーション能力を磨いた）

		2022	
	項目	度数	割合
看護学科	十分磨いてきた	4	21.05
	ある程度磨いてきた	12	63.16
	どちらともいえない	3	15.79
	あまり磨いてきていない	0	0
	ほとんど磨いてきていない	0	0
栄養学科	十分磨いてきた	3	6.82
	ある程度磨いてきた	21	47.73
	どちらともいえない	14	31.82
	あまり磨いてきていない	6	13.64
	ほとんど磨いてきていない	0	0
現代福祉学科	十分磨いてきた	0	0
	ある程度磨いてきた	18	58.06
	どちらともいえない	8	25.81
	あまり磨いてきていない	3	9.68
	ほとんど磨いてきていない	2	6.45
子ども学科	十分磨いてきた	3	10.71
	ある程度磨いてきた	17	60.71
	どちらともいえない	2	7.14
	あまり磨いてきていない	6	21.43
	ほとんど磨いてきていない	0	0
情報通信工学科	十分磨いてきた	3	6.98
	ある程度磨いてきた	15	34.88
	どちらともいえない	13	30.23
	あまり磨いてきていない	9	20.93
	ほとんど磨いてきていない	3	6.98
情報システム工学科	十分磨いてきた	3	5.45
	ある程度磨いてきた	18	32.73
	どちらともいえない	20	36.36
	あまり磨いてきていない	12	21.82
	ほとんど磨いてきていない	2	3.64
人間情報工学科	十分磨いてきた	1	4
	ある程度磨いてきた	7	28
	どちらともいえない	11	44
	あまり磨いてきていない	5	20
	ほとんど磨いてきていない	1	4
ビジュアルデザイン学科	十分磨いてきた	1	3.13
	ある程度磨いてきた	8	25
	どちらともいえない	7	21.88
	あまり磨いてきていない	14	43.75
	ほとんど磨いてきていない	2	6.25
工芸工業デザイン学科	十分磨いてきた	3	9.68
	ある程度磨いてきた	10	32.26
	どちらともいえない	7	22.58
	あまり磨いてきていない	8	25.81
	ほとんど磨いてきていない	3	9.68
建築学科	十分磨いてきた	3	9.38
	ある程度磨いてきた	11	34.38
	どちらともいえない	9	28.13
	あまり磨いてきていない	8	25
	ほとんど磨いてきていない	1	3.13

表18④ 昨年と比較してアドミッションポリシーに沿った学生が入学しているか
（人間性や倫理観などの素養を磨いた）

		2022	
	項目	度数	割合
看護学科	十分磨いてきた	8	42.11
	ある程度磨いてきた	11	57.89
	どちらともいえない	0	0
	あまり磨いてきていない	0	0
	ほとんど磨いてきていない	0	0
栄養学科	十分磨いてきた	8	18.18
	ある程度磨いてきた	26	59.09
	どちらともいえない	9	20.45
	あまり磨いてきていない	1	2.27
	ほとんど磨いてきていない	0	0
現代福祉学科	十分磨いてきた	3	9.68
	ある程度磨いてきた	24	77.42
	どちらともいえない	3	9.68
	あまり磨いてきていない	1	3.23
	ほとんど磨いてきていない	0	0
子ども学科	十分磨いてきた	10	35.71
	ある程度磨いてきた	16	57.14
	どちらともいえない	2	7.14
	あまり磨いてきていない	0	0
	ほとんど磨いてきていない	0	0
情報通信工学科	十分磨いてきた	8	18.6
	ある程度磨いてきた	26	60.47
	どちらともいえない	7	16.28
	あまり磨いてきていない	1	2.33
	ほとんど磨いてきていない	1	2.33
情報システム工学科	十分磨いてきた	10	18.18
	ある程度磨いてきた	30	54.55
	どちらともいえない	9	16.36
	あまり磨いてきていない	6	10.91
	ほとんど磨いてきていない	0	0
人間情報工学科	十分磨いてきた	4	16
	ある程度磨いてきた	18	72
	どちらともいえない	2	8
	あまり磨いてきていない	1	4
	ほとんど磨いてきていない	0	0
ビジュアルデザイン学科	十分磨いてきた	9	28.13
	ある程度磨いてきた	18	56.25
	どちらともいえない	4	12.5
	あまり磨いてきていない	1	3.13
	ほとんど磨いてきていない	0	0
工芸工業デザイン学科	十分磨いてきた	8	25.81
	ある程度磨いてきた	17	54.84
	どちらともいえない	6	19.35
	あまり磨いてきていない	0	0
	ほとんど磨いてきていない	0	0
建築学科	十分磨いてきた	3	9.38
	ある程度磨いてきた	25	78.13
	どちらともいえない	4	12.5
	あまり磨いてきていない	0	0
	ほとんど磨いてきていない	0	0

B-2 大学院入学生

表ア アンケート回答率

	回答数	全数	回答率(%)
保健福祉学研究科 看護学専攻	5	5	100.0
保健福祉学研究科 栄養学専攻	2	3	66.7
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	4	4	100.0
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	3	6	50.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	33	60	55.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	0	0	0.0
デザイン学研究科デザイン工学専攻	3	9	33.3
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	0	2	0.0
全体	50	89	56.2

表イ　専門分野に必要な広範な知識を身に付けている

	項目	2022 度数	割合
保健福祉学研究科 看護学専攻	十分に身に付いている	1	20.0
	ある程度身に付いている	3	60.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない	1	20.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
保健福祉学研究科 栄養学専攻	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている	1	50.0
	どちらともいえない	1	50.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている	1	25.0
	どちらともいえない	2	50.0
	あまり身に付いていない	1	25.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている	3	100.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	十分に身に付いている	1	3.0
	ある程度身に付いている	17	51.5
	どちらともいえない	10	30.3
	あまり身に付いていない	3	9.1
	ほとんど身に付いていない	2	6.1
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
デザイン学研究科デザイン工学専攻	十分に身に付いている	1	33.3
	ある程度身に付いている	1	33.3
	どちらともいえない	1	33.3
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0

表ウ 専門分野に必要な思考力・判断力を身に付けている

	項目	2022 度数	割合
保健福祉学研究科 看護学専攻	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている	4	80.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない	1	20.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
保健福祉学研究科 栄養学専攻	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている		0.0
	どちらともいえない	1	50.0
	あまり身に付いていない	1	50.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている	2	50.0
	どちらともいえない	1	25.0
	あまり身に付いていない	1	25.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている	3	100.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	十分に身に付いている	1	3.0
	ある程度身に付いている	18	54.5
	どちらともいえない	10	30.3
	あまり身に付いていない	3	9.1
	ほとんど身に付いていない	1	3.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
デザイン学研究科デザイン工学専攻	十分に身に付いている	1	33.3
	ある程度身に付いている	1	33.3
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない	1	33.3
	ほとんど身に付いていない		0.0
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0

表エ 専門分野の研究に主体的に取り組み、論理的に考究する意欲や態度を身に付けている

	項目	2022 度数	割合
保健福祉学研究科 看護学専攻	十分に身に付いている	1	20.0
	ある程度身に付いている	3	60.0
	どちらともいえない	1	20.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
保健福祉学研究科 栄養学専攻	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている		0.0
	どちらともいえない	2	100.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている	3	75.0
	どちらともいえない	1	25.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている	3	100.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	十分に身に付いている	5	15.2
	ある程度身に付いている	17	51.5
	どちらともいえない	7	21.2
	あまり身に付いていない	3	9.1
	ほとんど身に付いていない	1	3.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
デザイン学研究科デザイン工学専攻	十分に身に付いている	1	33.3
	ある程度身に付いている	1	33.3
	どちらともいえない	1	33.3
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0

表オ 研究倫理を遵守することができる

	項目	2022 度数	割合
保健福祉学研究科 看護学専攻	十分にできる	3	60.0
	ある程度できる	2	40.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科 栄養学専攻	十分にできる	1	50.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない	1	50.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	十分にできる	3	75.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない	1	25.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	十分にできる	2	66.7
	ある程度できる	1	33.3
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	十分にできる	16	48.5
	ある程度できる	13	39.4
	どちらともいえない	3	9.1
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない	1	3.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
デザイン学研究科デザイン工学専攻	十分にできる	1	33.3
	ある程度できる	2	66.7
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0

表カ 自ら収集した専門分野の情報を活用し理論的に考え、課題を解決する力を身に付けている

	項目	2022 度数	割合
保健福祉学研究科 看護学専攻	十分に身に付いている	1	20.0
	ある程度身に付いている	3	60.0
	どちらともいえない	1	20.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
保健福祉学研究科 栄養学専攻	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている		0.0
	どちらともいえない	1	50.0
	あまり身に付いていない	1	50.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている	3	75.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない	1	25.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている	3	100.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	十分に身に付いている	5	15.2
	ある程度身に付いている	19	57.6
	どちらともいえない	5	15.2
	あまり身に付いていない	3	9.1
	ほとんど身に付いていない	1	3.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
デザイン学研究科デザイン工学専攻	十分に身に付いている	1	33.3
	ある程度身に付いている	2	66.7
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	十分に身に付いている		0.0
	ある程度身に付いている		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまり身に付いていない		0.0
	ほとんど身に付いていない		0.0

表キ 専門分野の発展に寄与する研究課題を自立的に考案・促進させて、成果を得ることができる

	項目	2022 度数	割合
保健福祉学研究科 看護学専攻	十分にできる	1	20.0
	ある程度できる	3	60.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない	1	20.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科 栄養学専攻	十分にできる	1	50.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない	1	50.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる	1	25.0
	どちらともいえない	2	50.0
	あまりできない	1	25.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	十分にできる		0.0
	ある程度できる	2	66.7
	どちらともいえない	1	33.3
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	十分にできる	2	6.1
	ある程度できる	18	54.5
	どちらともいえない	8	24.2
	あまりできない	3	9.1
	ほとんどできない	2	6.1
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
デザイン学研究科デザイン工学専攻	十分にできる	1	33.3
	ある程度できる	2	66.7
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0

表ク 日本語を使用しての研究成果(学会発表、専門誌等での論文掲載、作品発表など)の
発表件数のうち、自身が筆頭のもの、あるいは自身で制作したもの

	項目	2022 度数	割合
保健福祉学研究科 看護学専攻	0件	4	80.0
	1-2件	1	20.0
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0
保健福祉学研究科 栄養学専攻	0件	2	100.0
	1-2件		0.0
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	0件	2	50.0
	1-2件	2	50.0
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	0件	2	66.7
	1-2件	1	33.3
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	0件	27	81.8
	1-2件	6	18.2
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	0件		0.0
	1-2件		0.0
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0
デザイン学研究科デザイン工学専攻	0件	1	33.3
	1-2件		0.0
	3~4件	1	33.3
	5~6件		0.0
	7件以上	1	33.3
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	0件		0.0
	1-2件		0.0
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0

表ケ 日本語以外を使用しての研究成果(学会発表、専門誌等での論文掲載、作品発表など)の
発表件数のうち、自身が筆頭のもの、あるいは自身で制作したもの

	項目	2022 度数	割合
保健福祉学研究科 看護学専攻	0件	4	80.0
	1-2件	1	20.0
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0
保健福祉学研究科 栄養学専攻	0件	2	100.0
	1-2件		0.0
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	0件	4	100.0
	1-2件		0.0
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	0件	3	100.0
	1-2件		0.0
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	0件	32	97.0
	1-2件	1	3.0
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	0件		0.0
	1-2件		0.0
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0
デザイン学研究科デザイン工学専攻	0件	3	100.0
	1-2件		0.0
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	0件		0.0
	1-2件		0.0
	3~4件		0.0
	5~6件		0.0
	7件以上		0.0

表コ 自分の主観的な立場を離れ、物事を客観的・普遍的に考えることができる

	項目	2022 度数	割合
保健福祉学研究科 看護学専攻	十分にできる	2	40.0
	ある程度できる	1	20.0
	どちらともいえない	2	40.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科 栄養学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない	2	100.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる	2	50.0
	どちらともいえない	2	50.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	十分にできる		0.0
	ある程度できる	2	66.7
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない	1	33.3
	ほとんどできない		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	十分にできる	3	9.1
	ある程度できる	21	63.6
	どちらともいえない	5	15.2
	あまりできない	2	6.1
	ほとんどできない	2	6.1
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
デザイン学研究科デザイン工学専攻	十分にできる	1	33.3
	ある程度できる	2	66.7
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0

表サ　地域の問題と国際社会の問題の双方に対応して考えることができる

	項目	2022 度数	割合
保健福祉学研究科 看護学専攻	十分にできる	2	40.0
	ある程度できる	1	20.0
	どちらともいえない	2	40.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科 栄養学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる	1	50.0
	どちらともいえない	1	50.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる	2	50.0
	どちらともいえない	2	50.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	十分にできる		0.0
	ある程度できる	2	66.7
	どちらともいえない	1	33.3
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	十分にできる	2	6.1
	ある程度できる	12	36.4
	どちらともいえない	13	39.4
	あまりできない	4	12.1
	ほとんどできない	2	6.1
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
デザイン学研究科デザイン工学専攻	十分にできる	1	33.3
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない	2	66.7
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0

表シ 現在解決すべき課題を、来たるべき社会を構想しながら考えることができる

	項目	2022 度数	割合
保健福祉学研究科 看護学専攻	十分にできる	2	40.0
	ある程度できる	3	60.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科 栄養学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる	1	50.0
	どちらともいえない	1	50.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる	1	25.0
	どちらともいえない	2	50.0
	あまりできない	1	25.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	十分にできる		0.0
	ある程度できる	2	66.7
	どちらともいえない	1	33.3
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	十分にできる	1	3.0
	ある程度できる	17	51.5
	どちらともいえない	8	24.2
	あまりできない	5	15.2
	ほとんどできない	2	6.1
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
デザイン学研究科デザイン工学専攻	十分にできる	1	33.3
	ある程度できる	2	66.7
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0

表ス 世代や言語や文化の相違をこえてコミュニケーションを図り、他者と協働できる

	項目	2022 度数	割合
保健福祉学研究科 看護学専攻	十分にできる	2	40.0
	ある程度できる	1	20.0
	どちらともいえない	2	40.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科 栄養学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる	1	50.0
	どちらともいえない	1	50.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	十分にできる	1	25.0
	ある程度できる	3	75.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	十分にできる	1	33.3
	ある程度できる	1	33.3
	どちらともいえない	1	33.3
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	十分にできる	2	6.1
	ある程度できる	13	39.4
	どちらともいえない	9	27.3
	あまりできない	6	18.2
	ほとんどできない	3	9.1
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
デザイン学研究科デザイン工学専攻	十分にできる	1	33.3
	ある程度できる	1	33.3
	どちらともいえない	1	33.3
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0

表セ 自ら進んで論理的に判断し、提案し、率先して行動することができる

	項目	2022 度数	割合
保健福祉学研究科 看護学専攻	十分にできる	2	40.0
	ある程度できる	2	40.0
	どちらともいえない	1	20.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科 栄養学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない	2	100.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	十分にできる	1	25.0
	ある程度できる	2	50.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない	1	25.0
	ほとんどできない		0.0
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	十分にできる		0.0
	ある程度できる	2	66.7
	どちらともいえない	1	33.3
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	十分にできる	3	9.1
	ある程度できる	13	39.4
	どちらともいえない	11	33.3
	あまりできない	4	12.1
	ほとんどできない	2	6.1
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
デザイン学研究科デザイン工学専攻	十分にできる	1	33.3
	ある程度できる	2	66.7
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	十分にできる		0.0
	ある程度できる		0.0
	どちらともいえない		0.0
	あまりできない		0.0
	ほとんどできない		0.0

表ソ 大学院進学にあたり特に身につけたいことや大学への要望

	2022
保健福祉学研究科 看護学専攻	
保健福祉学研究科 栄養学専攻	他大学から進学していることもあり何をすれば良いか不安なところもある
保健福祉学研究科 保健福祉学専攻	研究上必要な文献・資料等を素早く、十分に参照できる環境で学びたい
保健福祉学研究科保健福祉科学専攻(博士後期)	
情報系工学研究科システム工学専攻(博士前期)	論理的思考力 行動力思考力更なる専門知識 専門分野の知識 収集したデータを考察する能力 分かりやすく資料を纏める能力 プレゼンテーション能力 どのように改善が施されているのか、統計資料等での説明が周知されていない。これらの情報から得た課題と改善した点等をもっと積極的に発信していく必要があると考える。投票率の低さはこのアンケートの魅力のなさを如実に反映しているものであると考えられる。 自身の専門分野に対する幅広い知識。または、就職したときに役に立つような実践的な技術。
情報系工学研究科システム工学専攻(博士後期)	
デザイン学研究科デザイン工学専攻	歴史の整理、現在の理解、未来予測を数値でまとめたい。
デザイン学研究科造形デザイン学専攻	

C 授業改善アンケート

C-1 調査概要

【調査期間】　前期:　2022 年 7 月 26 日(火)～2022 年 8 月 12 日(金)
後期:　2023 年 1 月 25 日(水)～2023 年 2 月 13 日(月)

【調査方法】　教学システム「はっとりん」による匿名式 Web アンケート

【調査対象】　学外実習を伴う授業科目、インターンシップ科目および卒業研究を除く授業科目のうち、履修登録者 5 名以上のもの

【対象科目数・履修者総数・回答者総数】（下表のとおり）

[学部]　＊： 社会福祉学専攻と子ども学専攻の合算値　＋: 未開設

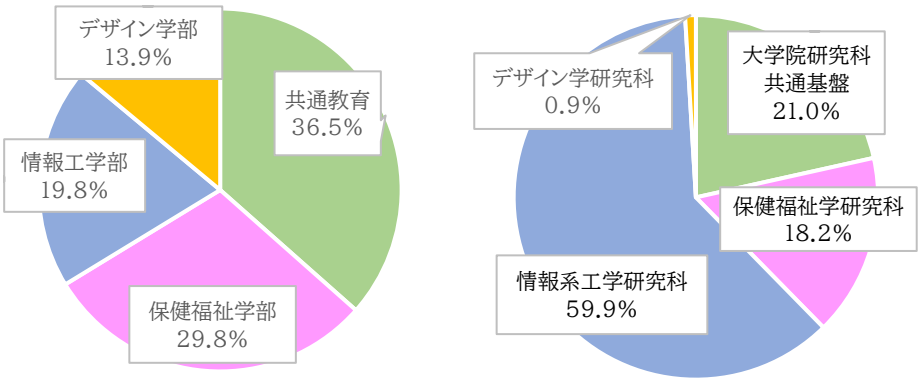
区分／学部 / カテゴリー／学科	科目数	履修者	回答者	回答率	2021 回答率	2020 回答率
共通教育科目	217	10431	4519	43.3%	46.8%	47.9%
修学基礎	12	870	506	58.2%	63.1%	69.7%
人文・社会科学	26	1827	737	40.3%	41.9%	47.0%
自然科学	29	1780	810	45.5%	54.1%	47.6%
健康科学	26	950	382	40.2%	43.7%	45.2%
語学国際	97	3274	1365	41.7%	42.9%	43.7%
社会連会	6	1095	400	36.5%	42.1%	43.6%
複合 PBL	21	635	319	50.2%	52.5%	＋
保健福祉学部教育科目	271	8196	3680	44.9%	46.4%	50.4%
看護学科	59	2187	869	39.7%	53.3%	52.7%
栄養学科	74	2448	997	40.7%	35.8%	49.4%
保健福祉学科(社福)	39	940	528	56.2%	54.6%	＊49.1%
現代福祉学科	20	705	443	62.8%	63.5%	＋
保健福祉学科(子ども)	25	488	126	25.8%	35.6%	＊49.1%
子ども学科	35	914	368	40.3%	43.6%	＋
〔複数学科合同開講〕	19	514	349	67.9%	58.0%	77.3%
情報工学部教育科目	187	6935	2445	35.3%	38.9%	38.5%
情報通信工学科	44	1683	604	35.9%	47.9%	39.5%
情報システム工学科	48	2056	585	28.5%	29.6%	35.6%
人間情報工学科	41	1449	743	51.3%	47.4%	48.1%
〔複数学科合同開講〕	54	1747	513	29.4%	34.2%	31.2%
デザイン学部教育科目	163	4328	1725	39.9%	33.7%	31.0%
デザイン工学科	29	527	123	23.3%	30.1%	26.5%
造形デザイン学科	18	381	119	31.2%	29.7%	40.3%

	ビジュアルデザイン学科	26	611	369	60.4%	49.4%	+
	工芸工業デザイン学科	29	661	371	56.1%	57.5%	+
	建築学科	24	684	213	31.1%	37.6%	+
	〔複数学科合同開講〕	37	1464	530	36.2%	29.3%	27.9%
全学部		838	29890	12369	41.4%	42.8%	43.4%

［大学院］　　+：未開設　#：2020 年度は専攻ごとのデータなし　-：対象科目なし

区分／研究科 / 専攻	科目数	履修者	回答者	回答率	2021 回答率	2020 回答率
研究科共通基盤科目	5	173	68	39.3%	27.5%	+
保健福祉学研究科	23	127	59	46.5%	23.0%	54.2%
看護学専攻(前期)	21	105	51	48.6%	30.6%	#
栄養学専攻(前期)	-	-	-	-	23.1%	#
保健福祉学専攻(前期)	-	-	-	-	0.0%	#
〔複数専攻合同開講〕	2	22	8	36.4%	8.7%	#
情報系工学研究科	41	627	194	30.9%	44.3%	41.1%
システム工学専攻(前期)	41	627	194	30.9%	44.3%	41.1%
デザイン学研究科	3	15	3	20.0%	28.0%	-
デザイン工学専攻(修士)	2	10	2	20.0%	26.3%	#
造形デザイン専攻(修士)	-	-	-	-	0.0%	#
〔複数専攻合同開講〕	1	5	1	20.0%	33.3%	#
全研究科	72	942	324	34.4%	35.3%	45.8%

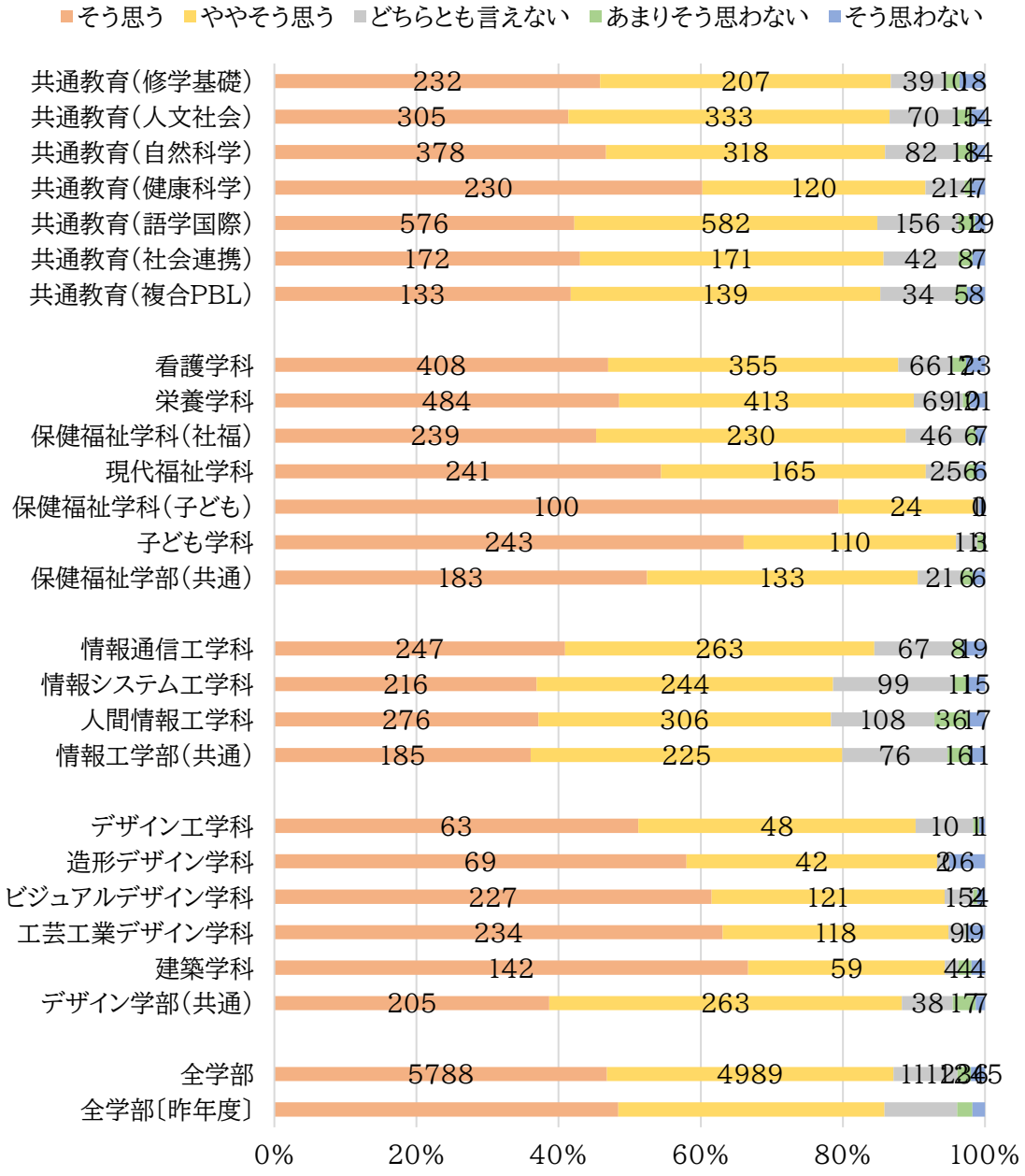
回答者の分布(共通教育科目、学部教育科目)　　(大学院教育科目)

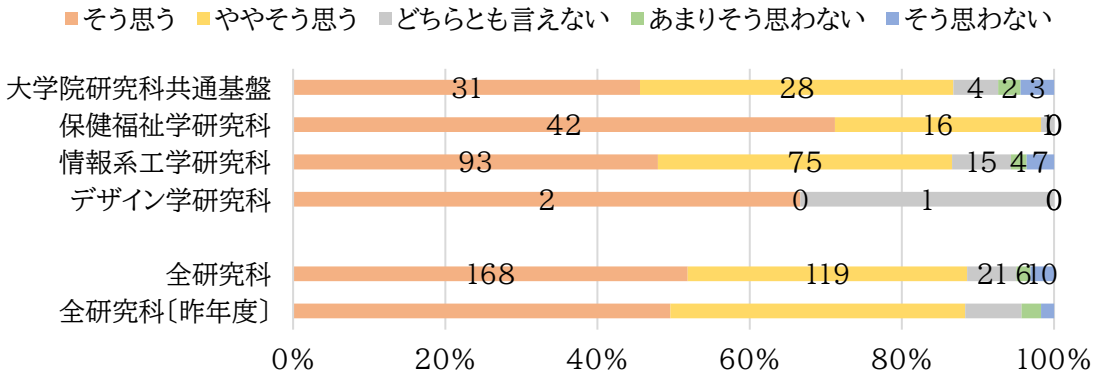


C-2　調査結果

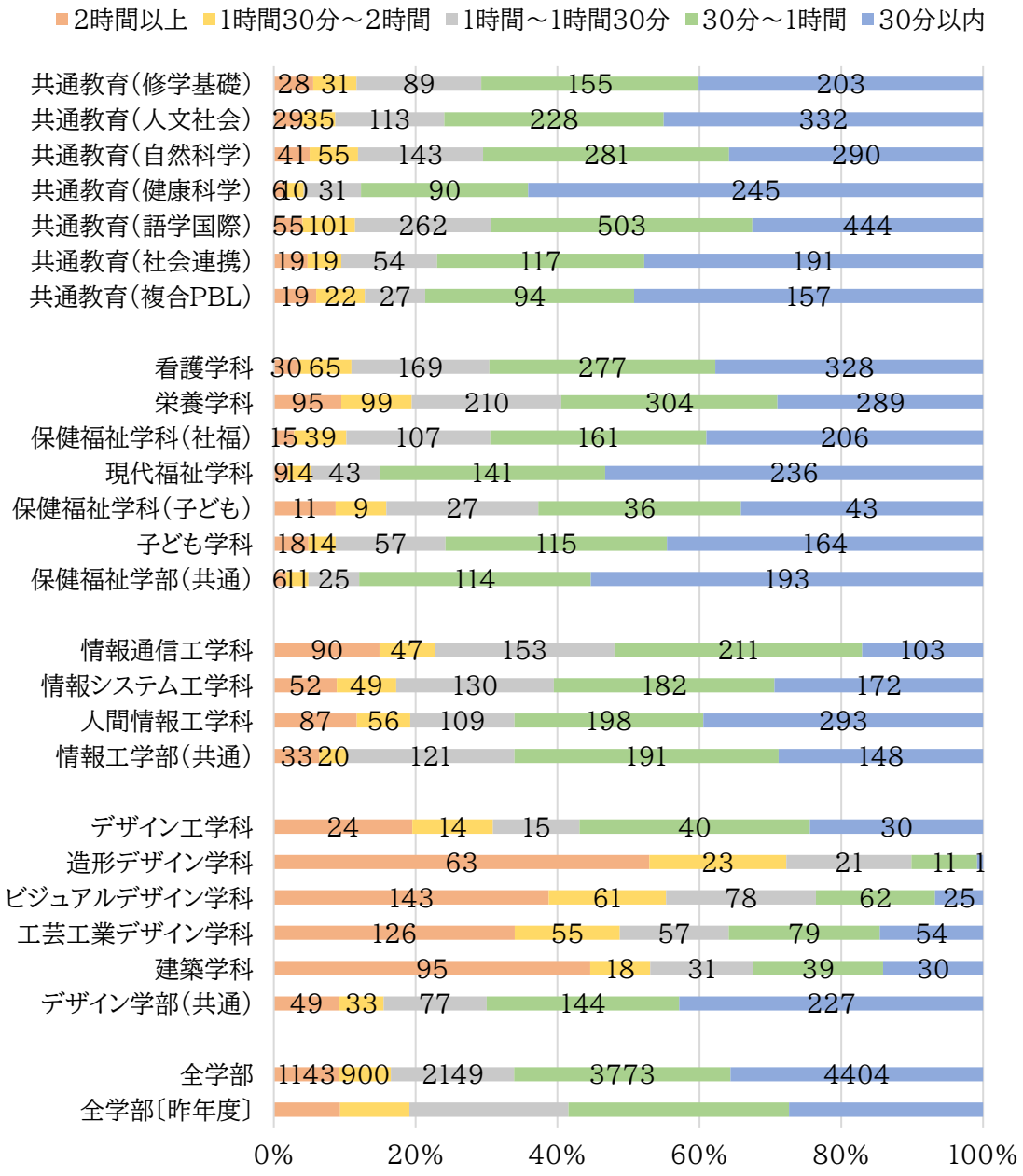
共通教育科目はカテゴリーごと、各学部の学部教育科目は学科単独開講科目「○○学科」と複数学科合同開講科目「○○学部(共通)」に分類している。また、大学院教育科目は研究科共通基盤科目と各研究科に分類した集計結果を示す。

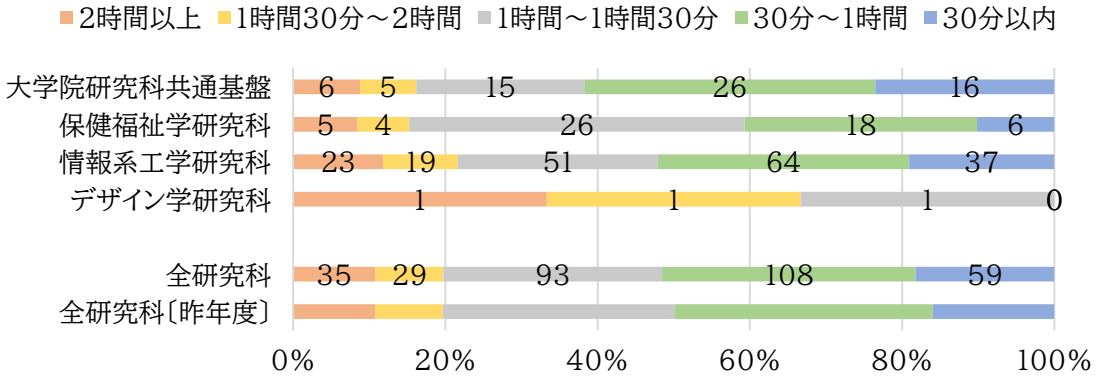
Q1.【取組み】授業の内容を積極的に理解する努力をした



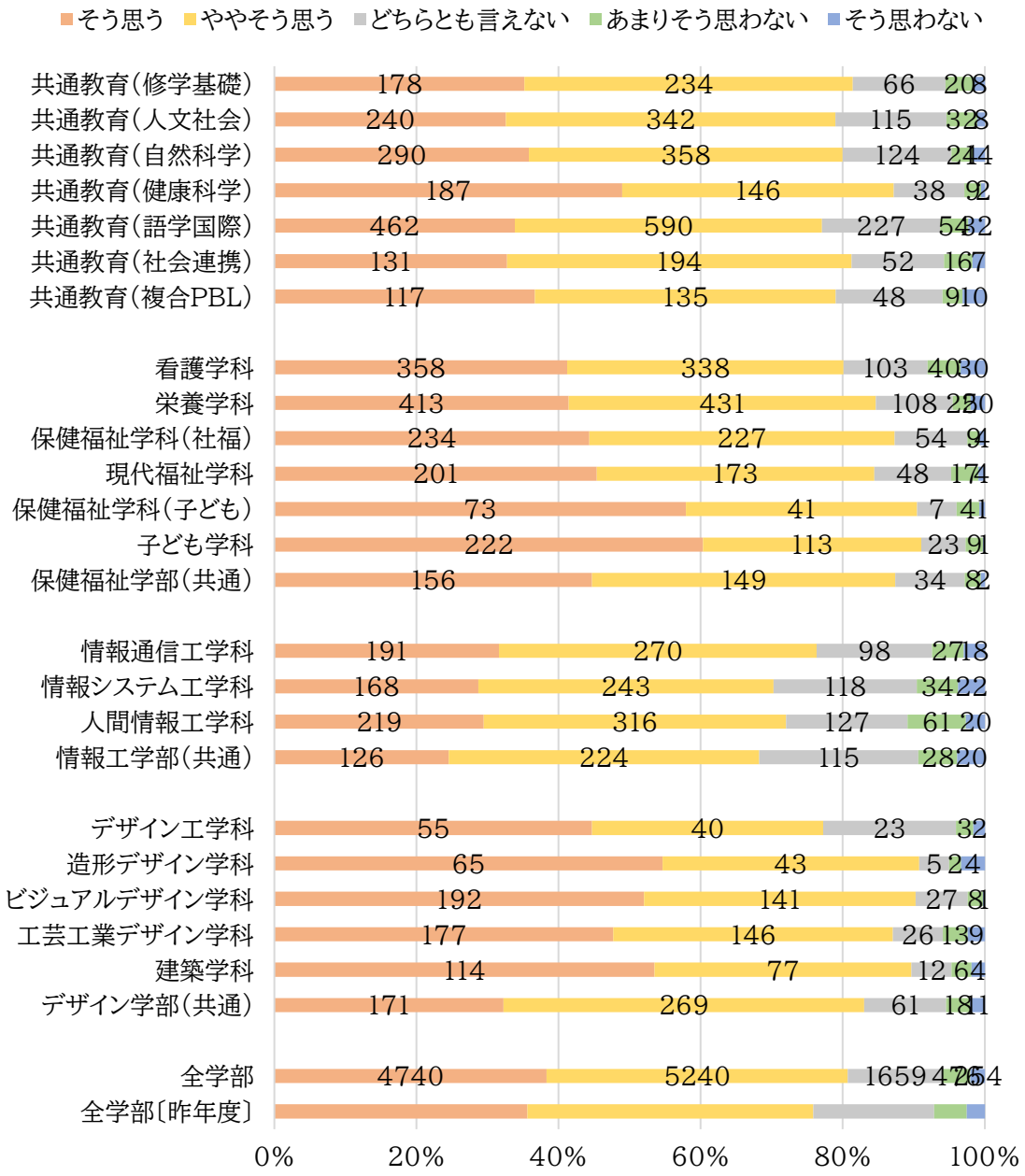


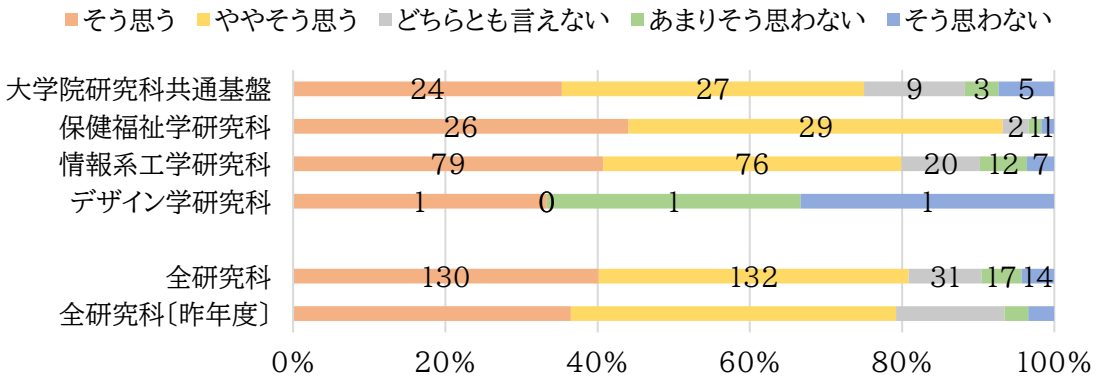
Q2.【取組み】授業１回あたりの学習時間



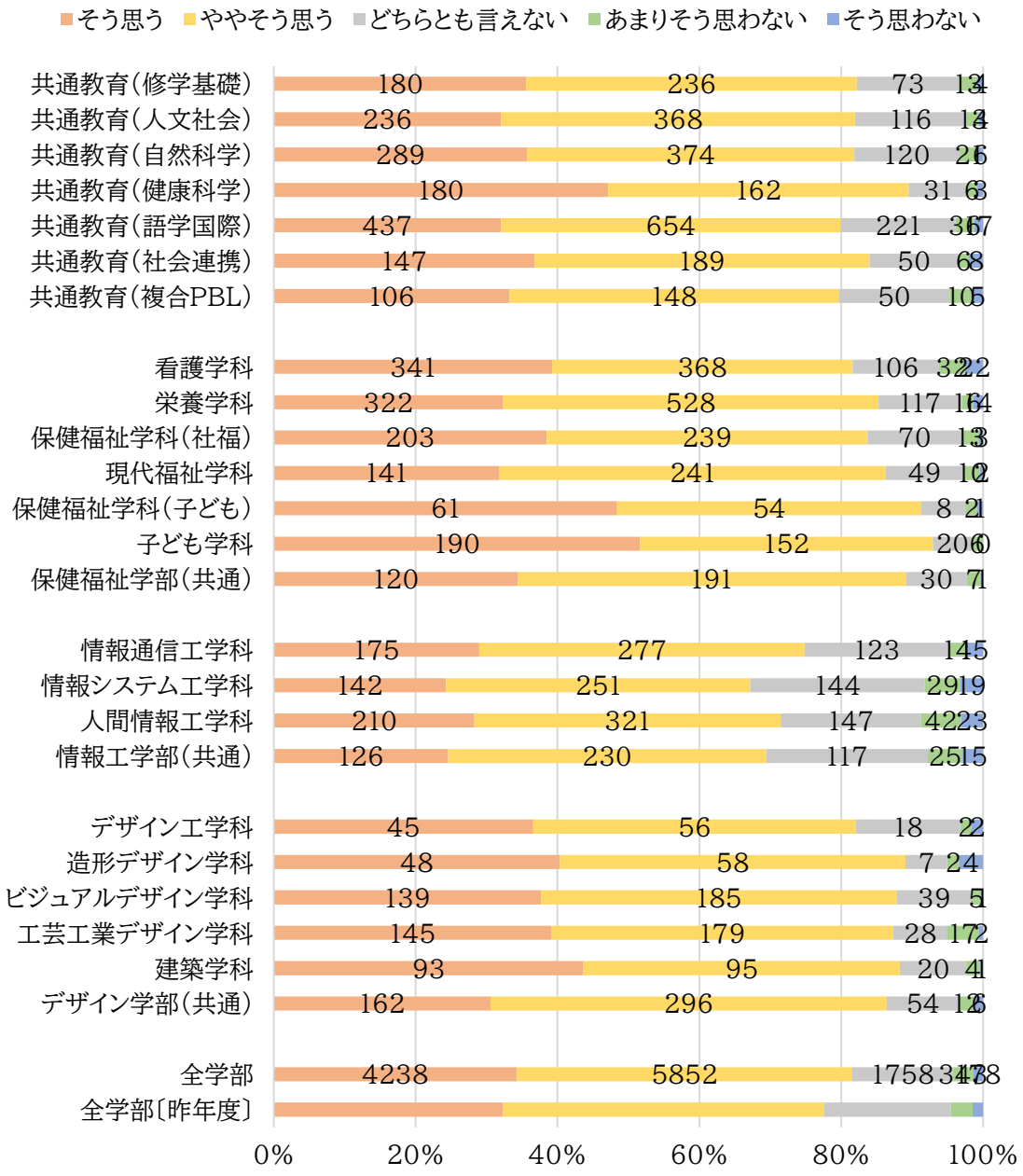


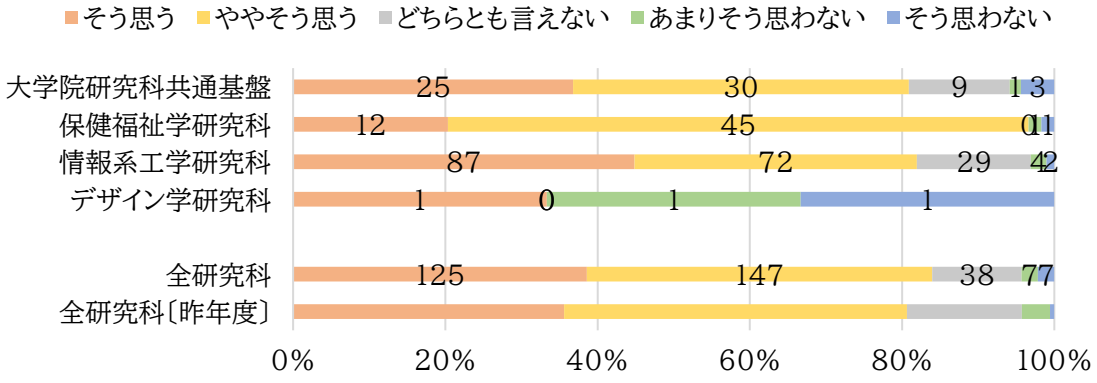
Q3.【進め方】授業の説明や実施方法は授業内容の理解を深めた



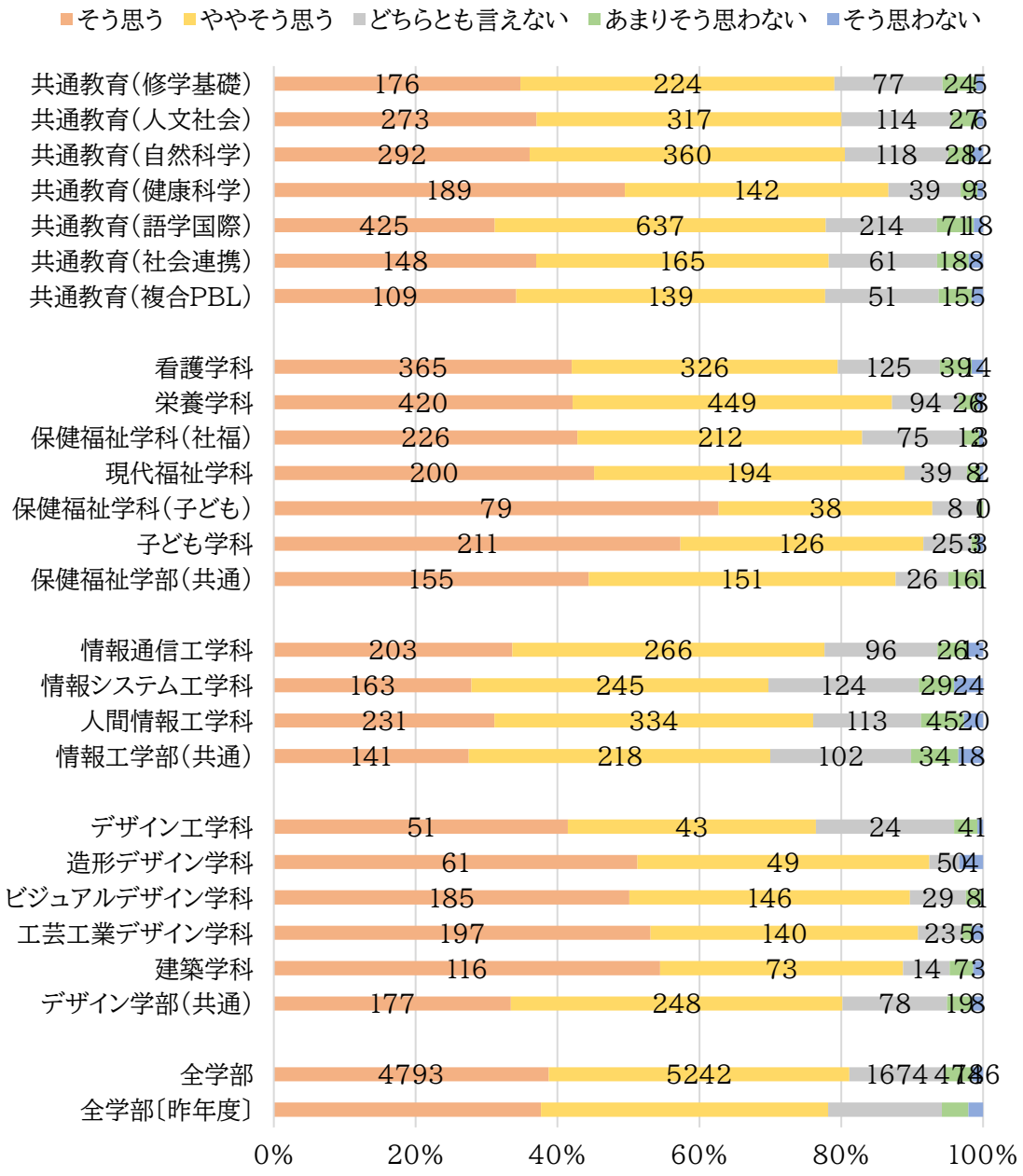


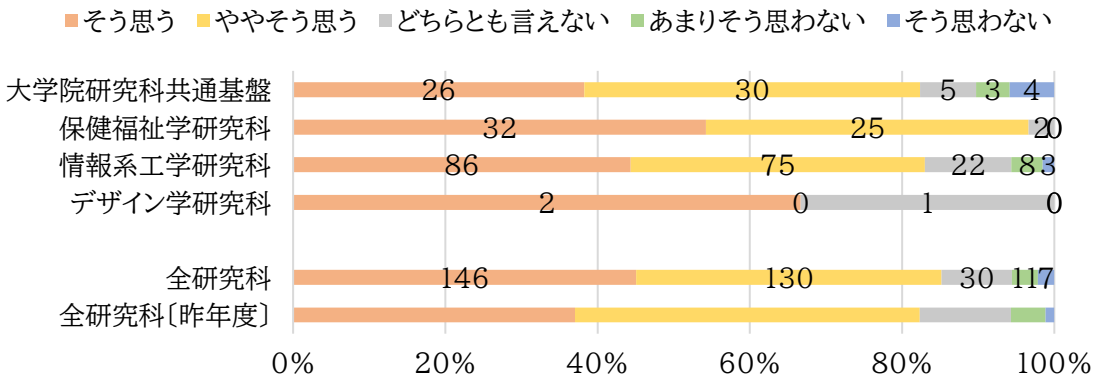
Q4.【進め方】授業を受けてシラバスの「到着目標」に達したと思う



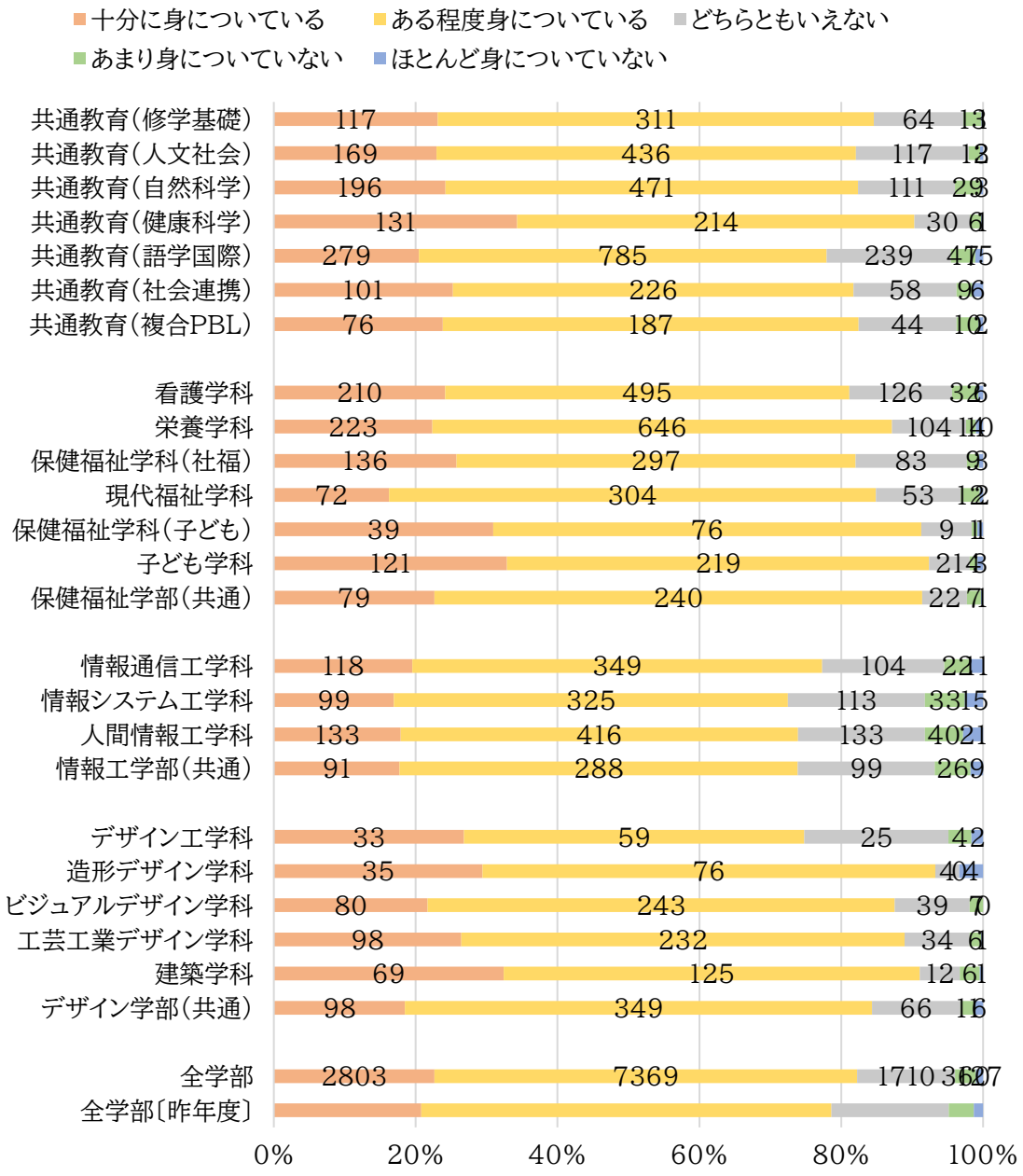


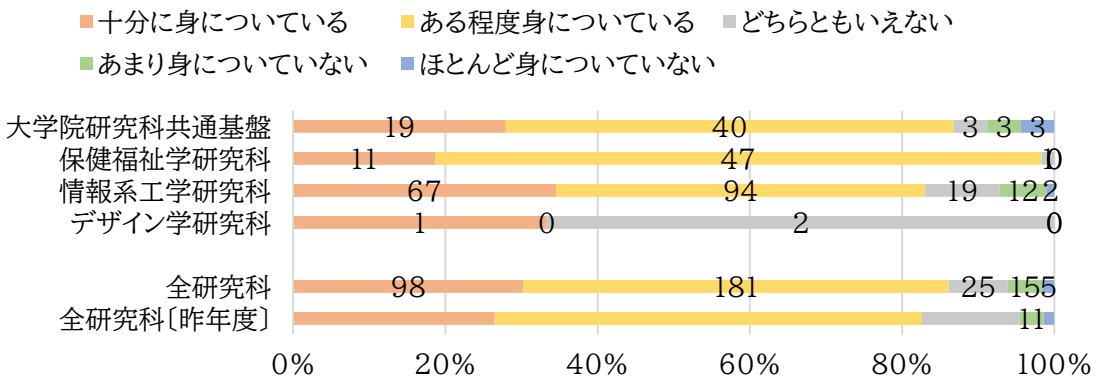
Q5.【習得】進んで学修に取り組む意欲をもつようになった



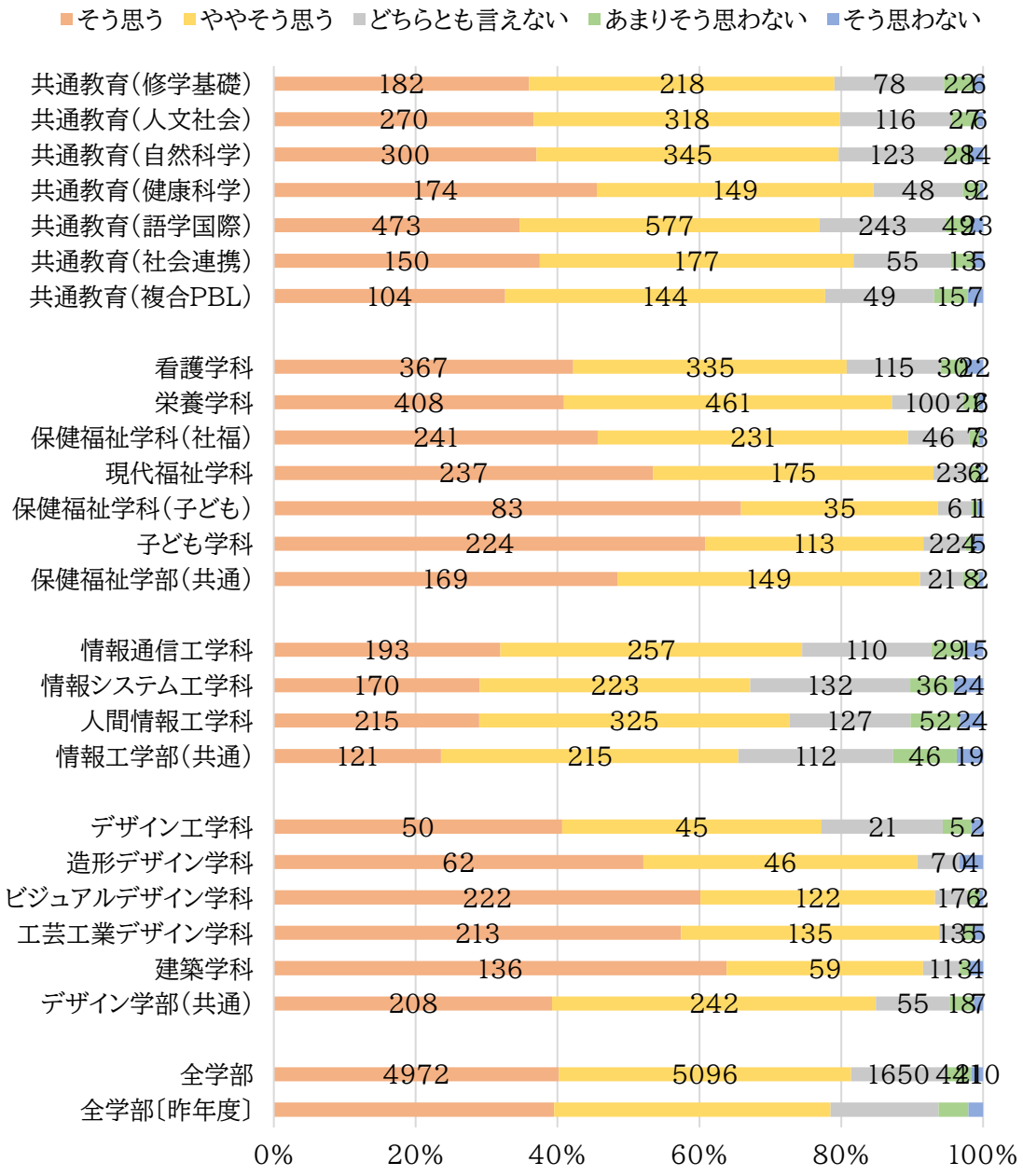


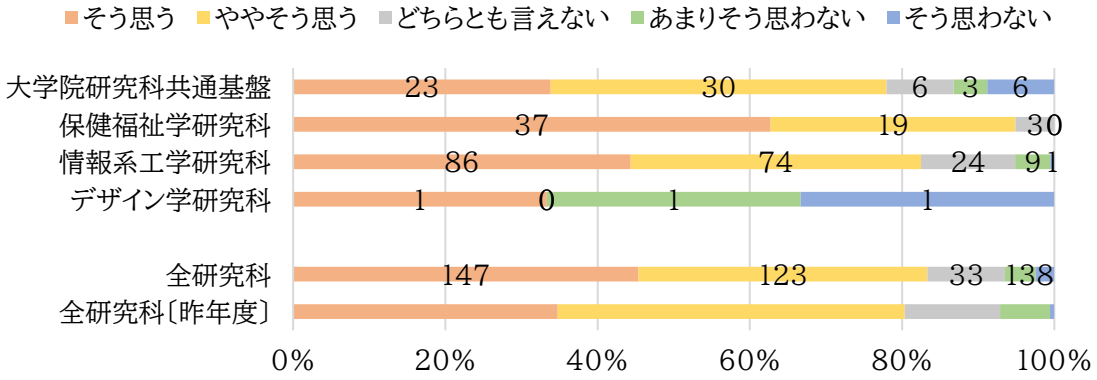
Q6.【習得】授業に関する知識や能力が身についた



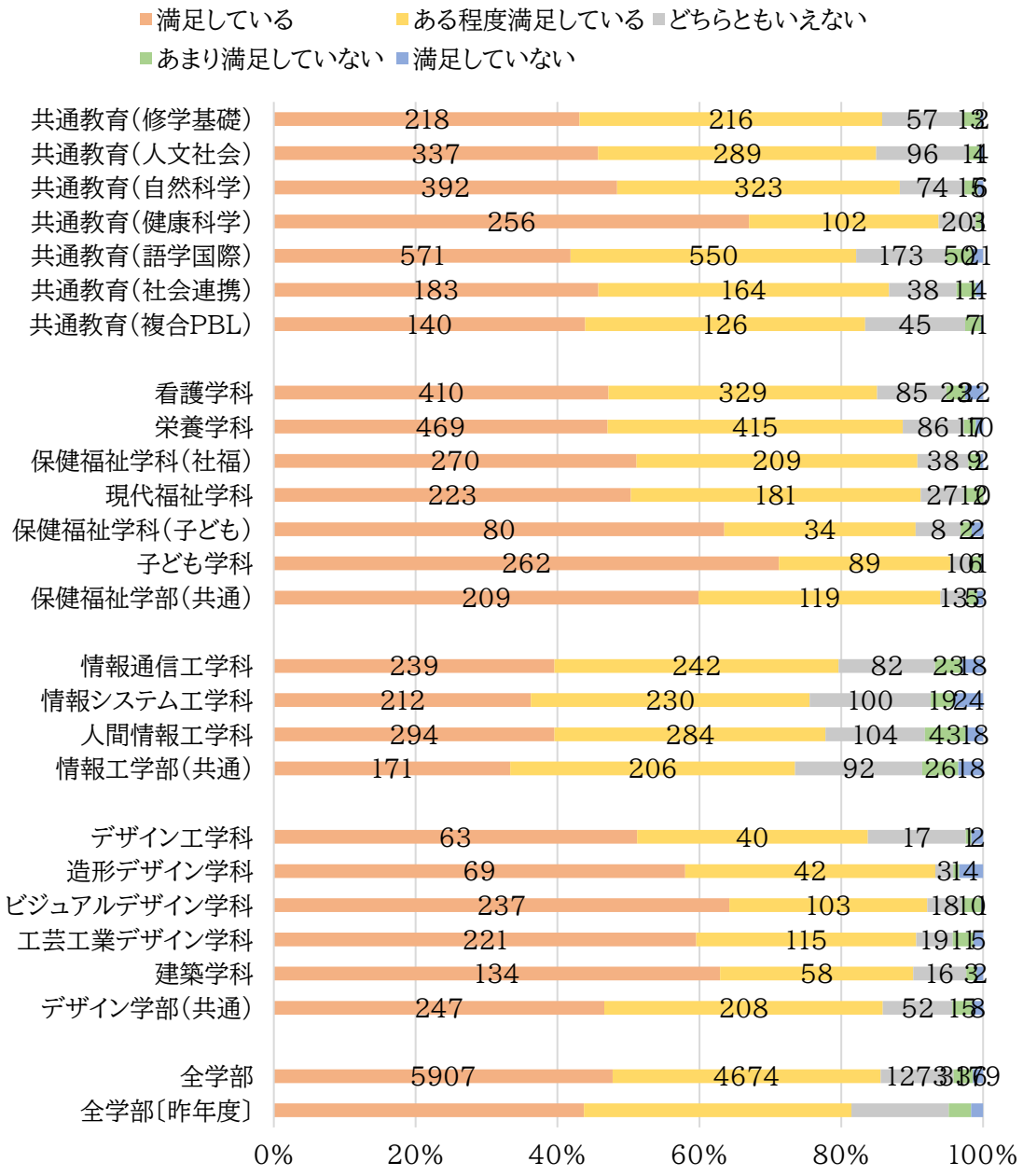


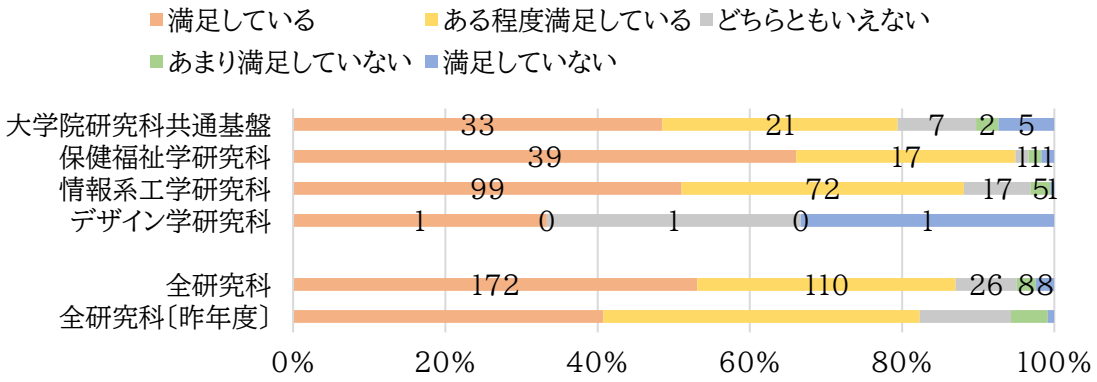
Q7.【総合】授業内容や関連する学問に関心を強め、更に学修を深めたいと思う





Q8.【総合】この授業を受けて満足した





D 授業実施形態アンケート

D-1 調査概要

【調査期間】 2023 年 1 月 16 日(月)～2023 年 2 月 20 日(月)

【調査方法】 Excel ファイルへの記入(アクティブ・ラーニング実施状況調査と同時)

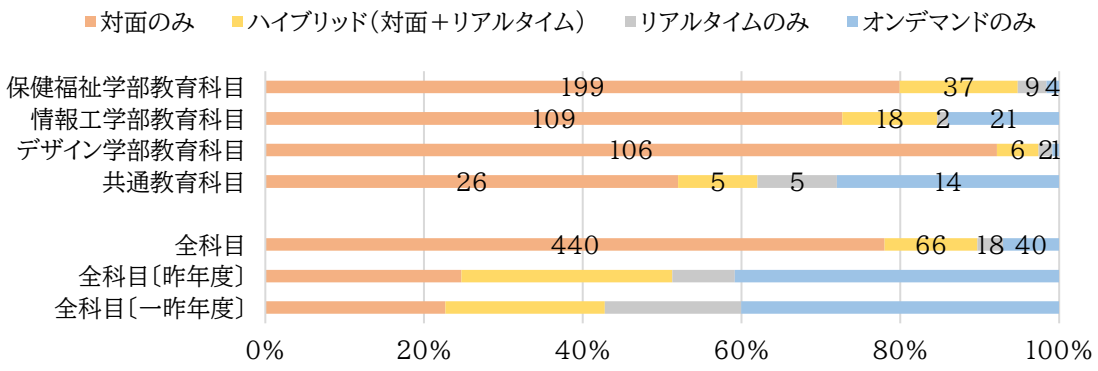
【調査対象】 全専任教員

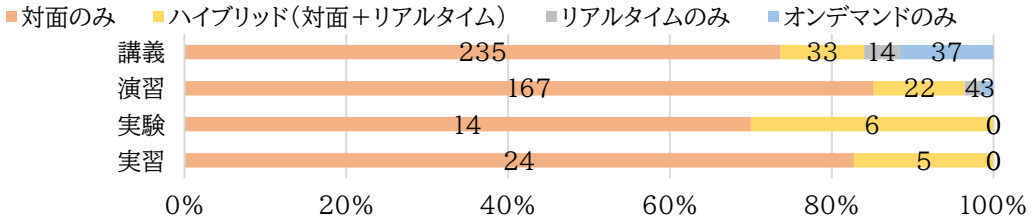
【回 答 数】 564 (回答率:78.4%)

D-2 調査結果

[A] 授業実施形態

実施した授業形態に○ (複数の場合は主なもの 1 つに◎)[1]
①対面　②リアルタイム　③映像配信型オンデマンド　④課題資料提供型オンデマンド





なお、選択肢①～④の組み合わせに応じて、次のように分類した。

分類	対面のみ				ハイブリッド				リアルタイムのみ				オンデマンドのみ		
①	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓							
②					✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓			
③		✓		✓		✓		✓		✓		✓	✓		✓
④			✓	✓			✓	✓			✓	✓		✓	✓

[1] 対面式の講義をリアルタイムで同時配信、リアルタイム授業を録画してオンデマンドでも提供などは、2つに「◎」としてください。主なものとして 2 つ以上の授業形態を全く同じ時間数で実施している場合は、それらすべてを「◎」として下さい。

［B］オンデマンド授業における双方向性確保の方法

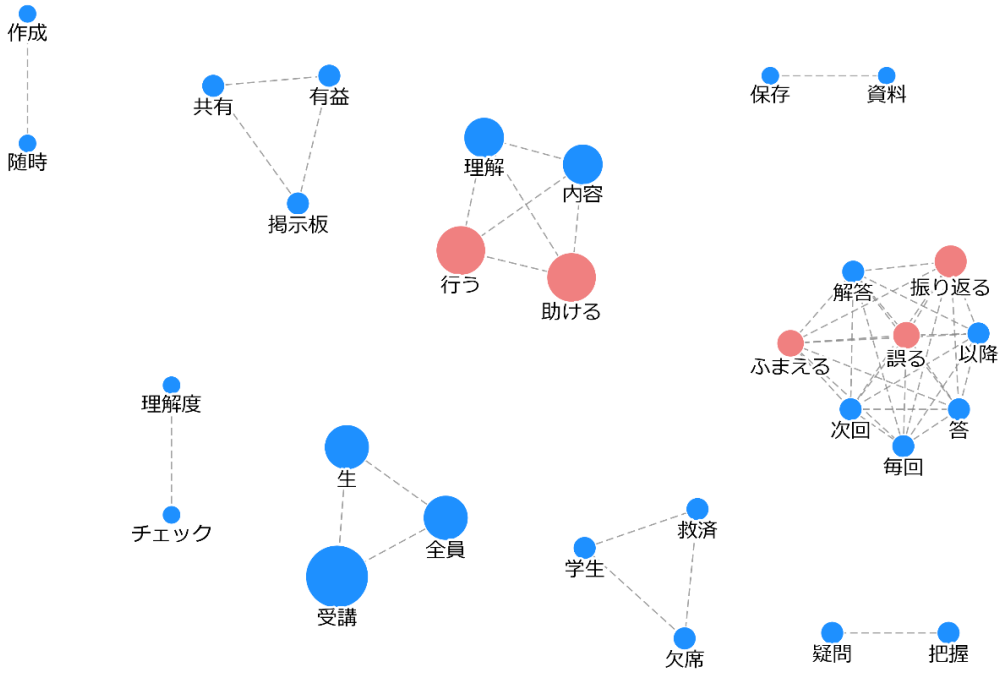
映像配信あるいは資料配信によるオンデマンド型授業では、毎回の授業の実施に当たって、指導補助者が教室等以外の場所において学生等に対面することにより、または、当該授業を行う教員若しくは指導補助者が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うことが必要となっている[2]。

「③映像配信型オンデマンド」あるいは「④課題資料提供型オンデマンド」を選択した計 132 科目のうち、62 科目から回答が得られた。代表的なものを示す。

(1) 質問の回答を受講生全員にフィードバック
(2) MS Forms による確認テストと質問対応
(3) メール、レポート等での質疑応答
(4) 課題の添削指導
(5) チャットで質問可能とした
(6) ウエブアンケートでの振り返り
(7) メール等でのやりとり
(8) 疑問点の把握と対面授業での回答
(9) 課題の発表とディスカッション
(10) 授業毎の課題と採点答案の返却・見直し
(11) 毎回の振り返りのレポート課題については次回以降に、解答の解説ならびに全員の提出内容をふまえた誤答などに関する解説を行い、受講生の理解を助けるようにしている。質問などをメールで受け付け、回答を行うとともに、受講者全員に有益な内容については「はっとりん」の掲示板などで共有するようにして受講生の理解を助けるようにしている。
(12) メール、Google form 等での質問受付
(13) 授業毎の課題と採点答案の返却・見直し
(14) 音声チャット、テキストチャット、電子メール
(15) メールによる質問受付
(16) メールや Teams チャットを用いた質問の受付
(17) 課題提出時等におけるメールによる質疑応答
(18) 講義用 Teams を作成し、随時、質問等を受け付けた。

[2] 文部科学省，大学における多様なメディアを高度に利用した授業について，大学における多様なメディアを高度に利用した授業について，2018 年 9 月，https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/043/siryo/_icsFiles/afieldfile/2018/09/10/1409011_6.pdf （2023 年 3 月 30 日閲覧）

ユーザーローカル AI テキストマイニングツール[3]によるワードクラウド[4]および共起ネットワーク[5]を示す。



[3] ユーザーローカル AI テキストマイニング, https://textmining.userlocal.jp/ （2023 年 5 月 1 日閲覧）

[4] スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示している。単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表す。

[5] 文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図であり、出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描画されている。

E 学生生活アンケート

1. 調査目的

学生の本学に対する希望を適切に反映できる支援体制の整備および学生生活の充実化に資する基礎資料の取得およびこれまでの整備や取り組み等の評価のため。

2. 調査対象

全学部・研究科生

3. 調査方法

・Google Forms による Web アンケート(無記名)
・「はっとりん」および教員から周知

4. 調査期間

2022 年 11 月 21 日～2023 年 1 月 20 日

5. 調査項目(関連部局)

・基本属性
・キャリア形成支援関連(キャリア・学生生活支援センター)
・就職支援関連(キャリア・学生生活支援センター)
・ボランティア活動関連(地域創造戦略センター)
・正課外活動関連(教育開発センター、キャリア・学生生活支援センター
・学生生活関連(キャリア・学生生活支援センター)
・図書館関連(附属図書館)
※全 59 項目(うちダミー質問 1 項目)

6. 回答件数(率)と有効回答数(率)

回答数:1,160 件(64.9%)
有効回答数:1,091 件(61.0%)
(2 回回答:43 件、Q36 ダミー質問不適切回答:26 件)
有効回答数と回答率の内訳

	学部 1 年	学部 2 年	学部 3 年	学部 4 年	計
学部	320	281	223	205	1029
	83%	74%	61%	47%	66%

※2019 年度有効回答率:62%

	M1	M2	D1	D2	D3	計
研究科	30	28	0	3	1	62
	36%	30%	0%	27%	4%	28%

※2019 年度有効回答率:28%

	学部１年	学部２年	学部３年	学部４年	計
保健福祉学部	125	99	87	64	375
	84%	69%	61%	43%	64%
看護学科	25	34	18	16	93
	61%	83%	44%	40%	57%
栄養学科	39	25	33	11	108
	95%	63%	83%	26%	66%
保健福祉学科			36	37	73
			59%	51%	55%
現代福祉学科	34	18			52
	87%	49%			68%
子ども学科	27	22			49
	96%	88%			92%

	学部１年	学部２年	学部３年	学部４年	計
情報工学部	113	120	80	87	400
	78%	85%	61%	57%	67%
情報通信工学科	40	43	26	25	134
	80%	86%	57%	44%	66%
情報システム工学科	40	38	23	27	128
	73%	73%	47%	36%	56%
人間情報工学科	33	39	31	35	138
	83%	98%	84%	78%	85%

	学部１年	学部２年	学部３年	学部４年	計
デザイン学部	82	62	56	54	254
	89%	67%	61%	56%	66%
デザイン工学科			24	18	42
			57%	37%	46%
造形デザイン学科			32	36	68
			64%	61%	62%
ビジュアルデザイン学科	21	26			47
	68%	87%			77%

工芸工業デザイン学科	32	18			50
	100%	56%			78%
建築学科	29	18			47
	100%	58%			78%

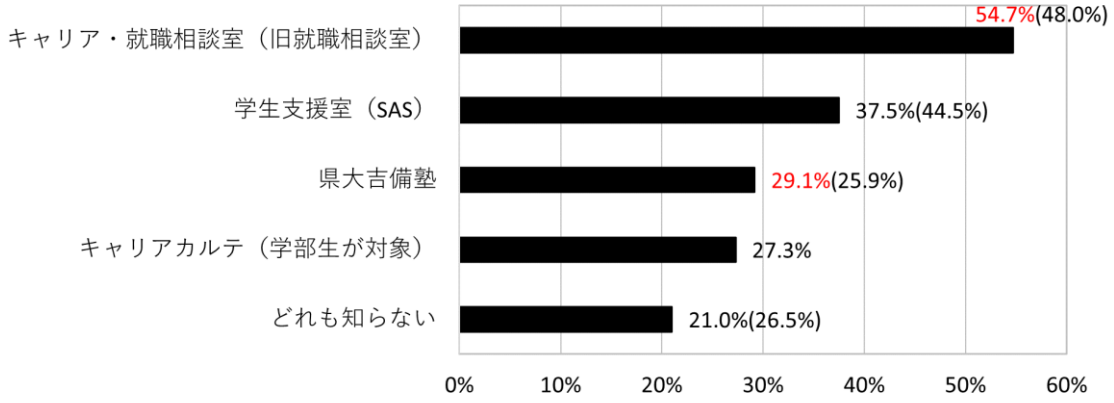
7. 回答結果

※グラフ内(%):補足がない場合は 2019 年度調査結果

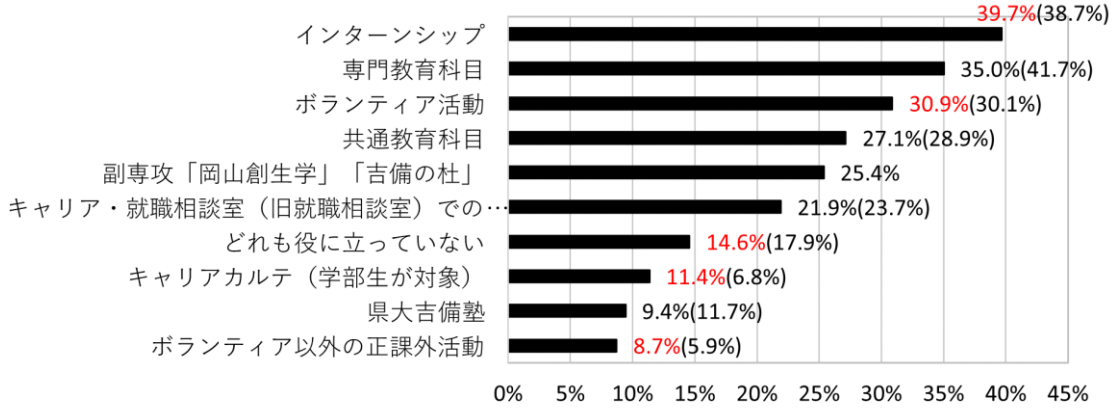
※グラフ内赤字%:2019 年度調査結果から上昇(肯定)

【キャリア形成関連】

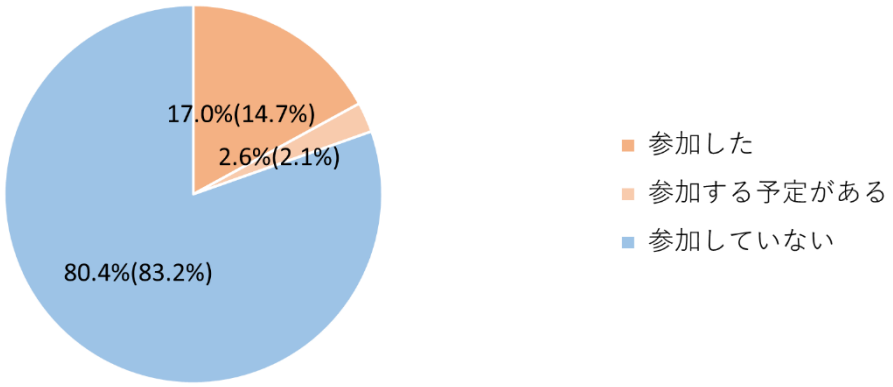
Q1 キャリア形成支援について知っていること【複数】(n=1,091)



Q2 キャリア形成のために役立っていると思うこと【複数】(n=1,091)



Q3 今年度，インターンシップに参加しましたか？(n=1,091)

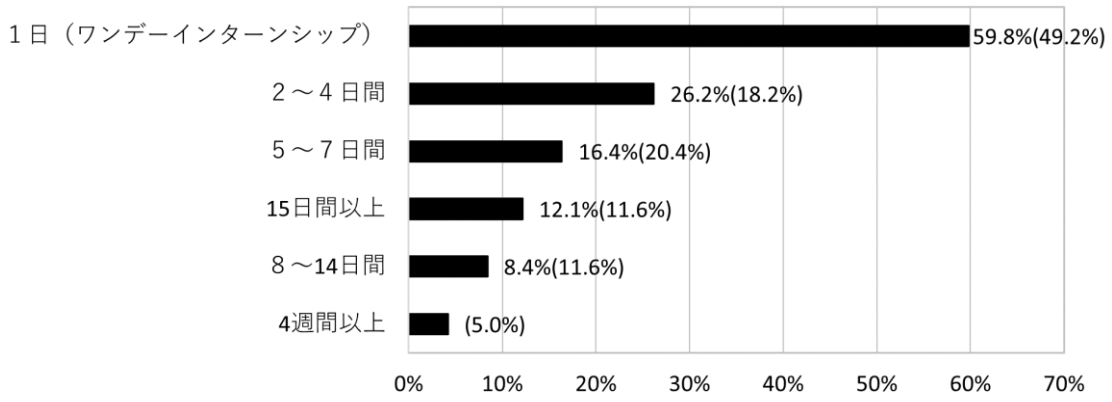


学年別：Q3 今年度、インターンシップに参加しましたか？

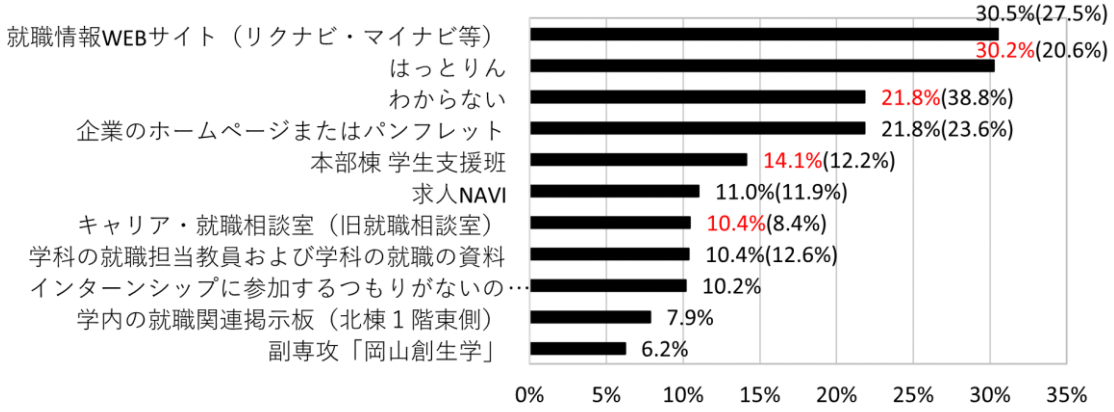
学部	1年生		2年生		3年生		4年生	
	n	%	n	%	n	%	n	%
参加した	9	2.8	20	7.1	91	40.8	39	19.0
参加する予定がある	1	0.3	10	3.6	14	6.3	1	0.5
参加していない	310	96.9	251	89.3	118	52.9	165	80.5

研究科	M1		M2		D1		D2		D3	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
参加した	19	63.3	8	28.6	0		0	0.0	0	0.0
参加する予定がある	2	6.7	0	0.0	0		0	0.0	0	0.0
参加していない	9	30.0	20	71.4	0		3	100.0	1	100.0

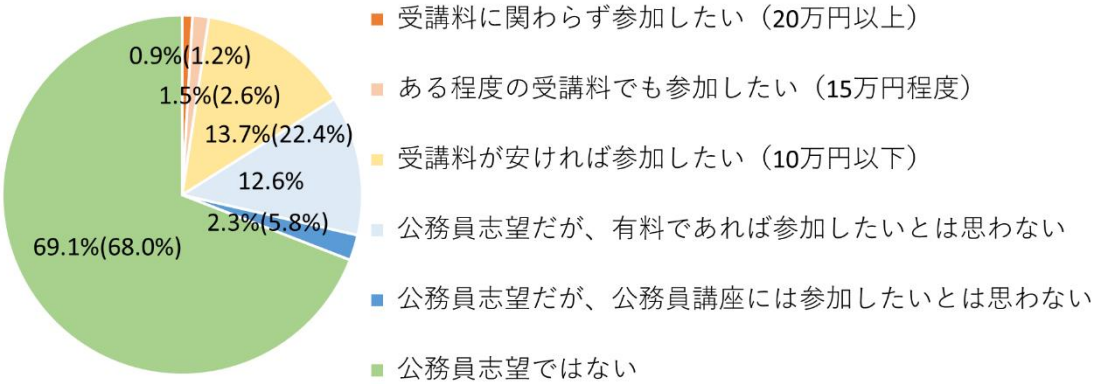
Q4 参加したインターンシップの期間【複数】(n=214)



Q5 インターンシップ情報の入手方法【複数】(n=1,091)

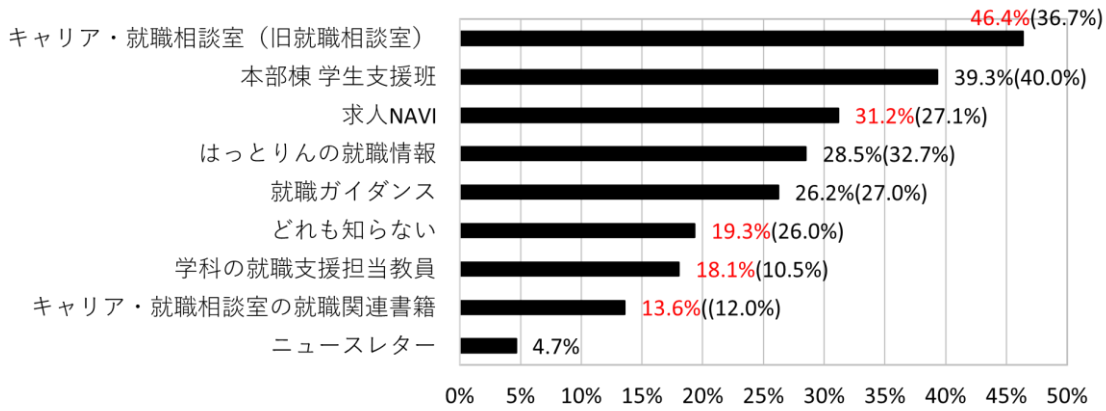


Q6 公務員講座を大学で開催する場合，参加したいですか？(n=1,091)

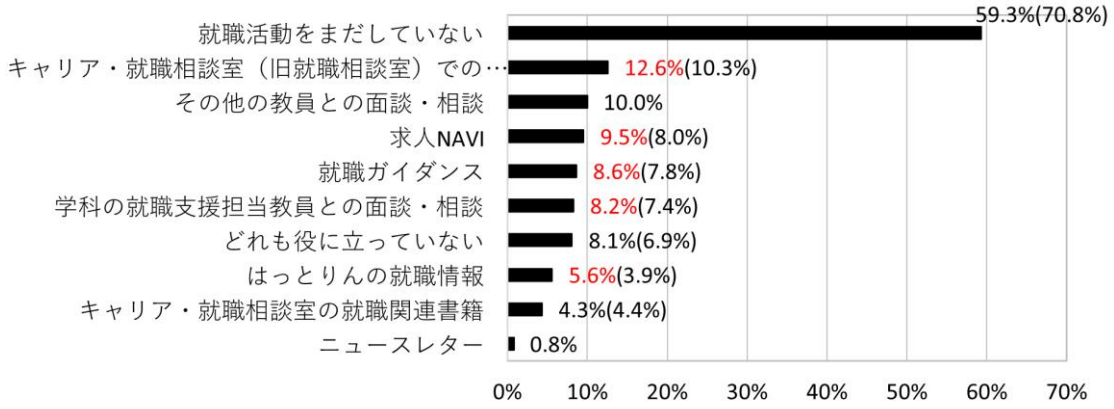


【就職支援関連】

Q7 就職支援について知っていること【複数】(n=1,091)



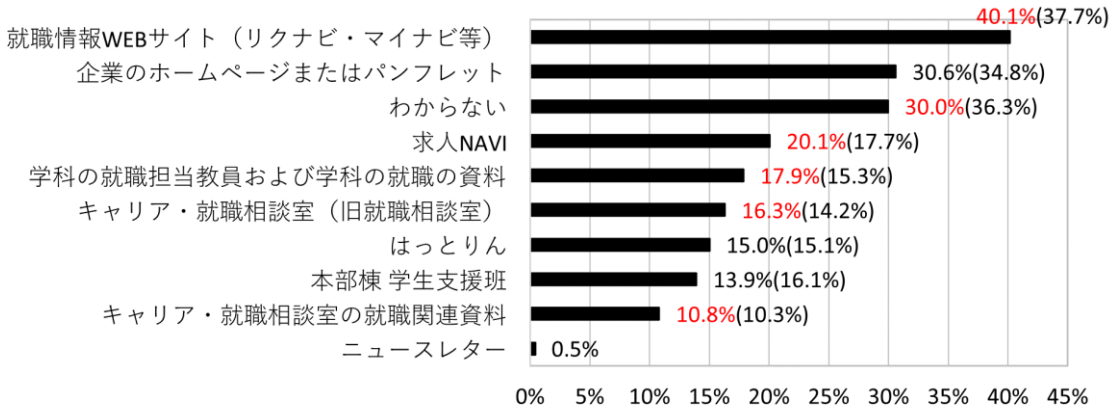
Q8 就職活動で役立っている（役立った）こと【複数】(n=1,091)



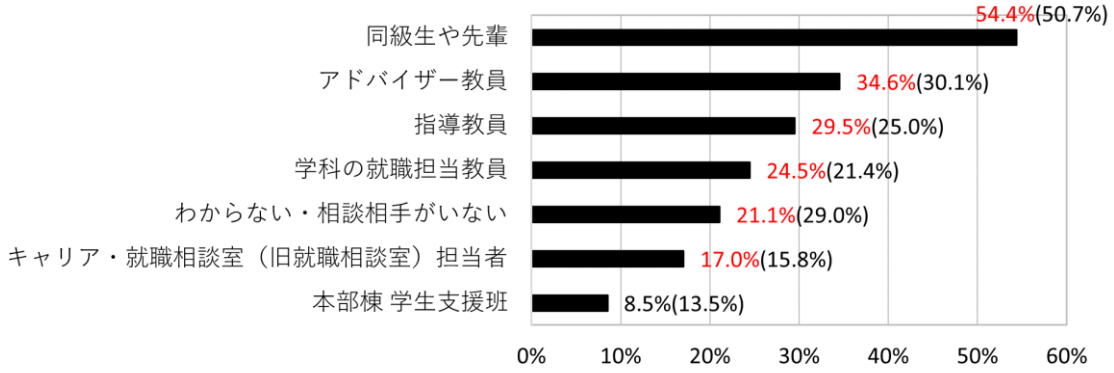
学年別：Q8 就職活動で役立っている（役立った）こと【複数】

学部	1年生		2年生		3年生		4年生	
	n	%	n	%	n	%	n	%
就職活動をまだしていない	267	83.4	239	85.1	108	48.4	28	13.7
キャリア・就職相談室（旧就職相談室）での面談・相談	19	5.9	12	4.3	24	10.8	67	32.7
その他の教員との面談・相談	6	1.9	8	2.8	33	14.8	46	22.4
求人 NAVI	10	3.1	3	1.1	21	9.4	52	25.4
就職ガイダンス	8	2.5	6	2.1	33	14.8	40	19.5
学科の就職支援担当教員との面談・相談	10	3.1	10	3.6	22	9.9	37	18.0
どれも役に立っていない	5	1.6	11	3.9	23	10.3	36	17.6
はっとりんの就職情報	22	6.9	14	5.0	15	6.7	7	3.4
キャリア・就職相談室の就職関連書籍	4	1.%	6	2.1	16	7.2	18	8.8
ニュースレター	0	0.0	1	0.%	2	0.9	4	2.0

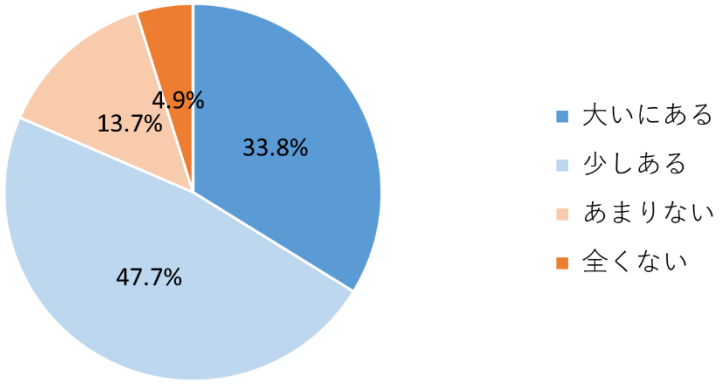
Q9 就職先情報の入手方法【複数】(n=1,091)



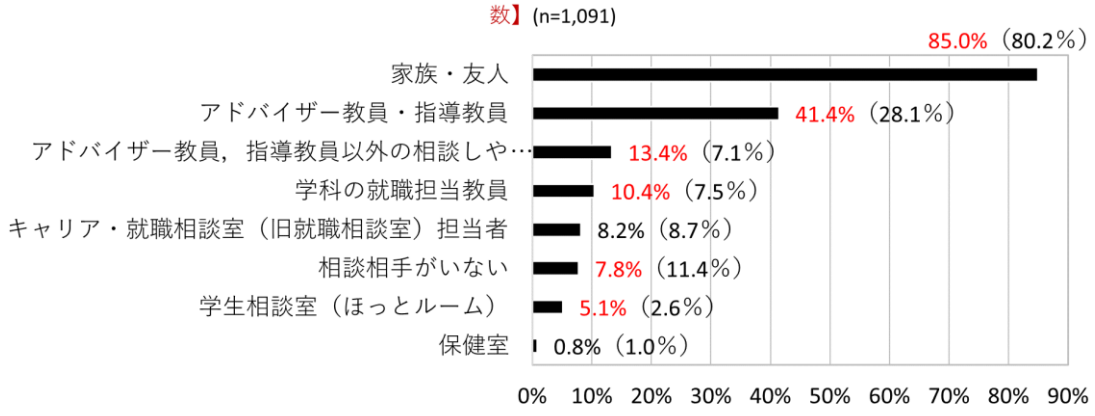
Q10 就職活動のやり方，進め方について主にだれに相談しますか？【複数】(n=1,091)



Q11 将来の進路に関する不安や悩みがありますか？(n=1,091)

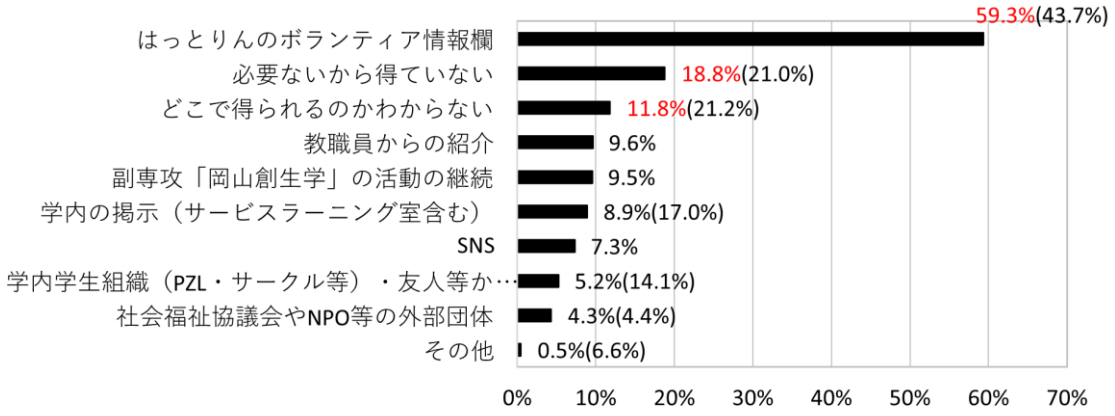


Q12 将来の進路に関する不安や悩みを主にだれに相談しますか？【複数】(n=1,091)

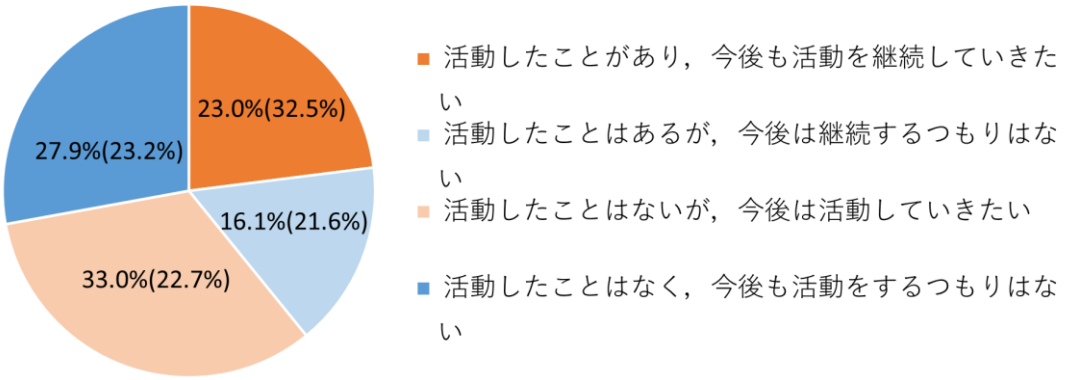


【ボランティア関連】

Q13 ボランティア活動の依頼情報の入手方法【複数】(n=1,091)

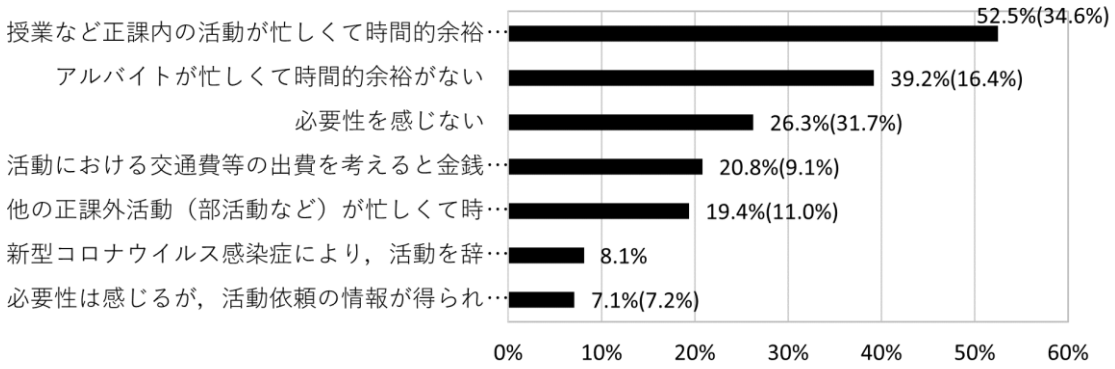


Q14 大学入学からこれまでにボランティア活動をしたことがありますか？また，したいと思いますか？(n=1,091)



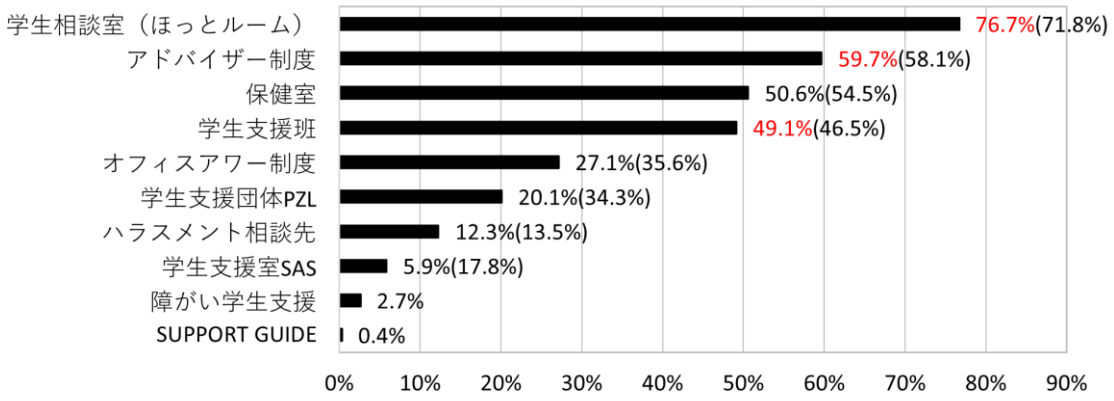
Q15 「継続するつもりはない」，また「活動するつもりはない」理由

【複数】(n=480)

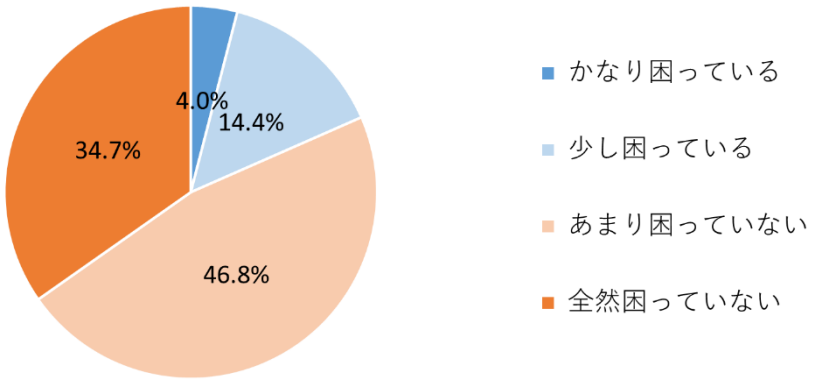


【学生生活支援関連】

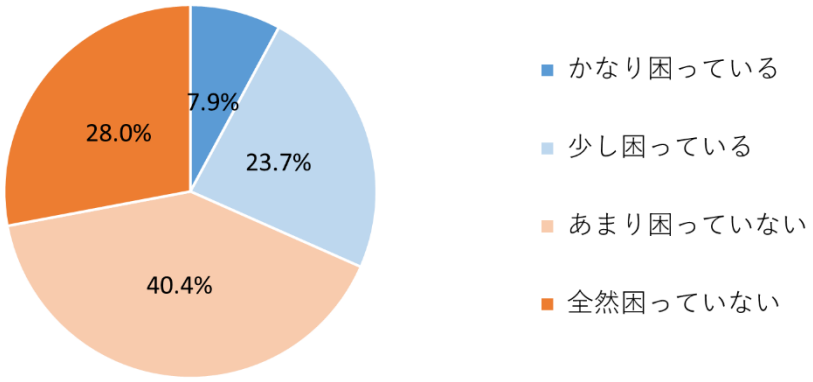
Q17 学生生活支援に関して知っていること【複数】(n=1,091)



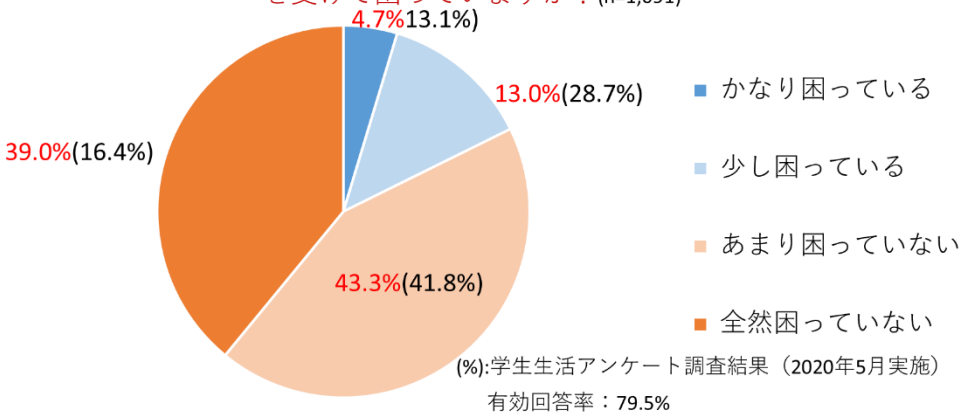
Q18 授業料の支払いについて，困っていますか？(n=1,091)



Q19 生活費について，困っていますか？(n=1,091)

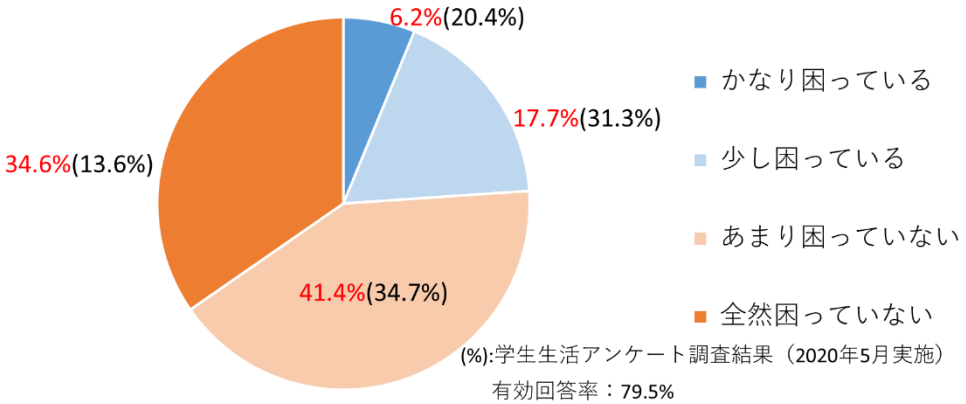


Q20 授業料の支払いについて，新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて困っていますか？(n=1,091)



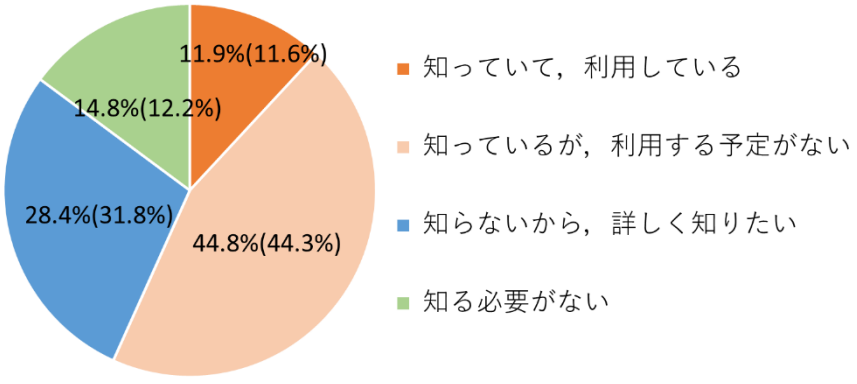
(%):学生生活アンケート調査結果（2020年5月実施）
有効回答率：79.5%

Q21 生活費について，新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて困っていますか？(n=1,091)

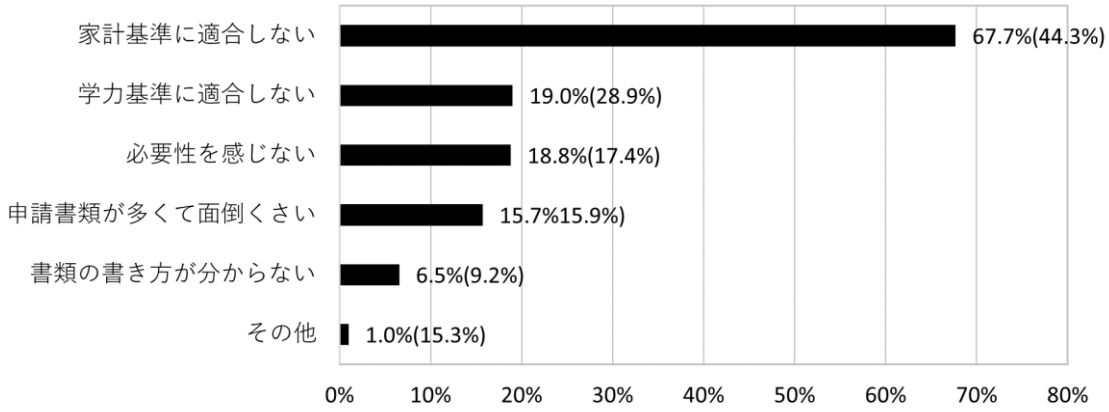


(%):学生生活アンケート調査結果（2020年5月実施）
有効回答率：79.5%

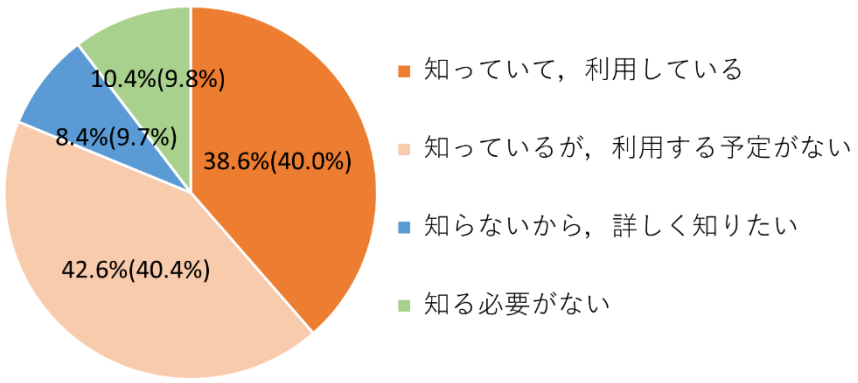
Q22 授業料免除制度を知っていますか？(n=1,091)



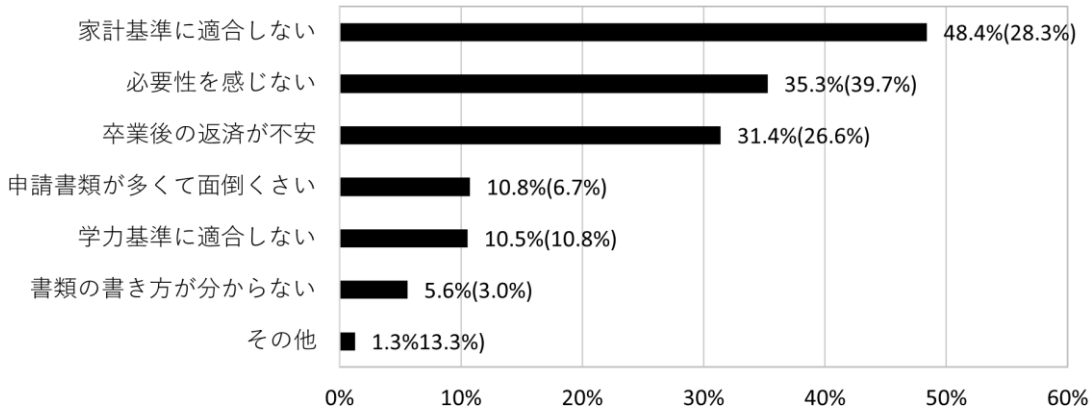
Q23 授業料免除制度を「利用する予定がない」理由【複数】(n=630)



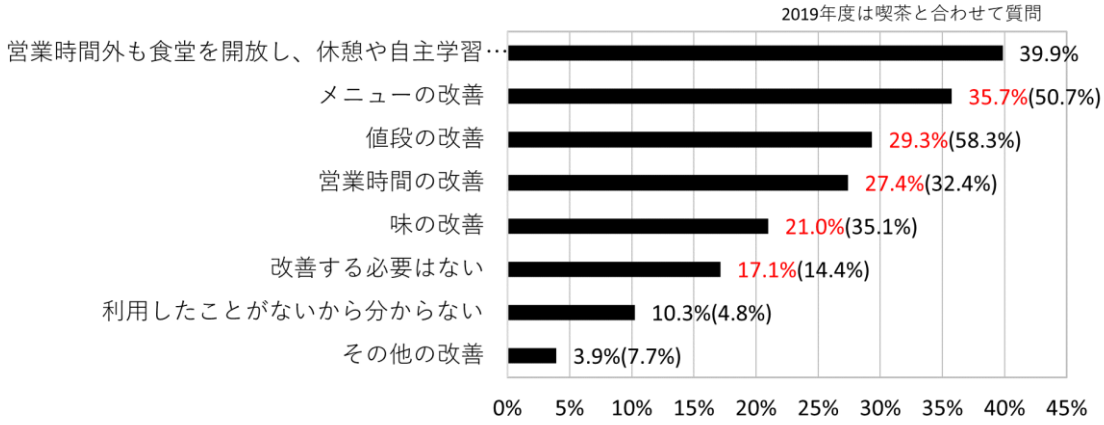
Q24 奨学金制度を知っていますか？(n=1,091)



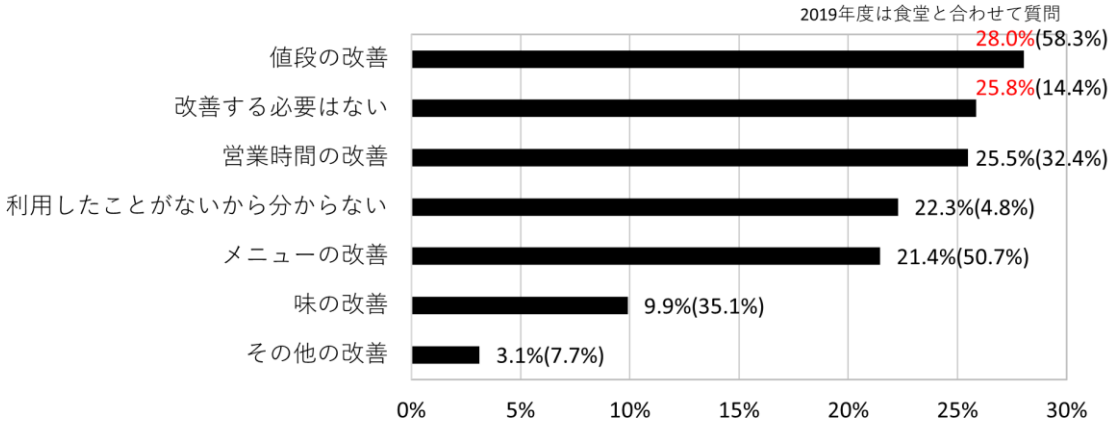
Q25 奨学金制度を「利用する予定がない」理由【複数】(n=465)



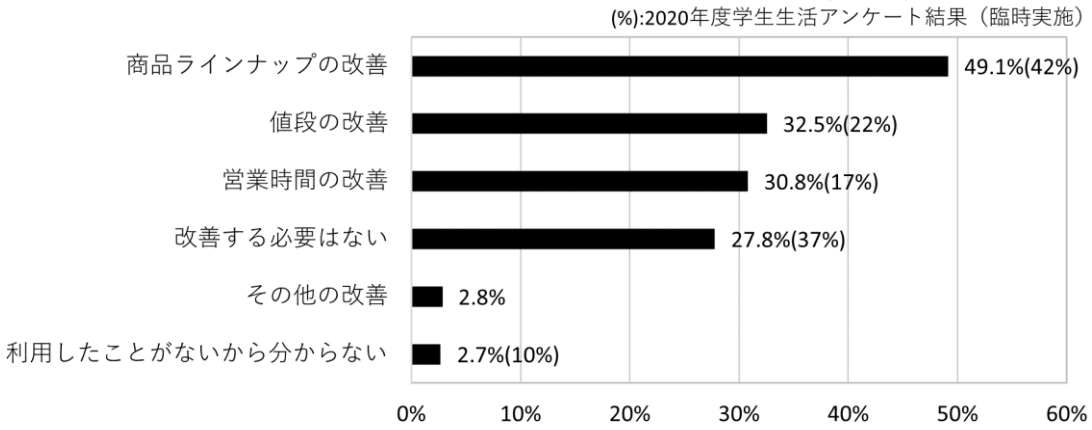
Q27 食堂で改善して欲しいこと【複数】(n=1,091)



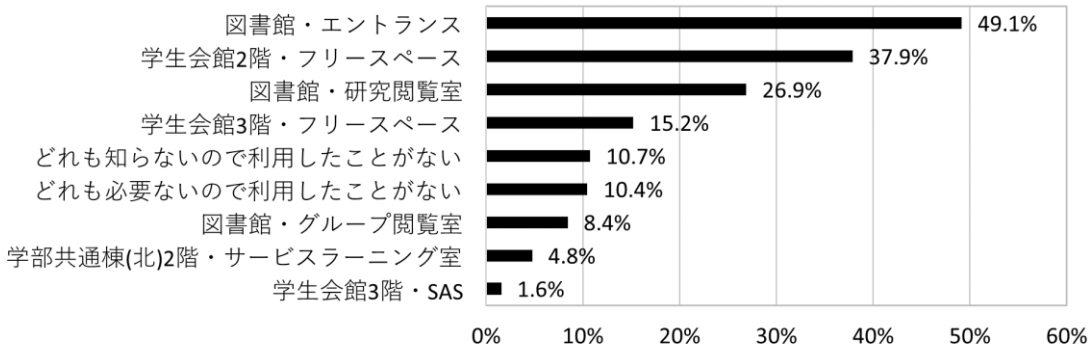
Q28 喫茶で改善して欲しいこと【複数】(n=1,091)



Q29 コンビニで改善して欲しいこと【複数】(n=1,091)

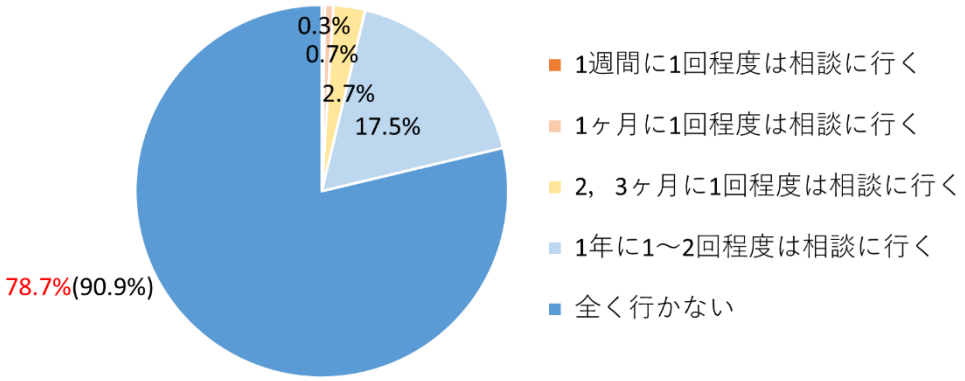


Q30 学内の自習スペース（ラーニング・コモンズ）を利用したことがあるのはどれですか？【複数】(n=1,091)

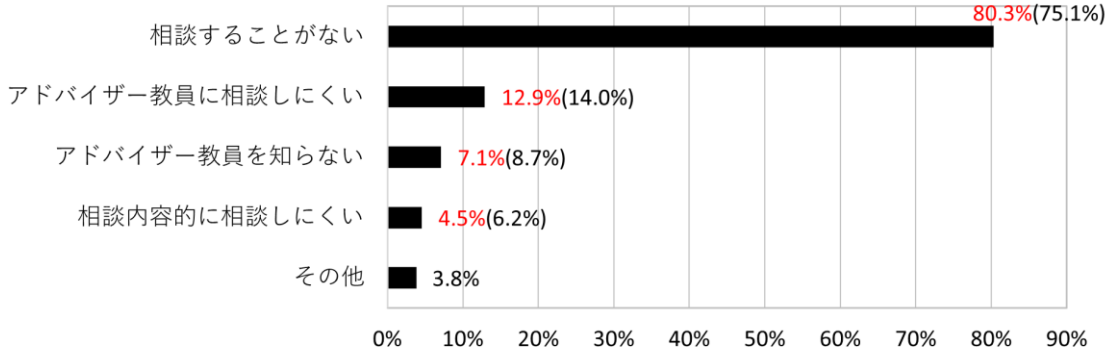


Q32 アドバイザー面談以外にアドバイザーに相談に行きますか？

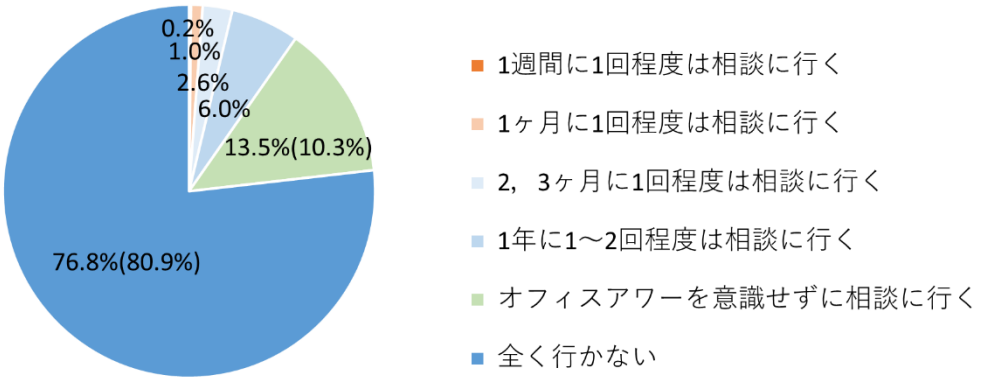
(n=1,091)



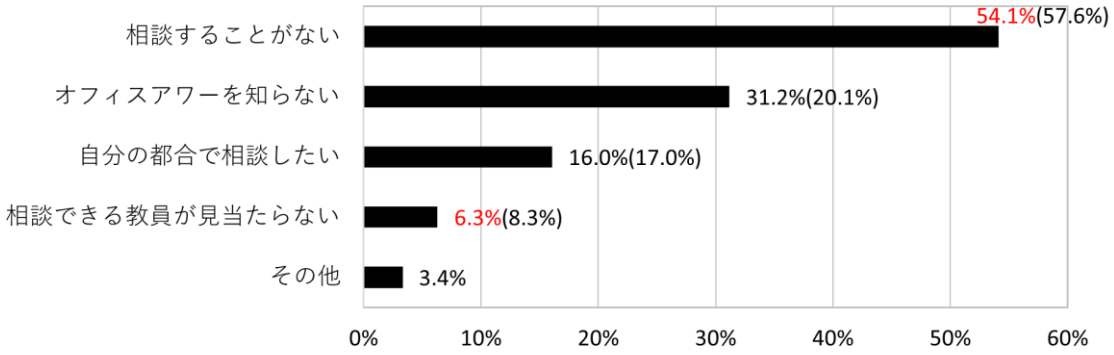
Q33 アドバイザー面談以外にアドバイザーに相談に「全く行かない」理由【複数】(n=859)



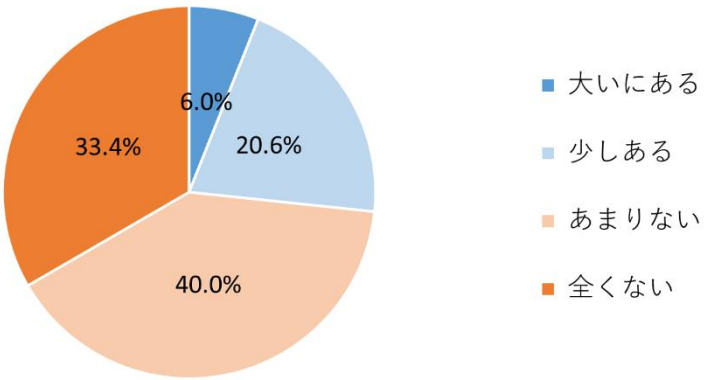
Q34オフィスアワーを意識して教員に相談に行きますか？(n=1,091)



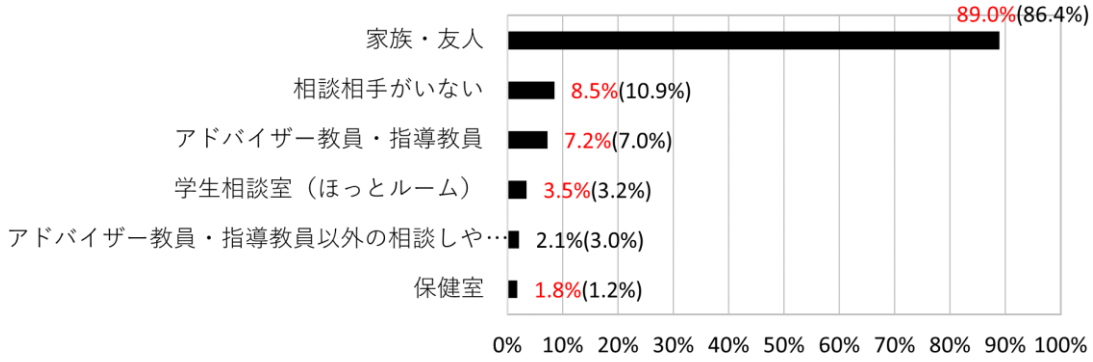
Q35 「オフィスアワーを意識せずに相談に行く」または「全く行かない」理由【複数】(n=985)



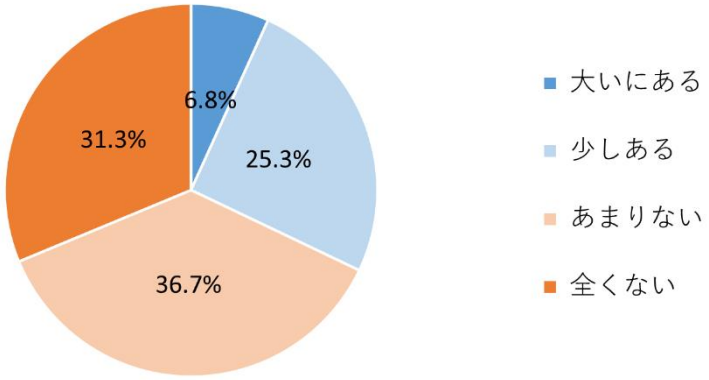
Q37 学内の友人関係・対人関係に不安や悩みがありますか？(n=1,091)



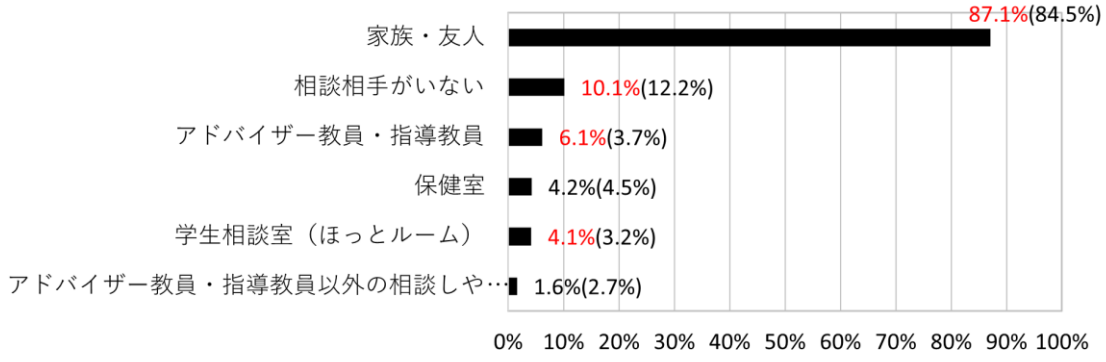
Q38 友人関係・対人関係の不安や悩みをだれに相談しますか？（相談したいですか？）【複数】(n=1,091)



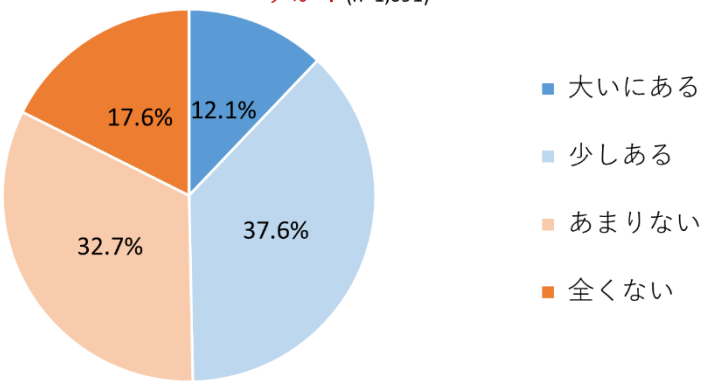
Q39 心身の健康に関する不安や悩みがありますか？(n=1,091)



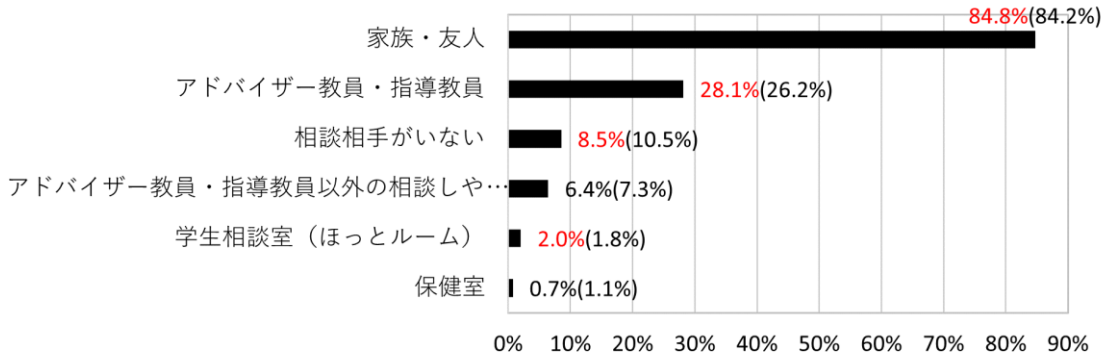
Q40 心身の健康に関する不安や悩みをだれに相談しますか？（相談したいですか？）【複数】(n=1,091)



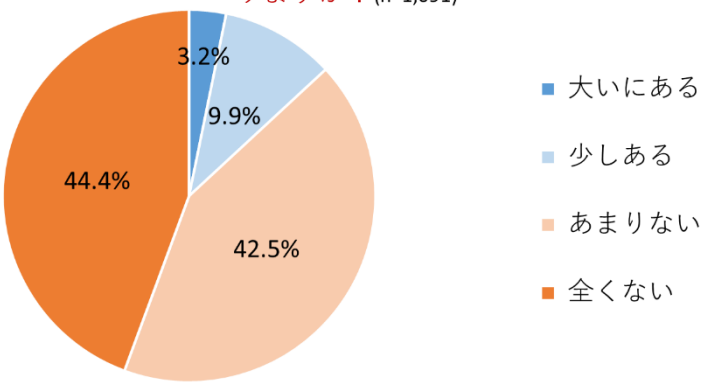
Q41 授業内容についていけないなど学業に関する不安や悩みがありますか？(n=1,091)



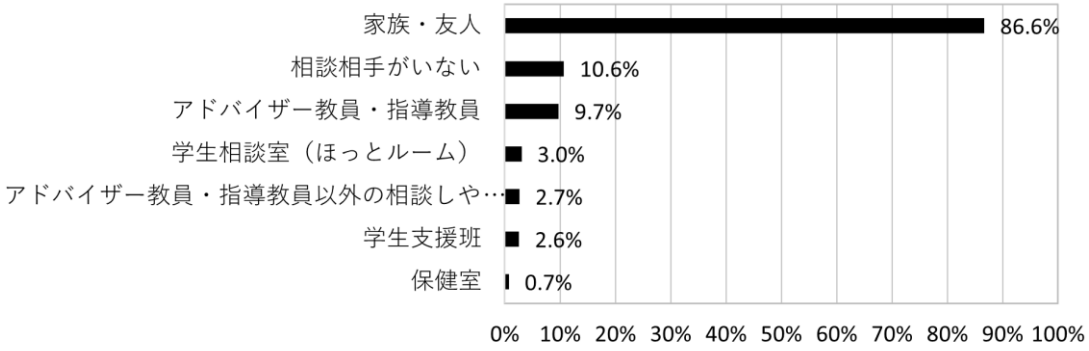
Q42 学業に関する不安や悩みをだれに相談しますか？（相談したいですか？）【複数】(n=1,091)



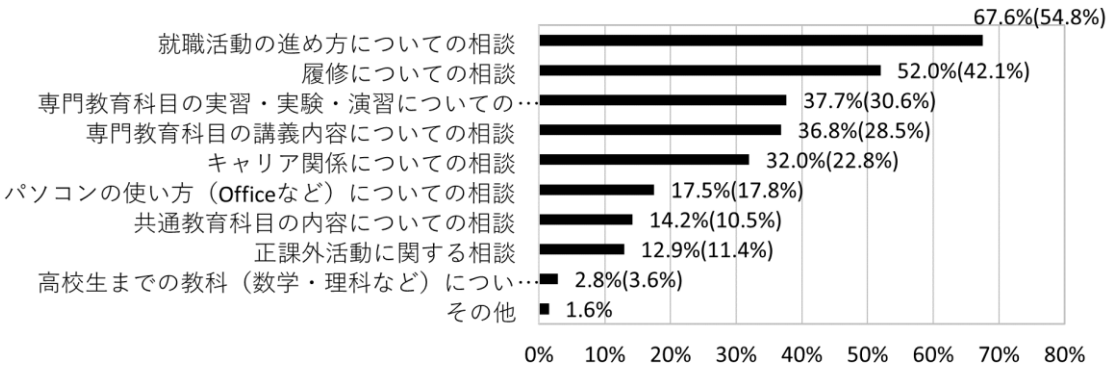
Q43 経済的に勉強を続けることが難しいなど経済的な不安や悩みがありますか？(n=1,091)



Q44 経済的な不安や悩みをだれに相談しますか？（相談したいですか？）【複数】(n=1,091)



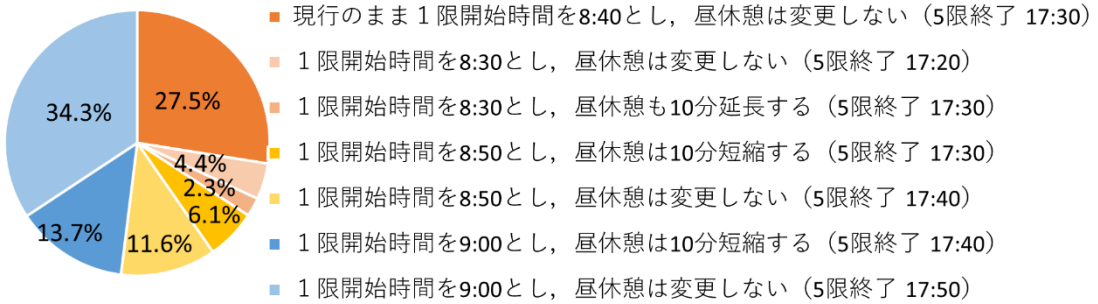
Q45 放課後や空き時間に先輩に何かサポートしてもらえるとしたら，何をサポートして欲しいですか？【複数】(n=1,091)



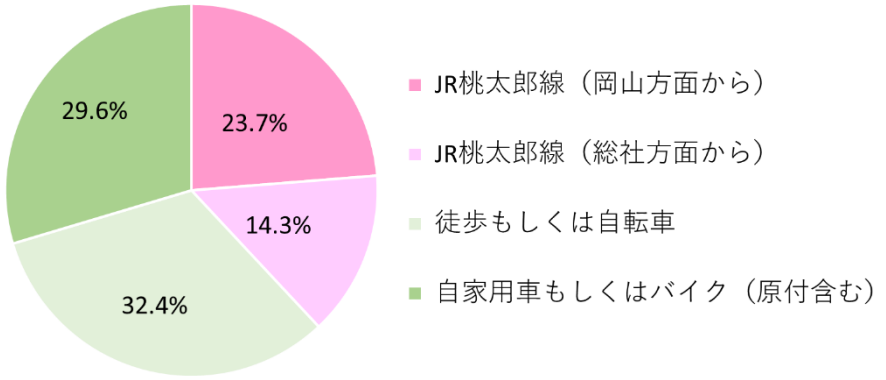
【授業開始時間と通学方法】

Q50 講義開始・終了時間について，現行から変更するとしたら？

(n=1,091)

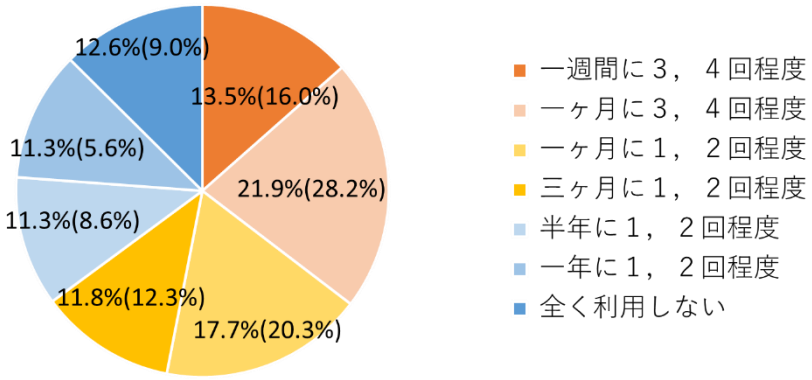


Q51 主たる通学方法(n=1,091)

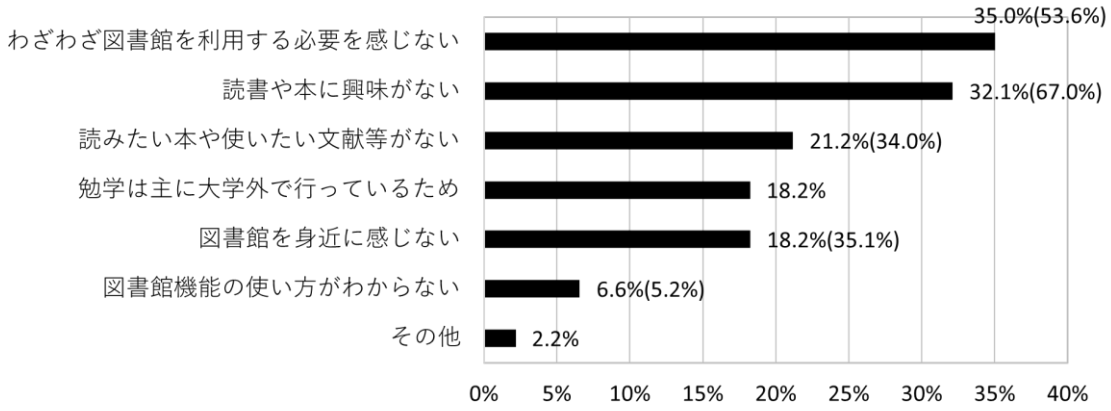


【図書館】

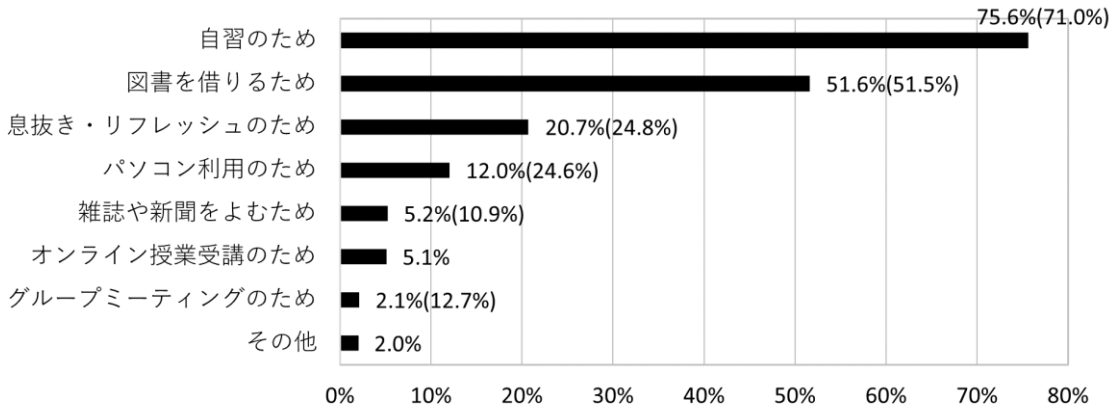
Q52 本学図書館の利用頻度(n=1,091)



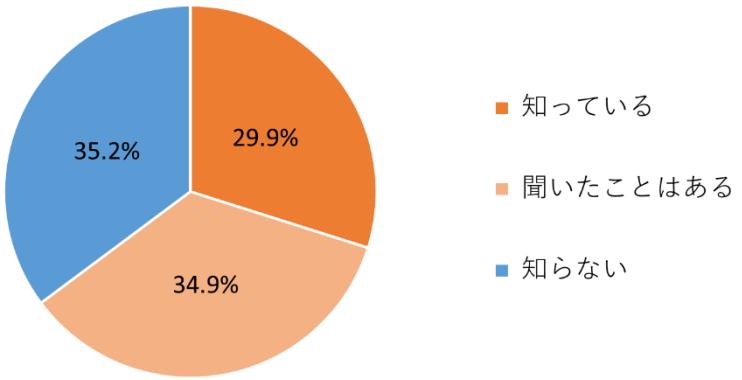
Q53 本学図書館を（ほとんど）利用しない理由【複数】(n=137)



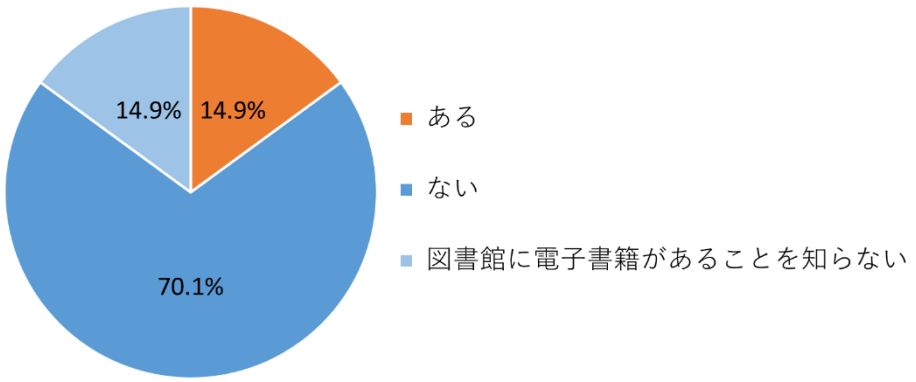
Q54 本学図書館の利用目的【複数】(n=1,091)



Q55 オンラインで学生が選書できるイベント（ブックフェア、Web選書）について知っていますか？(n=1,091)



Q56 図書館の電子書籍を利用したことはありますか？(n=1,091)



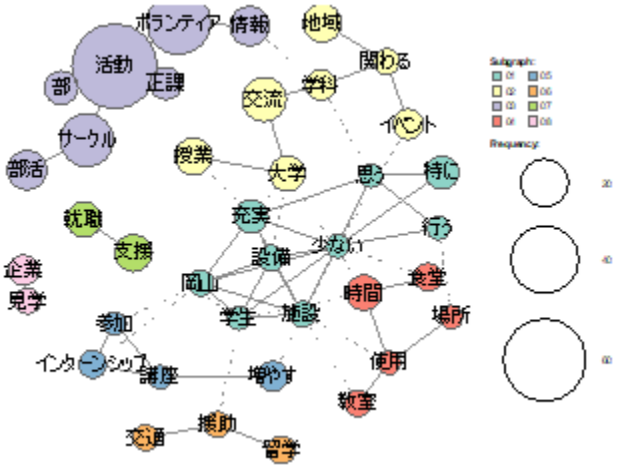
【自由記述】（共起ネットワーク）

Q16 大学の正課外活動として充実して欲しいことは何ですか？

〇部･サークル活動 .. 58 件

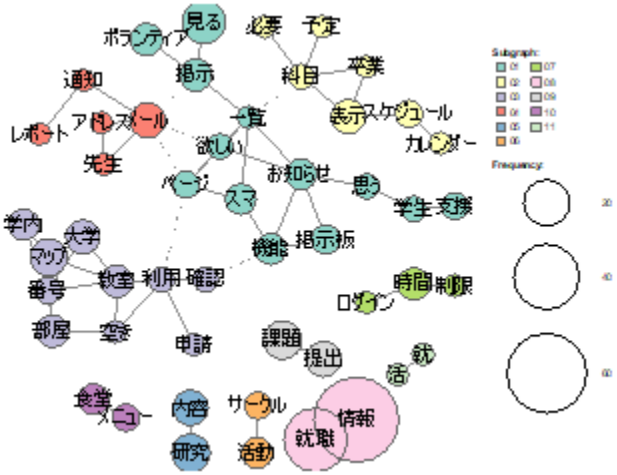
〇ボランティア ..... 34 件

○研修会・授業 ..... 32 件
○学祭・イベント・交流 30 件
○施設・設備 ..... 28 件
○就職・インターン .... 26 件
○活動サポート・広報 14 件
○留学・海外・語学 ... 12 件
○地域 ..... 10 件
○金銭的援助 ..... 10 件
○食堂・喫茶・コンビニ 9 件
○授業 ..... 6 件
○その他 ..... 37 件



Q26 大学ホームページの学内専用ページで充実して欲しい情報は何ですか？

○就職支援・インターンシップ 46 件
○ユーザビリティ ..... 22 件
○マップ ..... 17 件
○授業・履修 ..... 12 件
○イベント ..... 12 件
○食堂・喫茶・コンビニ ..... 11 件
○研究室 ..... 10 件
○スケジュール・カレンダー . 9 件
○情報発信 ..... 9 件
○ボランティア ..... 7 件
○アクセシビリティ ..... 7 件

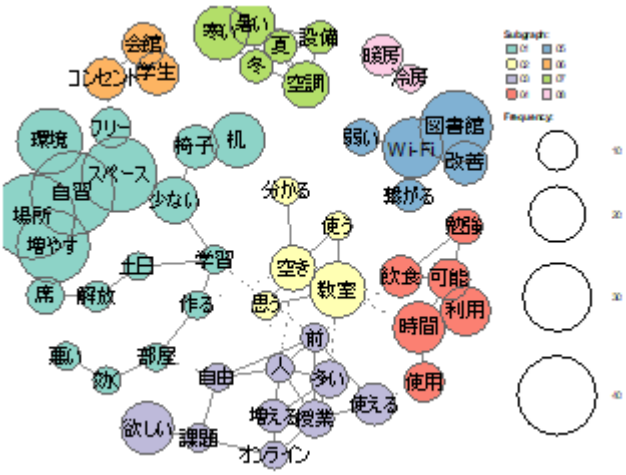


○予約・申請 ..... 7 件
○部・サークル ..... 6 件
○アルバイト ..... 6 件
○奨学金・授業料免除・学割 ..... 4 件
○連絡先 ..... 3 件
○留学・語学 ..... 3 件
○空き部屋 ..... 3 件
○教員情報 ..... 3 件
○WiFi ..... 2 件
○はっとりん（アクセシビリティ） ..... 17 件
○はっとりん（課題・レポート） ..... 17 件
○はっとりん（掲示板） ..... 10 件
○はっとりん（閲覧時間） ..... 10 件

○はっとりん(ユーザビリティ) ..... 7 件
○はっとりん(シラバス) ..... 5 件
○はっとりん(成績) ..... 3 件
○はっとりん(出席) ..... 1 件
○はっとりん(休講・補講) ..... 1 件
○はっとりん(その他) ..... 8 件
○その他 ..... 20 件

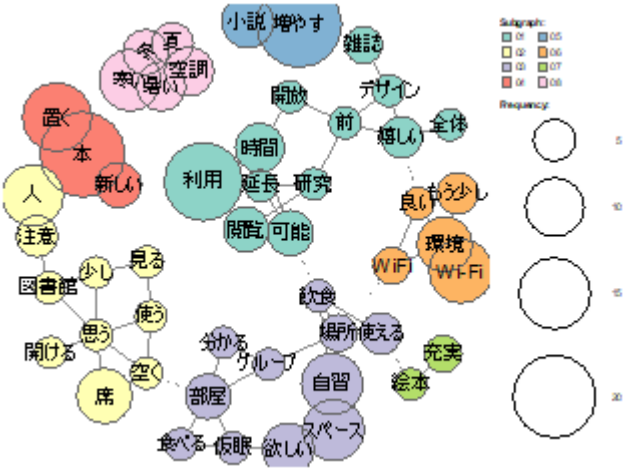
Q31 学内の自習環境で改善して欲しいことはありますか？

○自習環境の拡充 ..... 66 件
○空調 ..... 42 件
○ネット環境 ..... 38 件
○設備 ..... 30 件
○図書館 ..... 23 件
○ルールの緩和 ..... 21 件
○学生会館 ..... 10 件
○空き教室 ..... 10 件
○自習スペースの情報 ..... 8 件
○その他 ..... 13 件



Q57 図書館に何か要望はありますか？

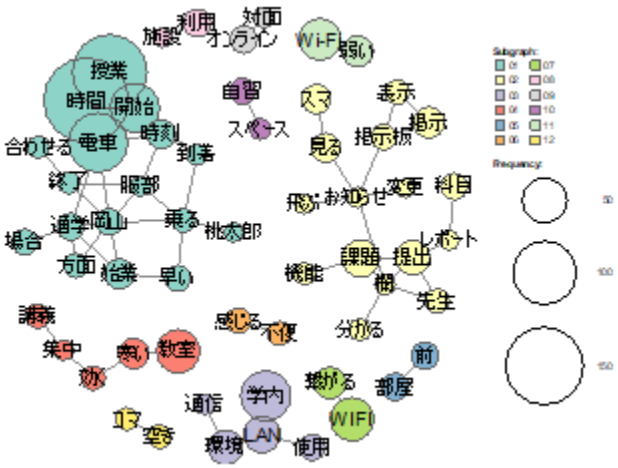
○書籍等の充実 ..... 36 件
○ネット環境 ..... 19 件
○ルール緩和 ..... 14 件
○空調 ..... 12 件
○開館スケジュール ..... 11 件
○自習スペース ..... 8 件
○利便性 ..... 9 件
○設備 ..... 6 件
○個室・閲覧室 ..... 5 件
○グループワーク ..... 2 件
○その他 ..... 13 件



Q58 授業に関連する環境について意見を自由に記述して下さい。

○通信環境 ..... 125 件
○授業開始時間・授業時間 ..... 110 件
○空調・施設・設備・スペース ..... 98 件

○はっとりん …… 95 件
○授業・時間割 …… 75 件
○HP・SNS・メール …… 15 件
○申請方法 …… 10 件
○図書館 …… 10 件
○食堂・喫茶・コンビニ …… 8 件
○成績 …… 6 件
○窓口 …… 2 件
○その他 …… 13 件



F　学部卒業時アンケートおよび学科 DP 達成度アンケート

F-1　調査概要

【調査期間】 2023 年 1 月 16 日(月)～2023 年 3 月 31 日(金)

【調査方法】 Google Forms による Web アンケート

【調査対象】 学部在学生 1176 名(休学者を除く)

【回 答 数】

学部･学科		B1	B2	B3	B4	計	B4(2021)	B4(2020)
保健福祉		108	111	67	141	427	117	84
	看護	22	32	2	21	77	28	27
	栄養	40	38	15	56	149	38	35
	現福	21	23	32	45	121	50	22
	子ど	25	18	18	19	80		
情報工		134	124	111	100	469	132	51
	通信	30	37	34	27	128	49	15
	シス	53	37	26	50	166	42	15
	人間	51	50	51	23	175	41	21
デザイン		85	79	35	81	280	60	30
	ビジ	29	27	—	—	56	—	—
	工芸	28	16	—	—	44	—	—
	建築	28	36	—	—	64	—	—
	デ工	—	—	23	35	58	32	20
	造形	—	—	12	46	58	28	10
全学計		327	314	213	322	1176	309	165

【回 答 率】

＊2022 年度について、分母は在学生数(休学者を除く)

＊2021 年度について、分母は卒業者数

学部･学科		B1	B2	B3	B4	計	B4(2021)	B4(2020)
保健福祉		73.0%	77.6%	47.2%	94.6%	73.4%	82.4%	55.3%
	看護	55.0%	78.0%	4.9%	52.5%	47.5%	62.2%	62.8%
	栄養	97.6%	95.0%	37.5%	136.6%	92.0%	100.0%	72.9%
	現福	53.8%	62.2%	78.0%	95.7%	73.8%	86.2%	36.1%
	子ど	89.3%	72.0%	90.0%	90.5%	85.1%		
情報工		95.0%	91.2%	86.0%	59.2%	81.6%	88.0%	31.5%
	通信	61.2%	75.5%	75.6%	50.0%	65.0%	87.5%	23.1%
	シス	100.0%	77.1%	54.2%	69.4%	75.1%	91.3%	25.0%

	人間	130.8%	128.2%	141.7%	53.5%	111.5%	85.4%	56.8%
デザイン		92.4%	89.8%	38.9%	81.0%	75.7%	69.0%	36.1%
	ビジ	93.5%	96.4%	—	—	94.9%	—	—
	工芸	87.5%	51.6%	—	—	69.8%	—	—
	建築	96.6%	124.1%	—	—	110.3%	—	—
	デ工	—	—	56.1%	77.8%	67.4%	71.1%	52.6%
	造形	—	—	24.5%	83.6%	55.8%	66.7%	22.2%
全学計		85.8%	85.6%	59.0%	77.0%	77.0%	81.8%	41.6%

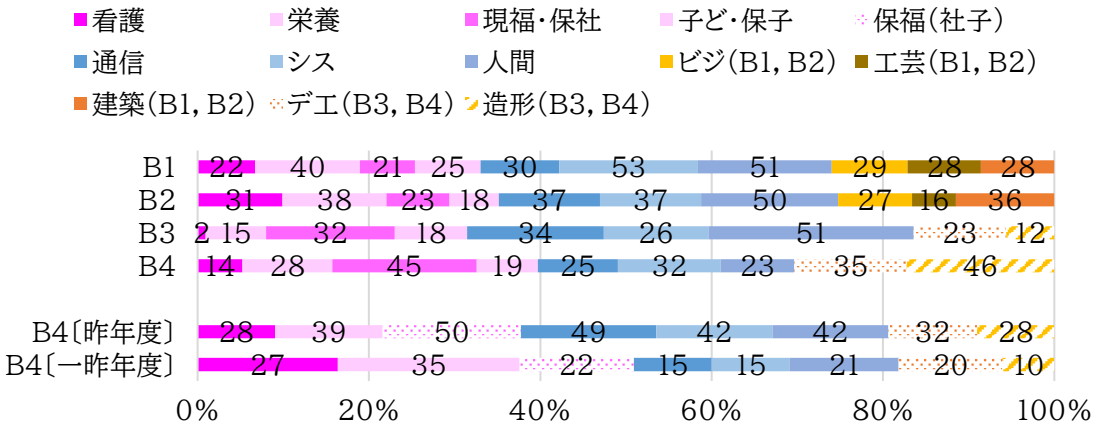
F-2 調査結果

在学生 B1～B3 に対する「学科 DP 達成度アンケート」の設問は、「卒業時アンケート」の設問 Q13～Q21、Q23～Q29（または Q30）と同一であるため、結果を併記する。なお、「学科 DP 達成度アンケート」設問番号は〈 〉で表示する。

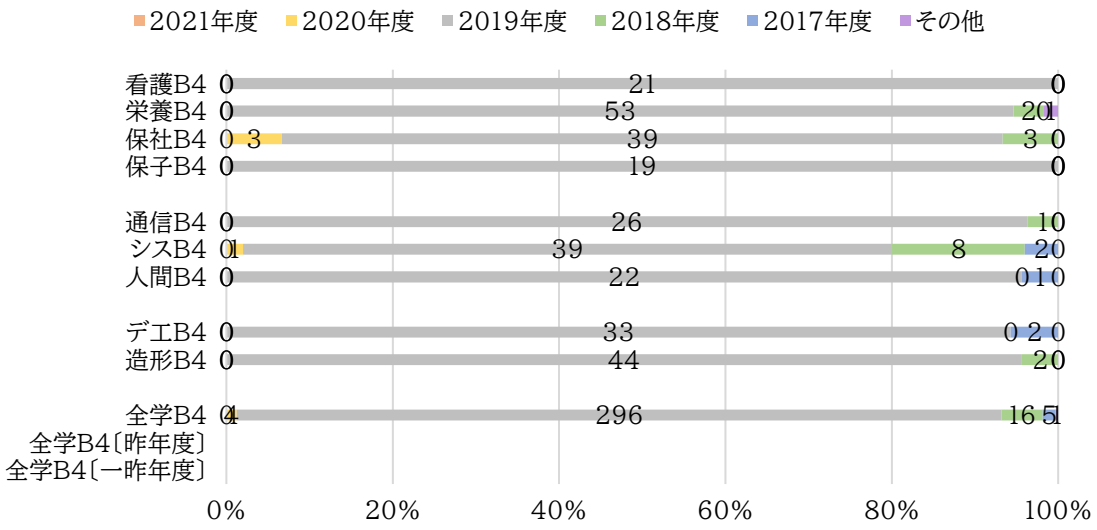
また、以降、各設問のグラフにおける最下層に、令和 3 年度（昨年度）の卒業時アンケートで対応する設問の全学部の結果を「全学部 B4〔昨年度〕」、令和 2 年度（一昨年度）の卒業時アンケートで対応する設問の全学部の結果を「全学部 B4〔一昨年度〕」として併記する。一昨年度の設問が今年度と異なる場合には、欄外に示す。

【Ⅰ】あなた自身について回答してください（Q22〈Q10〉、Q1～Q3）

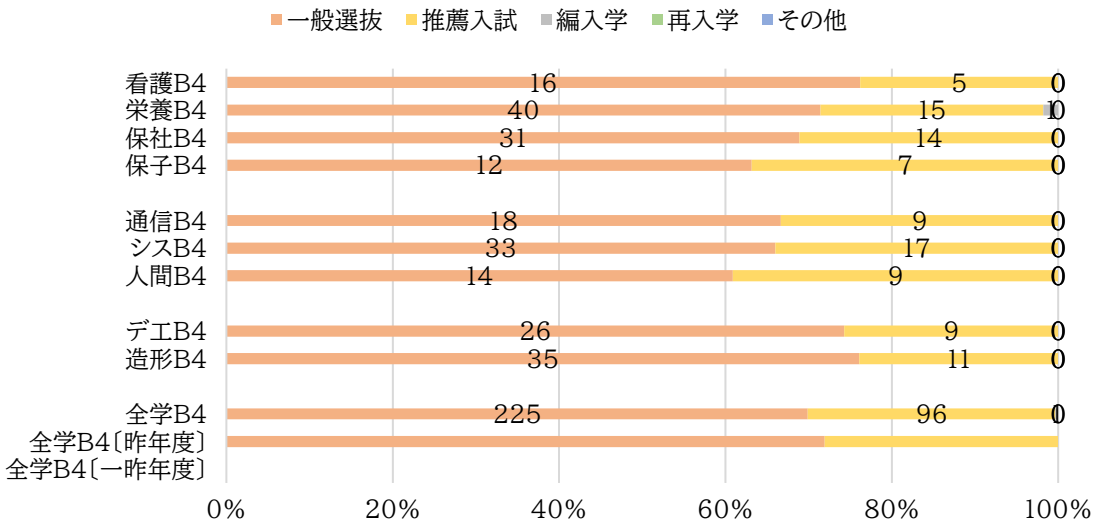
Q22〈Q10〉. 所属学科（専攻）



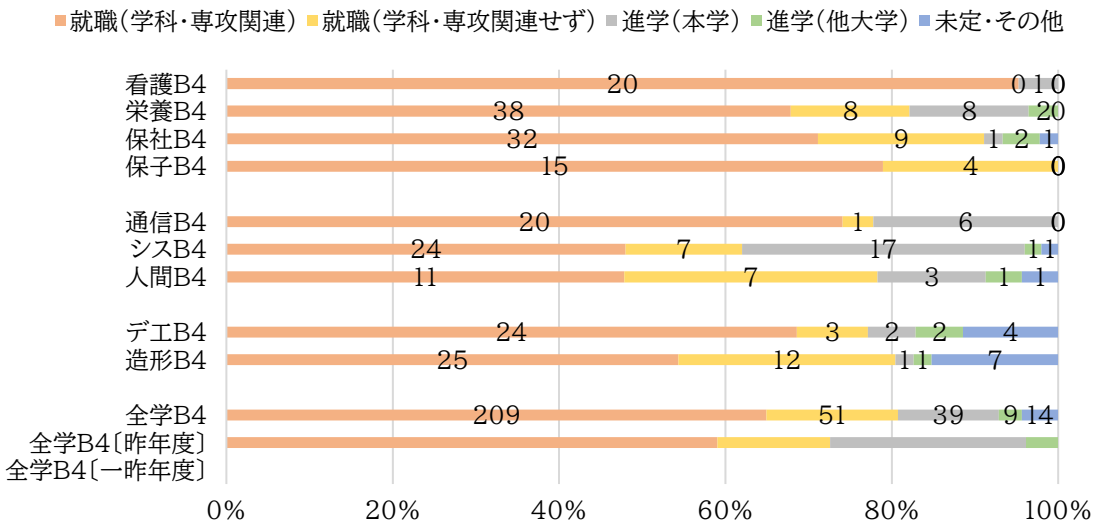
Q1. 入学年度



Q2. 本学に合格した入学試験の種別

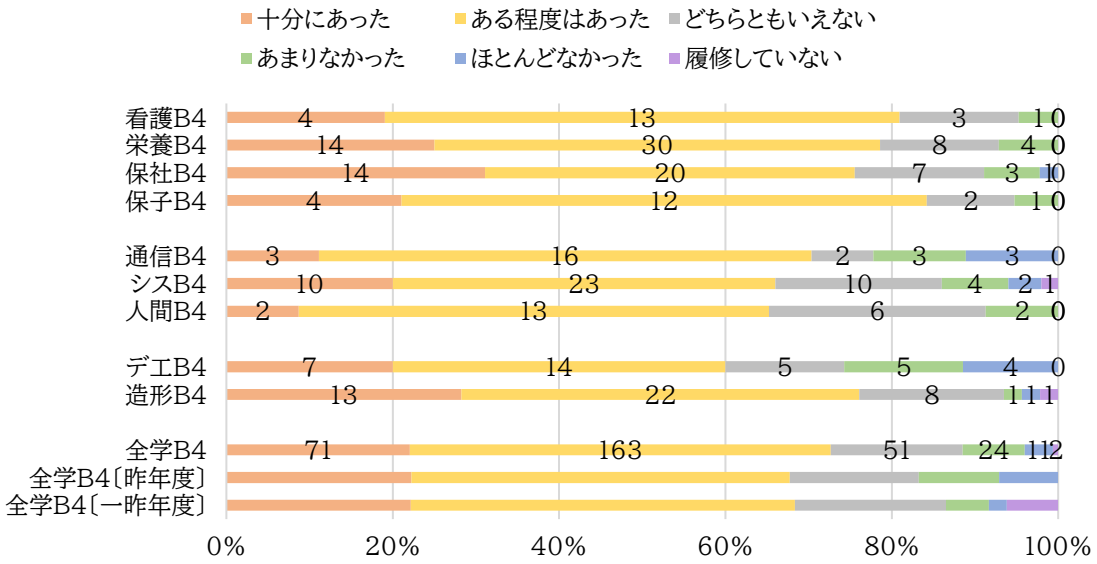


Q3. 卒業後の進路



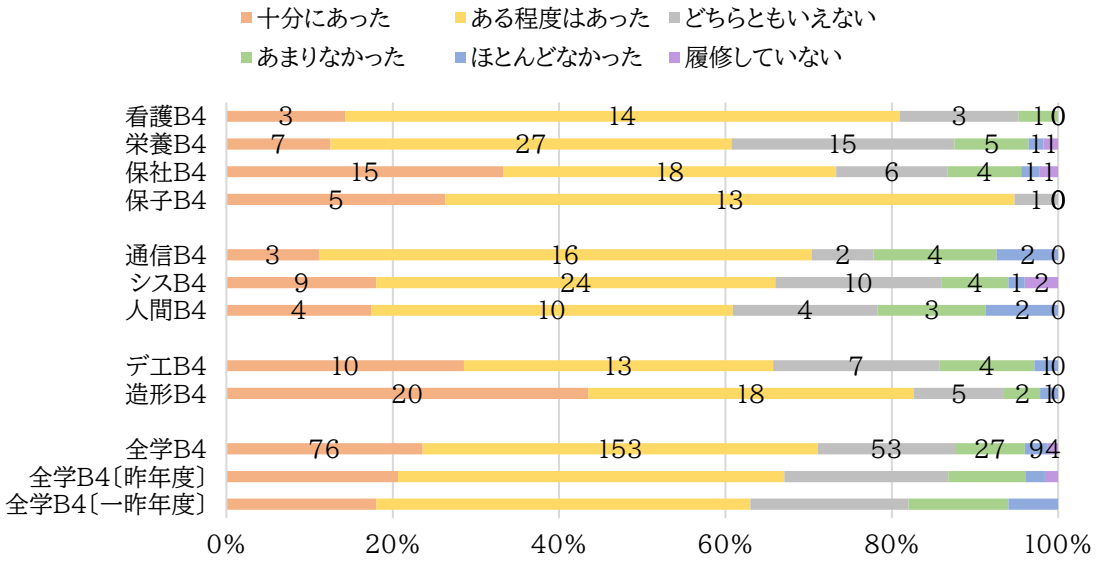
【Ⅱ】次の共通教育科目カテゴリーの学修を振り返ってみて、あなたの成長において得るものがありましたか。ただし、次の共通教育カテゴリーの授業を 1 科目も履修していない場合は、「履修していない」を選択してください(Q4～Q9)[1]。

Q4.「修学基礎」カテゴリー(「大学で学ぶ」、「フレッシュマンセミナー」など)

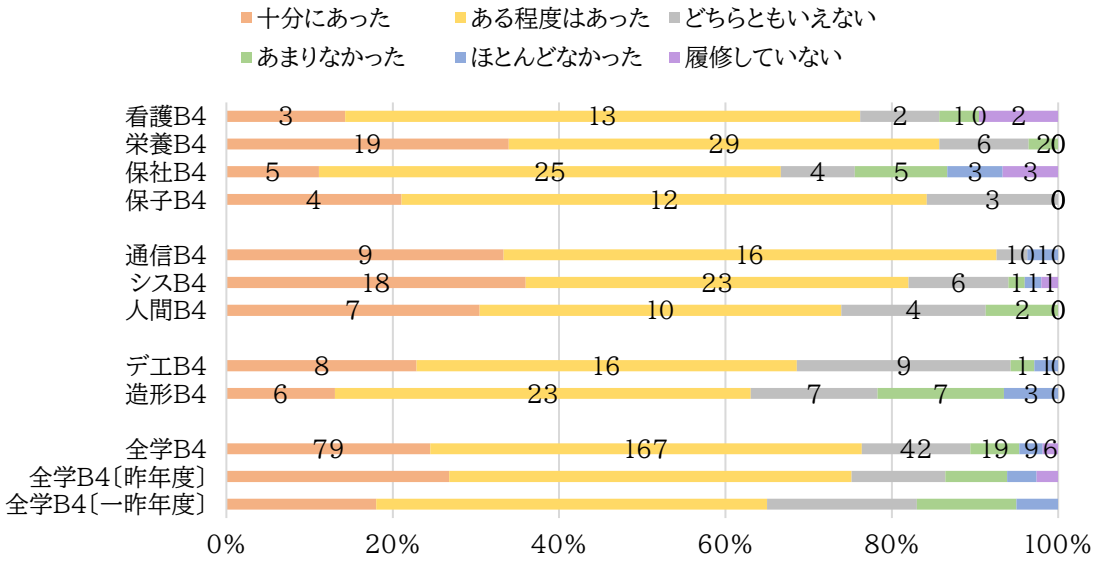


[1] 一昨年度の設問「次の共通教育科目カテゴリーは、あなたの成長にどの程度意義がありましたか」

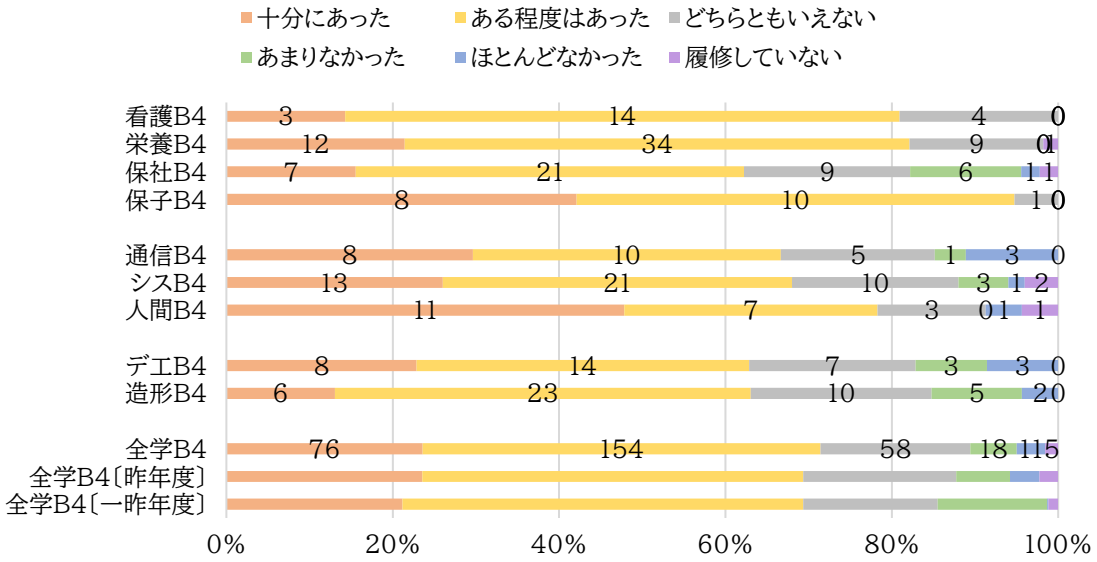
Q5.「人文・社会科学」カテゴリー(「哲学」、「心理学」、「経済学」、「日本国憲法」など)



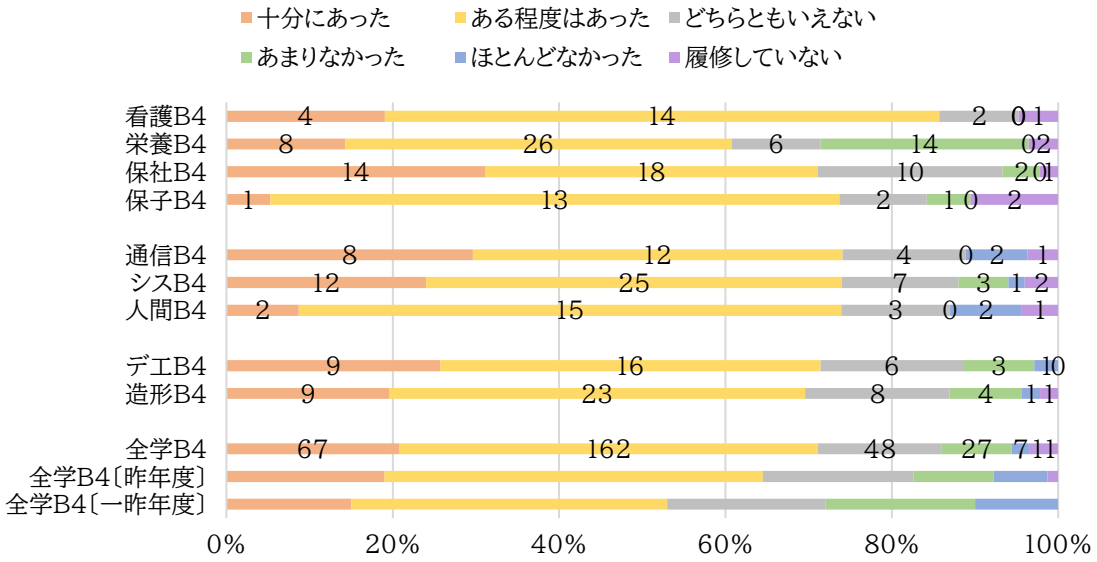
Q6.「自然科学」カテゴリー(「数学 A」、「化学」、「コンピューター演習」など)



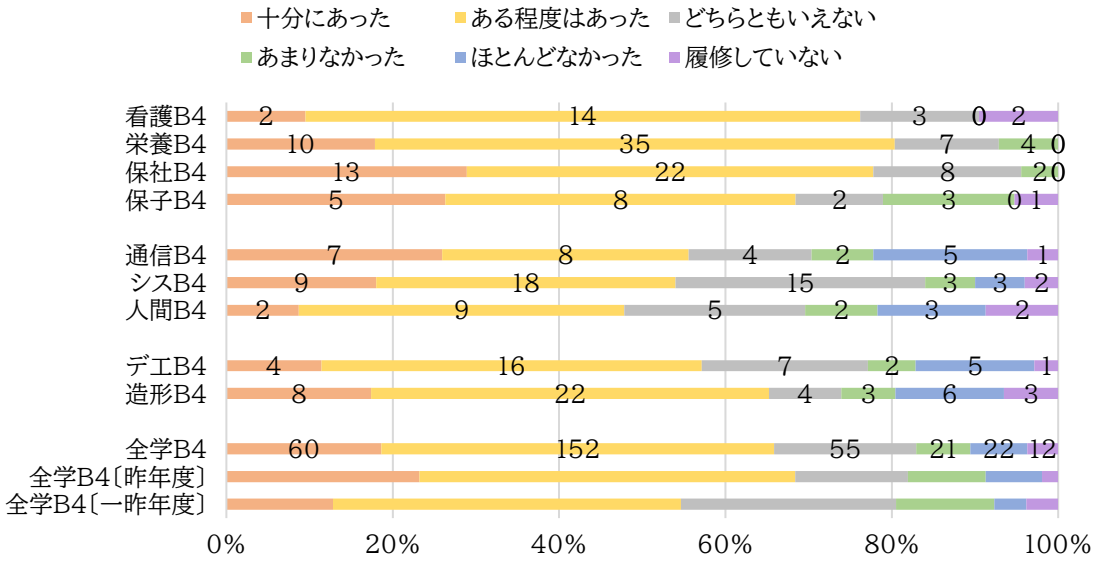
Q7.「健康科学」カテゴリー(「生命倫理学」、「健康スポーツ A」など)



Q8.「語学国際」分野(「ELP1～10」、「語学文化研修」など)

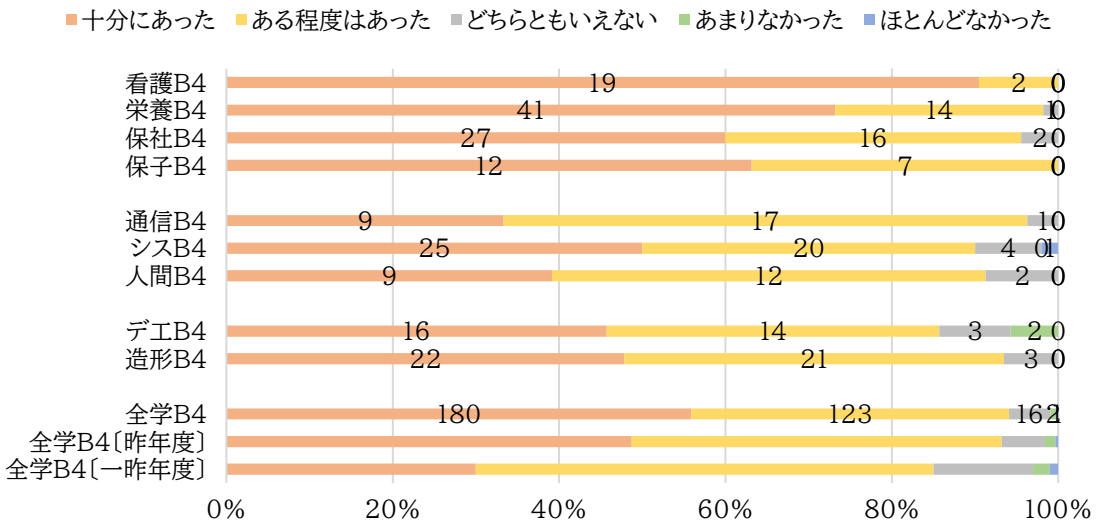


Q9.「社会連携」分野(「おかやまを学ぶ」、「地域インターンシップ」など)



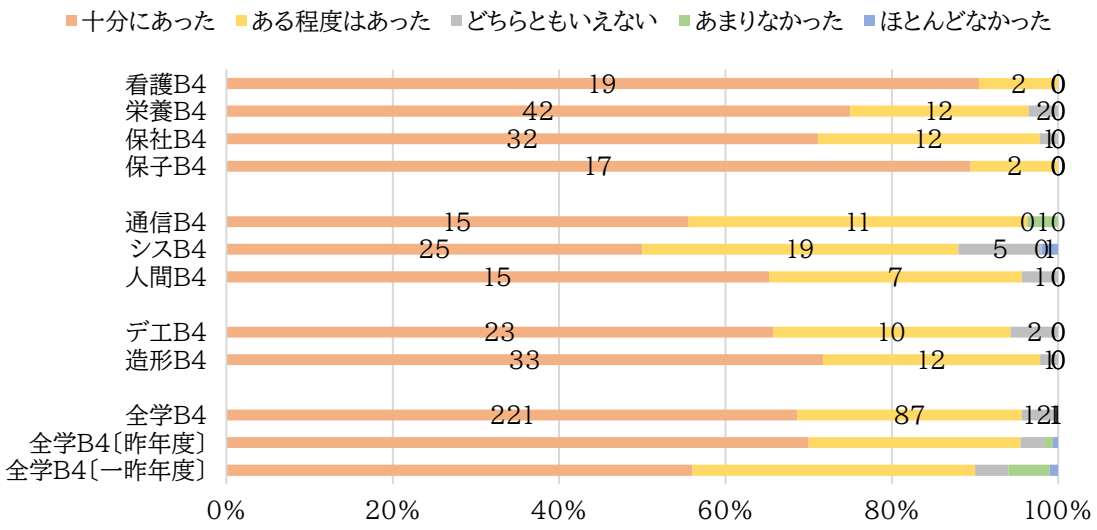
【Ⅲ】次の学部教育科目の学修を振り返ってみて、あなたの成長において得るものがありましたか(Q10～Q12)[2]。

Q10. 講義科目

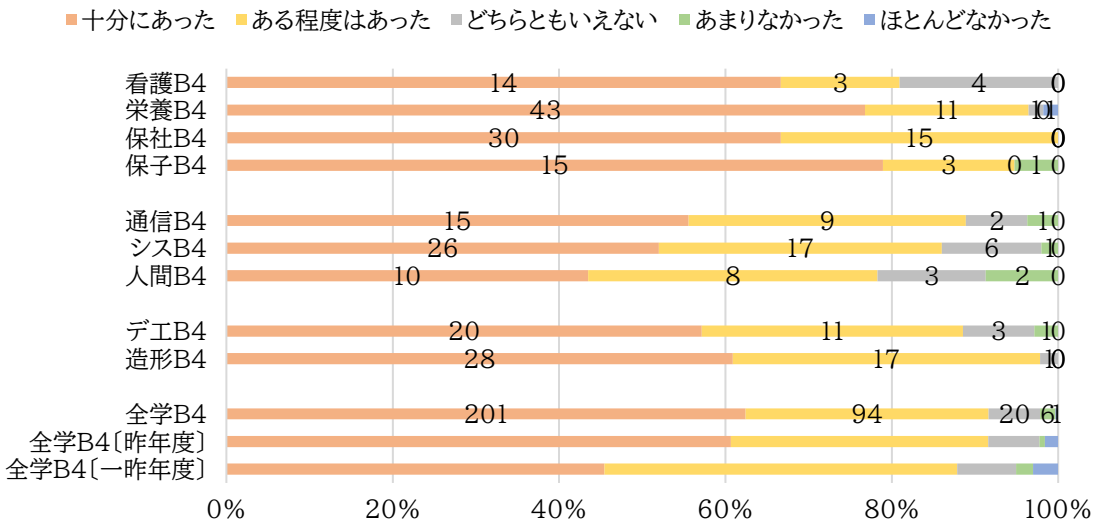


[2] 一昨年度の設問「次の学部教育科目カテゴリーは、あなたの成長にどの程度意義がありましたか」

Q11. 実験・実習・演習科目

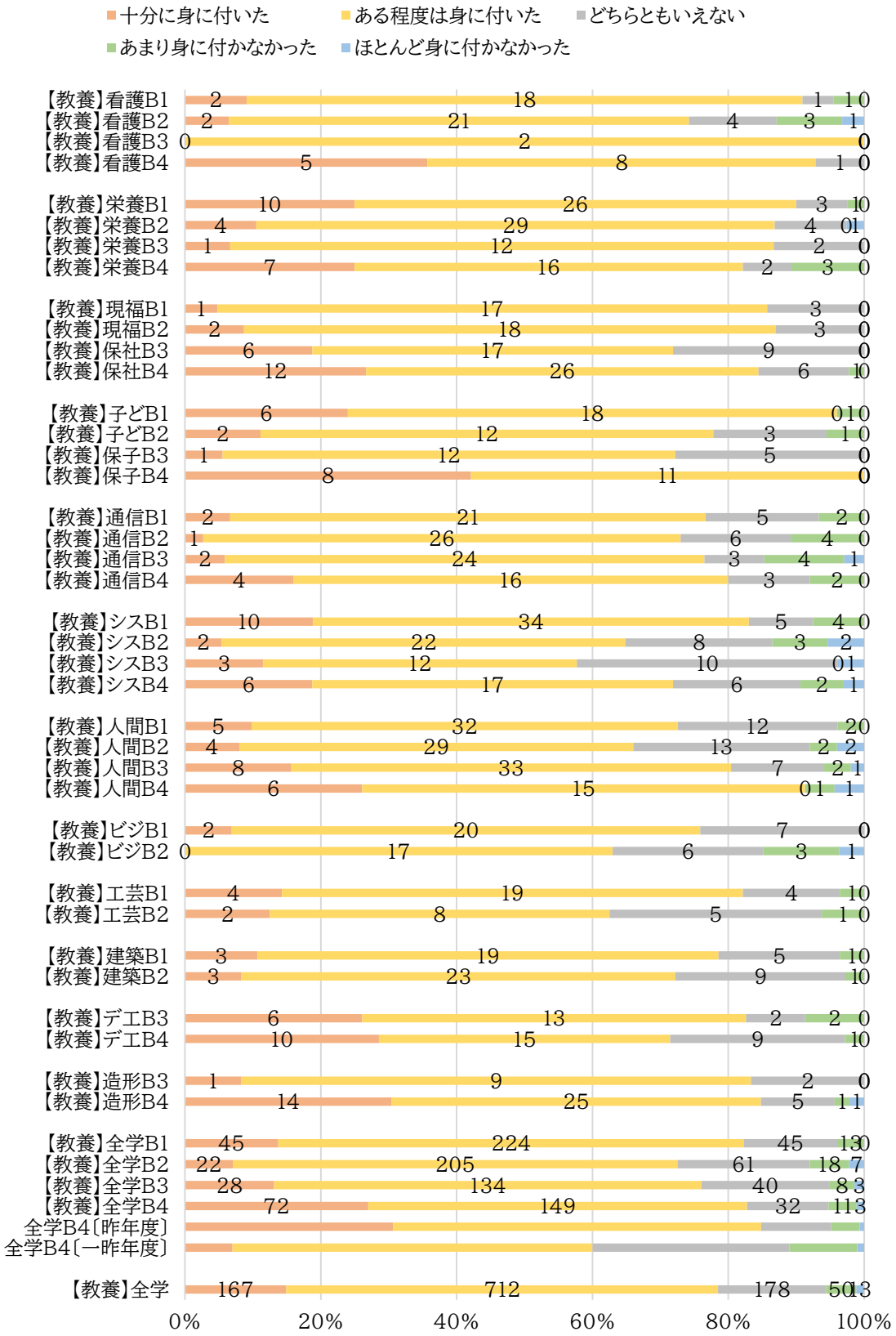


Q12. 卒業研究

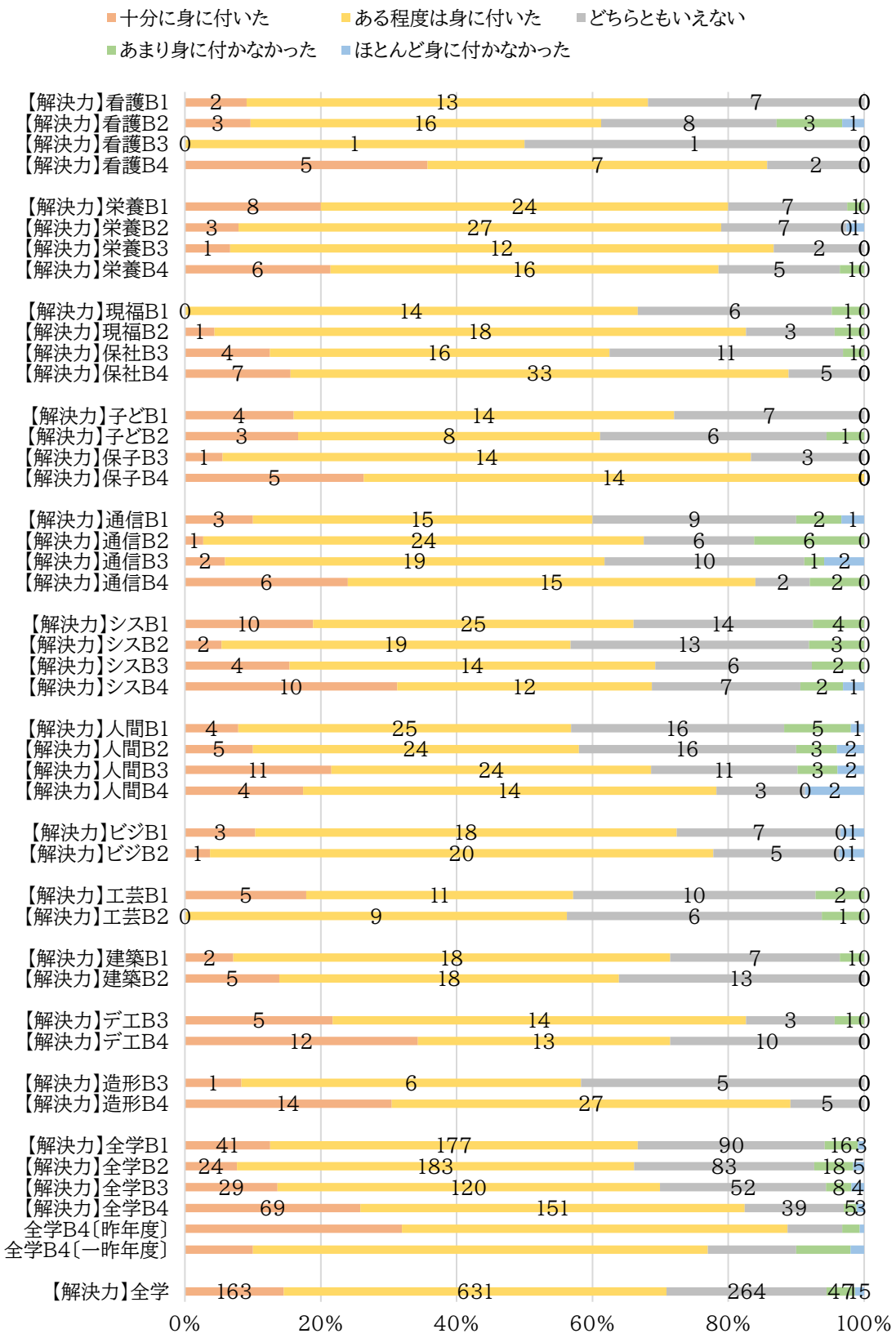


【Ⅳ】次の項目は、本学の「学位授与の方針（Diploma Policy）」の達成度を、みなさん自身に評価していただくものです。「入学当初と比べて」、本学の教育によってあなたが身に付けることができたと思う資質や知識、能力について回答して下さい（Q13〈Q1〉～Q21〈Q9〉）。

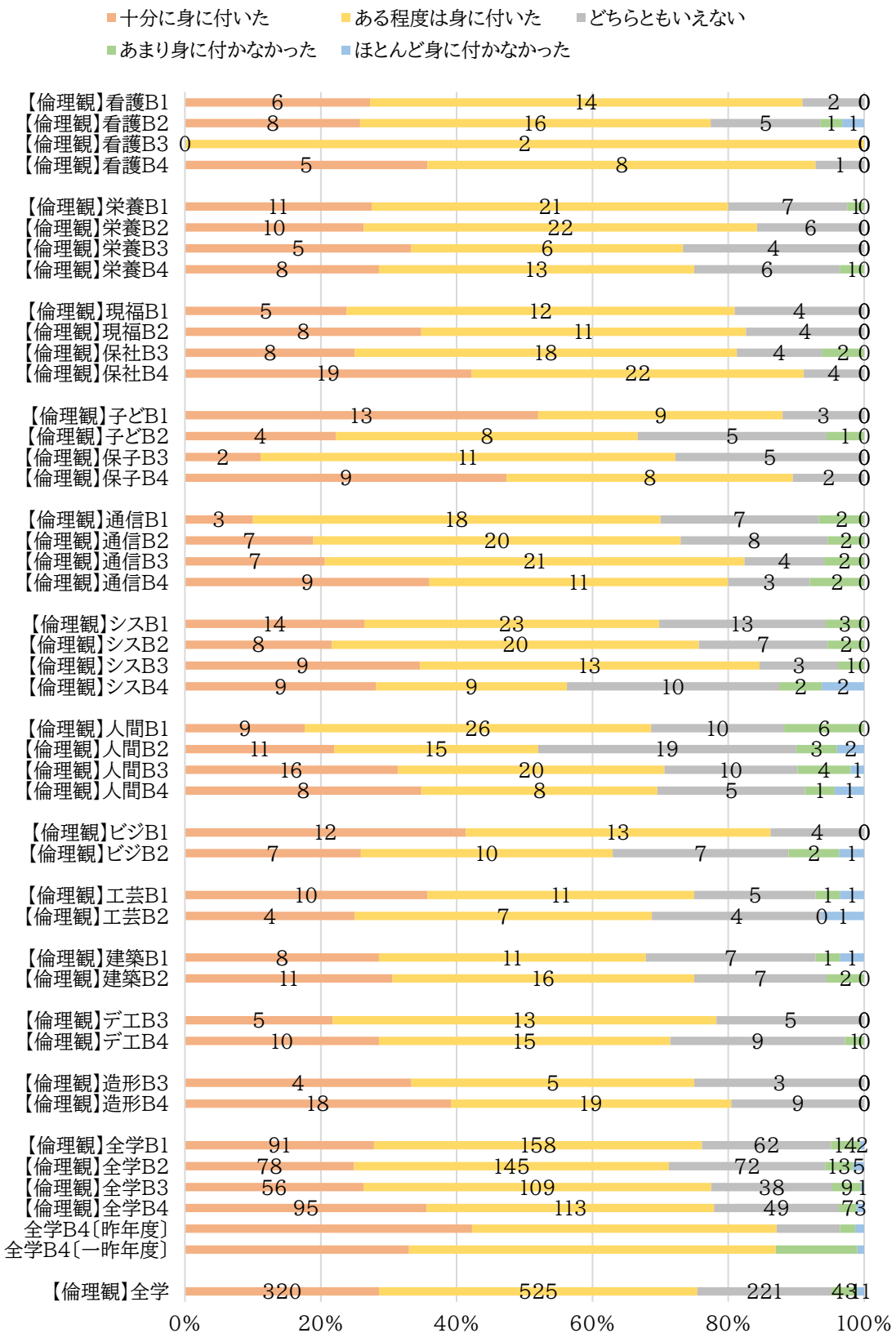
Q13〈Q1〉. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。



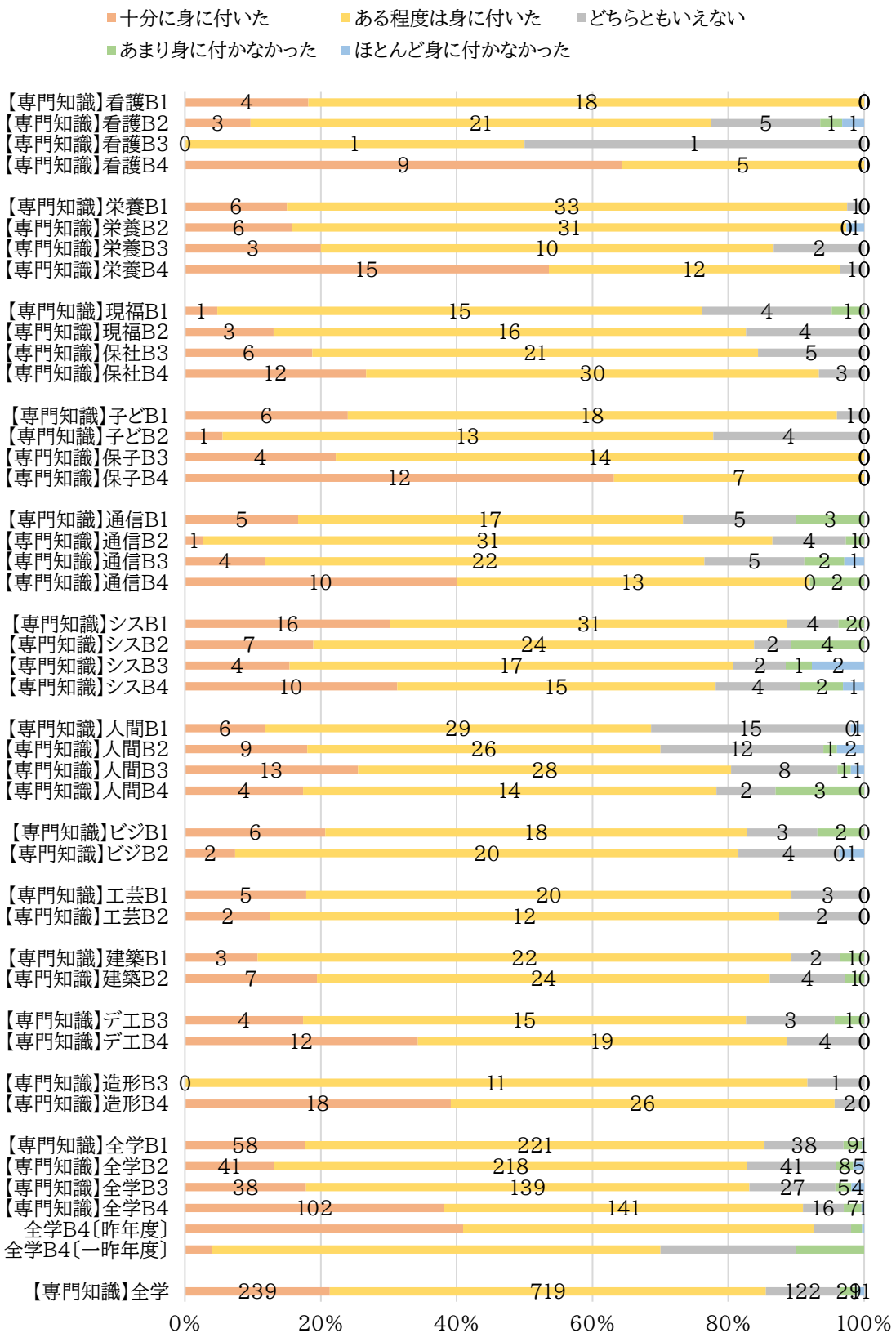
Q14〈Q2〉. 人生の各局面において課題を発見し解決する力が身に付きましたか。



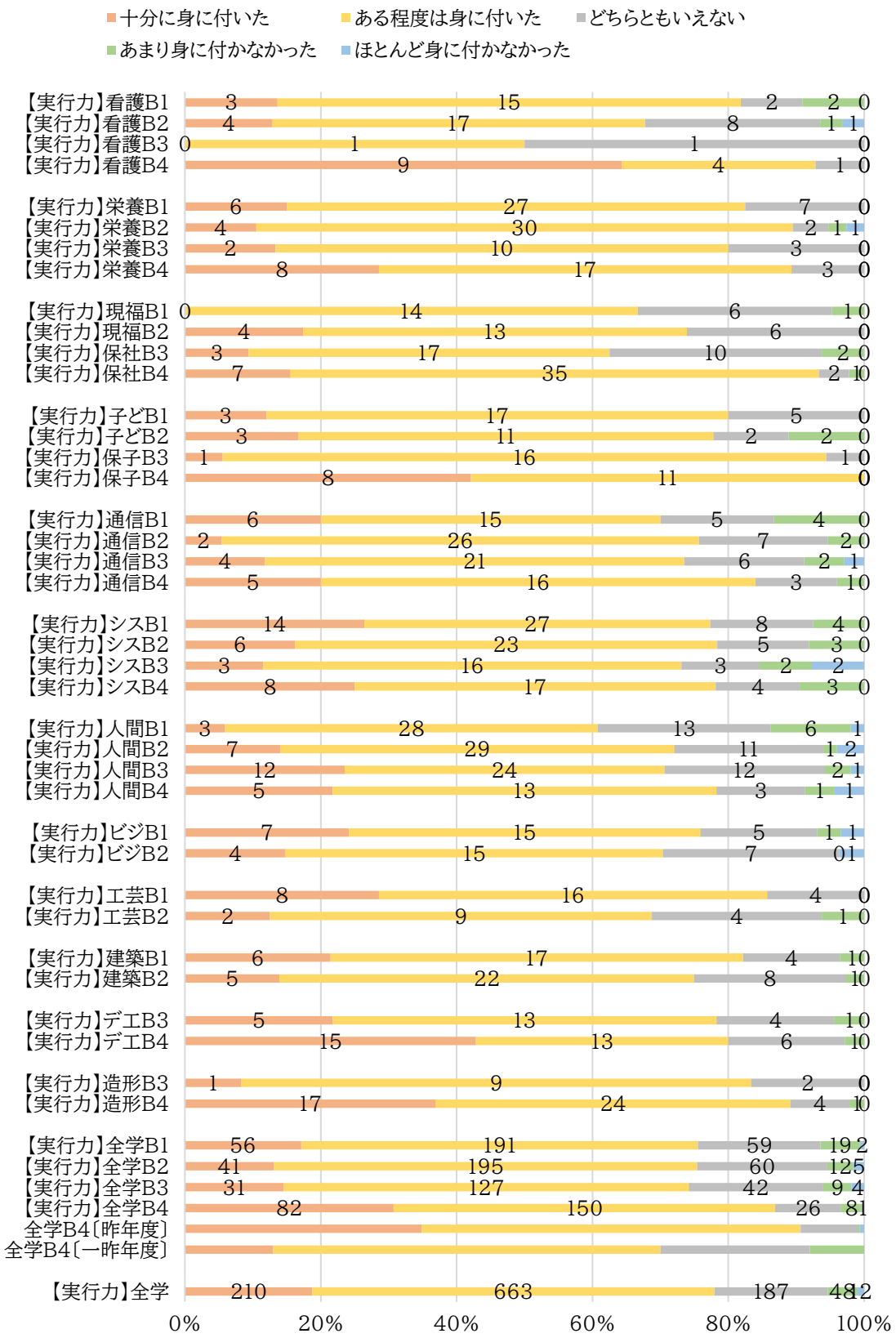
Q15〈Q3〉. 法や道徳を守る倫理観が身に付きましたか。



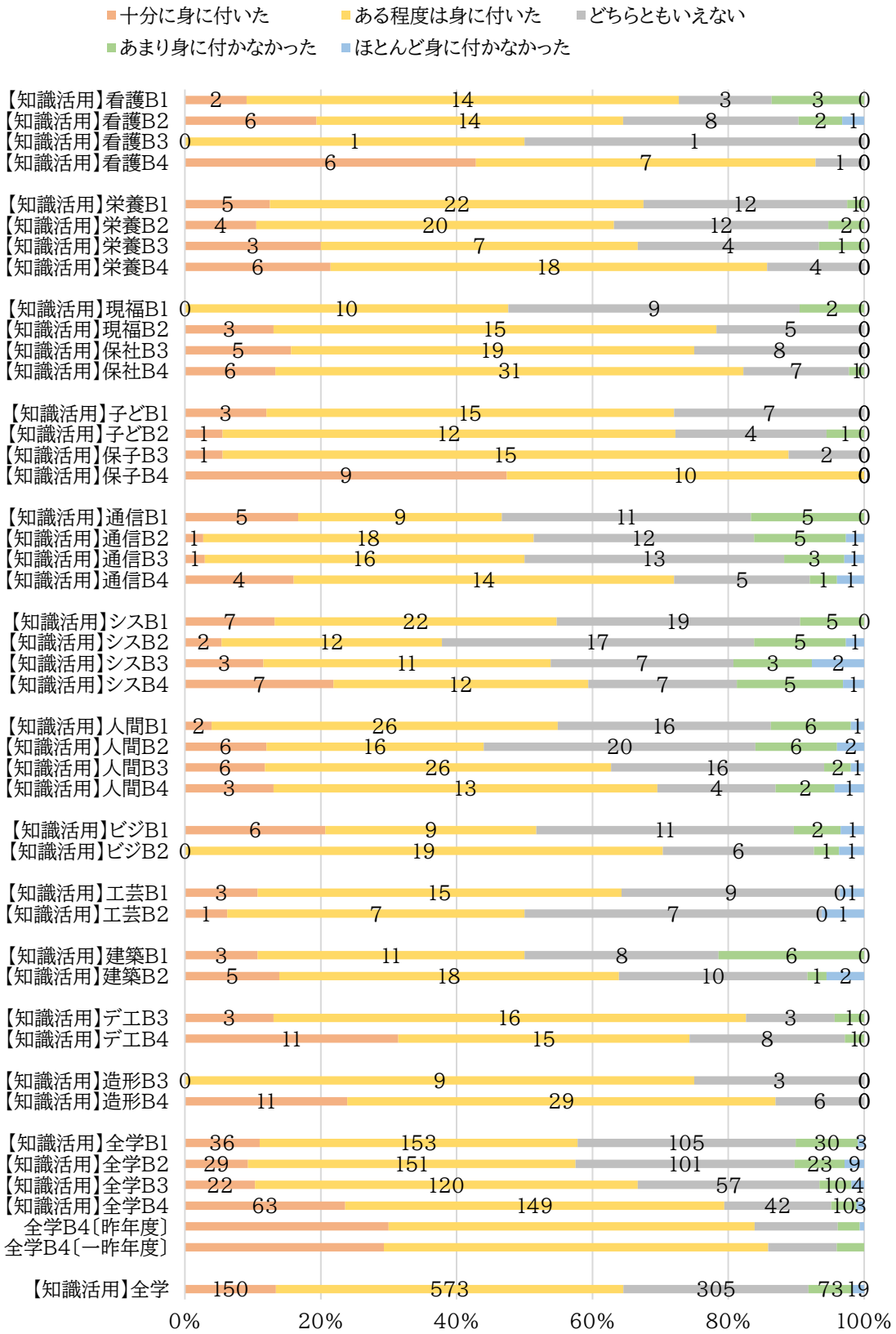
Q16〈Q4〉. 専門分野の知識や技能が身に付きましたか。



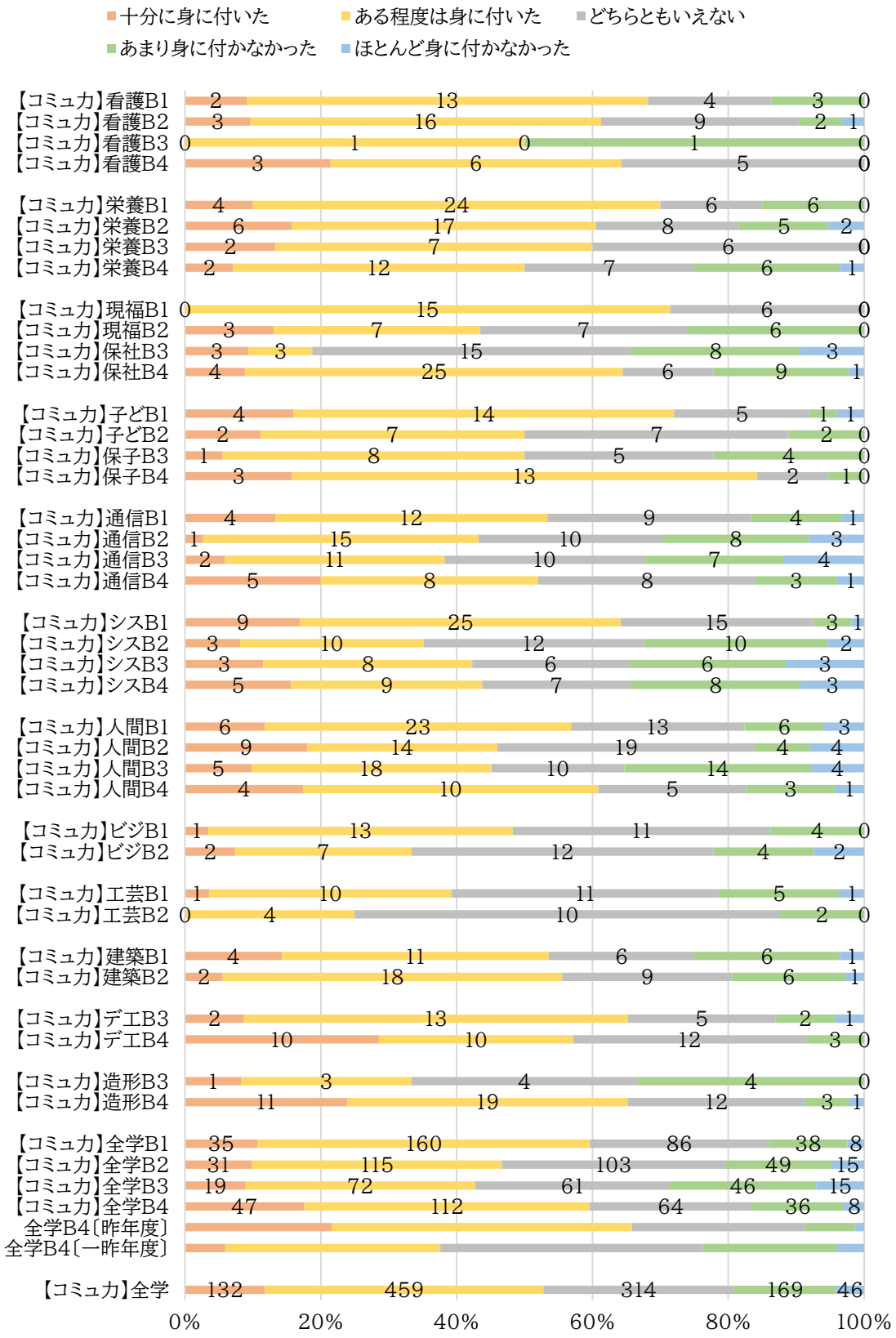
Q17〈Q5〉. 専門とする分野で自ら論理的に考え、判断し、実行する力が身に付きましたか。



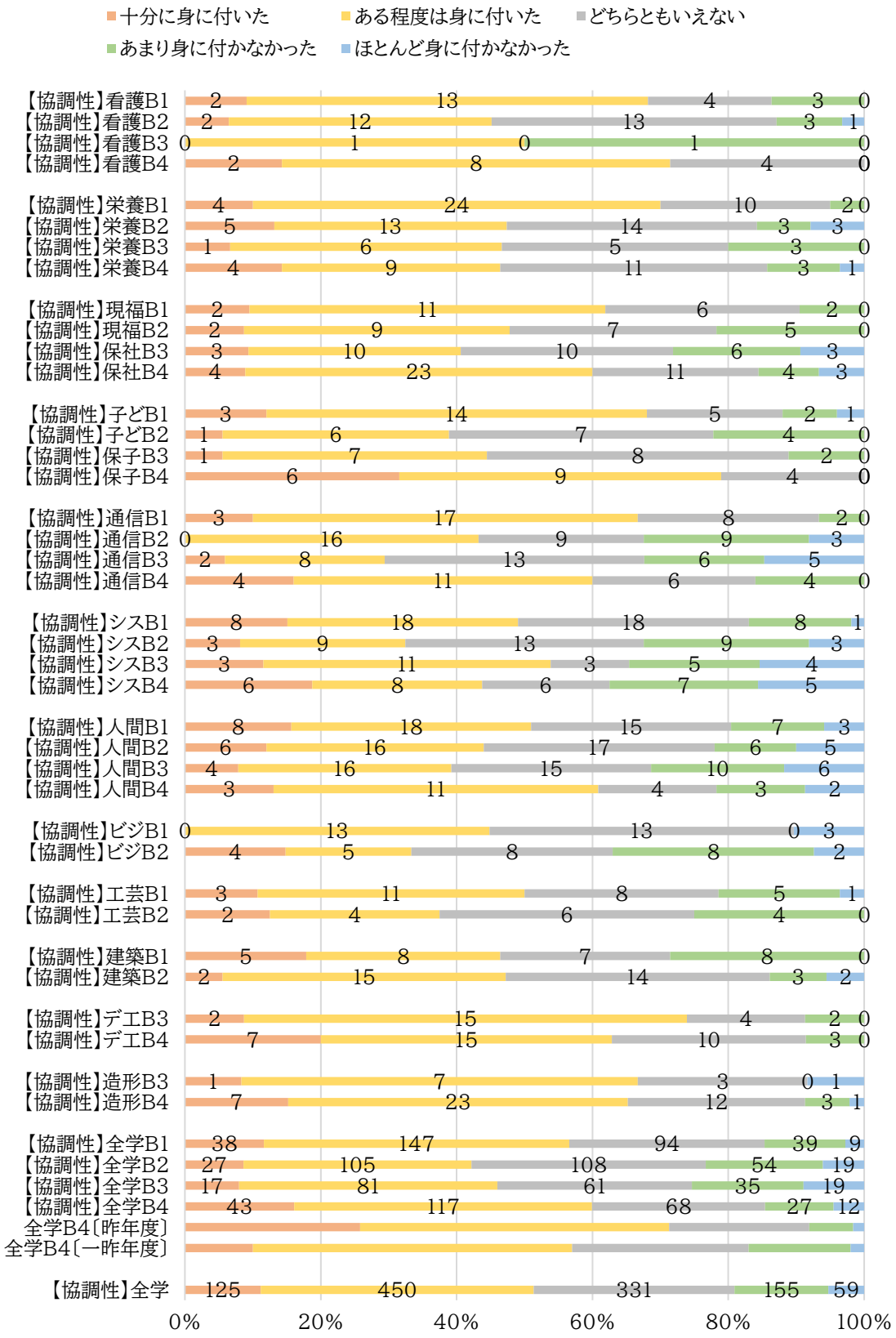
Q18〈Q6〉. 学修した専門分野を実社会に活かす力が身に付きましたか。



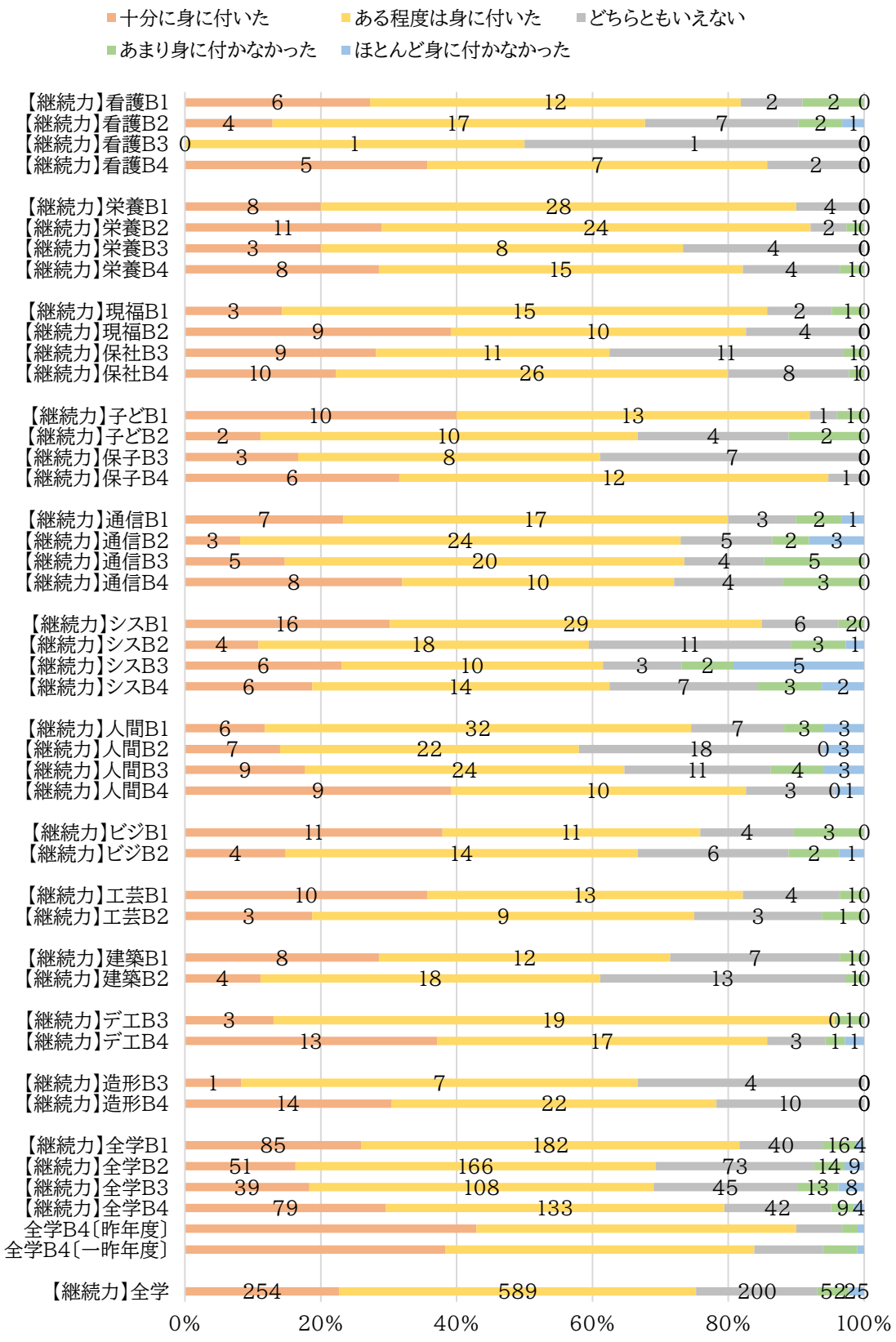
Q19〈Q7〉. 世代、言語、文化の相違をのりこえてコミュニケーションを図る力が身に付きましたか。



Q20〈Q8〉. 世界とのつながりを考えながら社会の多様な人々と協調して積極的に行動する意欲が身に付きましたか。



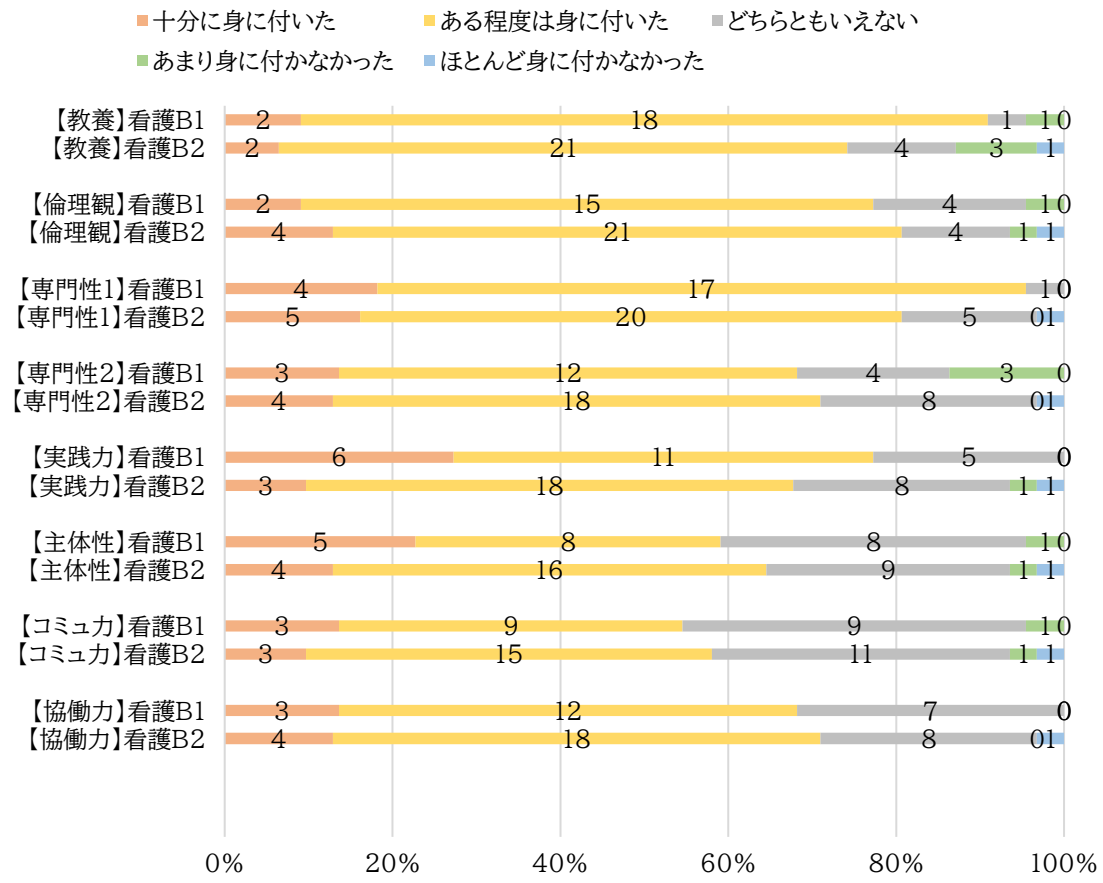
Q21〈Q9〉. 生涯にわたって学び続けて自分を磨く意欲が身に付きましたか。



【V】次の項目は、本学の「学位授与の方針（Diploma Policy）」の達成度を、みなさん自身に評価していただくものです。「入学当初と比べて」、本学の教育によってあなたが身に付けることができたと思う資質や知識、能力について回答して下さい（Q23〈Q11〉～Q30〈Q18〉）。

■看護学科 B1・B2

〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。
〈Q11〉【倫理観】. 看護専門職としてのアイデンティティを形成し、専門職業人として必要な倫理観と豊かな人間性が身に付きましたか。
〈Q12〉【専門性 1】. 看護学の専門職として、幅広く社会に貢献するために必要な基礎的知識と技能が身に付きしたか。
〈Q13〉【専門性 2】. 人体の構造と機能・疾病の成立ち及び健康との相互関係を科学的に理解し看護学的課題を明らかにするために必要な専門的知識と技術力、判断力が身に付きましたか。
〈Q14〉【実践力】. 看護の実践・教育・研究領域において、課題を発見・解決する能力、看護専門分野の知識・技術を基盤に、対象者の多様なニーズを判断し、対応できる実践的な能力が身に付きましたか。
〈Q15〉【主体性】. 看護学において課題を発見し、主体的に解決できる能力が身に付きましたか。
〈Q16〉【コミュ力】. 社会の変化やグローバル化に柔軟に対応し、ヒューマンケアリングを実践するためのコミュニケーション能力が身に付きましたか。
〈Q17〉【協働力】. 保健、医療、福祉、教育関連分野で貢献するための課題解決に必要な自己管理力及びマネジメント力や、自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力が身に付きましたか。



■看護学科 B3・B4

Q13〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。

Q23〈Q11〉【倫理観】. 看護専門職としてのアイデンティティを形成し、専門職業人の持つべき知識・価値観・倫理観を自ら継続・発展させていく能力が身に付きましたか。

Q24〈Q12〉【コミュ力】. グローバルな視点を持ち、看護の実践・教育・研究領域におけるリーダーやスペシャリストとして、必要な看護を創造するために企画や解決策を提案し、社会に貢献できる能力が身に付きましたか。

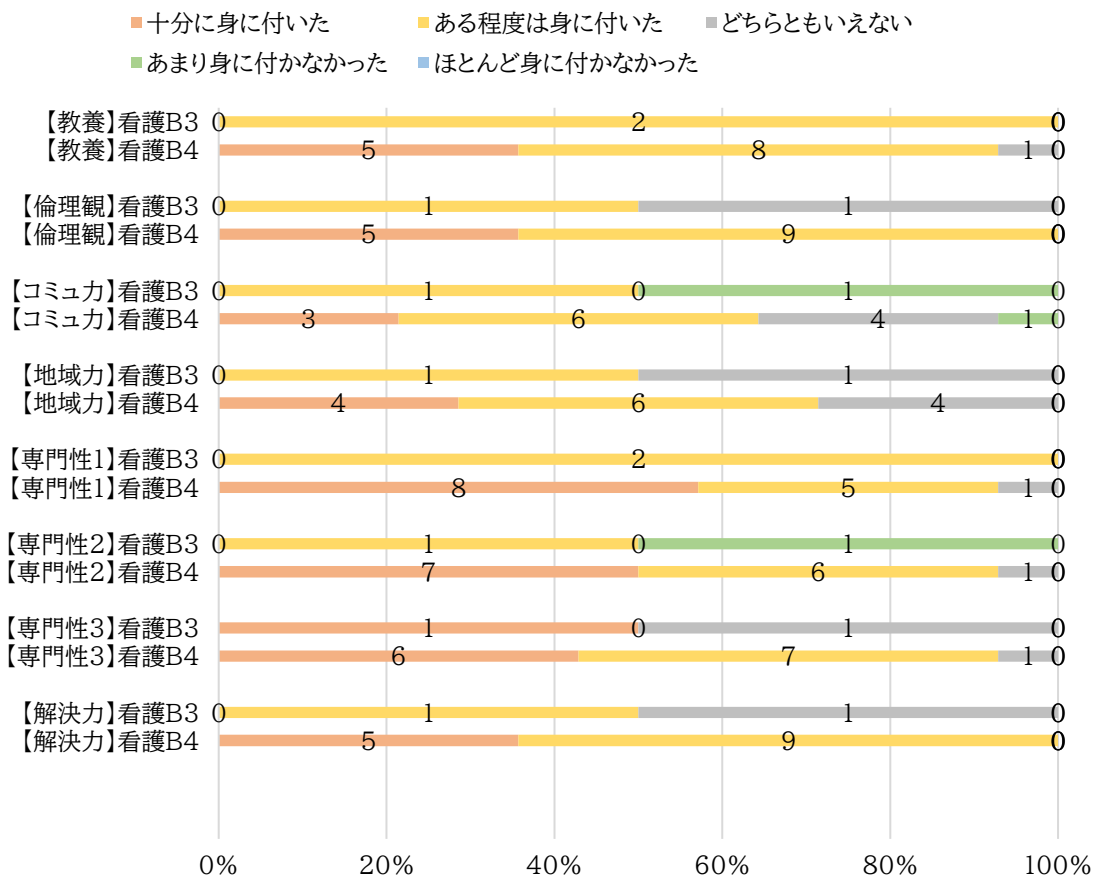
Q25〈Q13〉【地域力】. 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力が身に付きましたか。

Q26〈Q14〉【専門性 1】. 人間理解を基盤にしたヒューマンケアリングが実践できる能力が身に付きましたか。

Q27〈Q15〉【専門性 2】. 看護の専門知識・技術を用いて、人々の生涯にわたる多様な健康レベルの人々の健康課題を科学的・論理的に判断し、解決方策を提案できる能力が身に付きましたか。

Q28〈Q16〉【専門性 3】. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し、多職種と連携・協働できるマネジメント力、実践力が身に付きましたか。

Q29〈Q17〉【解決力】. 自ら学び続け、将来は看護の実践・教育・研究領域において、問題解決できる力と将来にわたって自ら積み上げていく力が身に付きましたか。



■栄養学科 B1・B2

〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。

〈Q11〉【倫理観】. 栄養学を人の健康の維持・増進、病気の予防・治療へと応用する専門職業人として必要な倫理観と豊かな人間性が身に付きましたか。

〈Q12〉【専門性 1】. 保健、医療、福祉、教育の分野で栄養学の専門職として総合的に貢献するために必要な基礎的知識と技能が身に付きましたか。

〈Q13〉【専門性 2】. 人体の構造と機能・疾病の成立ちや食と健康の相互関係を科学的に理解し、栄養学的課題を明らかにするために必要な専門的知識と技能が身に付きましたか。

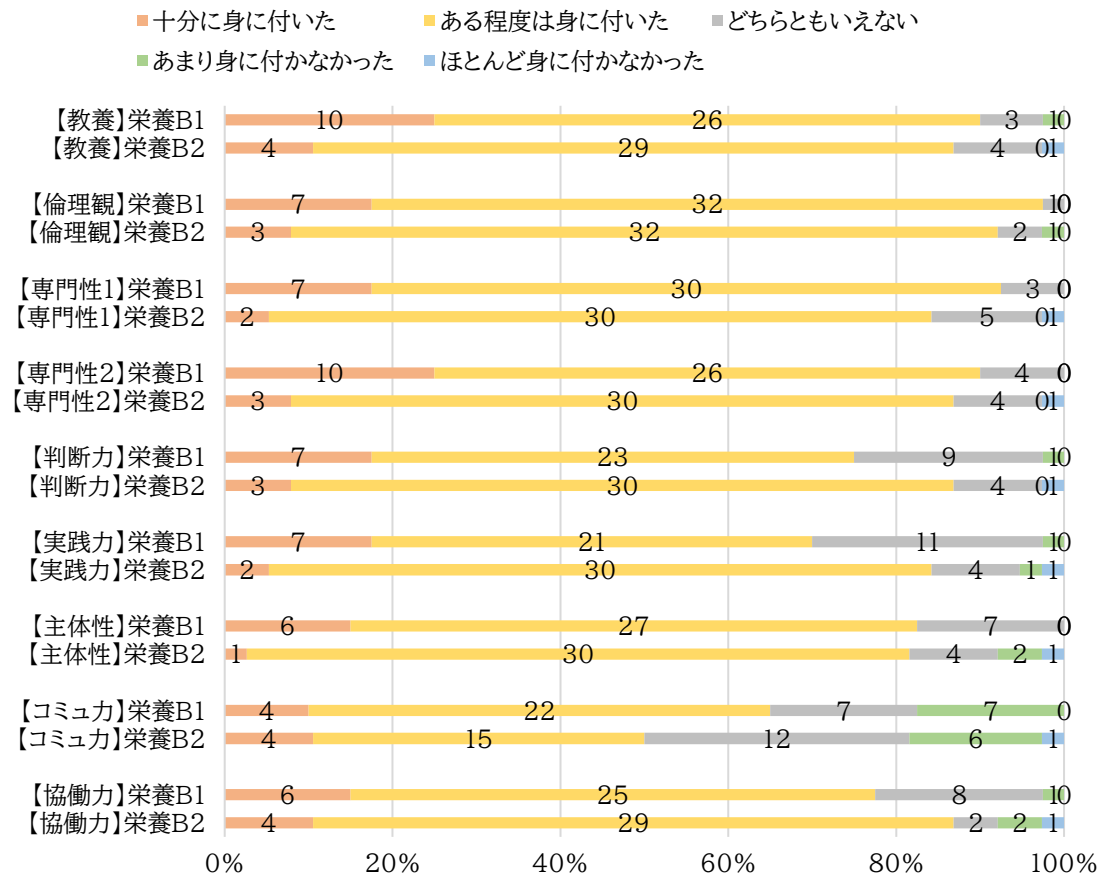
〈Q14〉【判断力】. 多様な個人や集団の栄養課題を解決するために、適切かつ高度な食・健康支援を企画提案するための論理的思考力・判断力が身に付きましたか。

〈Q15〉【実践力】. 栄養学の専門分野を統合して人の健康の維持・増進、病気の予防・治療へと応用する実践力が身に付きましたか。

〈Q16〉【主体性】. 食と人とのかかわりにおける未知なる事象の解明に向けて主体的に栄養学関連分野における課題を発見し、解決できる能力が身に付きましたか。

〈Q17〉【コミュ力】. グローバル化社会において岡山県から広く地域社会及び国際社会に貢献するためのコミュニケーション力が身に付きましたか。

〈Q18〉【協働力】. 保健、医療、福祉、教育関連分野で貢献するために、自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力が身に付きましたか。



■栄養学科 B3・B4

Q13〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。

Q23〈Q11〉【倫理観】. 人間、健康、社会に関する幅広い知識と論理的な思考力および高い倫理観が身に付きましたか。

Q24〈Q12〉【コミュ力】. 多様な文化や価値観を受け容れ、グローバルに活躍できる企画提案力、情報発信力が身に付きましたか。

Q25〈Q13〉【地域力】. 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力が身に付きましたか。

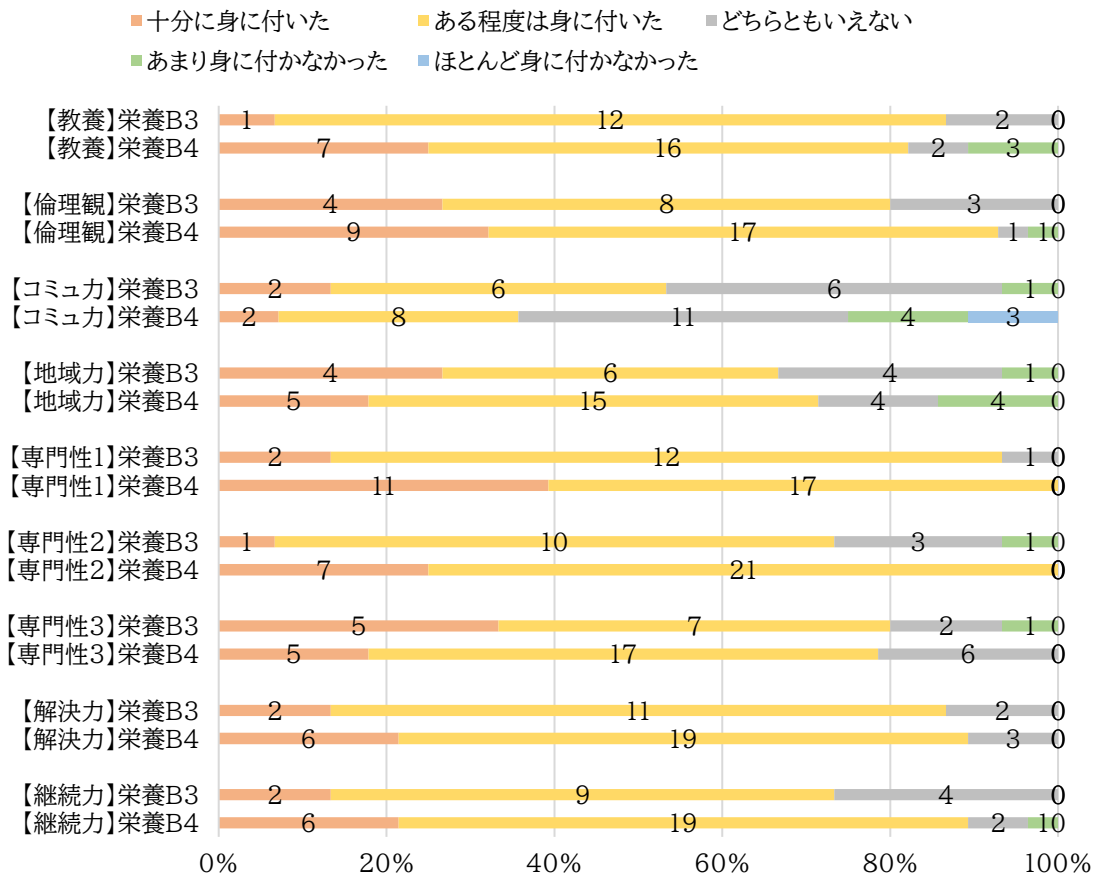
Q26〈Q14〉【専門性 1】. 食と健康の専門家に必要な資質として、基本的知識・技術が身に付きましたか。

Q27〈Q15〉【専門性 2】. 栄養学に関する専門職業人として必要な高度な専門的応用知識・技術を発揮できる能力が身に付きましたか。

Q28〈Q16〉【専門性 3】. 栄養学の総合的な学びを深め、多職種と連携・協働できるマネジメント力、実践力が身に付きましたか。

Q29〈Q17〉【解決力】. 専門分野における問題発見・解決能力が身に付きましたか。

Q30〈Q18〉【継続力】. 多様な対象者に対して、科学的思考に基づいて適切かつ高度な食・栄養支援を実践するための応用知識や技術を、将来にわたって自ら積み上げていく力が身に付きましたか。



■現代福祉学科 B1･B2

〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。

〈Q11〉【倫理観】. 様々な社会問題に対する福祉の専門職業人として必要な倫理観と豊かな人間性が身に付きましたか。

〈Q12〉【専門性 1】. 個人や社会から得られたデータを用いた社会福祉学的課題や福祉サービス利用者の援助上の課題を明らかにする専門的知識と技能が身に付きましたか。

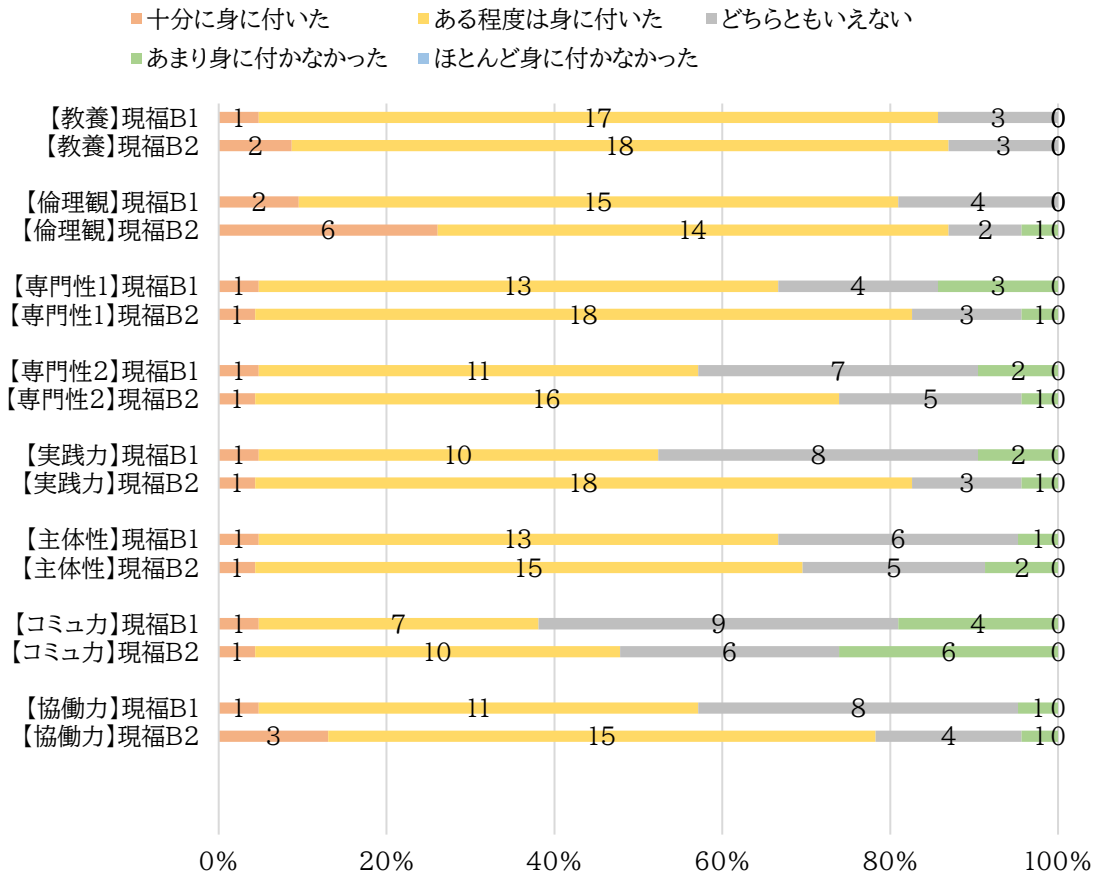
〈Q13〉【専門性 2】. 福祉ならびに保健、医療、教育等の福祉以外の分野のサービス利用者が抱える多様な福祉ニーズの理解及び課題解決のために必要な専門的知識と技能が身に付きましたか。

〈Q14〉【実践力】. 多様な社会的課題や個人の生活課題を理解し、解決していく能力、多様な福祉ニーズに対応する福祉プログラムを企画立案する能力、及び学際的な視点から情報交流や意見交換を行い、多様な福祉ニーズに対応できる能力が身に付きましたか。

〈Q15〉【主体性】. 社会福祉学ならびにその関連分野における課題を発見し主体的に解決する力とともに、多様な福祉ニーズに対応する力が身に付きましたか。

〈Q16〉【コミュ力】. 多様な福祉ニーズを有している外国人に対応するコミュニケーション能力や、地域社会や国際社会における福祉の実践感覚が身に付きましたか。

〈Q17〉【協働力】. 保健、医療、福祉、教育関連分野で貢献するための課題解決に必要な自己管理力及びマネジメント力や、自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力が身に付きましたか。



■保健福祉学科(社会福祉学専攻)B3・B4

Q13〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。

Q23〈Q11〉【倫理観】. 人間、健康、社会に関する幅広い知識と論理的な思考力および高い倫理観が身に付きましたか。

Q24〈Q12〉【コミュ力】. 多様な文化や価値観を受け容れ、グローバルに活躍できる企画提案力、情報発信力が身に付きましたか。

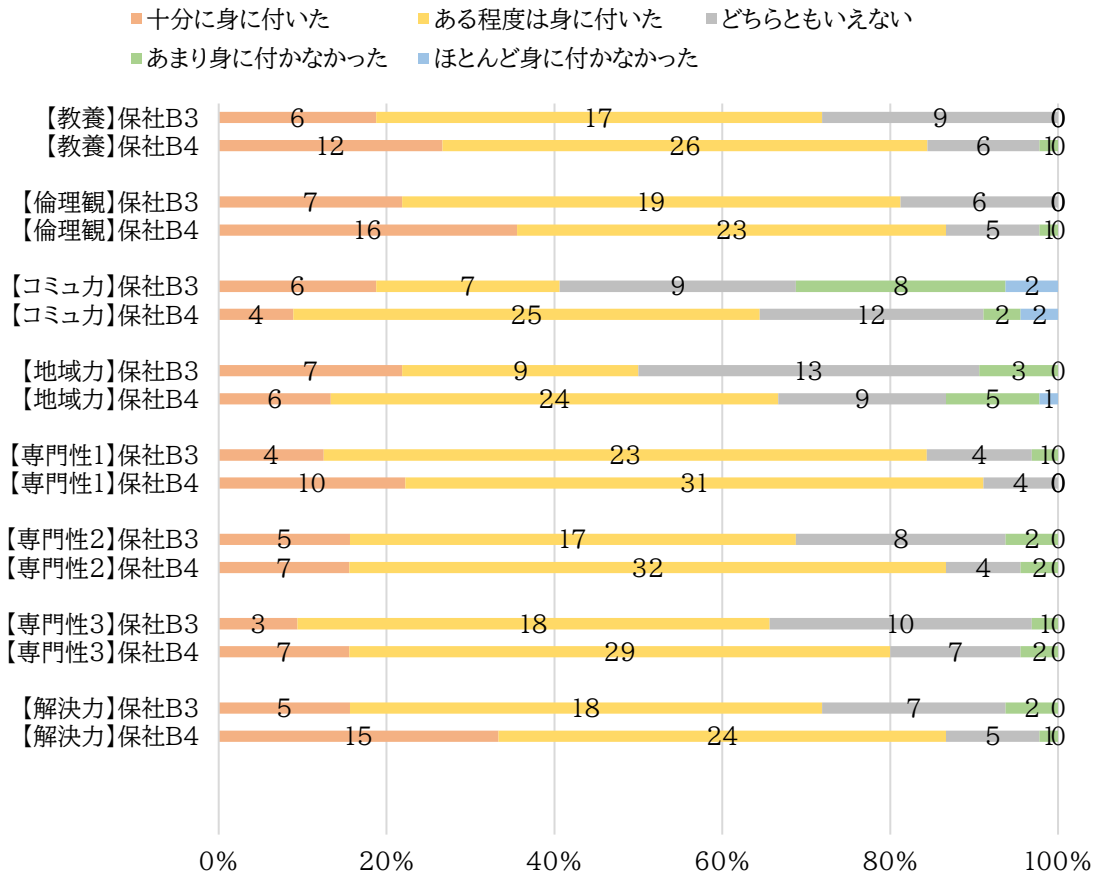
Q25〈Q13〉【地域力】. 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力が身に付きましたか。

Q26〈Q14〉【専門性 1】. 社会福祉学と健康科学の知識・理論が身に付きましたか。

Q27〈Q15〉【専門性 2】. ソーシャルワークの方法および実践的な相談援助技術を身に付けるとともに、多職種と連携できる力が身に付きましたか。

Q28〈Q16〉【専門性 3】. ケアワークの方法および実践的な生活支援技術を身に付けるとともに、多職種と連携できるマネジメント力、実践力が身に付きましたか。

Q29〈Q17〉【解決力】. 自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち、福祉や保育・教育の専門性を修得し、問題解決できる知識や技能を将来にわたって自ら積み上げていく力が身に付きましたか。



■子ども学科 B1・B2

〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。

〈Q11〉【倫理観】. 幼児教育・保育に携わる専門職業人として必要な倫理観と豊かな人間性が身に付きましたか。

〈Q12〉【専門性 1】. 幼児教育学・保育学の専門職として、幅広く社会に貢献するために必要な基礎的知識と技能が身に付きましたか。

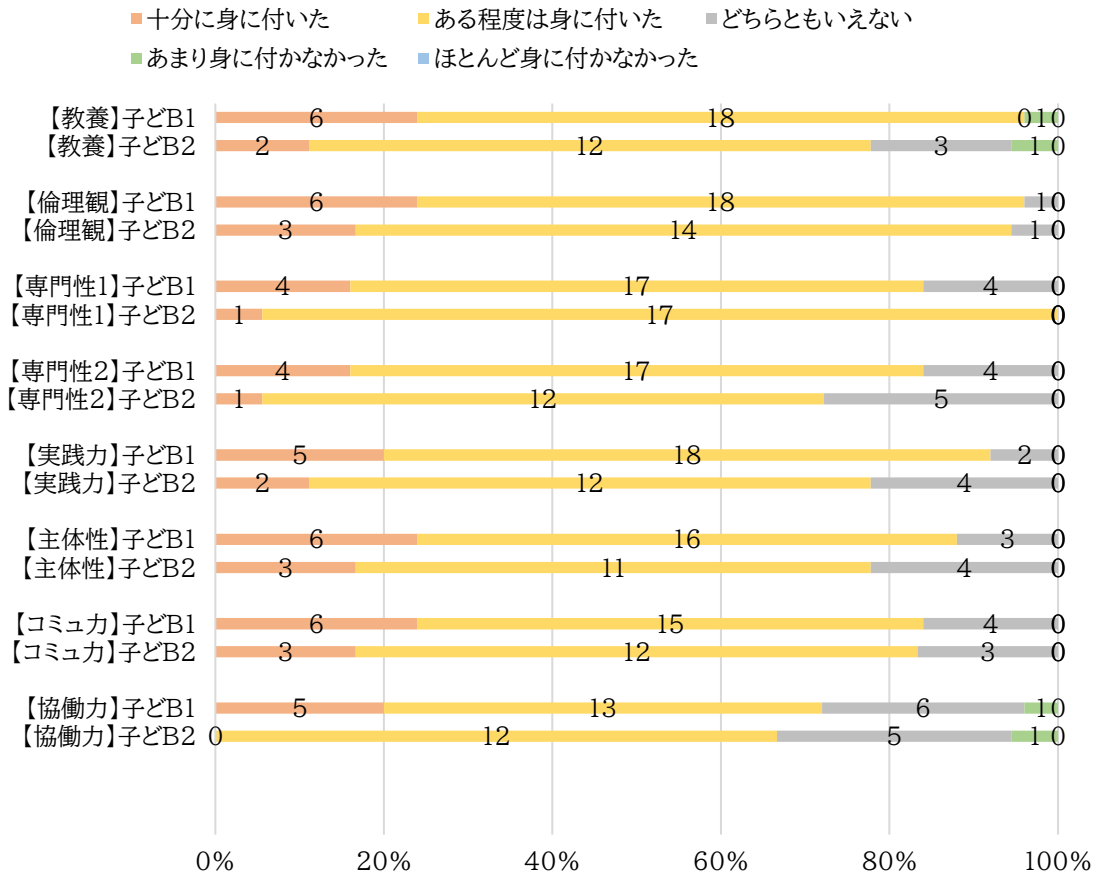
〈Q13〉【専門性 2】. 幼児教育・保育について、科学的・論理的な視点による事象の理解、及び課題解決のための応用的な専門的知識と技能が身に付きましたか。

〈Q14〉【実践力】. 子どもの豊かな育成環境を考え創造し表現する能力、及び幼児教育・保育の知識・技能を活用して実践的な援助や判断ができる能力が身に付きましたか。

〈Q15〉【主体性】. 幼児教育学・保育学、ならびにその関連分野における課題を発見し、主体的に解決する能力が身に付きましたか。

〈Q16〉【コミュ力】. 地域の様々な人との交流から学び、課題に対して主体的に介入できるコミュニケーションの技術が身に付きましたか。

〈Q17〉【協働力】. 保健、医療、福祉、教育関連分野で貢献するための課題解決に必要な自己管理力及びマネジメント力や、自他の役割を理解し、多様な人々と協調・協働して課題を解決する力が身に付きましたか。



■保健福祉学科(子ども学専攻)B3・B4

Q13〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。

Q23〈Q11〉【倫理観】. 人間、健康、社会に関する幅広い知識と論理的な思考力および高い倫理観が身に付きましたか。

Q24〈Q12〉【コミュ力】. 多様な文化や価値観を受け容れ、グローバルに活躍できる企画提案力、情報発信力が身に付きましたか。

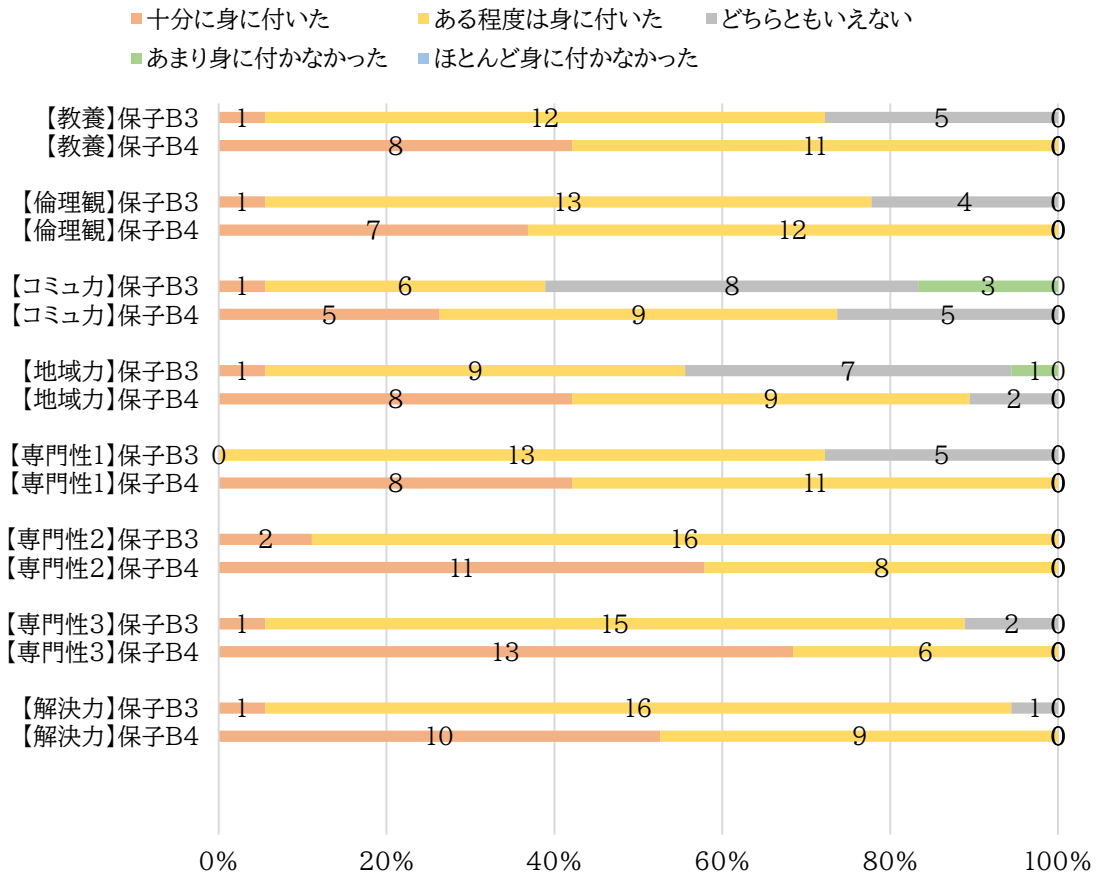
Q25〈Q13〉【地域力】. 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力が身に付きましたか。

Q26〈Q14〉【専門性 1】. 教育学と発達科学の知識・理論が身に付きましたか。

Q27〈Q15〉【専門性 2】. 子どもに対して実践的な保育および教育の指導や支援ができる力が身に付きましたか。

Q28〈Q16〉【専門性 3】. 子どもの育ちと学びを家庭や地域との関係の中で捉える力が身に付きましたか。

Q29〈Q12〉【解決力】. 自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち、福祉や保育・教育の専門性を修得し、問題解決できる知識や技能を将来にわたって自ら積み上げていく力が身に付きましたか。



■情報通信工学科 B1・B2

〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。

〈Q11〉【倫理観】. 技術倫理や情報倫理など他者に配慮し円滑かつ健全な活動を行うための知識が身に付きましたか。

〈Q12〉【数理応用】. 数学、自然科学に関する知識とそれらを情報通信技術（ICT）に応用できる思考力、判断力が身に付きましたか。

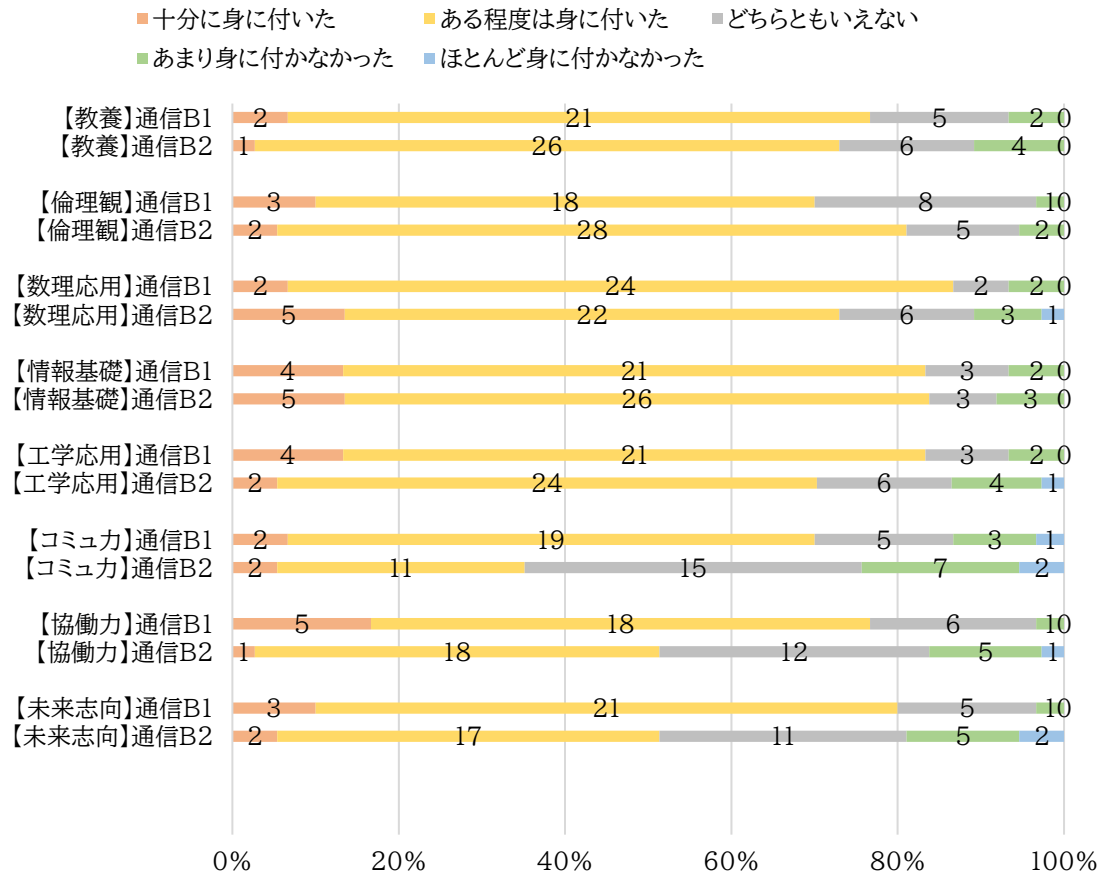
〈Q13〉【情報基礎】. 情報工学の基礎分野に関する知識と、それらを情報通信工学分野に活用できる思考力、判断力及びプログラミング能力が身に付きましたか。

〈Q14〉【工学応用】. 情報工学の知識を基盤として、情報通信技術（ICT）の根幹をなす通信工学・電子工学に関する幅広い知識と、それらを複合的に応用できる思考力、判断力が身に付きましたか。

〈Q15〉【コミュ力】. 論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術文書（和文、英文）の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力が身に付きましたか。

〈Q16〉【協働力】. 多様な他者との協働の中で自己の役割を認識、表現し、自己管理をする力が身に付きましたか。

〈Q17〉【未来志向】. 情報通信技術(ICT)の発展と裾野の広がりに関心をもち、グローバルな視点で主体性と協調性をもって課題を発見し、解決策を提案できる技能と実践力が身に付きましたか。



■情報通信工学科 B3・B4

Q13〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。

Q23〈Q11〉【コミュ力】. 論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術英文の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点から多面的に物事を捉え先導できる能力が身に付きましたか。

Q24〈Q12〉【地域力】. 地域におけるコミュニケーション力と企画提案力が身に付きましたか。

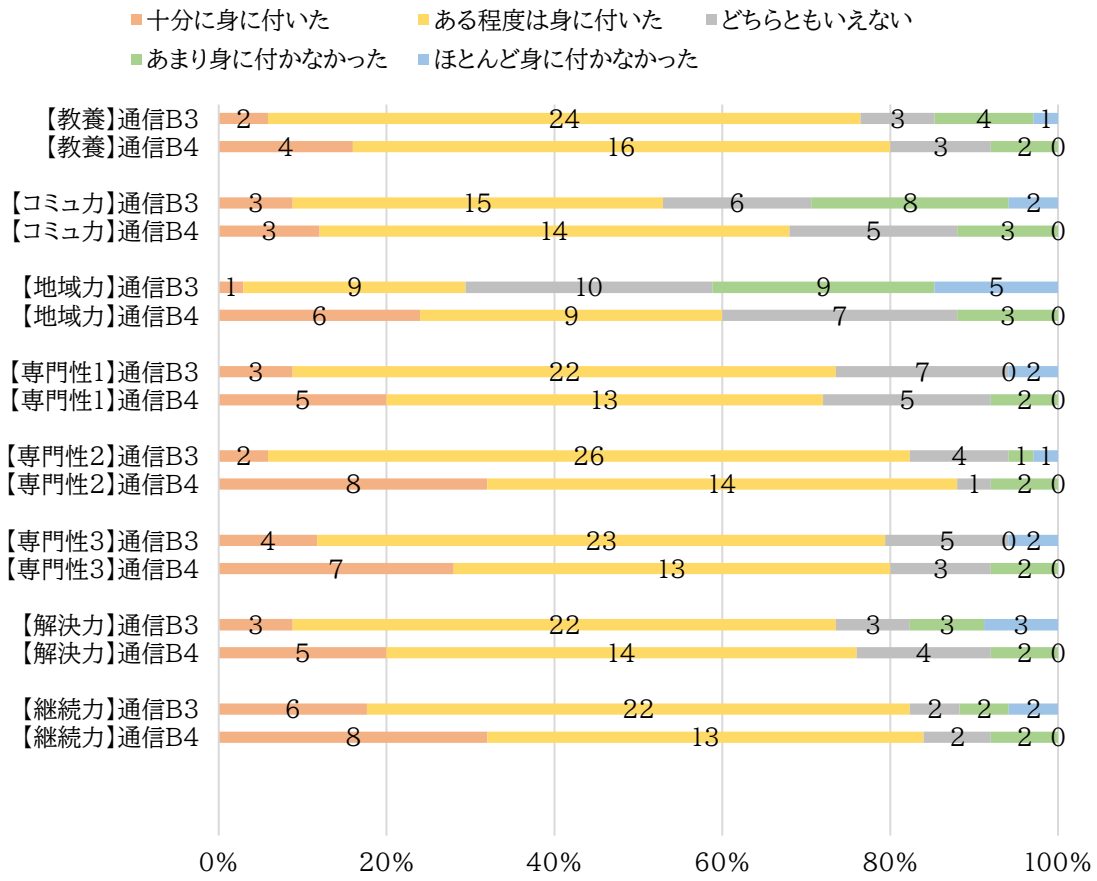
Q25〈Q13〉【専門性 1】. 数学、自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力が身に付きましたか。

Q26〈Q14〉【専門性 2】. 情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力が身に付きましたか。

Q27〈Q15〉【専門性 3】. 情報工学の知識を基盤として、情報通信技術(ICT)の根幹をなす通信工学・電子工学に関する幅広い知識と応用力が身に付きましたか。

Q28〈Q16〉【解決力】. 得られた知識を融合的に活用し、主体性と協調性を持って課題を発見、分析、解決できる能力と、技術者に求められる高い倫理観が身に付きましたか。

Q29〈Q17〉【継続力】. 情報通信技術(ICT)の発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度が身に付きましたか。



■情報システム工学科 B1･B2

〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。

〈Q11〉【倫理観】. 技術者倫理や情報倫理など他者に配慮し円滑かつ健全な活動を行うための知識が身に付きましたか。

〈Q12〉【数理応用】. 数学、自然科学に関する知識とそれらを情報工学、機械工学、インタフェース工学に応用できる思考力、判断力が身に付きましたか。

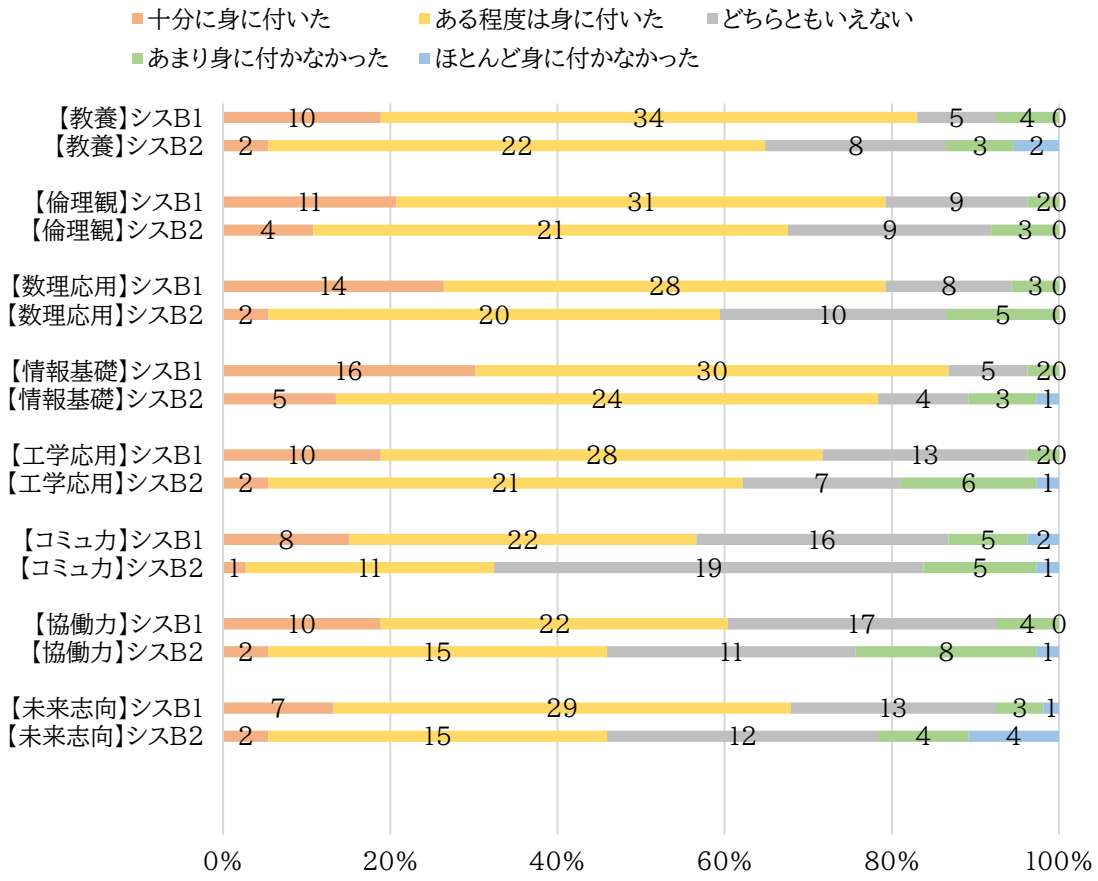
〈Q13〉【情報基礎】. 情報工学の基礎分野に関する知識と、それらを情報システム工学分野に活用できる思考力、判断力及びプログラミング能力が身に付きましたか。

〈Q14〉【工学応用】. 情報工学の知識を基盤として、機械工学、インタフェース工学に関する幅広い知識と、それらを複合的に応用できる思考力、判断力が身に付きましたか。

〈Q15〉【コミュ力】. 論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術文書(和文、英文)の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力が身に付きましたか。

〈Q16〉【協働力】. 多様な他者との協働の中で自己の役割を認識、表現し、自己管理をする力が身に付きました。

〈Q17〉【未来志向】. 情報工学、機械工学、インタフェース工学の発展と裾野の広がりに関心をもち、グローバルな視点で主体性と協調性をもって課題を発見し、解決策を提案できる技能と実践力が身に付きましたか。



■情報システム工学科 B3･B4

Q13〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。

Q23〈Q11〉【コミュ力】. 論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術英文の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点が身に付きましたか。

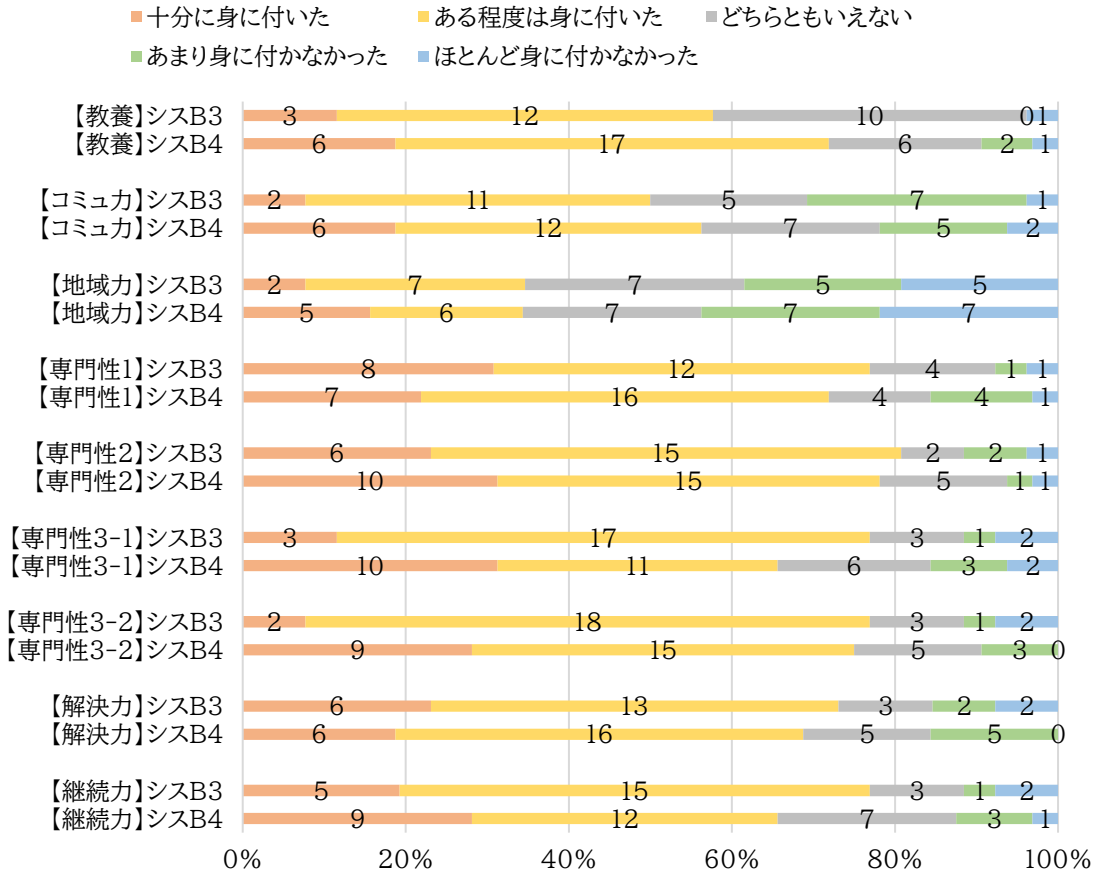
Q24〈Q12〉【地域力】. 地域におけるコミュニケーション力と企画提案力が身に付きましたか。

Q25〈Q13〉【専門性 1】. 数学、自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力が身に付きましたか。

Q26〈Q14〉【専門性 2】. 情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力が身に付きましたか。

Q27〈Q15〉【専門性 3-1】. 情報工学の知識を基盤として、機械工学、インタフェース工学に関する幅広い知識と応用力が身に付きましたか。

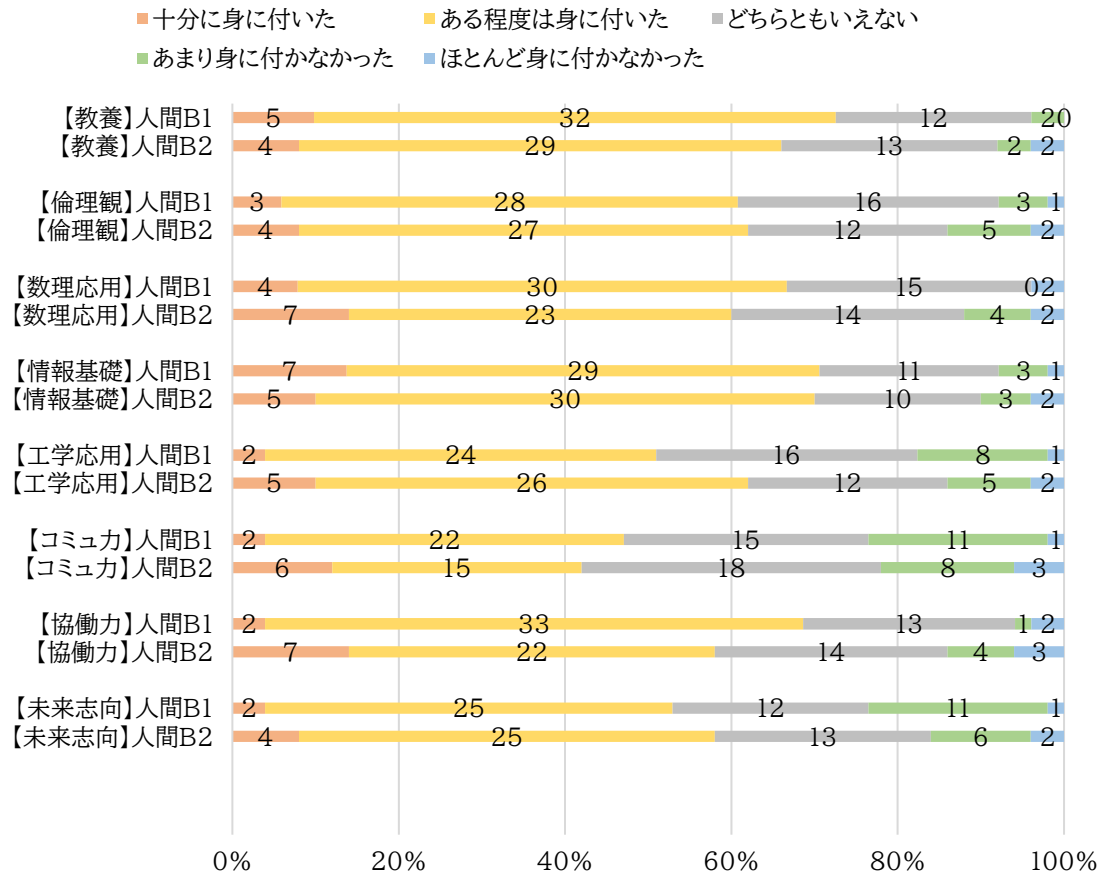
Q28〈Q16〉【専門性 3-2】. コンピュータや機械をインテリジェント化した機器や実用的なソフトウェアシステム、組込みシステム、機械システムを設計する基礎能力が身に付きましたか。
Q29〈Q17〉【解決力】. 得られた知識を融合的に活用し、主体性と協調性を持って課題を発見し解決できる能力と、技術者に求められる高い倫理観が身に付きましたか。
Q30〈Q18〉【継続力】. 工学・技術の発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度が身に付きましたか。



■人間情報工学科 B1･B2

〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。
〈Q11〉【倫理観】. 技術者倫理や情報倫理など他者に配慮し円滑かつ健全な活動を行うための知識が身に付けましたか。
〈Q12〉【数理応用】. 数学、自然科学に関する知識とそれらを情報工学、生体機能学、機器設計学に応用できる思考力、判断力が身に付きましたか。
〈Q13〉【情報基礎】. 情報工学の基礎分野に関する知識と、それらを生体機能学、機器設計学に活用できる思考力、判断力及びプログラミング能力が身に付きましたか。
〈Q14〉【工学応用】. 情報工学の知識を基盤として、生体機能学、機器設計学に関する幅広い知識と、それらを複合的に応用できる思考力、判断力が身に付きましたか。

〈Q15〉【コミュ力】. 論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術文書（和文、英文）の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力が身に付きましたか。
〈Q16〉【協働力】. 多様な他者との協働の中で自己の役割を認識、表現し、自己管理をする力が身に付きましたか。
〈Q17〉【未来志向】. 情報工学、生体機能学、機器設計学の発展と裾野の広がりに関心をもち、グローバルな視点で主体性と協調性をもって課題を発見し、解決策を提案できる技能と実践力が身に付きましたか。



■人間情報工学科 B3･B4

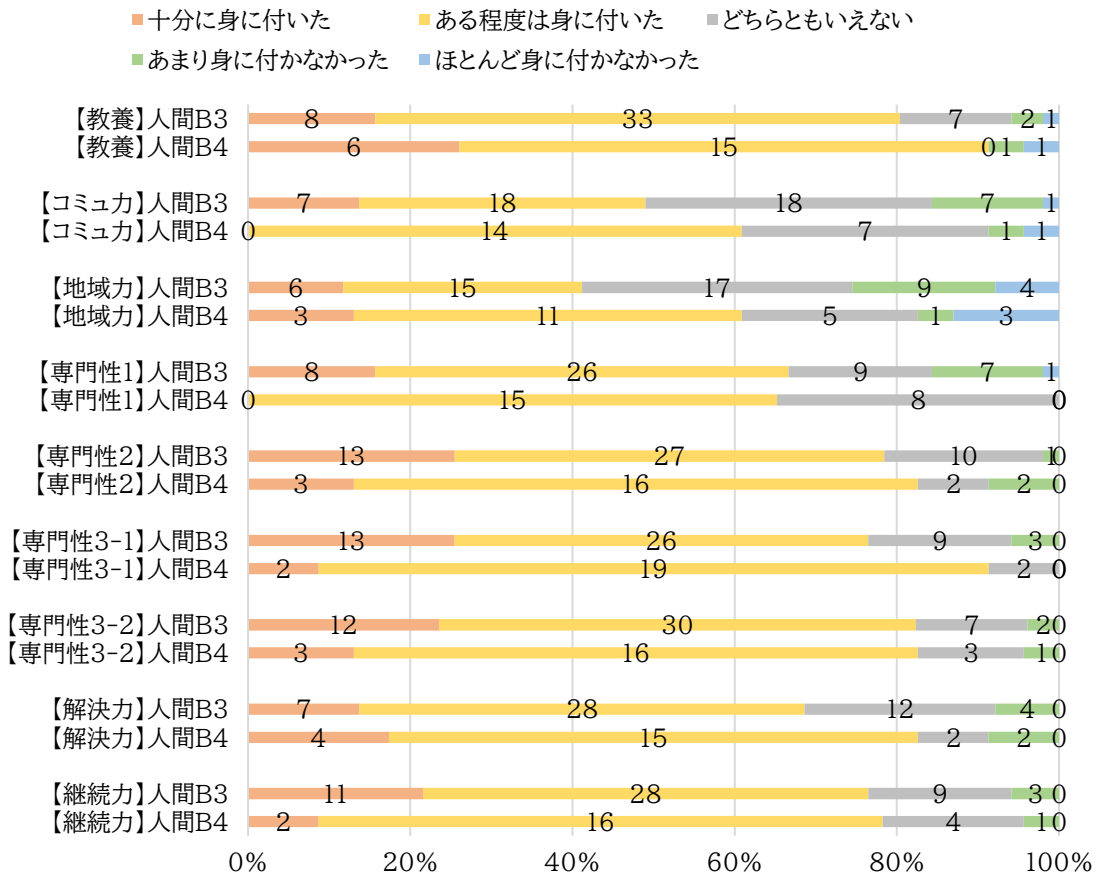
Q13〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。
Q23〈Q11〉【コミュ力】. 論理的思考に基づいた、日本語による記述力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、技術英文の読解能力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点が身に付きましたか。
Q24〈Q12〉【地域力】. 地域におけるコミュニケーション力と企画提案力が身に付きましたか。
Q25〈Q13〉【専門性 1】. 数学、自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力が身に付きましたか。
Q26〈Q14〉【専門性 2】. 情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力が身に付きましたか。

Q27〈Q15〉【専門性 3-1】. 情報工学の基礎を基盤として、人間工学および機器設計工学に関する幅広い知識と応用力が身に付きましたか。

Q28〈Q16〉【専門性 3-2】. 人体機能と環境変動の特性や人間の動作・行動の解析結果を活かしたシステムおよび人間の感性や生活環境に適合したソフトウェアを設計する基礎能力が身に付きましたか。

Q29〈Q17〉【解決力】. 得られた知識を融合的に活用し、主体性と協調性を持って課題を発見し解決できる能力と、技術者に求められる高い倫理観が身に付きましたか。

Q30〈Q18〉【継続力】. 工学・技術の発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度が身に付きましたか。



■ビジュアルデザイン学科 B1・B2

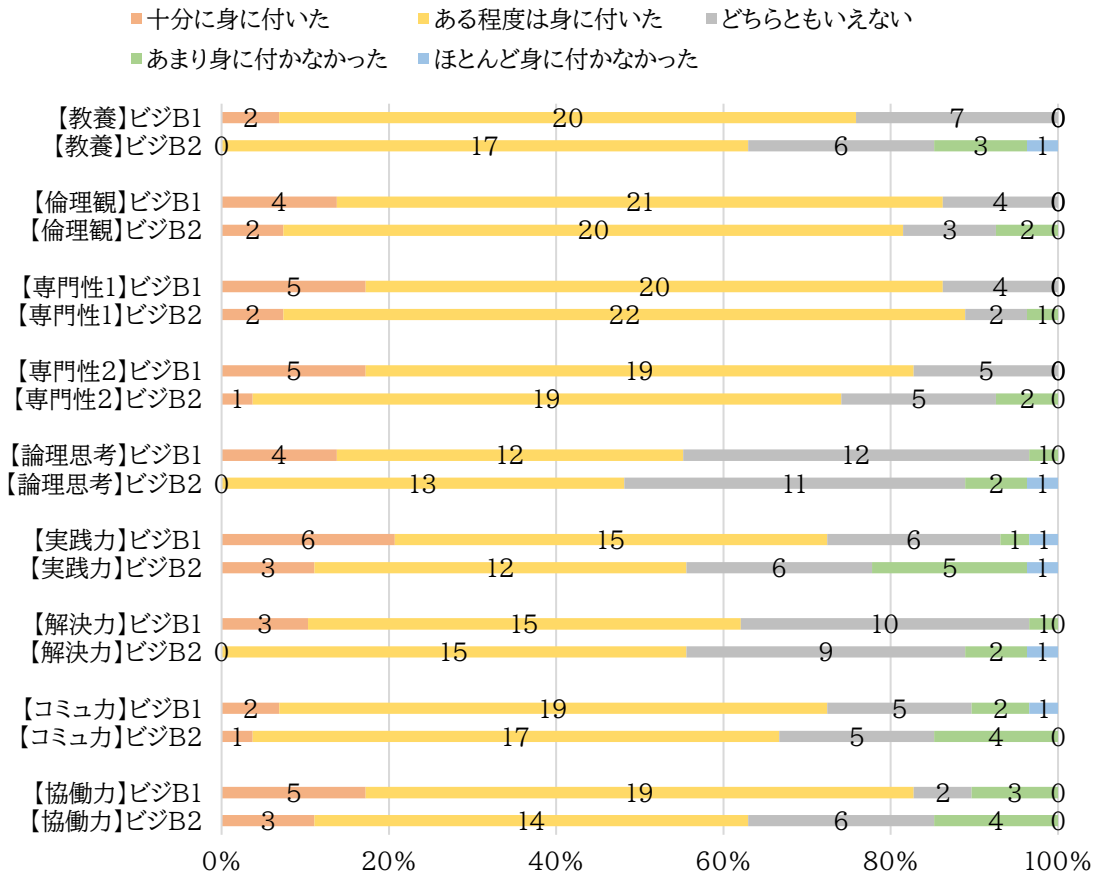
〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。

〈Q11〉【倫理観】. ビジュアルデザインの専門家として求められる倫理性や環境のあり方など社会の規範についての倫理観と豊かな人間性が身に付きましたか。

〈Q12〉【専門性 1】. ビジュアルデザインの専門家として必要な視覚伝達の理論、プランニング、情報発信、リテラシー等における基礎知識と技能が身に付きましたか。

〈Q13〉【専門性 2】. グラフィックデザイナー・映像クリエイター等、広告業界や出版業界で活躍できる人材として必要な専門知識と技術力、ならびに表現力が身に付きましたか。

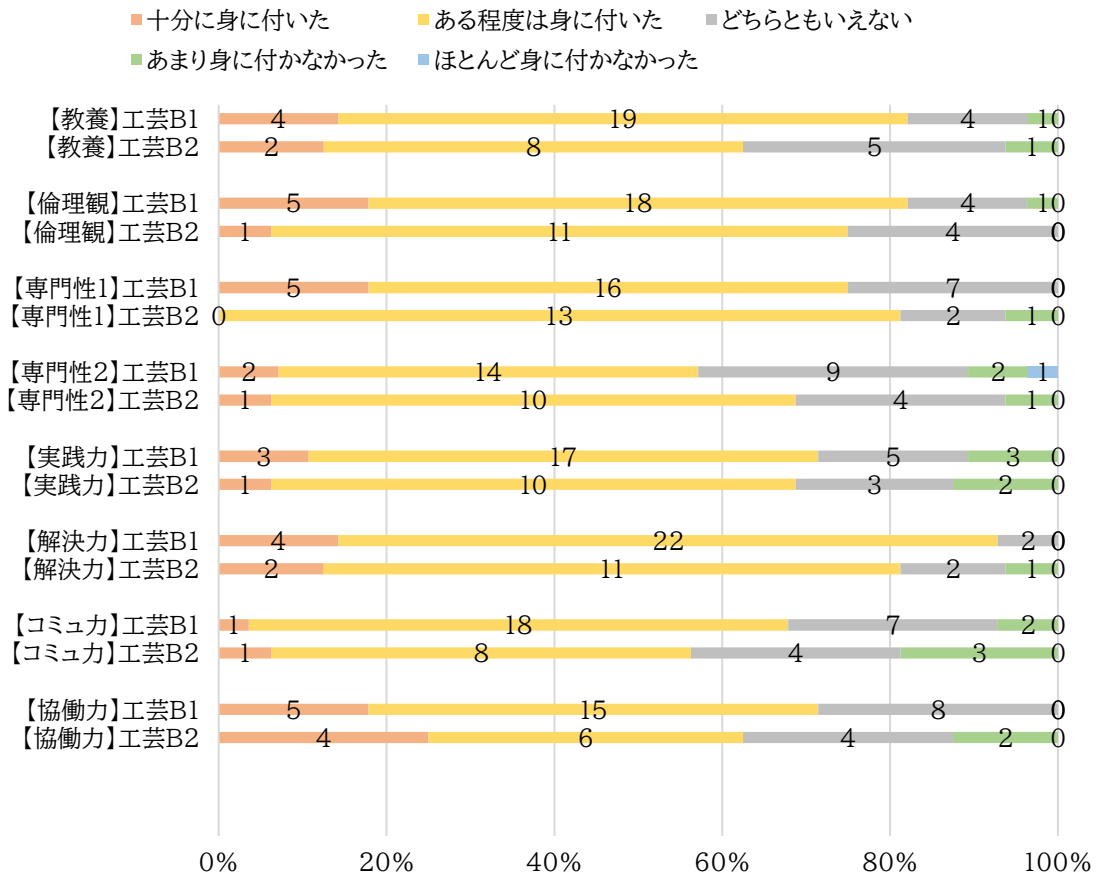
〈Q14〉【論理思考】. 地域・社会の問題に立脚した様々なデータや情報を論理的に処理し、ビジュアルデザインに展開する力が身に付きましたか。
〈Q15〉【実践力】. グラフィック、映像の専門性を活かし、地域・社会のニーズに対して主体的に課題解決することができる思考力、判断力、実践力が身に付きましたか。
〈Q16〉【解決力】. 修得したビジュアルデザイン分野の高度な専門知識・技能を活用し、地域・社会の問題を背景とした課題発見、主体的・計画的に解決する力が身に付きましたか。
〈Q17〉【コミュ力】. ビジュアルデザイン分野における表現伝達力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、異文化への理解能力、特にデザイン表現などを含めたコミュニケーション能力と、デザインに関連した地域の課題、また国際社会における課題を理解する視点が身に付きましたか。
〈Q18〉【協働力】. 地域社会や国際社会において他者との関わりの中でビジュアルデザインを行うために必要な自己管理能力をもって多様な人々と協調・協働する姿勢が身に付きましたか。



■工芸工業デザイン学科 B1・B2

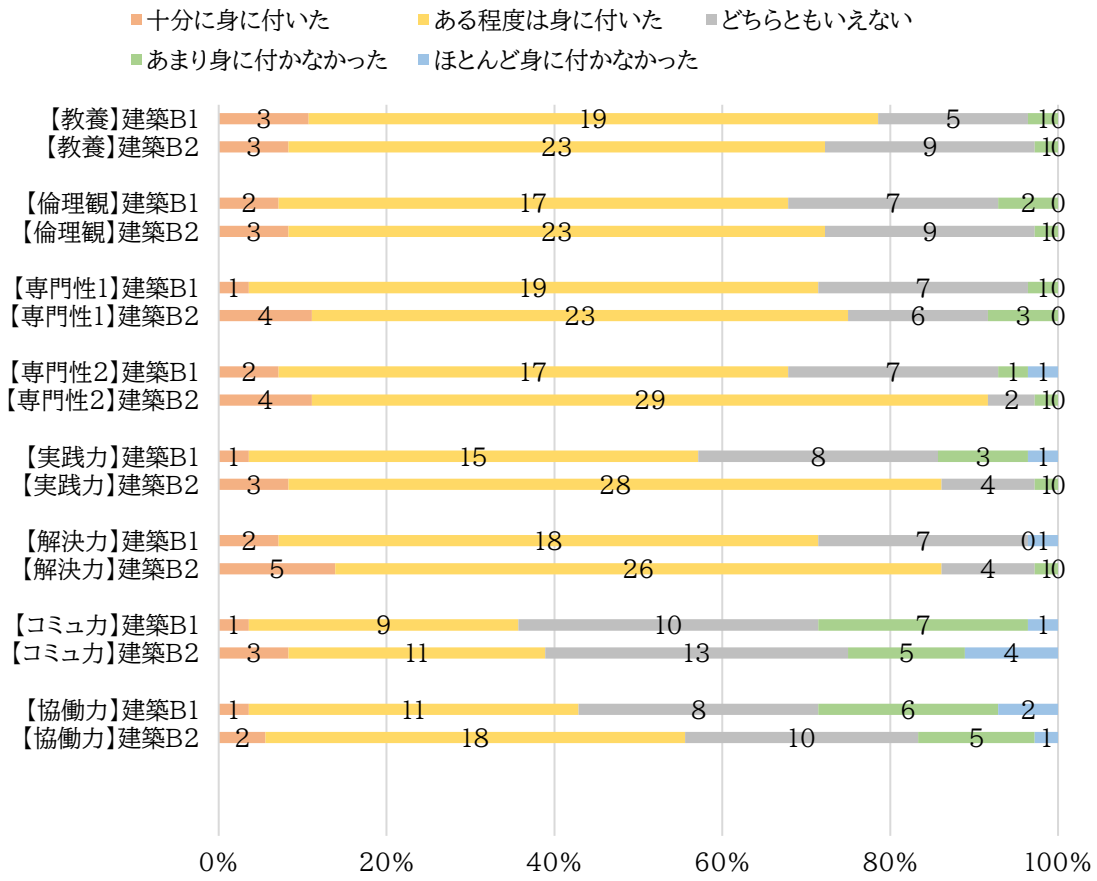
〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。
〈Q11〉【倫理観】. 工芸工業デザインの専門家として求められる倫理性や環境のあり方など社会の規範についての倫理観と豊かな人間性が身に付きけましたか。

〈Q12〉【専門性 1】. 工芸デザインや工業デザインの専門家として必要な基本的な造形理論、プロダクト、テキスタイル、セラミックにおけるデザインに関わる歴史や文化等の基礎知識と技能が身に付きましたか。
〈Q13〉【専門性 2】. 工芸デザインや工業デザインの専門家として、企業や地域・社会で活躍できる造形技能、それらを統合するデザイナーとしての表現力が身に付きましたか。
〈Q14〉【実践力】. 工芸デザインや工業デザインの専門性を活かして、プロダクト、テキスタイル、セラミックの各専門分野を活かして地域・社会の要請に対して、主体的にデザインすることができる思考力、判断力・実践力が身に付きましたか。
〈Q15〉【解決力】. 工芸工業デザイン分野の専門的な造形能力を活かし、社会の課題や新しい素材・造形技術に積極的に対応し、総合的に造形できる判断力・実践力、これらを継続的に学習、吸収する意欲が身に付きましたか。
〈Q16〉【コミュ力】. 工芸工業デザイン分野における表現伝達力、口頭発表力、討議能力、企画提案力、特にデザイン表現や図面・模型などを含めたコミュニケーション能力と、デザインに関連した地域の課題、また国際社会における課題を理解する視点が身に付きましたか。
〈Q17〉【協働力】. 地域社会や国際社会において他者との関わりの中で工芸工業デザインを行うために必要な自己管理能力をもって多様な人々と協調・協働する姿勢が身に付きましたか。



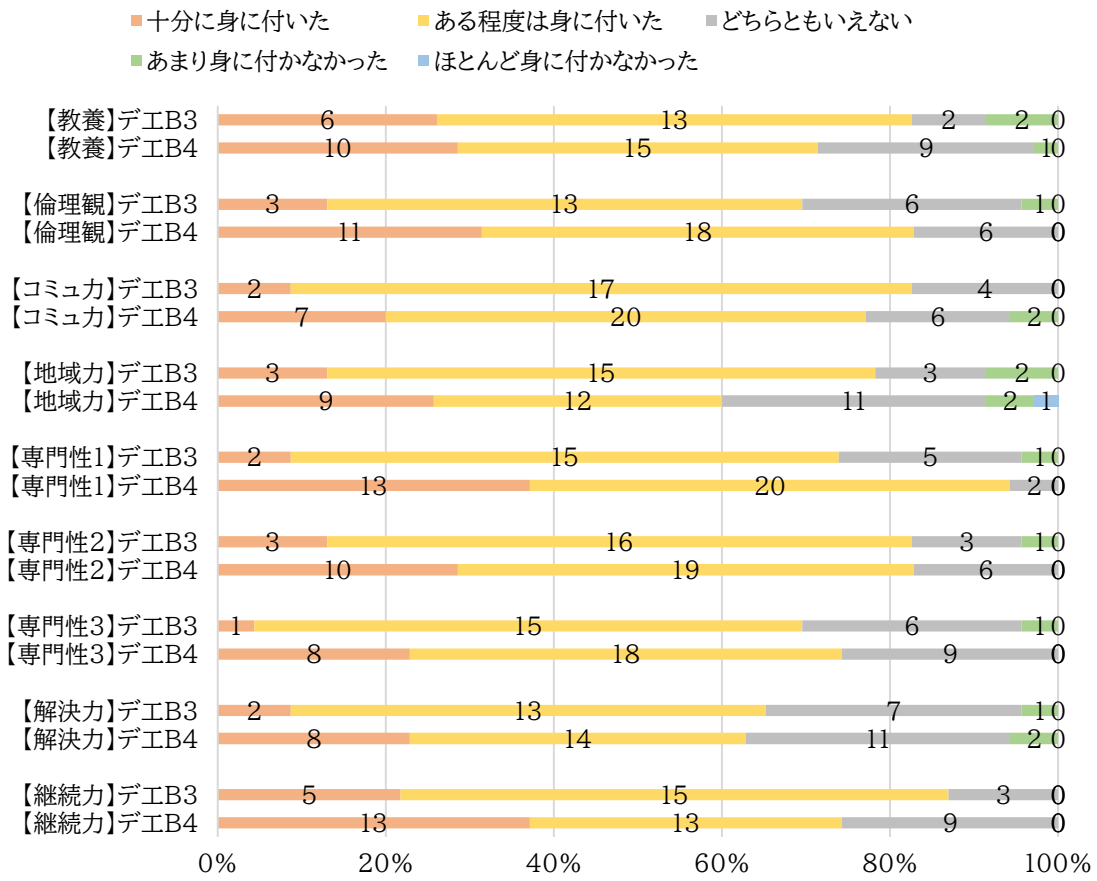
■建築学科 B1･B2

〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。
〈Q11〉【倫理観】. 建築家や建築分野の専門家として求められる、社会的規範や環境倫理などについての倫理観と豊かな人間性が身に付きましたか。
〈Q12〉【専門性 1】. デザインに関する基礎的な知識を身につけており、それらを建築分野に活かせる力が身に付きましたか。
〈Q13〉【専門性 2】. 建築的表現技能や建築史、建築計画、建築構造や建築環境に関する知識を修得している。くわえて、建築空間の理解力が身に付きましたか。
〈Q14〉【実践力】. 建築分野の専門的知識･技能を用いて、計画に必要な条件を導き出し、建築設計をすることができる、論理的思考力、判断力、実践力が身に付きましたか。
〈Q15〉【解決力】. 建築分野における課題を自ら発見し、専門的な知識技能を活かした、建築の設計によって解決する力とともに、新しい知識や価値観を継続的に学習する意欲が身に付きましたか。
〈Q16〉【コミュ力】. 異なる気候や歴史の建築やそれに関するデザインの学修と、外国人や社会人との交流を通じ、国際的視点とコミュニケーション力が身に付きましたか。
〈Q17〉【協働力】. 地域社会や国際社会において豊かな人間性をもって多様な立場や職種の人々と協調･協働することにより、建築分野の計画を遂行できる力が身に付きましたか。



■デザイン工学科 B3・B4

Q13〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。
Q23〈Q11〉【倫理観】. デザイナーに求められる高い倫理観が身に付きましたか。
Q24〈Q12〉【コミュ力】. 日本語による記述力、口頭発表力、企画提案力、製品や作品提案等を通じたコミュニケーション力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点が身に付きましたか。
Q25〈Q13〉【地域力】. 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力が身に付きましたか。
Q26〈Q14〉【専門性 1】. デザイン基礎に関する知識・技能とそれらを応用できる能力が身に付きましたか。
Q27〈Q15〉【専門性 2】. 製品・情報デザイン領域及び建築・都市デザイン領域に求められる知識・技能を有し、それらを柔軟に活用する力が身に付きましたか。
Q28〈Q16〉【専門性 3】. 製品・情報デザイン領域及び建築・都市デザイン領域に求められる知識・技能を活用し、学術文化や産業の振興を念頭に、社会の課題に取り組む研究能力や実務能力が身に付きましたか。
Q29〈Q17〉【解決力】. 持続的な発展・開発、少子高齢化への対策などの社会の要請に対し、デザインによる新たな視点やイノベーション対応能力を活かし、実効性を伴う問題提起ならびに問題解決策の提案する力が身に付きましたか。
Q30〈Q18〉【継続力】. 地域の文化や技術の持続的発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度を身に付け、自律的に活動する力が身に付きましたか。



■造形デザイン学科 B3・B4

Q13〈Q1〉【教養】. 人間、社会、自然について幅広く教養が身に付きましたか。

Q23〈Q11〉【倫理観】. デザイナーに求められる高い倫理観が身に付きましたか。

Q24〈Q12〉【コミュ力】. 日本語による記述力、口頭発表力、企画提案力、作品提案等を通じたコミュニケーション力、外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点が身に付きましたか。

Q25〈Q13〉【地域力】. 地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力が身に付きましたか。

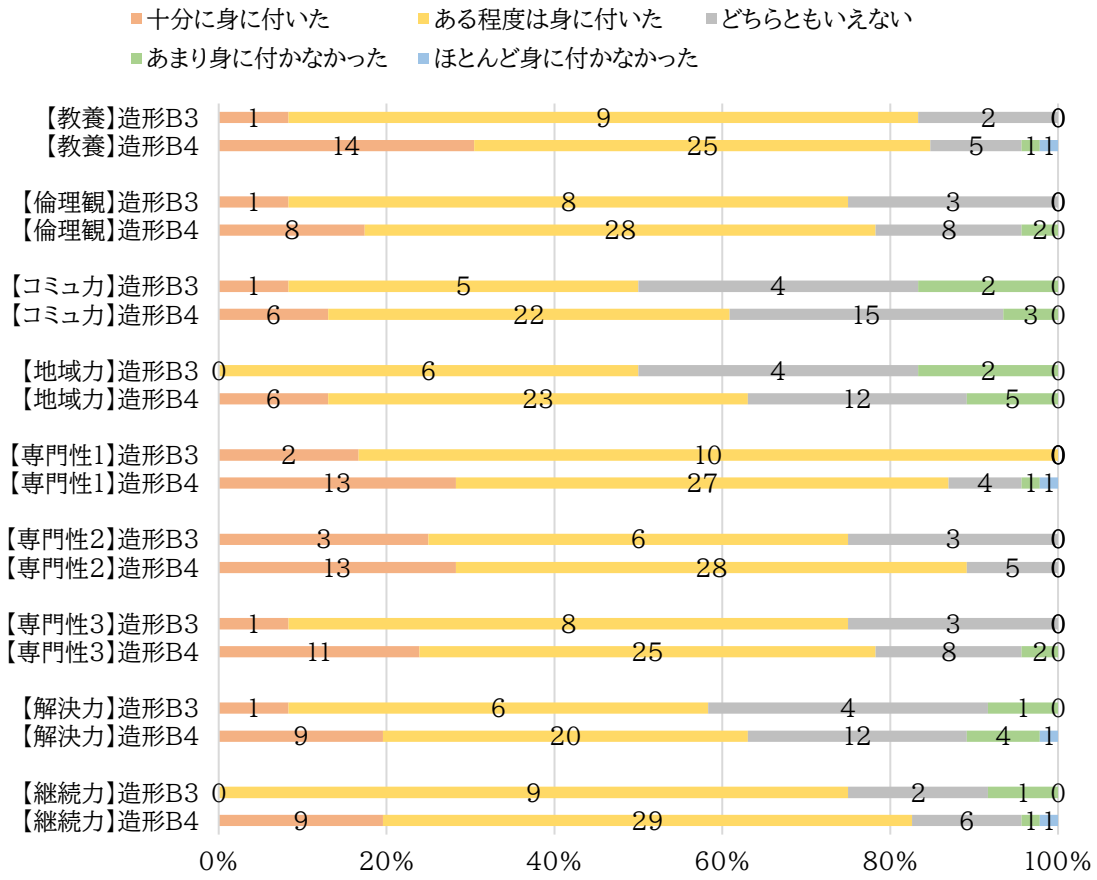
Q26〈Q14〉【専門性 1】. デザイン基礎に関する知識・技能とそれらを応用できる能力が身に付きましたか。

Q27〈Q15〉【専門性 2】. ビジュアルデザイン領域及び造形デザイン領域に求められる知識・技能を有し、それらを柔軟に活用する力が身に付きましたか。

Q28〈Q16〉【専門性 3】. ビジュアルデザイン領域及び造形デザイン領域に求められる知識・技能を活用し、学術文化や産業の振興を念頭に、社会の課題に取り組む研究能力や実務能力が身に付きましたか。

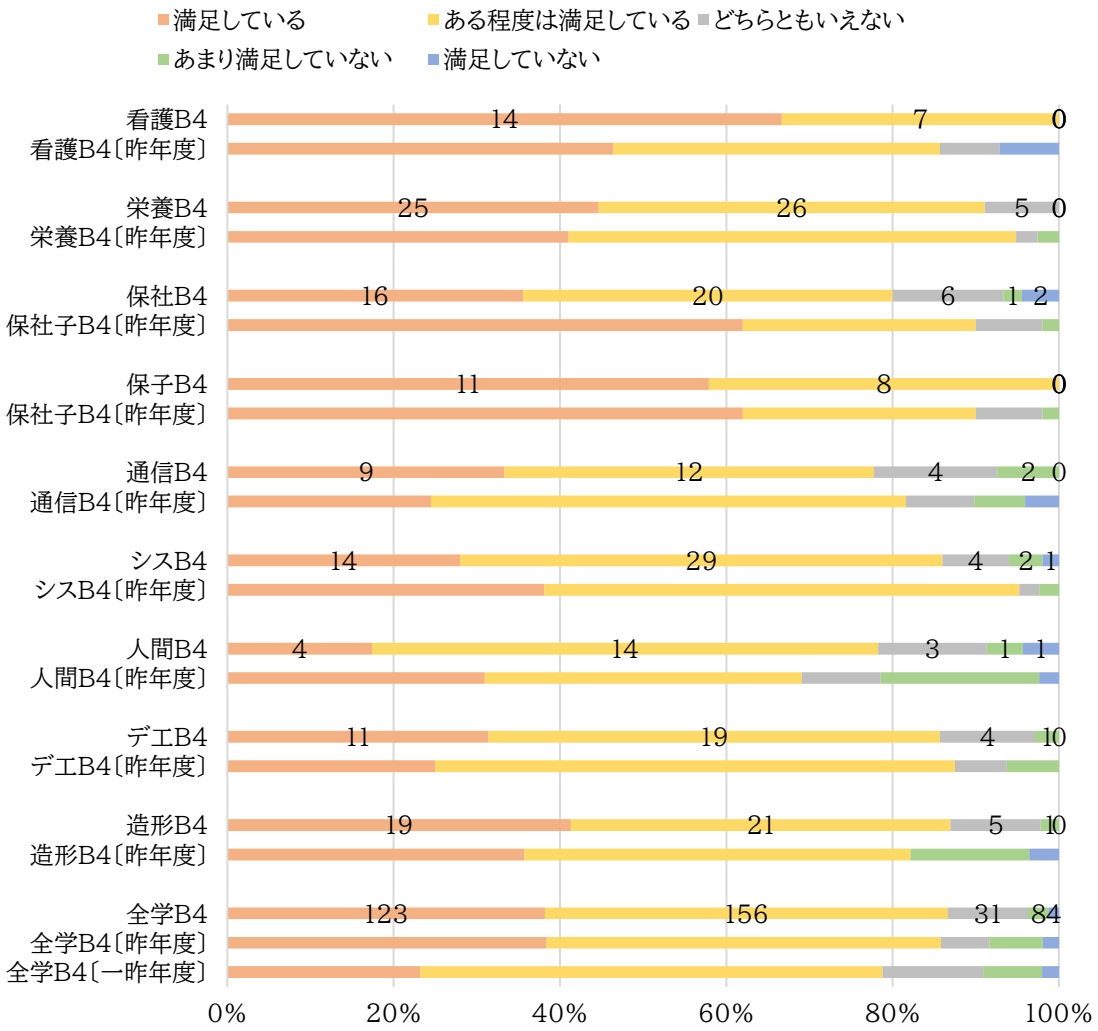
Q29〈Q17〉【解決力】. 持続的な発展・開発、少子高齢化への対策などの社会の要請に対し、デザインによる新たな視点や文化的価値の創造力を活かし、実効性を伴う問題提起ならびに問題解決策の提案する力が身に付きましたか。

Q30〈Q18〉【継続力】. 地域の文化や技術の持続的発展と裾野の広がりに関心をもち、新しい知識や価値観を継続的に学修、吸収する態度を身に付け、自律的に活動する力が身に付きましたか。



【VI】本学の教育全般について回答してください。

全般的に本学の教育には満足しましたか。



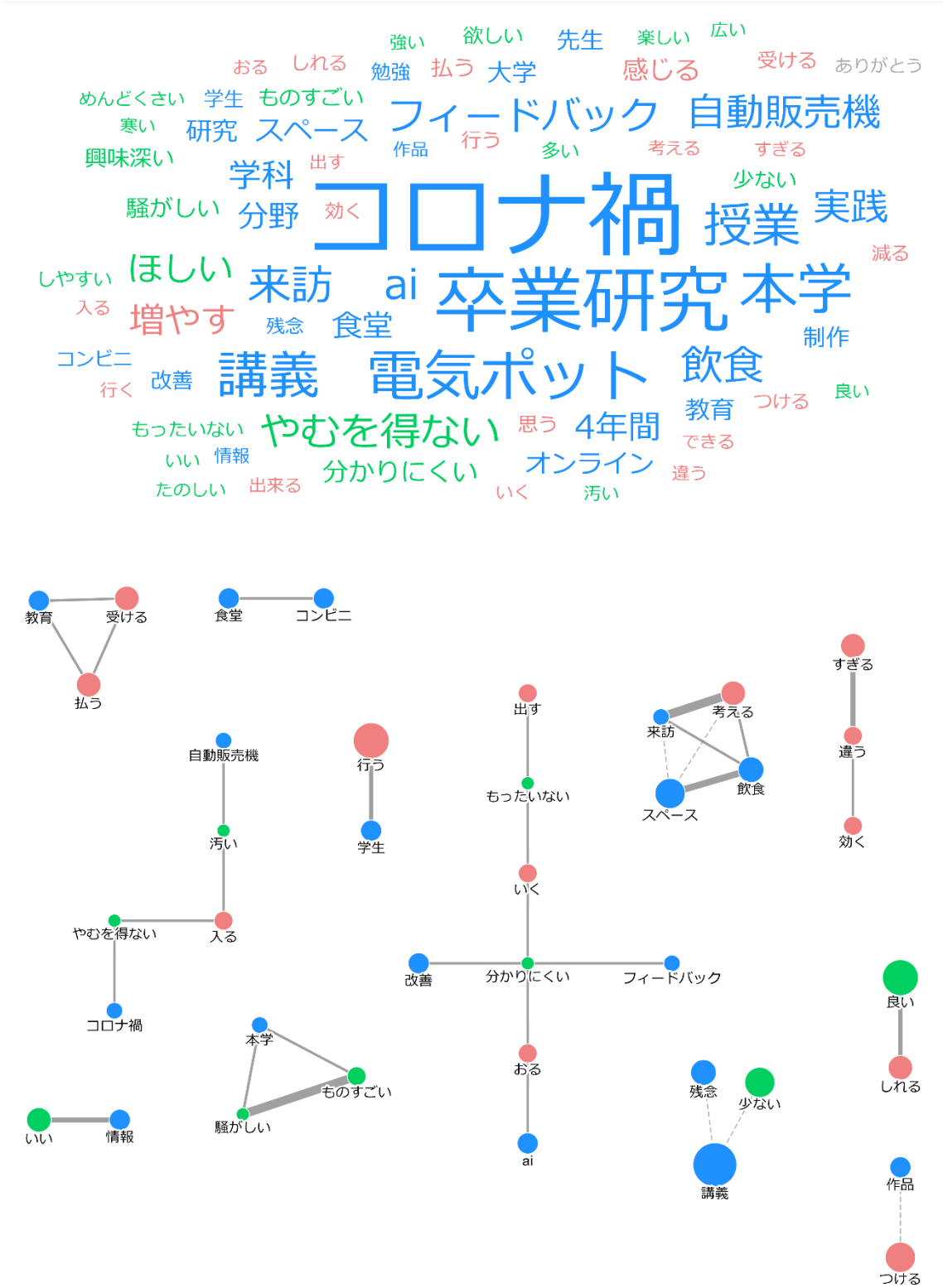
本学に対する意見や要望があれば記入してください。

B4 回答者 322 名中 43 名より、計 49 件の意見が寄せられた。ユーザーローカル AI テキストマイニングツール[3]によるワードクラウド[4]および共起ネットワーク[5]を示す。

[3] ユーザーローカル AI テキストマイニング, https://textmining.userlocal.jp/ （2023 年 5 月 1 日閲覧）

[4] スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示している。単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表す。

[5] 文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図であり、出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描画されている。


強い
欲しい
先生
楽しい
広い
おる
しれる
勉強
払う
大学
感じる
受ける
ありがとう
めんどくさい
学生
ものすごい
フィードバック
自動販売機
寒い
研究
スペース
行う
作品
多い
考える
すぎる
興味深い
学科
出す
少ない
騒がしい
分野
効く
コロナ禍
授業
実践
減る
しやすい
ほしい
来訪
ai
卒業研究
本学
入る
増やす
残念
食堂
制作
コンビニ
改善
講義
電気ポット
飲食
行く
教育
つける
良い
もったいない
やむを得ない
思う
4年間
できる
いい
情報
分かりにくい
オンライン
違う
たのしい
出来る
いく
汚い
教育
受ける
食堂
コンビニ
払う
すぎる
出す
考える
来訪
自動販売機
行う
違う
飲食
もったいない
スペース
汚い
学生
効く
いく
やむを得ない
入る
改善
分かりにくい
フィードバック
良い
コロナ禍
本学
おる
しれる
ものすごい
残念
少ない
いい
情報
騒がしい
ai
講義
作品
つける

G 研究科修了時アンケートおよび在学生 DP 達成度アンケート

G-1 調査概要

【調査期間】 2023 年 1 月 16 日(月)～2023 年 3 月 31 日(金)

【調査方法】 Google Forms による Web アンケート

【調査対象】 研究科在学生 199 名(休学者を除く)

【回 答 数】 ＊2020 年度の実施対象は M2 のみ

研究科・専攻	1 年次	2 年次	3 年次	計	M2・D3(2021)	M2(2020)
保健福祉学	17	29	4	40	22	15
看護学(M)	4	9	—	13	9	8
栄養学(M)	3	12	—	15	4	4
保福学(M)	6	3	—	9	5	3
保福科学(D)	4	5	4	13	4	—
情報系工学	44	42	1	87	31	13
シス工学(M)	44	40	—	84	30	13
シス工学(D)	—	2	1	3	1	—
デザイン学	10	6	—	16	1	6
デザ工学(M)	8	4	—	12	1	3
造形デ学(M)	2	2	—	4	0	3
全学計	71	77	5	153	54	69

【回 答 率】

＊2022 年度について、分母は在学生数(休学者を除く)

＊2021 年度について、分母は修了者数

研究科・専攻	1 年次	2 年次	3 年次	計	M2・D3(2021)	M2(2020)
保健福祉学	94.4%	85.3%	30.8%	76.9%	88.0%	71.4%
看護学(M)	80.0%	112.5%	—	100.0%	90.0%	100.0%
栄養学(M)	100.0%	100.0%	—	100.0%	100.0%	57.1%
保福学(M)	150.0%	42.9%	—	81.8%	100.0%	50.0%
保福科学(D)	66.7%	71.4%	30.8%	50.0%	66.7%	—
情報系工学	73.3%	77.8%	33.3%	74.4%	79.5%	29.5%
シス工学(M)	73.3%	78.4%	—	75.7%	81.1%	29.5%
シス工学(D)	—	66.7%	33.3%	50.0%	50.0%	—
デザイン学	100.0%	75.0%	—	88.9%	50.0%	150.0%
デザ工学(M)	100.0%	80.0%	—	92.3%	100.0%	100.0%
造形デ学(M)	100.0%	66.7%	—	80.0%	0.0%	300.0%
全学計	80.7%	80.2%	31.3%	76.5%	81.8%	49.3%

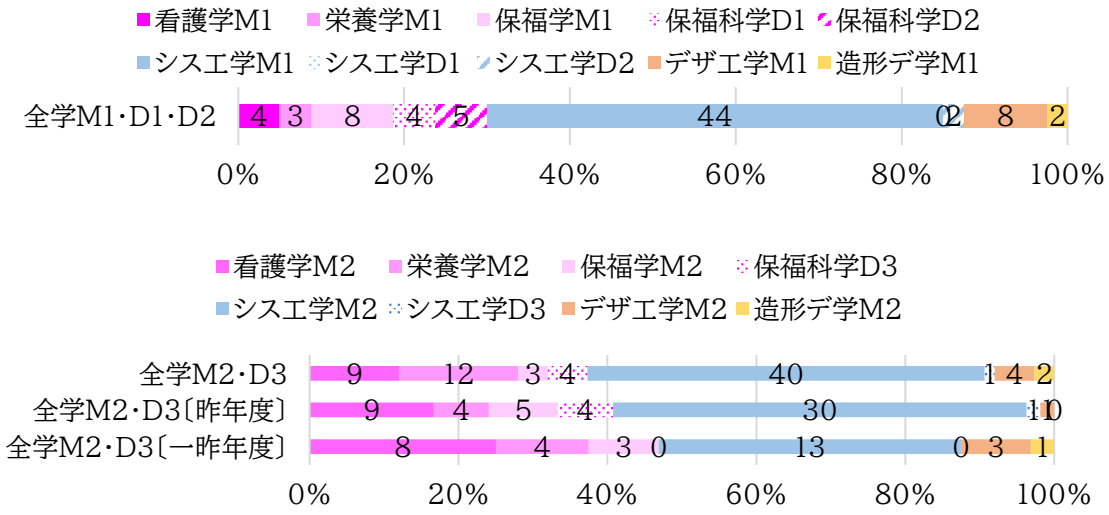
G-2 調査結果

在学生 M1、D1、D2 に対する「在学生 DP 達成度アンケート」の設問は、「研究科修了時アンケート」の設問 Q3～Q7、Q10～Q14)と同一であるため、結果を併記する。なお、「在学生 DP 達成度アンケート」設問番号は〈 〉で表示する。

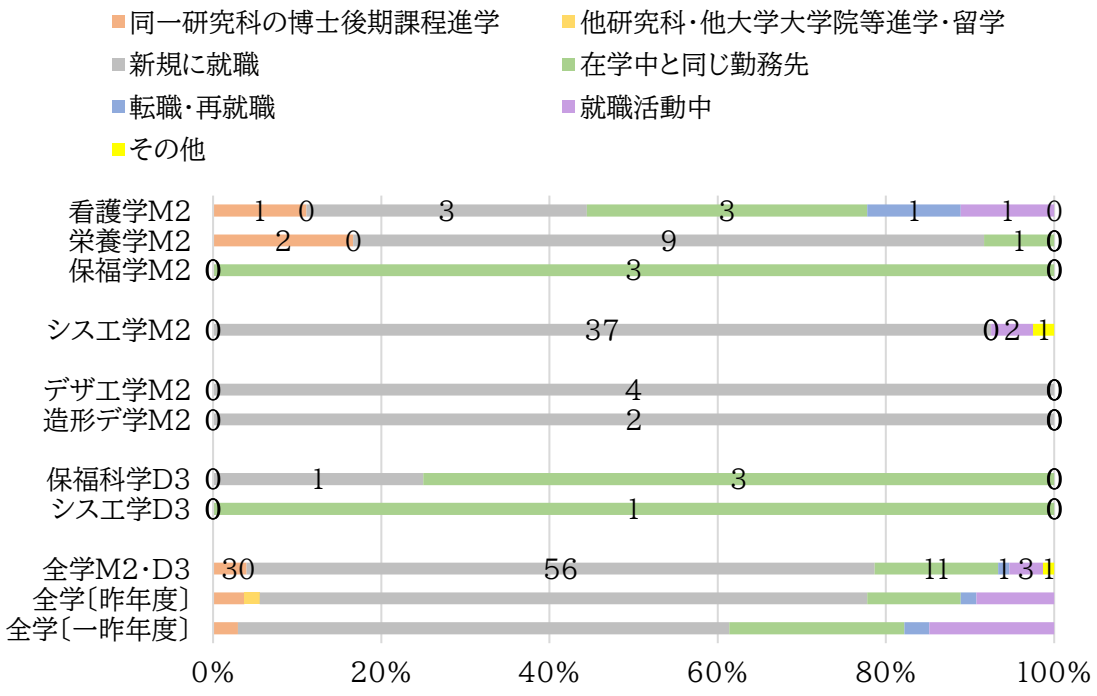
また、以降、各設問のグラフにおける最下層に、令和 3 年度(昨年度)の修了時アンケートで対応する設問の全研究科の結果を「全学〔昨年度〕」、令和 2 年度(一昨年度)の修了時アンケートで対応する設問の全研究科の結果を「全学〔一昨年度〕」として併記する。

【Ⅰ】あなた自身について回答してください。(Q1、Q2)

Q1〈Q1〉. 所属専攻

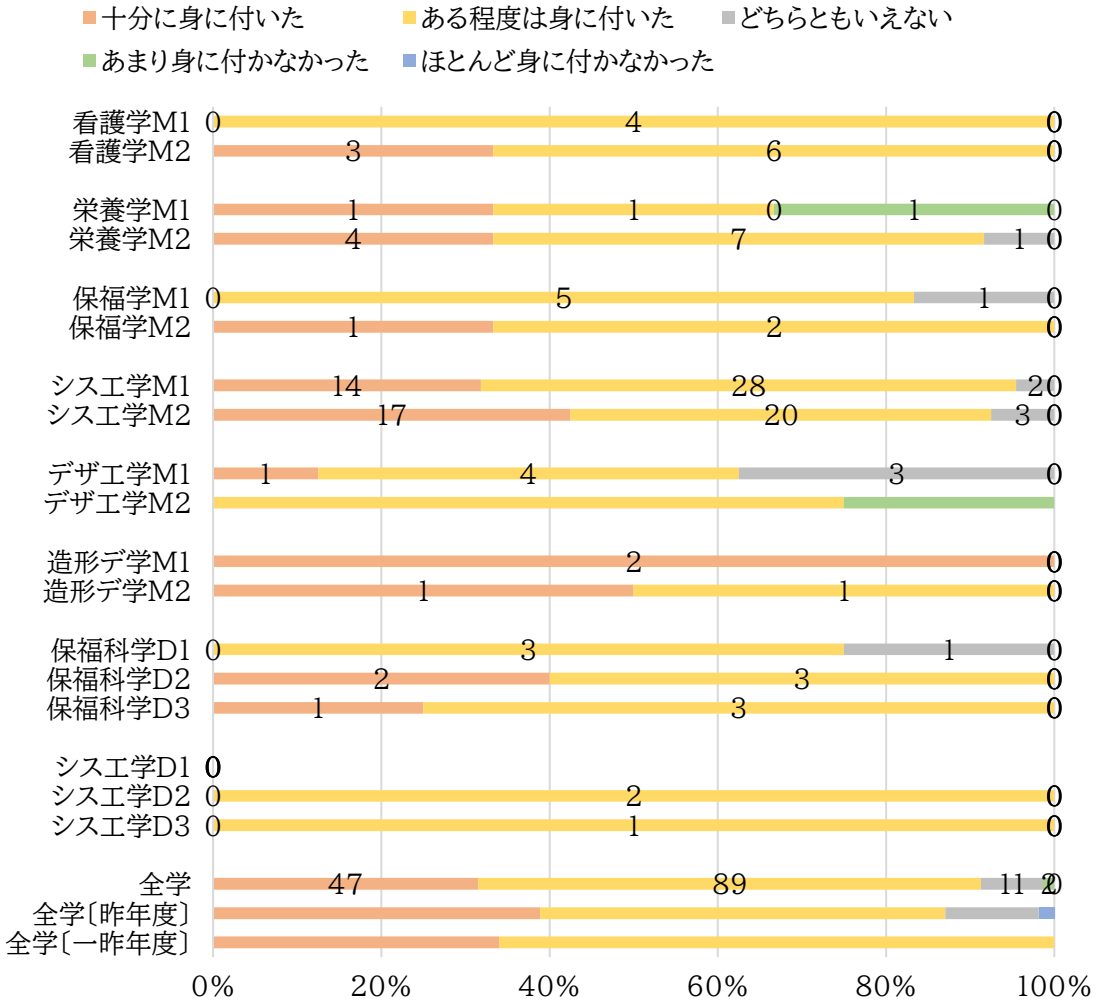


Q2. 大学院修了後の進路

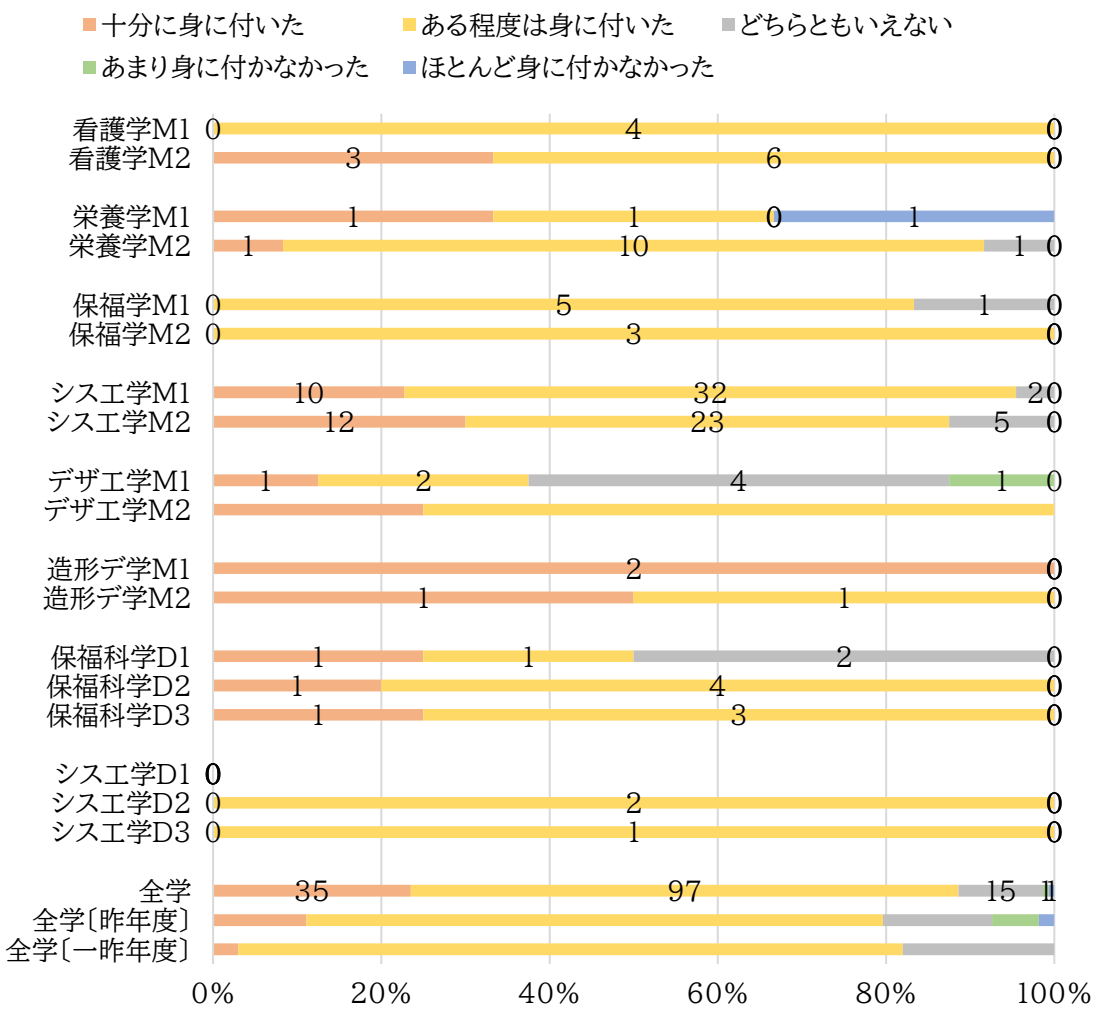


【Ⅱ】次の項目は、本学大学院の「学位授与の方針（Diploma Policy）」のうち研究能力に関する達成度を、みなさん自身に評価していただくものです。「各専攻への入学当初と比べて」、本学大学院の教育によってあなたが身に付けることができたと思う研究能力について回答して下さい。（Q3〈Q2〉～Q7〈Q6〉、Q8、Q9）

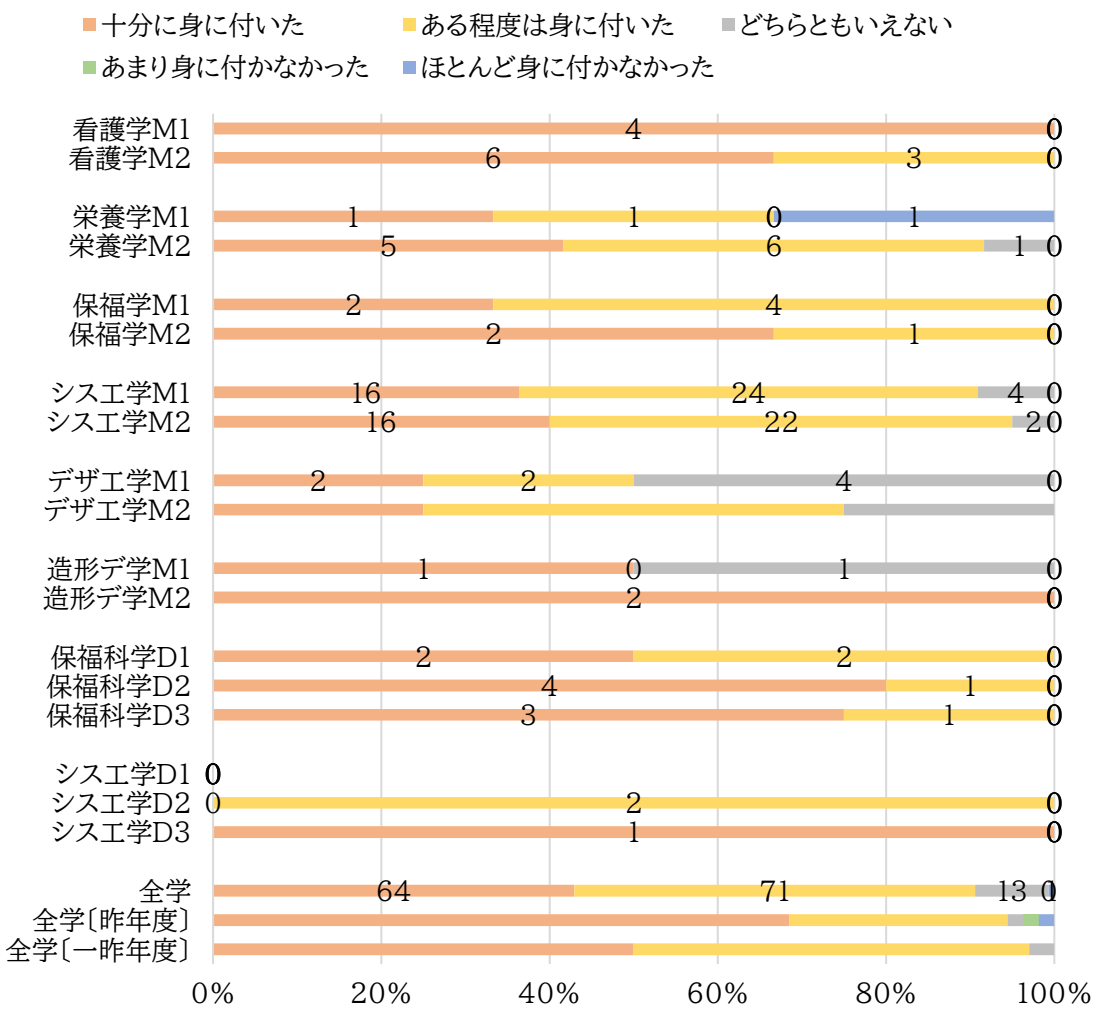
Q3〈Q2〉. 自らの専門分野の研究に意欲的に取り組む力が身に付きましたか。



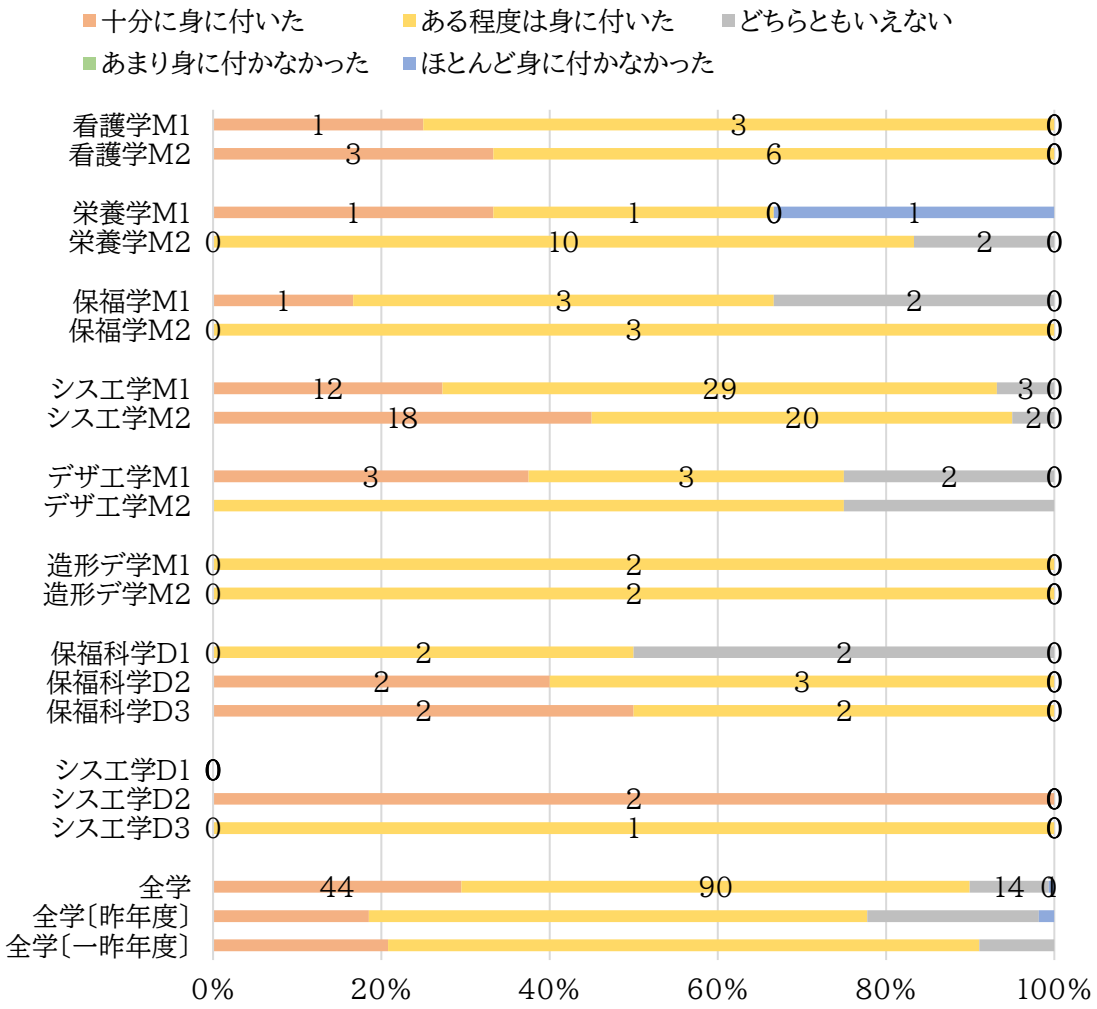
Q4〈Q3〉. 専門分野の知識や技能が身に付きましたか。



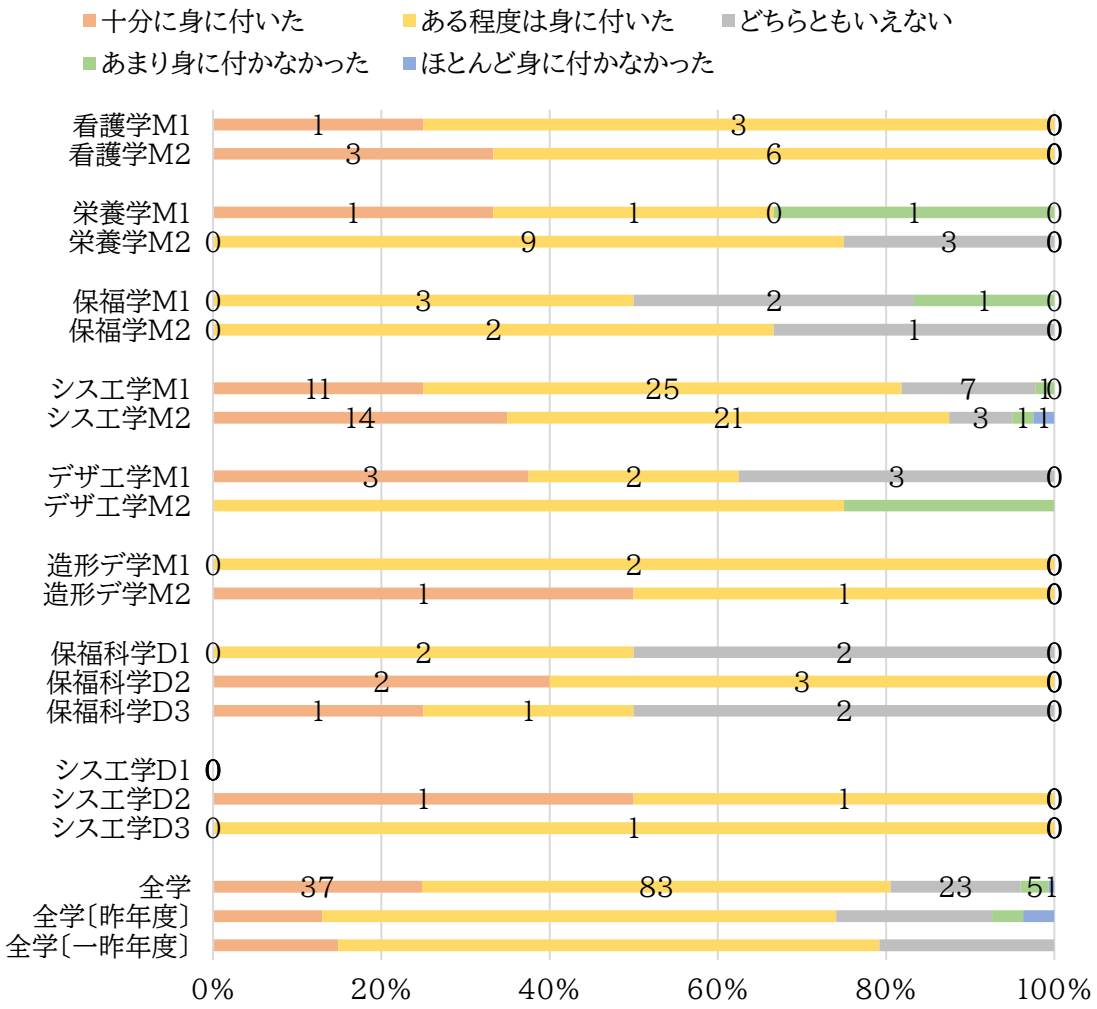
Q5〈Q4〉. 研究倫理を遵守する習慣が身に付きましたか。



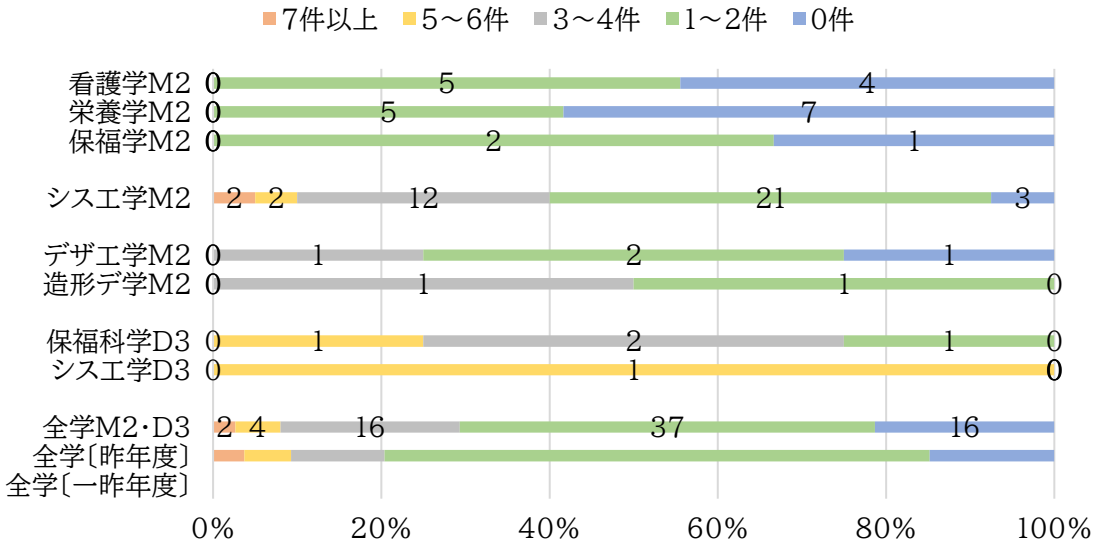
Q6〈Q5〉. 自ら収集した専門分野の情報を活用し、理論的に考え、課題を解決する力が身に付きましたか。



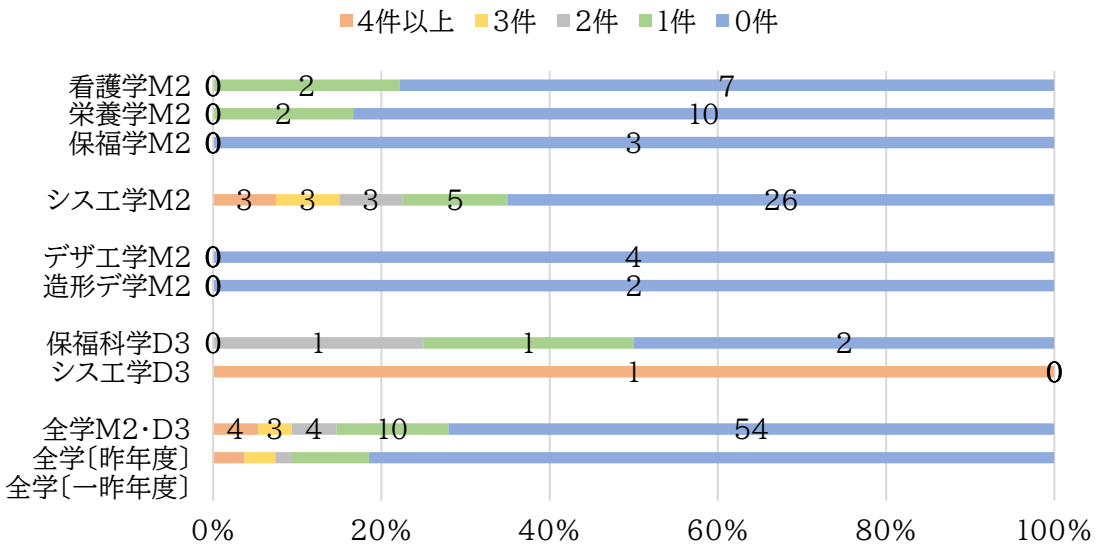
Q7〈Q6〉. 専門分野の発展に寄与する研究課題を自立的に考案・促進させて、成果を得る力が身に付きましたか。



Q8. 日本語を使用しての研究成果（学会発表、専門誌等での論文掲載、作品発表など）の発表件数のうち、自身が筆頭のもの、あるいは自身で制作したものの件数を答えてください。

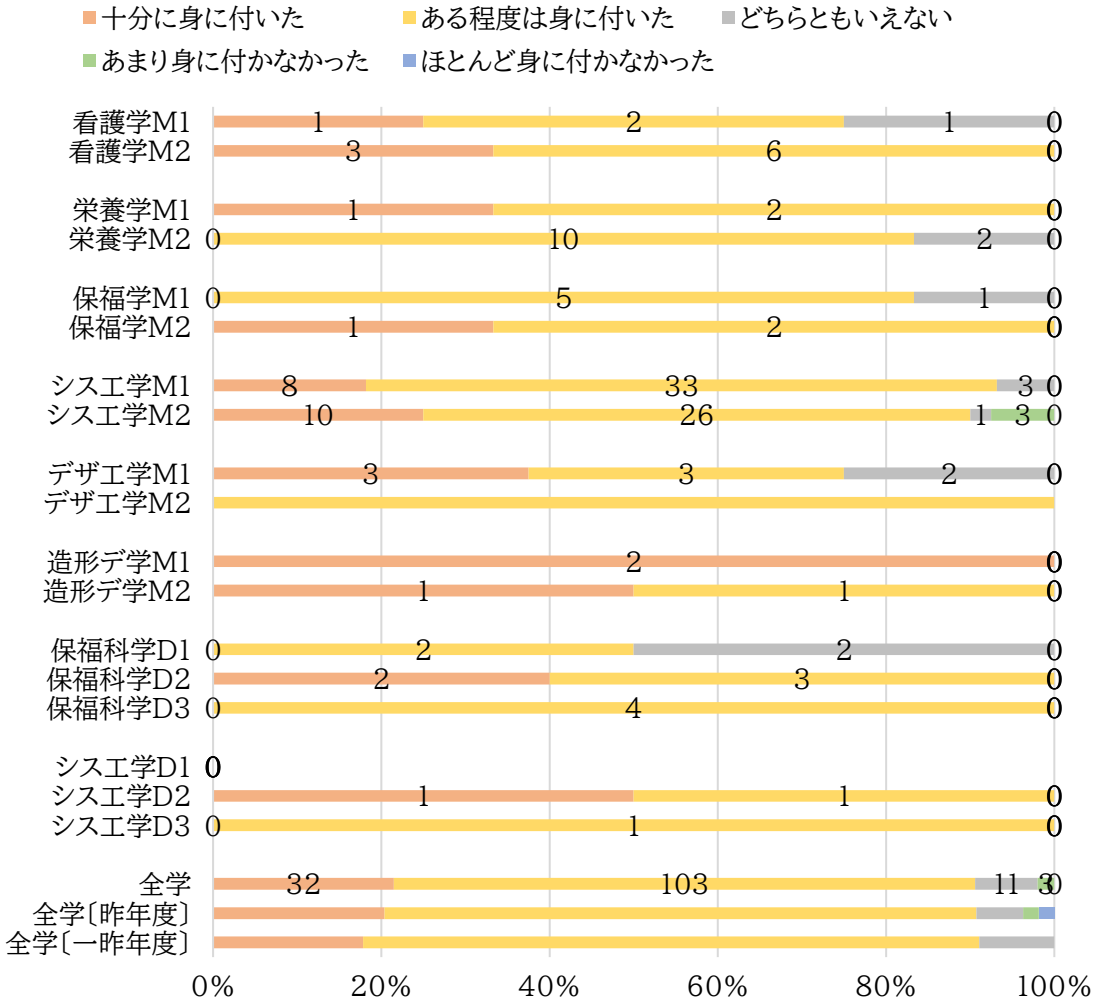


Q9. 日本語以外を使用しての研究成果（学会発表、専門誌等での論文掲載、作品発表など）の発表件数のうち、自身が筆頭のもの、あるいは自身で制作したものの件数を答えてください。

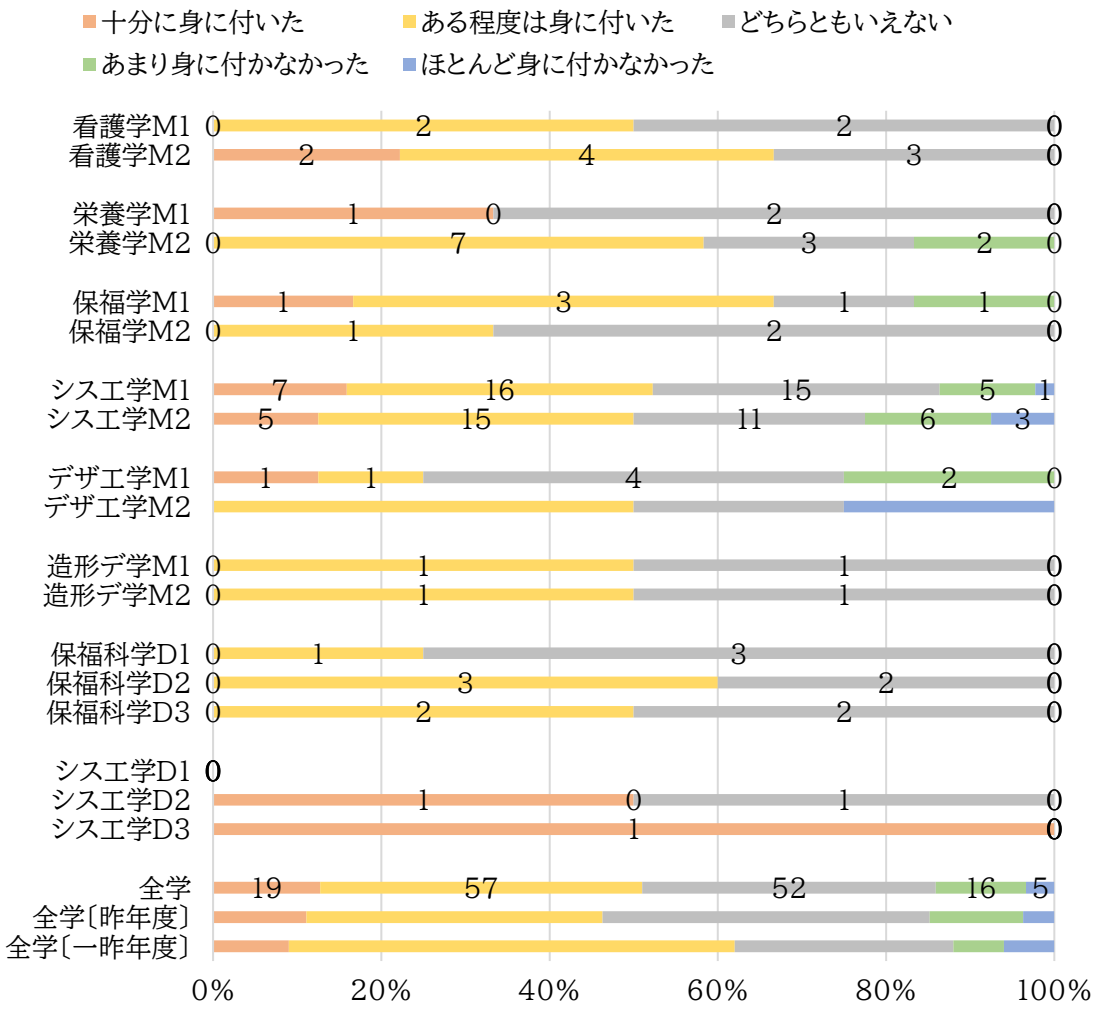


【Ⅲ】次の項目は、本学大学院の「学位授与の方針（Diploma Policy）」のうちヒューマン・スキルに関する達成度を、みなさん自身に評価していただくものです。「各専攻への入学当初と比べて」、本学大学院の教育によってあなたが身に付けることができたと思うヒューマン・スキルについて回答して下さい。（Q10〈Q7〉～Q14〈Q11〉）

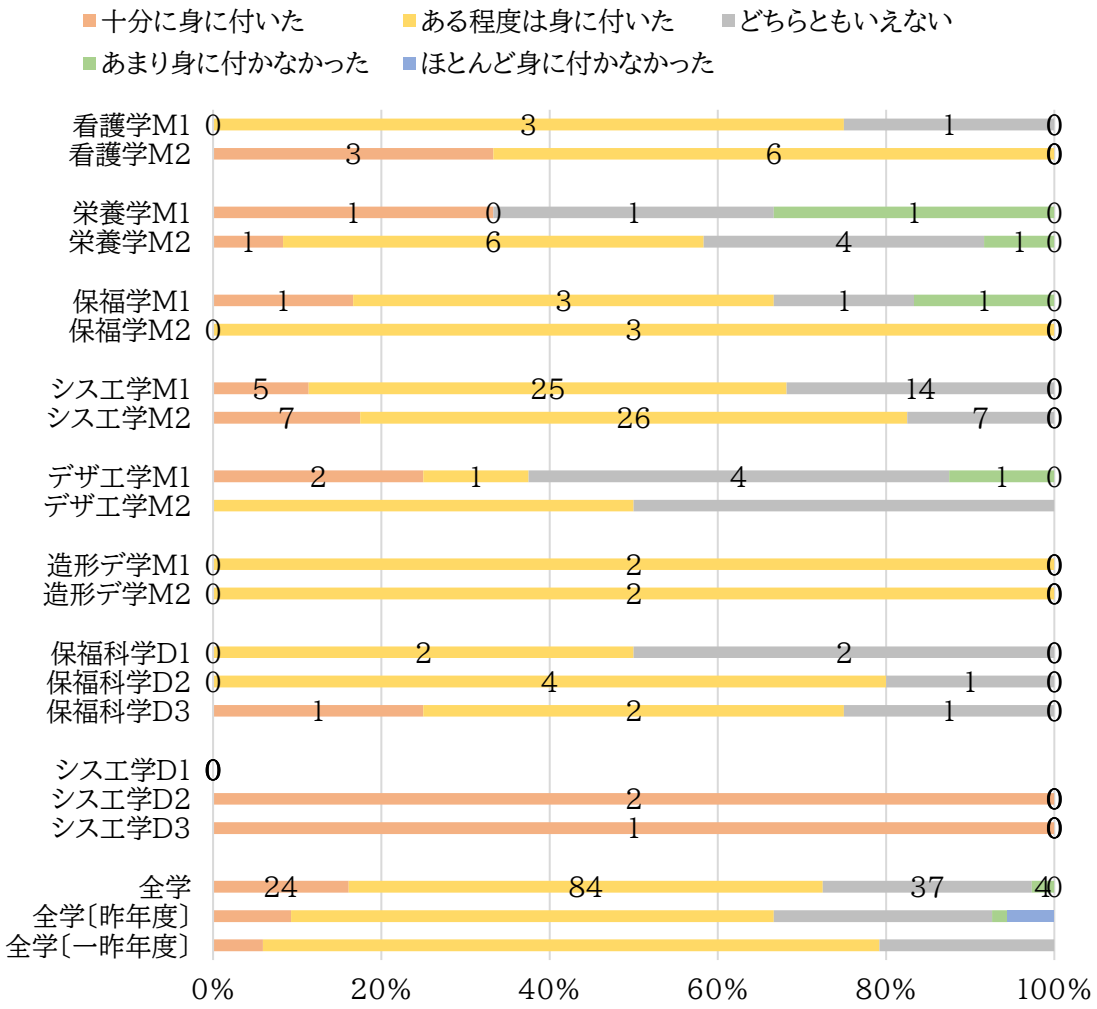
Q10. 自分の主観的な立場を離れ、物事を客観的・普遍的に考える力が身に付きましたか。



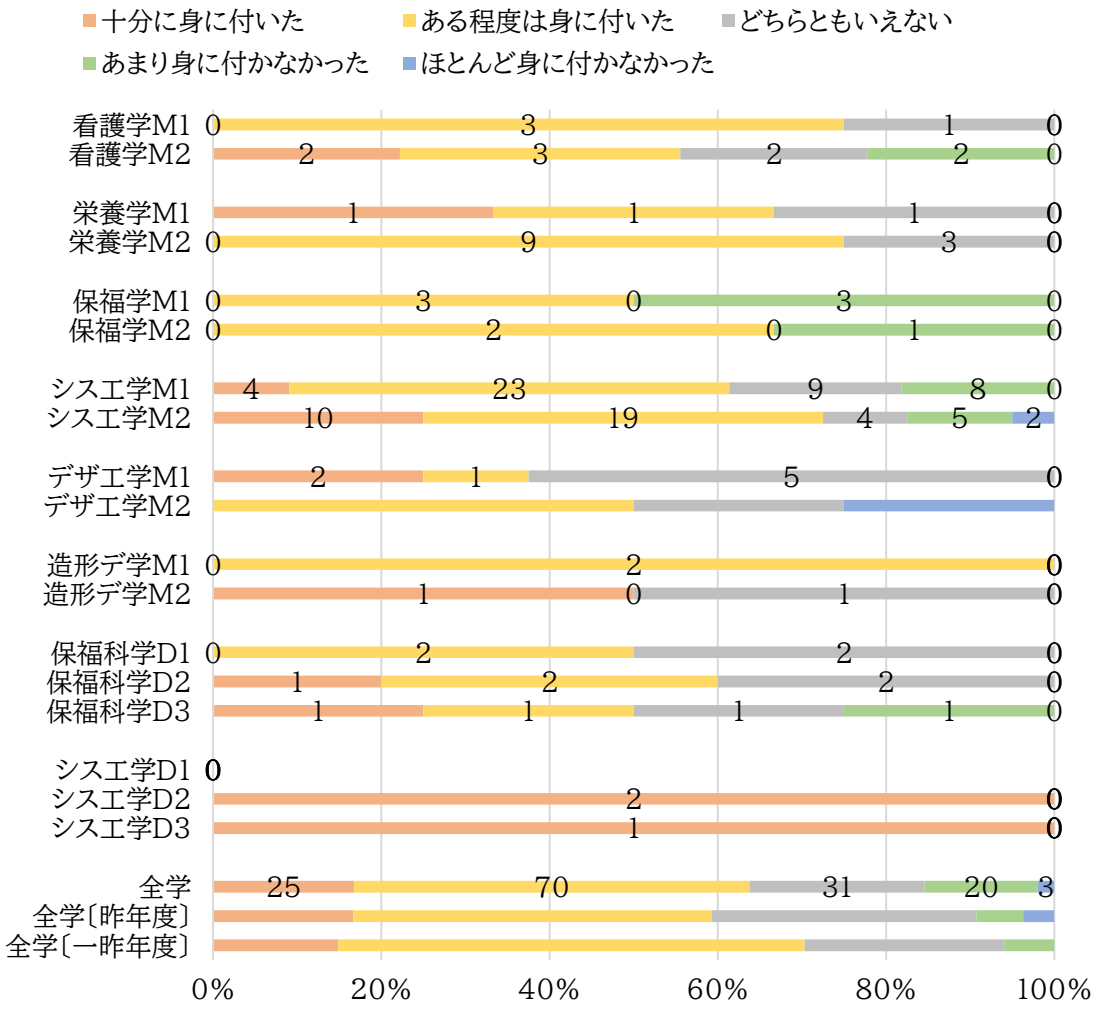
Q11〈Q8〉. 地域の問題と国際社会の問題の双方に対応して考える力が身に付きましたか。



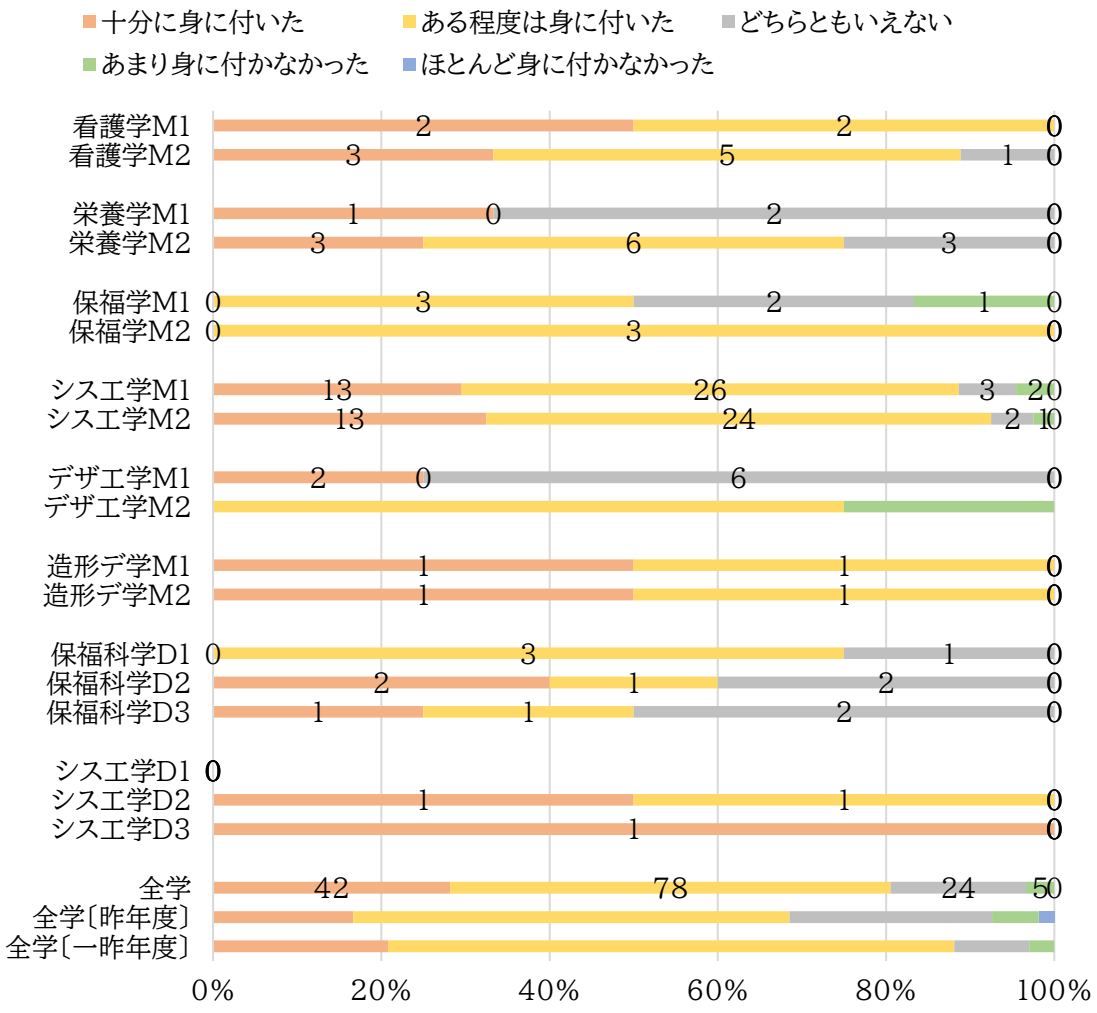
Q12〈Q9〉. 現在解決すべき課題を、来たるべき社会を構想しながら考える力が身に付きましたか。



Q13〈Q10〉. 世代、言語、文化の相違をこえてコミュニケーションを図り、他者と協働する力が身に付きましたか。

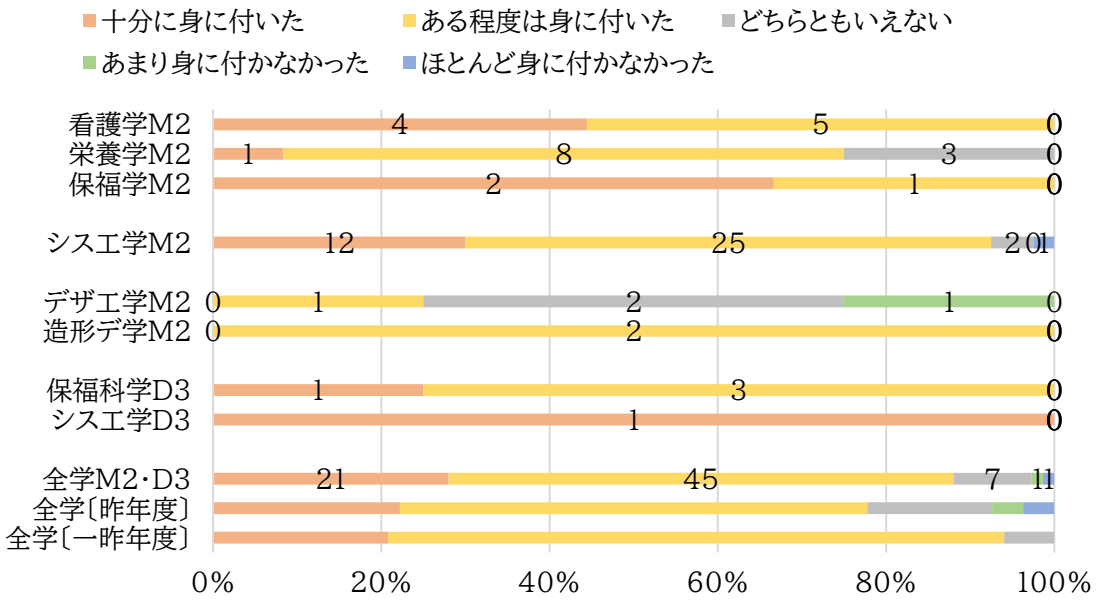


Q14〈Q11〉. 自ら進んで論理的に判断し、提案し、率先して行動する力が身に付きましたか。

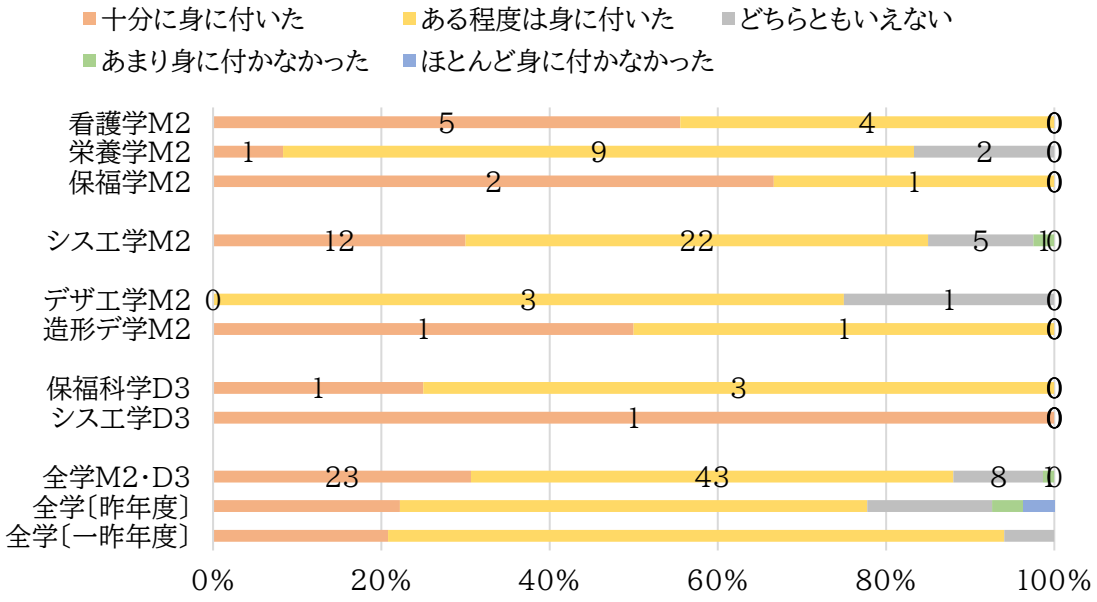


【Ⅳ】本学大学院の教育全般について回答してください（Q15～Q19）。

Q15. 本大学院での学修で、高度な教養が身に付きましたか[1]。

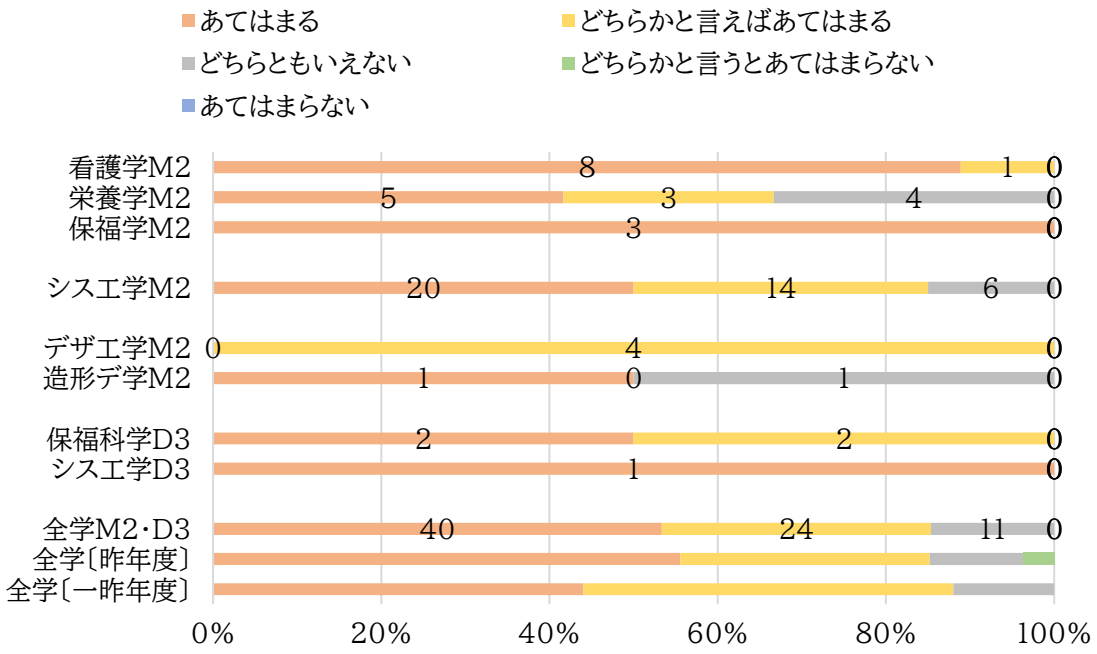


Q16. 本大学院での学修で、高い専門性が身に付きましたか。

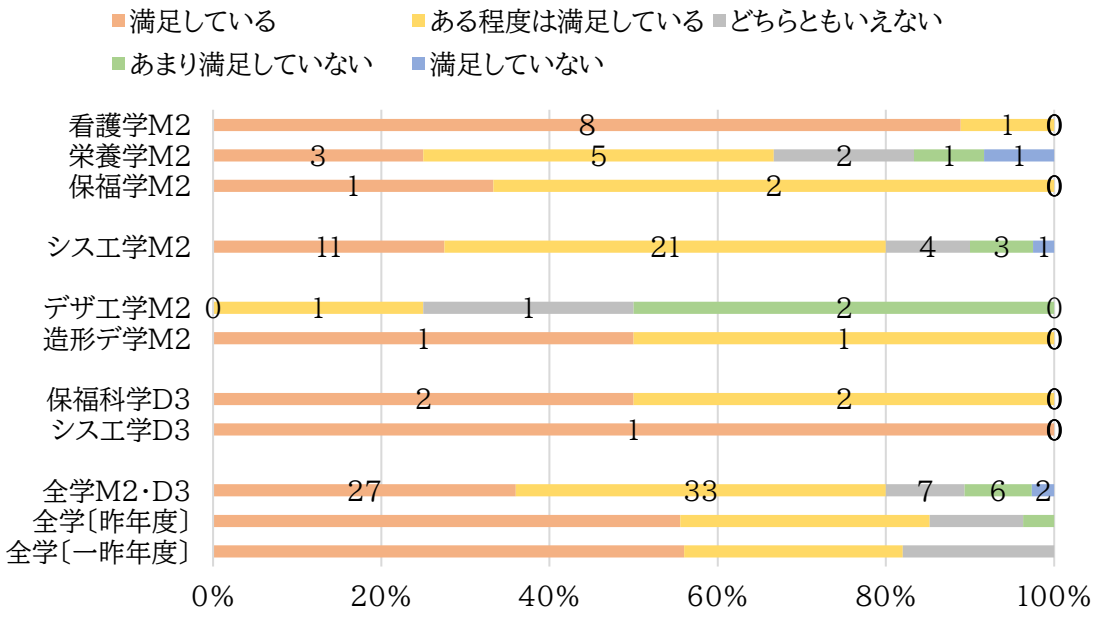


[1] 昨年度（2021 年度）までの設問では教養と専門性がまとめられており、「本大学院での学修で、高い専門性と高度の教養が身につきましたか」となっていた。

Q17. 本大学院での学修は、今後の仕事（進学先または就職先）で役立つと思いますか。

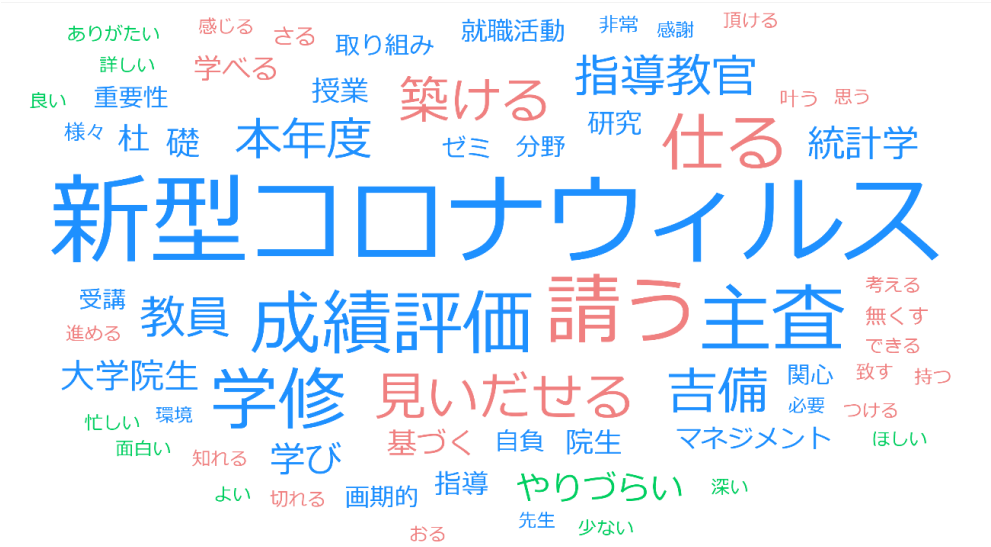


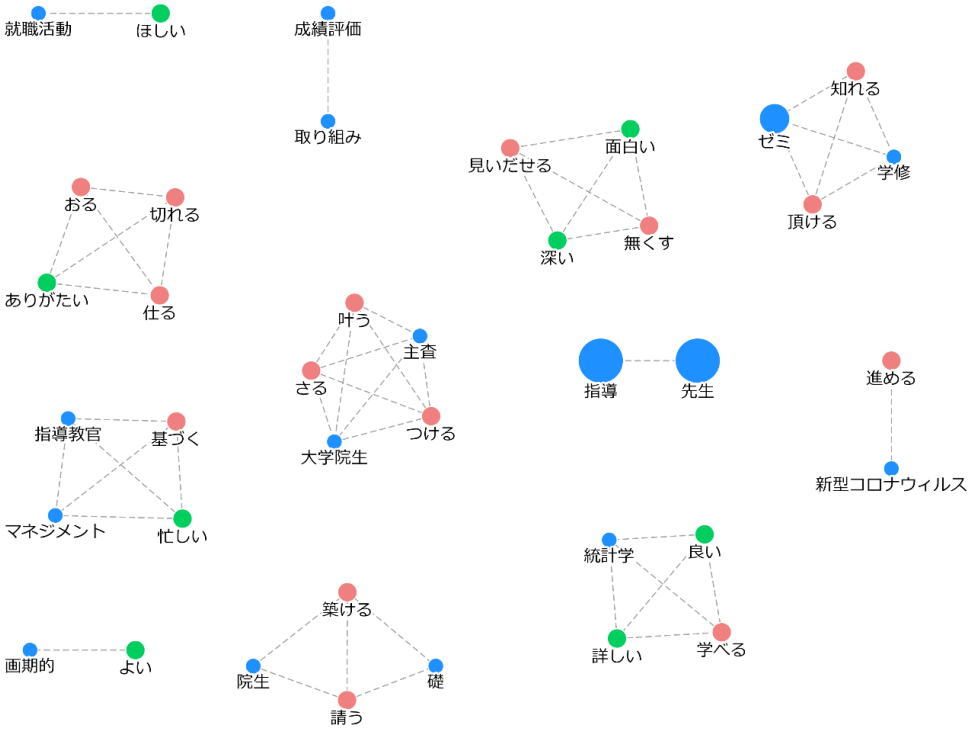
Q18. 全般的に本学大学院の教育には満足しましたか。



Q19. 本学大学院の学修全般について、意見や要望があれば記入してください。

M2 回答者 70 名中 12 名より意見が寄せられた（D3 かからは回答なし）。ユーザーローカル AI テキストマイニングツール[2]によるワードクラウド[3]および共起ネットワーク[4]を示す。





[2] ユーザーローカル AI テキストマイニング, https://textmining.userlocal.jp/ （2023 年 5 月 1 日閲覧）

[3] スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示している。単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表す。

[4] 文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図であり、出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描画されている。

H　卒業生および修了生アンケート

卒業生および修了生アンケートは原則 3 年ごとに実施している。前回は 2021 年度に実施され、その結果は「教育年報 2021」付録 F に掲載されている。次回は 2024 年度に実施を予定している。

Ⅰ 就職先アンケート

1. 調査目的

卒業生（修了生含む）が本学の教育研究活動等を通じて得た知識や能力、またそれらを実社会で発揮できているか等の観点で、過去 5 年間に本学卒業生の採用実績のある企業・団体等に評価いただき、本学の教育研究活動等の見直し、改善に役立てるため。

2. 調査対象

過去 5 年間に本学卒業生の採用実績のある企業・団体等（686 件）。学生支援班でリストアップした後、各学部・研究科で確認。

★学部・研究科別内訳

保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	保健福祉学研究科	情報系工学研究科	デザイン学研究科
253 件	245 件	172 件	25 件	91 件	8 件

※重複あり

★地域別内訳

北海道・東北	関東	北信越	東海	関西	岡山県	中国（岡山県以外）	四国	九州
3 件	176 件	13 件	43 件	141 件	215 件	52 件	28 件	15 件

★業種別内訳

企業	官公庁	医療機関	福祉施設	保育施設
497 件	53 件	78 件	45 件	13 件

3. 調査方法

・企業・団体等に調査依頼文（学長名）を郵送。
　※学生支援班で企業・団体名および住所の変更を確認した後に郵送。
・依頼文に、無記名式 Web アンケート（Google Forms）の URL および QR コードを記載。
・Web アンケートへの回答により回収。

4. 調査期間

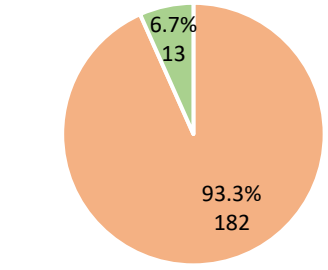
2022 年 2 月 7 日～2022 年 2 月 28 日

5. 回答件数（率）と有効回答数（率）

回答件数：196 件（回答率：28.6%）、うち有効回答件数：195 件（有効回答率：28.4%）

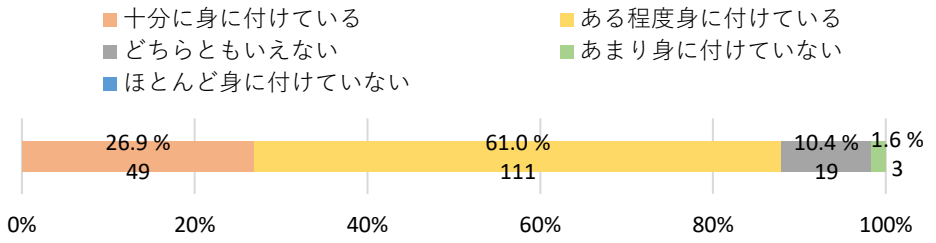
6. 調査結果

Q1.現在、本学の卒業生が貴事業所に在籍していますか？



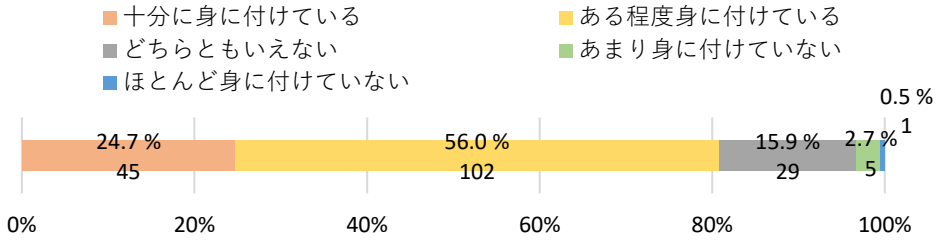
【n=195】

Q2.本学の卒業生は、人間や社会や自然について幅広く教養を身に付けていると思いますか？



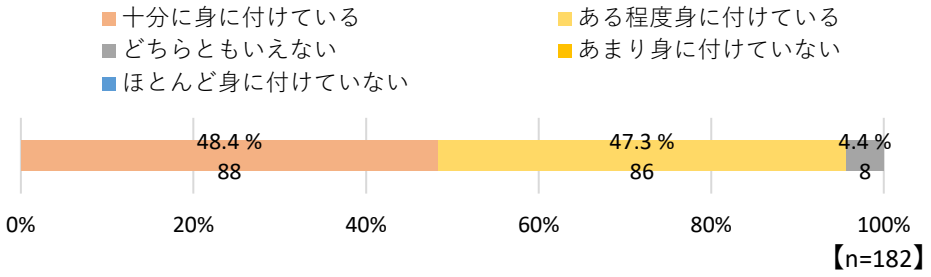
【n=182】

Q3.本学の卒業生は、人生の各局面において課題を発見し解決する力を身に付けていると思いますか？



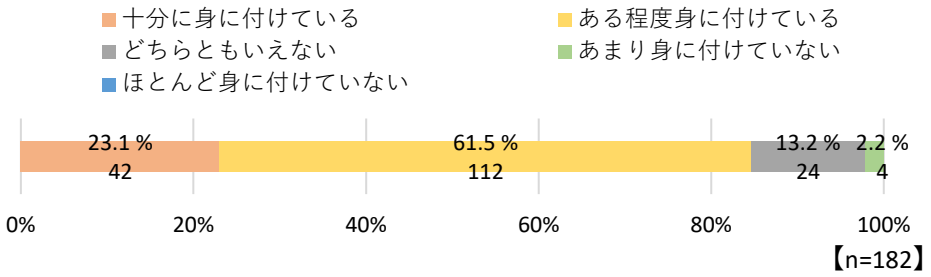
【n=182】

Q4.本学の卒業生は、法や道徳を守る倫理観を身に付けている
と思いますか？



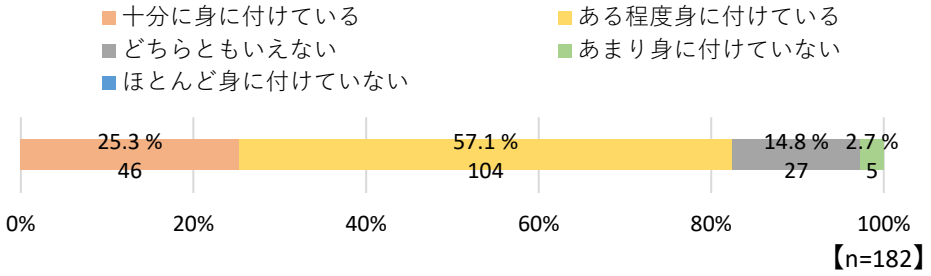
【n=182】

Q5.本学の卒業生は、専門的な知識や技能を身に付けていると
思いますか？



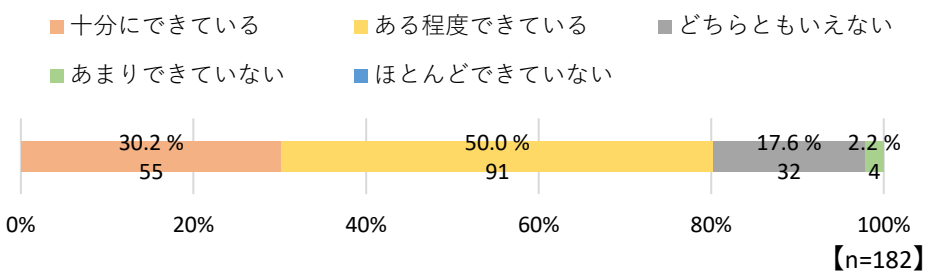
【n=182】

Q6.本学の卒業生は、専門とする分野で自ら論理的に考え、判
断し、実行する力を身に付けていると思いますか？



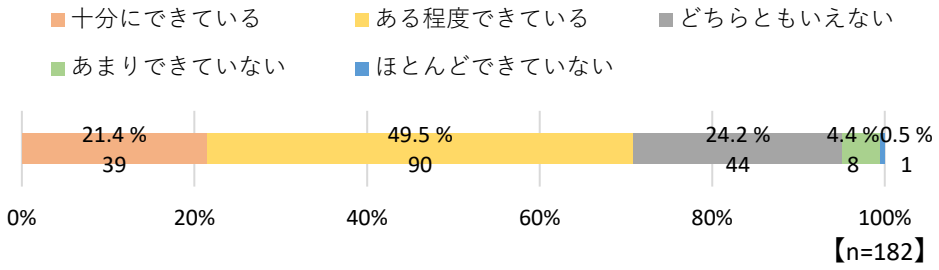
【n=182】

Q7.本学の卒業生は、学修した専門分野を実社会で活かすこと
ができていると思いますか？



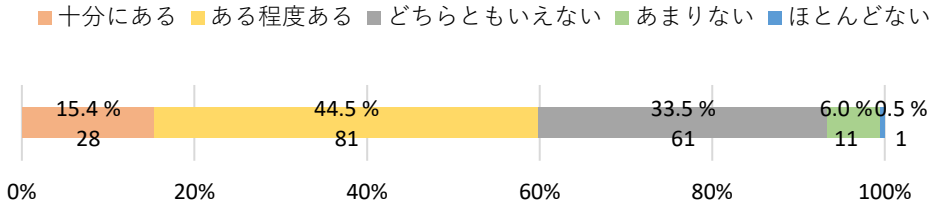
【n=182】

Q8.本学の卒業生は、世代や言語や文化の相違をのりこえてコミュニケーションを図ることができていると思いますか？



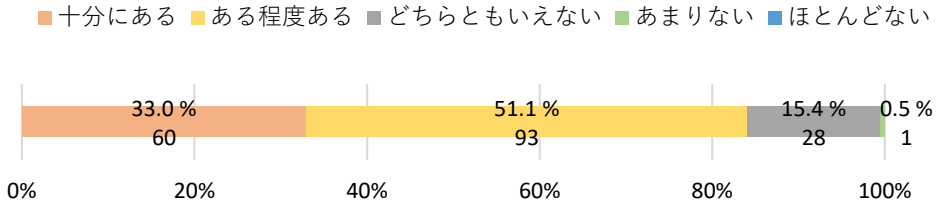
【n=182】

Q9.本学の卒業生は、世界とのつながりを考えながら社会の多様な人々と協調して積極的に行動する意欲があると思いますか？



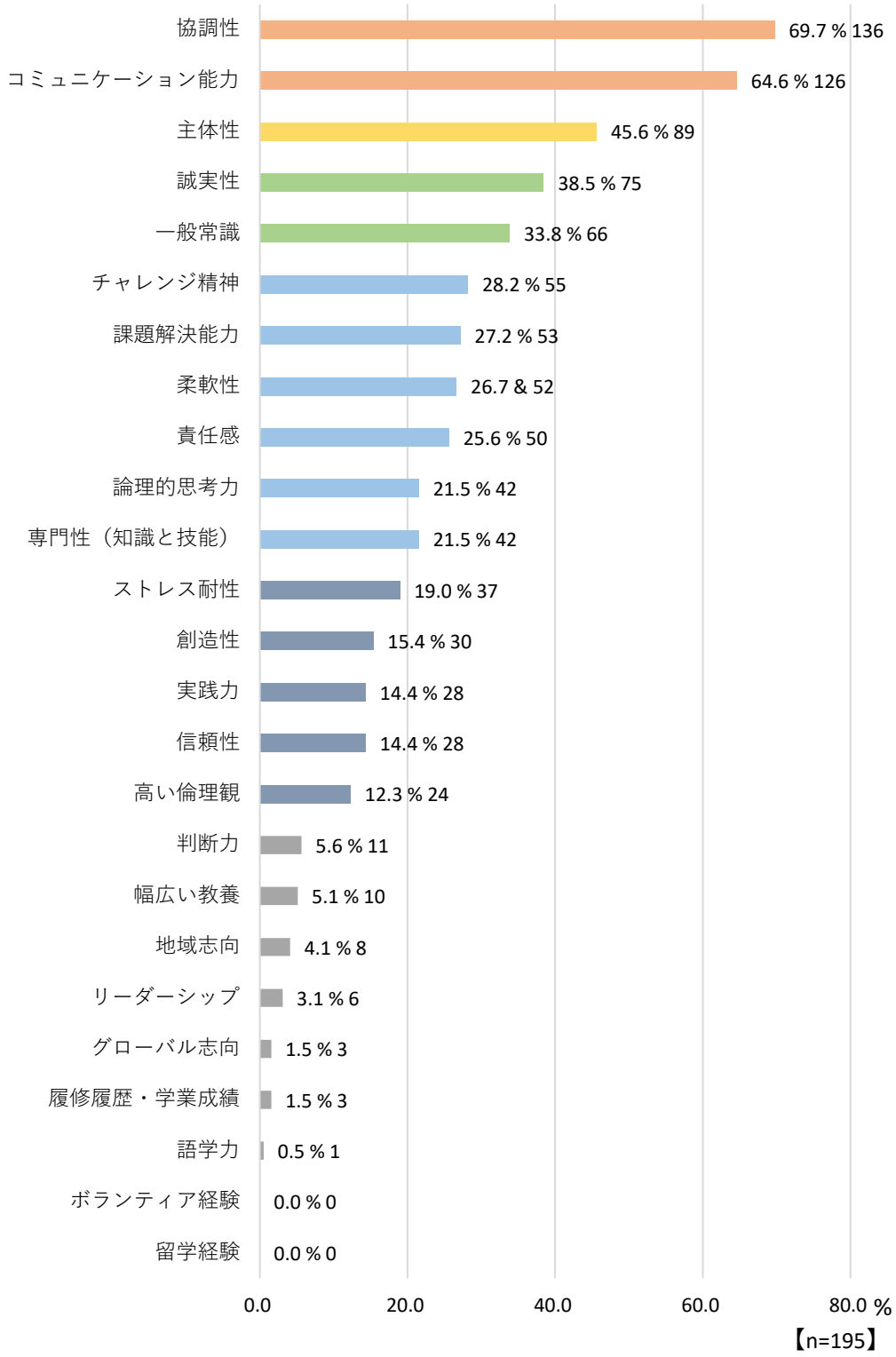
【n=182】

Q10.本学の卒業生は、生涯にわたって学び続けて自分を磨く意欲があると思いますか？

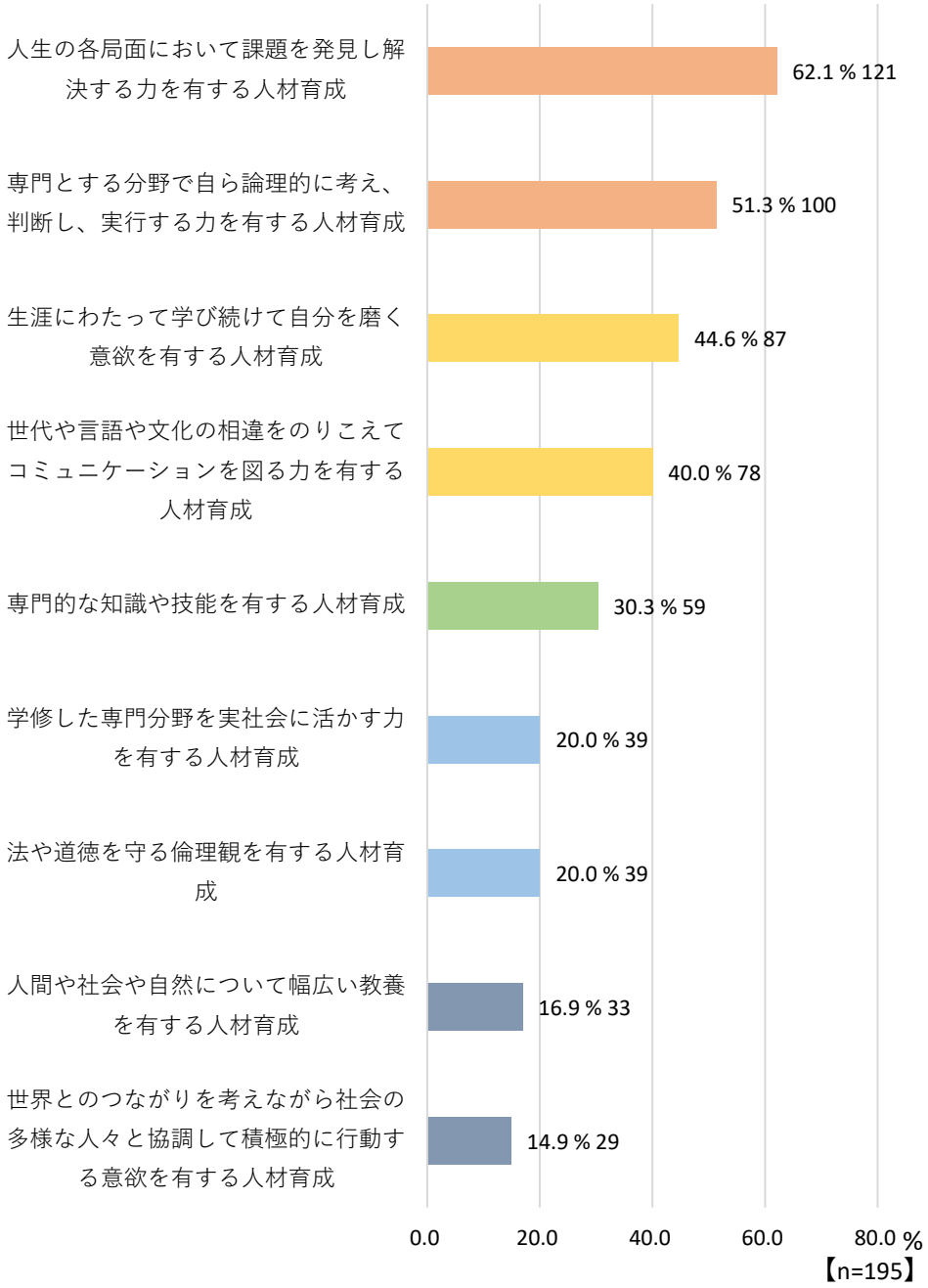


【n=182】

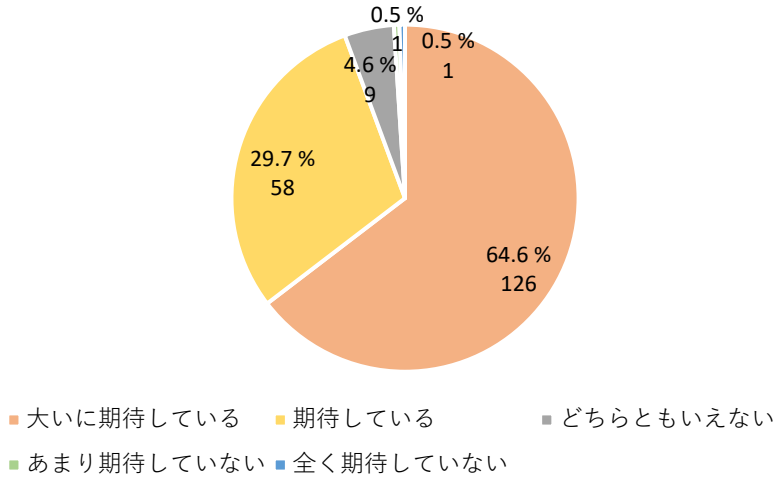
Q11.採用に当たり重視する要素の上位５つを選んでください。



Q12.岡山県立大学に期待する人材育成について、上位３項目を選んでください。

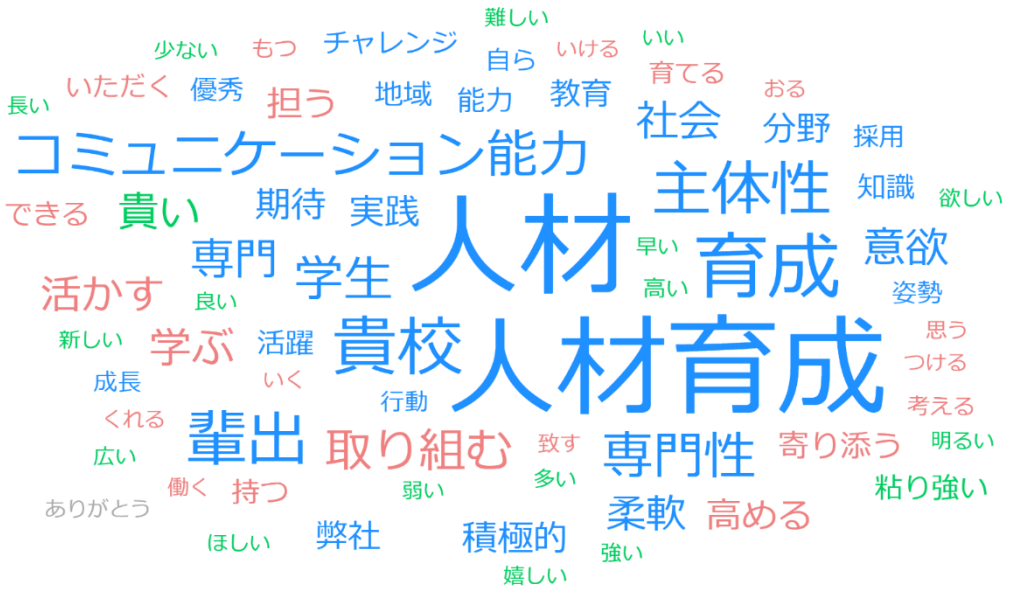


Q13.岡山県立大学への期待度



Q14.具体的にどのようなことを期待していますか？

※前の質問で「大いに期待している」「期待している」「どちらともいえない」を選択した方の回答（有効回答：187/193、無効回答：6/193）



ワードクラウド（スコア順）（ユーザーローカル AI テキストマイニング）

■コミュニケーション

（1） コミュニケーション能力

（2） コミュニケーション能力、リーダーシップ力

（3） コミュニケーション力の向上

（4） コミュニケーション力を備えた人材を育成してほしい

（5） 学力はあるのだから、コミュニケーション能力を高める事を学校として取り組んでください。相手に寄り添うとはどういうことか。身に着けてきてほしい。
（6） 基礎的学力とともに他者と協調しながらコミュニケーションの取れる人材の輩出
（7） 社会にでると、組織の中で、いろんな世代の方とコミュニケーションをとる必要があります。そういった時に柔軟に対応できる人材の育成を期待します。
（8） 専門的な知識を持ちながらも、コミュニケーションや協調性を持った人材育成
（9） 特にコミュニケーション能力
（10） 必要最低限のコミュニケーション能力や社会性が身につくような講義を取り入れていただきたいです。
（11） 積極的にコミュニケーションを取れる人材
（12） 弊社では様々な業界や製品の開発に携わるため、専門的な知識や快活なコミュニケーション能力を期待しております。
（13） 人材育成：協調性、前向きな姿勢、一般的なコミュニケーション能力
（14） 協調性、コミュニケーション能力、自己成長意欲
（15） 主体性、コミュニケーション性を高める人材育成
（16） 主体性、コミュニケーション能力等

■専門性
（17） 基礎力を土台に、専門性を兼ね備えた、福祉の担い手の送り出しをお願いします
（18） 近年の複雑・高度化する行政課題の解決に向けて、専門的な知識を活用しながら、積極的にチャレンジができる人材の育成。（なお、職員の評価に関する問 2～10 については、一律の回答ができかねるため、「ある程度ある」としています。）
（19） 高齢者福祉サービス事業、保育等を運営している法人ですが、各専門分野に若者が魅力を感じられるよう、また社会に出ても自分を出しやり切れる強さを持った学生さんの教育に期待しています。
（20） 自身が学んできた専門的な知識を実業務の中で活かしていただくこと。
（21） 専門スキルを持った意欲の高い学生さんが多いかと思います。今後貴校と自社とでつながりをより深め定期的な採用に繋げられればと考えております。
（22） 専門技術のみならず人間性に優れた人材の育成
（23） 専門性
（24） 専門性のある技術力
（25） 専門性もあった上で様々な分野で活躍できるマルチな人材育成に期待します。
（26） 専門性を活かし他職種とも協調的に連携
（27） 専門性を持ちながら、柔軟性があり実行力がある人材を育てていただくこと
（28） 専門性を生かして地域に貢献できる人材の育成

（29） 専門知識は仕事の中で学べば良いので、学生時代に磨いて欲しいのは、建築が大好きになること、働くことの楽しさと厳しさ、型にはめすぎない柔らかな発想が湧き出るような感覚。
（30） 専門知識を武器に自ら考え行動できる能力
（31） 専門的な知識の習得はもとより、社会人として、役割や責任、意識などの人材育成に積極的に取り組んでいただくことを期待しています。
（32） 専門的技術を有する人材育成
（33） 専門能力の高さ
（34） 専門分野の学習、論理的思考、課題解決力
（35） 専門分野の実践的な知識習得
（36） 専門分野を実社会に活かす力を有する人材育成
（37） 本学では、保健福祉部と情報工学部を中心にそれぞれの専門領域を活かして活躍しています。これからもグローカルなセンスを持った地域を担う専門人材の輩出を期待しています。
（38） 論理的な思考ができ、専門的なスキルを持った学生の育成に期待しています。

■社会性
（39） このコロナ禍でも、社会性を伸ばし、自ら活動ができる学生に育つよう、環境を整えてあげてください。
（40） これからも社会で自律し、将来に向けて前向きに考え行動できる人材を育成していただきたいと思います。
（41） コロナ禍での工夫など、学生自身がどのように目標を立て実践しているか。それを乗り越える力があれば、社会に出ても通用する人財かと思います。
（42） 社会で活躍できる人材の育成
（43） 社会で通用する人材の育成環境づくり
（44） 社会に貢献出来る人材の育成
（45） 社会に出ても通用する人材の育成
（46） 社会に出て活躍できる人材育成
（47） 社会に出る上でのマナーや心構え
（48） 社会人として周りから信頼してもらえる人材育成
（49） 社会人として成長していくための土台作り
（50） 社会人基礎力のある人材の育成に期待します。
（51） 社会性
（52） 社会性のある人材育成を期待しています。
（53） 基礎的なリテラシーやコンピテンシーの育成。
（54） 貴学卒業生で、一般教養や一定の社会人スキルを持たれた方が多く就職されることを期待しております。

（55） 社会に適応する能力をもち、素直で壁を乗り越える力のある人材の育成

■主体性・主体的

（56） 主体性
（57） 主体性、創造性など
（58） 主体性にある人材育成
（59） 主体性のある学生の育成
（60） 主体性をもって自ら行動に移せれる人材育成
（61） 主体性をもって積極的に行動できる学生を育成すること
（62） 主体的な行動
（63） 主体的に考え、行動し、問題を解決できること
（64） 専門知識。主体性。
（65） 学んだことが直接活かす場面は少ないかも知れないが、「自分ならどうする」と主体的に考え、間接的に活かせるのも大切だということを、気づけるといいと思います、
（66） 誠実且つ主体的な人財の成長
（67） 知識欲の高さ・主体的に行動する力に期待をしております。
（68） ある程度の一般教養と、業種的に未知の分野だと思うので素直に学ぶ力、また自ら学ぼうとする力があれば嬉しいです。
（69） 今までの人生でも、貴校在学中でも、様々なことに自分から取り組んだり、没頭できるものがあったら良いと思います。人間としての幅が広がったり。貴校出身の当社在籍の方 2名は、大変真面目であり、今までの経験から他人の気持ちまでよく理解できる、努力家のお二人です。そのような方をまた当社としても採用させていただきたいです。
（70） 前向きで向上心のある人材の育成
（71） 知識・技術と前向きな思考を持ち合わせた人材の創出

■地域・岡山

（72） OB・OG が岡山地元企業を盛り上げて欲しい
（73） 岡山県に愛着を持って、地元の発展に尽くしてもらうこと
（74） グローバルな観点を有しながらも、地域社会の一員としての役割を担う人材の育成
（75） この地域でリーダーとなれる人材の育成
（76） 岡山県の地域活性化も含めて盛りあげていける学生を育ててほしいです。
（77） 介護福祉士、社会福祉士、保育士と弊社で頑張って欲しい資格ではあるが、その前に岡山を好きで貢献したい人材になって欲しい。また地域課題の中でリーダーシップを図って動かしてくれる人材になっていただきたい。
（78） 総社市内にある唯一の大学として地域や地域企業を一緒に盛り上げていける人材を育てていただきたい
（79） 地域との協働
（80） 地域に根ざしたグローバルな人材の育成

（81） 地域に根差した人材育成　産学連携
（82） 地域や社会の課題に対して、IT を活用して解決していける人材育成
（83） 地域社会で活躍できる人材
（84） 地域社会において弊社ができる取り組みを提案、または取り組みの実現を協力していただきたい。
（85） 県内企業で活躍する人材育成
（86） 優秀な人材な県内企業への排出

■チャレンジ
（87） チャレンジすること、型にはまるだけでない教育体制
（88） チャレンジする前向きな姿勢
（89） チャレンジ精神のもと新たな分野を切り開いていける人材
（90） チャレンジ精神をもって、会社と共に成長にしてほしいと思っています。
（91） 何事にもチャレンジする姿勢
（92） 貴学の学生は、将来やりたいことや目標を持っている方が多い印象です。自身の目指す姿に向かって新しいことに積極的にチャレンジし、会社や社会に貢献してくれることを期待しています。
（93） 柔軟な発想を持ち、何事にも興味を持つチャレンジ精神旺盛な人財
（94） 新しい技術へのチャレンジ
（95） 人よりも少しでも前に出るような積極性やチャレンジ精神

■意欲
（96） より社会に出ていく意欲的な学生が今よりも増えることを期待します
（97） 意欲を持って何事にも取り組む人才育成
（98） 意欲的な学生の育成
（99） 学習意欲の高い学生を創出していくこと
（100） 向上心、意欲を持った人材の育成
（101） 使命感、向上心、協調性を持ち、環境の変化に対応でき、意欲のある学生の育成
（102） 自己成長を続けていく意欲を期待しています。
（103） 日頃より弊社の採用活動にお力添えいただき誠にありがとうございます。強い意欲を持って学ぼうとする志の高い学生の皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

■積極性
（104） 自ら考え、積極的に行動に移すことを期待しています。
（105） 貴校で学んだ事を社会に出て積極的に実践する行動力のある人材の育成
（106） 社会人として、働くにあたっての常識的な考えを教えてほしい。先輩から教えられるのただ待っているだけなどではなく、積極的に仕事に取り組む姿勢を学生のうちから身につけてほしい。

(107) 積極性
(108) 積極的にアウトリーチし課題解決のための総合調整に努めること
(109) 様々な事に積極的で常に世の中の動向にアンテナを張っている人材

■革新性・独創性
(110) イノベーションを起こせる人材教育
(111) 新しい技術や価値観に柔軟に対応できる。
(112) 新しい思考
(113) 新たなアイデアの創造
(114) 独創性のある人財の育成

■人間力
(115) 学生生活で人間力を身につけてくれることを期待します
(116) 人間力の高い学生の輩出
(117) 素直さと謙虚さを持った人材。学力だけではなく、人として自分の思いだけでなく寄り添い助けたり助け合ったりできる人間性を持った人材に育成して頂けたらと思います。(家庭環境もあるのでなかなか難しいと思いますが…)
(118) 社会の変化に対応できる人間力を身につけられる育成

■実践的・実践力
(119) 貴大学出身の職員は、大活躍して下さっています。判断力があり、確実に仕事をして下さいます。これからも、実践力のある人材の育成をお願いいたします。
(120) 考え、実践できる人材の育成
(121) 実践的な人材育成

■課題解決
(122) 課題を見つけ、自ら考え、周囲を巻き込み、解決していく能力
(123) 実社会で通用する対人関係の持ち方、課題解決能力の育成、経験値の向上
(124) 粘り強く問題解決に取り組む姿勢

■即戦力
(125) 即時、対応能力が必要
(126) 即戦力の輩出
(127) 早期戦力になるよう継続的なレベルアップ

■柔軟
(128) 広い視野を持ち、柔軟に物事を考え、また、責任感のある誠実で素直な学生を育ててほしいと思っています。
(129) 相手の考えを尊重できる協調性を育みつつ、柔軟に物事を解決へと導く決断力のある人事育成に期待する。

(130) 豊富な知識や経験を積んでいただき、多種多様なことに柔軟に、かつ的確に応えられる方の受験をお待ちしています。

■リーダー

(131) ホスピタリティとリーダーシップはあるが更に磨きをかけて欲しいと思います。

(132) 中堅になった時にリーダーシップを発揮している貴校出身の職員がいますので、後輩指導のできる人材育成に期待します。

(133) 率先行動やリーダーシップ力

■誠実

(134) 誠実さをもつ学生を育ててくださること

(135) 誠実で協調性のある卒業生の輩出

■倫理的

(136) 論理的思考力の育成

(137) 論理的思考力を高める教育を期待します。

■グローバル

(138) グローバル志向のある学生を多数輩出されることを期待しております。

■採用

(139) 就業意識が高い学生が多い印象。継続的に採用したい。

(140) 当園では人間性を重視した採用を行っているが、御大学ではその基盤を備えた人材育成がなされているように感じる。

(141) OG がいることでまた静岡出身の方がいれば応募していただきたい

(142) 学生様への期待というよりは、貴校の学生様と継続的にご縁のある関係が続く事を期待致します。

(143) 実習やボランティアに当法人にお越し頂き、良さを知った上で、就職頂けるのが理想的ではある。

(144) 弊社に興味がある学生のご紹介

(145) 経営理念「三者総繁栄」のもと、一緒に企業とともに成長してくれるような学生

■人材育成

(146) 今春着任した学生と同様の優秀な人材を期待

(147) 将来を担う優秀な学生の育成

(148) 優秀な学生の輩出

(149) 優秀な学生を輩出すること。

(150) 優秀な人材の育成

(151) 優秀な人材の輩出に期待しています。

(152) 希望と熱意にあふれる学生の輩出

(153) 好奇心溢れる人材の育成
(154) 考動できる人財教育
(155) 人材育成
(156) 高い意識の人材
(157) 質の高い教育
(158) 質の高い業界人への育成
(159) 多様な人材の育成・教育
(160) 多様性に順応する学生の育成です
(161) 多方面で活躍出来る人材の育成
(162) 知識面でも人物面でもすぐに活躍できる人材を輩出していただけることを期待しています。
(163) 長く活躍してくれること

■保健福祉学部
(164) 多様な児童に対して、個を尊重し適切な対応能力の育成
(165) 調理もできる管理栄養士
(166) 栄養士の栄養計算の基礎能力、調理手順の記憶能力
(167) 社会福祉協議会で働きたいと思う人材育成

■情報工学部
(168) エンジニアとして、主体的に技術を学ぶ習慣。
(169) エンジニアとしてキャリアを積んでいきたい学生様を、これからも採用させていただきたいと思います。
(170) AI やビッグデーター、情報の知識を持った学生
(171) 将来管理者になれるような人材育成をしてもらいたい。技術者として成長した後は管理者になってもらいたいが、そのような人が県大問わず少ないため。

■デザイン学部
(172) 東京の美大とは違った、感性に偏らないバランスのとれた人材育成に期待しています。
(173) デザイナーの育成

■その他
(174) 貴学 OB・OG は自分の考えをはっきりと持ち、周囲に働きかける存在です。今後も常に自分の考えを持ち、広く発信できるような学生様とお会いできればと考えております。
(175) 仕事内容全般に関する理解力
(176) 必要な実践事項について自身の強みを伸ばし弱いところは素直に協力を仰ぎながら実行できる姿勢を身に付けること
(177) 就職活動において、キャリアセンターの支援で、主体性のあるイベントの参加など
(178) 障がいがある方などハンデがある方に寄り添いしっかり関わってくれる人材や教育
(179) 早く独り立ちできる育成。基礎力を応用に適用できる人材。

(180) 他者とともに継続して学び、自己を高めていく能力。
(181) 弊社にご入社頂いた方のように、明るく向上心のある学生さまとの出会いを期待しております。今後ともよろしくお願い致します。
(182) 法や道徳を守る倫理観があれば、 そこからはどのような方向にいける。今の世の中一番大切なことだと思います。

■特になし
(183) 採用実績が少ないため、お答え致しかねます。
(184) 具体的には特にありません
(185) 特にありません
(186) 特になし

Q15.期待していない理由はなぜですか？
※前の質問で「あまり期待していない」「全く期待していない」を選択した方の回答（有効回答：1/2、無効回答：1/2）

(1) 地域性が高い職種のため

J 修業年限期間内に卒業・修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数、除籍者数

J-1 学部

入学年度	卒業年度	学部・学科	入学者	修業年限期間内卒業者	修業年限超過卒業者	中途退学者	除籍者	在学者(R5.5現在)	計	修業年限期間内卒業率	退学率
2013 (H25)	2016 (H28)	保健福祉学部	147	141	1	5	0	0	147	95.9%	3.4%
		看護	45	42	0	3	0	0	45	93.3%	6.7%
		栄養	40	38	1	1	0	0	40	95.0%	2.5%
		保健福祉(社)	41	40	0	1	0	0	41	97.6%	2.4%
		保健福祉(子)	21	21	0	0	0	0	21	100.0%	0.0%
		情報工学部	155	136	15	4	0	0	155	87.7%	2.6%
		情報通信	60	55	5	0	0	0	60	91.7%	0.0%
		情報システム	51	46	3	2	0	0	51	90.2%	3.9%
		人間情報	44	35	7	2	0	0	44	79.5%	4.5%
		デザイン学部	93	77	2	13	1	0	93	82.8%	14.0%
		デザイン工	40	36	0	3	1	0	40	90.0%	7.5%
		造形デザイン	53	41	2	10	0	0	53	77.4%	18.9%
		計	395	354	18	22	1	0	395	89.6%	5.6%
2014 (H26)	2017 (H29)	保健福祉学部	146	140	3	2	1	0	146	95.9%	1.4%
		看護	40	37	2	1	0	0	40	92.5%	2.5%
		栄養	41	41	0	0	0	0	41	100.0%	0.0%
		保健福祉(社)	43	42	0	1	1	0	44	97.7%	2.3%
		保健福祉(子)	22	20	1	0	0	0	21	90.9%	0.0%
		情報工学部	144	123	10	9	2	0	144	85.4%	6.3%
		情報通信	54	51	1	2	0	0	54	94.4%	3.7%
		情報システム	50	43	2	4	1	0	50	86.0%	8.0%
		人間情報	40	29	7	3	1	0	40	72.5%	7.5%
		デザイン学部	90	75	3	12	0	0	90	83.3%	13.3%
		デザイン工	40	34	2	3	0	0	39	85.0%	7.5%
		造形デザイン	50	41	1	9	0	0	51	82.0%	18.0%
		計	380	338	16	23	3	0	380	88.9%	6.1%
2015 (H27)	2018 (H30)	保健福祉学部	147	143	2	2	0	0	147	97.3%	1.4%
		看護	43	39	2	2	0	0	43	90.7%	4.7%
		栄養	43	43	0	0	0	0	43	100.0%	0.0%
		保健福祉(社)	41	41	0	0	0	0	41	100.0%	0.0%
		保健福祉(子)	20	20	0	0	0	0	20	100.0%	0.0%
		情報工学部	156	129	18	8	1	0	156	82.7%	5.1%
		情報通信	66	53	10	3	0	0	66	80.3%	4.5%
		情報システム	50	44	3	2	1	0	50	88.0%	4.0%
		人間情報	40	32	5	3	0	0	40	80.0%	7.5%
		デザイン学部	95	79	8	7	1	0	95	83.2%	7.4%
		デザイン工	45	41	2	2	0	0	45	91.1%	4.4%
		造形デザイン	50	38	6	5	1	0	50	76.0%	10.0%
		計	398	351	28	17	2	0	398	88.2%	4.3%
2016 (H28)	2019 (H31)	保健福祉学部	148	138	8	2	0	0	148	93.2%	1.4%
		看護	43	42	1	0	0	0	43	97.7%	0.0%
		栄養	40	35	5	0	0	0	40	87.5%	0.0%
		保健福祉(社)	43	40	2	1	0	0	43	93.0%	2.3%
		保健福祉(子)	22	21	0	1	0	0	22	95.5%	4.5%
		情報工学部	177	144	20	11	0	2	177	81.4%	6.2%
		情報通信	58	46	6	6	0	0	58	79.3%	10.3%
		情報システム	61	51	5	3	0	2	61	83.6%	4.9%
		人間情報	58	47	9	2	0	0	58	81.0%	3.4%
		デザイン学部	92	79	2	10	1	0	92	85.9%	10.9%
		デザイン工	42	37	2	4	0	0	43	88.1%	9.5%
		造形デザイン	50	42	0	6	1	0	49	84.0%	12.0%
		計	417	361	30	23	1	2	417	86.6%	5.5%

入学年度	卒業年度	学部・学科	入学者	修業年限期間内卒業者	修業年限超過卒業者	中途退学者	除籍者	在学者(R5.5現在)	計	修業年限期間内卒業率	退学率
2017	2020	保健福祉学部	147	145	0	2	0	0	147	98.6%	1.4%
(H29)	(R2)	看護	41	41	0	0	0	0	41	100.0%	0.0%
		栄養	44	44	0	0	0	0	44	100.0%	0.0%
		保健福祉(社)	41	40	0	1	0	0	41	97.6%	2.4%
		保健福祉(子)	21	20	0	1	0	0	21	95.2%	4.8%
		情報工学部	169	146	13	8	1	1	169	86.4%	4.7%
		情報通信	64	58	5	1	0	0	64	90.6%	1.6%
		情報システム	62	55	4	2	0	1	62	88.7%	3.2%
		人間情報	43	33	4	5	1	0	43	76.7%	11.6%
		デザイン学部	92	79	6	5	0	2	92	85.9%	5.4%
		デザイン工	40	35	5	1	0	0	41	87.5%	2.5%
		造形デザイン	52	44	1	4	0	2	51	84.6%	7.7%
		計	408	370	19	15	1	3	408	90.7%	3.7%
2018	2021	保健福祉学部	148	141	1	5	0	1	148	95.3%	3.4%
(H30)	(R3)	看護	44	44	0	0	0	0	44	100.0%	0.0%
		栄養	43	39	0	3	0	1	43	90.7%	7.0%
		保健福祉(社)	41	38	1	2	0	0	41	92.7%	4.9%
		保健福祉(子)	20	20	0	0	0	0	20	100.0%	0.0%
		情報工学部	149	132	5	4	0	8	149	88.6%	2.7%
		情報通信	59	50	2	2	0	5	59	84.7%	3.4%
		情報システム	50	42	3	2	0	3	50	84.0%	4.0%
		人間情報	40	40	0	0	0	0	40	100.0%	0.0%
		デザイン学部	93	82	1	4	1	5	93	88.2%	4.3%
		デザイン工	43	41	0	0	0	3	44	95.3%	0.0%
		造形デザイン	50	41	1	4	1	2	49	82.0%	8.0%
		計	390	355	7	13	1	14	390	91.0%	3.3%
2019	2022	保健福祉学部	151	145	0	3	0	3	151	96.0%	2.0%
(H31)	(R4)	看護	42	40	0	2	0	0	42	95.2%	4.8%
		栄養	40	39	0	0	0	1	40	97.5%	0.0%
		保健福祉(社)	47	45	0	0	0	2	47	95.7%	0.0%
		保健福祉(子)	22	21	0	1	0	0	22	95.5%	4.5%
		情報工学部	158	136	0	7	0	15	158	86.1%	4.4%
		情報通信	50	44	0	2	0	4	50	88.0%	4.0%
		情報システム	64	51	0	3	0	10	64	79.7%	4.7%
		人間情報	44	41	0	2	0	1	44	93.2%	4.5%
		デザイン学部	100	83	0	7	0	10	100	83.0%	7.0%
		デザイン工	45	40	0	2	0	3	45	88.9%	4.4%
		造形デザイン	55	43	0	5	0	7	55	78.2%	9.1%
		計	409	364	0	17	0	28	409	89.0%	4.2%

J-2 研究科(博士前期課程・修士課程)

入学年度	修了年度	研究科	入学者	修業年限期間内修了者	修業年限超過修了者	中途退学者	除籍者	在学者(R5.5現在)	計	修業年限期間内卒業率	退学率
2015	2016	保健福祉(前期)	22	13	8	1	0	0	22	59.1%	4.5%
(H27)	(H28)	情報系工(前期)	66	59	2	5	0	0	66	89.4%	7.6%
		デザイン(修士)	6	5	0	1	0	0	6	83.3%	16.7%
		計	94	77	10	7	0	0	94	81.9%	7.4%
2016	2017	保健福祉(前期)	24	20	3	1	0	0	24	83.3%	4.2%
(H28)	(H29)	情報系工(前期)	48	48	0	0	0	0	48	100.0%	0.0%
		デザイン(修士)	7	5	1	1	0	0	7	71.4%	14.3%
		計	79	73	4	2	0	0	79	92.4%	2.5%
2017	2018	保健福祉(前期)	21	16	5	0	0	0	21	76.2%	0.0%
(H29)	(H30)	情報系工(前期)	46	41	3	2	0	0	46	89.1%	4.3%
		デザイン(修士)	4	4	0	0	0	0	4	100.0%	0.0%
		計	71	61	8	2	0	0	71	85.9%	2.8%
2018	2019	保健福祉(前期)	22	13	7	2	0	0	22	59.1%	9.1%
(H30)	(H31)	情報系工(前期)	41	38	1	2	0	0	41	92.7%	4.9%
		デザイン(修士)	3	3	0	0	0	0	3	100.0%	0.0%
		計	66	54	8	4	0	0	66	81.8%	6.1%
2019	2020	保健福祉(前期)	17	15	2	0	0	0	17	88.2%	0.0%
(H31)	(R2)	情報系工(前期)	45	42	1	2	0	0	45	93.3%	4.4%
		デザイン(修士)	7	4	0	3	0	0	7	57.1%	42.9%
		計	69	61	3	5	0	0	69	88.4%	7.2%
2020	2021	保健福祉(前期)	23	15	5	2	0	1	23	65.2%	8.7%
(R2)	(R3)	情報系工(前期)	43	37	2	4	0	0	43	86.0%	9.3%
		デザイン(修士)	4	2	1	0	1	0	4	50.0%	0.0%
		計	70	54	8	6	1	1	70	77.1%	8.6%
2021	2022	保健福祉(前期)	22	20	0	0	0	2	22	90.9%	0.0%
(R3)	(R4)	情報系工(前期)	53	45	0	5	0	3	53	84.9%	9.4%
		デザイン(修士)	9	6	0	1	0	2	9	66.7%	11.1%
		計	84	71	0	6	0	7	84	84.5%	7.1%

J-3 研究科(博士後期課程)

入学年度	修了年度	研究科	入学者	修業年限期間内修了者	修業年限超過修了者	中途退学者	除籍者	在学者(R5.5現在)	計	修業年限期間内卒業率	退学率
2015	2017	保健福祉(後期)	7	5	0	2	0	0	7	71.4%	28.6%
(H27)	(H29)	情報系工(後期)	3	0	1	2	0	0	3	0.0%	66.7%
		計	10	5	1	4	0	0	10	50.0%	40.0%
2016	2018	保健福祉(後期)	6	1	3	2	0	0	6	16.7%	33.3%
(H28)	(H30)	情報系工(後期)	2	0	0	0	0	2	2	0.0%	0.0%
		計	8	1	3	2	0	2	8	12.5%	25.0%
2017	2019	保健福祉(後期)	8	2	1	3	0	2	8	25.0%	37.5%
(H29)	(H31)	情報系工(後期)	3	2	1	0	0	0	3	66.7%	0.0%
		計	11	4	2	3	0	2	11	36.4%	27.3%
2018	2020	保健福祉(後期)	7	1	1	3	0	2	7	14.3%	42.9%
(H30)	(R2)	情報系工(後期)	1	1	0	0	0	0	1	100.0%	0.0%
		計	8	2	1	3	0	2	8	25.0%	37.5%
2019	2021	保健福祉(後期)	7	2	1	1	0	3	7	28.6%	14.3%
(H31)	(R3)	情報系工(後期)	5	2	0	1	0	2	5	40.0%	20.0%
		計	12	4	1	2	0	5	12	33.3%	16.7%
2020	2022	保健福祉(後期)	7	1	0	1	0	5	7	14.3%	14.3%
(R2)	(R4)	情報系工(後期)	1	0	0	0	0	1	1	0.0%	0.0%
		計	8	1	0	1	0	6	8	12.5%	12.5%

K 国際交流

K-1 学生の海外派遣プログラム

種別	授業科目・研修・事業名	派遣先	期間
共通教育科目	語学文化研修(英語)	バンガー大学[イギリス]	8月下旬～9月中旬
	語学文化研修(韓国語)	梨花女子大学[韓国]	8月下旬～9月上旬
	語学文化研修(英語)	アデレイド大学 [オーストラリア]	2月下旬～3月中旬
保健福祉学部教育科目	海外研修(保健福祉学)	南オーストラリア大学、TAFE SA、他 [オーストラリア]	8月下旬～9月上旬
		香港理工大学[香港]	9月中旬～9月下旬
		又松大学校[韓国]	9月中旬～9月下旬
保健福祉学研究科教育科目	海外研修(保健福祉学研究)	カセサート大学[タイ]	9月中旬～9月下旬
		ダンヌンツィオ大学 [イタリア]	11月上旬～11月中旬
情報工学部教育科目	海外インターンシップ	マラッカ技術大学 [マレーシア]	8月中旬～9月中旬
国際交流活動	米国スタディツアー	ポートランド州立大学 [アメリカ]	8月下旬～9月中旬

K-2 海外学生の受入プログラム

研修・事業名	参加大学	期間
日本語・日本文化研修	河南科技大学 他	7月下旬
香港理工大学短期交換看護研修	香港理工大学	7月下旬～8月上旬

K-3 留学生受入人数

大学名[国名]	学部(うち研究生)			博士前期課程・修士課程			博士後期課程		合計
	保福	情報	デザ	保福	情報	デザ	保福	情報	
又松大学校 [韓国]									0
南昌大学 [中国]							1		1
河南科技大学 [中国]									0
雲林科技大学 [台湾]									0
ハサヌディン大学 [インドネシア]									0
カセサート大学 [タイ]									0
トリブバン大学 [ネパール]									0
協定校以外からの一般入学等			1	1					2
合計	0	0	1	1	0	0	1	0	3

L 高大連携協定等に基づく授業に係る高等学校への講師派遣および生徒の受入

授業あり
講師派遣

No.	実施日	時間	区分	分野	申込者	参加	開催場所	学年	人数	内容	教職員名
1	6/8(水)	14:15～16:05	講師派遣	保福系	岡山操山高校	対面	岡山操山高校(岡山)	2	274	ワールド・ワイド・ラーニング コンソーシアム(アドバイザー)	周防美智子
2	6/8(水)	14:15～16:05	講師派遣	情工系	岡山操山高校	対面	岡山操山高校(岡山)	2	274	ワールド・ワイド・ラーニング コンソーシアム(アドバイザー)	末岡浩治
3	6/21(火)	13:30～15:15	講師派遣	看護系	岡山南高校	対面	岡山南高校(岡山)	3	16	「介護予防について」の講義、実技指導	高戸仁郎
4	6/24(金)	16:00～17:00	講師派遣	情工系	倉敷古城池高校	対面	倉敷古城池高校(岡山)	1･2･3	40	模擬講義(研究紹介)	稲井寛
5	7/5(火)		講師派遣	保福系	大館鳳鳴高校	オンライン	オンライン (メール、オンライン会議 システム使用)	2	5	探究学習指導	田中晃一
6	10/5(水)	14:15～16:05	講師派遣	保福系	操山高校(WWL)	対面	岡山操山高校(岡山)	2	19	ワールド・ワイド・ラーニング コンソーシアム(アドバイザー)	周防美智子
7	10/5(水)	14:15～16:05	講師派遣	情工系	操山高校(WWL)	対面	岡山操山高校(岡山)	2	19	ワールド・ワイド・ラーニング コンソーシアム(アドバイザー)	末岡浩治
8	11/2(水)	13:25～15:15	講師派遣	美術系	岡山南高校	対面	岡山南高校(岡山)	1	38	「テキスタイルデザインについて」の講義、実技指導	渡邊操
9	12/14(水)	14:15～16:05	講師派遣	情工系	操山高校(WWL)	対面	岡山操山高校(岡山)	1	15	ワールド・ワイド・ラーニング コンソーシアム(アドバイザー)	末岡浩治
10	12/14(水)	14:15～16:05	講師派遣	保福系	操山高校(WWL)	対面	岡山操山高校(岡山)	1	20	ワールド・ワイド・ラーニング コンソーシアム(アドバイザー)	周防美智子

受入れ
データ無

M 高等学校への講師派遣および生徒の受入（授業以外）

授業以外
講師派遣

	実施日	時間	区分	分野	申込者	参加	開催場所	学年	人数	内容	教職員名
1	8/26(金)	15:00～16:00	講師派遣	一般	就実高校	対面	就実高校(岡山)	2	33	大学説明	佐竹恭介

受入れ

	実施日	時間	区分	分野	申込者	参加	開催場所	学年	人数	内容	教職員名
1	4/22(金)	9:30～11:00	大学訪問	美術系	岡山工業高等学校	対面	学内:8201	2	42	大学概要説明/デザイン学部説明	嘉数彰彦
2	6/24(金)	12:40～15:00	大学訪問	一般	岡山学芸館高校	対面	学内:8206	1	174	大学概要各学部説明	伊東秀之
3	7/5(火)	13:30～16:00	大学訪問	美術系	岡山県立総社高校	対面	岡山県立大学	1･2	24	デザイン学部説明、施設紹介	北山由紀雄 津田勢太
4	8/9(火)	14:00～15:30	大学訪問	一般	静岡県立島田高等学	対面	学内	教員	1	大学説明	佐竹恭介
5	10/14(金)	11:00～15:00	大学訪問	一般	沖縄県高校生進学エンカレッジ事業	対面	学内	1･2	29	学内見学	高戸仁郎
6	10/21(金)	9:15～11:30	大学訪問	美術系	倉敷工業高校	対面	学内	2	40	学部説明	難波久美子

N　学生・学生団体等の受賞

岡山県立大学 Web サイトの下記ページを参照してください。
・「岡山県立大学（ホームページ）」
↓
「大学案内」
↓
「学生・教員の受賞情報」
※学生・教員の受賞情報｜お知らせ一覧｜岡山県立大学（oka-pu.ac.jp）

O 委員会等の審議事項

O-1 大学活動委員会

第１回（令和４年４月 14 日）

（1） 「おかやま組込みシステム・AI 講座」に係る寄付講座について
（2） 令和４年度公開講座について
（3） 令和３年度授業改善意見交換会について
（4） 令和３年度 FD 活動への教員参加状況について
（5） 令和３年度アクティブ・ラーニング実施状況について

第２回（令和４年５月 12 日）

（1） 令和４（2022）年度後期交換留学生について
（2） 内部質保証推進体制（案）について
（3） 令和３年度授業改善アンケート結果について
（4） 令和３年度卒業時・修了時アンケート結果について

第３回（令和４年６月９日）

（1） 公立大学法人岡山県立大学安全保障輸出管理規則等の制定について
（2） 岡山県立大学における研究費の不正使用防止等に関する規程の改正について
（3） 成績分布の検証について
（4） 海外学術交流協定締結校との交流状況調査結果について
（5） 2022 年度入学者用「デザイン工学専攻授業科目表」の訂正について

O-2 大学運営委員会

第１回（令和４年７月 14 日）

（1） 令和５（2023）年度前期交換留学生の募集について
（2） 令和５（2023）年度転学生の募集について
（3） FD・SD 研修会の開催について
（4） 相互授業参観の実施について
（5） 開学 30 周年記念　学生食堂リニューアル基本計画案について
（6） 外部資金の獲得状況について
（7） OPU フォーラム 2022 の開催結果について
（8） 海外大学との大学間交流協定のうち協定が完了した大学への対応について

第２回（令和４年９月８日）

（1） 大学院 CP の修正について
（2） 令和４年度地域創造戦略センター客員教授について

（3） 令和 4 年度 TOEIC L&R IP テストの実施について
（4） 特に配慮を要する学生の支援について
（5） 海外大学との学術交流協定書のひな型（英語版）の活用等について
（6） 「岡山県立大学教育研究紀要 2022」論文等募集について

第 3 回（令和 4 年 10 月 13 日）
（1） 「技術者と社会」に係る寄附講座について
（2） 「OPU フォーラム 2023」の開催方針について
（3） 令和 4 年度のエネルギー使用量について
（4） 成績分布の検証結果について
（5） 「高校生のための大学授業開放 2022」の実施結果について
（6） 令和 4 年度公開講座の実施報告について
（7） 「岡山県立大学　第 30 回県大祭の概要」について
（8） 令和 4 年度入学生の TOEIC L&R IP の結果報告について

第 4 回（令和 4 年 11 月 10 日）
（1） 卒業時アンケート及び学科 DP 達成度アンケートの全学年実施について
（2） 修了時アンケートと在学生への学修達成度アンケートについて
（3） 2022 年度学生生活アンケートの実施について
（4） 岡山県立大学における国際交流協定締結等に関する方針について
（5） 「学研災・学研賠」の正課外インターンシップへの適用について
（6） 文部科学省・令和 4 年度「全国学生調査（第 3 回試行）」への参加について
（7） 令和 4 年度第 1 回 FD・SD 研修会報告について
（8） 令和 5 年度全学講義に係る講師候補について

第 5 回（令和 4 年 12 月 8 日）
（1） 次期（第 4 期）中期目標・中期計画について
（2） 社会貢献年報 2022 について
（3） 教育年報 2022 について
（4） 2021 年度就職先アンケート結果報告について
（5） 2022 年度休学・退学状況について
（6） 文部科学省「全国学生調査（第 2 回試行実施）」結果報告について

第 6 回（令和 5 年 1 月 12 日）
（1） 岡山県立大学学則の一部改正について
（2） FD・SD 研修会の開催について
（3） 授業改善意見交換会の開催について

（4） 令和５年度「大学で学ぶ」について
（5） （仮称）学生会館１階リニューアル　基本設計案について
（6） （仮称）学生会館１階リニューアル　愛称募集要項案について
（7） スチューデント・アシスタント及びティーチング・アシスタント制度の整備について

第７回（令和５年２月２日）
（1） 第３期中期計画に係る令和５年度計画について
（2） 第４期中期目標・中期計画策定に向けた課題等について
（3） 岡山県立大学学則の一部改正について
（4） 岡山県立大学履修規程の一部改正について
（5） 岡山県立大学大学院履修規程の一部改正について
（6） 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）の一部改正について
（7） 成績評価におけるルーブリックの導入について
（8） 成績評価に関する自己点検・評価の結果と改善方針について
（9） 内部質保証推進活動に係る「自己点検評価の結果と改善方針」の決定までの流れについて
（10） 災害医療援助論演習の２単位化について
（11） 授業実施形態及びアクティブ・ラーニング等調査について
（12） FD・SD 研修会（吉備の杜シンポジウム 2023）について
（13） 令和４年度情報セキュリティ研修報告について

メール審議（令和５年２月 14 日）
（1） 「岡山県立大学履修規程の一部改正」（情報工学部各学科：岡山県立大学履修規程「別表３」の科目名の変更）について

第８回（令和５年３月９日）
（1） 第３期中期計画令和５年度計画（案）について
（2） 令和５年度客員教授等（全学センター関係）について
（3） 「地域創造戦略センターが実施する事業に参加する学生に関する助成要綱」の廃止及び「地域創造戦略センターにおける学生助成金交付要綱」の制定について
（4） 自己点検・評価の結果と改善方針について
（5） 令和５年度公開講座について
（6） 令和５年度 TOEIC L&R IP テストの実施について
（7） 令和４年度後期アドバイザー制度の実績及び令和５年度アドバイザー制度の実施について
（8） 令和４年度後期の TOEIC L&R IP の結果報告について
（9） 2022 年度学生生活アンケート結果について
（10） 「キャリア・学生生活支援センターFD・SD 研修会（障がい学生支援研修会）について

(11)「岡山県立大学教育研究紀要 2022」発行について

メール審議(令和５年３月 11 日)

(1)　岡山県立大学委員会専門委員会細則の一部改正について

O-3　教務学部専門委員会

第１回(令和４年５月 12 日)

(1)　令和４年度教務学部専門委員会開催日程について

(2)　４年次生に係る年度末日程について

第２回(令和４年６月９日)

(1)　令和５年度開講計画等の協議スケジュールについて

(2)　令和５年度共通教育科目の開講計画への要望等について(依頼)

(3)　令和４年度前期語学文化研修について

第３回(令和４年７月 14 日)

(1)　令和５年度共通教育科目の新設・廃止について

(2)　令和５年度共通教育科目の開講計画について(審議)

(3)　令和５年度学部教育科目の卒業要件・開講計画およびカリキュラムマップの点検について(依頼)

(4)　令和５年度学部教育科目の新設について(保健福祉学部)

第４回(令和４年９月８日)

(1)　令和５年度共通教育科目の名称変更について

(2)　令和５年度共通教育科目の開講計画の変更について

(3)　令和５年度共通教育科目の時間割について(審議)

(4)　令和５年度学部教育科目の新設・名称変更について(情報工学部)

(5)　令和５年度学部教育科目の卒業要件・開講計画およびカリキュラムマップの点検について(審議)

(6)　令和５年度学部教育科目の時間割編成について(依頼)

(7)　環境科学論Ｄの不開講について

(8)　後期の教務関係スケジュールについて

第５回(令和４年 10 月 13 日)

(1)　令和５年度教務・学生生活関係スケジュールについて

第 6 回（令和 4 年 11 月 10 日）

（1） 令和 5 年度学部教育科目の時間割編成について（審議）
（2） 令和 5 年度履修案内の原稿作成について（依頼）
（3） 令和 5 年度「大学コンソーシアム岡山」への提供科目について（依頼）
（4） 卒業研究の成績評価におけるルーブリックの導入について（依頼）
（5） 内部質保証に係る自己点検・評価の結果と改善方針について
（6） グレート・ポイント・アベレージ（GPA）の活用について

第 7 回（令和 4 年 12 月 8 日）

（1） 令和 5 年度廃止および臨時に設ける授業科目について（依頼）
（2） 令和 5 年度「シラバス」の作成について
（3） 成績評価に関する自己点検・評価の結果と改善方針について

第 8 回（令和 5 年 1 月 12 日）

（1） 成績評価におけるルーブリックの導入について
（2） 令和 5 年度シラバス作成の手引き等について
（3） 令和 5 年度「大学コンソーシアム岡山」への提供科目について（審議）
（4） 令和 5 年度図書館ガイダンスの実施について（依頼）
（5） 令和 4 年度後期海外研修について

第 9 回（令和 5 年 2 月 9 日）

（1） 令和 5 年度共通教育科目の名称変更について
（2） 令和 5 年度廃止および臨時に設ける授業科目について（審議）
（3） 令和 5 年度履修案内について（審議）
（4） DP ならびにシラバスの到達目標の学生への周知について
（5） 令和 5 年度「大学コンソーシアム岡山」への提供科目について（報告）
（6） 成績評価におけるルーブリックの導入について

第 10 回（令和 5 年 2 月 14 日）

（1） 令和 5 年度学部教育科目の名称変更について（情報工学部）

第 11 回（令和 5 年 3 月 9 日）

（1） 令和 5 年度在学生用履修案内について
（2） DP ならびにシラバスの到達目標の学生への周知について
（3） 令和 5 年度図書館ガイダンスの実施について（報告）

O-4 教務大学院専門委員会

第１回（令和４年６月９日）

（1） 令和４年度教務大学院専門委員会開催日程について
（2） 令和５年度開講計画等の作成スケジュールについて
（3） 令和５年度研究科共通基盤科目群の開講計画および時間割について（依頼）
（4） 令和５年度大学院授業科目の新設について（情報系工学研究科）
（5） 2022 年度入学生用「デザイン学研究科デザイン工学専攻授業科目表」の訂正について

第２回（令和４年９月８日）

（1） 令和５年度研究科共通基盤科目群の名称変更、科目の新設・名称変更開講計画および時間割について
（2） 令和５年度大学院教育科目の開講計画について（依頼）
（3） 令和５年度大学院授業科目の新設について（情報系工学研究科）
（4） 令和４年度後期の教務関係スケジュールについて

第３回（令和４年 11 月 10 日）

（1） 特別研究の成績評価におけるルーブリックの導入について
（2） 大学院における GPA 導入について
（3） 大学院における研究指導計画の公表について
（4） 内部質保証に係る自己点検・評価の結果と改善方針について

第４回（令和４年 12 月８日）

（1） 大学院における GPA 導入について
（2） 令和５年度大学院授業科目の廃止・名称変更について（保健福祉学研究科）
（3） 令和５年度大学院授業科目の廃止について（情報系工学研究科）
（4） 令和５年度大学院教育科目の開講計画について（審議）
（5） 令和５年度「シラバス」の作成について
（6） 令和５年度履修案内について（依頼）
（7） 令和５年度授業科目の廃止および臨時に設ける科目について（依頼）
（8） 令和５年度教務・学生生活関係スケジュールについて
（9） 成績評価に関する自己点検・評価の結果と改善方針について
（10） 大学院における研究指導計画の公表について

第５回（令和５年１月 12 日）

（1） 大学院における GPA 導入について
（2） 成績評価におけるルーブリックの導入について
（3） 令和５年度シラバス作成の手引き等について

第６回（令和５年２月９日）

（1） 令和５年度大学院授業科目の新設について（保健福祉学研究科）

（2） 令和５年度大学院授業科目の新設・廃止について（情報系工学研究科）

（3） 令和５年度授業科目の廃止および臨時に設ける科目について（審議）

（4） 令和５年度履修案内について（審議）

（5） DP ならびにシラバスの到達目標の学生への周知について

（6） 「災害医療援助論演習」の単位数変更について

（7） 成績評価におけるルーブリックの導入について

P 文部科学省「全国学生調査(第 2 回試行実施)」[1]

■実施期間　　2022 年 1 月 31 日(月)～2 月 28 日(月)

■回答方法　　インターネット

■調査対象　　2 年次生、4 年次生

■回答率(Q1:学部、Q2:専門分野、Q3:学年)

学部					【参考】令和元年度学内調査(3 年次対象) (#)		
	年次	回答数	対象者(*)	回答率	回答数	対象者(*)	回答率
保健福祉学部		240	299	80.3%	80	147	54.4%
	2 年次	114	149	76.5%			
	4 年次	126	150	84.0%			
情報工学部		140	315	44.4%	44	166	26.5%
	2 年次	54	138	39.1%			
	4 年次	86	177	48.6%			
デザイン学部		59	195	30.3%	46	91	50.5%
	2 年次	30	93	32.3%			
	4 年次	29	102	28.4%			
全学		439	809	54.3%	170	404	42.1%
	2 年次	198	380	52.1%			
	4 年次	241	429	56.2%			

(*) 「対象者」は当該年度 5 月 1 日時点(「大学概要」より)

(#) 令和元年度「全国学生調査(試行実施)」には参加せず、本学独自に調査を実施

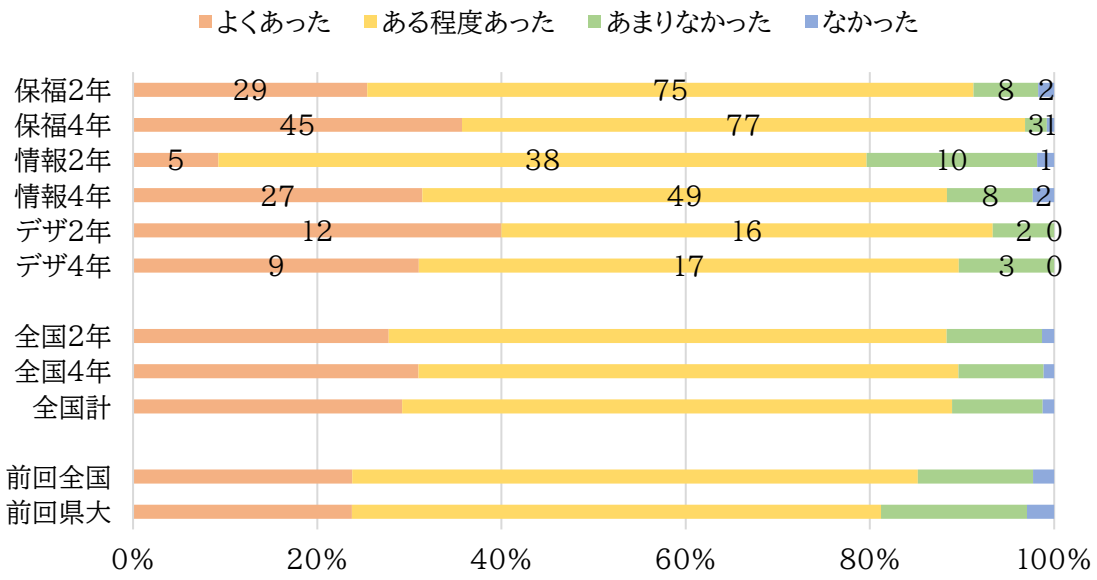
【参考】全体回答状況		対象大学数	対象学部数	対象学生数	有効回答者数	有効回答率
全国		582 大学	2,117 学部	949,482	112,341	11.8%
	2 年生			466,351	59,559	12.8%
	4 年生			465,813	50,314	10.8%
前回	3 年生	515 大学	1,689 学部	407,014	111,051	27.3%

(注) 以下のグラフで最下段に示される「前回全国」、「前回県大」は、令和元年度に 3 年次生を対象に実施された調査(それぞれ、文部科学省、本学独自による)において、今回と類似の設問に対する結果を「教育年報 2020」pp.(セ-11)～(セ-28)より引用した。

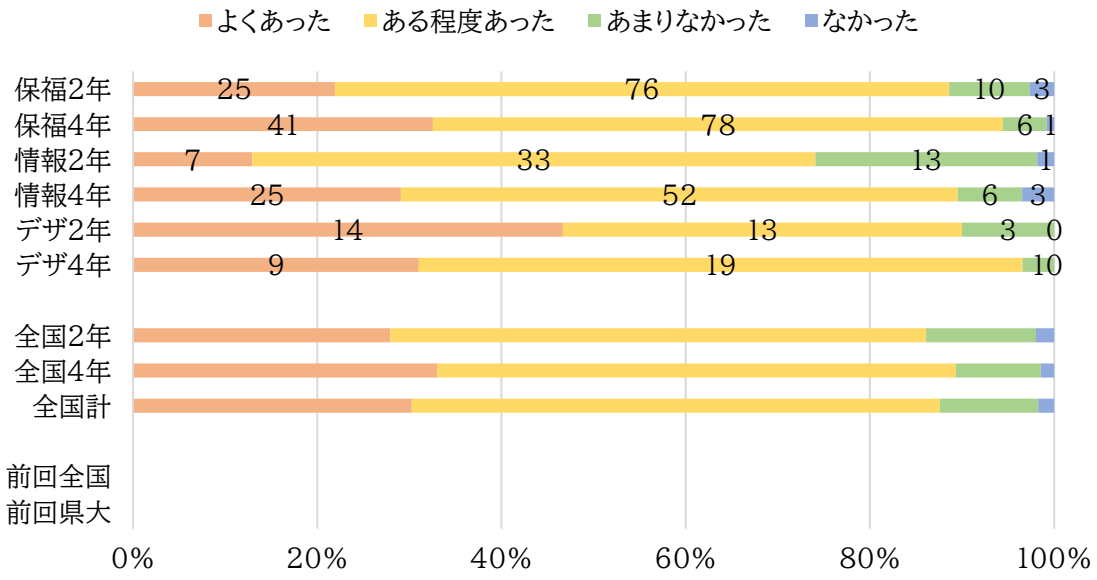
[1] 文部科学省, 令和 3 年度「全国学生調査(第 2 回試行実施)」の結果について, https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/chousa/1421136.htm (2023 年 5 月 1 日閲覧)

問１ 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

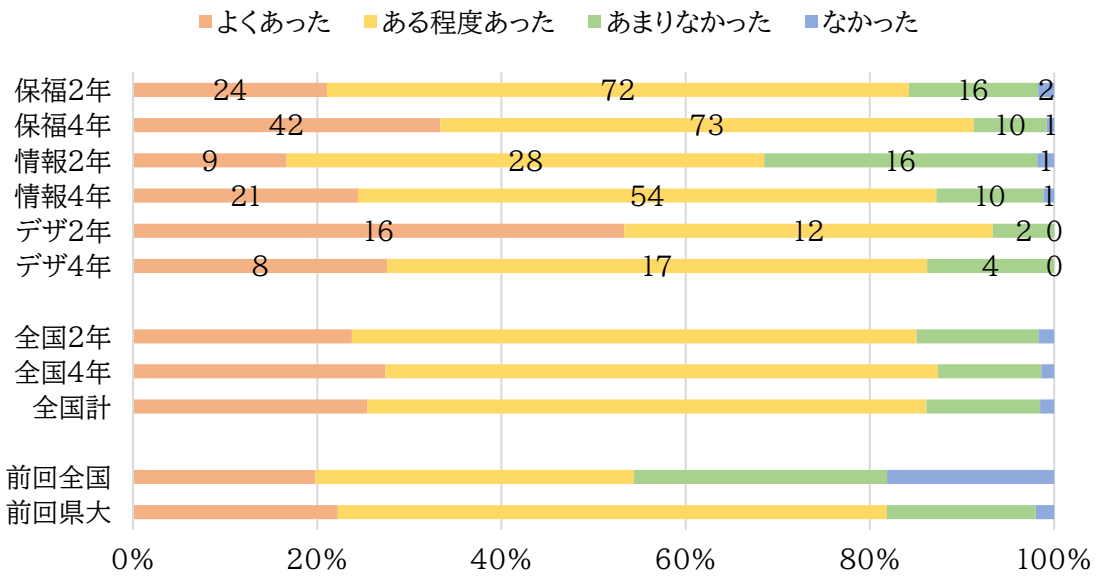
Q4　授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた。



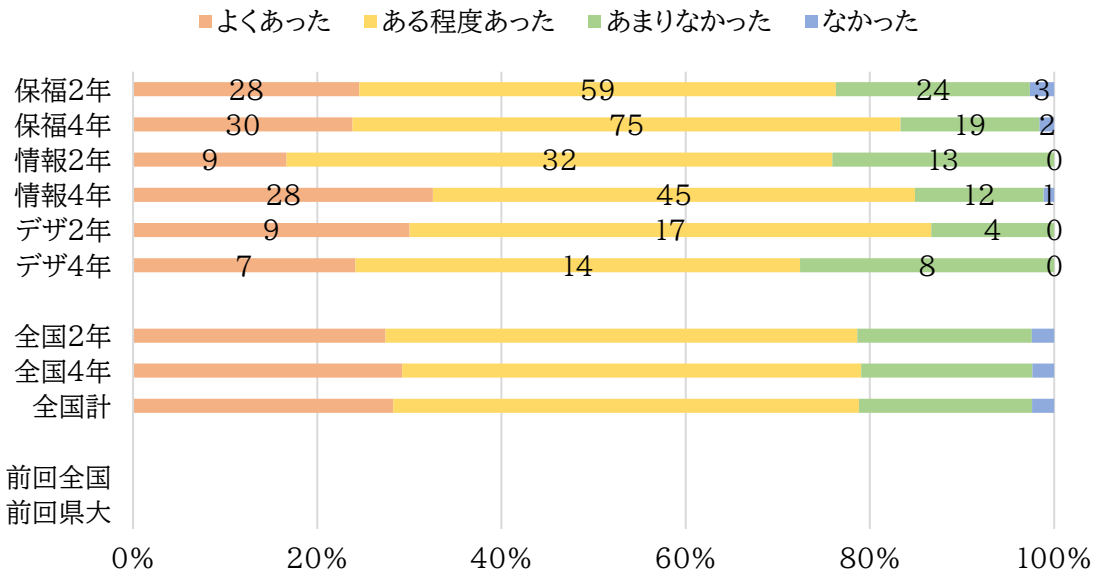
Q5　授業内容やその分野を学びたいという意欲がわく内容だった。



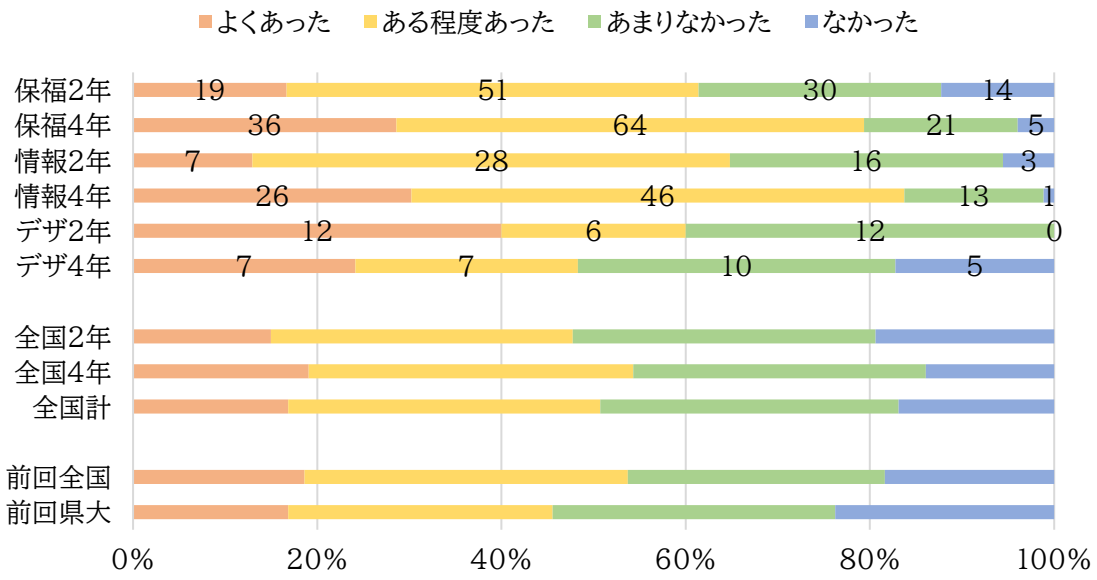
Q6　理解しやすいように教え方が工夫されていた。



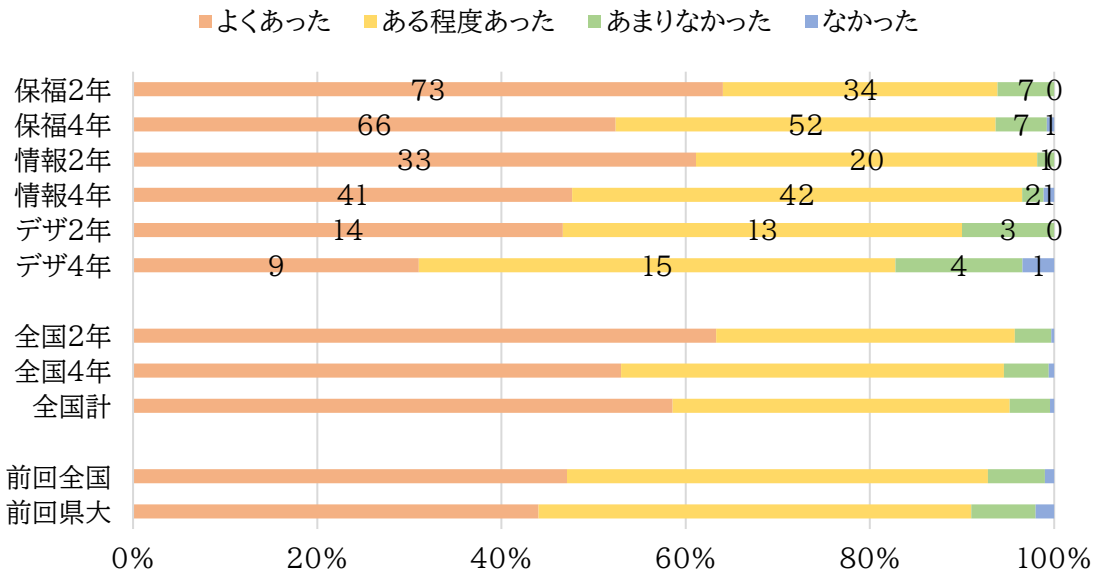
Q7　予習・復習などの自主学習について授業やシラバスで指示があった。



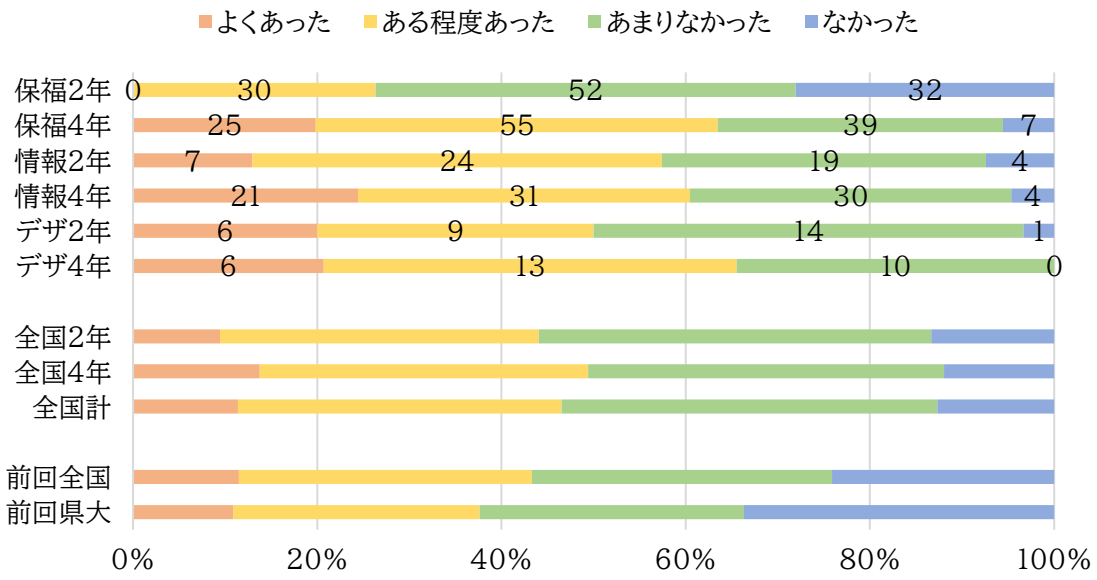
Q8　教員以外にアシスタントなどが配置され、補助的な指導があった。



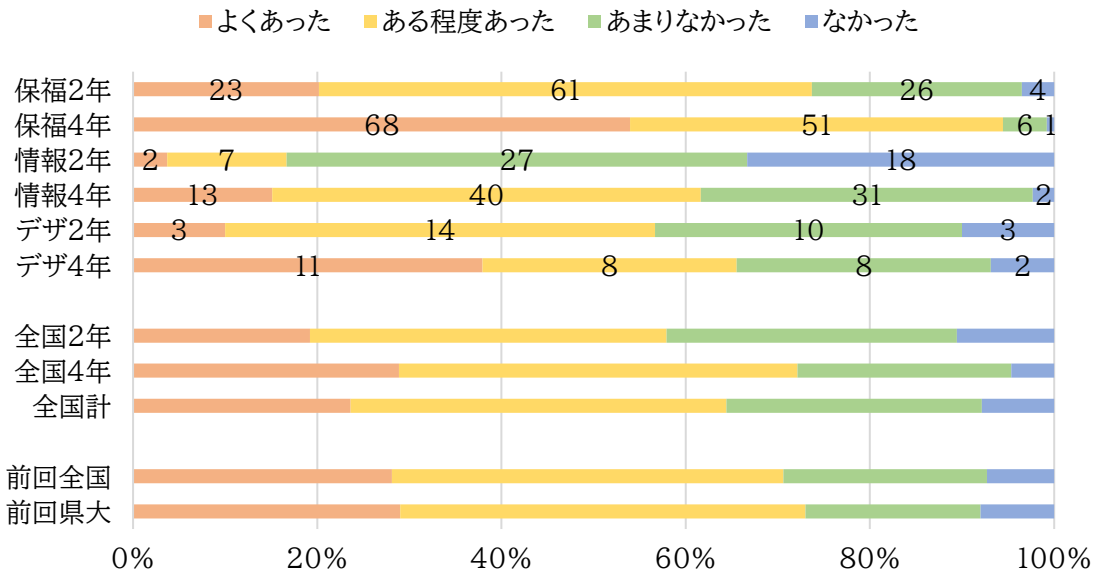
Q9　小テストやレポートなどの課題が出された。 ※期末試験は除く



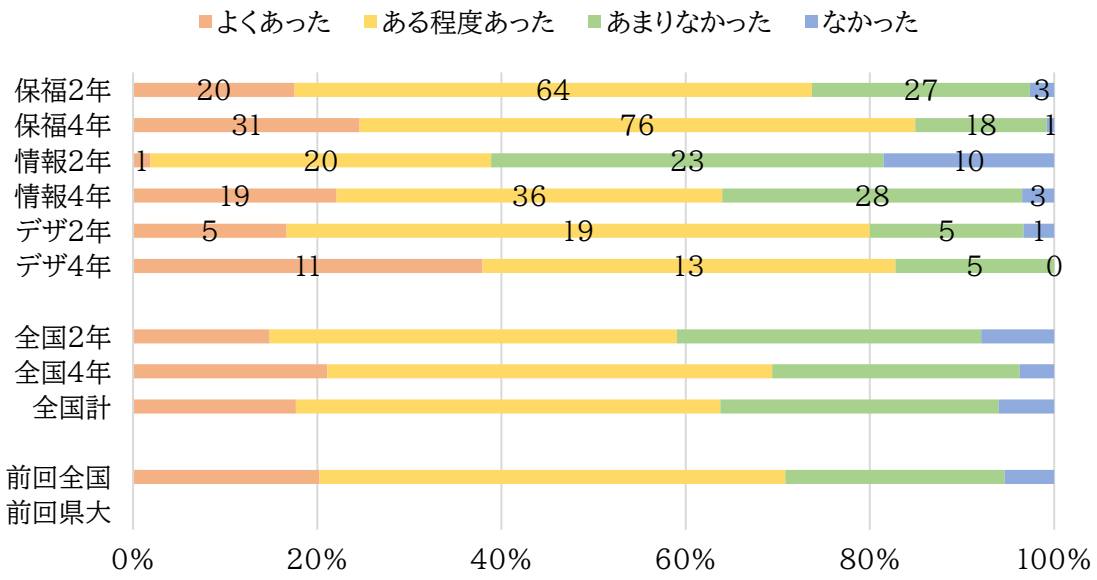
Q10　課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却された。



Q11　グループワークやディスカッションの機会があった。

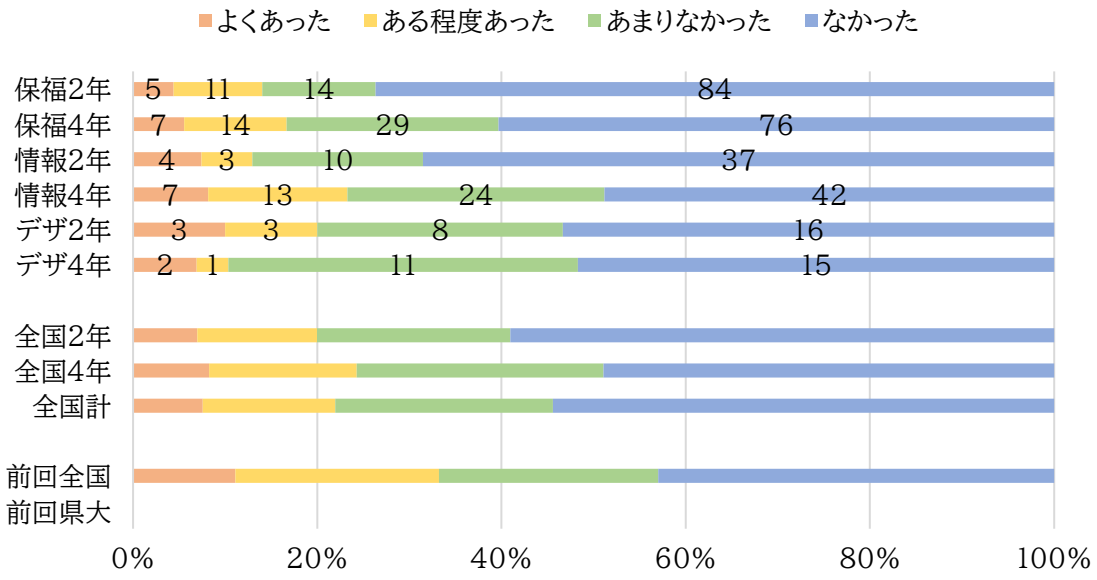


Q12　教員から意見を求められるなど、質疑応答の機会があった。

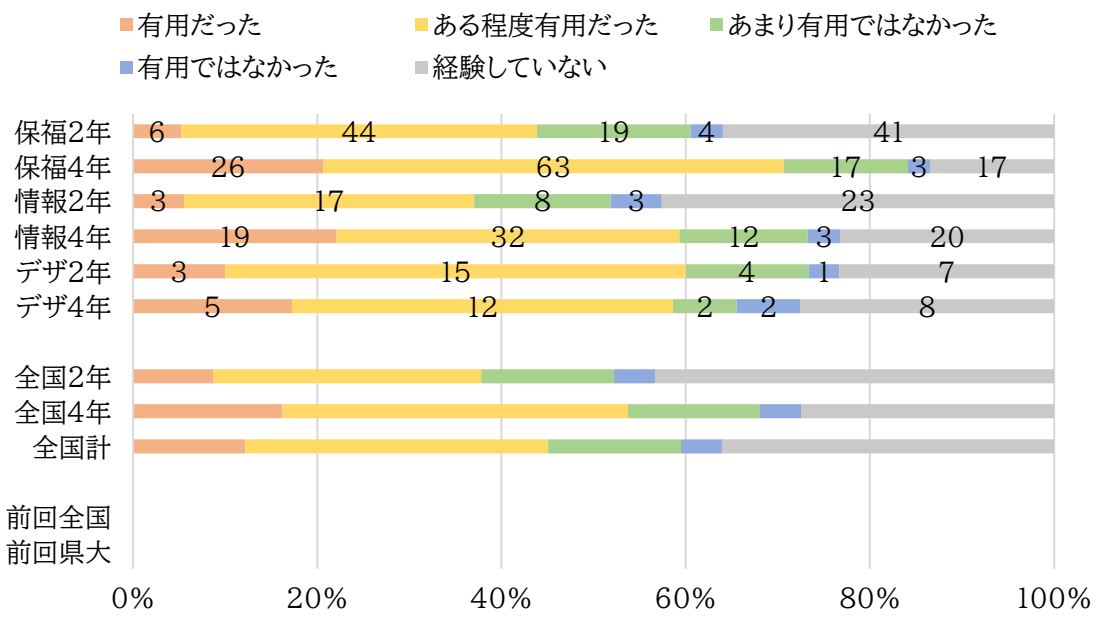


問２ 大学に入ってから次のような経験はありましたか。また、その経験は有用でしたか。

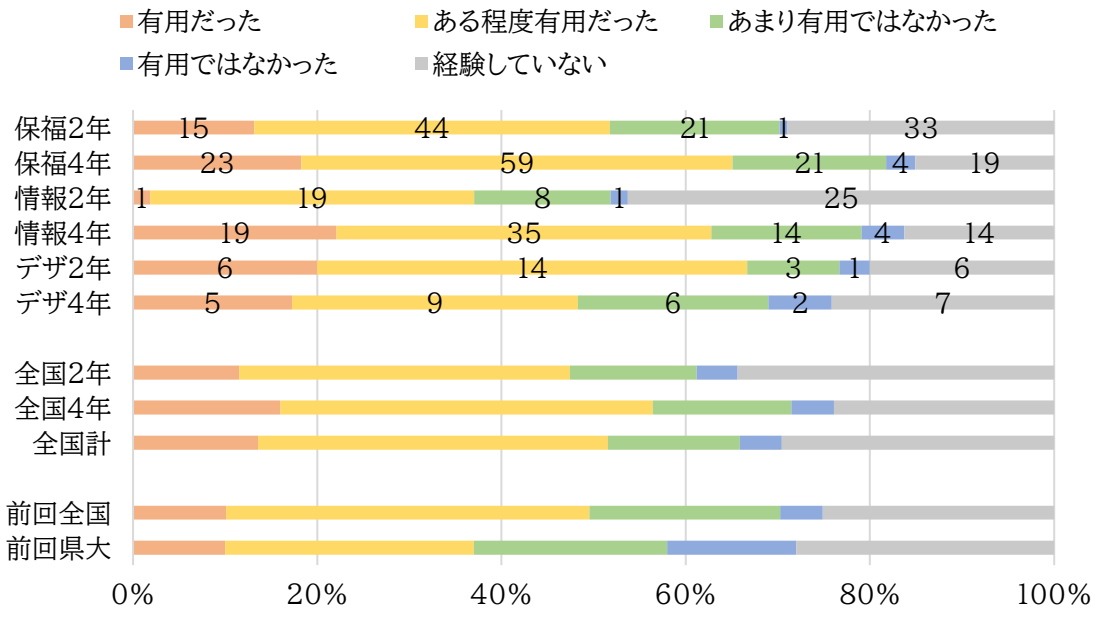
Q13　語学科目以外で、主に英語で行われる授業があった。



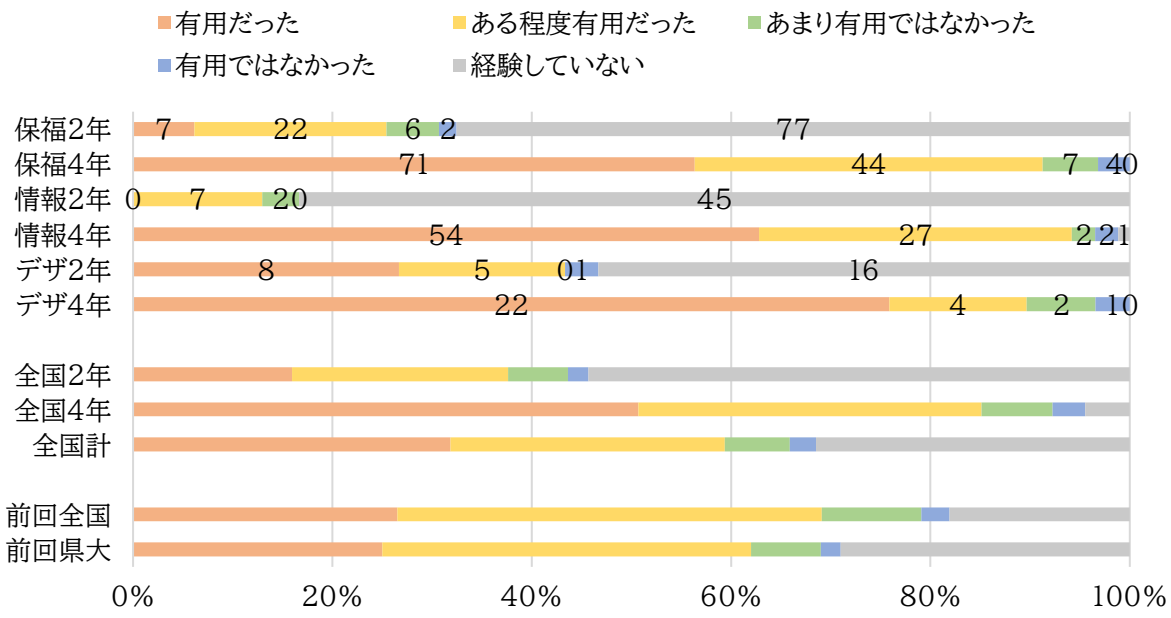
Q14　大学生活全般について相談する機会



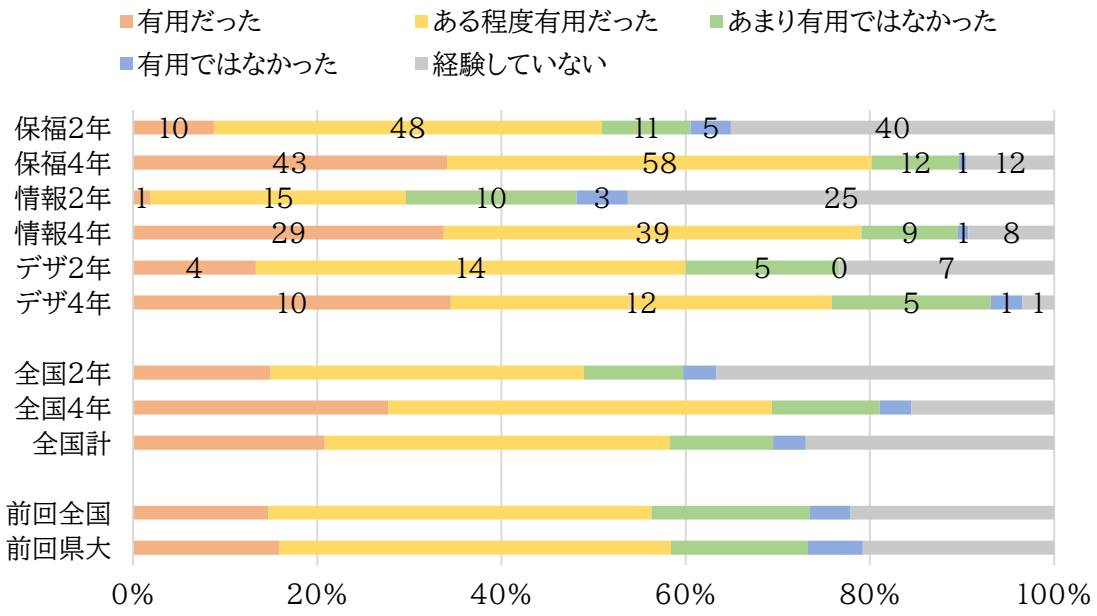
Q15　大学での学習の方法(スタディ・スキル)を学ぶ科目



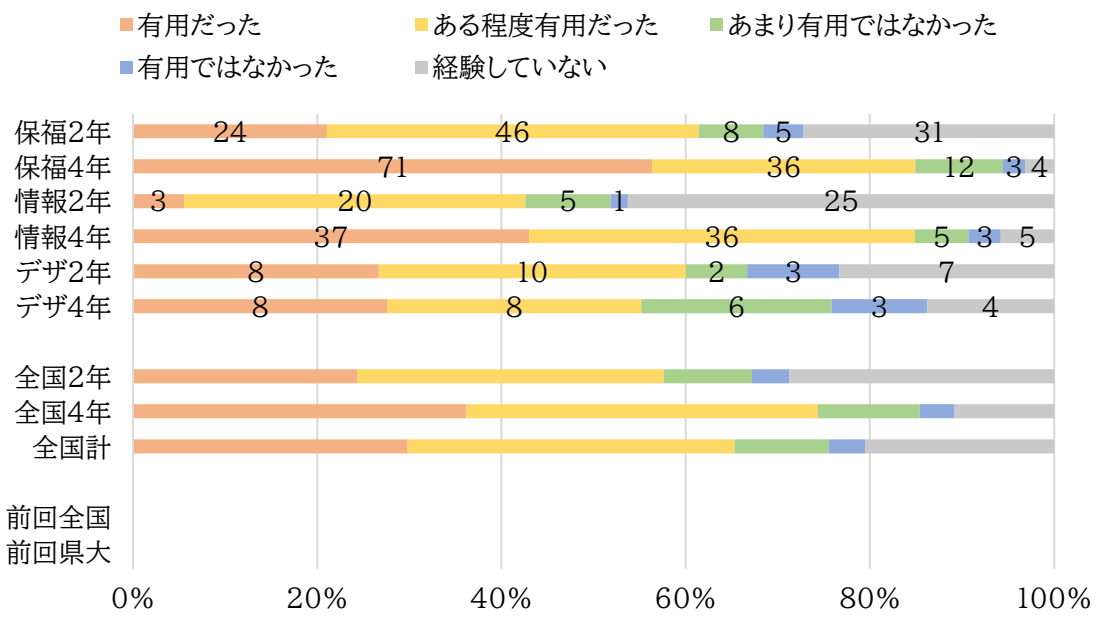
Q16　研究室やゼミでの少人数教育



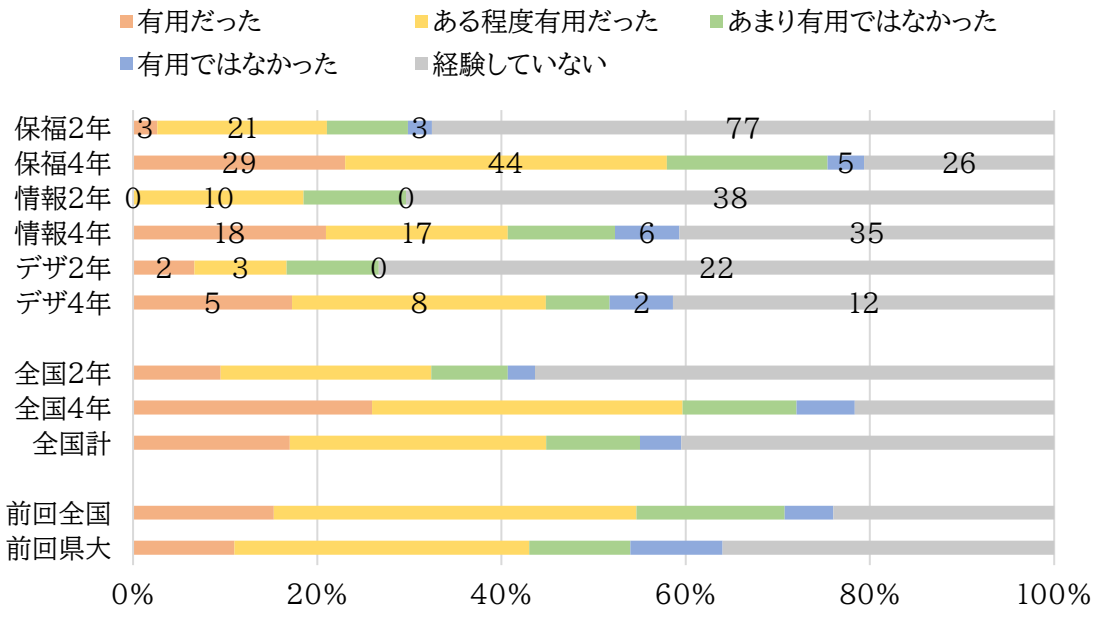
Q17　授業時間以外で、教員に質問や学習の方法を相談する機会



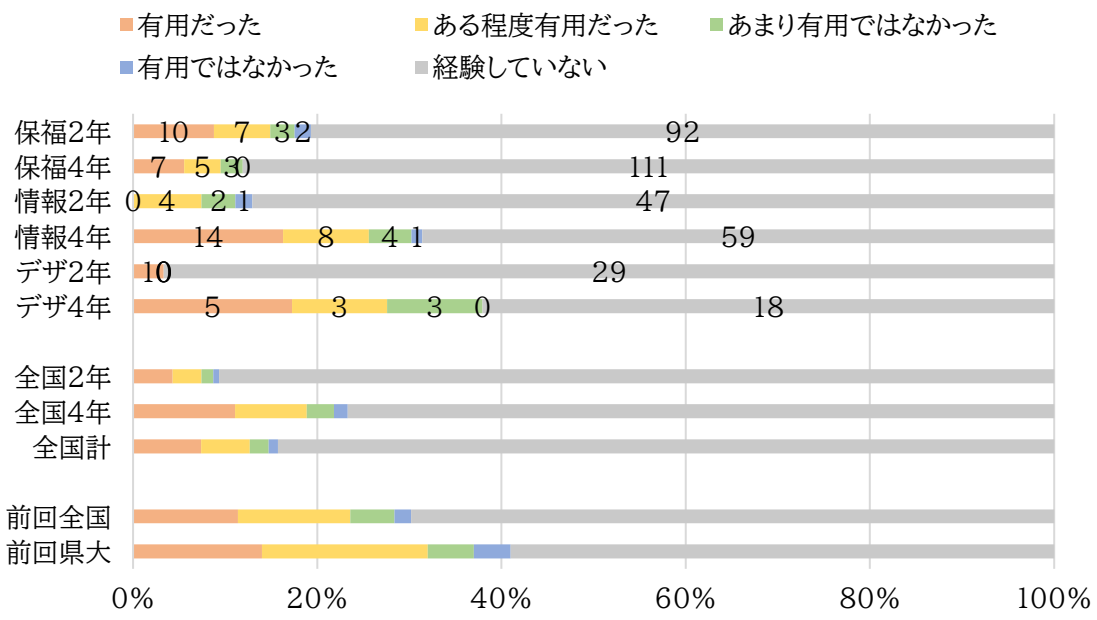
Q18　授業時間以外で、他の学生と一緒に学習する機会



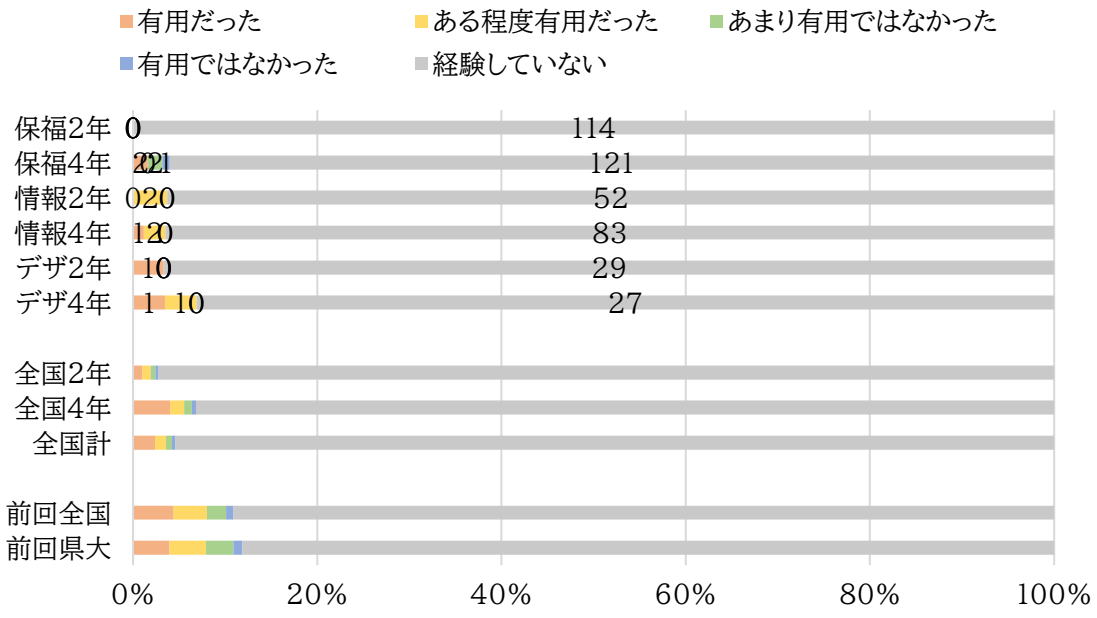
Q19　キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング（就職・進学相談）



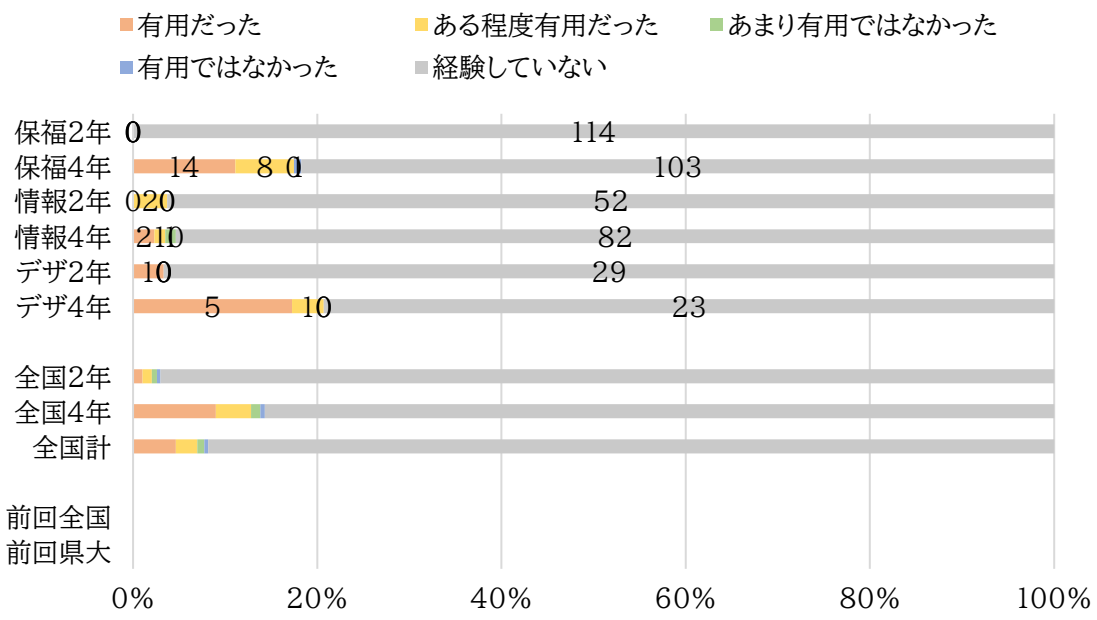
Q20　5 日間以上のインターンシップ



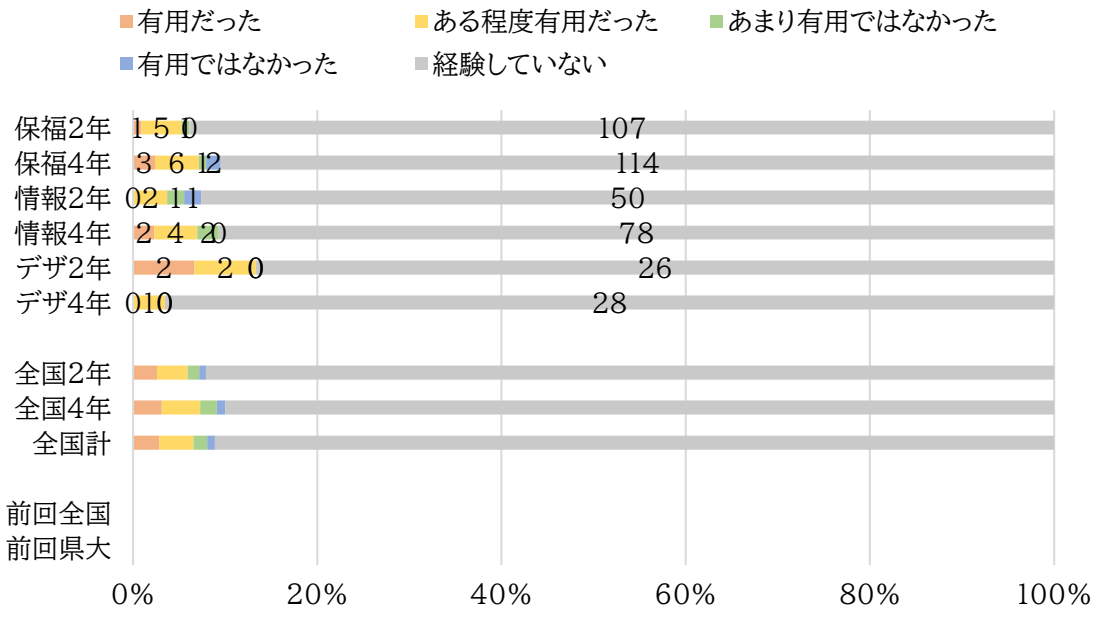
Q21　3 か月以上の海外留学・海外研修



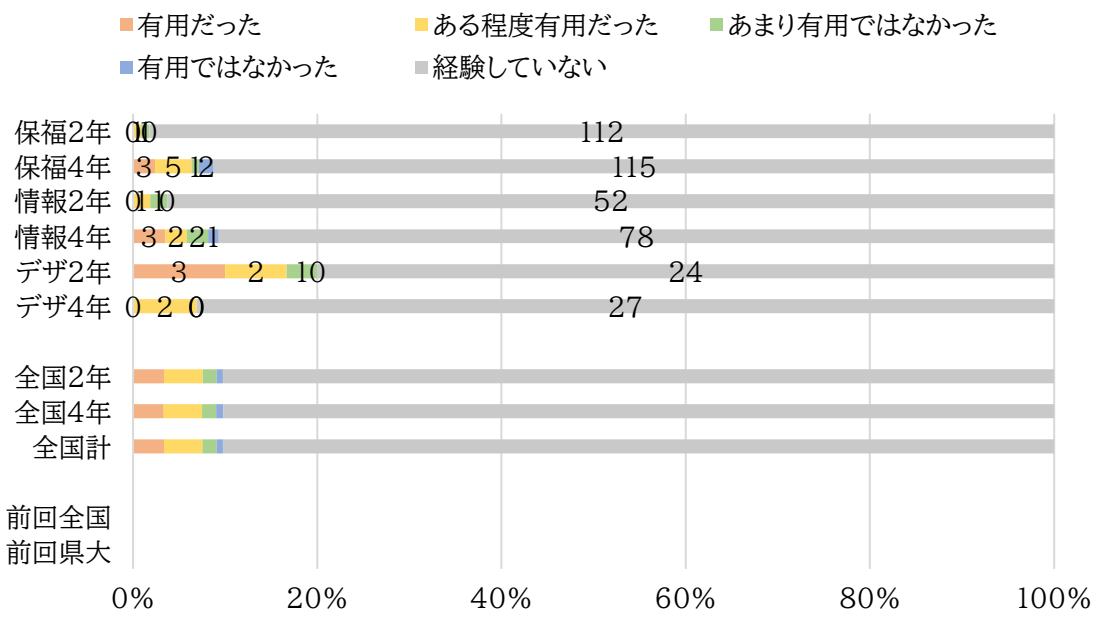
Q22　3 か月未満の海外留学・海外研修



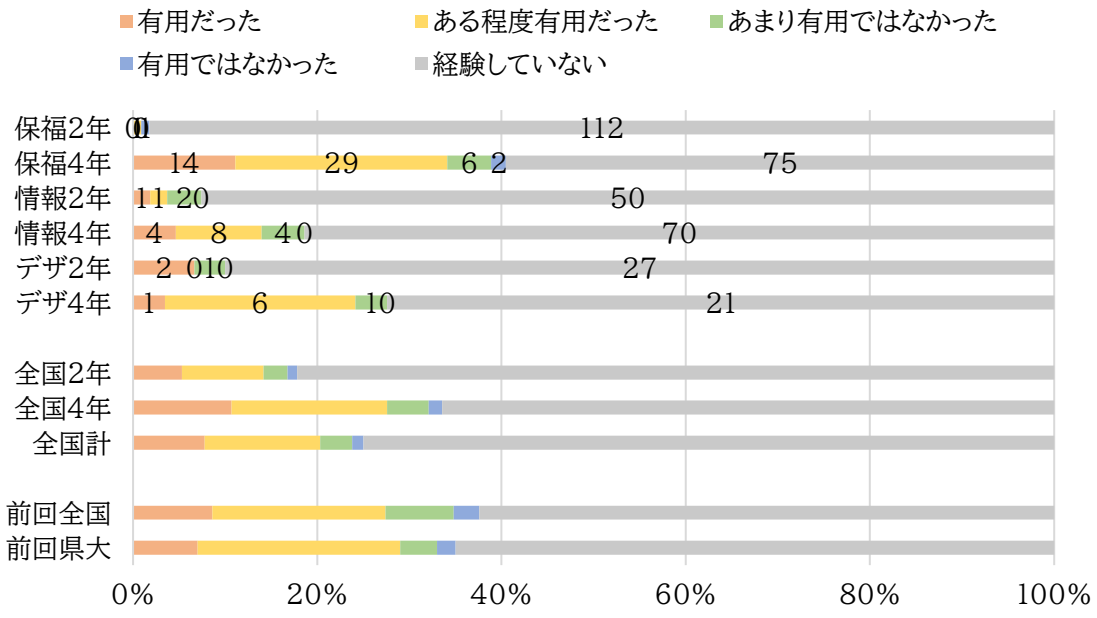
Q23　海外の大学等が提供するオンライン授業（オンライン留学）



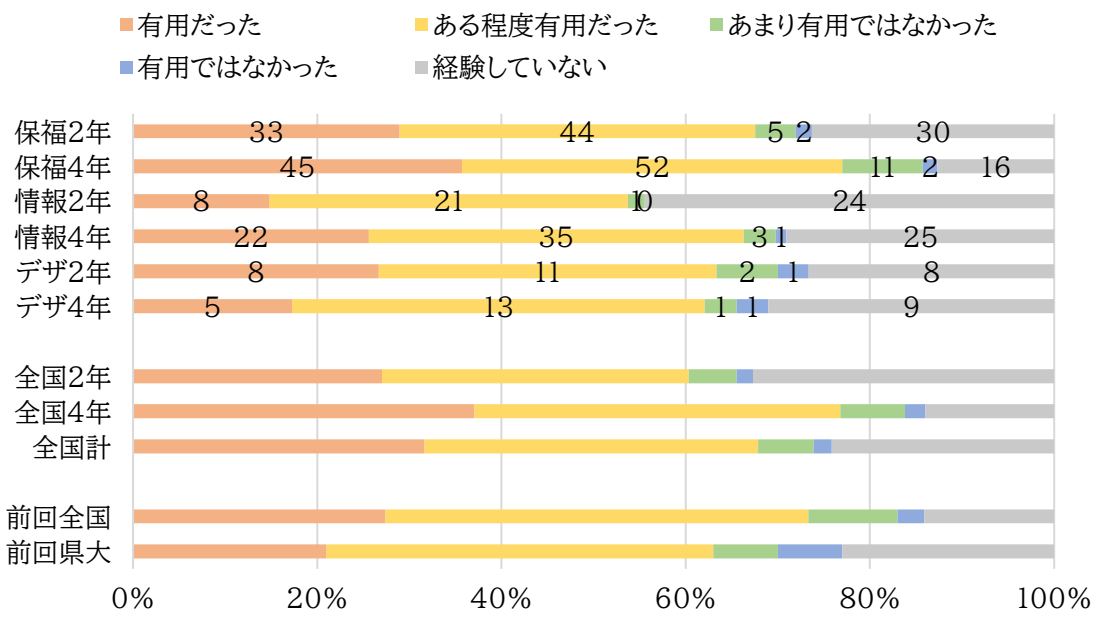
Q24　オンラインで海外の大学等の学生と交流する機会



Q25　学内で自分と異なる文化圏の学生と交流する機会

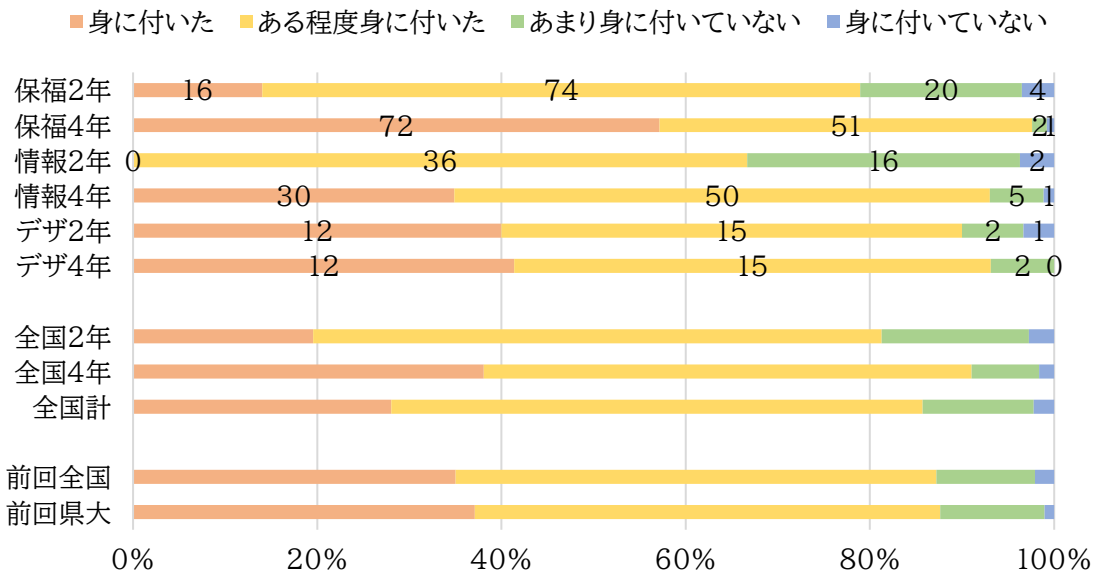


Q26　図書館やアクティブ・ラーニングスペースなど大学施設を活用した学習

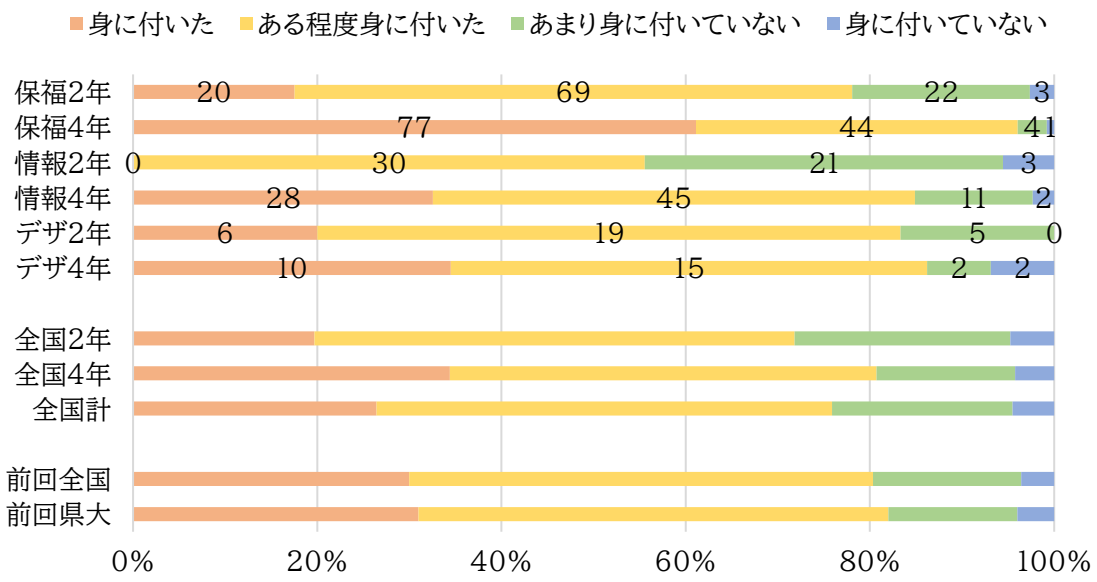


問３ 大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか。

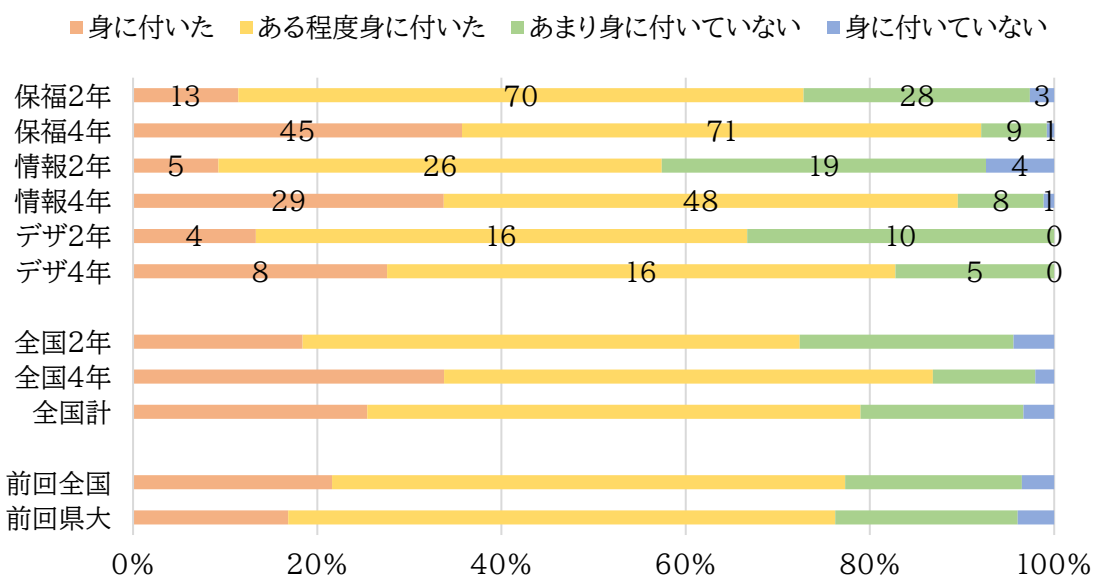
Q27　専門分野に関する知識・理解



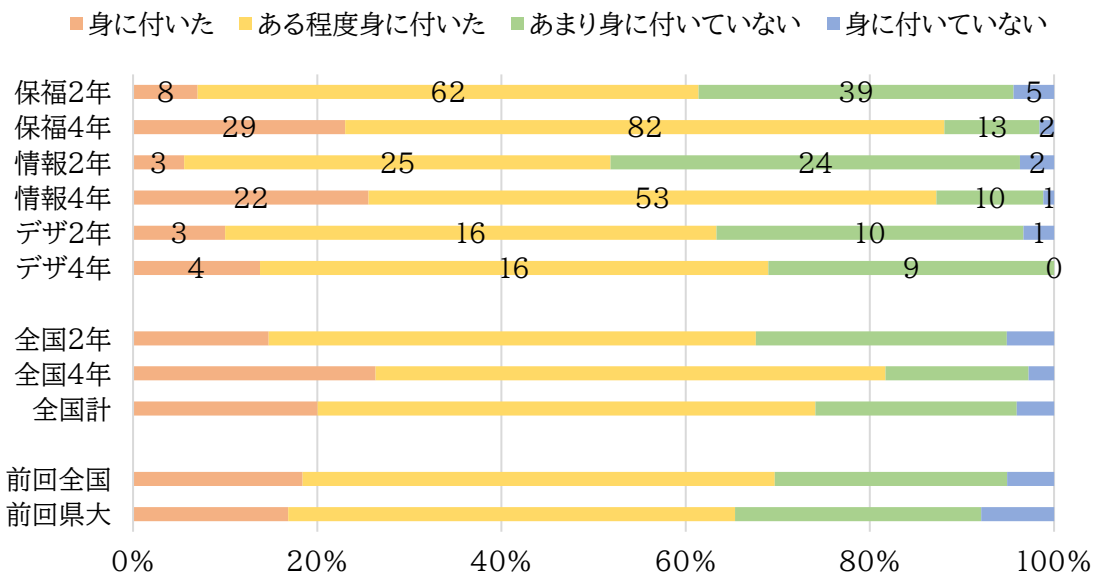
Q28　将来の仕事につながるような知識・技能



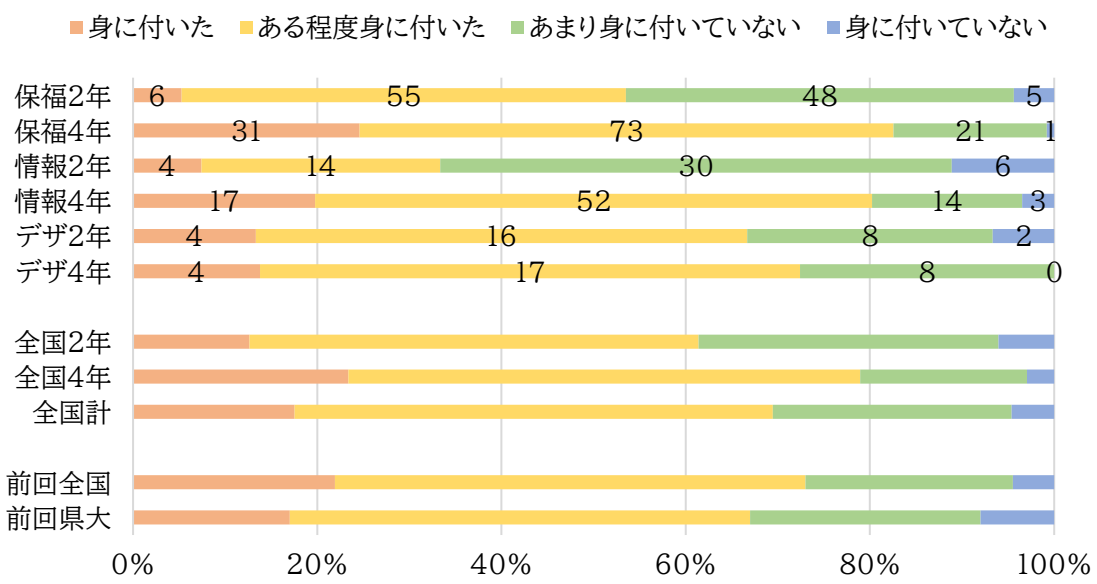
Q29　文献・資料を収集・分析する力



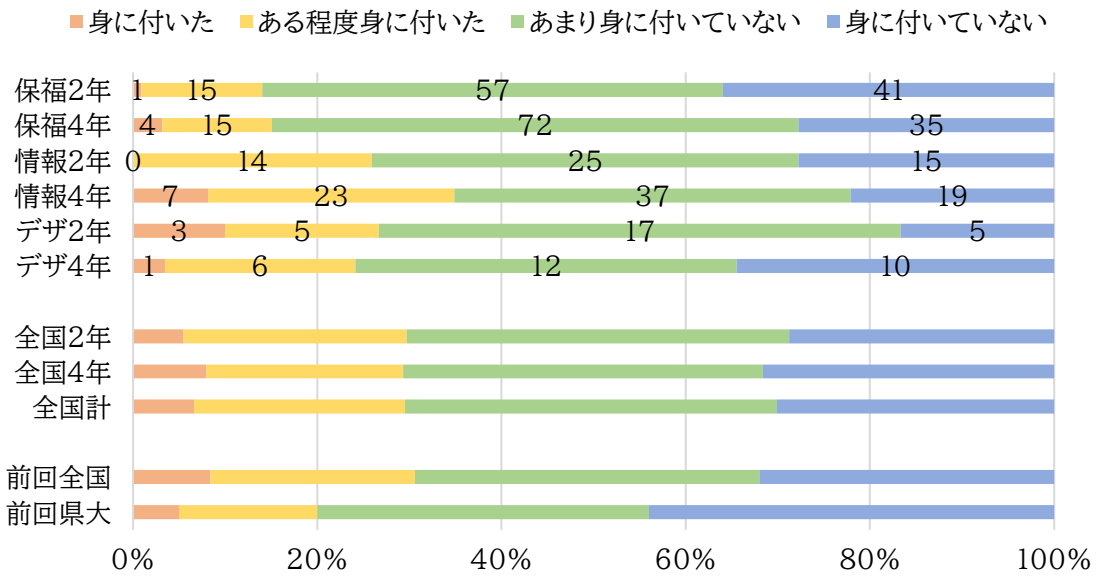
Q30　論理的に文章を書く力



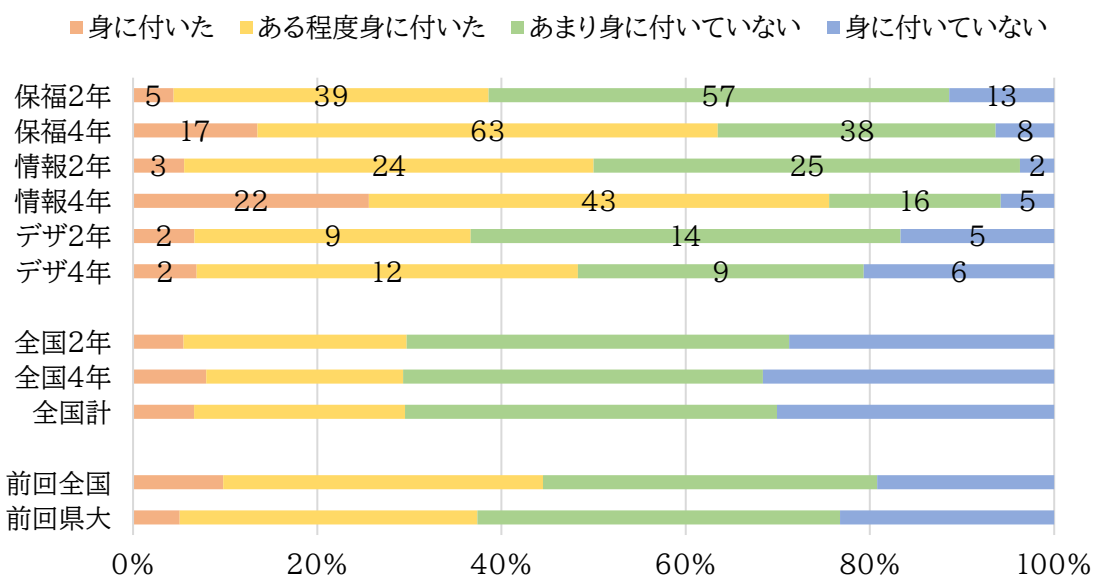
Q31　人に分かりやすく話す力



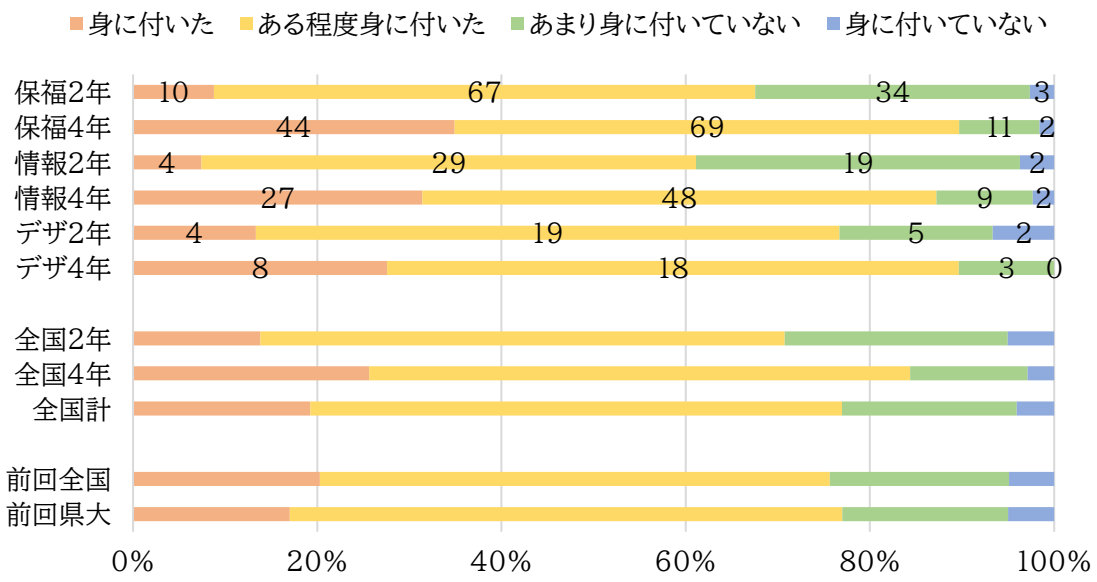
Q32　外国語を使う力



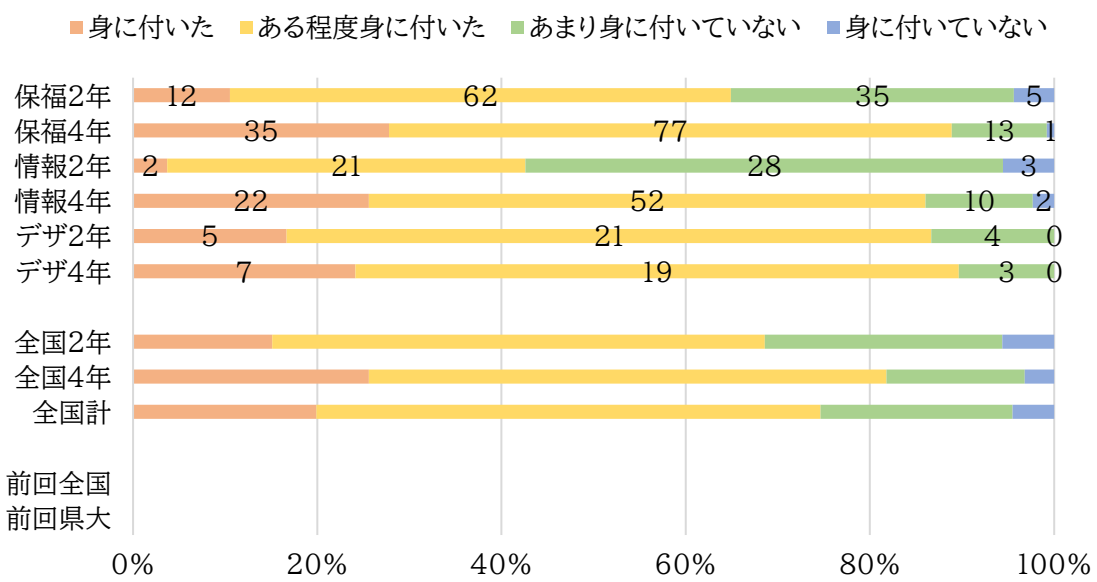
Q33　統計などデータサイエンスの知識・技能



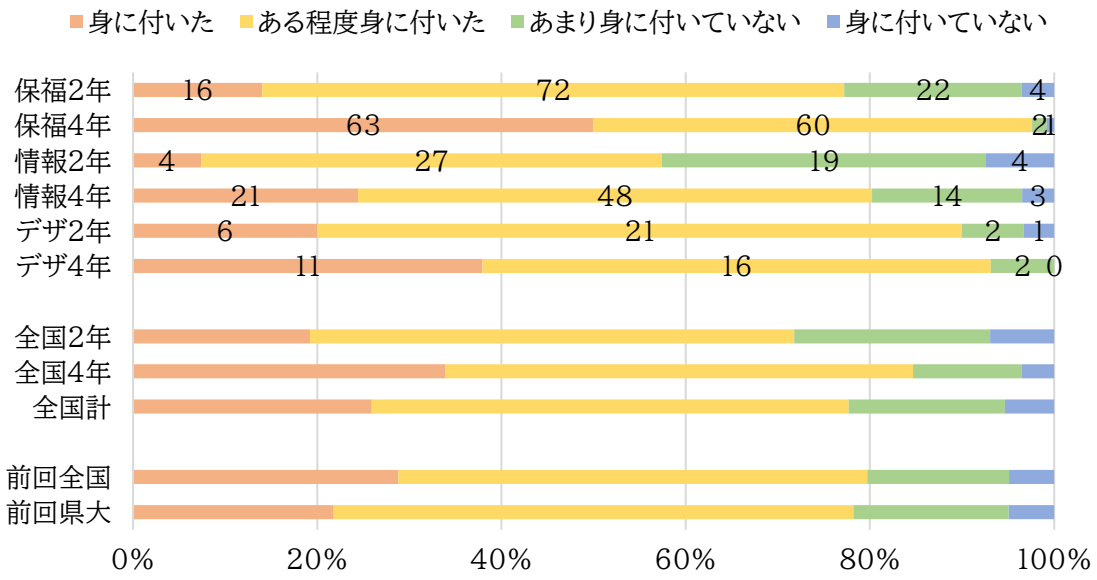
Q34　問題を見つけて解決方法を考える力



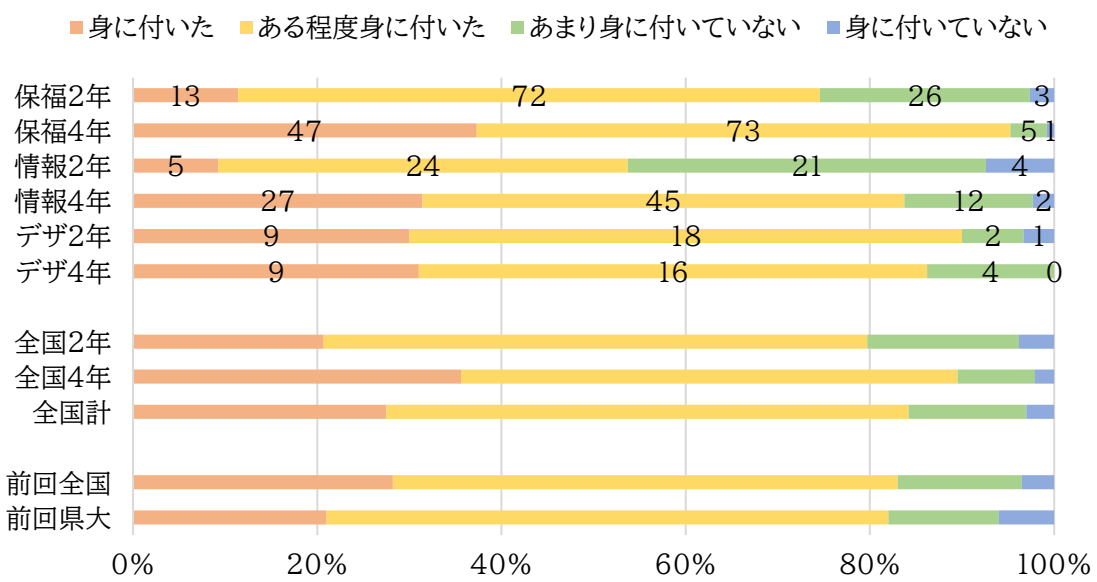
Q35　答えのない問題を自分の頭で考え抜く力



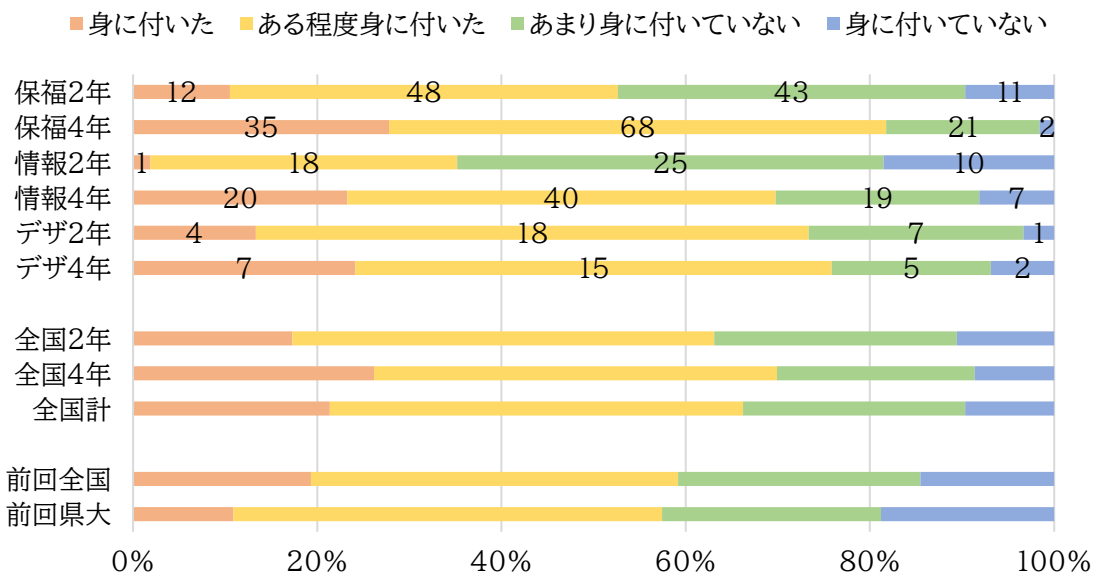
Q36　多様な人々の理解を得ながら協働する力



Q37　幅広い知識、ものの見方

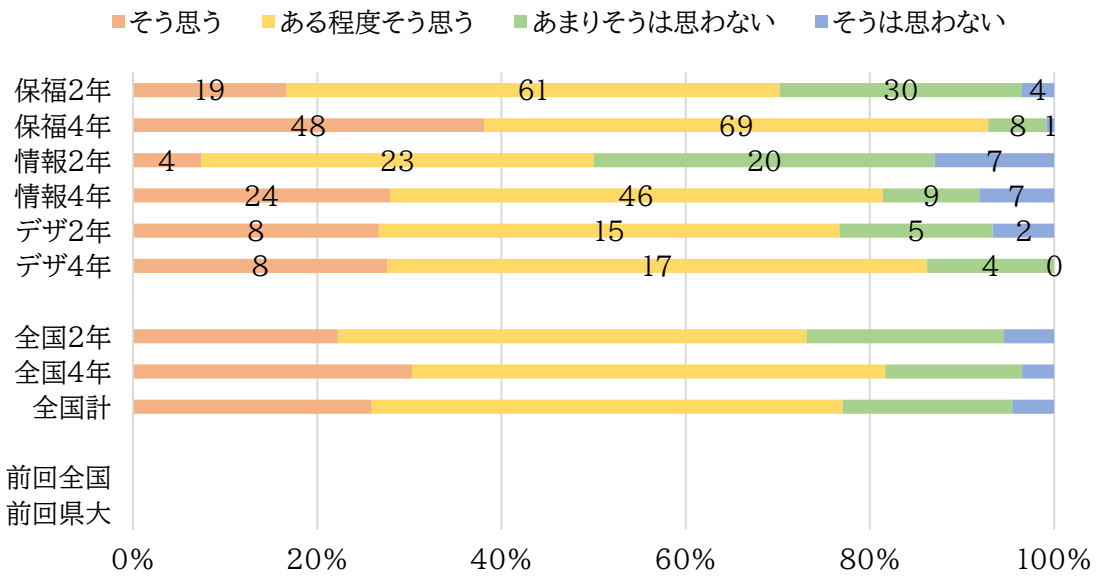


Q38　異なる文化に関する知識･理解

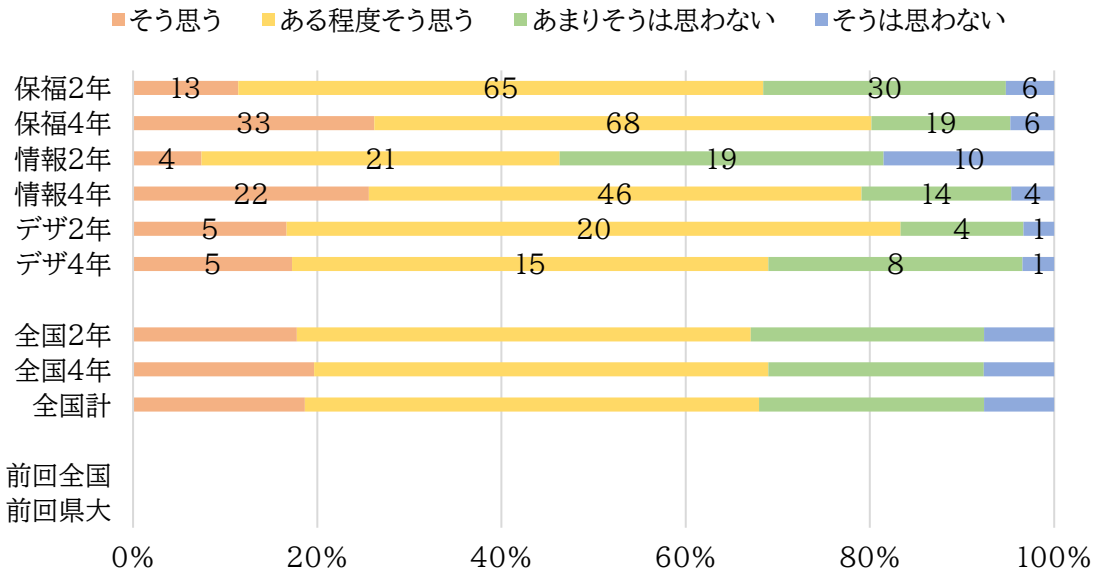


問 4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

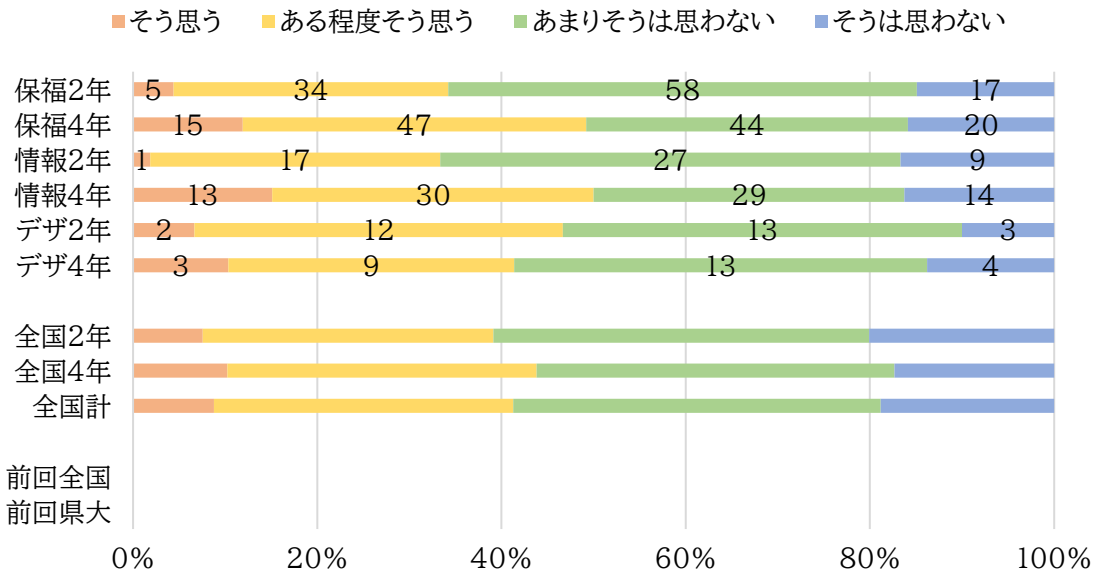
Q39　具体的な目標･目的をもって主体的に学んでいる。



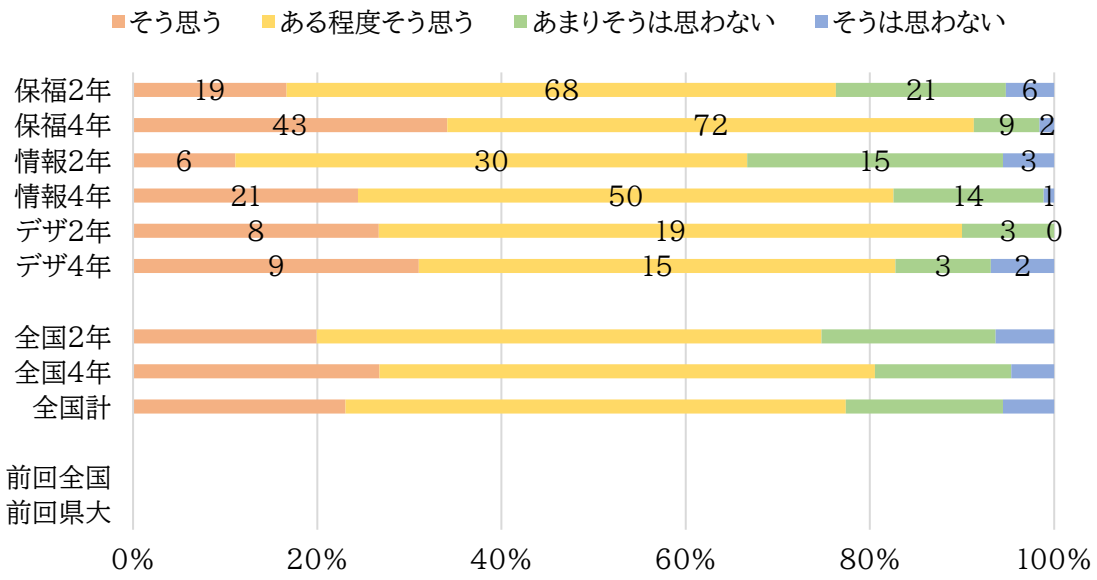
Q40　大学が学生に卒業時まで身に付けることを求めている力(※)を理解している。 ※ディプロマ・ポリシーに示された知識・能力



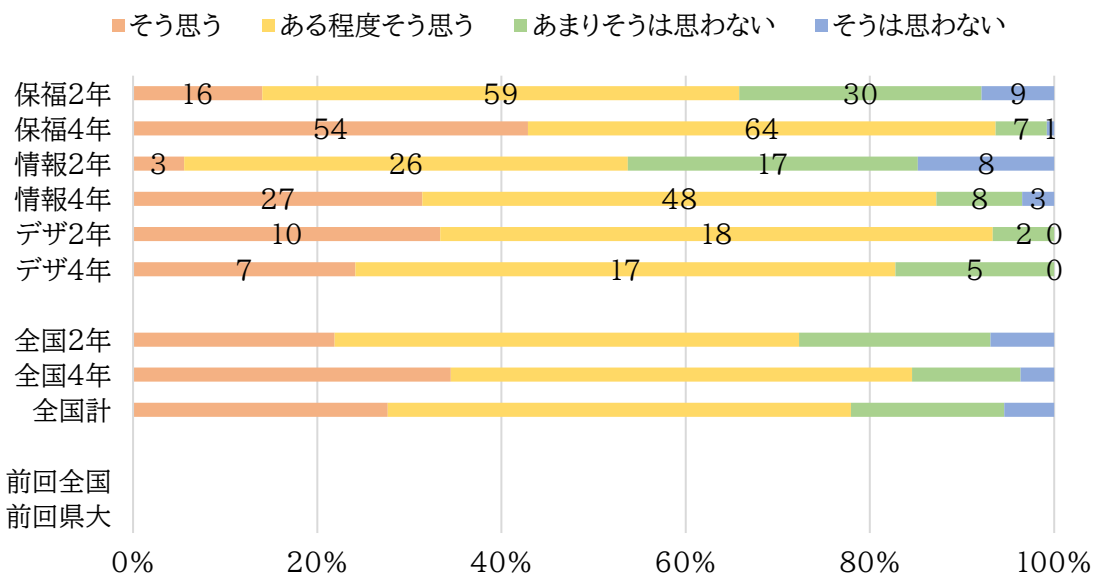
Q41　授業アンケート等の回答を通じて大学教育が良くなっている。



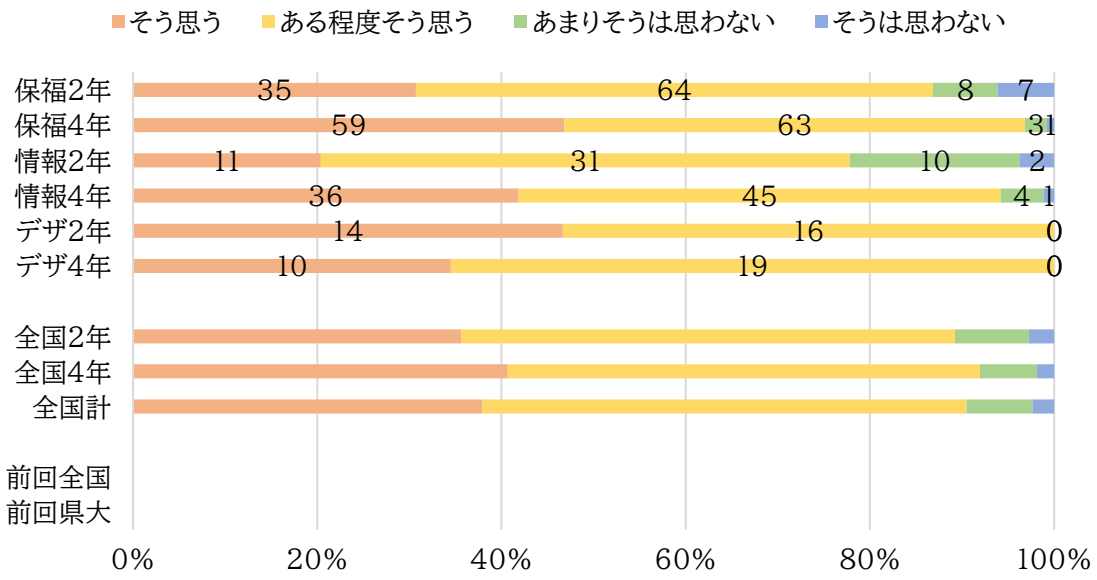
Q42　教員が学生と向き合って教育に取り組んでいる。



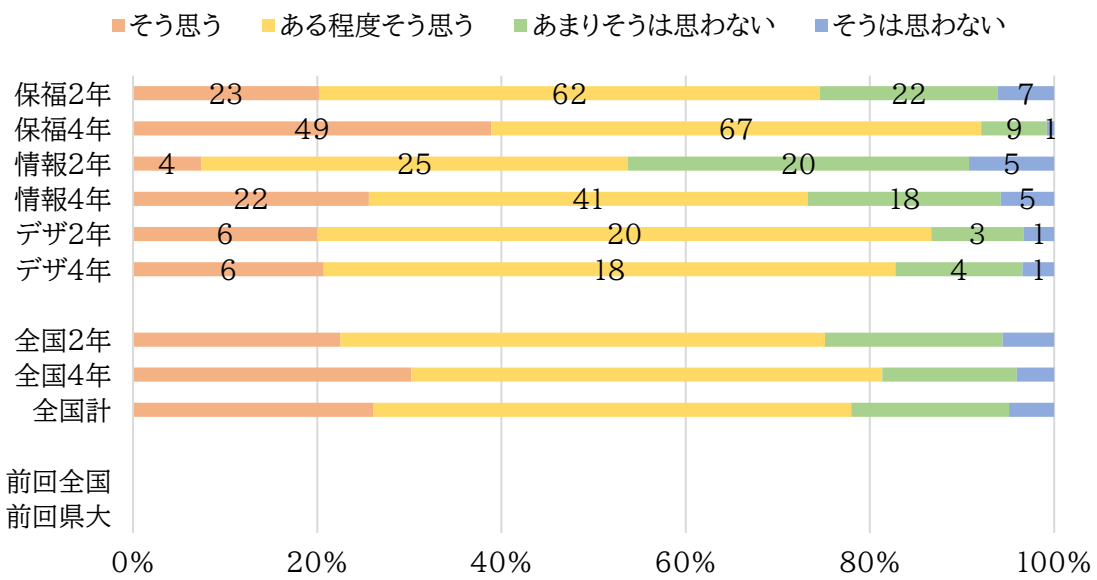
Q43　大学での学びによって自分自身の成長を実感している。



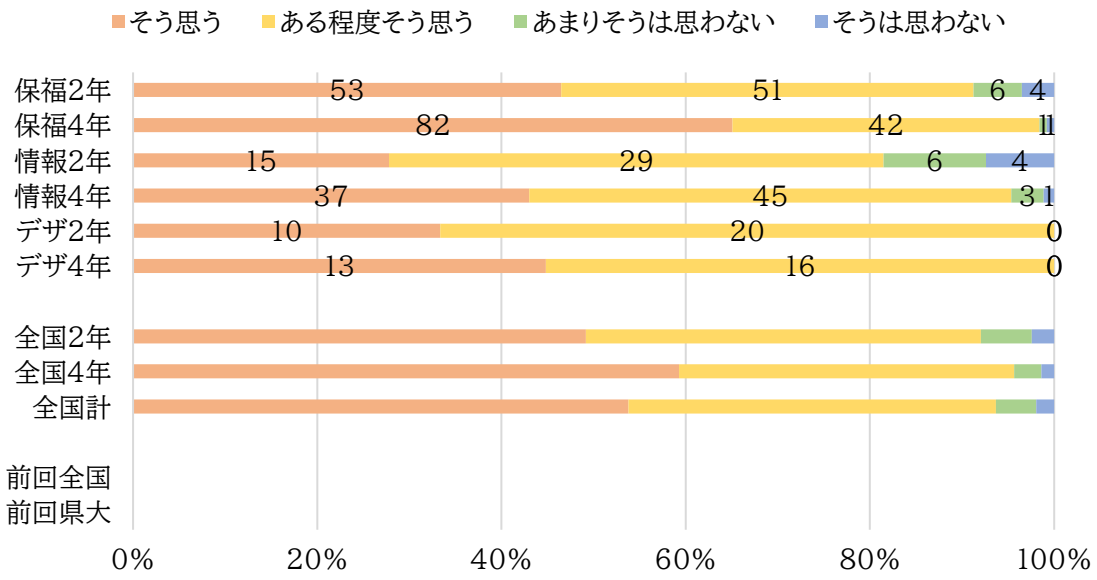
Q44　知識やスキルを組み合わせて一つのものをつくり出す力が必要だと感じている。



Q45　大学での学びを通じて社会に対する理解が深まっている。

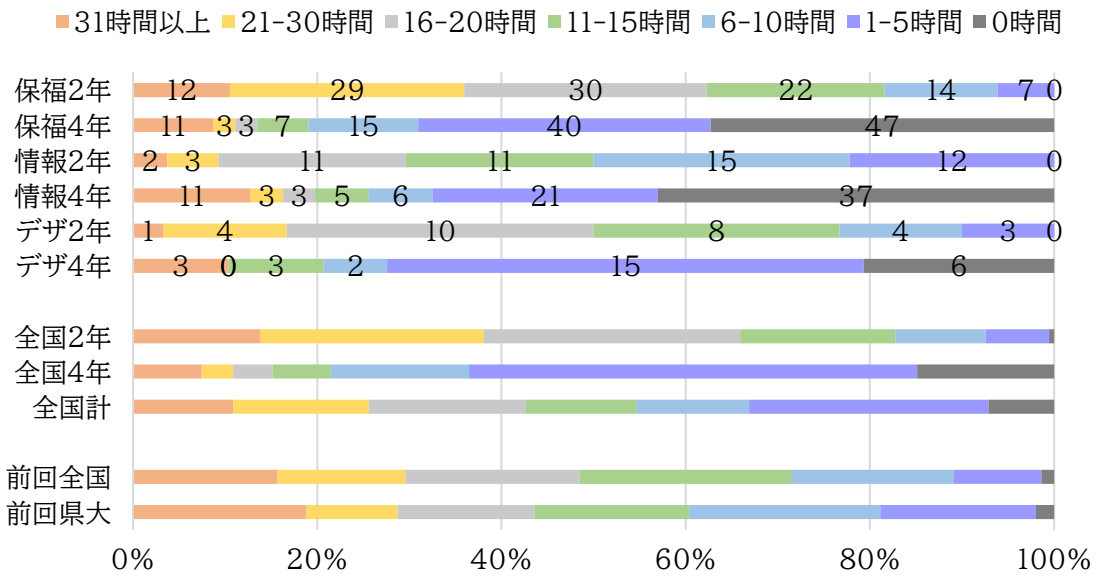


Q46　卒業後も主体的に学び続けていくことの大切さを感じている。

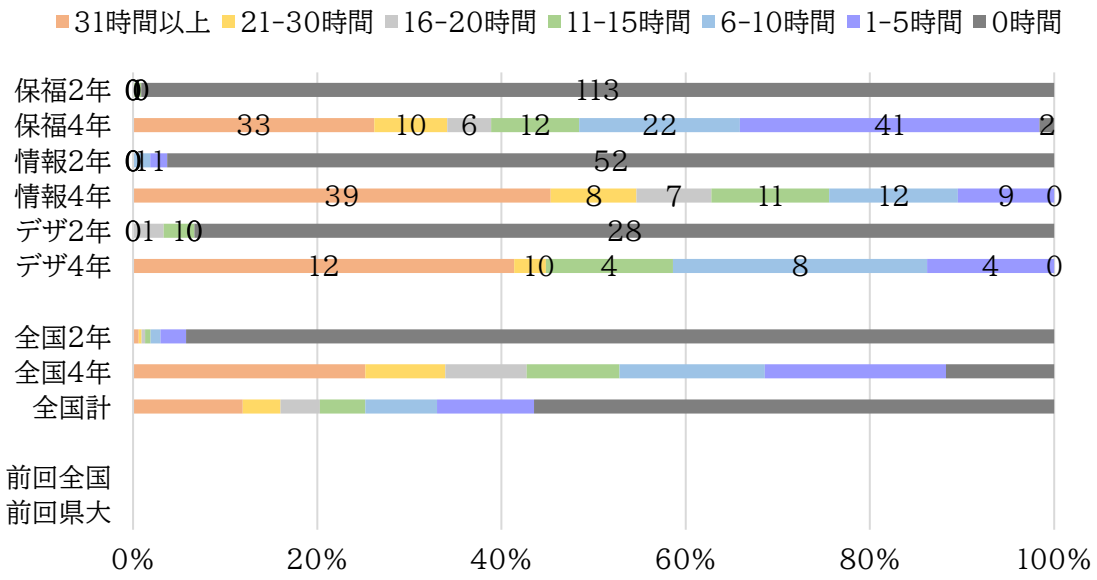


問 5 今年度後期の授業期間中の平均的な 1 週間(7 日間)の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

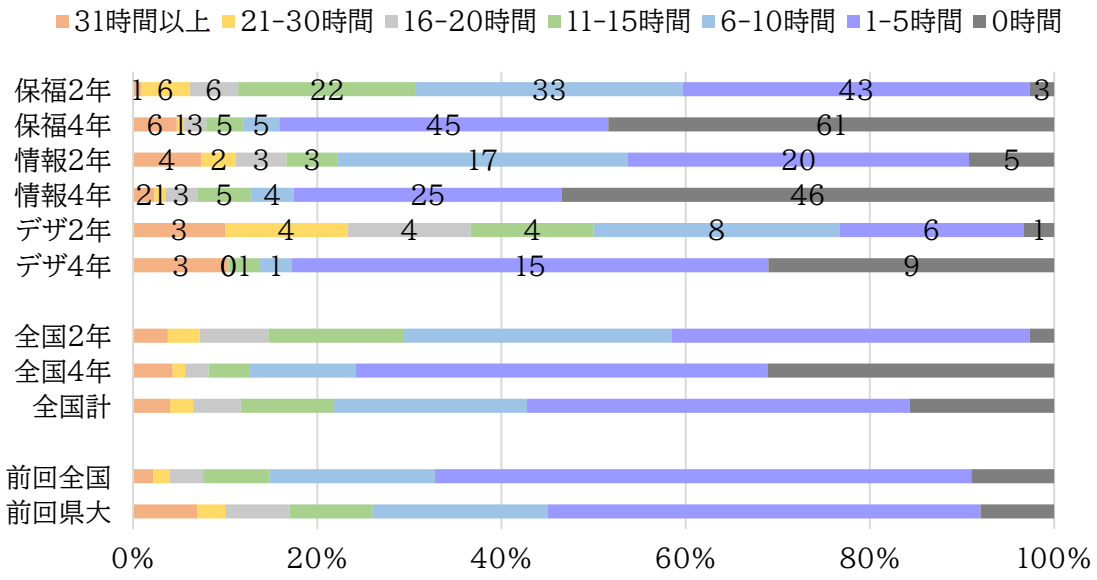
Q47　授業への出席　※実験・実習、オンライン授業を含む



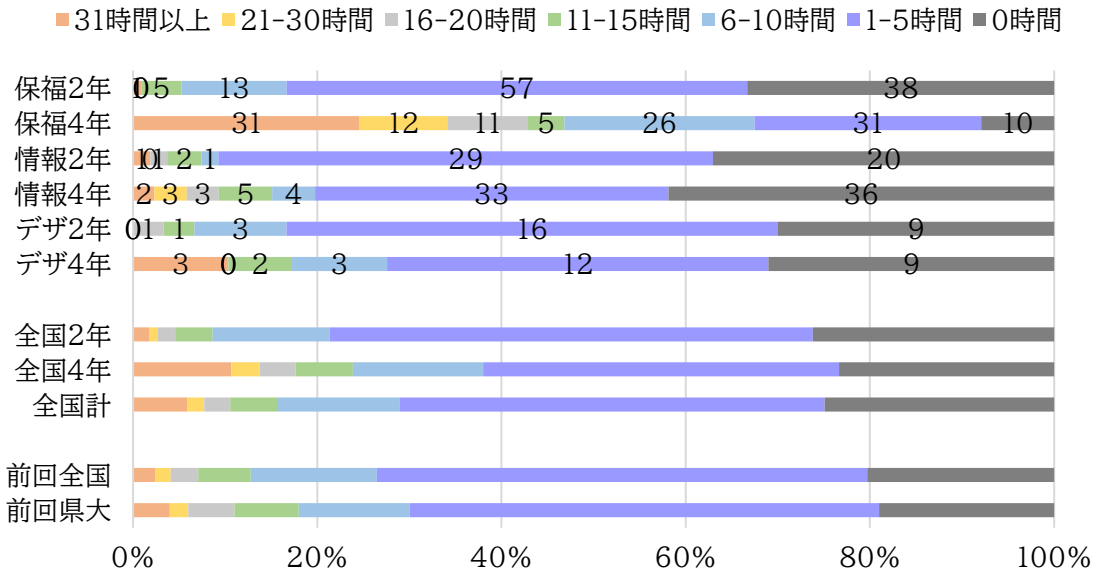
Q48　卒業論文・卒業研究・卒業制作



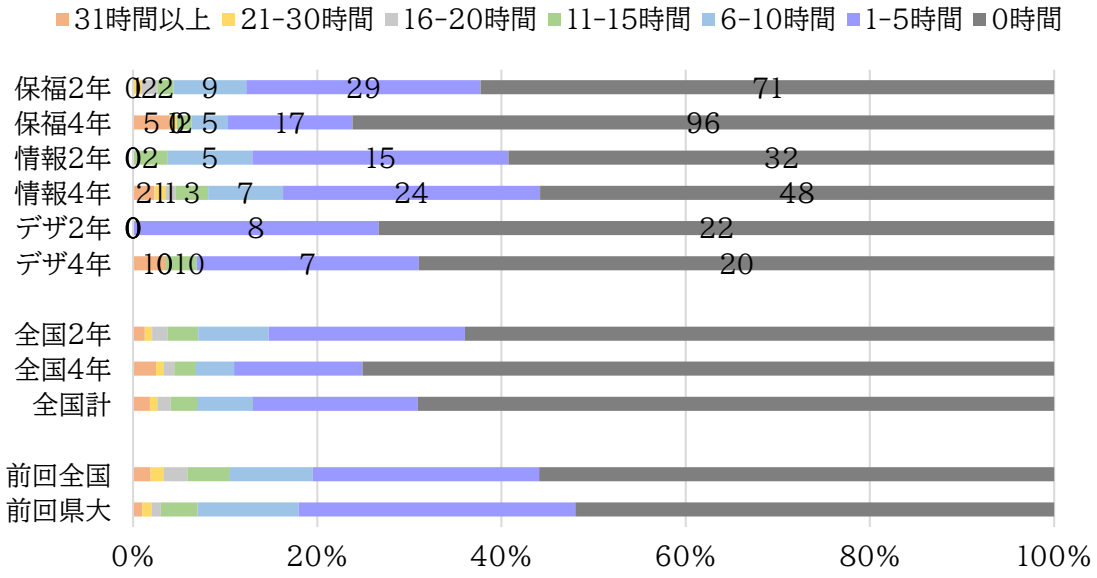
Q49　予習・復習・課題など授業に関する学習　※卒業論文等は除く



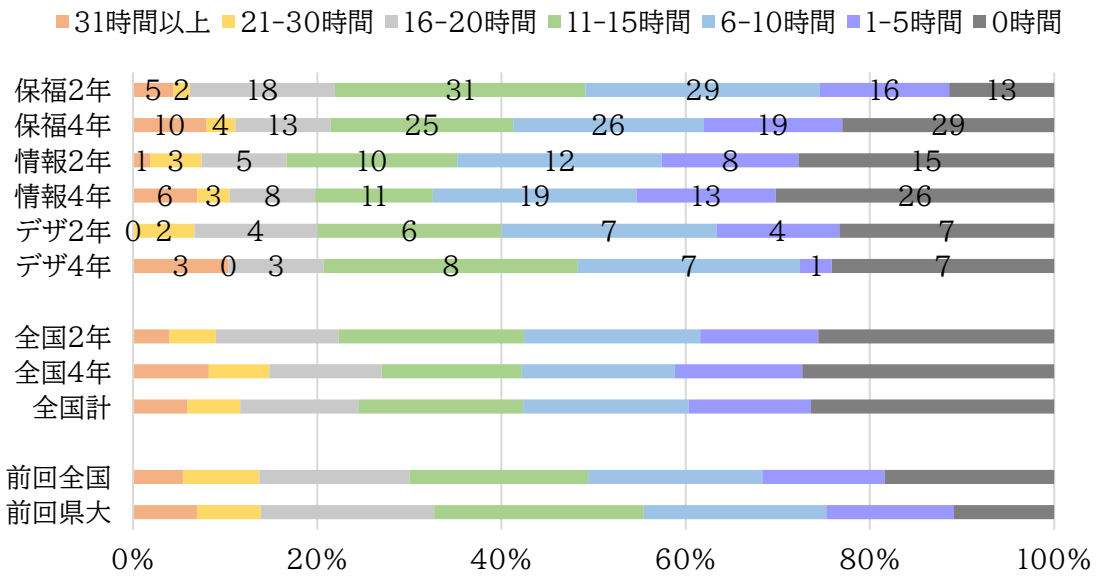
Q50　授業の予習・復習・課題以外の学習　（学問に関係する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）



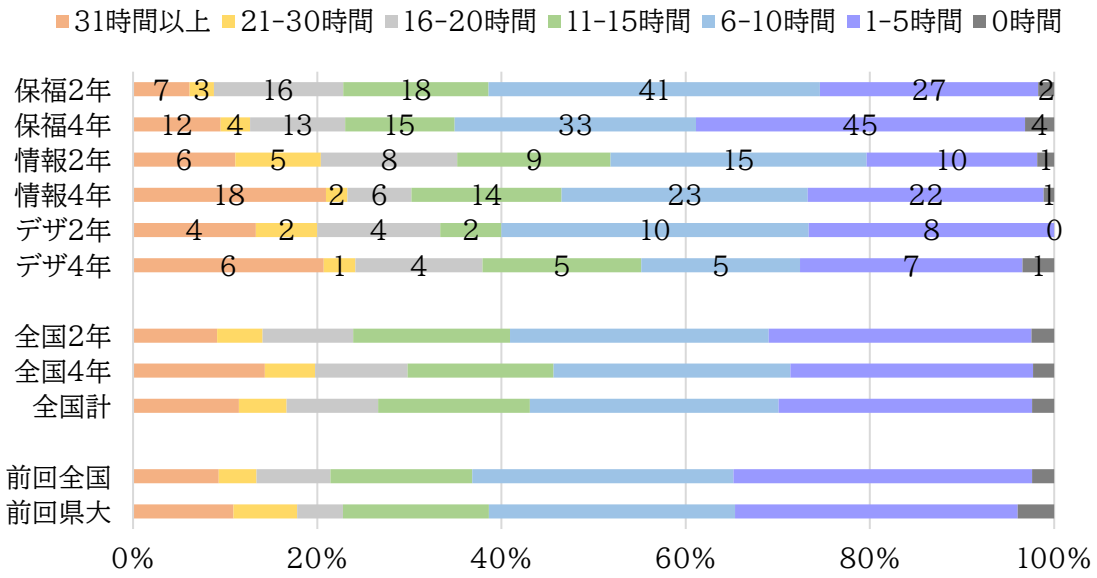
Q51　部活動／サークル活動



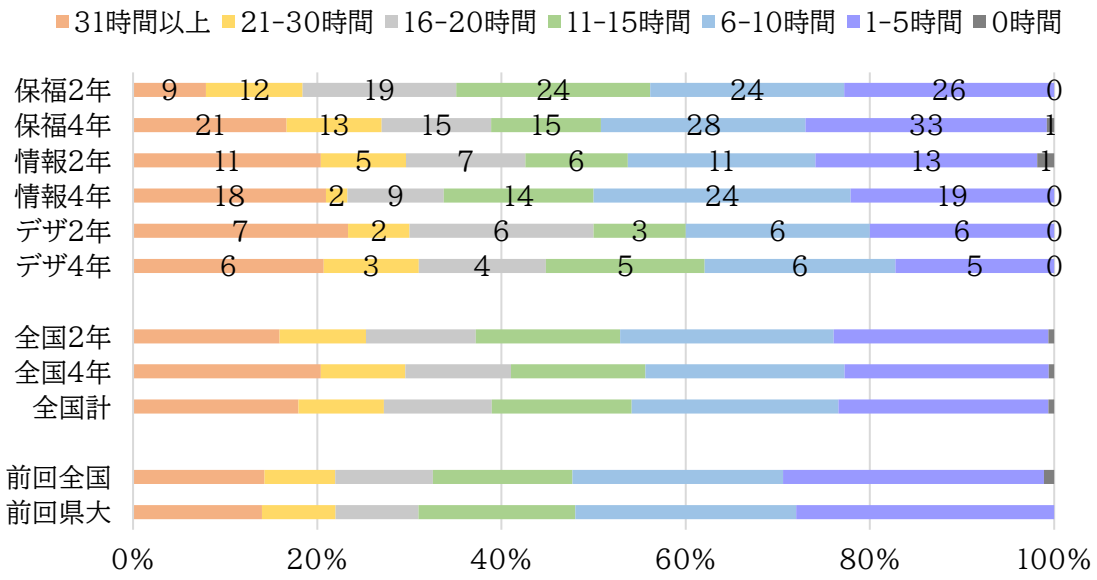
Q52　アルバイト／定職



Q53　趣味／娯楽／交友

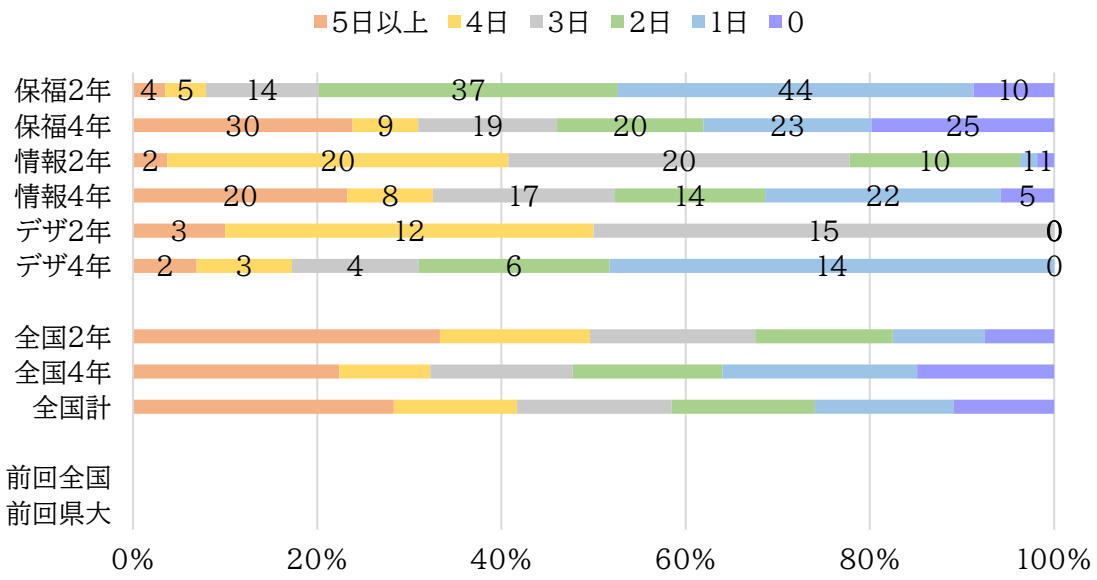


Q54　スマートフォンの使用　※学習のために使用している時間は除く

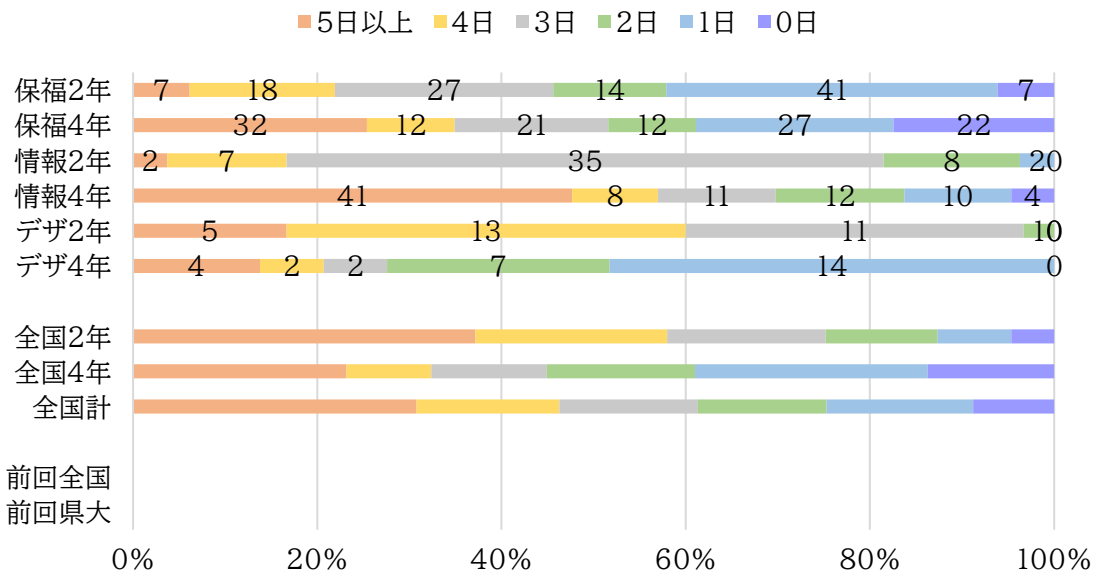


問 6 今年度の授業期間中にキャンパスへ通った日数は、1 週間でそれぞれ何日くらいですか。

Q55　前期(4 月～9 月)

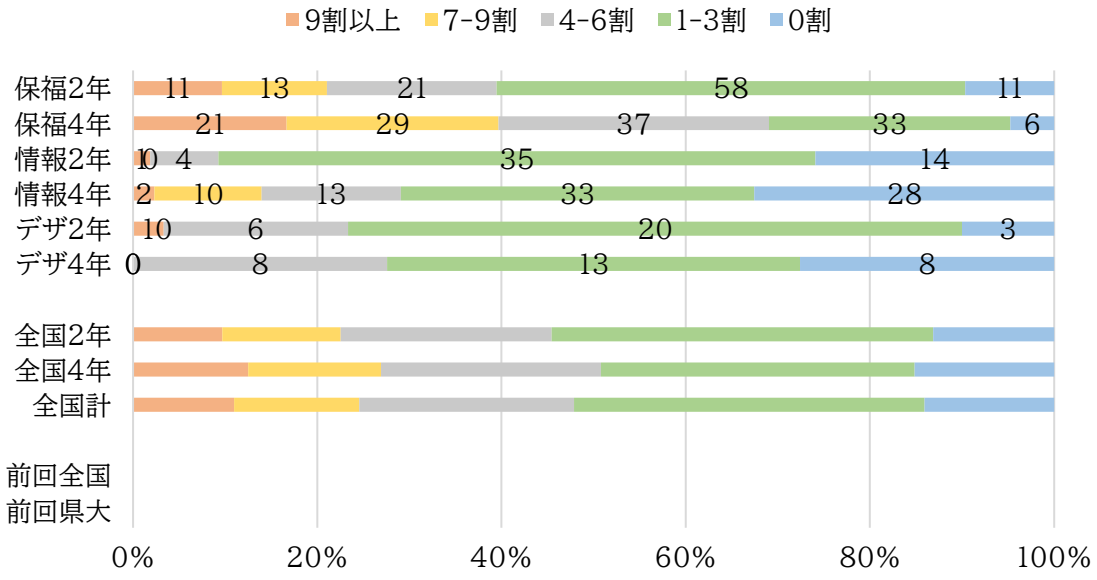


Q56　後期(10 月～3 月)

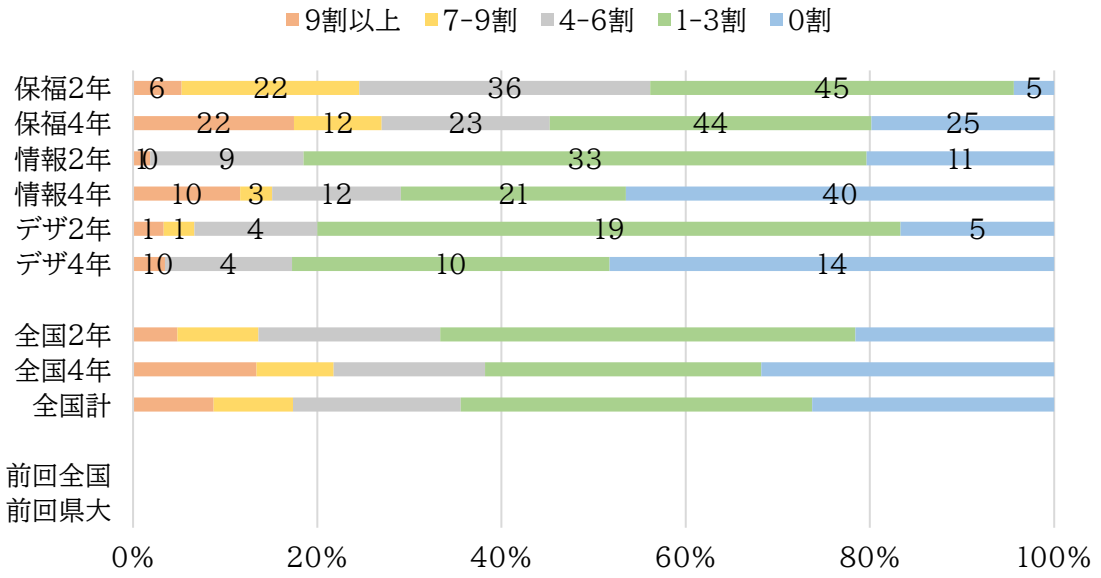


問 7 昨年度と今年度に受けた授業のうち、次の授業形態の割合はそれぞれどのくらいですか。＜昨年度(令和 2 年度)／今年度(令和 3 年度)それぞれについて回答＞

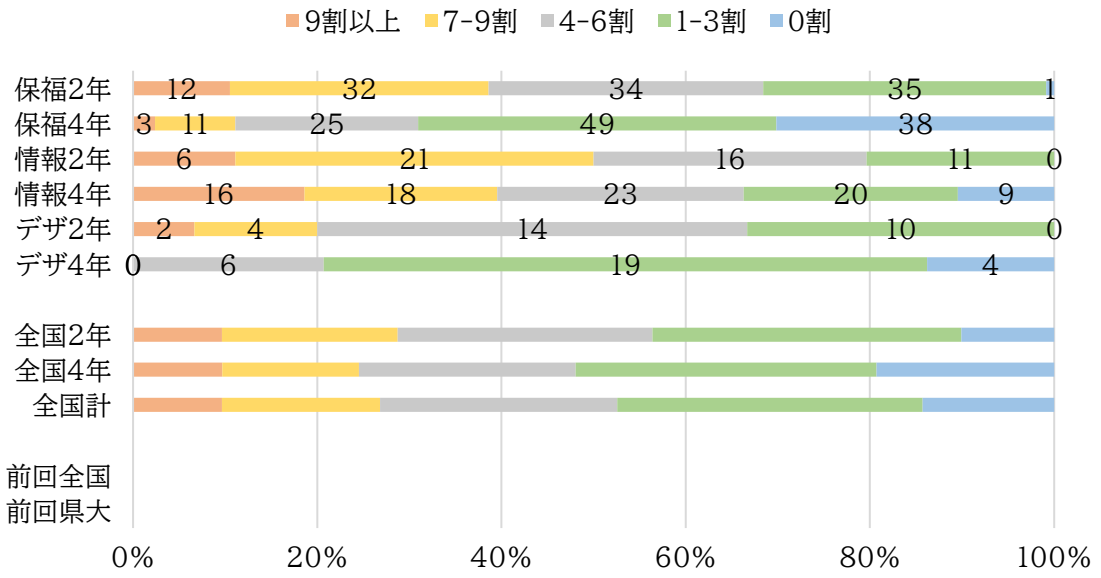
Q57S1　同時双方向型オンライン授業の割合 （教員や他の学生と同時・双方向で質疑やディスカッションを行う授業） 昨年度(令和 2 年度)



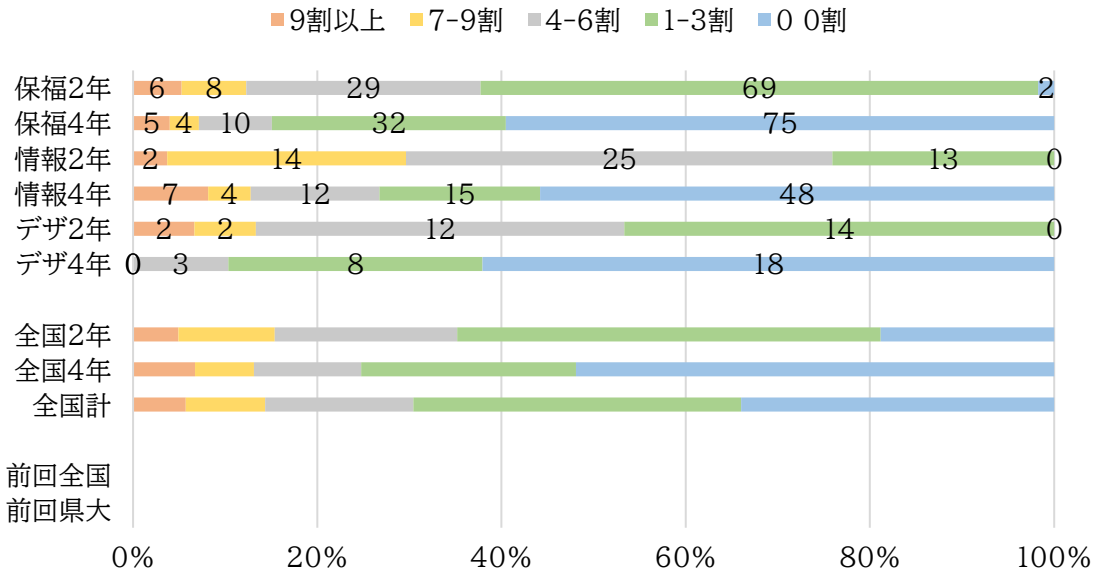
Q57S2　同時双方向型オンライン授業の割合　（教員や他の学生と同時・双方向で質疑やディスカッションを行う授業）今年度（令和３年度）



Q58S1　オンデマンド型オンライン授業の割合　（あらかじめ録画された映像等を使用した授業）昨年度（令和２年度）

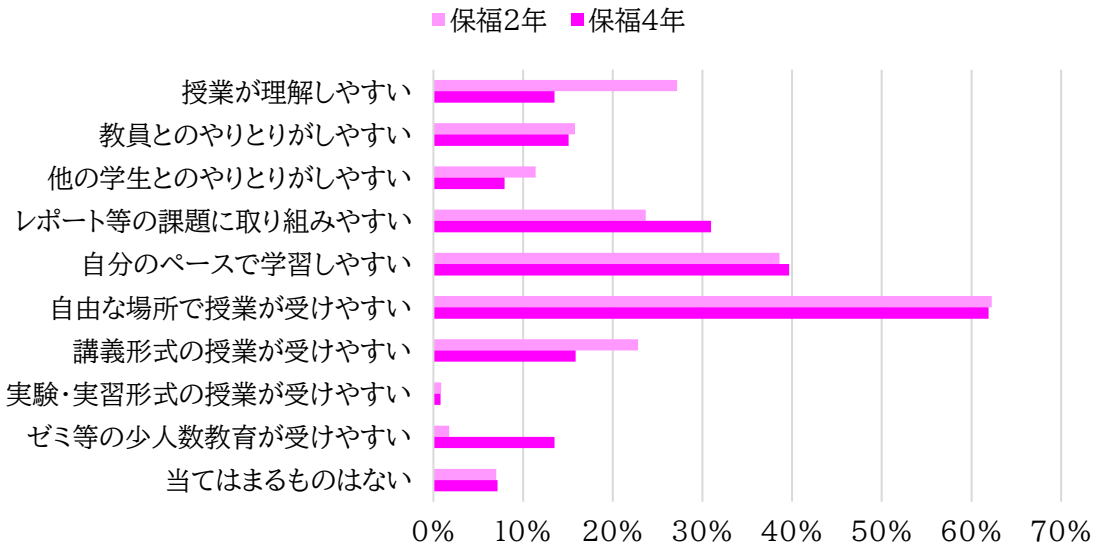


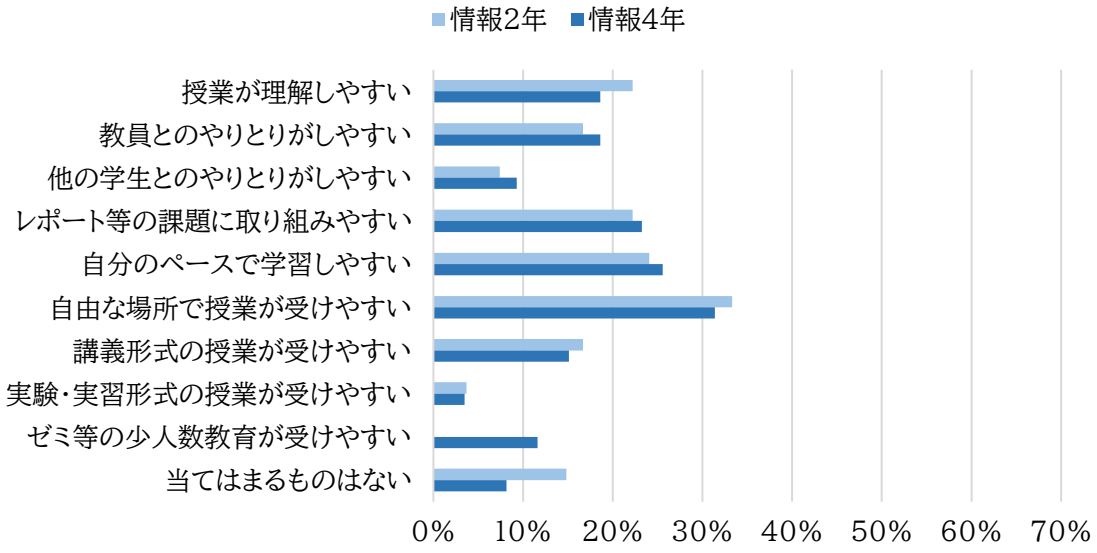
Q58S2　オンデマンド型オンライン授業の割合　（あらかじめ録画された映像等を使用した授業）
今年度（令和３年度）

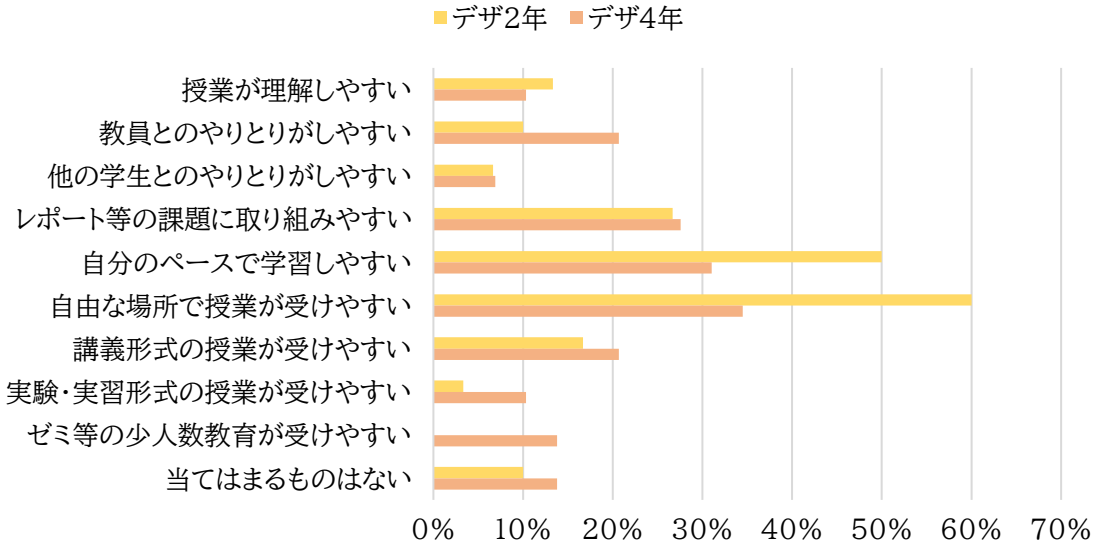


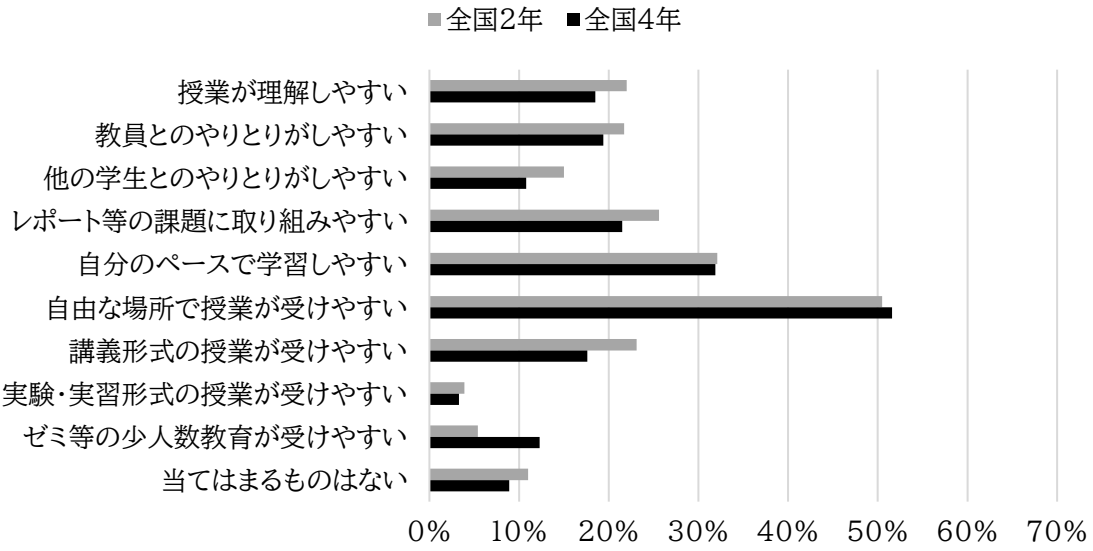
問８ これまでに受けたオンライン授業（同時双方向型／オンデマンド型）の良かった点・悪かった点について、当てはまるものを全て選択してください。（複数選択）

Q59S1　対面授業と比べて良かった点　＜同時双方向型オンライン授業＞

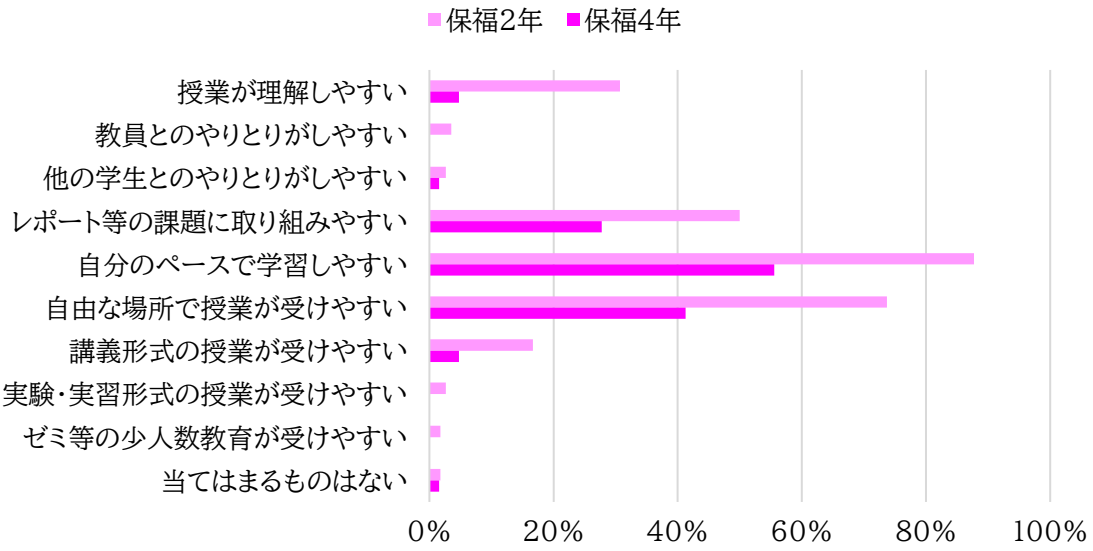


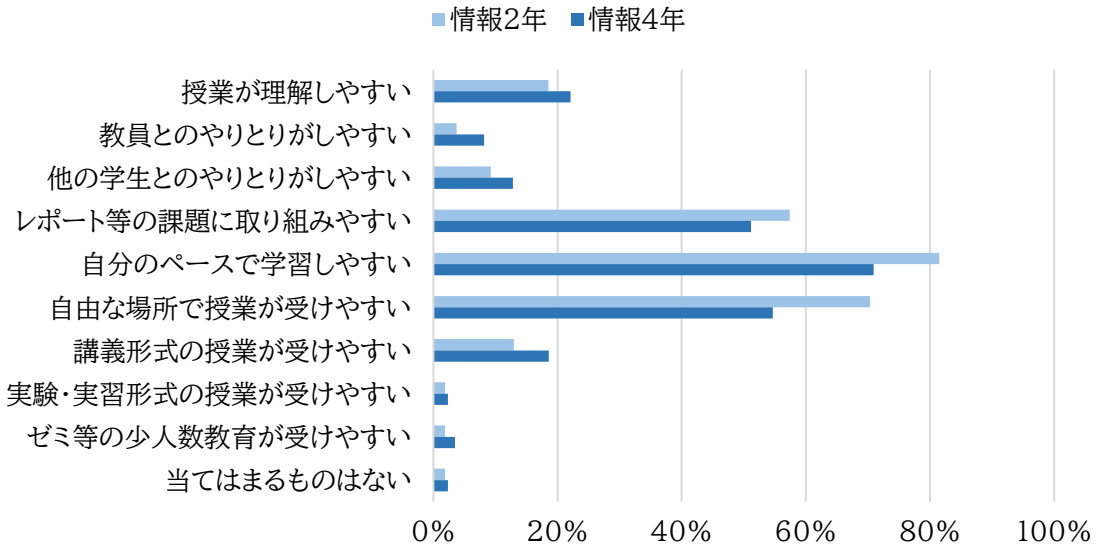

情報2年
情報4年
授業が理解しやすい
教員とのやりとりがしやすい
他の学生とのやりとりがしやすい
レポート等の課題に取り組みやすい
自分のペースで学習しやすい
自由な場所で授業が受けやすい
講義形式の授業が受けやすい
実験・実習形式の授業が受けやすい
ゼミ等の少人数教育が受けやすい
当てはまるものはない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%

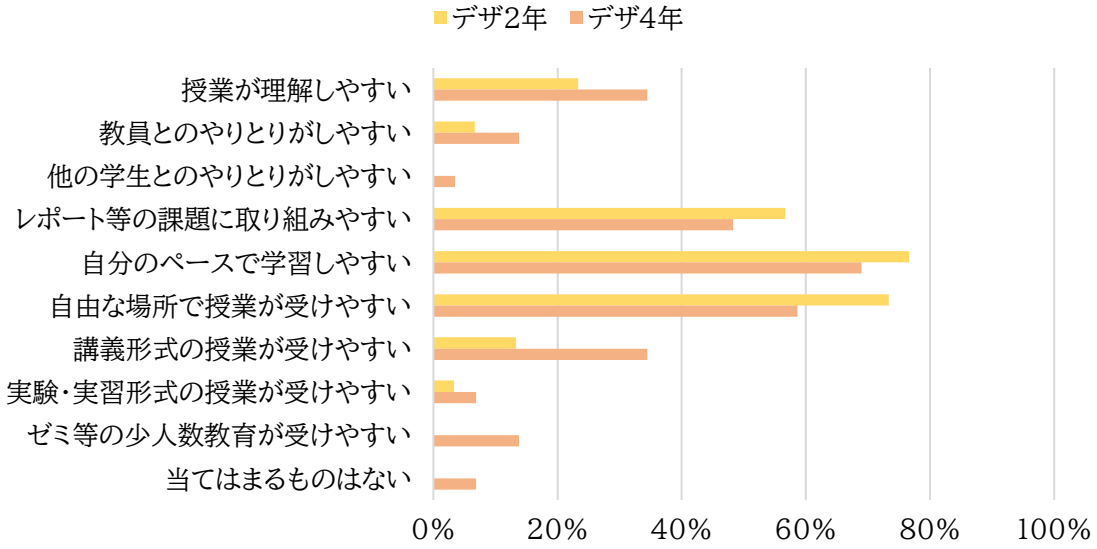

デザ2年
デザ4年
授業が理解しやすい
教員とのやりとりがしやすい
他の学生とのやりとりがしやすい
レポート等の課題に取り組みやすい
自分のペースで学習しやすい
自由な場所で授業が受けやすい
講義形式の授業が受けやすい
実験・実習形式の授業が受けやすい
ゼミ等の少人数教育が受けやすい
当てはまるものはない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%

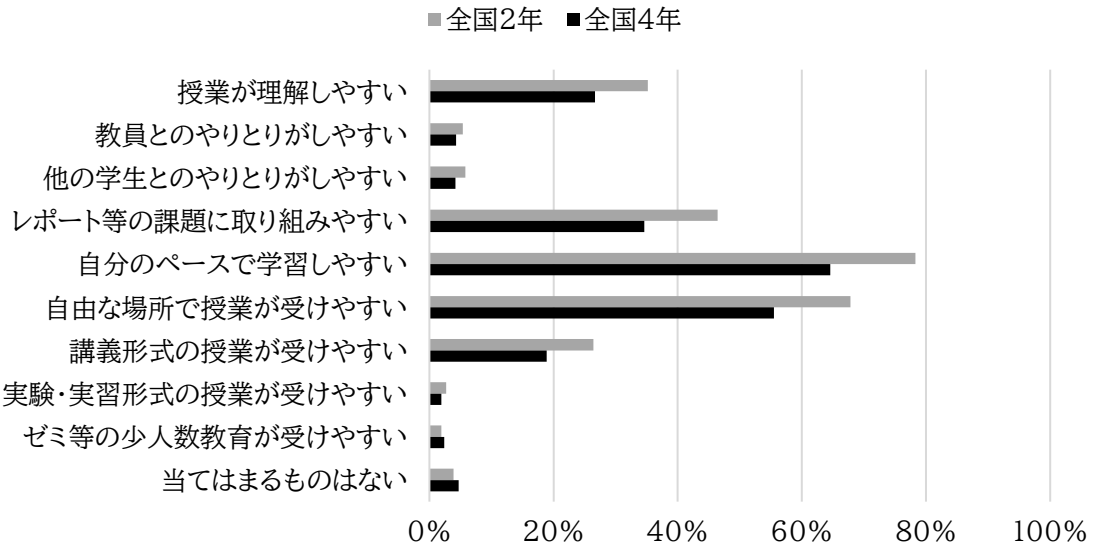


Q59S2　対面授業と比べて良かった点　＜オンデマンド型オンライン授業＞

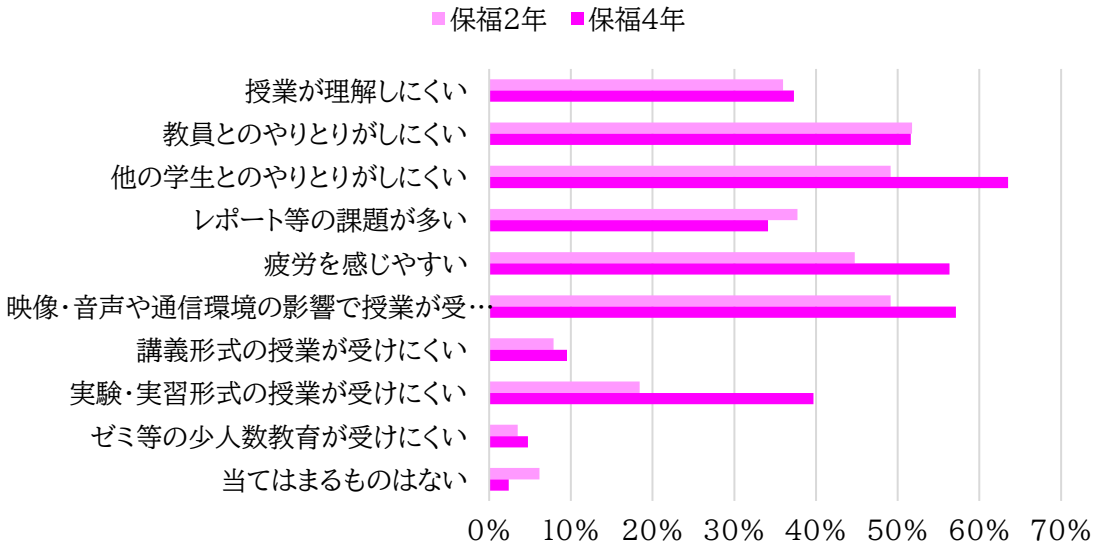


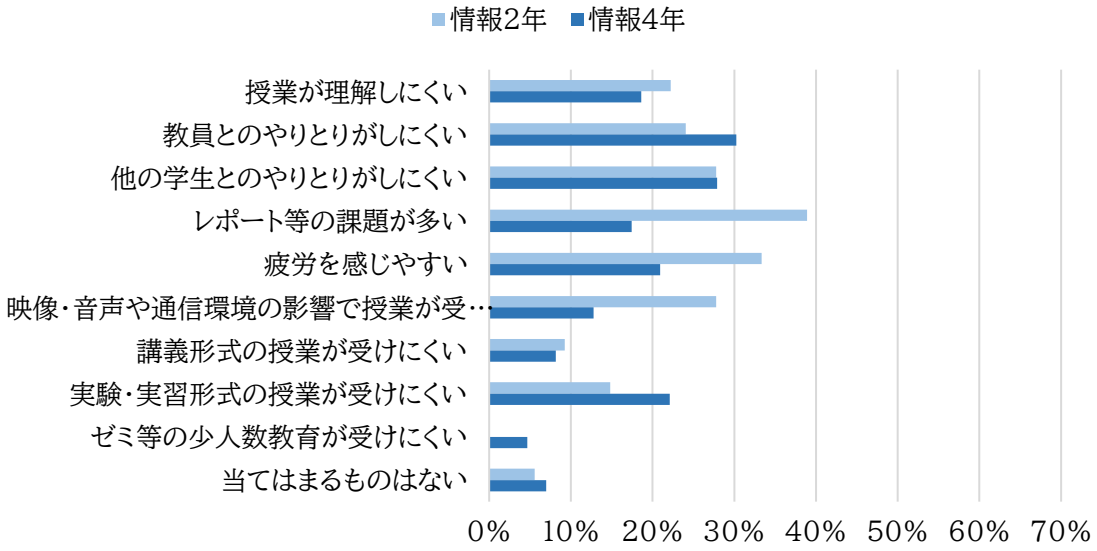

情報2年
情報4年
授業が理解しやすい
教員とのやりとりがしやすい
他の学生とのやりとりがしやすい
レポート等の課題に取り組みやすい
自分のペースで学習しやすい
自由な場所で授業が受けやすい
講義形式の授業が受けやすい
実験・実習形式の授業が受けやすい
ゼミ等の少人数教育が受けやすい
当てはまるものはない
0%
20%
40%
60%
80%
100%

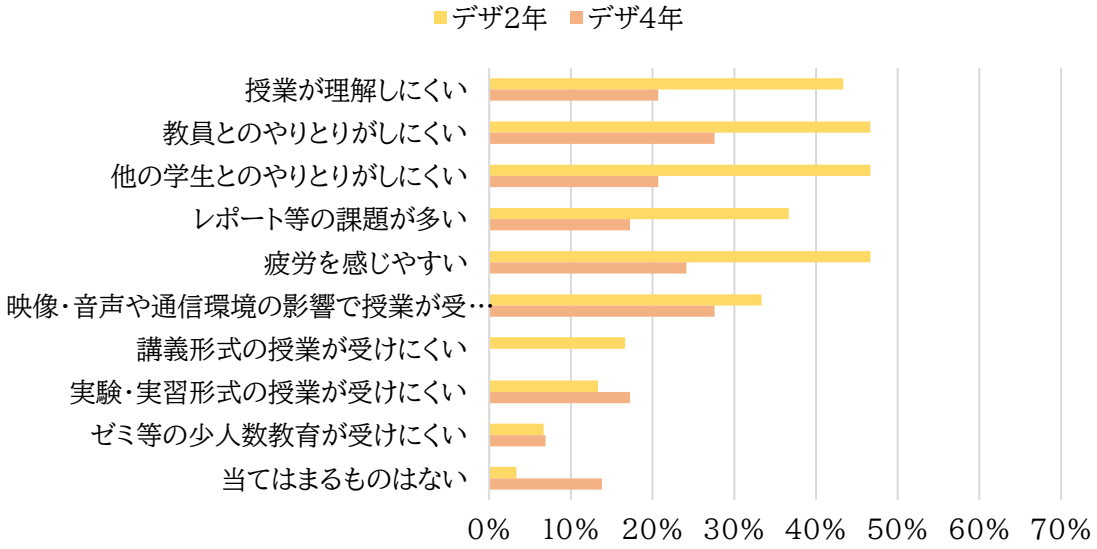

デザ2年
デザ4年
授業が理解しやすい
教員とのやりとりがしやすい
他の学生とのやりとりがしやすい
レポート等の課題に取り組みやすい
自分のペースで学習しやすい
自由な場所で授業が受けやすい
講義形式の授業が受けやすい
実験・実習形式の授業が受けやすい
ゼミ等の少人数教育が受けやすい
当てはまるものはない
0%
20%
40%
60%
80%
100%

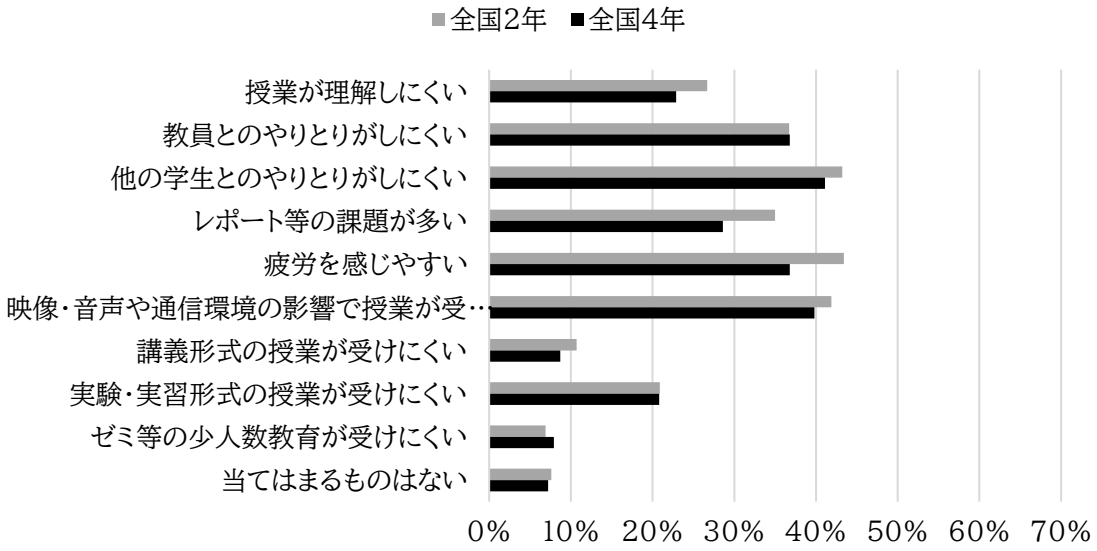


Q60S1　対面授業と比べて良くなかった点　＜同時双方向型オンライン授業＞

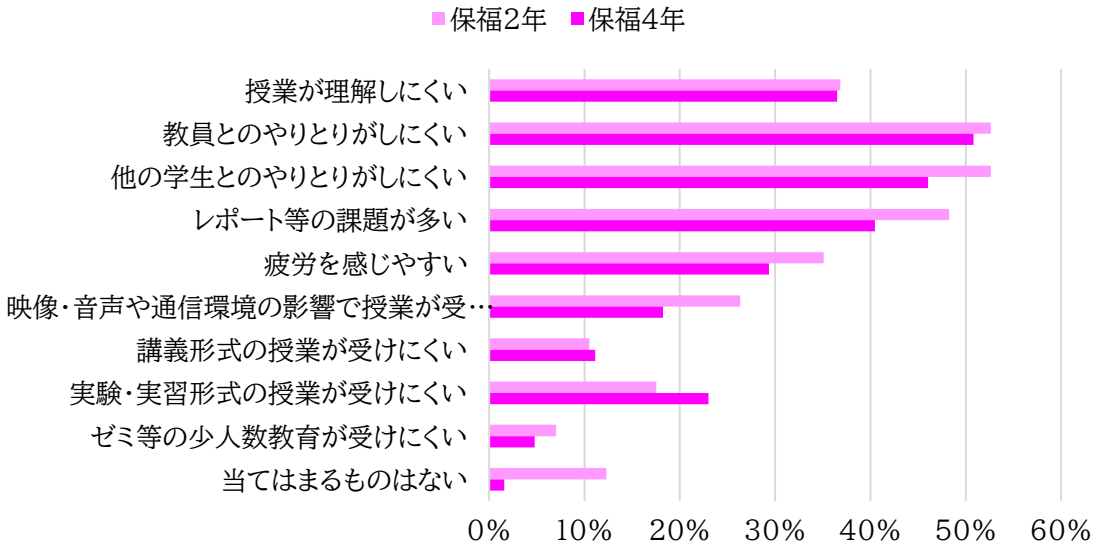


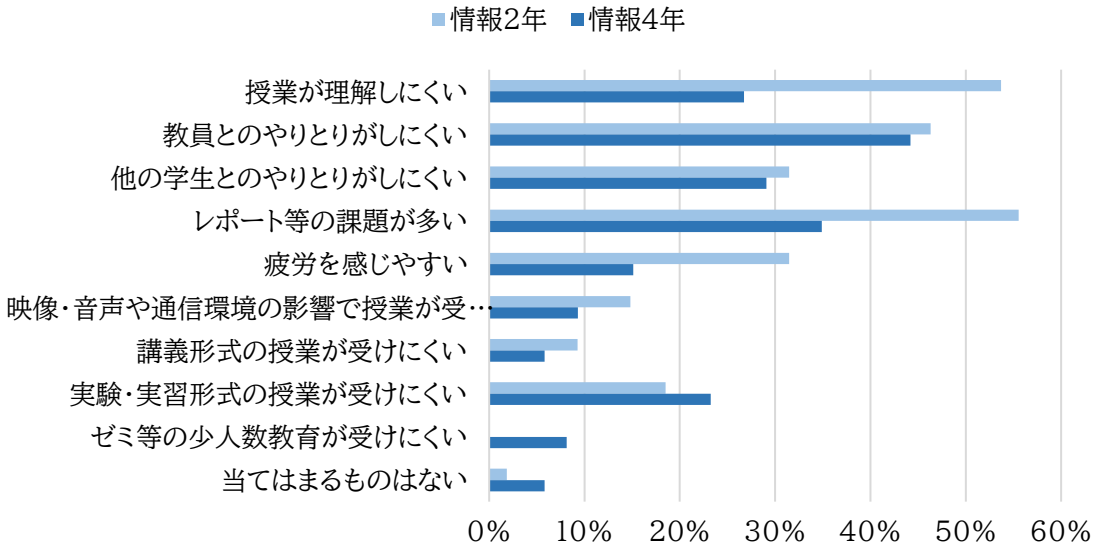

情報2年
情報4年
授業が理解しにくい
教員とのやりとりがしにくい
他の学生とのやりとりがしにくい
レポート等の課題が多い
疲労を感じやすい
映像・音声や通信環境の影響で授業が受…
講義形式の授業が受けにくい
実験・実習形式の授業が受けにくい
ゼミ等の少人数教育が受けにくい
当てはまるものはない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%

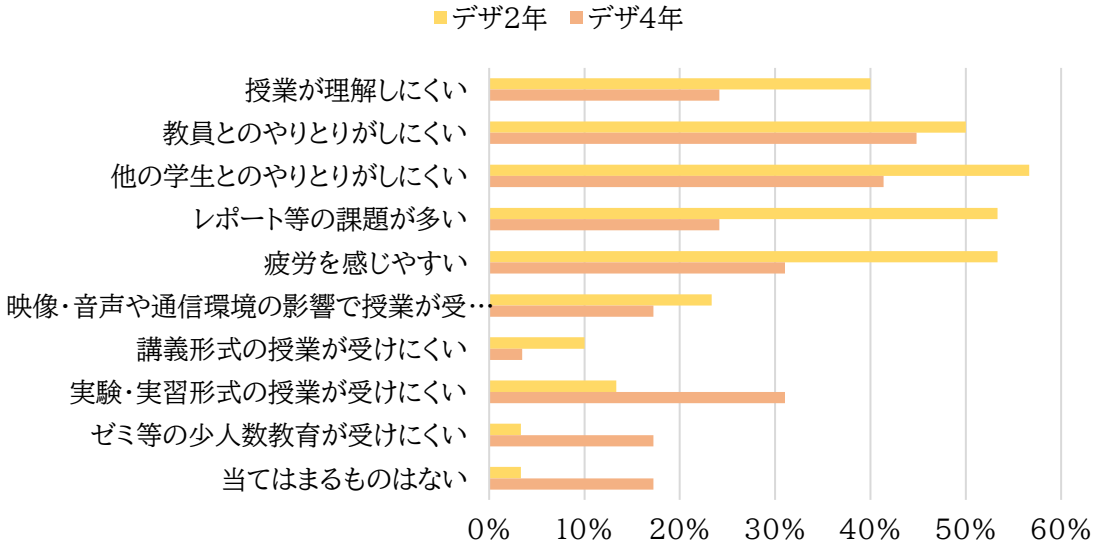

デザ2年
デザ4年
授業が理解しにくい
教員とのやりとりがしにくい
他の学生とのやりとりがしにくい
レポート等の課題が多い
疲労を感じやすい
映像・音声や通信環境の影響で授業が受…
講義形式の授業が受けにくい
実験・実習形式の授業が受けにくい
ゼミ等の少人数教育が受けにくい
当てはまるものはない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%

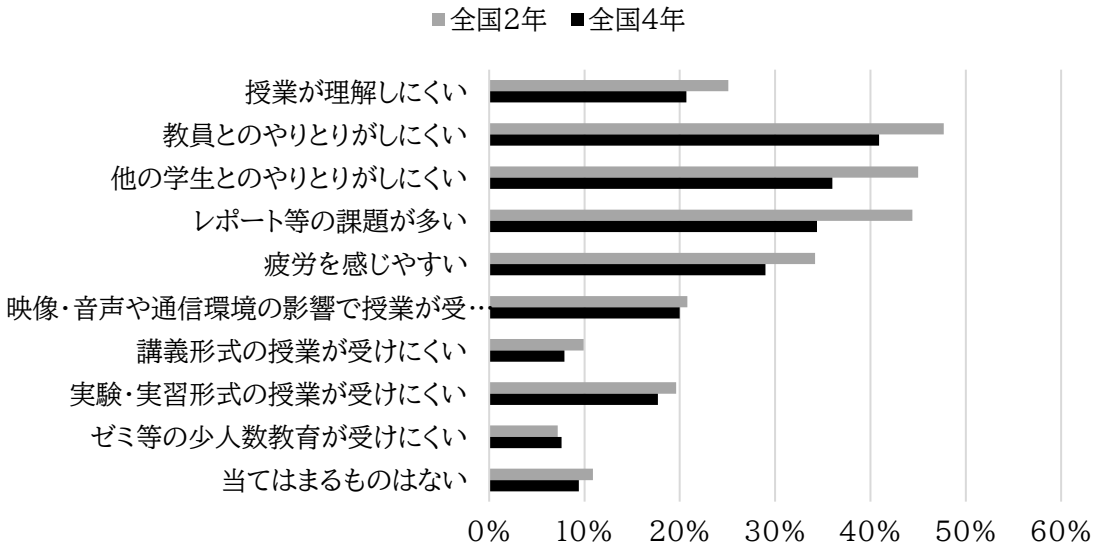


Q60S2　対面授業と比べて良くなかった点　＜オンデマンド型オンライン授業＞




情報2年
情報4年
授業が理解しにくい
教員とのやりとりがしにくい
他の学生とのやりとりがしにくい
レポート等の課題が多い
疲労を感じやすい
映像・音声や通信環境の影響で授業が受…
講義形式の授業が受けにくい
実験・実習形式の授業が受けにくい
ゼミ等の少人数教育が受けにくい
当てはまるものはない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%


デザ2年
デザ4年
授業が理解しにくい
教員とのやりとりがしにくい
他の学生とのやりとりがしにくい
レポート等の課題が多い
疲労を感じやすい
映像・音声や通信環境の影響で授業が受…
講義形式の授業が受けにくい
実験・実習形式の授業が受けにくい
ゼミ等の少人数教育が受けにくい
当てはまるものはない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%


全国2年
全国4年
授業が理解しにくい
教員とのやりとりがしにくい
他の学生とのやりとりがしにくい
レポート等の課題が多い
疲労を感じやすい
映像・音声や通信環境の影響で授業が受…
講義形式の授業が受けにくい
実験・実習形式の授業が受けにくい
ゼミ等の少人数教育が受けにくい
当てはまるものはない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%

編集後記

教育開発センターが、2004 年度以来、毎年刊行されている「教育年報」の編集を担当するようになったのは 2014 年度（当時は大学教育開発センター）のことで、今回で 9 年目となります。

2019 年末に中国・武漢で発見された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2020 年になると、瞬く間に世界中を席巻し、医療、経済、教育、日常生活の全てに否応の無い変革をもたらすこととなりました。我が国の教育においても、2020 年度からは学校閉鎖、キャンパス閉鎖（1960～70 年代の学生運動以来、約半世紀ぶりの出来事！）により、オンライン教育の急速な広がり、これに伴うネットワーク環境など通信インフラの整備や、オンライン・コンテンツの充実を経て、コロナ禍 3 年目となる 2022 年度には、一定の落ち着きと従前の対面教育へ回帰しつつあります。この間、COVID-19 とは別次元の話として、文部科学省中央教育審議会大学分科会により、「教学マネジメント指針」が 2020 年 1 月に取りまとめられました。これにより、大学教育は、学修者本位の教育への転換が求められるとともに、

I. 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化
II. 授業科目・教育課程の編成・実施
III. 学修成果・教育成果の把握・可視化
IV. 教学マネジメントを支える基盤（FD・SD、教学 IR）
V. 情報公開

による教育の質保証に基づき、社会からの信頼と支援を得るために積極的な自己点検、評価・分析、説明責任が明確化されました。その後、2023 年 2 月には、「入学者受入方針に基づく入学者選抜の実施」が教学マネジメント指針（追補）として加えられました。

本学でも、2020 年 5 月に「教学マネジメント委員会」を発足させ（同年 12 月に「内部質保証推進会議」に改称）、2021 年度入学者から「三つの方針」を改定するとともに、アセスメント・ポリシーに基づく教育の自己点検、評価・分析に取り組んできました。その後、2022 年 7 月に内部質保証推進体制を刷新し、大学運営委員会、評価委員会、内部質保証推進会議による全学的な PDCA サイクルの始動、新設された総合戦略本部会議における改革方針案の策定などを進めています。本「教育年報 2022」は、体制刷新後の自己点検、評価・分析の結果を公表するものとなります。同時に、2023 年度に控えている大学機関別認証評価の受審における最新の、そして、もっとも詳細な自己点検、評価・分析結果の集大成となります。

今回の「教育年報 2022」編纂にあたり、以上の学内外の状況を鑑み、いくつかの拡充を行いました。

2021 年度より、文部科学省補助事業「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業（COC+R）」採択により開設した副専攻「吉備の杜」を通じた学部高年次生対象「吉備の杜クリエイター課程」および大学院生対象「吉備の杜プロデューサー課程」の修了一期生を 2022 年度末に輩出でき、その成果を第 1 部第 3 章に記載しました。

2022 年度から原則、対面授業と方針を定めたことにより、「教育年報 2020」および「教育年報 2021」では独立したパートとして設けていたコロナ禍における教育活動に関する内容を、従前のパートに包含することとしました。

文部科学省が 2020 年度に実施した「全国学生調査（第 2 回試行実施）」に本学も参加したことにより、その結果を付録 P に掲載するとともに、第 4 部において評価・分析を行いました。

COVID-19 による教育のパラダイム・シフトは、3 年の時を経て、落ち着いてきているように見えます。しかしながら、OpenAI 社が開発し、2022 年 11 月に公開された ChatGPT に代表される生成系 AI システムは、COVID-19 に続く、教育界への新たな問題を提起し、次なるパラダイム・シフトをもたらしつつあります。1 年後に発刊予定の「教育年報 2023」では、アフターコロナにおける教育成果と、これらの新しい技術への本学の対応をお伝えできることと思います。

教育開発センター長　榊原 勝己 （編集責任者）

発行　〒719-1197
岡山県総社市窪木111番地
岡 山 県 立 大 学
TEL 0866-94-2111
URL https://www.oka-pu.ac.jp
編集　岡山県立大学 教育開発センター
Email educenter@ad.oka-pu.ac.jp

岡山県立大学
OKAYAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

〒719-1197 岡山県総社市窪木 111 番地
TEL: 0866-94-2111 FAX: 0866-94-2196